

**平成24年度
新宿区区政モニターアンケート**



**平成25年3月
新宿区区長室広聴担当課**

< 目 次 >

I 調査の概要	1
II 調査の結果	13
第1回	15
テーマ1 公園利用者のマナーについて	17
(1) 禁止行為の内容の認知状況	17
(2) 公園内への自転車の乗り入れについて	20
(3) 公園内での花火等の行為について	22
(4) 公園内での迷惑行為について	24
(5) 地域ねこの認知度	27
(6) 公園内でのえさやりについて	29
(7) 公園内での喫煙のあり方について	32
(8) 公園内での球技のあり方について	36
(9) 今後の禁止行為のあり方について	38
テーマ2 新宿区立元気館について	41
(1) 元気館の利用状況と認知度	41
(2) 元気館の利用頻度	43
(3) 元気館の利用目的	44
(4) 健康増進・集会施設に望むサービス	45
テーマ3 男女共同参画に関する意識について	47
(1) さまざまな分野での男女平等意識について	47
(2) 女性が仕事を持つことについての考え方	60
(3) 子どもが大きくなってから復職する方がよいと思う理由	62
(4) 男女差を感じる仕事の内容や待遇について	63
(5) 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知状況	65
(6) 仕事と生活のバランスの満足度	67
(7) 男女とも働きやすい環境づくりについて	68
(8) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	69
(9) DVだと思ふ行為について	73
(10) DVについての相談機関の窓口について	77
(11) 男女共同参画を推進するために必要なこと	80
テーマ4 建物等の震災対策について	82
(1) 家屋の築年数の認知状況	82
(2) 家屋の築年数	83
(3) 家屋の建築構造	84
(4) 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況	85
(5) 耐震診断の意向	88
(6) 耐震診断を受けない理由	90
(7) 耐震補強工事の意向	92
(8) 耐震補強工事を行っていない理由	94
テーマ5 自転車利用について	96
(1) 自転車の利用頻度	96
(2) 自転車の主な利用目的	98
(3) 自転車の保管場所	99
(4) 区立駐輪場の利便性による料金差について	100
(5) 区立駐輪場の定期利用と時間利用の配分見直しについて	102
(6) 放置自転車の返還手数料について	104
(7) 放置自転車が多いと思う場所	106
(8) 自転車利用のルール・マナー向上のために効果的だと思うこと	108
(9) 自転車利用環境に関する区が取り組むべき施策	110

第2回	113
テーマ1 区職員の接遇について	115
(1) 区役所・区の施設の窓口利用の有無	115
(2) 区役所・区の施設の窓口利用の要件	117
(3) 窓口利用時の職員の対応	118
(4) 区役所・区の施設の電話利用の有無	121
(5) 職員はすぐに電話に出たかどうか	123
(6) 電話に出た職員が先に名乗ったかどうか	125
(7) 職員の電話対応	127
(8) 職員の窓口対応や電話対応についてのご意見	129
テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて	130
(1) 認知症に原因疾患があることへの理解度	130
(2) 認知症は早期診断・早期治療が大切であることへの理解度	132
(3) 認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことへの理解度	134
(4) 認知症サポーター養成講座の認知度	136
(5) 認知症サポーター養成講座の受講意向	138
(6) 「認知症・もの忘れ相談医」の認知度	141
テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について	143
(1) 「3R活動」の理解度	143
(2) 実際に行っている「3R活動」	145
(3) レジ袋の受け取りの有無	148
(4) レジ袋を受け取る理由	150
(5) レジ袋有料化後の対応	151
(6) 分別方法・分別種別の変更の理解度	153
(7) ごみ・資源の出し方	155
(8) 分別状況の悪いごみの収集	157
(9) 容器包装プラスチックの分別・排出	158
(10) 容器包装プラスチックを燃やすごみ、金属・陶器・ガラスごみとして出す理由	160
テーマ4 成年後見制度について	162
(1) 成年後見制度の認知度	162
(2) 成年後見制度の利用意向	164
(3) 後見人になってほしい人	167
(4) 成年後見制度で将来利用したいもの	168
(5) 成年後見制度の利用を考えていない理由	169
(6) 成年後見制度を利用するために必要なこと	171
(7) 新宿区成年後見センターの認知度	172
(8) 新宿区成年後見センターの相談窓口の利用意向	174
(9) 新宿区成年後見センターの相談に望むこと	177
第3回	179
テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について	181
(1) 喫煙状況	181
(2) 飲食店等でタバコの煙により不快な思いをしたことがあるか	182
(3) 区内の飲食店等での受動喫煙対策について	185
(4) どのような受動喫煙防止対策が必要だと思うか	188
テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について	189
(1) 歌舞伎町に行く頻度	189
(2) 歌舞伎町に行く目的	191
(3) 今後の、歌舞伎町への来街意向	192
(4) 歌舞伎町へ行きたい理由	195
(5) 歌舞伎町へ行きたくない理由	198
(6) 歌舞伎町ルネッサンスの認知状況	201
(7) 歌舞伎町の印象の変化	202

(8) 歌舞伎町のイメージアップをするうえで、期待するもの・効果的なもの	210
(9) 歌舞伎町ルネッサンスについてご意見・ご要望	213
テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について	215
[1] 区ホームページ	215
(1) 新宿区公式ホームページの閲覧の有無	215
(2) 区ホームページを見たことがない理由	217
(3) 新宿区公式ホームページの閲覧頻度	218
(4) ホームページ内の情報の探し方	219
(5) 欲しい情報は見つかったか	220
(6) 情報が見つかるまで時間がかかった理由・見つからなかった理由	221
(7) ホームページの評価	222
(8) 新宿区公式ホームページに追加や充実が必要な機能	224
(9) 「モバイル新宿区」の利用状況	225
[2] 区公式ツイッター	227
(10) 区公式ツイッターの認知状況	227
(11) 区公式ツイッターの購読状況	228
(12) 区公式ツイッターでどのような情報の発信が必要だと思うか	229
[3] 広報番組「こんにちは新宿区長です！」	230
(13) 広報番組「こんにちは新宿区長です！」の認知状況	230
(14) 広報番組「こんにちは新宿区長です！」の閲覧状況	231
(15) 広報番組「こんにちは新宿区長です！」の閲覧方法	232
テーマ4 景観まちづくりについて	233
(1) 建築物・工作物で、景観上重要であると考えるもの	233
(2) 建物の色で景観上重要な基準	236
(3) 屋外広告物条例等の認知状況	237
(4) 許可申請が必要なことの認知状況	238
(5) 屋外広告物についての課題	239
(6) 屋外広告物により、よりよい景観形成を図る手法として重要なこと	240
第4回	241
テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～	243
基本目標Ⅰ 区民が自治の主役として、考え、行動していけるまち	243
[1] 地域活動	243
(1) 地域活動への参加	243
基本目標Ⅱ だれもが人として尊重され、自分らしく成長していけるまち	247
[1] 人権意識	247
(1) 人権に対する意識	247
[2] 健康	249
(1) 現在の健康状態	249
(2) がん検診の受診状況	250
(3) 区が実施するがん検診の受診状況	252
(4) 健康診査の受診状況	253
(5) 食育への関心	255
(6) 食べ物の量や組み合わせ	256
(7) 友人・知人との食事	257
[3] 生涯学習	258
(1) スポーツ・生涯学習等の実施状況	258
(2) スポーツ・生涯学習等の頻度	260
(3) 活動内容	261
(4) 活動目的	262
(5) 行っていない理由	263
[4] 子育て支援への参加	264
(1) 子育て支援に関する活動状況	264

(2) 子育て支援に関する活動内容	266
[5] 地域連携による教育	268
(1) 地域連携による教育に関する意識	268
(2) 地域連携による教育活動の認知度	269
基本目標Ⅲ 安全で安心な、質の高いくらしを実感できるまち	270
[1] 地域福祉	270
(1) 高齢者・障害者の見守りに関する意識	270
(2) 「高齢者総合相談センター」の認知状況	271
(3) 在宅療養を送ることになった場合、どこに（誰に）相談するか	272
(4) 利用したい介護サービス	273
[2] 障害福祉	275
(1) 障害者の社会参加のしやすさ	275
(2) 障害者が社会参加しやすいまちだと思う点	276
[3] 生きがい	277
(1) 生きがいを感じる点	277
[4] 防災対策	280
(1) 避難場所・避難所の認知度	280
(2) 家庭内の防災対策	282
(3) 防災対策の内容	283
(4) 犯罪への不安	284
(5) 不安を感じる理由	285
(6) 安全・安心のまちにするための取り組み	286
[5] 安全な消費生活	288
(1) 消費者問題への関心度	288
(2) 区の消費生活センターへの相談	289
基本目標Ⅳ 持続可能な都市と環境を創造するまち	290
[1] 安全で快適な道路	290
(1) 道路の歩きやすさの満足度	290
(2) 安全で快適な道路だと思わない理由	291
基本目標Ⅴ まちの記憶を活かした美しい新宿を創造するまち	292
[1] 美しいまちづくり	292
(1) 新宿区全体の景観に対する区民意識	292
(2) 居住地域の景観に対する区民意識	293
(3) 新宿の景観づくりに重要なこと	294
[2] 地域特性をふまえたまちづくり	295
(1) 地域の特性をふまえたまちづくりへの意識	295
[3] 公園整備	296
(1) 公園の利用状況	296
(2) 公園の満足度	297
(3) 公園を利用しない理由	298
(4) 地域の公園に望むこと	299
(5) 地域住民や利用者が公園の管理や運営に参加することについて	300
(6) 公園の管理や運営への参加意向	301
基本目標Ⅵ 多様なライフスタイルが交流し、「新宿らしさ」を想像していくまち	302
[1] 文化・芸術	302
(1) 新宿区の伝統文化や文化財への関心度	302
(2) 関心のある事柄	303
(3) 文化・芸術に触れる機会の有無	305
(4) 関心のある内容	307
(5) 「新宿フィールドミュージアム」の認知度	309
(6) 文化月間中の文化芸術イベントへの参加状況	310
(7) どのようなジャンルのイベントに参加したか	311
区政運営の目標Ⅰ 好感度一番の区役所の実現	312

[1] しんじゅくコール（新宿区コールセンター）	312
(1) 「しんじゅくコール」の認知度	312
(2) 「しんじゅくコール」利用の有無	314
(3) オペレーターの案内について	315
(4) 区民意見を反映する制度やしくみの認知度	316
テーマ2 震災に備えて	320
(1) 家具転倒防止器具の取り付けの意向	320
(2) 家具転倒防止器具を取りつけていない理由	323
(3) 「住宅用家具転倒防止器具の無料相談・無料設置事業」の認知度	324
(4) 震災時の不安の程度	326
(5) 震災時に心配なこと	327
(6) 地震発生時に得たい情報	329
(7) 震災について、日頃から得たい情報	330
(8) 防災訓練への参加状況	331
(9) 防災訓練の改善点	334
(10) 防災訓練に参加したことがない理由	336
(11) 集合住宅での防災訓練や防災に関する勉強会への参加	337
(12) 地域の自主防災組織の認知	339
(13) 災害発生時にできる地域の防災活動への協力	341
(14) 住宅用火災警報器の設置状況	343
(15) 住宅用火災警報器を一部設置している箇所	346
(16) 住宅用火災警報器を設置していない理由	347
Ⅲ 資料（調査票）	349

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、アンケート区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

- 2 調査対象者
- | | | |
|-----|-------------|--------|
| 第1回 | アンケート区政モニター | 1,000名 |
| 第2回 | アンケート区政モニター | 995名 |
| 第3回 | アンケート区政モニター | 990名 |
| 第4回 | アンケート区政モニター | 984名 |

- 3 調査のテーマ
- | | |
|-----|---|
| 第1回 | ①公園利用者のマナーについて
②新宿区立元気館について
③男女共同参画に関する意識について
④建物等の震災対策について
⑤自転車利用について |
| 第2回 | ①区職員の接遇について
②認知症になっても安心して暮らせるまちについて
③ごみ減量、資源・ごみの分別について
④成年後見制度について |
| 第3回 | ①区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について
②歌舞伎町ルネッサンスの推進について
③インターネット等を活用した区政情報の発信について
④景観まちづくりについて |
| 第4回 | ①「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～
②震災に備えて |

- 4 実施年月日
- | | |
|-----|----------------------------|
| 第1回 | 平成24年 7月26日から平成24年 8月 7日まで |
| 第2回 | 平成24年 9月28日から平成24年10月15日まで |
| 第3回 | 平成24年11月 8日から平成24年11月19日まで |
| 第4回 | 平成24年12月21日から平成25年 1月 7日まで |

5 回答者数

	送付数	回収数	回収率
第1回	1,000	895	89.5%
第2回	995	853	85.7%
第3回	990	848	85.7%
第4回	984	833	84.7%

I 調査の概要

6 回答者の属性

【第1回】

(1) 居住地

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	98	10.9	7 落合第一	84	9.4
2 箆笥町	125	14.0	8 落合第二	82	9.2
3 榎町	82	9.2	9 柏木	81	9.1
4 若松町	97	10.8	10 角筈・区役所	38	4.2
5 大久保	107	12.0	- 無回答	1	0.1
6 戸塚	100	11.2	合計	895	100.0

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	372	41.6
2 女性	522	58.3
- 無回答	1	0.1
合計	895	100.0

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18～19歳	11	1.2	9 55～59歳	60	6.7
2 20～25歳	40	4.5	10 60～64歳	87	9.7
3 26～29歳	49	5.5	11 65～69歳	75	8.4
4 30～34歳	64	7.2	12 70～74歳	56	6.3
5 35～39歳	103	11.5	13 75～79歳	49	5.5
6 40～44歳	87	9.7	14 80歳以上	47	5.3
7 45～49歳	87	9.7	- 無回答	8	0.9
8 50～54歳	72	8.0	合計	895	100.0

(4) 職業

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 会社員・団体職員	288	32.2	6 専業主婦・主夫	152	17.0
2 会社役員・団体役員	45	5.0	7 無職	125	14.0
3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など	119	13.3	8 その他	21	2.3
4 自営業、自由業	112	12.5	- 無回答	6	0.7
5 学生	27	3.0	合計	895	100.0

(5) 職場・学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	245	41.5
2 新宿区外	344	58.2
- 無回答	2	0.3
合計	591	100.0

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	361	40.3	6 兄弟姉妹	64	7.2
2 妻または夫	520	58.1	7 その他	37	4.1
3 親	144	16.1	8 ひとり暮らし	173	19.3
4 祖父母	20	2.2	- 無回答	11	1.2
5 孫	14	1.6	回答総数	1344	150.2
			合計	895	100.0

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 2人	281	39.5	4 5人	44	6.2
2 3人	209	29.4	5 6人以上	26	3.7
3 4人	143	20.1	- 無回答	8	1.1
			合計	711	100.0

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	63	17.5
2 一番上の子が小・中学生	91	25.2
3 一番上の子が高・大学生	54	15.0
4 一番上の子が学校を卒業	136	37.7
- 無回答	17	4.7
合計	361	100.0

(9) 居住年数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1年未満	2	0.2	5 10年以上20年未満	168	18.8
2 1年以上3年未満	71	7.9	6 20年以上30年未満	106	11.8
3 3年以上5年未満	80	8.9	7 30年以上	323	36.1
4 5年以上10年未満	130	14.5	- 無回答	15	1.7
			合計	895	100.0

(10) 住居形態

選択肢	回答数	割合(%)
1 持ち家の一戸建て	272	30.4
2 賃貸の一戸建て	9	1.0
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	3	0.3
4 その他の一戸建て	5	0.6
5 分譲マンション・アパート（自己所有も含む）	278	31.1
6 賃貸マンション・アパート	218	24.4
7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・会社のマンション・アパート	12	1.3
8 賃貸の都営・区営住宅	50	5.6
9 社宅・公務員官舎	31	3.5
10 その他の集合住宅	6	0.7
- 無回答	11	1.2
合計	895	100.0

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合(%)
1 独身期	154	17.2
2 家族形成期	94	10.5
3 家族成長前期	91	10.2
4 家族成長後期	54	6.0
5 家族成熟期	69	7.7
6 高齢期	221	24.7
7 その他	212	23.7
合計	895	100.0

I 調査の概要

【第2回】

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	100	11.7	7 落合第一	79	9.3
2 笹笥町	117	13.7	8 落合第二	80	9.4
3 榎町	78	9.1	9 柏木	75	8.8
4 若松町	88	10.3	10 角筈・区役所	40	4.7
5 大久保	104	12.2	- 無回答	0	0.0
6 戸塚	92	10.8	合計	853	100.0

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	354	41.5
2 女性	499	58.5
- 無回答	0	0.0
合計	853	100.0

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18～19歳	9	1.1	9 55～59歳	61	7.2
2 20～25歳	38	4.5	10 60～64歳	73	8.6
3 26～29歳	43	5.0	11 65～69歳	74	8.7
4 30～34歳	55	6.4	12 70～74歳	52	6.1
5 35～39歳	98	11.5	13 75～79歳	52	6.1
6 40～44歳	80	9.4	14 80歳以上	38	4.5
7 45～49歳	84	9.8	- 無回答	24	2.8
8 50～54歳	72	8.4	合計	853	100.0

(4) 職業

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 会社員・団体職員	253	29.7	6 専業主婦・主夫	145	17.0
2 会社役員・団体役員	55	6.4	7 無職	118	13.8
3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など	111	13.0	8 その他	16	1.9
4 自営業、自由業	104	12.2	- 無回答	26	3.0
5 学生	25	2.9	合計	853	100.0

(5) 職場・学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	226	41.2
2 新宿区外	315	57.5
- 無回答	7	1.3
合計	548	100.0

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	349	40.9	6 兄弟姉妹	59	6.9
2 妻または夫	491	57.6	7 その他	25	2.9
3 親	134	15.7	8 ひとり暮らし	155	18.2
4 祖父母	14	1.6	- 無回答	40	4.7
5 孫	18	2.1	回答総数	1285	150.6
			合計	853	100.0

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 2人	251	38.1	4 5人	48	7.3
2 3人	197	29.9	5 6人以上	26	4.0
3 4人	132	20.1	- 無回答	4	0.6
			合計	658	100.0

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	71	20.3
2 一番上の子が小・中学生	82	23.5
3 一番上の子が高・大学生	45	12.9
4 一番上の子が学校を卒業	136	39.0
- 無回答	15	4.3
合計	349	100.0

(9) 居住年数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1年未満	2	0.2	5 10年以上20年未満	176	20.6
2 1年以上3年未満	60	7.0	6 20年以上30年未満	101	11.8
3 3年以上5年未満	76	8.9	7 30年以上	291	34.1
4 5年以上10年未満	116	13.6	- 無回答	31	3.6
			合計	853	100.0

(10) 住居形態

選択肢	回答数	割合(%)
1 持ち家の一戸建て	259	30.4
2 賃貸の一戸建て	10	1.2
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	11	1.3
4 その他の一戸建て	9	1.1
5 分譲マンション・アパート（自己所有も含む）	246	28.8
6 賃貸マンション・アパート	200	23.4
7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・会社のマンション・アパート	11	1.3
8 賃貸の都営・区営住宅	43	5.0
9 社宅・公務員官舎	26	3.0
10 その他の集合住宅	9	1.1
- 無回答	29	3.4
合計	853	100.0

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合(%)
1 独身期	134	15.7
2 家族形成期	98	11.5
3 家族成長前期	82	9.6
4 家族成長後期	45	5.3
5 家族成熟期	71	8.3
6 高齢期	205	24.0
7 その他	218	25.6
合計	853	100.0

I 調査の概要

【第3回】

(1) 居住地

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	97	11.4	7 落合第一	76	9.0
2 笹笥町	114	13.4	8 落合第二	77	9.1
3 榎町	82	9.7	9 柏木	71	8.4
4 若松町	96	11.3	10 角筈・区役所	39	4.6
5 大久保	99	11.7	- 無回答	0	0.0
6 戸塚	97	11.4	合計	848	100.0

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	354	41.7
2 女性	493	58.1
- 無回答	1	0.1
合計	848	100.0

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18～19歳	11	1.3	9 55～59歳	57	6.7
2 20～25歳	35	4.1	10 60～64歳	78	9.2
3 26～29歳	42	5.0	11 65～69歳	75	8.8
4 30～34歳	52	6.1	12 70～74歳	55	6.5
5 35～39歳	93	11.0	13 75～79歳	51	6.0
6 40～44歳	87	10.3	14 80歳以上	52	6.1
7 45～49歳	85	10.0	- 無回答	6	0.7
8 50～54歳	69	8.1	合計	848	100.0

(4) 職業

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 会社員・団体職員	253	29.8	6 専業主婦・主夫	152	17.9
2 会社役員・団体役員	51	6.0	7 無職	127	15.0
3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など	115	13.6	8 その他	14	1.7
4 自営業、自由業	104	12.3	- 無回答	4	0.5
5 学生	28	3.3	合計	848	100.0

(5) 職場・学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	223	40.5
2 新宿区外	323	58.6
- 無回答	5	0.9
合計	551	100.0

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	333	39.3	6 兄弟姉妹	61	7.2
2 妻または夫	486	57.3	7 その他	20	2.4
3 親	135	15.9	8 ひとり暮らし	158	18.6
4 祖父母	18	2.1	- 無回答	35	4.1
5 孫	17	2.0	回答総数	1263	148.9
			合計	848	100.0

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 2人	255	38.9	4 5人	50	7.6
2 3人	192	29.3	5 6人以上	21	3.2
3 4人	133	20.3	- 無回答	4	0.6
			合計	655	100.0

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	65	19.5
2 一番上の子が小・中学生	83	24.9
3 一番上の子が高・大学生	51	15.3
4 一番上の子が学校を卒業	123	36.9
- 無回答	11	3.3
合計	333	100.0

(9) 居住年数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1年未満	0	0.0	5 10年以上20年未満	174	20.5
2 1年以上3年未満	55	6.5	6 20年以上30年未満	96	11.3
3 3年以上5年未満	72	8.5	7 30年以上	298	35.1
4 5年以上10年未満	115	13.6	- 無回答	38	4.5
			合計	848	100.0

(10) 住居形態

選択肢	回答数	割合(%)
1 持ち家の一戸建て	253	29.8
2 賃貸の一戸建て	10	1.2
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7	0.8
4 その他の一戸建て	7	0.8
5 分譲マンション・アパート（自己所有も含む）	259	30.5
6 賃貸マンション・アパート	191	22.5
7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・会社のマンション・アパート	11	1.3
8 賃貸の都営・区営住宅	41	4.8
9 社宅・公務員官舎	27	3.2
10 その他の集合住宅	8	0.9
- 無回答	34	4.0
合計	848	100.0

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合(%)
1 独身期	131	15.4
2 家族形成期	88	10.4
3 家族成長前期	83	9.8
4 家族成長後期	50	5.9
5 家族成熟期	65	7.7
6 高齢期	218	25.7
7 その他	213	25.1
合計	848	100.0

I 調査の概要

【第4回】

(1) 居住地

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	93	11.2	7 落合第一	76	9.1
2 箆笥町	114	13.7	8 落合第二	74	8.9
3 榎町	82	9.8	9 柏木	65	7.8
4 若松町	94	11.3	10 角筈・区役所	39	4.7
5 大久保	106	12.7	- 無回答	0	0.0
6 戸塚	90	10.8	合計	833	100.0

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	349	41.9
2 女性	484	58.1
- 無回答	0	0.0
合計	833	100.0

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18～19歳	6	0.7	9 55～59歳	58	7.0
2 20～25歳	35	4.2	10 60～64歳	80	9.6
3 26～29歳	40	4.8	11 65～69歳	77	9.2
4 30～34歳	44	5.3	12 70～74歳	53	6.4
5 35～39歳	92	11.0	13 75～79歳	50	6.0
6 40～44歳	87	10.4	14 80歳以上	47	5.6
7 45～49歳	77	9.2	- 無回答	18	2.2
8 50～54歳	69	8.3	合計	833	100.0

(4) 職業

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 会社員・団体職員	245	29.4	6 専業主婦・主夫	145	17.4
2 会社役員・団体役員	46	5.5	7 無職	127	15.2
3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など	107	12.8	8 その他	22	2.6
4 自営業、自由業	96	11.5	- 無回答	22	2.6
5 学生	23	2.8	合計	833	100.0

(5) 職場・学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	219	42.3
2 新宿区外	296	57.1
- 無回答	3	0.6
合計	518	100.0

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	341	40.9	6 兄弟姉妹	55	6.6
2 妻または夫	494	59.3	7 その他	21	2.5
3 親	128	15.4	8 ひとり暮らし	160	19.2
4 祖父母	13	1.6	- 無回答	20	2.4
5 孫	18	2.2	回答総数	1250	150.1
			合計	833	100.0

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 2人	257	39.4	4 5人	44	6.7
2 3人	190	29.1	5 6人以上	22	3.4
3 4人	137	21.0	- 無回答	3	0.5
			合計	653	100.0

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	65	19.1
2 一番上の子が小・中学生	85	24.9
3 一番上の子が高・大学生	52	15.2
4 一番上の子が学校を卒業	129	37.8
- 無回答	10	2.9
合計	341	100.0

(9) 居住年数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1年未満	0	0.0	5 10年以上20年未満	173	20.8
2 1年以上3年未満	56	6.7	6 20年以上30年未満	92	11.0
3 3年以上5年未満	74	8.9	7 30年以上	297	35.7
4 5年以上10年未満	119	14.3	- 無回答	22	2.6
			合計	833	100.0

(10) 住居形態

選択肢	回答数	割合(%)
1 持ち家の一戸建て	256	30.7
2 賃貸の一戸建て	8	1.0
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	6	0.7
4 その他の一戸建て	9	1.1
5 分譲マンション・アパート（自己所有も含む）	253	30.4
6 賃貸マンション・アパート	189	22.7
7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	12	1.4
8 賃貸の都営・区営住宅	41	4.9
9 社宅・公務員官舎	31	3.7
10 その他の集合住宅	7	0.8
- 無回答	21	2.5
合計	833	100.0

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合(%)
1 独身期	122	14.6
2 家族形成期	90	10.8
3 家族成長前期	85	10.2
4 家族成長後期	52	6.2
5 家族成熟期	66	7.9
6 高齢期	217	26.1
7 その他	201	24.1
合計	833	100.0

I 調査の概要

7 報告書の見方

本報告書を読む際には、次の点に留意してください。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の回答合計数を示している。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問において該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点以下第2位を四捨五入し、小数第1位までを表記している。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 図表の「-」は四捨五入の結果または回答者数が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。
- ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。
 - 独身期 : 40歳未満の独身者
 - 家族形成期 : 40歳未満の子どもがいない夫婦、または一番上の子どもが入学前の人
 - 家族成長前期 : 一番上の子どもが小・中学生の人
 - 家族成長後期 : 一番上の子どもが高校・大学生の人
 - 家族成熟期 : 64歳以下で、一番上の子どもが学校を卒業している人
(生計を別にした子どもがいる人を含む)
 - 高齢期 : 65歳以上の人 (生計を別にした子どもがいる人を含む)
 - その他 : 40歳から64歳までの独身者、40歳から64歳の子どもがいない夫婦など
- 統計の数値を考察するにあたり、次の表現を用いている。

(例)		(表現)
80.1~80.9%	⇒	約8割
81.0~82.9%	⇒	8割強
83.0~84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0~85.9%	⇒	8割台半ば
86.0~87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0~88.9%	⇒	9割近く
89.0~89.9%	⇒	9割弱

- 本報告書の第4回調査では「新宿区総合計画・成果指標」を参考で表記している。現状のデータ出典が「新宿区区民意識調査」、「健康づくり区民意識調査」、「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」のものは※で注記している。

Ⅱ 調査の結果

第1回

<テーマ>

- テーマ1 公園利用者のマナーについて
- テーマ2 新宿区立元気館について
- テーマ3 男女共同参画に関する意識について
- テーマ4 建物等の震災対策について
- テーマ5 自転車利用について

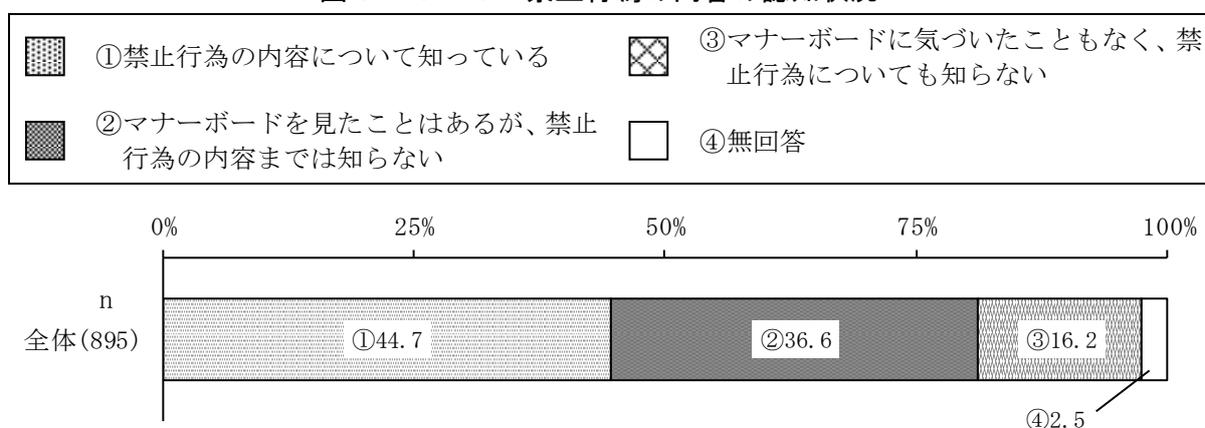
テーマ1 公園利用者のマナーについて

(1) 禁止行為の内容の認知状況

◎「禁止行為の内容について知っている」が4割台半ば近く

問1 新宿区立の公園の入り口には、公園内での禁止行為を列挙したマナーボード（制札板）が設置されていますが、禁止行為の内容はご存じですか。（n=895）	
1 禁止行為の内容について知っている	44.7%
2 マナーボードを見たことはあるが、禁止行為の内容までは知らない	36.6
3 マナーボードに気づいたこともなく、禁止行為についても知らない	16.2
無回答	2.5

図1-1-1 禁止行為の内容の認知状況

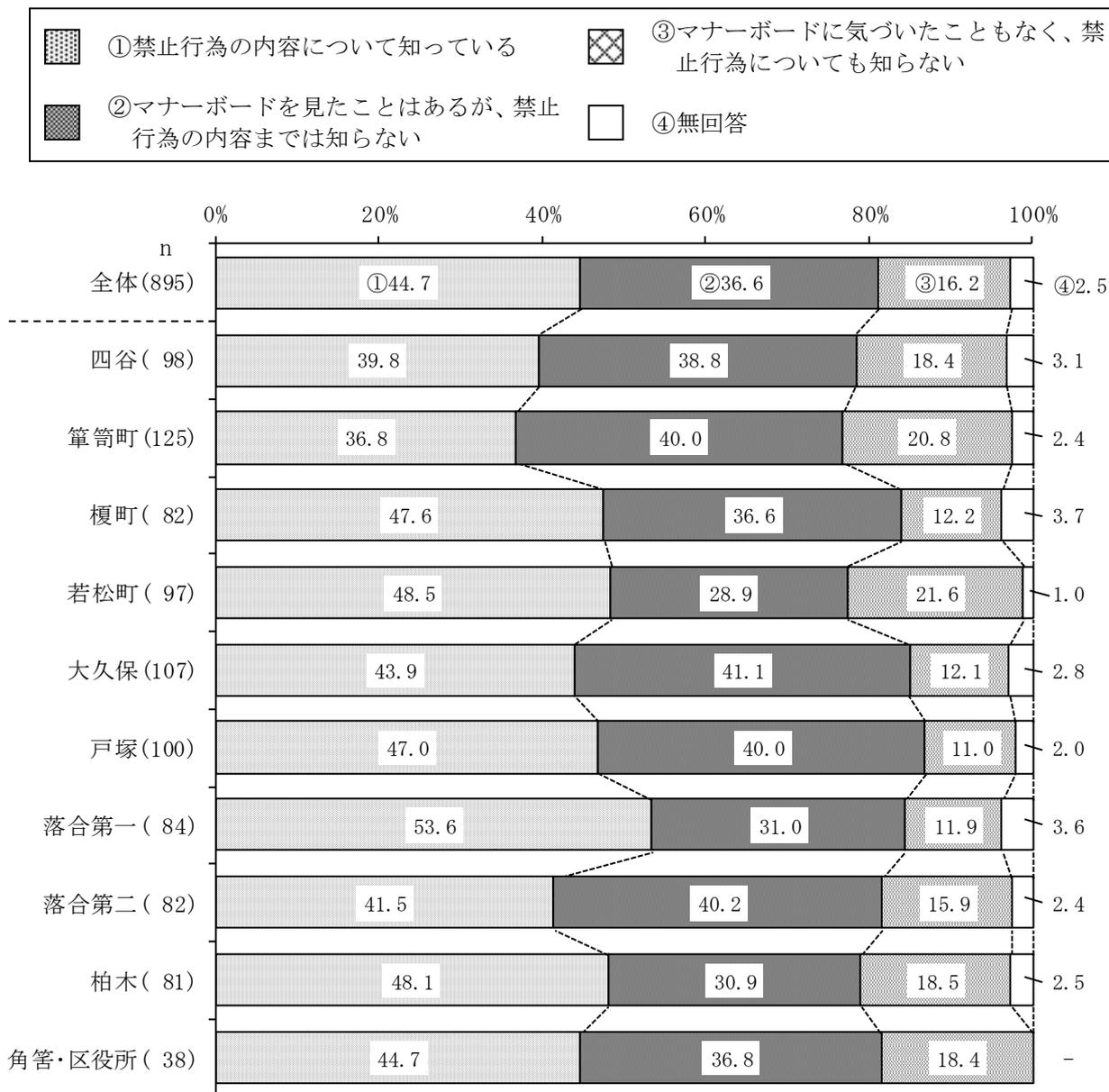


マナーボード（制札板）に掲載されている禁止行為の内容の認知状況を聞いたところ、「禁止行為の内容について知っている」（44.7%）が4割台半ば近くと最も高く、「マナーボードを見たことはあるが、禁止行為の内容までは知らない」（36.6%）が3割台半ばを超え、「マナーボードに気づいたこともなく、禁止行為についても知らない」（16.2%）が1割台半ばを超えている。

（図1-1-1）

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

図1-1-2 禁止行為の内容の認知状況（居住地域別）

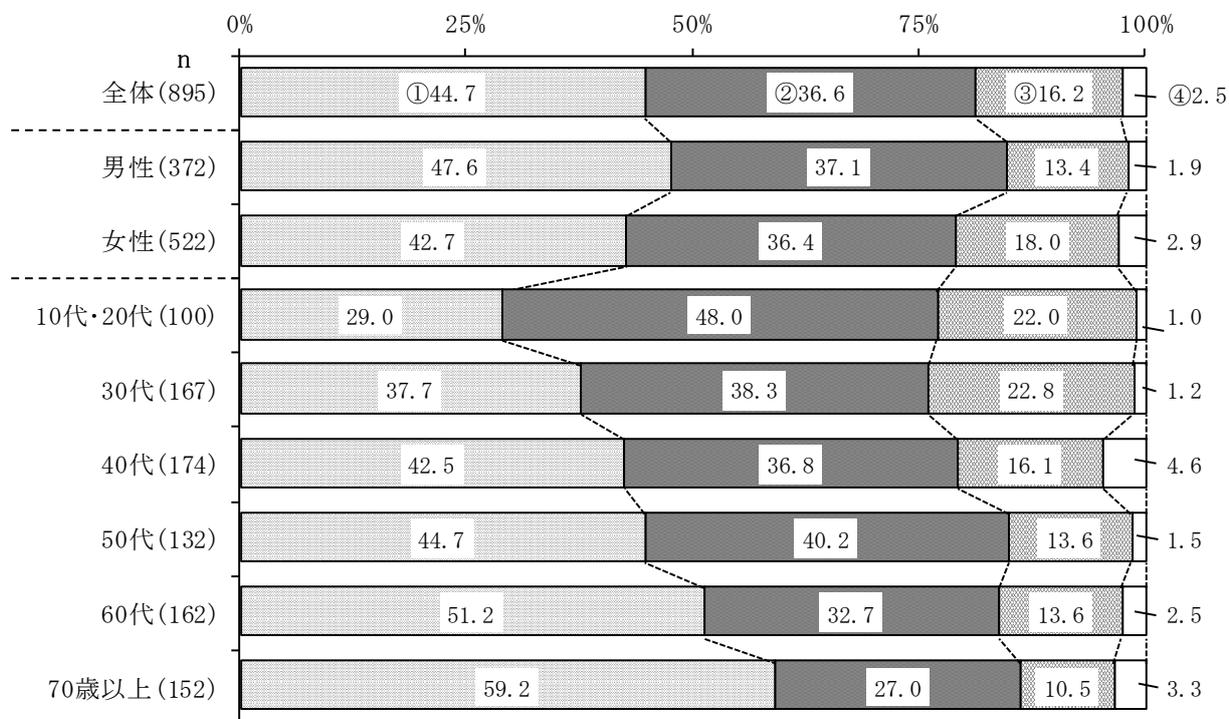
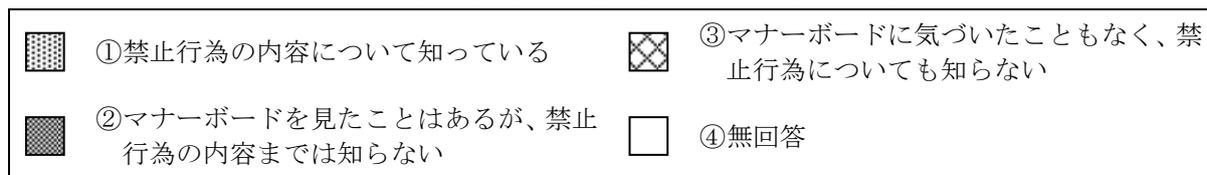


居住地域別にみると、「禁止行為の内容について知っている」では、落合第一（53.6%）が5割台半ば近くと最も高く、若松町（48.5%）と、柏木（48.1%）では5割近くとなっている。

「マナーボードに気づいたこともなく、禁止行為についても知らない」では、若松町（21.6%）が2割強で最も高く、箆笥町（20.8%）が約2割、柏木（18.5%）が2割近くと続く。

（図1-1-2）

図1-1-3 禁止行為の内容の認知状況（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「禁止行為の内容について知っている」では、70歳以上(59.2%)が全体(44.7%)を14.5ポイント上回っており、年代が上がるにつれて高い割合を示す傾向がみられる。

「マナーボードを見たことはあるが、禁止行為の内容までは知らない」では、10代・20代(48.0%)が全体(36.6%)を11.4ポイント上回っており、年代が上がるにつれて低い割合を示す傾向がみられる。(図1-1-3)

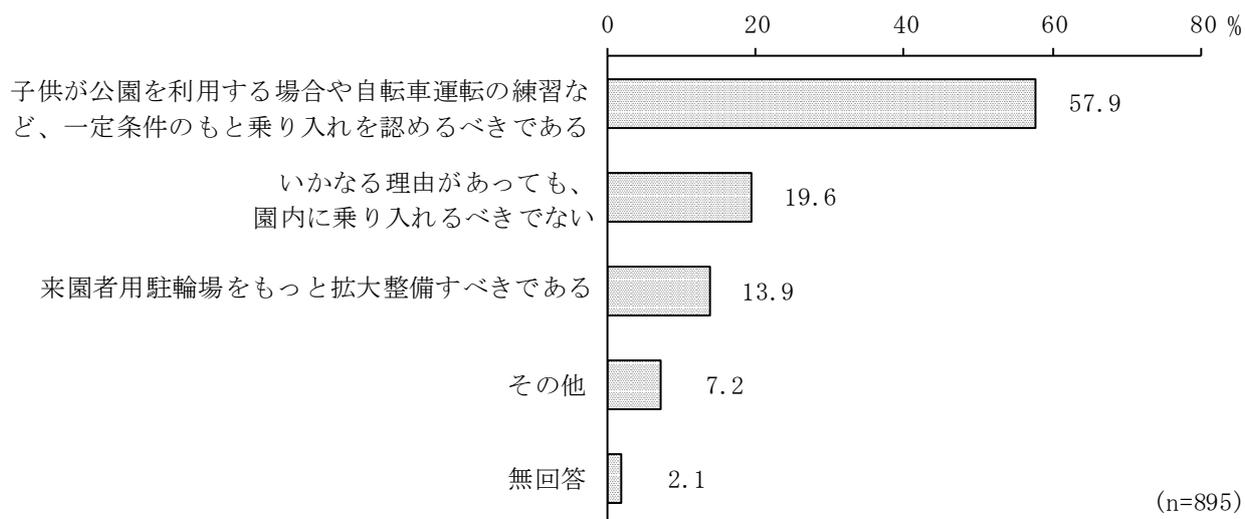
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

（2）公園内への自転車の乗り入れについて

◎「子供が公園を利用する場合や自転車運転の練習など、一定条件のもと乗り入れを認めるべきである」が5割台半ばを超える

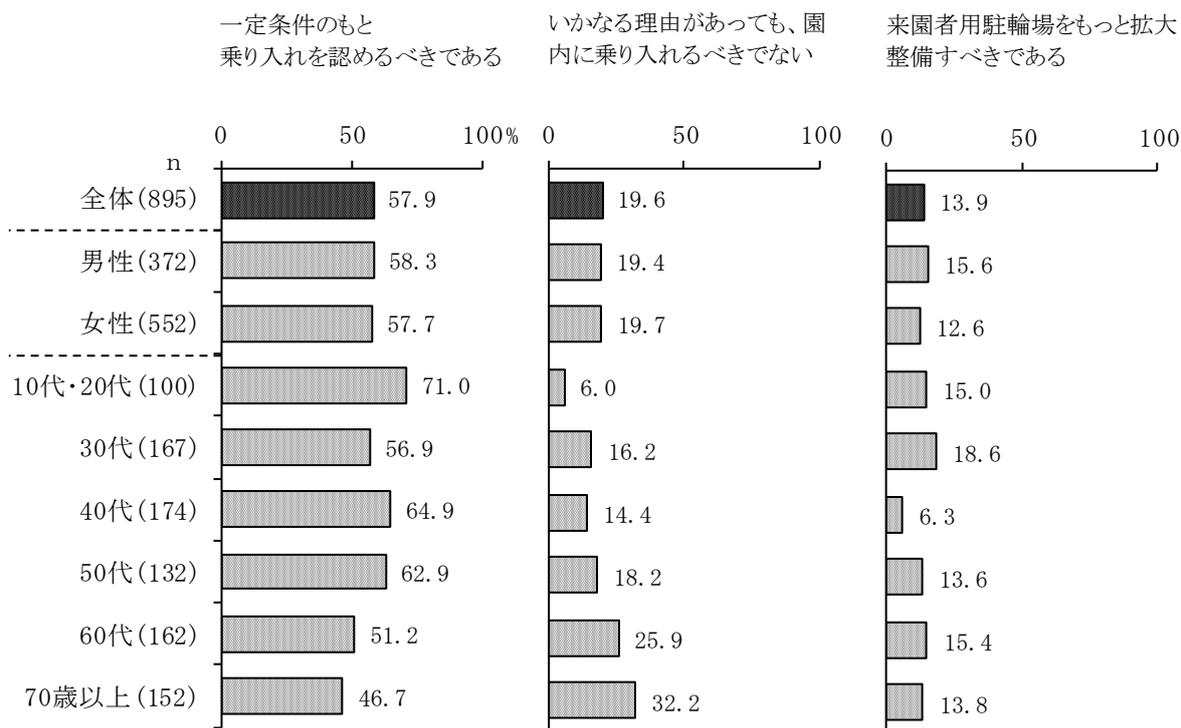
<p>問2 公園内では、来園者用の駐輪場を除いて、公園利用者の迷惑となることから、自転車やバイクの乗り入れを禁止しています。特に、通勤等の目的による駐輪が多く見受けられ、子供達が自転車で公園に遊びに来て、来園者用の駐輪場に停めることができません。一方で、自転車の乗り入れ禁止は、幼児が自転車運転の練習をしたくてもできないという矛盾も生じています。園内への自転車の乗り入れについて、どうあるべきだとお考えですか。(n=895)</p>		
1	いかなる理由があっても、園内に乗り入れるべきでない	19.6%
2	子供が公園を利用する場合や自転車運転の練習など、一定条件のもと乗り入れを認めるべきである	57.9
3	来園者用駐輪場をもっと拡大整備すべきである	13.9
4	その他	7.2
	無回答	2.1

図1-1-4 公園内への自転車の乗り入れについて



公園内への自転車の乗り入れについてどうあるべきだと思うかを聞いたところ、「子どもが公園を利用する場合や自転車運転の練習など、一定条件のもと乗り入れを認めるべきである」(57.9%)が5割代半ばを超え最も高く、以下、「いかなる理由があっても、園内に乗り入れるべきでない」(19.6%)が2割弱、「来園者用駐輪場をもっと拡大整備すべきである」(13.9%)が1割台半ば近くと続いている。(図1-1-4)

図1-1-5 公園内への自転車の乗り入れについて（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別でみると、「子供が公園を利用する場合や自転車運転の練習など、一定条件のもと乗り入れを認めるべきである」は、10代・20代（71.0%）が7割強と最も高く、40代（64.9%）が6割台半ば近く、50代（62.9%）が6割強と続いている。

「いかなる理由があっても、園内に乗り入れるべきでない」は、70歳以上（32.2%）が3割強、60代（25.9%）で2割台半ばと、年代が上がるにつれて高い割合を示す傾向がみられる。

（図1-1-5）

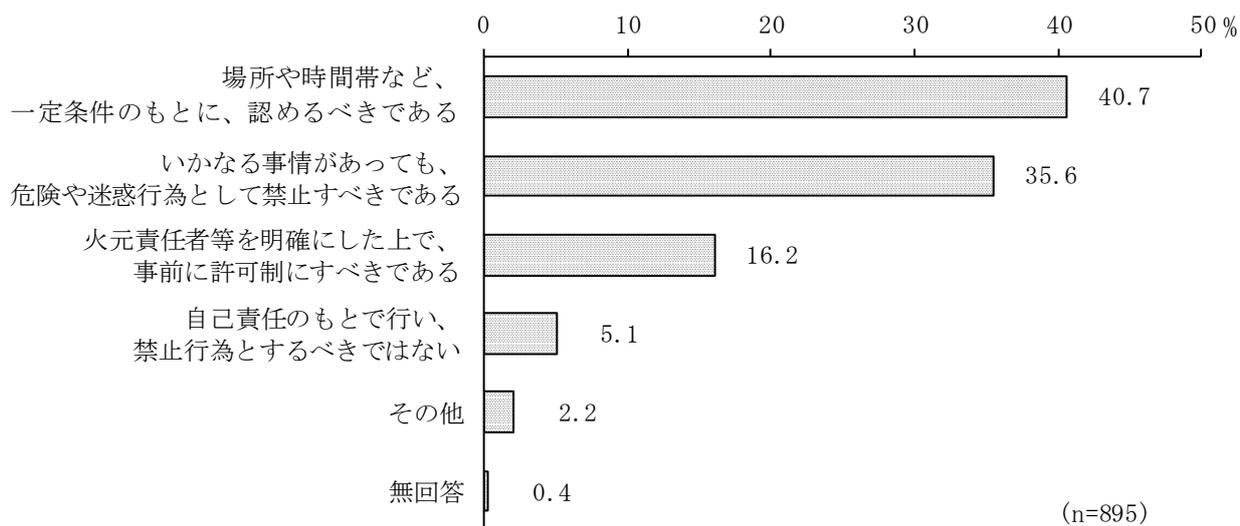
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

（3）公園内での花火等の行為について

◎「場所や時間帯など、一定条件のもとに、認めるべきである」が約4割

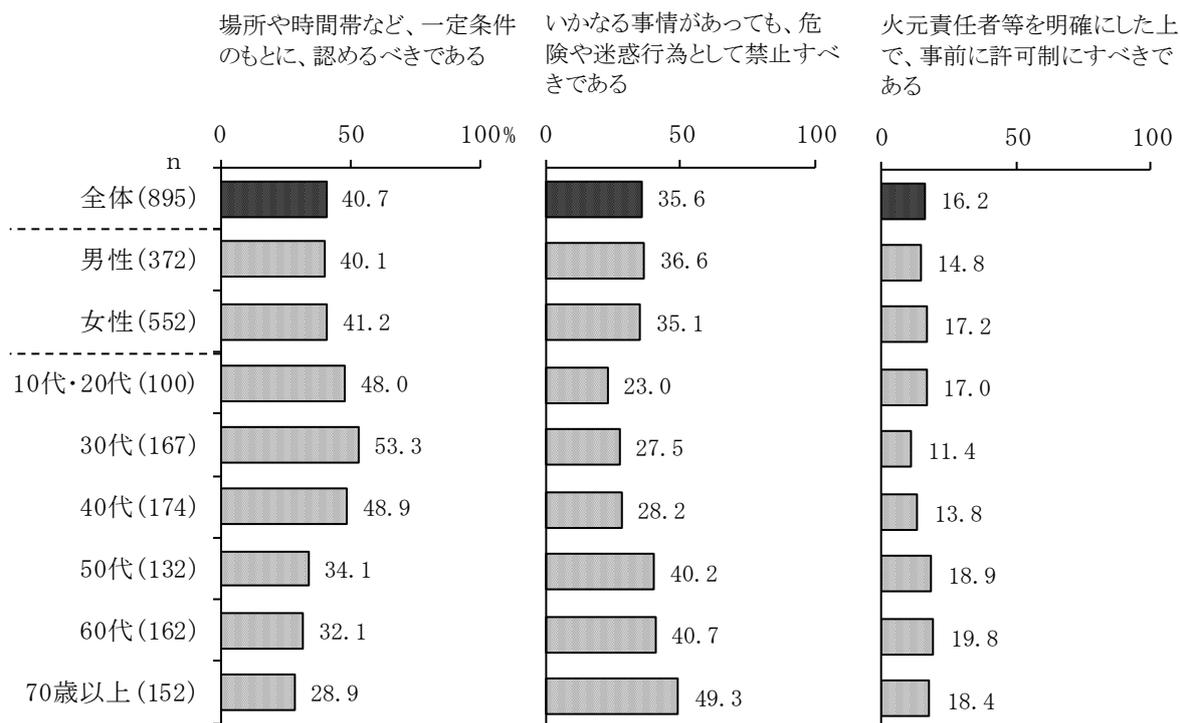
問3	花火や爆竹は、他の利用者に危険が及ぶだけでなく、公園近隣に対し、煙や音による迷惑がかかるため、禁止しています。一方で、夏の風物詩でもある花火は、共同住宅が多い新宿では、できる場所が限られます。	
	公園内での花火等の行為はどうあるべきだと思いますか。(n=895)	
1	いかなる事情があっても、危険や迷惑行為として禁止すべきである	35.6%
2	自己責任のもとで行い、禁止行為とするべきではない	5.1
3	場所や時間帯など、一定条件のもとに、認めるべきである	40.7
4	火元責任者等を明確にした上で、事前に許可制にすべきである	16.2
5	その他	2.2
	無回答	0.4

図1-1-6 公園内での花火等の行為について

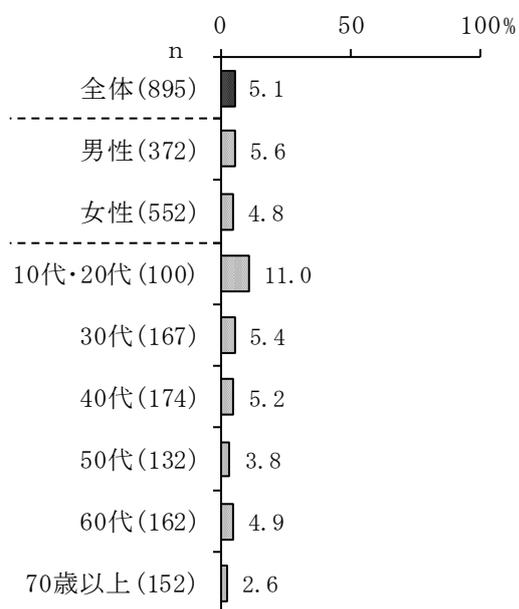


公園内での花火等の行為はどうあるべきか聞いたところ、「場所や時間帯など、一定条件のもとに、認めるべきである」(40.7%)が約4割で最も高く、以下、「いかなる事情があっても、危険や迷惑行為として禁止すべきである」(35.6%)が3割台半ば、「火元責任者等を明確にした上で、事前に許可制にすべきである」(16.2%)、「自己責任のもとで行い、禁止行為とするべきではない」(5.1%)の順となっている。(図1-1-6)

図1-1-7 公園内での花火等の行為について（性別・年代別）



自己責任のもとで行い、禁止行為とするべきではない



性別による大きな差異はみられない。

年代別では、「場所や時間帯など、一定条件のもとに、認めるべきである」では30代（53.3%）が5割台半ば近くで最も高く、40代（48.9%）、10代・20代（48.0%）で5割近くとなっており、10代・20代から40代が他の年代よりやや高い割合を示している。

「いかなる事情があっても、危険や迷惑行為として禁止すべきである」では、70歳以上（49.3%）が5割弱と最も高く、50代（40.2%）、60代（40.7%）で約4割となっており、年代が上がるにつれて高い割合を示す傾向が見られる。（図1-1-7）

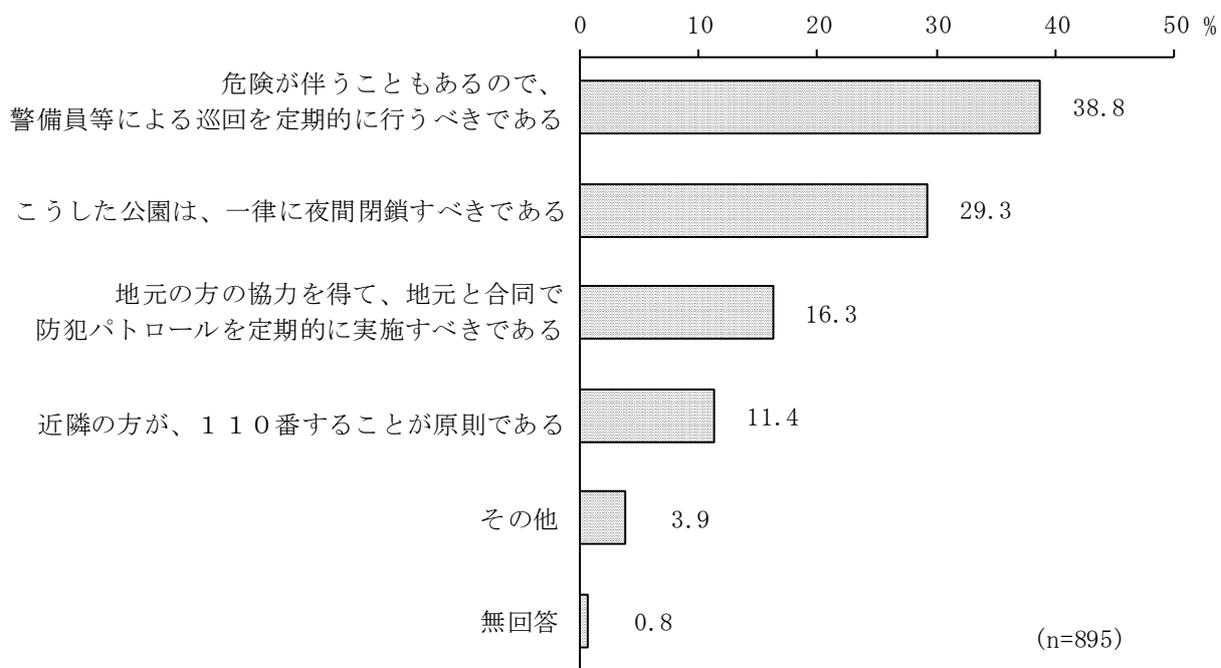
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

（4）公園内での迷惑行為について

◎「危険が伴うこともあるので、警備員等による巡回を定期的に行うべきである」が4割近く

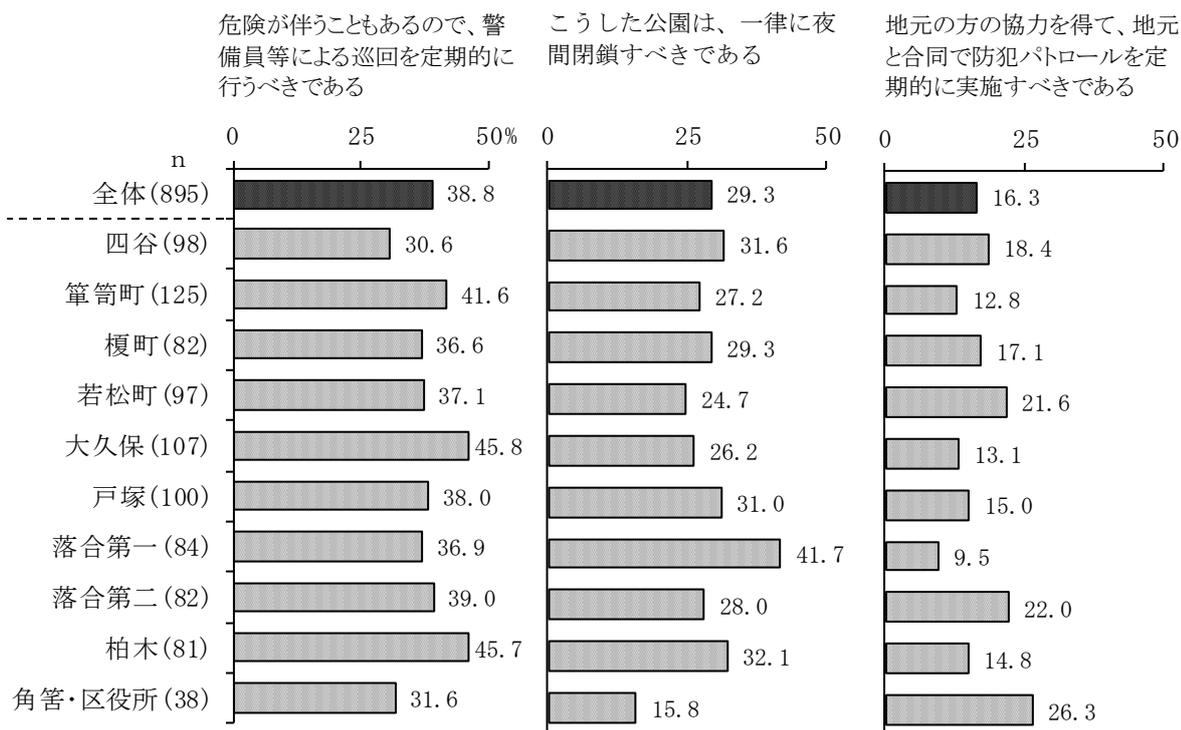
問4	一部の公園では、大人や学生が夜間に騒いだり、飲酒による迷惑で、近隣が大変困っています。事務所では、警察の協力を得ながら定期的に巡回を行い、学生の場合は、学校へも通報していますが、一向にありません。 このような公園では、今後どう対応すべきと思いますか。(n=895)	
1	地元の方の協力を得て、地元と合同で防犯パトロールを定期的を実施すべきである	16.3%
2	危険が伴うこともあるので、警備員等による巡回を定期的に行うべきである	38.8
3	こうした公園は、一律に夜間閉鎖すべきである	29.3
4	近隣の方が、110番することが原則である	11.4
5	その他	3.9
	無回答	0.8

図1-1-8 公園内での迷惑行為について

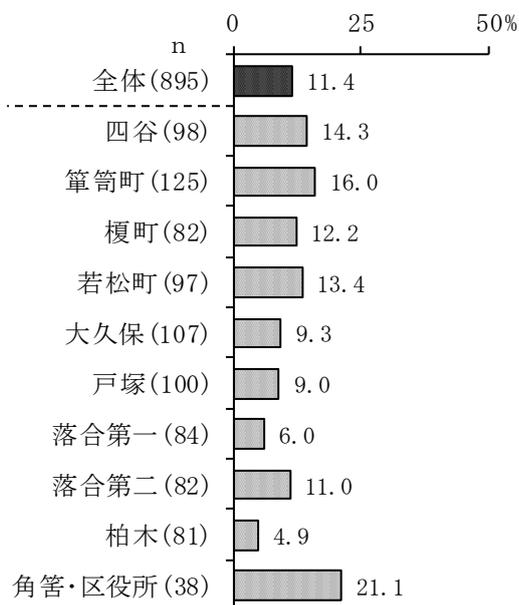


公園内での迷惑行為について、今後どのように対応すべきか聞いたところ、「危険が伴うこともあるので、警備員等による巡回を定期的に行うべきである」(38.8%)が4割近くで最も高く、以下、「こうした公園は、一律に夜間閉鎖すべきである」(29.3%)が3割弱、「地元の方の協力を得て、地元と合同で防犯パトロールを定期的を実施すべきである」(16.3%)、「近隣の方が、110番することが原則である」(11.4%)の順となっている。(図1-1-8)

図1-1-9 公園内での迷惑行為について（居住地域別）



近隣の方が、110番することが原則である

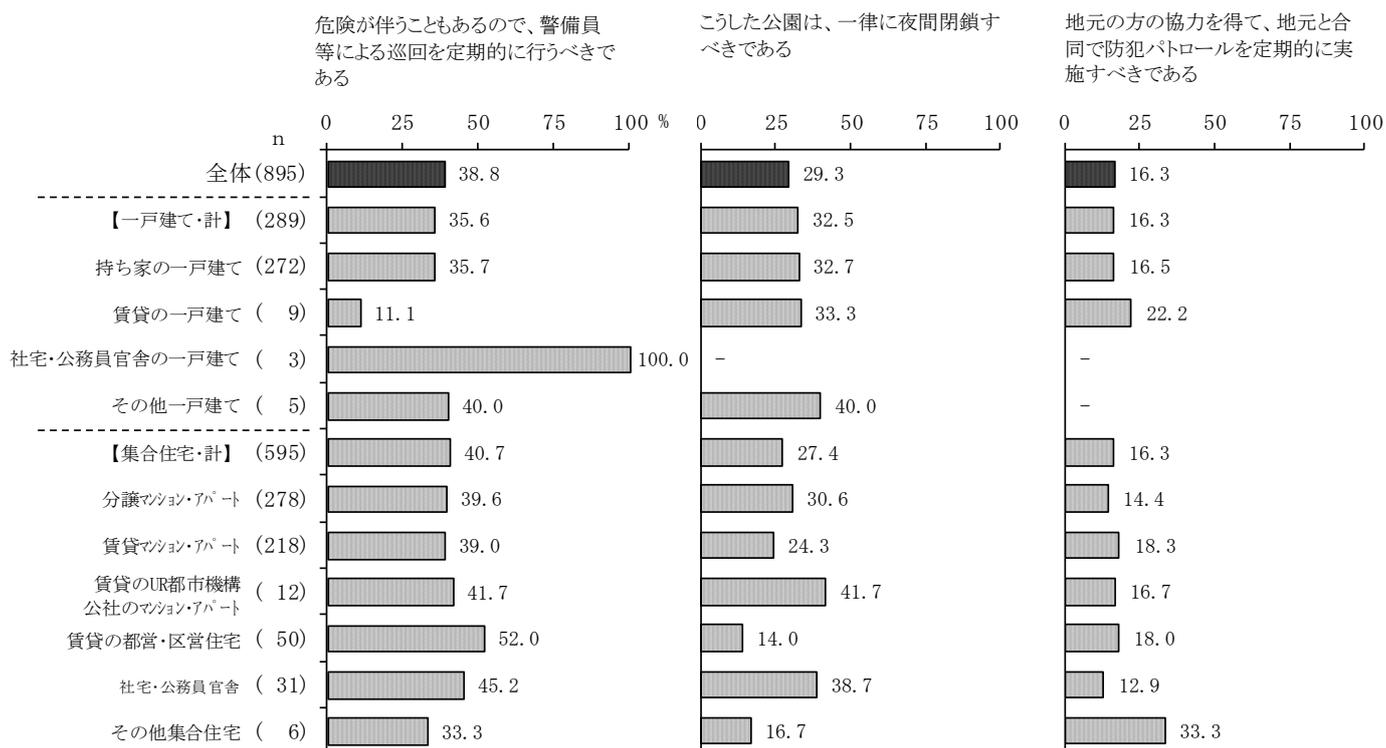


居住地域別にみると、「危険が伴うこともあるので、警備員等による巡回を定期的に行うべきである」では、大久保（45.8%）、柏木（45.7%）で4割台半ばとなっている。

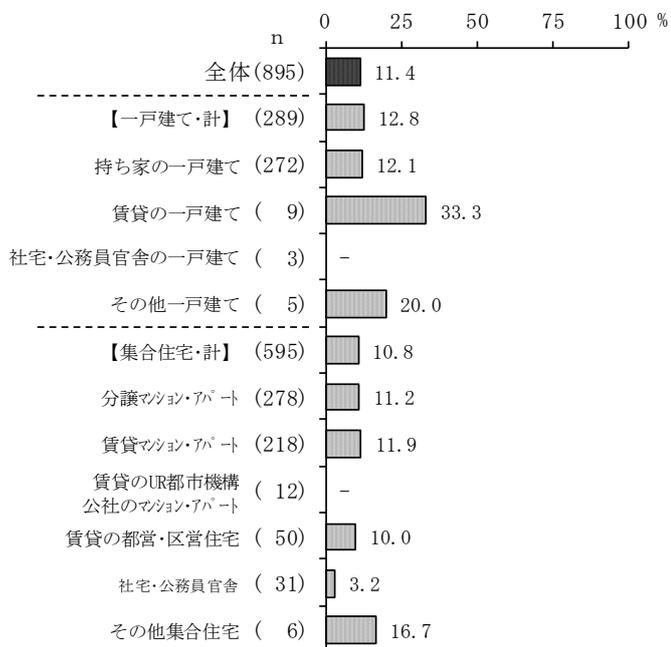
「こうした公園は、一律に夜間閉鎖すべきである」で、落合第一（41.7%）が4割強と、全体（29.3%）を12.4ポイント上回っている。（図1-1-9）

Ⅱ 調査の結果 第1回 (テーマ1 公園利用者のマナーについて)

図1-1-10 公園内での迷惑行為について (住居形態別)



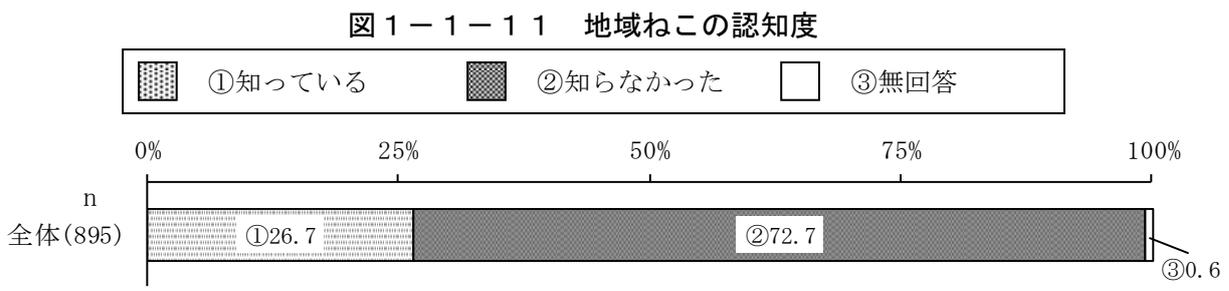
近隣の方が、110番することが原則である



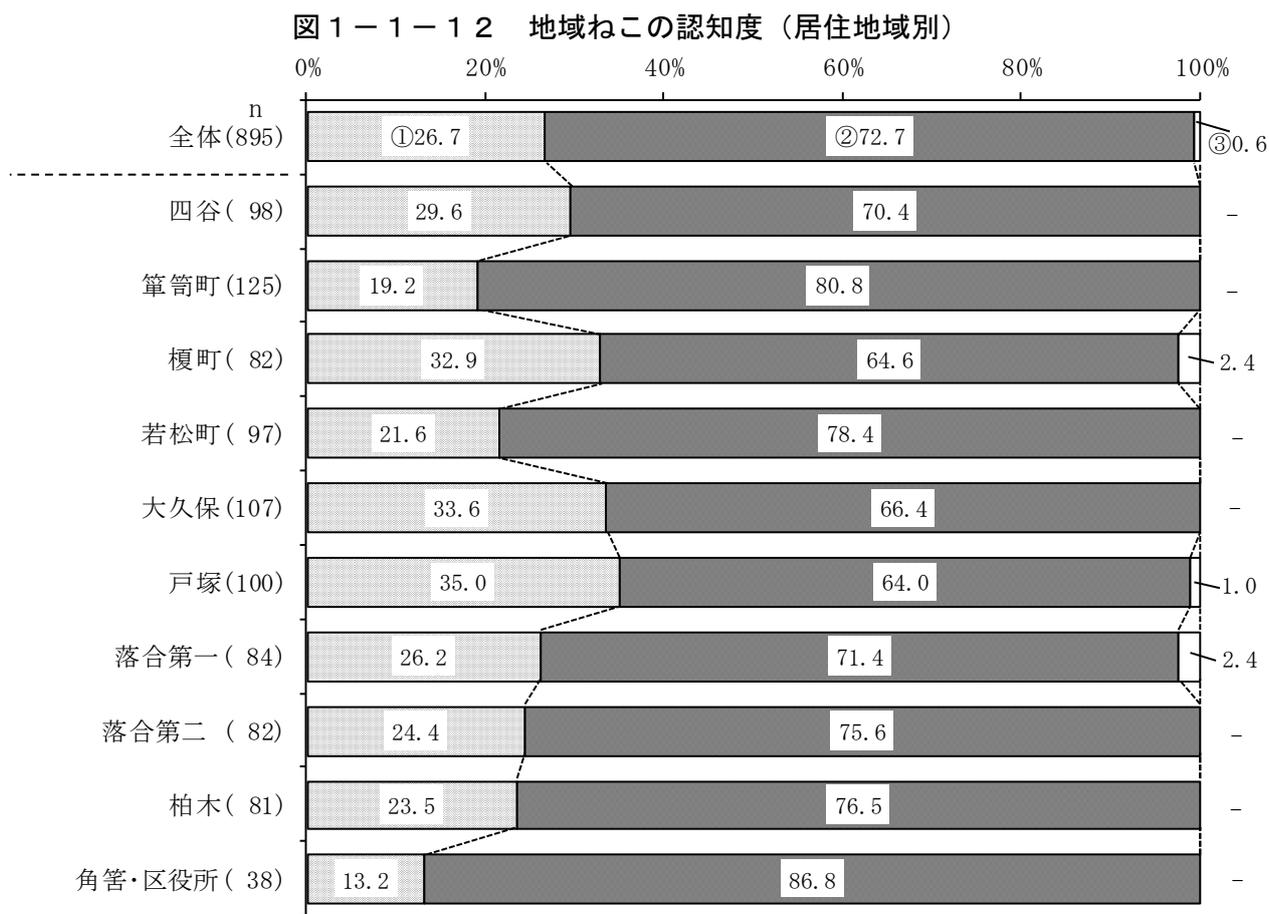
(5) 地域ねこの認知度

◎「知っている」が2割台半ばを超え、「知らなかった」が7割強

問5-1 地域ねこの取り組みはご存じですか。(n=895)		
1	知っている	26.7%
2	知らなかった	72.7
	無回答	0.6



地域ねこの取り組みを知っているか聞いたところ、「知らなかった」(72.7%)が7割強と多くなっている。(図1-1-11)

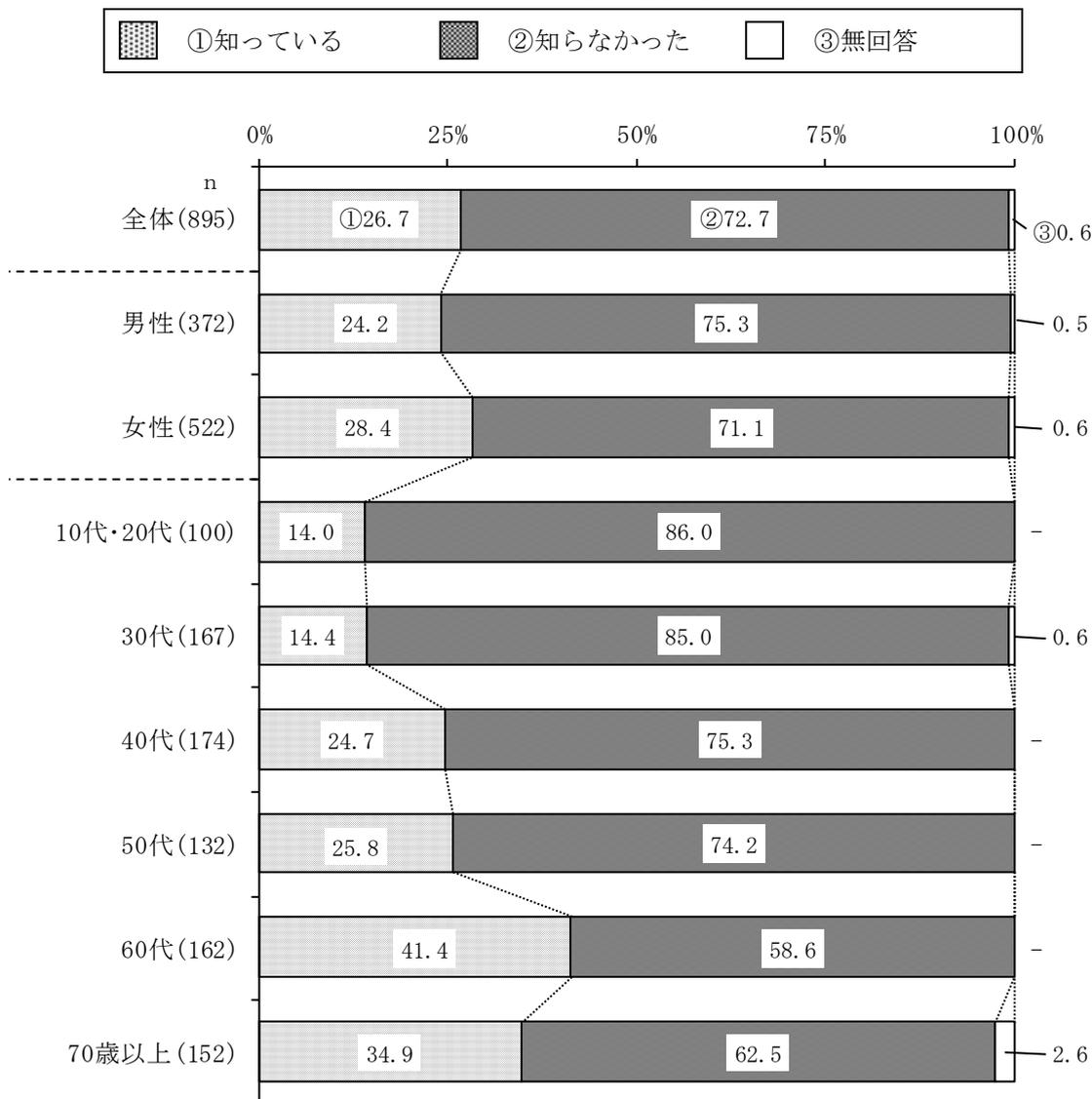


居住地域別にみると、「知っている」では、戸塚(35.0%)が3割台半ばで最も高く、大久保(33.6%)、榎町(32.9%)でも3割を超えている。

「知らなかった」では、角筈・区役所(86.8%)が8割台半ばを超え最も高く、笹笥町(80.8%)で約8割、若松町(78.4%)で8割近くとなっている。(図1-1-12)

II 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

図1-1-13 地域ねこの認知度（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

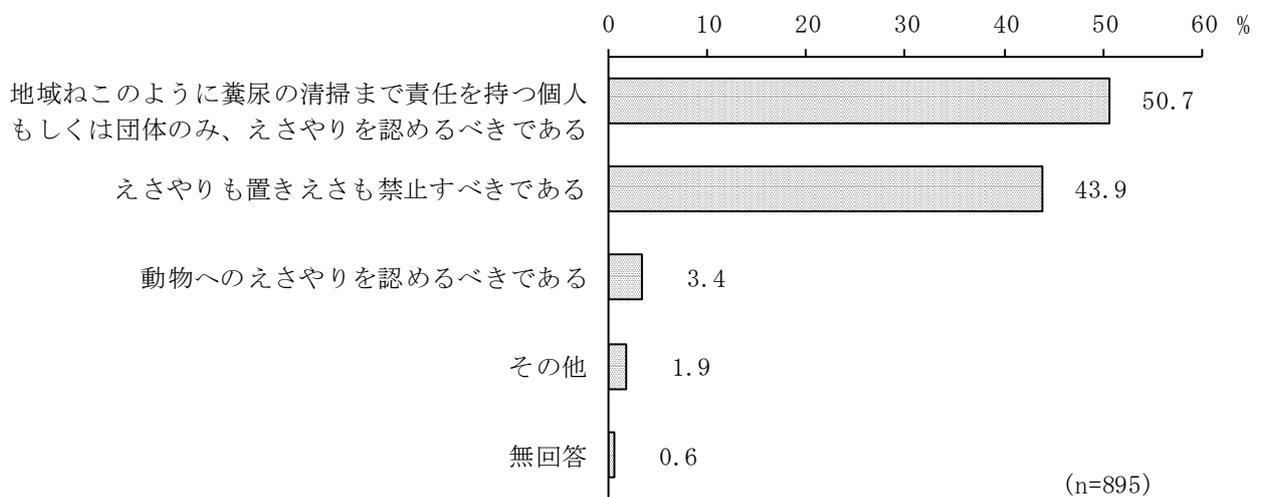
年代別にみると、「知っている」では、60代（41.4%）で最も高く、全体（26.7%）を14.7ポイント上回っている。反対に、10代・20代（14.0%）で最も低くなっており、30代（14.4%）とともに1割台半ば近くと、全体より1割ほど低い。（図1-1-13）

(6) 公園内でのえさやりについて

◎「地域ねこのように、糞尿の清掃まで責任を持つ個人もしくは団体のみ、えさやりを認めるべきである」が約5割

問5-2 公園内でえさやりについて、今後どうあるべきだとお考えですか。(n=895)	
1 えさやりも置きえさも禁止すべきである	43.9%
2 動物へのえさやりを認めるべきである	3.4
3 地域ねこのように、糞尿の清掃まで責任を持つ個人もしくは団体のみ、えさやりを認めるべきである	50.7
4 その他	1.9
無回答	0.6

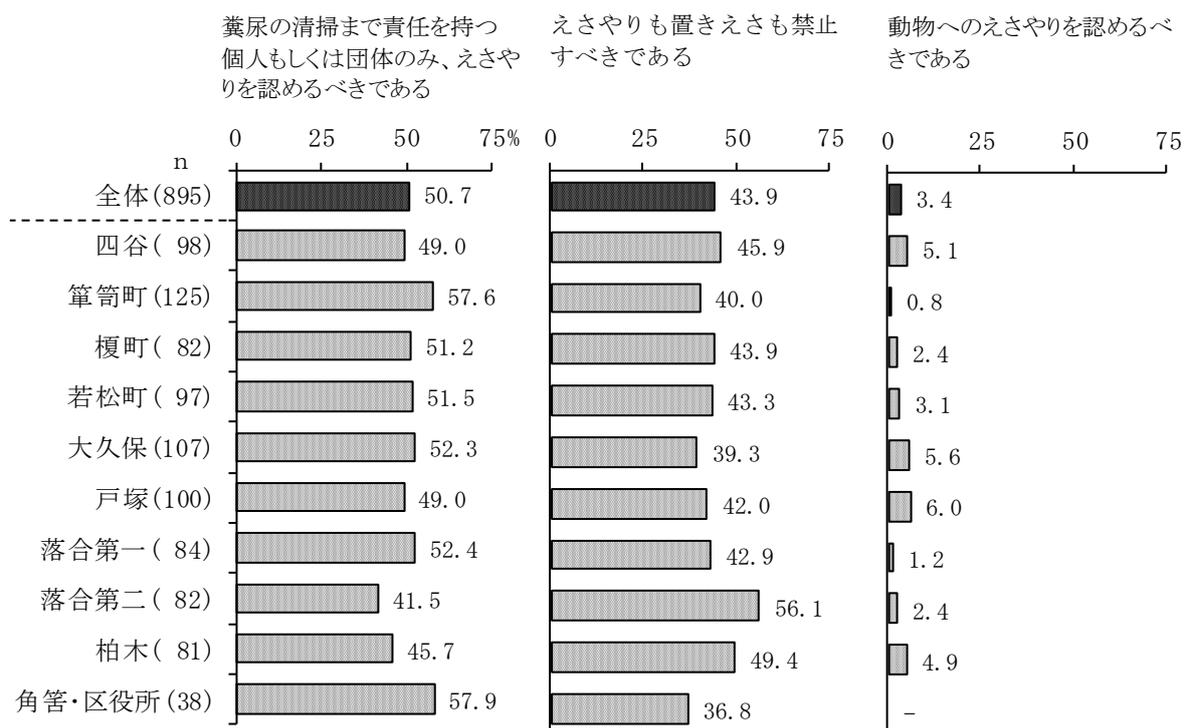
図1-1-14 公園内でのえさやりについて



公園内でのえさやりについて、今後どうあるべきかを聞いたところ、「地域ねこのように、糞尿の清掃まで責任を持つ個人もしくは団体のみ、えさやりを認めるべきである」(50.7%)が約5割で最も高く、「えさやりも置きえさも禁止すべきである」(43.9%)が4割台半ば近くとなっている。(図1-1-14)

II 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

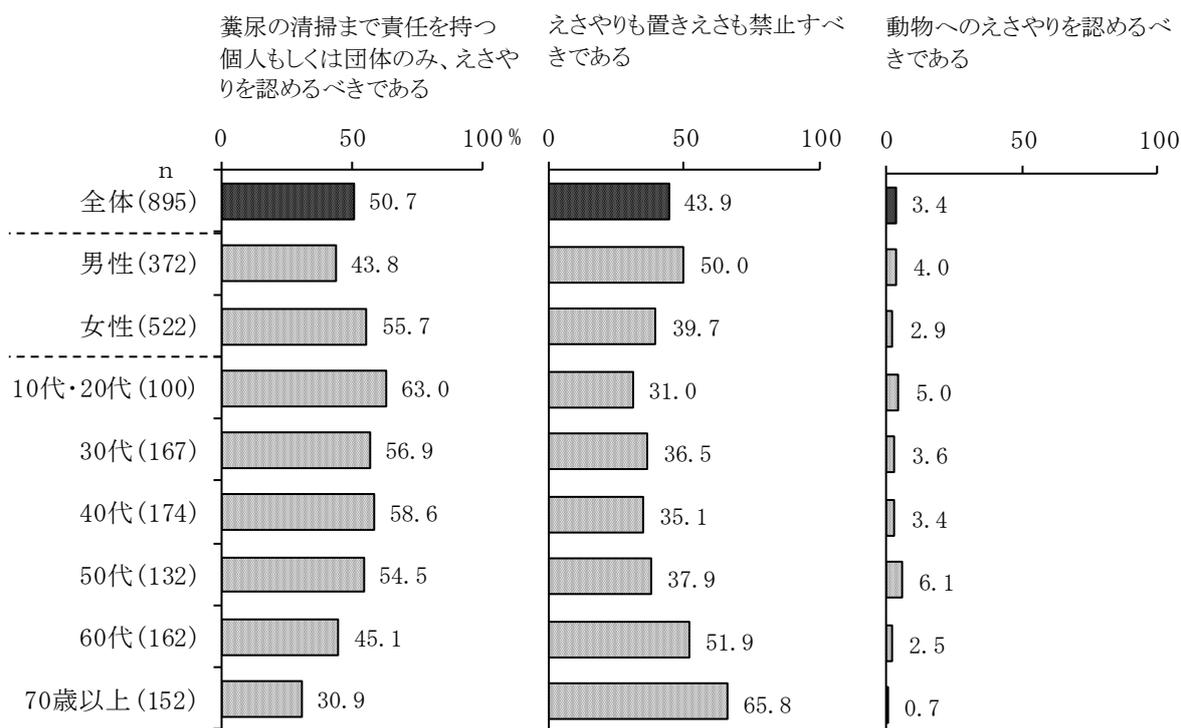
図1-1-15 公園内でのえさやりについて（居住地域別）



居住地域別にみると、「糞尿の清掃まで責任を持つ個人もしくは団体のみ、えさを認めるべきである」では、角筈・区役所 (57.9%)、箆笥町 (57.6%) で5割台半ばを超え、落合第一 (52.4%)、大久保 (52.3%)、若松町 (51.5%)、榎町 (51.2%) でも5割を超えている。

「えさやりも置きえさも禁止すべきである」では、落合第二 (56.1%) で5割台半ばを超え、全体 (43.9%) を12.2ポイント上回っている。(図1-1-15)

図1-1-16 公園内でのえさやりについて（性別・年代別）



性別で見ると、「地域ねこのように、糞尿の清掃まで責任を持つ個人もしくは団体のみ、えさやりを認めるべきである」では、女性（55.7%）が男性（43.8%）を11.9ポイント上回り、「えさやりも置きえさも禁止すべきである」では、男性（50.0%）が女性（39.7%）を10.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、「地域ねこのように、糞尿の清掃まで責任を持つ個人もしくは団体のみ、えさやりを認めるべきである」では、10代・20代（63.0%）が最も高く、年代が上がるにつれて低い割合を示す傾向がみられる。

「えさやりも置きえさも禁止すべきである」では、70歳以上（65.8%）が最も高く、年代が上がるにつれて高い割合を示す傾向がみられる。（図1-1-16）

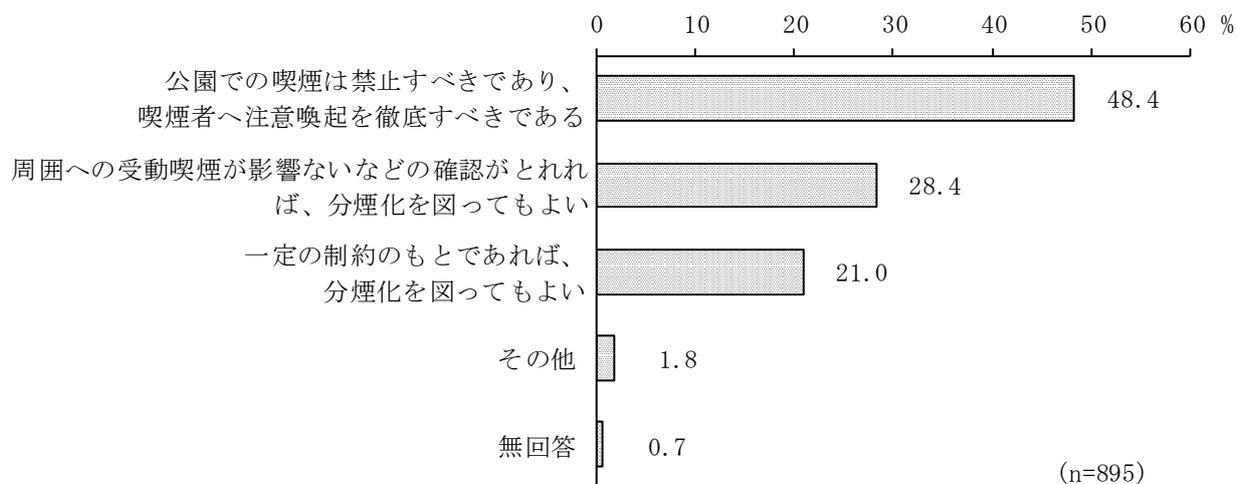
II 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

（7）公園内での喫煙のあり方について

◎「公園での喫煙は禁止すべきであり、喫煙者へ注意喚起を徹底すべきである」が5割近く

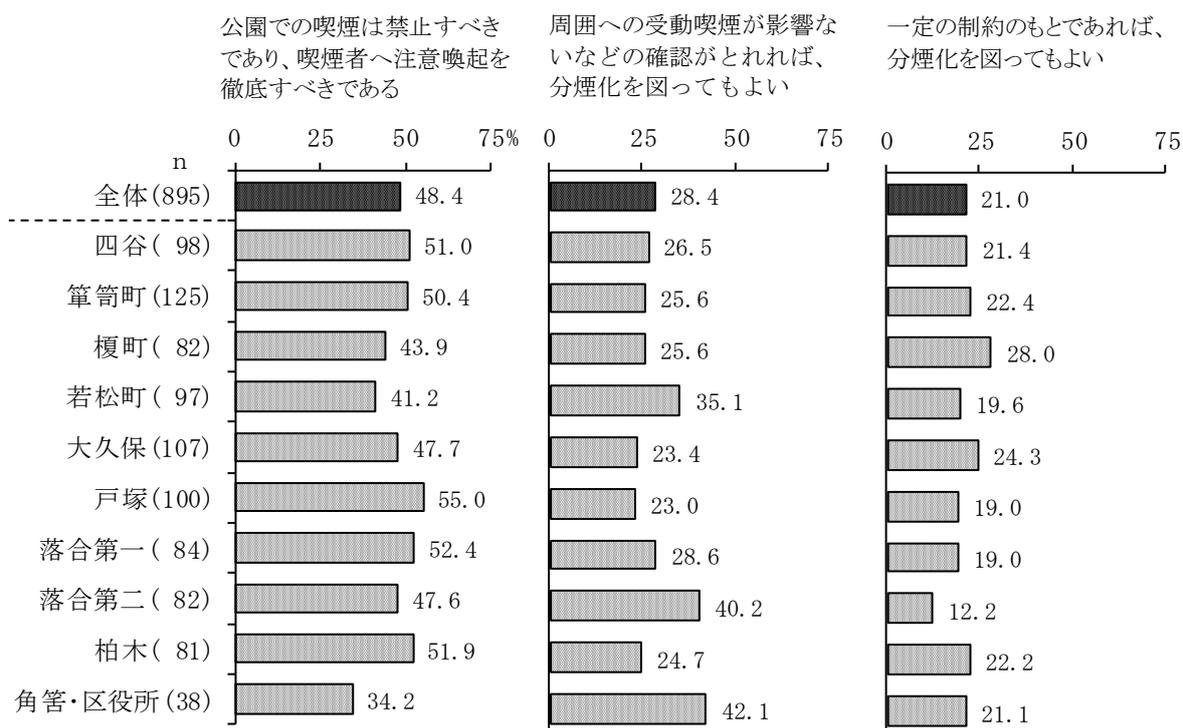
問6	昨年4月より、区立公園では、受動喫煙による健康への被害をなくすため、分煙が可能である大きな公園を除いて、9割近くの公園が全面禁煙となりました。しかしながら、公共の場での喫煙場所の減少により、依然多くの公園で、喫煙による苦情が絶えません。このため、公園以外での喫煙スポットの整備や交通事業者やオフィス等へ分煙施設の整備を働きかけています。今後の公園での喫煙のあり方について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。	(n=895)
1	公園での喫煙は禁止すべきであり、喫煙者へ注意喚起を徹底すべきである	48.4%
2	通勤ラッシュ時や子供の利用が多い時間帯や遊具付近などの喫煙を制限するなど、一定の制約のもとであれば、分煙化を図ってもよい	21.0
3	万全な防煙設備を備えることで、公園をはじめ、周囲への受動喫煙が影響ないなどの確認がとれれば、分煙化を図ってもよい	28.4
4	その他	1.8
	無回答	0.7

図1-1-17 公園内での喫煙のあり方について



今後の公園内での喫煙のあり方について聞いたところ、「公園での喫煙は禁止すべきであり、喫煙者へ注意喚起を徹底すべきである」（48.4%）が5割近くで最も高く、以下、「万全な防煙設備を備えることで、公園をはじめ、周囲への受動喫煙が影響ないなどの確認がとれれば、分煙化を図ってもよい」（28.4%）が3割近く、「通勤ラッシュ時や子供の利用が多い時間帯や遊具付近などの喫煙を制限するなど、一定の制約のもとであれば、分煙化を図ってもよい」（21.0%）が2割強の順となっている。（図1-1-17）

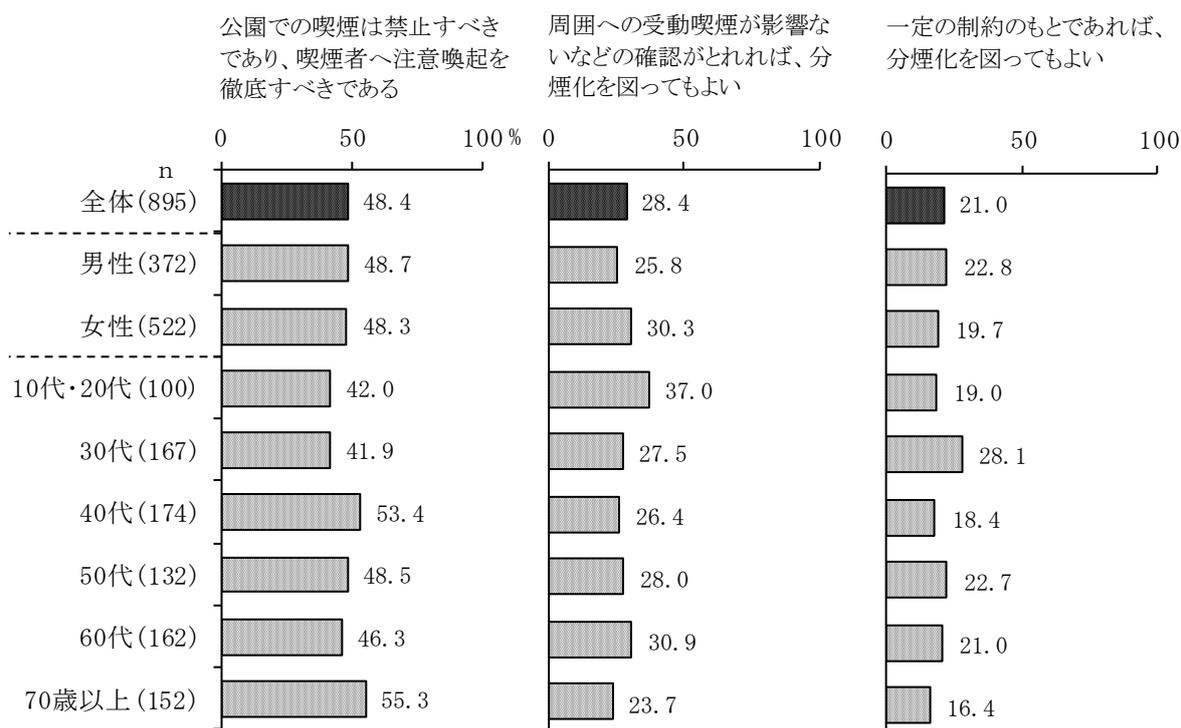
図1-1-18 公園内での喫煙のあり方について（居住地域別）



居住地域別にみると、「公園での喫煙は禁止すべきであり、喫煙者へ注意喚起を徹底すべきである」では、戸塚（55.0%）が5割台半ばで最も高く、落合第一（52.4%）、柏木（51.9%）、で5割を超えている。（図1-1-18）

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

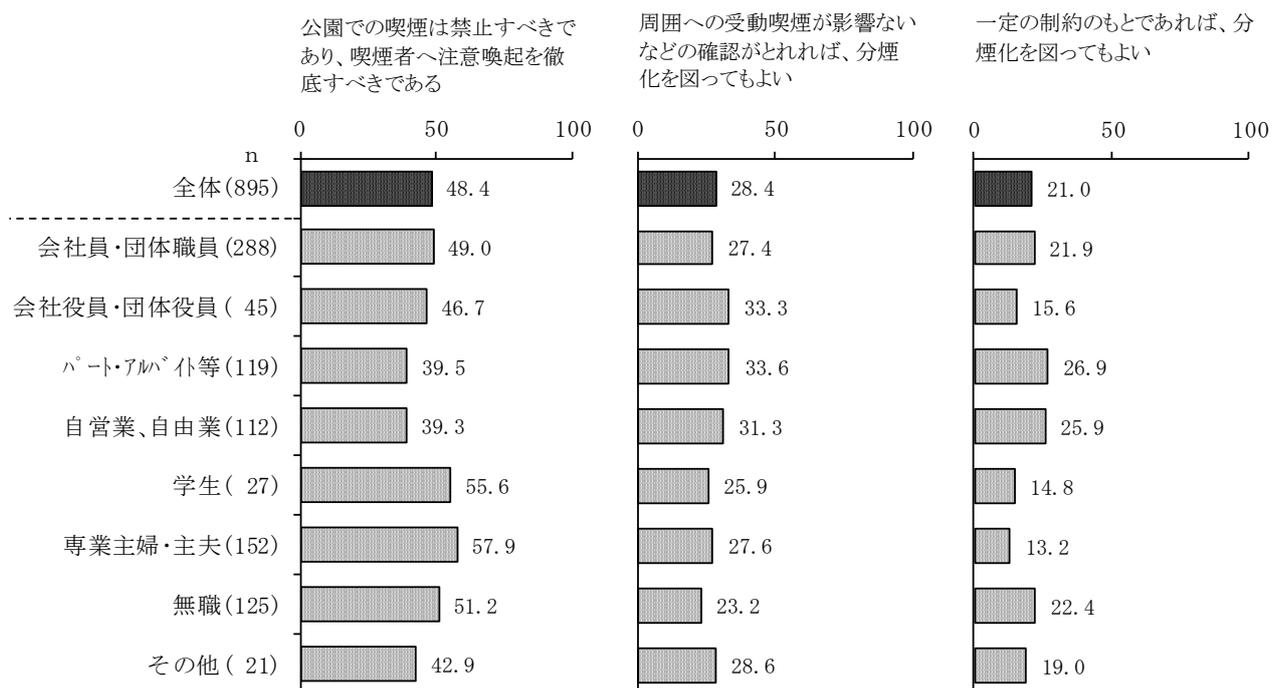
図1-1-19 公園内での喫煙のあり方について（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別でみると、「万全な防煙設備を備えることで、公園をはじめ、周囲への受動喫煙が影響ないなどの確認がとれれば、分煙化を図ってもよい」では、10代・20代（37.0%）が全体（28.4%）と比べて1割ほど高くなっている。（図1-1-19）

図1-1-20 公園内での喫煙のあり方について（職業別）



職業別でみると、「公園での喫煙は禁止すべきであり、喫煙者への注意喚起を徹底すべきである」では、専業主婦・主夫（57.9%）が全体（48.4%）を9.5ポイント上回っている。パート・アルバイト等（39.5%）と自営業、自由業（39.3%）はそれぞれ4割弱で、全体と比べてやや低い割合を示している。（図1-1-20）

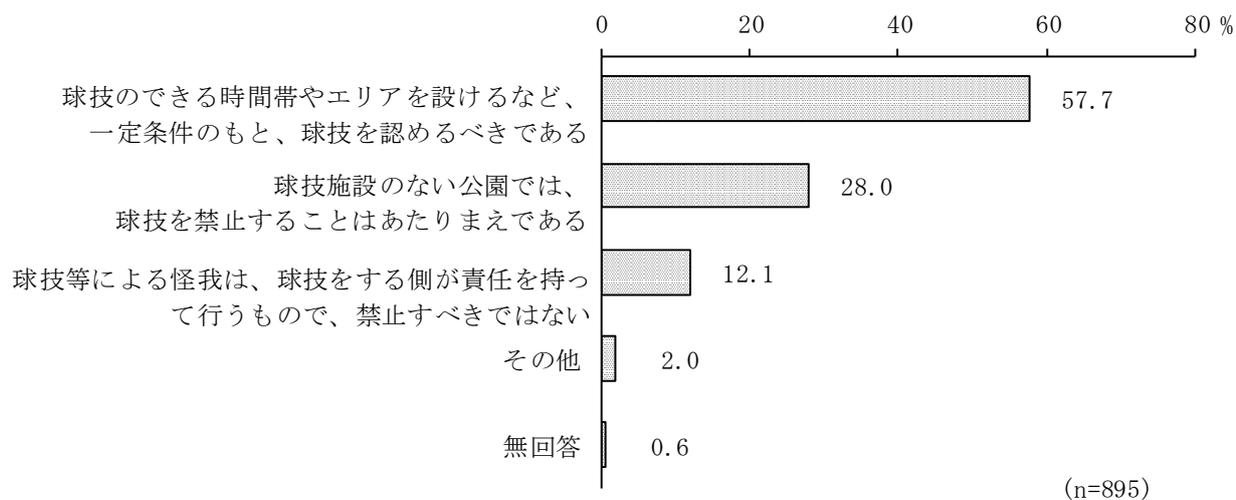
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

（8）公園内での球技のあり方について

◎「球技のできる時間帯やエリアを設けるなど、一定条件のもと、球技を認めるべきである」が5割台半ばを超える

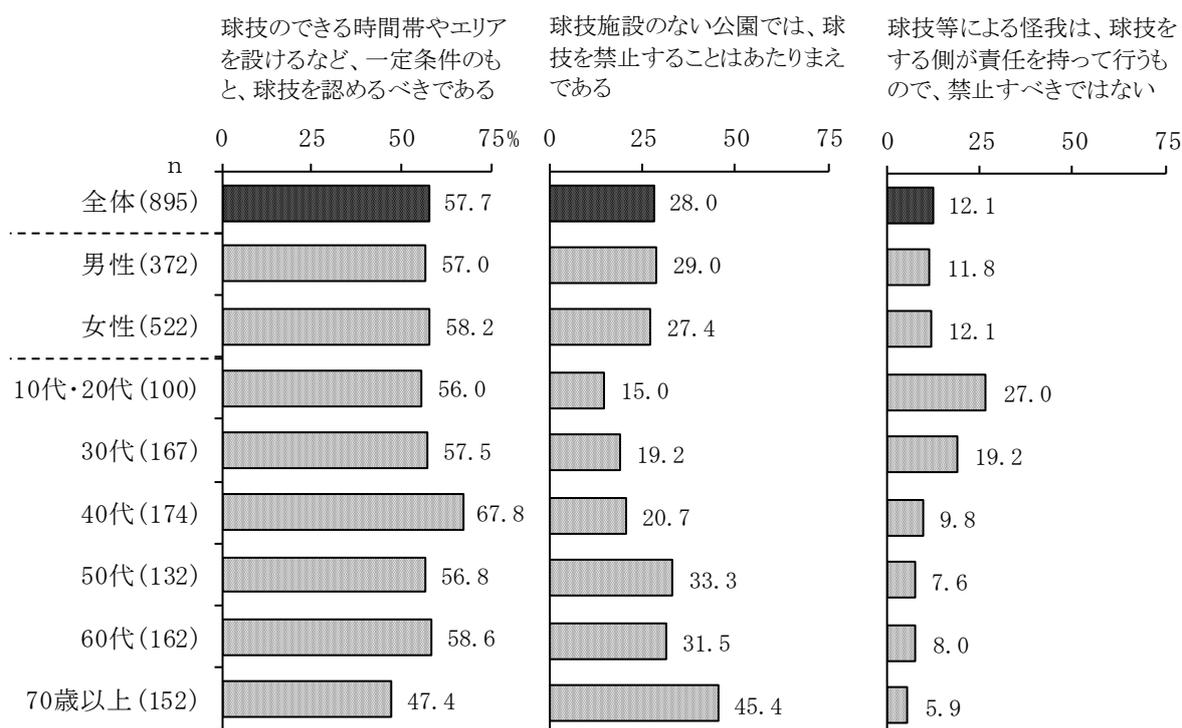
問7	一部の球技施設のある公園を除いて、公園内で野球やサッカー等の球技は、他の利用者へボールが当たって怪我をしたり、近隣へ飛び込む等を理由に禁止しています。一方で、子供達や中高生達が球技をする場所が少ないため、注意喚起を行っても球技が絶えません。このため、公園事務所では、子供から高齢者（障害者）までが安全に行うことができる球技（ニュースポーツ：やわらかい大小ボールを使った様々な球技）を一部公園に導入しようと検討しているところです。今後の公園での球技について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。	(n=895)
1	球技等による怪我は、球技をする側が責任を持って行うもので、禁止すべきではない	12.1%
2	球技施設のない公園では、球技を禁止することはあたりまえである	28.0
3	球技のできる時間帯やエリアを設けるなど、一定条件のもと、球技を認めるべきである	57.7
4	その他	2.0
	無回答	0.6

図1-1-21 公園内での球技のあり方について



今後の公園内での球技のあり方について聞いたところ、「球技のできる時間帯やエリアを設けるなど、一定条件のもと、球技を認めるべきである」(57.7%)が5割台半ばを超え最も高く、以下、「球技施設のない公園では、球技を禁止することはあたりまえである」(28.0%)、「球技等による怪我は、球技をする側が責任を持って行うもので、禁止すべきではない」(12.1%)の順となっている。(図1-1-21)

図1-1-22 公園内での球技のあり方について（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「球技のできる時間帯やエリアを設けるなど、一定条件のもと、球技を認めるべきである」では、40代（67.8%）が6割台半ばを超え最も高く、全体（57.7%）を10.1ポイント上回っている。

「球技施設のない公園では、球技を禁止することはあたりまえである」では、70歳以上（45.4%）が4割台半ばと最も高く、全体（28.0%）を17.4ポイント上回っている。10代・20代（15.0%）では1割代半ば、30代（19.2%）では2割弱、40代（20.7%）では約2割となっており、年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

「球技等による怪我は、球技をする側が責任を持って行うもので、禁止すべきではない」では、10代・20代（27.0%）が2割台半ばを超え最も高く、全体（12.1%）を14.9ポイント上回っている。30代（19.2%）では2割弱となっているほかは1割未満と、年代が高くなるにつれて低い割合を示す傾向がみられる。（図1-1-22）

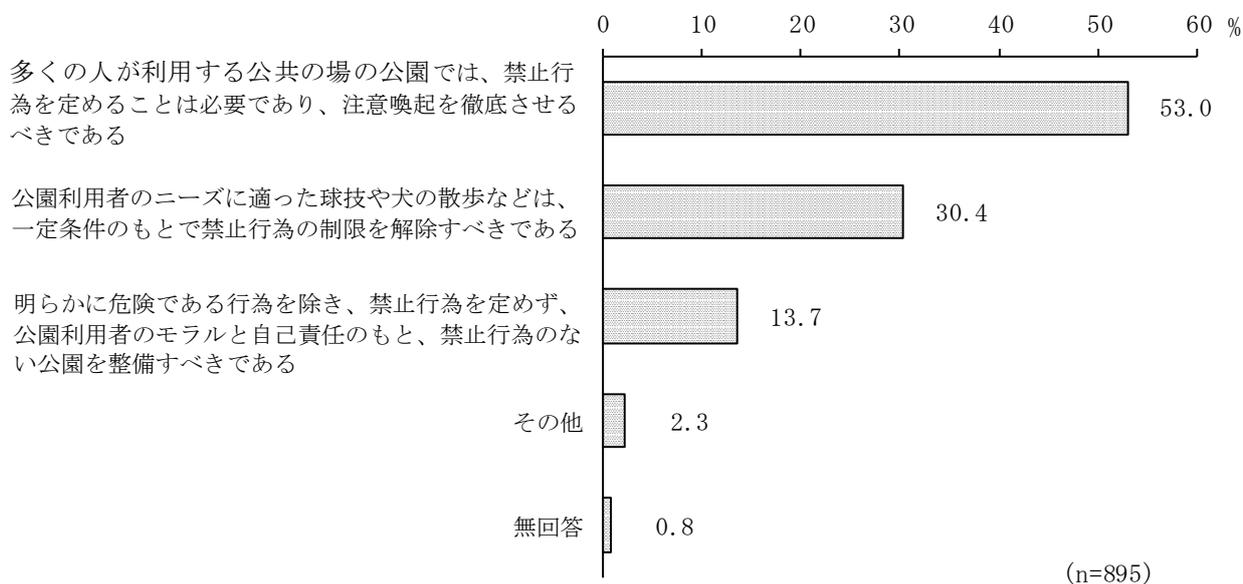
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

（9）今後の禁止行為のあり方について

◎「多くの人が利用する公共の場の公園では、禁止行為を定めることは必要であり、注意喚起を徹底させるべきである」が5割台半ば近く

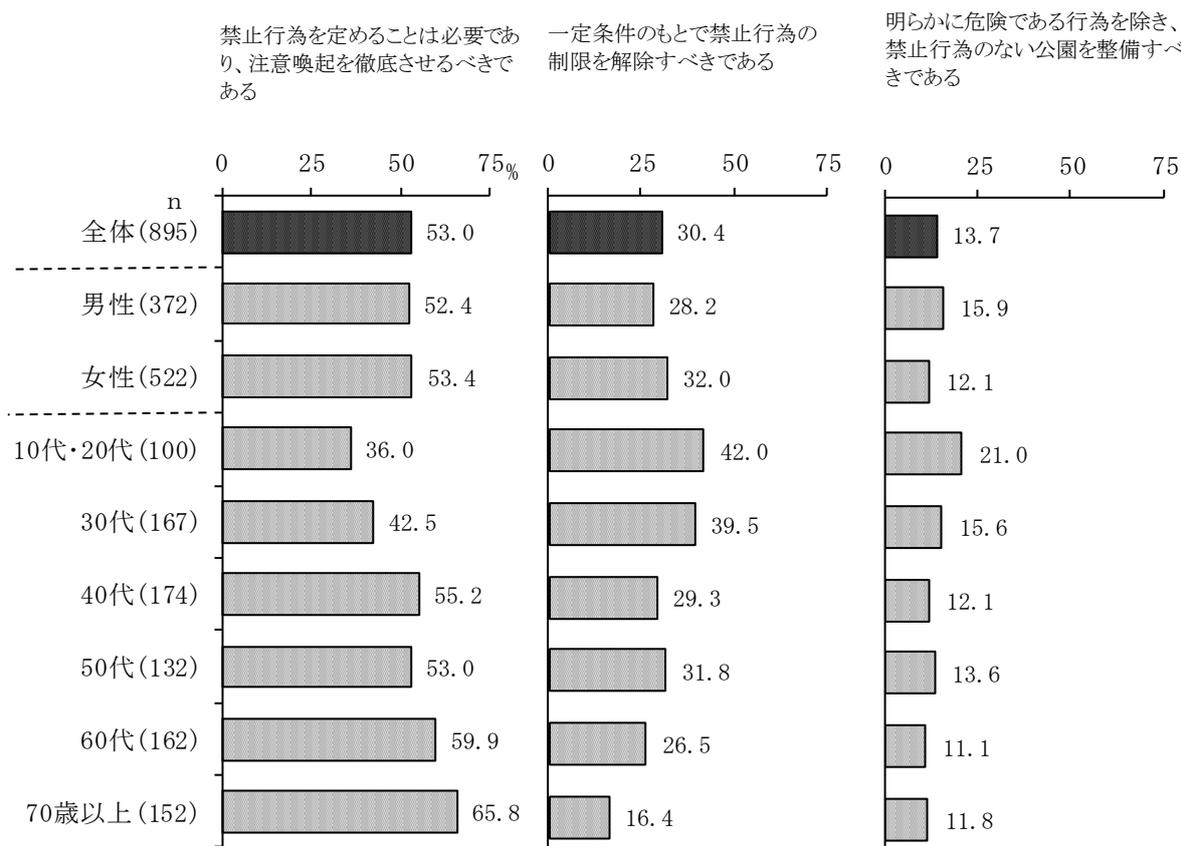
問8	問1で説明した制札板（マナーボード）の他に、園内の至る所へ禁止看板が設置されています。禁止行為の周知を利用者へ徹底することを目的としていますが、同時に公園の景観を損ねていることは否定できません。また、公園の巡回時以外の時間では、禁止行為が行われていることも確かで、禁止看板の効果は確実ではありません。本来、公園の利用者がモラルを持って、公園を利用していただければ、禁止行為を掲示もしくは禁止行為を設定する必要はないものと考えられます。 今後の公園での禁止行為のあり方について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。	
		(n=895)
1	多くの人が利用する公共の場の公園では、禁止行為を定めることは必要であり、注意喚起を徹底させるべきである	53.0%
2	公園利用者のニーズに適った球技や犬の散歩などは、一定条件のもとで禁止行為の制限を解除すべきである	30.4
3	明らかに危険である行為を除き、禁止行為を定めず、公園利用者のモラルと自己責任のもと、禁止行為のない公園を整備すべきである	13.7
4	その他	2.3
	無回答	0.8

図1-1-23 今後の禁止行為のあり方について



今後の禁止行為のあり方について聞いたところ、「多くの人が利用する公共の場の公園では、禁止行為を定めることは必要であり、注意喚起を徹底させるべきである」（53.0%）が5割台半ば近くで最も高く、「公園利用者のニーズに適った球技や犬の散歩などは、一定条件のもとで禁止行為の制限を解除すべきである」（30.4%）が約3割で続いている。（図1-1-23）

図1-1-24 今後の禁止行為のあり方について（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「多くの人が利用する公共の場の公園では、禁止行為を定めることは必要であり、注意喚起を徹底させるべきである」では、70歳以上（65.8%）が6割台半ばと最も高く、全体（53.0%）を12.8ポイント上回っている。60代（59.9%）では6割弱となっており、40代（55.2%）、50代（53.0%）でも5割を超えている。一方、10代・20代（36.0%）では3割代半ばを超え、30代（42.5%）が4割強となっており、年代が上がるにつれて高い割合を示す傾向がみられる。

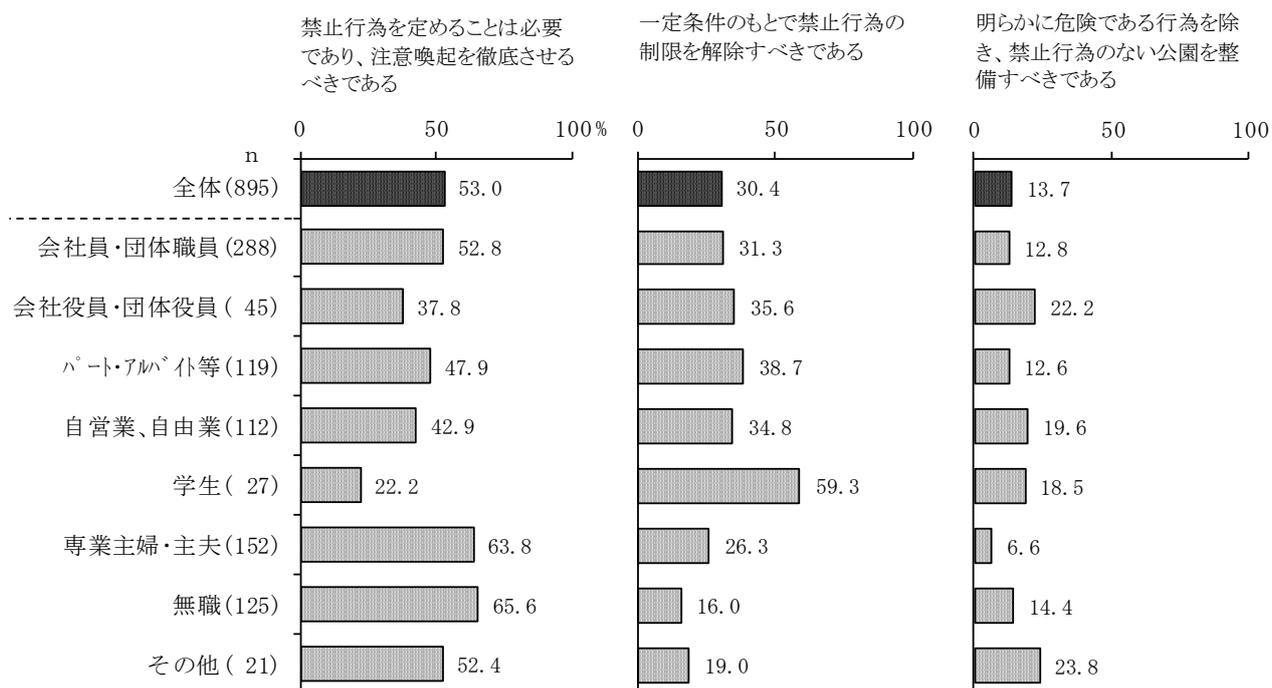
「公園利用者のニーズに適った球技や犬の散歩などは、一定条件のもとで禁止行為の制限を解除すべきである」では、10代・20代（42.0%）が4割強、30代（39.5%）が4割弱となっている。一方、60代（26.5%）、70歳以上（16.4%）では全体（30.4%）より低く、年代が上がるにつれて低い割合を示す傾向がみられる。

「明らかに危険である行為を除き、禁止行為を定めず、公園利用者のモラルと自己責任のもと、禁止行為のない公園を整備すべきである」では、10代・20代（21.0%）が2割強となっている。

（図1-1-24）

II 調査の結果 第1回（テーマ1 公園利用者のマナーについて）

図1-1-25 今後の禁止行為のあり方について（職業別）



職業別でみると、「多くの人を利用する公共の場の公園では、禁止行為を定めることは必要であり、注意喚起を徹底させるべきである」では、無職 (65.6%) が6割台半ば、専業主婦・主夫 (63.8%) が6割台半ば近くと、全体 (53.0%) と比べて1割ほど高くなっている。(図1-1-25)

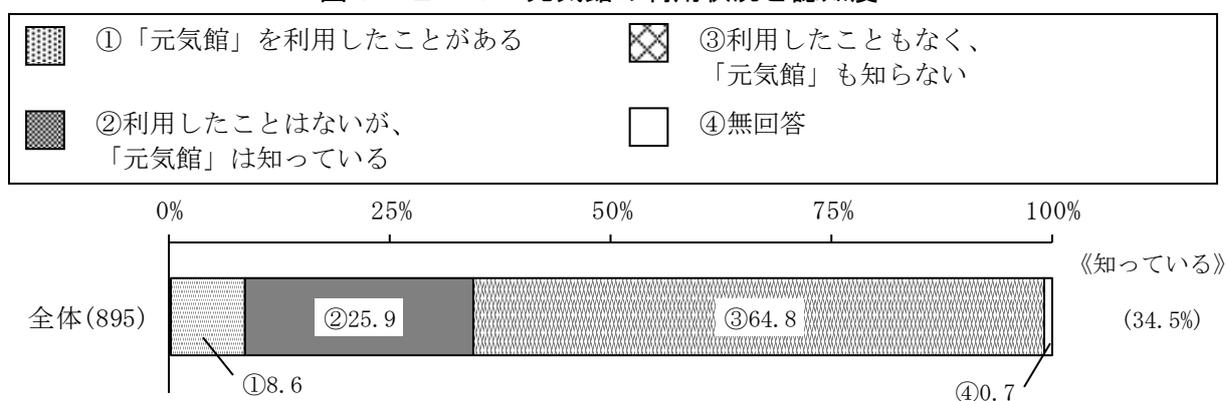
テーマ2 新宿区立元気館について

(1) 元気館の利用状況と認知度

◎ 「利用したこともなく、元気館も知らない」が6割台半ば近く

問9 新宿区の健康増進・集会施設「元気館」をご存じですか。また、利用したことはありますか。		(n=895)
1	「元気館」を利用したことがある	8.6%
2	利用したことはないが、「元気館」は知っている	25.9
3	利用したこともなく、「元気館」も知らない	64.8
4	無回答	0.7

図1-2-1 元気館の利用状況と認知度

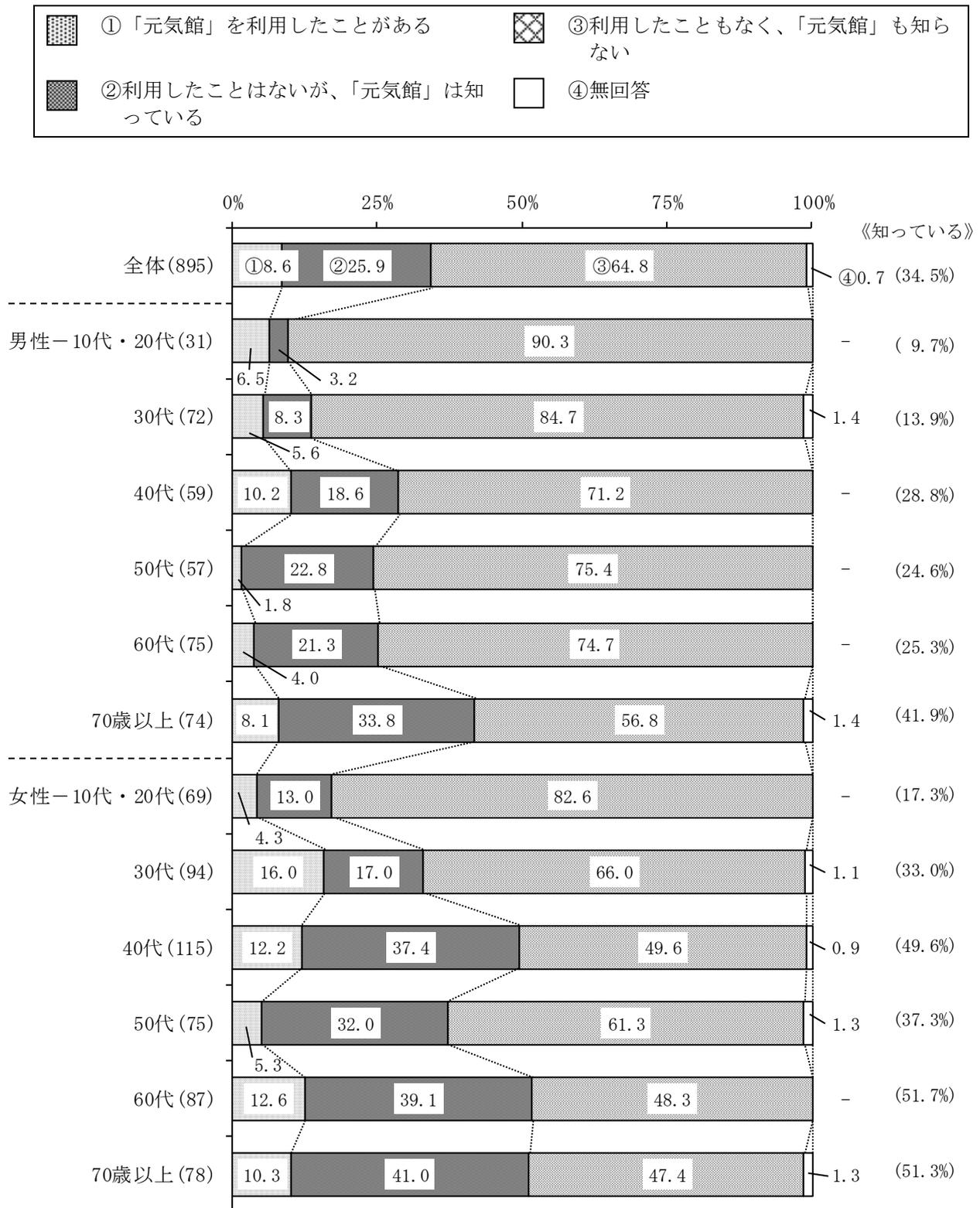


元気館の利用状況と認知度について聞いたところ、「利用したこともなく、元気館も知らない」(64.8%)が6割台半ば近くと最も高く、以下「利用したことはないが、元気館は知っている」(25.9%)が2割台半ば、「元気館を利用したことがある」(8.6%)の順となっている。

「元気館を利用したことがある」と「利用したことはないが元気館を知っている」を合わせた《知っている》(34.5%)は3割台半ば近くとなっている。(図1-2-1)

II 調査の結果 第1回 (テーマ2 新宿区立元気館について)

図1-2-2 元気館の利用状況と認知度 (性別・年代別)



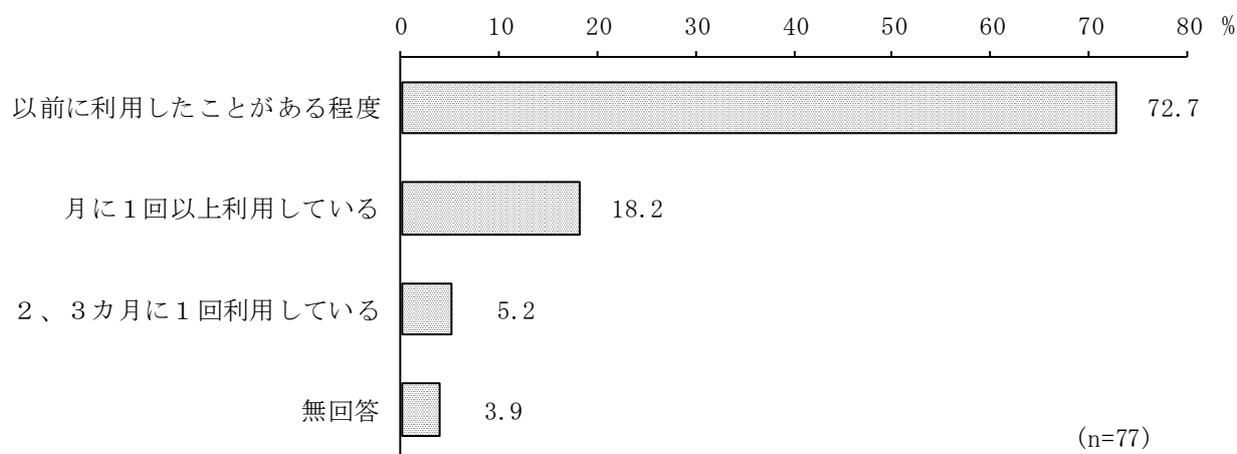
性別・年代別でみると、「知らなかった」では、男女ともに10代・20代で最も高く、男性(90.3%)は約9割、女性(82.6%)は8割強となっている。「元気館を利用したことがある」と、「利用したことはないが、元気館を知っている」を合わせた《知っている》は、男女ともに年代が上がるにつれて高い割合を示す傾向が見られる。(図1-2-2)

(2) 元気館の利用頻度

◎ 「以前に利用したことがある程度」が7割強

問9-1 問9で、【1. 「元気館」を利用したことがある】の方 元気館をどのくらい利用していますか。(n=77)		
1	月に1回以上利用している	18.2%
2	2、3カ月に1回利用している	5.2
3	以前に利用したことがある程度	72.7
4	無回答	3.9

図1-2-3 元気館の利用頻度



問9で、「元気館を利用したことがある」と答えた方に利用頻度を聞いたところ、「以前に利用したことがある程度」(72.7%)が7割強で最も高く、以下、「月に1回以上利用している」(18.2%)、「2、3カ月に1回利用している」(5.2%)の順となっている。(図1-2-3)

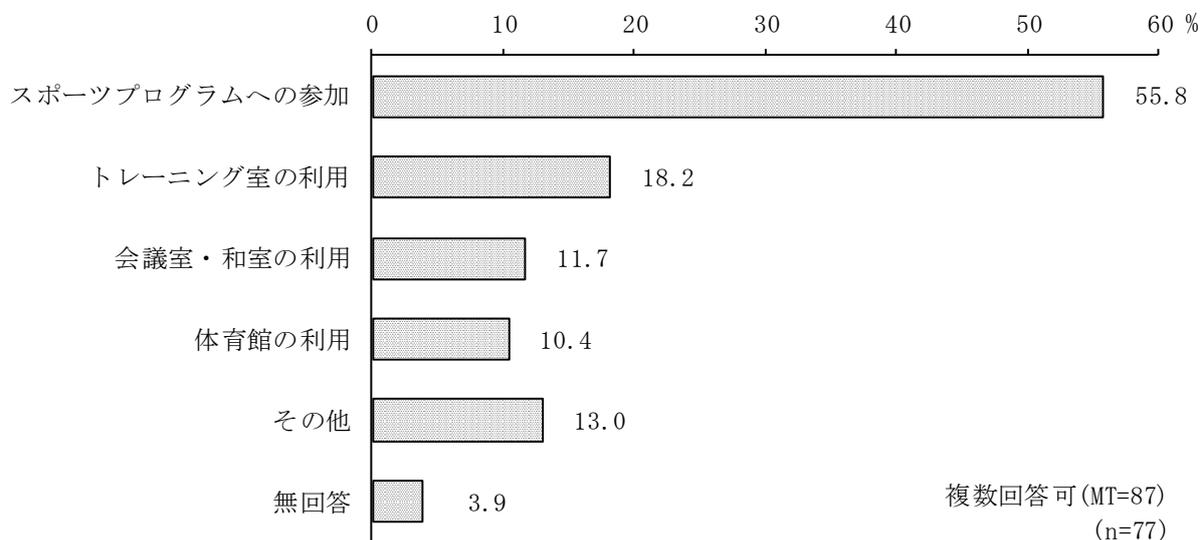
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ2 新宿区立元気館について）

（3）元気館の利用目的

◎「スポーツプログラムへの参加」が5割台半ば

問9-2 問9で、【1.「元気館」を利用したことがある】の方 元気館をどのような目的で利用しましたか。（複数回答可）（n=77）	
1 スポーツプログラムへの参加	55.8%
2 トレーニング室の利用	18.2
3 体育館の利用	10.4
4 会議室・和室の利用	11.7
5 その他	13.0
無回答	3.9

図1-2-4 元気館の利用頻度



問9で、「元気館を利用したことがある」と答えた方に、どのような目的で利用したかを聞いたところ、「スポーツプログラムへの参加」(55.8%)が5割台半ばで最も高く、以下トレーニング室の利用(18.2%)、「会議室・和室の利用」(11.7%)、「体育館の利用」(10.4%)の順となっている。

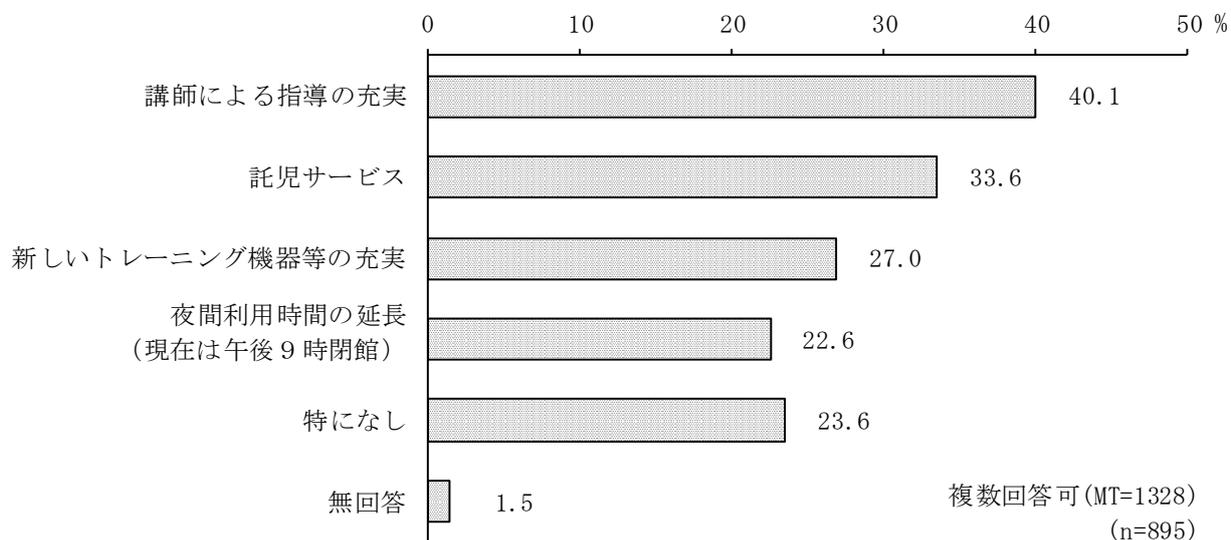
(図1-2-4)

(4) 健康増進・集会施設に望むサービス

◎「講師による指導の充実」が約4割

問10 健康増進・集会施設にどのようなサービスがあればよいと思いますか。		(複数回答可) (n=895)
1	託児サービス	33.6%
2	夜間利用時間の延長 (現在は午後9時閉館)	22.6
3	講師による指導の充実	40.1
4	新しいトレーニング機器等の充実	27.0
5	特になし	23.6
	無回答	1.5

図1-2-5 健康増進・集会施設に望むサービス

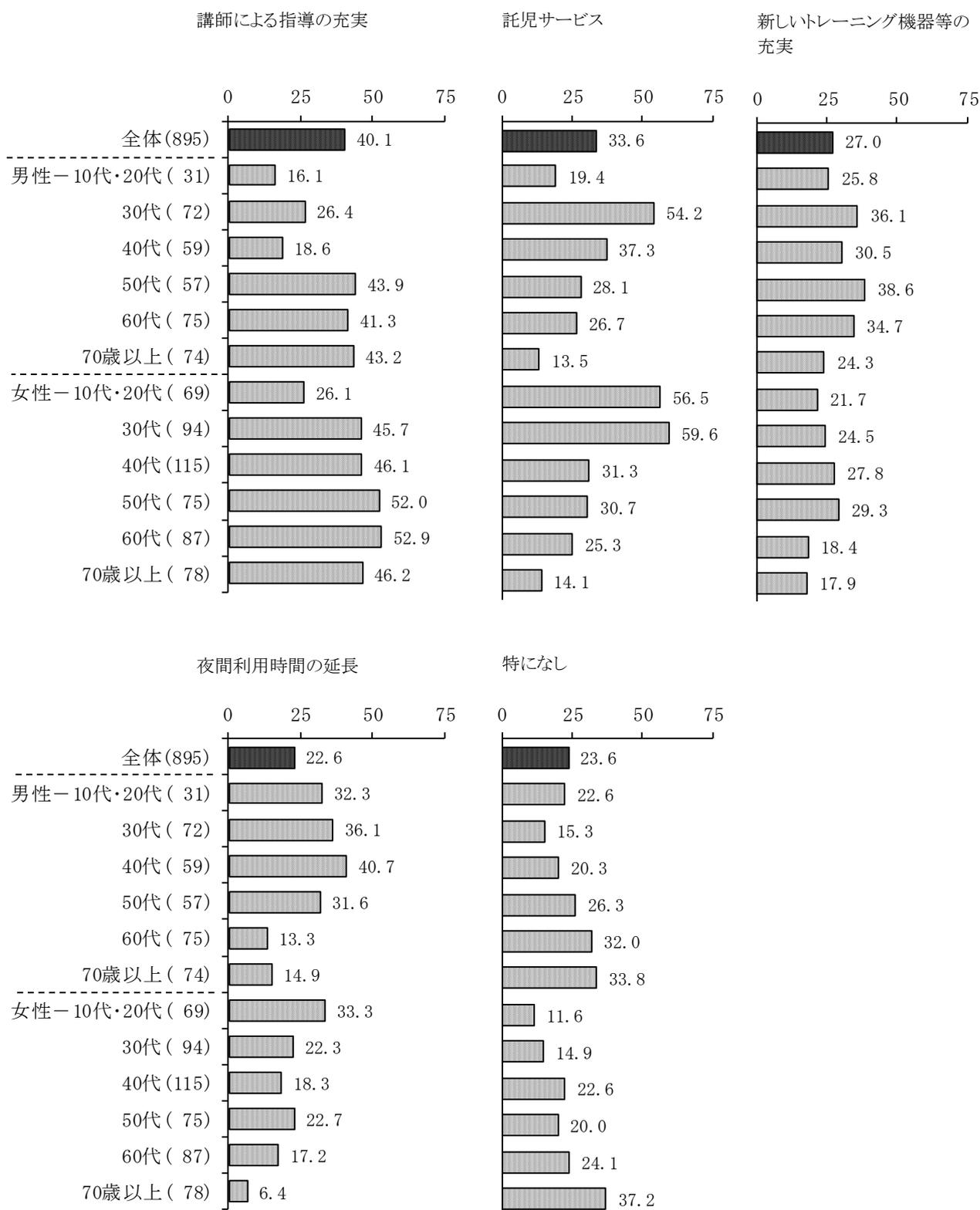


健康増進・集会施設に望むサービスを聞いたところ、「講師による指導の充実」(40.1%)が約4割で最も高く、以下、「託児サービス」(33.6%)、「新しいトレーニング機器の充実」(27.0%)、「夜間利用時間の延長」(22.6%)の順となっている。

「特になし」(23.6%)は2割台半ば近くとなっている。(図1-2-5)

II 調査の結果 第1回 (テーマ2 新宿区立元気館について)

図1-2-6 健康増進・集会施設に望むサービス (性別・年代別)



性別・年代別でみると、「講師による指導の充実」では、女性の50代(52.0%)、60代(52.9%)で5割を超え、全体より1割ほど高い。

「託児サービス」で、女性の30代(59.6%)が6割弱、女性の10代・20代(56.5%)で5割半ばを超え、男性の30代(54.2%)が5割台半ば近くと、全体(33.6%)より2割ほど高くなっている。(図1-2-6)

テーマ3 男女共同参画に関する意識について

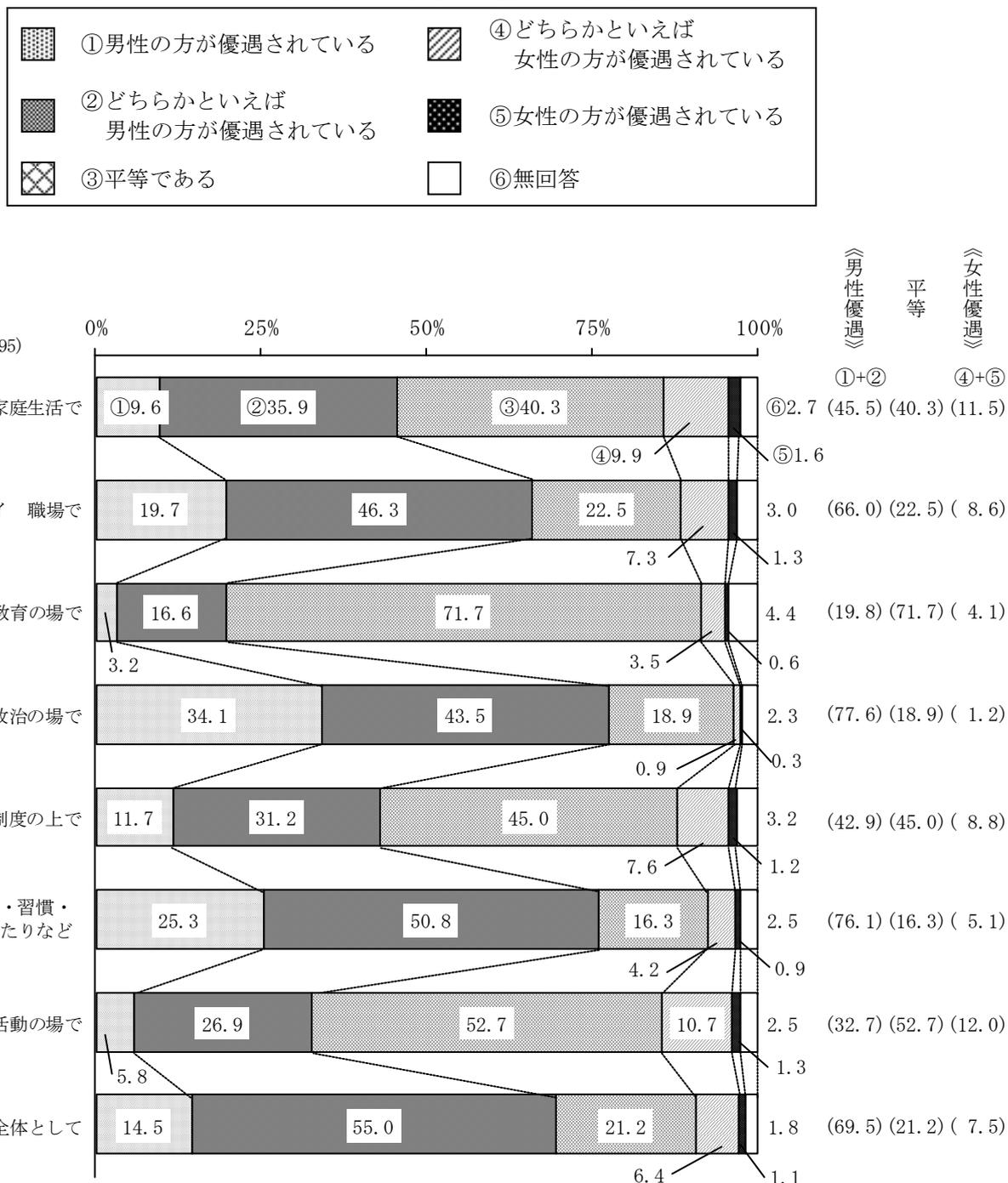
(1) さまざまな分野での男女平等意識について

◎「平等である」は、『学校教育の場』で7割強

問11 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。(n=895)						
	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	無回答
ア 家庭生活上で	9.6%	35.9%	40.3%	9.9%	1.6%	2.7%
イ 職場で	19.7	46.3	22.5	7.3	1.3	3.0
ウ 学校教育の場で	3.2	16.6	71.7	3.5	0.6	4.4
エ 政治の場で	34.1	43.5	18.9	0.9	0.3	2.3
オ 法律や制度の上で	11.7	31.2	45.0	7.6	1.2	3.2
カ 社会通念・習慣・しきたりなど	25.3	50.8	16.3	4.2	0.9	2.5
キ 地域活動の場で	5.8	26.9	52.7	10.7	1.3	2.5
ク 社会全体として	14.5	55.0	21.2	6.4	1.1	1.8

Ⅱ 調査の結果 第1回 (テーマ3 男女共同参画に関する意識について)

図1-3-1 さまざまな分野での男女平等意識について



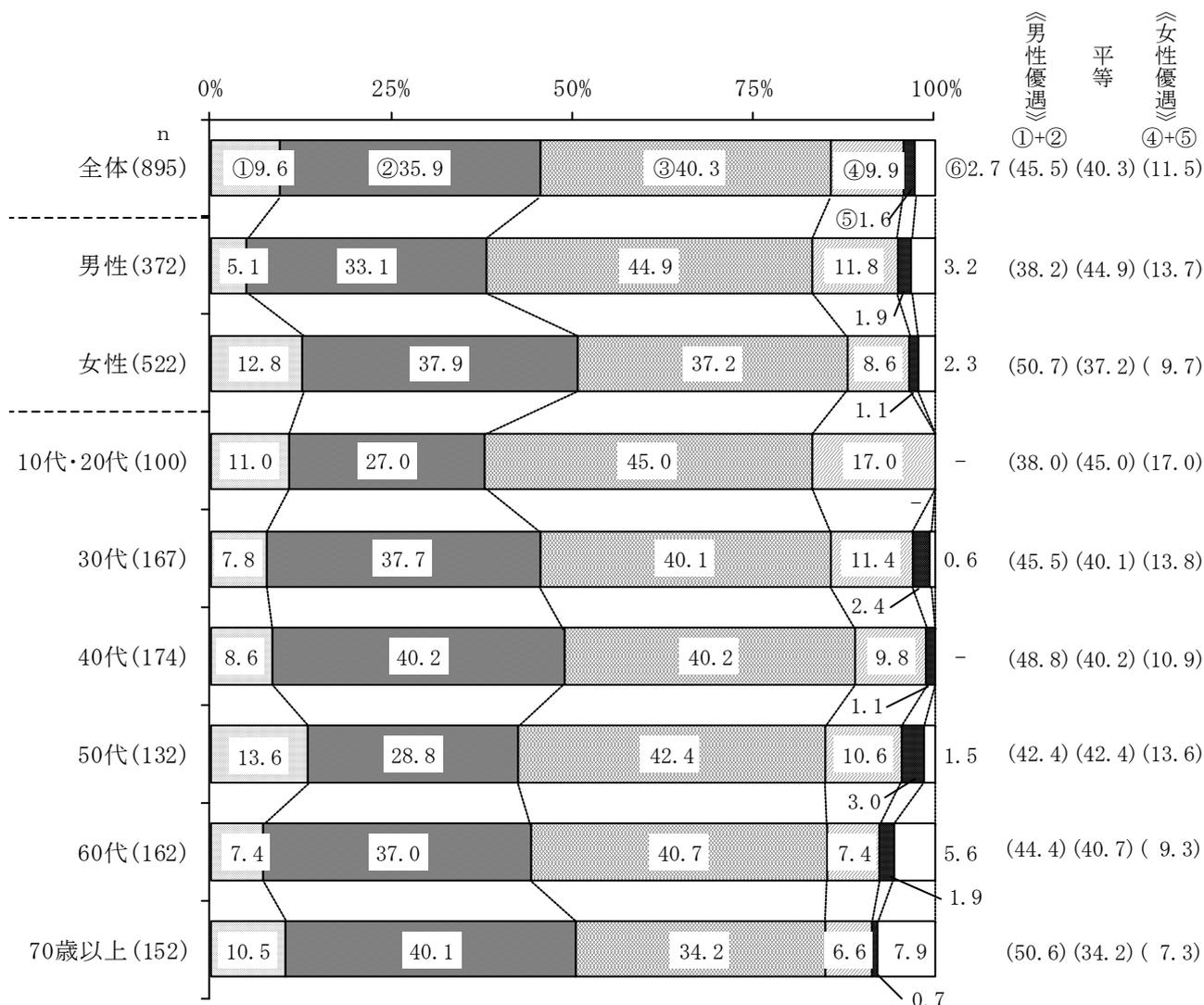
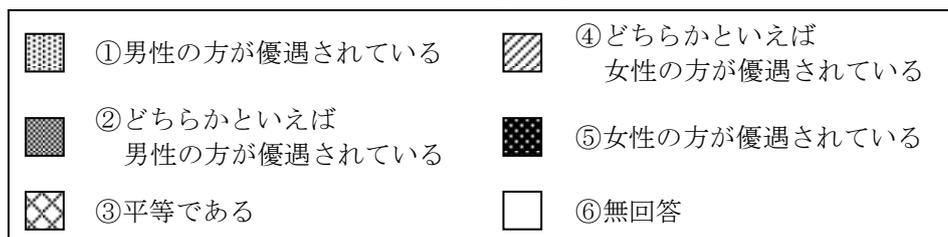
さまざまな分野で男女平等意識について、「平等である」は『学校教育の場で』(71.7%)が7割強と最も高くなっている。

「男性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、『政治の場で』(77.6%)が最も高く、『社会通念・習慣・しきたりなど』(76.1%)とともに7割台半ばを超えている。

「女性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた《女性優遇》は、『地域活動の場で』(12.0%)が最も高く、『家庭生活上で』(11.5%)とともに1割強となっている。(図1-3-1)

図1-3-2 さまざまな分野での男女平等意識について（性別・年代別）

ア 家庭生活で



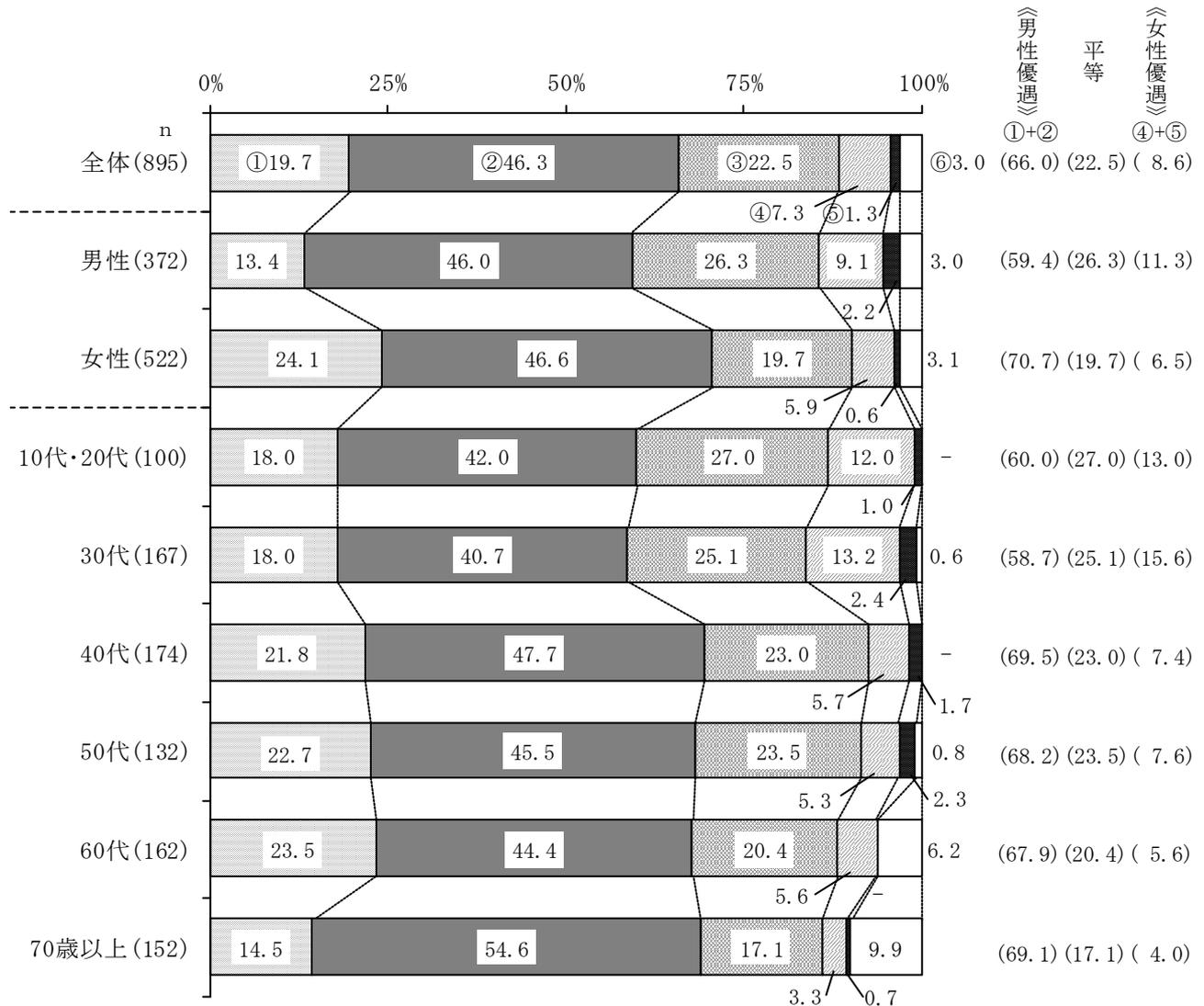
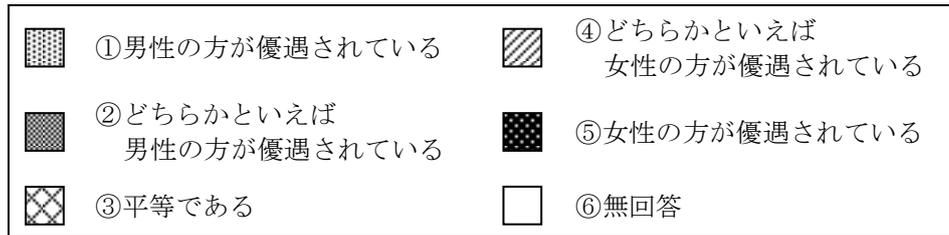
『家庭生活』では、性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、女性（50.7%）が約5割で、男性（38.2%）を12.5ポイント上回っている。

年代別では、70歳以上の《男性優遇》（50.7%）が約5割で最も高く、10代・20代（38.0%）で最も低く、その差は12.6ポイントとなっている。（図1-3-2）

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-3 さまざまな分野での男女平等意識について（性別・年代別）

イ 職場で

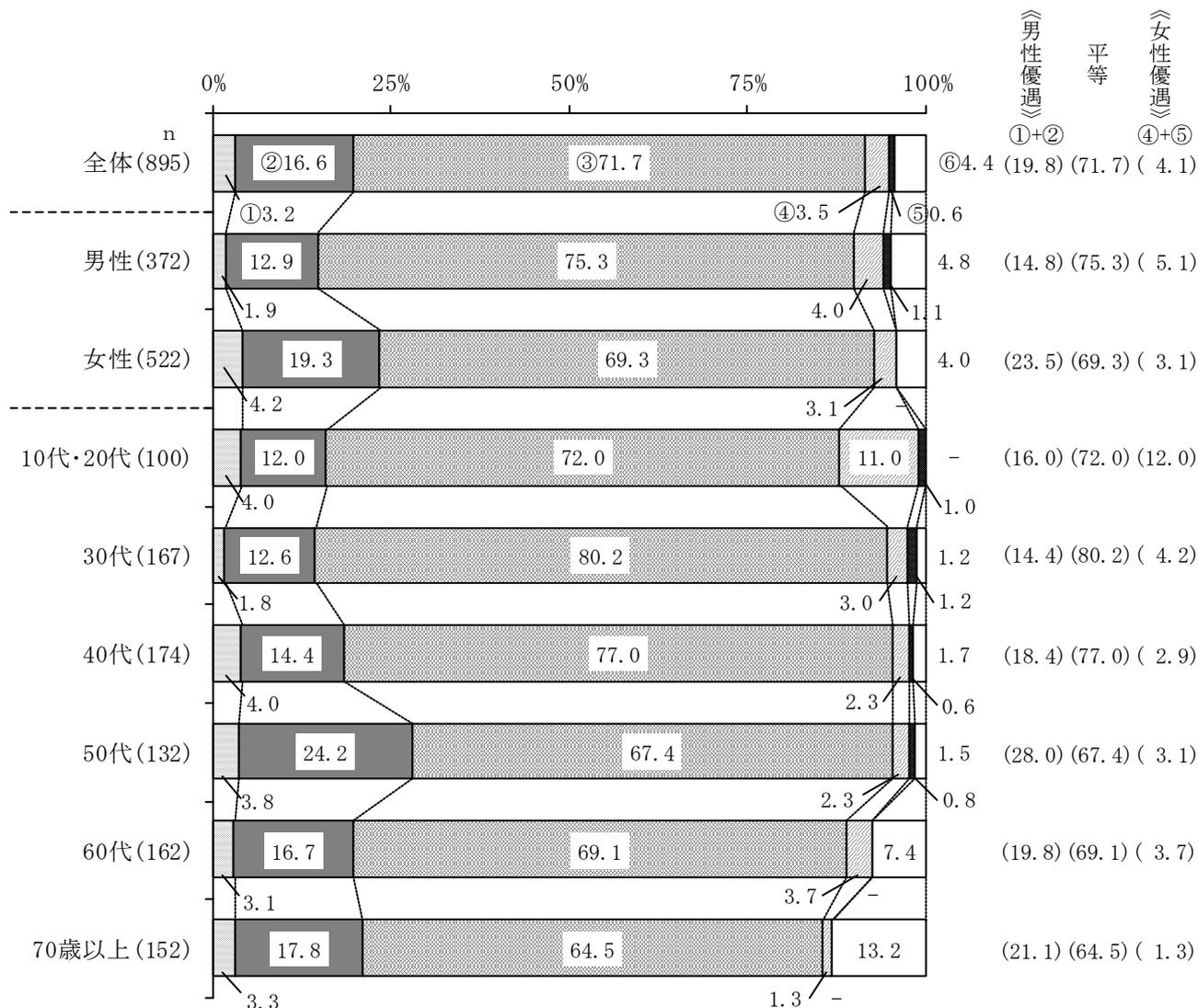
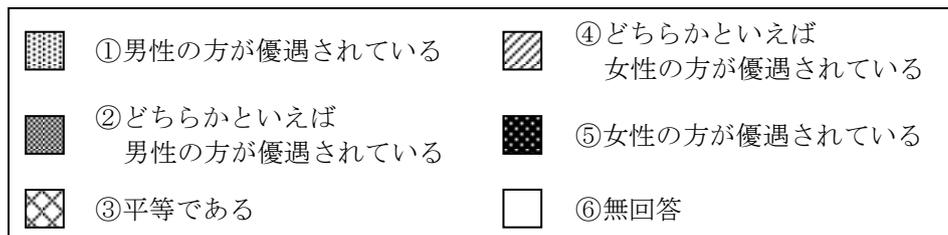


『職場』では、性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、女性（70.7%）が約7割で、男性（59.4%）を11.3ポイント上回っている。

年代別では、40代の《男性優遇》(69.5%)が7割弱で最も高く、70歳以上(69.1%)、50代(68.2%)、60代(67.9%)でも6割台後半となっている。(図1-3-3)

図1-3-4 さまざまな分野での男女平等意識について（性別・年代別）

ウ 学校教育の場で



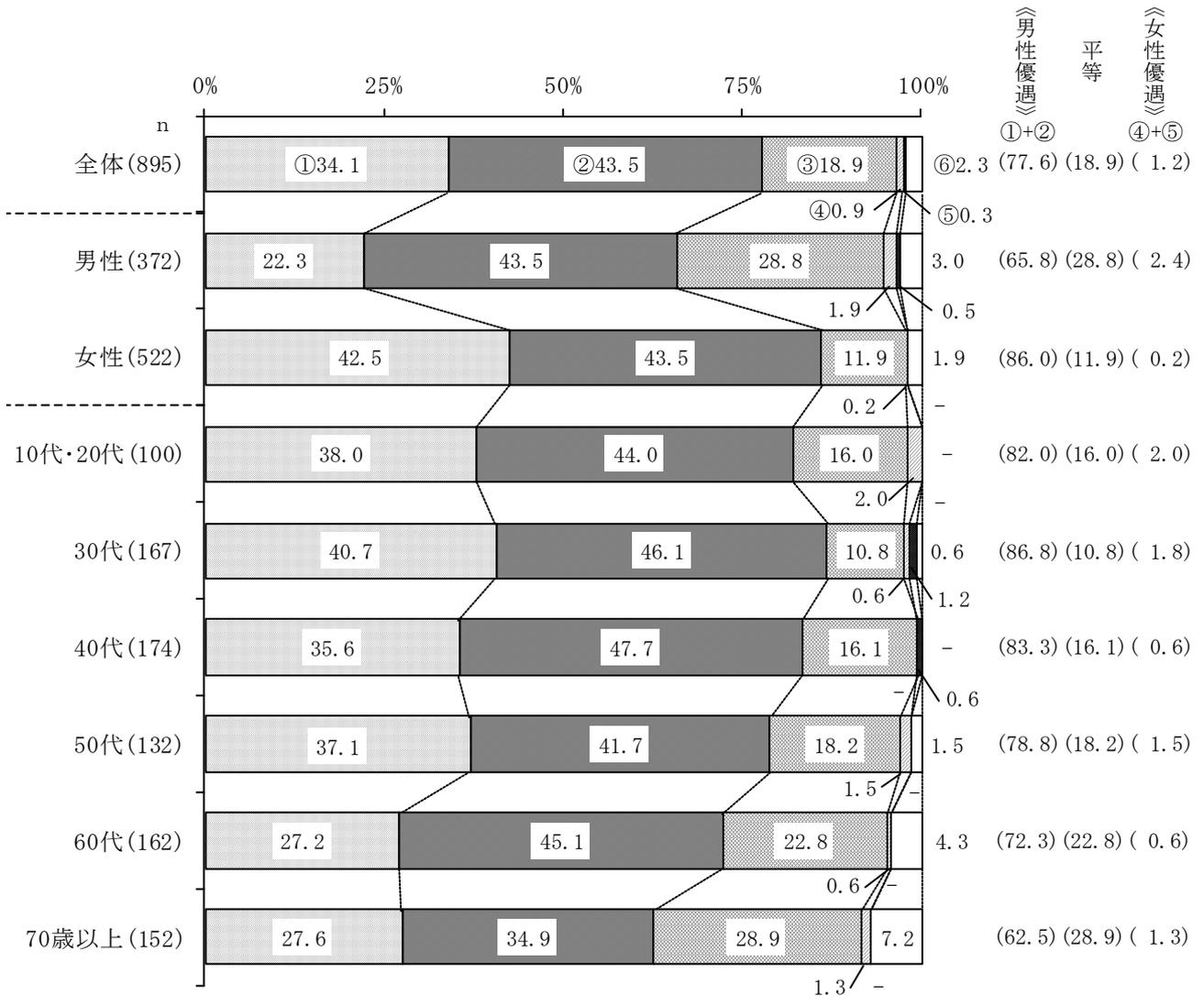
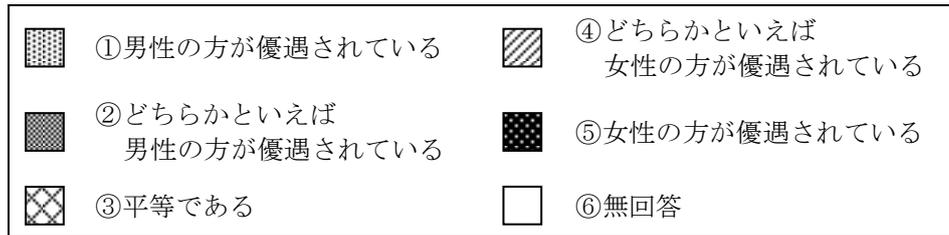
『学校教育』では、性別で見ると、「平等」が、男性（75.3%）で7割台半ば、女性（69.3%）で7割弱となっている。

年代別で見ると、「平等」では、30代（80.2%）で約8割と最も高く、40代（77.0%）、10代・20代（72.0%）でも7割を超えている。（図1-3-4）

II 調査の結果 第1回 (テーマ3 男女共同参画に関する意識について)

図1-3-5 さまざまな分野での男女平等意識について (性別・年代別)

エ 政治の場で

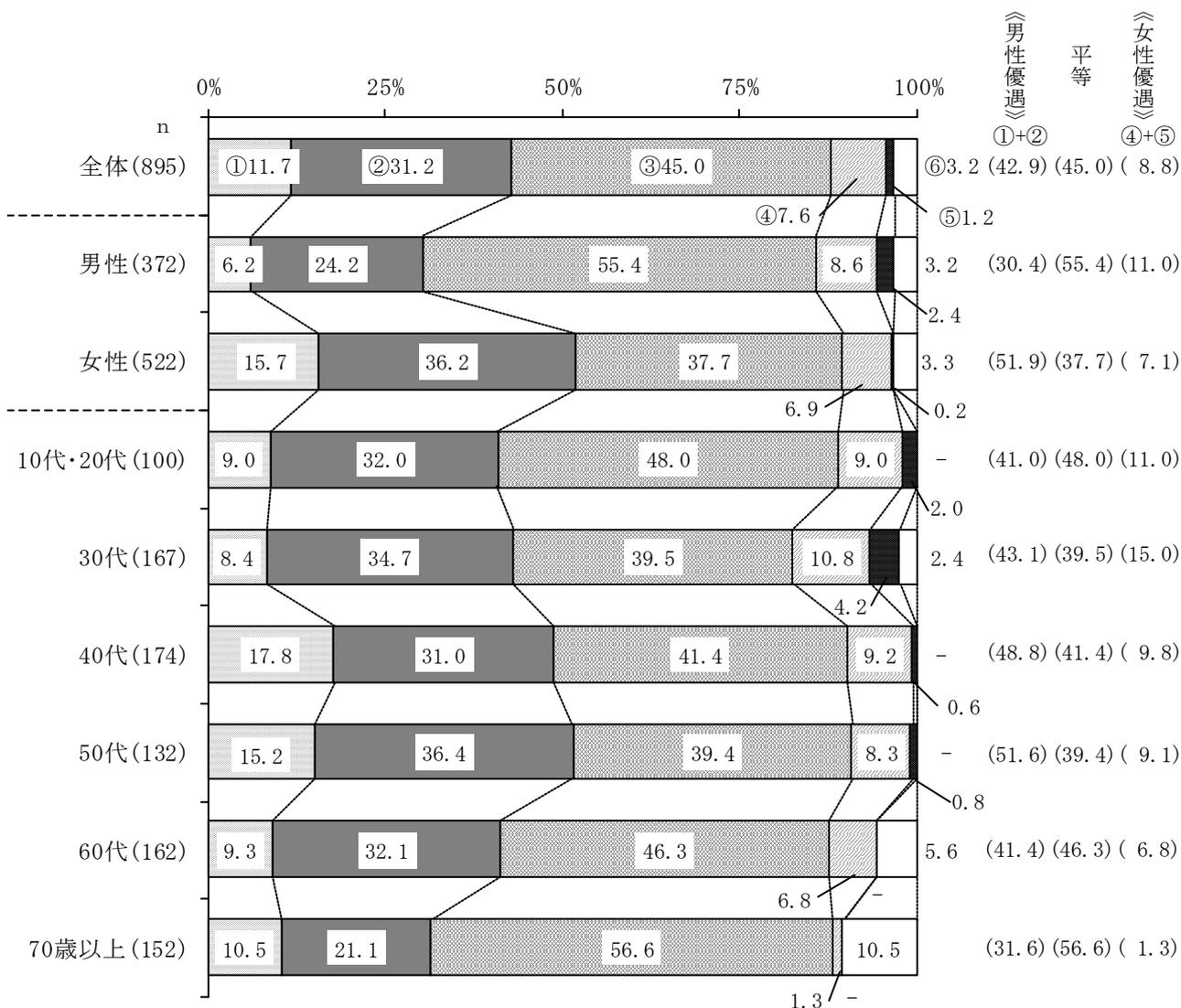
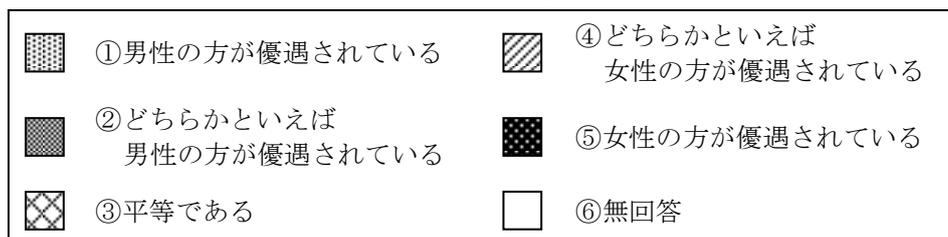


『政治』では、性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》が、女性（86.0%）で8割台半ばを超え、男性（65.8%）を20.2ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は、30代（86.8%）で8割台半ばを超え最も高く、40代（83.3%）、10代・20代（82.0%）とともに8割を超えている。70歳以上（62.5%）は6割強と、他の年代に比べて1割から2割ほど低くなっている。（図1-3-5）

図1-3-6 さまざまな分野での男女平等意識について（性別・年代別）

オ 法律や制度の上で

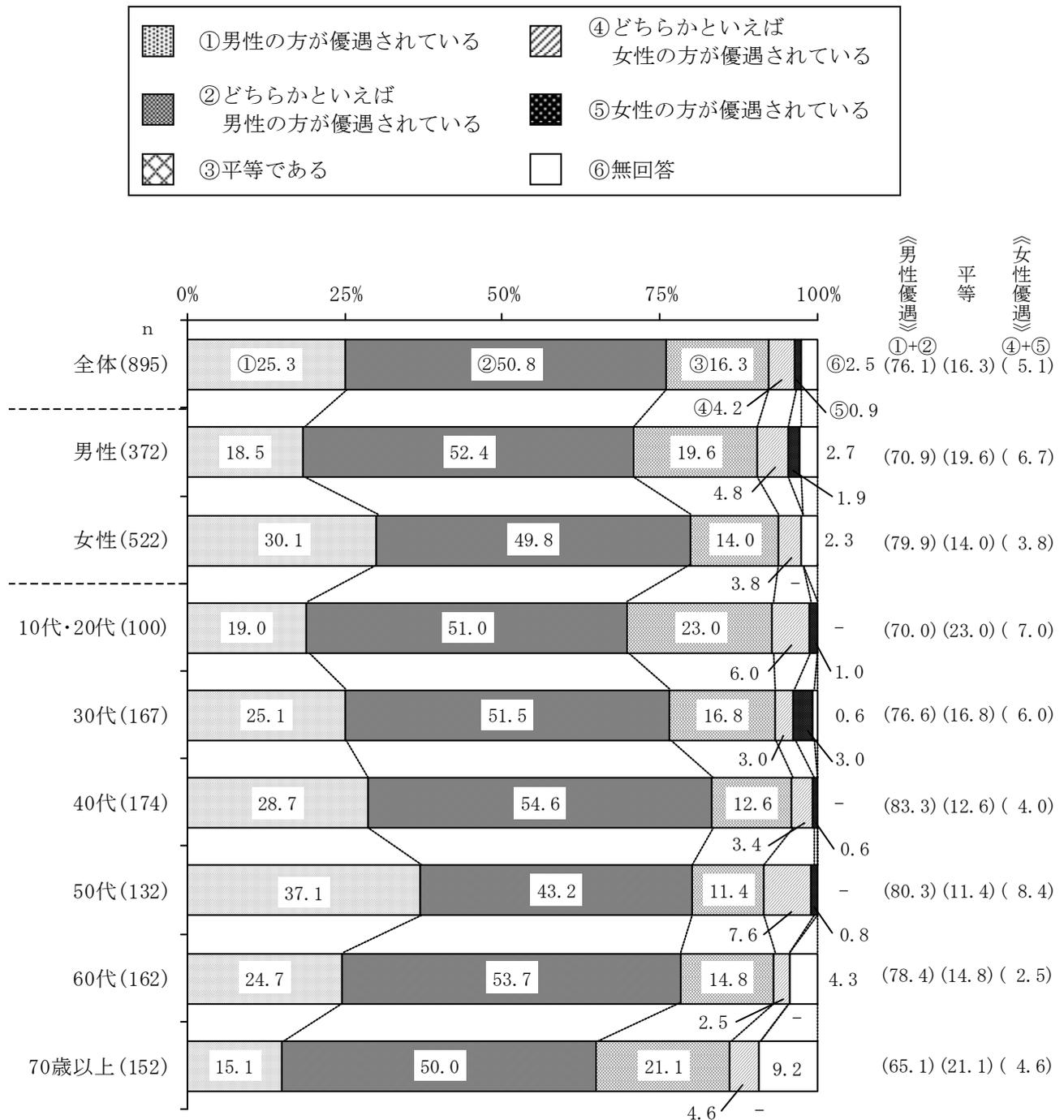


『法律や制度の上』では、性別で見ると、「平等」が男性（55.4%）で5割台半ばで、女性（37.7%）を17.7ポイント上回っている。

年代別にみると、「平等」では、70歳以上（56.6%）が5割台半ばを超え最も高くなっている。「男性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、50代（51.6%）で5割強となっており、全体（42.9%）を8.7ポイント上回っている。（図1-3-6）

II 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-7 さまざまな分野での男女平等意識について（性別・年代別）
カ 社会通念・習慣・しきたりなど

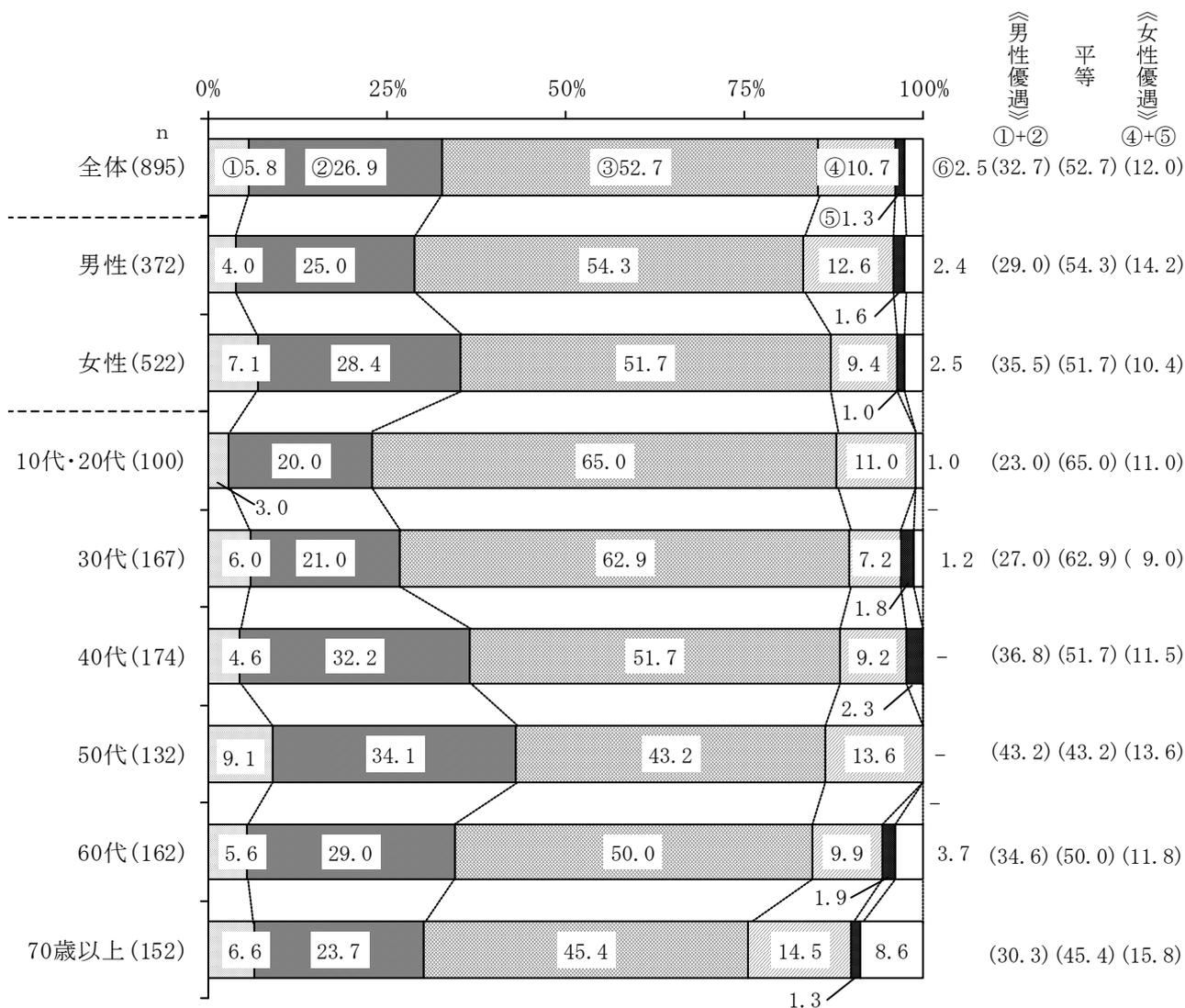
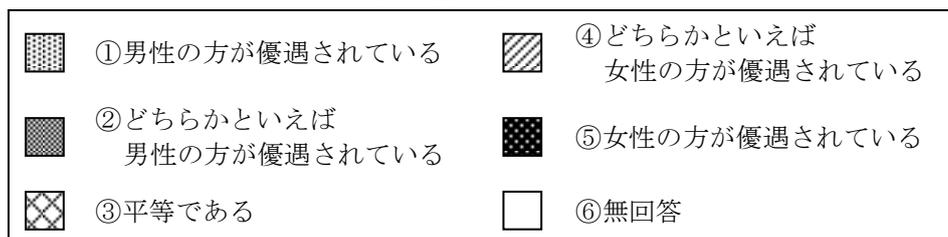


『社会通念・習慣・しきたりなど』では、性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、女性（79.9%）が8割弱で、男性（70.9%）を9.0ポイント上回っている。

年代別にみると、《男性優遇》は、40代（83.3%）が8割台半ば近くと最も高く、50代（80.3%）とともに8割を超える。「平等」は、10代・20代（23.0%）で2割台半ば近く、70歳以上（21.1%）で2割強と、他の年代に比べてやや高くなっている。（図1-3-7）

図1-3-8 さまざまな分野での男女平等意識について（性別・年代別）

キ 地域活動の場で

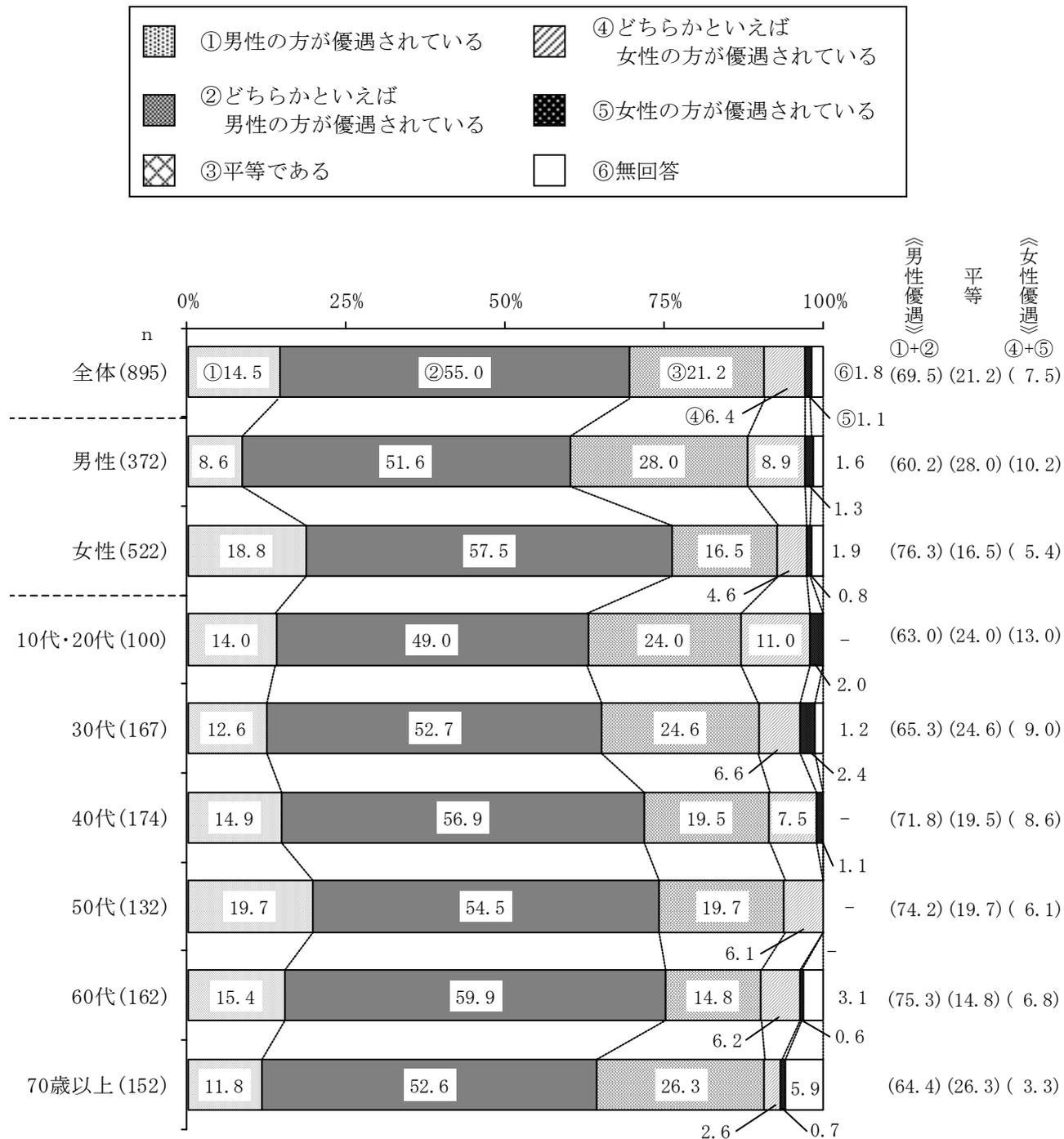


『地域活動』では、「平等」は、男性（54.3%）が5割台半ば近く、女性（51.7%）が5割強となっている。

年代別でみると、「平等」は、10代・20代（65.0%）で6割台半ばと最も高く、30代（62.9%）とともに6割を超えている。50代（43.2%）と70歳以上（45.4%）では4割台と、他の年代に比べてやや低くなっている。（図1-3-8）

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-9 さまざまな分野での男女平等意識について（性別・年代別）
ク 社会全体として

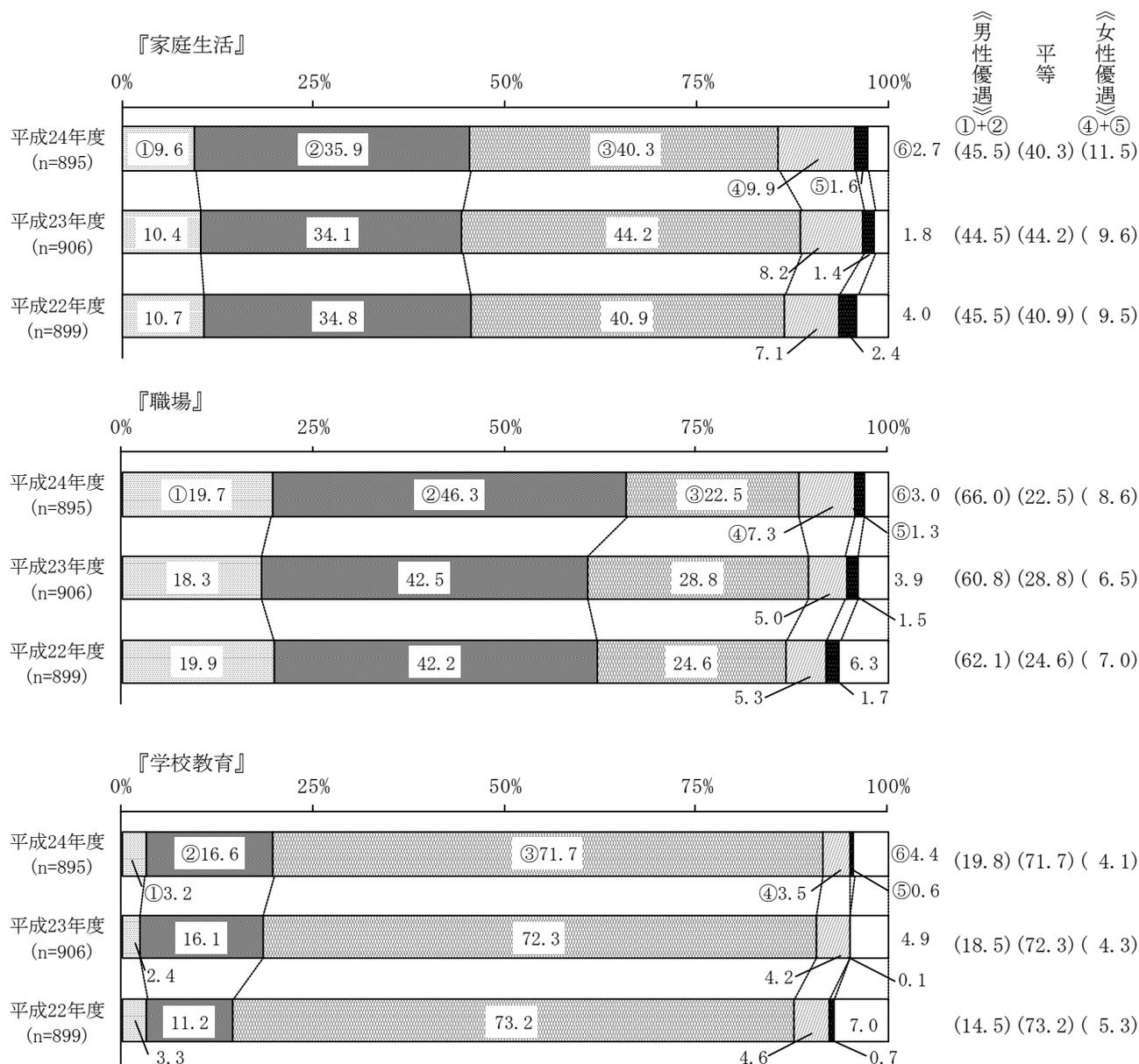
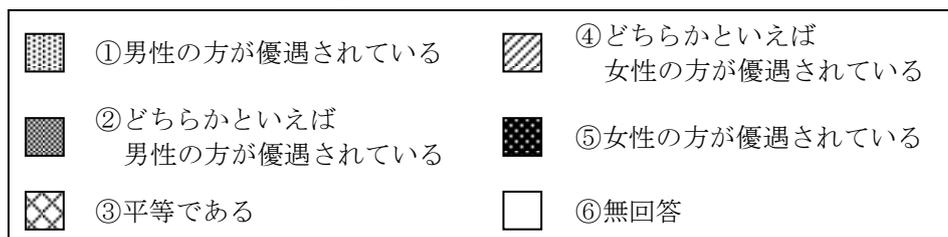


『社会全体として』では、性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、女性（76.3%）が7割台半ばを超え、男性（60.2%）を16.1ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は、60代（75.3%）で7割台半ばと最も高く、50代（74.2%）、40代（71.8%）とともに7割を超える。「平等」では、70歳以上（26.3%）で2割台半ばを超え、30代（24.6%）、10代・20代（24.0%）とともに2割を超えている。（図1-3-9）

図1-3-10 さまざまな分野での男女平等意識について（経年推移）

『家庭生活』・『職場』・『学校教育』

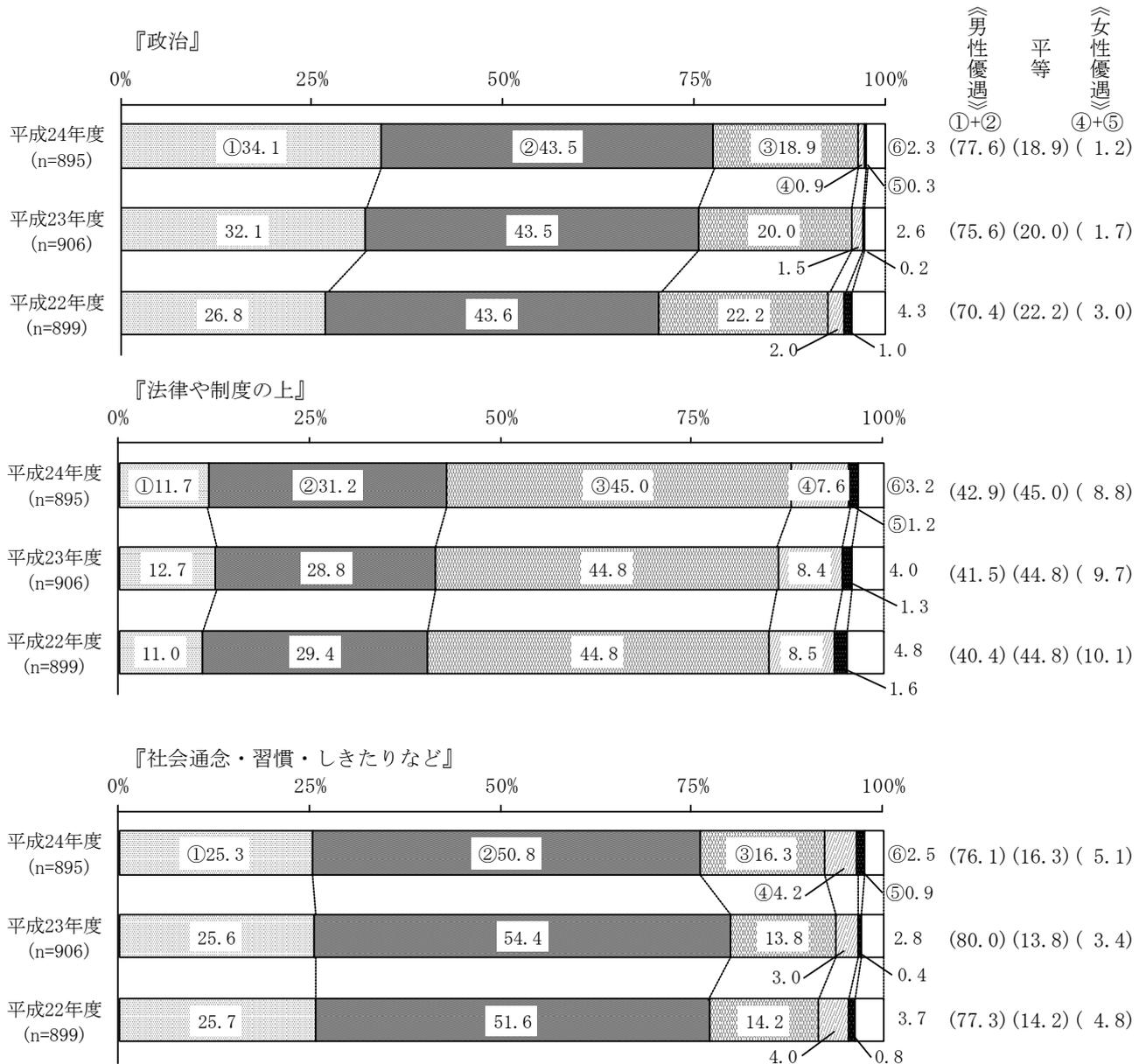
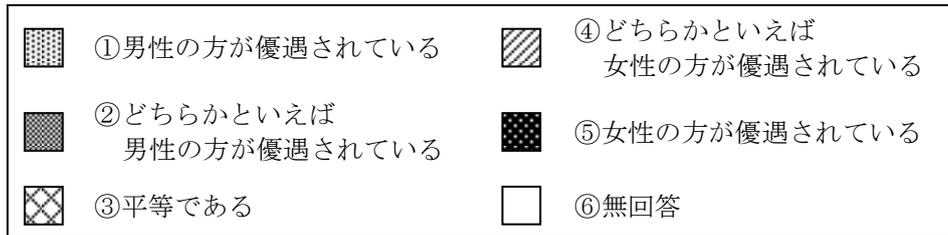


経年推移をみると、『家庭生活』、『職場』、『学校教育』ともに、過去3年間で同じような値を示している。(図1-3-10)

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-11 さまざまな分野での男女平等意識について（経年推移）

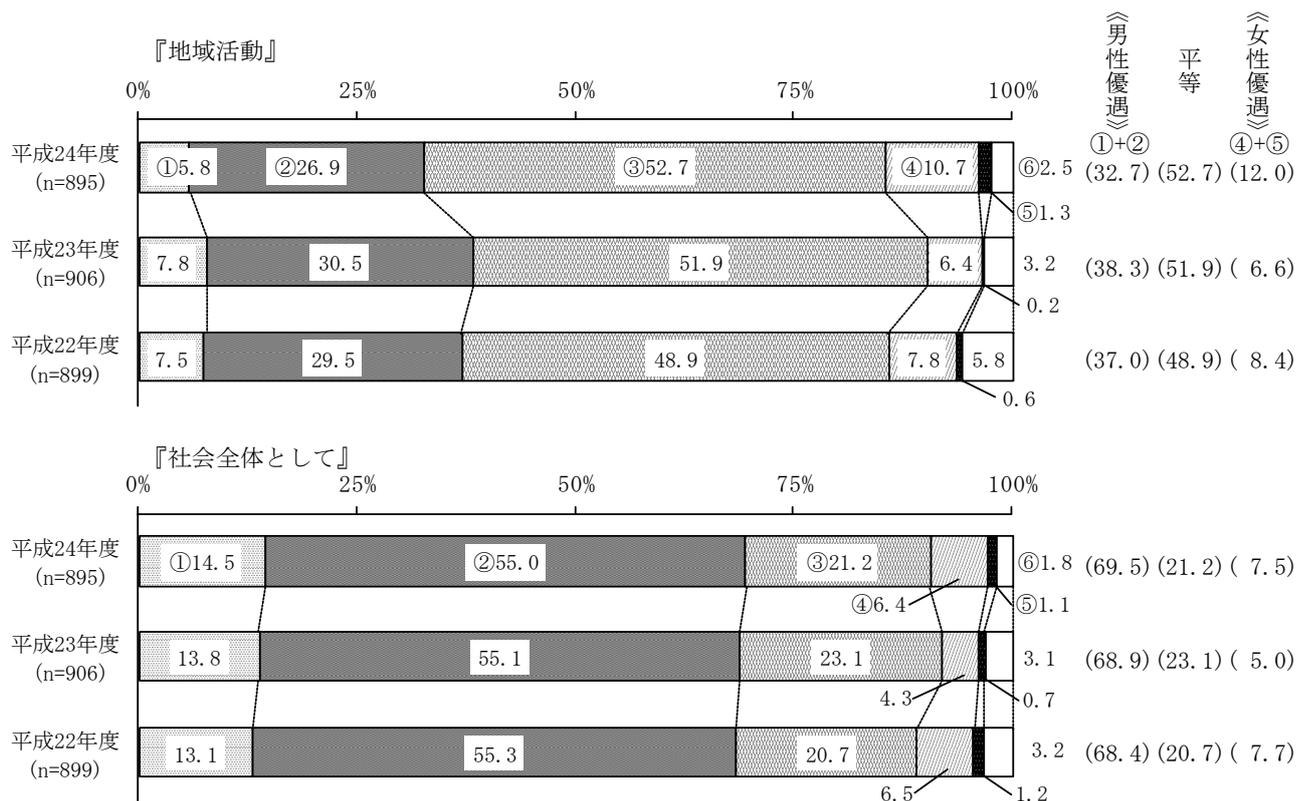
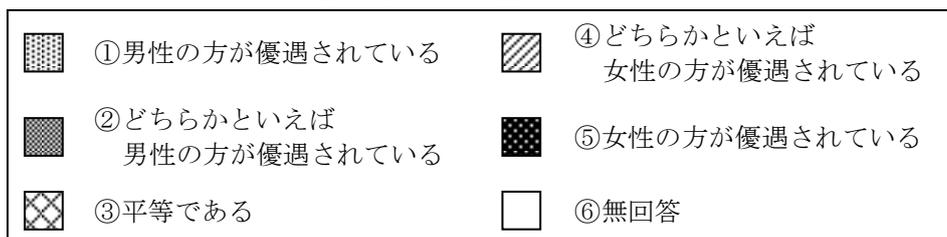
『政治』・『法律や制度の上』・『社会通念・習慣・しきたりなど』



経年推移をみると、『政治』では、「男性の方が優遇されている」と、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》が、平成24年度（77.6%）、平成23年度（75.6%）、平成22年度（70.4%）と、年を経るごとに高くなっており、平成24年度は平成22年度と比べ7.2ポイント上回っている。（図1-3-11）

図1-3-12 さまざまな分野での男女平等意識について（経年推移）

『地域活動』・『社会全体として』



経年推移をみると、『地域活動』では、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた《女性優遇》が、平成24年度(12.0%)で、平成23年度(6.6%)を5.4ポイント上回っている。(図1-3-12)

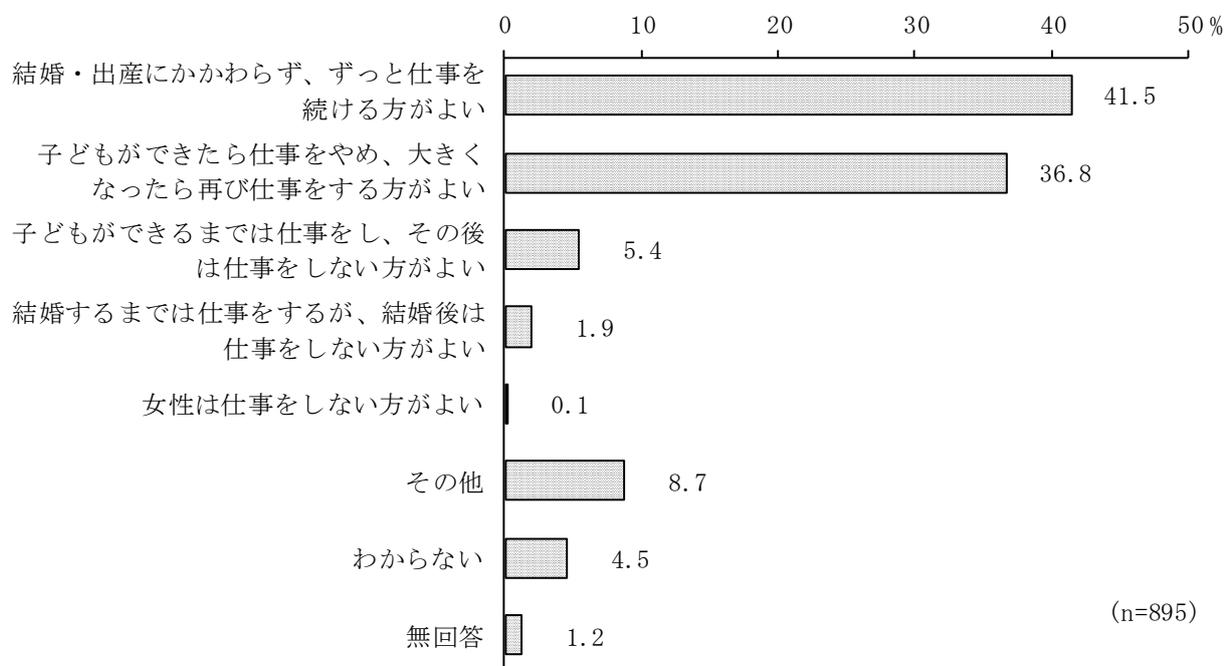
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

（2）女性が仕事を持つことについての考え方

◎「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が4割強

問12 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。（n=895）	
1 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい	41.5%
2 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい	36.8
3 子どもができるまでは仕事をし、その後は仕事をしない方がよい	5.4
4 結婚するまでは仕事をするが、結婚後は仕事をしない方がよい	1.9
5 女性は仕事をしない方がよい	0.1
6 その他	8.7
7 わからない	4.5
無回答	1.2

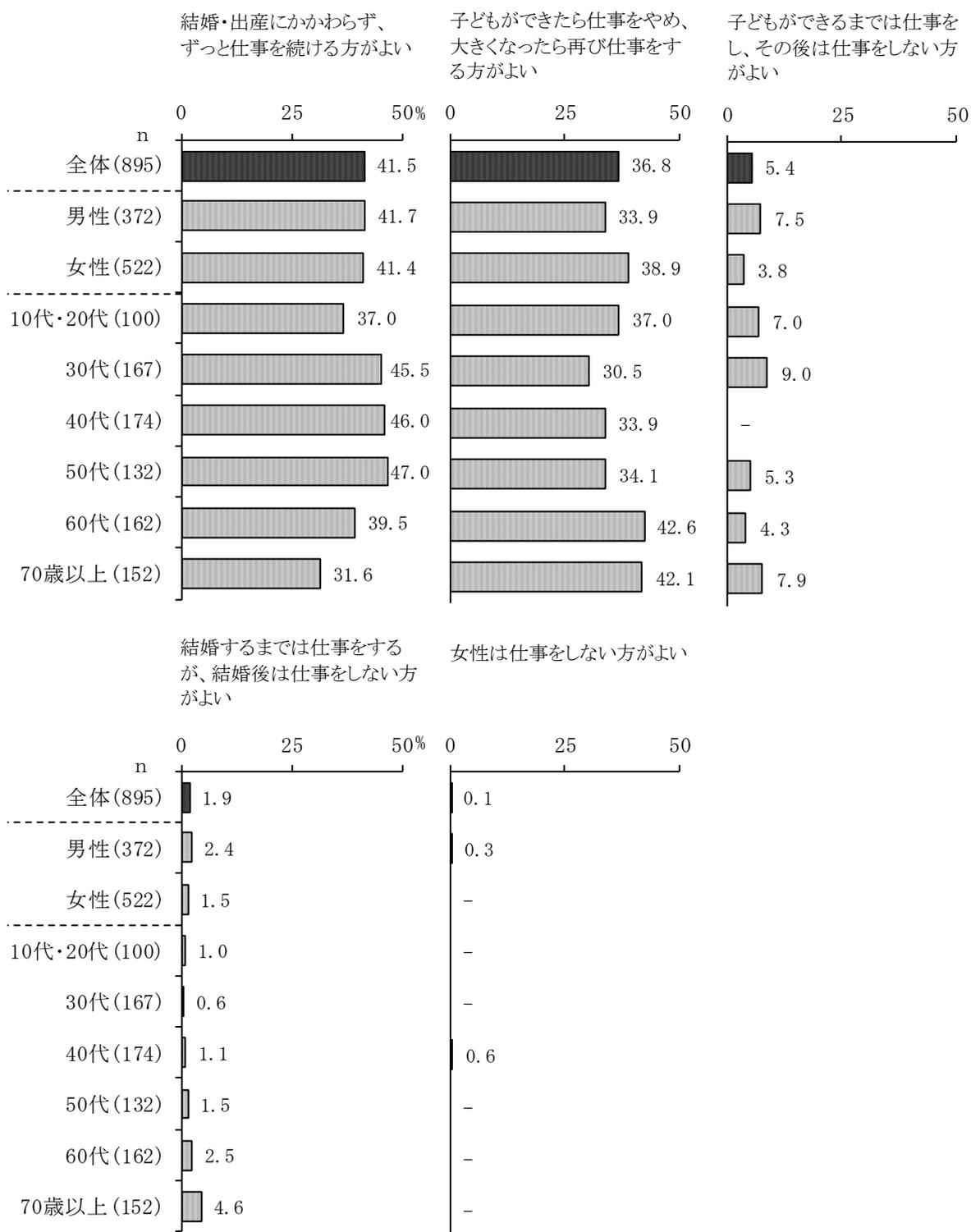
図1-3-13 女性が仕事をもつことについての考え方



女性が仕事を持つことについての考え方について聞いたところ、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」（41.5%）が4割強で最も高く、次いで、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい」（36.8%）3割台半ばを超えている。

（図1-3-13）

図1-3-14 女性が仕事をもつことについての考え方（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別でみると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」では、70歳以上(31.6%)が3割強で、他の年代に比べてやや低くなっている。(図1-3-14)

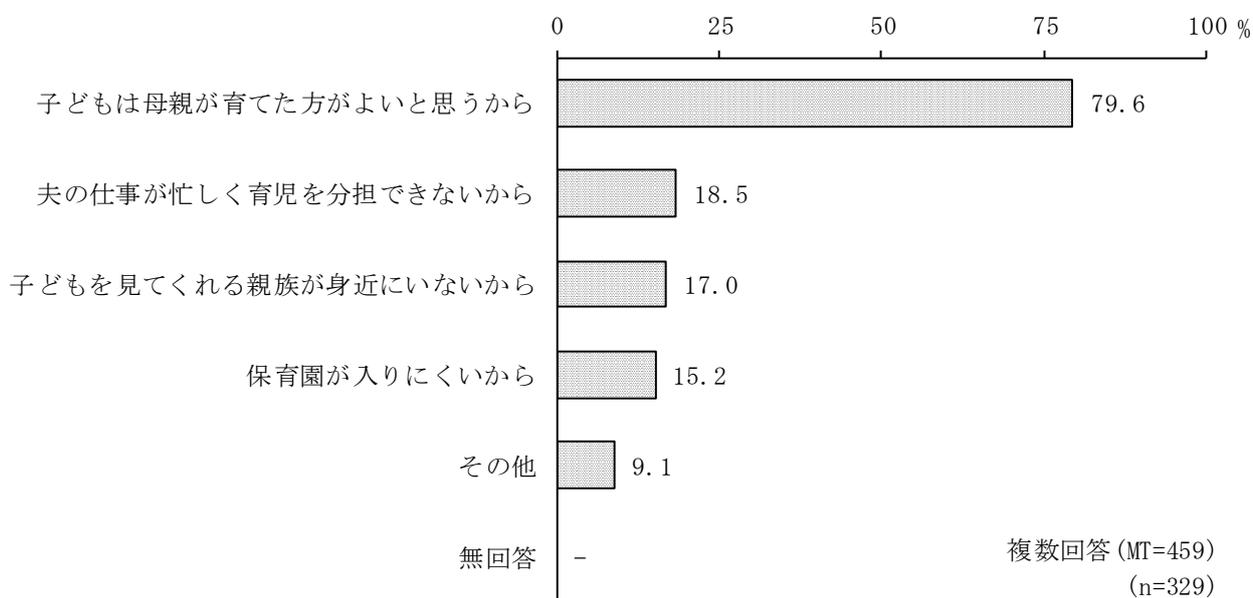
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

（3）子どもが大きくなってから復職する方がよいと思う理由

◎「子どもは母親が育てた方がよいと思うから」が8割弱

問12-1	問12で、【2 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい】の方	
	その理由は次のうちどれですか。（複数回答可）（n=329）	
1	子どもは母親が育てた方がよいと思うから	79.6%
2	子どもを見てくれる親族が身近にいないから	17.0
3	保育園が入りにくいから	15.2
4	夫の仕事が忙しく育児を分担できないから	18.5
5	その他	9.1
	無回答	-

図1-3-15 子どもが大きくなってから復職する方がよいと思う理由



問12で、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「子どもは母親が育てた方がよいと思うから」（79.6%）が8割弱で最も高く、以下、「夫の仕事が忙しく育児を分担できないから」（18.5%）、「子どもを見てくれる親族が身近にいないから」（17.0%）、「保育園が入りにくいから」（15.2%）の順となっている。

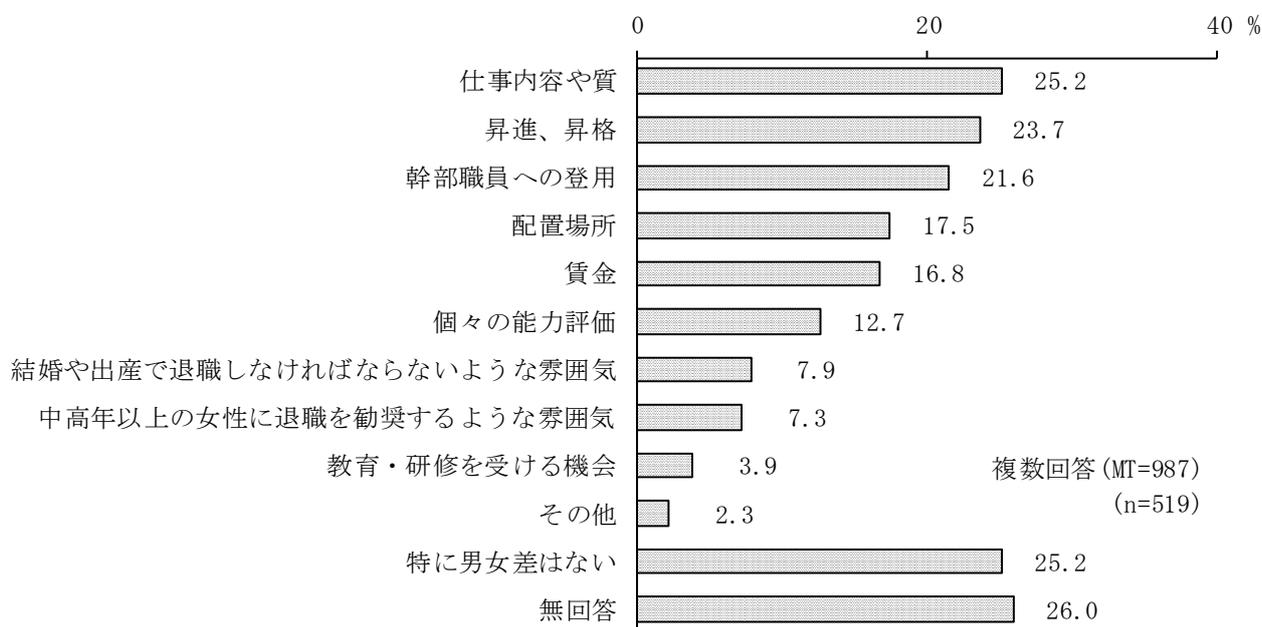
（図1-3-15）

(4) 男女差を感じる仕事の内容や待遇について

◎「仕事内容や質」が2割台半ば。「特に男女差はない」も2割台半ば

問13 【会社等に勤めている方（自営業、経営者の方を除く）】	
あなたの職場で、仕事の内容や待遇面で、男女差を感じるものがありますか。	
（複数回答可）（n=519）	
1 賃金	16.8%
2 昇進、昇格	23.7
3 個々の能力評価	12.7
4 配置場所	17.5
5 仕事内容や質	25.2
6 幹部職員への登用	21.6
7 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気	7.9
8 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気	7.3
9 教育・研修を受ける機会	3.9
10 その他	2.3
11 特に男女差はない	25.2
無回答	26.0

図1-3-16 男女差を感じる仕事の内容や待遇について



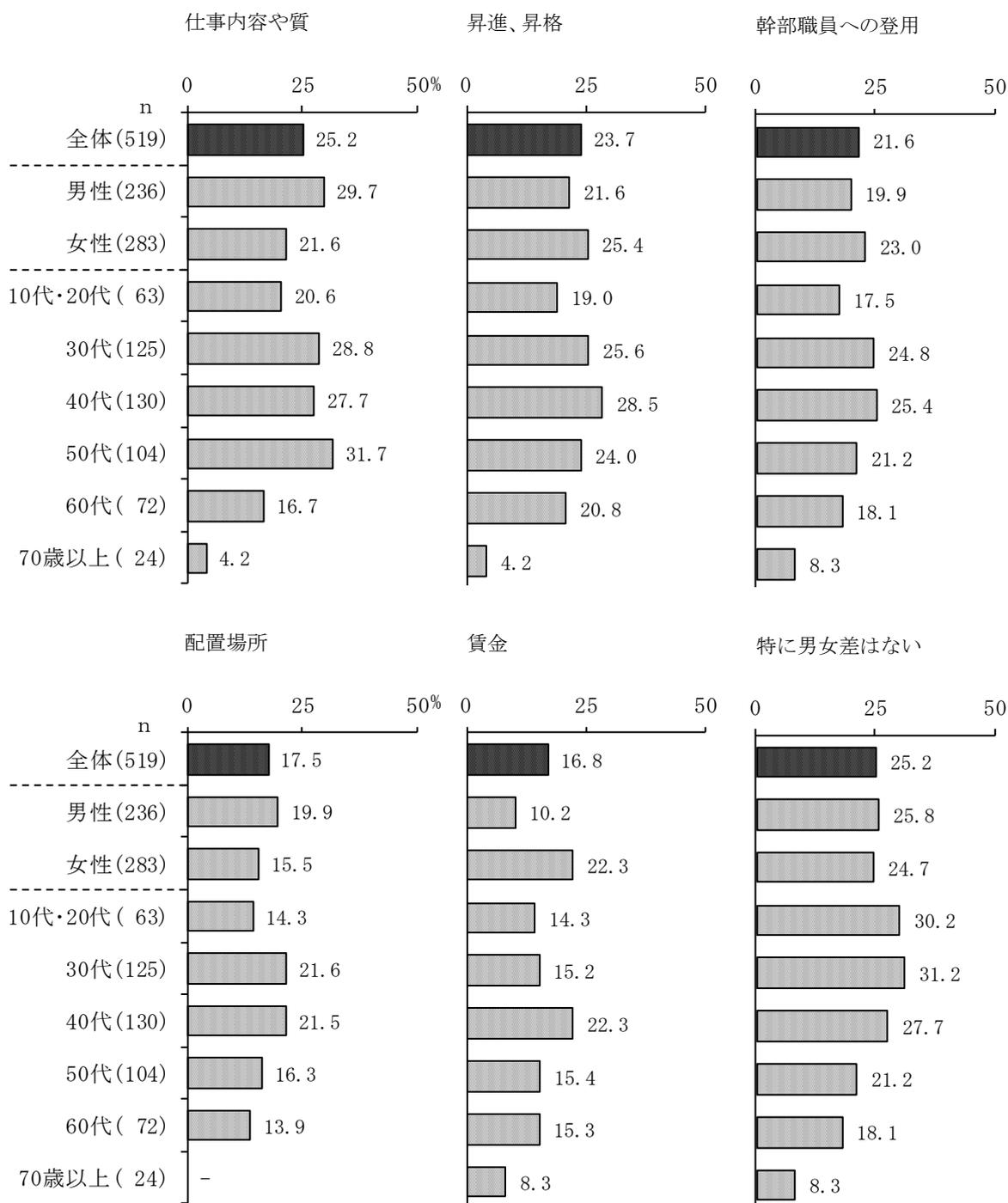
会社等に勤めている方（自営業、経営者の方を除く）に、男女差を感じる仕事の内容や待遇について聞いたところ、「仕事内容や質」（25.2%）が2割台半ばで最も高く、「昇進、昇格」（23.7%）、「幹部職員への登用」（21.6%）とともに2割を超えている。

一方、「特に男女差はない」（25.2%）も「仕事の内容や質」と同率で最も高くなっている。

（図1-3-16）

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-17 男女差を感じる仕事の内容や待遇について（性別・年代別）
上位6項目



上位6項目について性別・年代別にみると、性別では、「賃金」で女性（22.3%）が男性（10.2%）を12.1ポイント上回っている。

年代別でみると、「特に男女差はない」では、30代（31.2%）、10代・20代（30.2%）で3割を超え、70歳以上（8.3%）では1割未満と、30代を境に年代が上がるにつれて低くなっている。

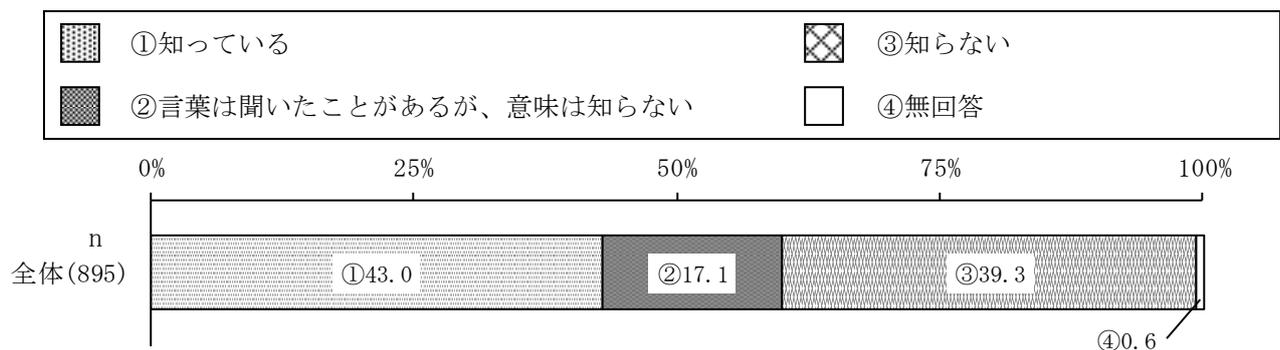
（図1-3-17）

(5) 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知状況

◎ 「知っている」が4割台半ば近く

問14 あなたは、男女共同参画社会を進めていくうえで重要なキーワードとなる「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉をご存じですか。(n=895)	
1 知っている	43.0%
2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない	17.1
3 知らない	39.3
無回答	0.6

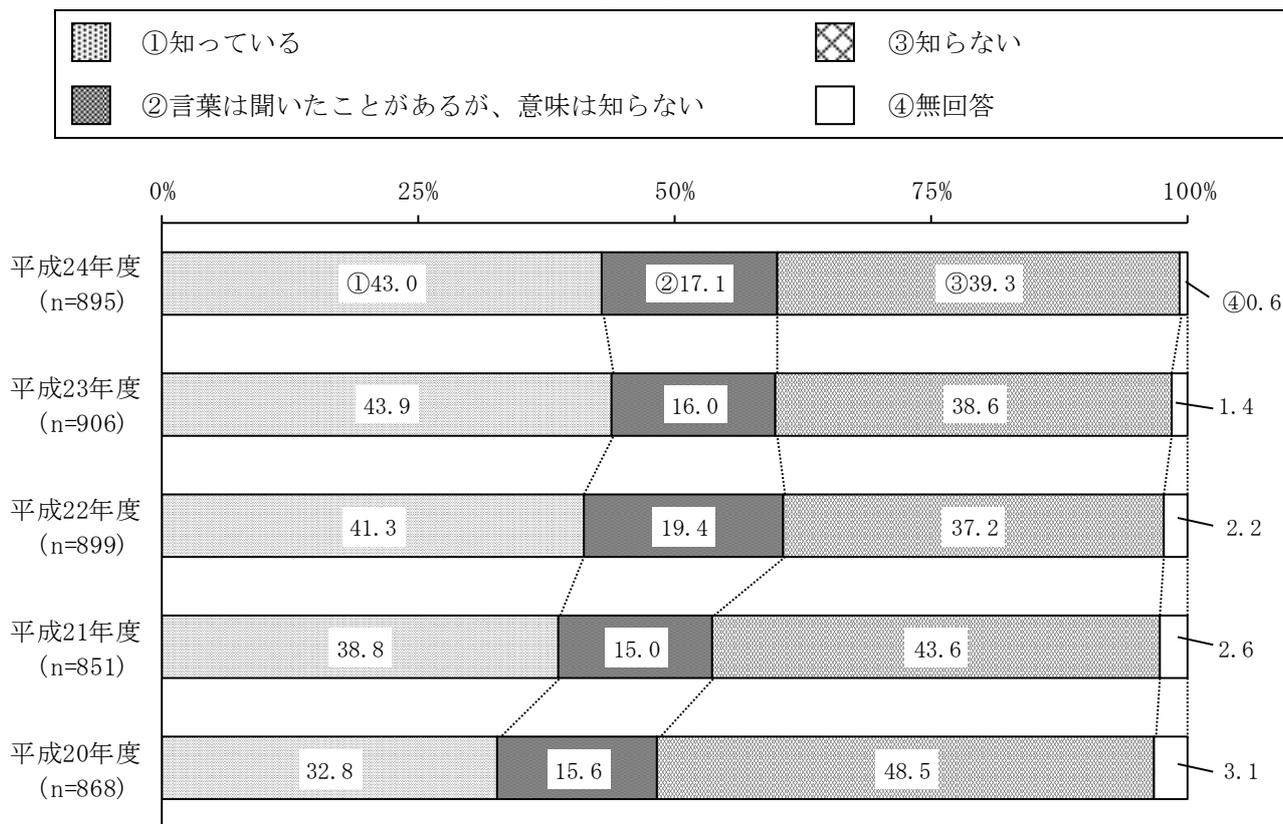
図1-3-18 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知状況



「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」(43.0%)が4割台半ば近く、「知らない」(39.3%)が4割弱、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」(17.1%)の順となっている。(図1-3-18)

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-19 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知状況
(経年推移)



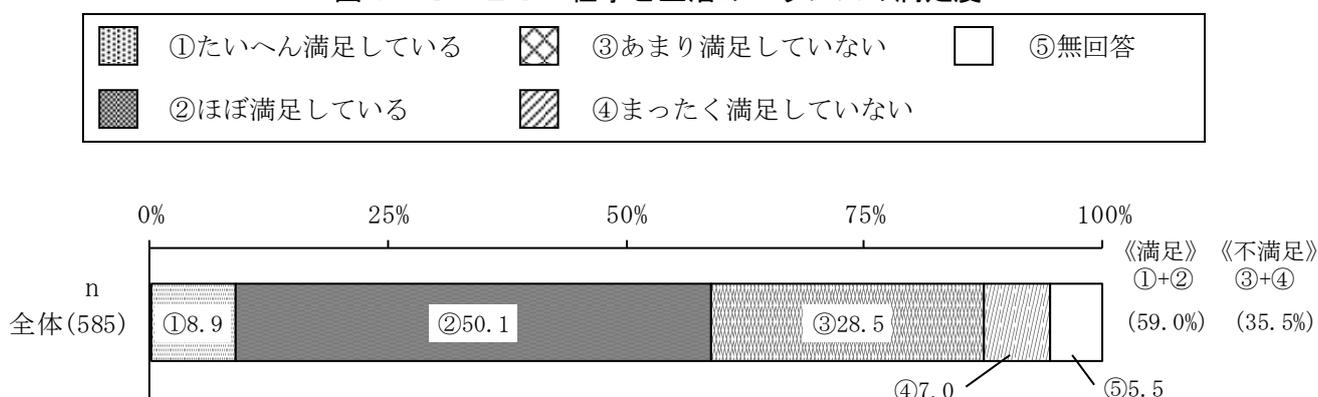
経年推移をみると、「知っている」では、平成20年度（32.8%）から平成24年度（43.0%）にかけて10.2ポイント上昇している。（図1-3-19）

(6) 仕事と生活のバランスの満足度

◎ 「ほぼ満足している」が約5割

問15 【働いているすべての方】にお伺いします。		
あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(n=585)		
1	たいへん満足している	8.9%
2	ほぼ満足している	50.1
3	あまり満足していない	28.5
4	まったく満足していない	7.0
	無回答	5.5

図1-3-20 仕事と生活のバランスの満足度



働いているすべての方に、現在の仕事と生活のバランスに満足しているか聞いたところ、「たいへん満足している」(8.9%)と、「ほぼ満足している」(50.1%)を合わせた《満足》(59.0%)は6割弱、「あまり満足していない」(28.5%)と、「満足していない」(7.0%)を合わせた《不満足》(35.5%)は3割台半ばとなっている。(図1-3-20)

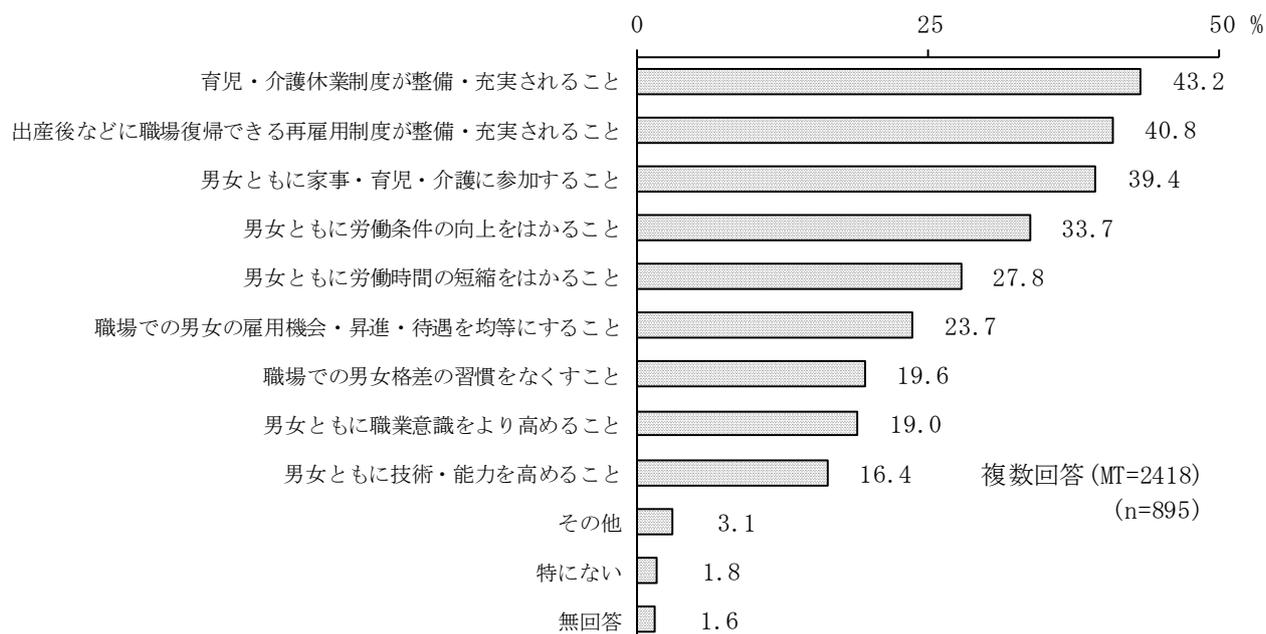
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

（7）男女とも働きやすい環境づくりについて

◎「育児・介護休業制度が整備・充実されること」が4割台半ば近く

問16 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。 (○は3つまで) (n=895)	
1 男女ともに労働時間の短縮をはかること	27.8%
2 男女ともに労働条件の向上をはかること	33.7
3 男女ともに家事・育児・介護に参加すること	39.4
4 男女ともに職業意識をより高めること	19.0
5 男女ともに技術・能力を高めること	16.4
6 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること	23.7
7 職場での男女格差の習慣をなくすこと	19.6
8 出産後などに職場復帰できる再雇用制度が整備・充実されること	40.8
9 育児・介護休業制度が整備・充実されること	43.2
10 その他	3.1
11 特になし	1.8
無回答	1.6

図1-3-21 仕事と生活のバランスの満足度



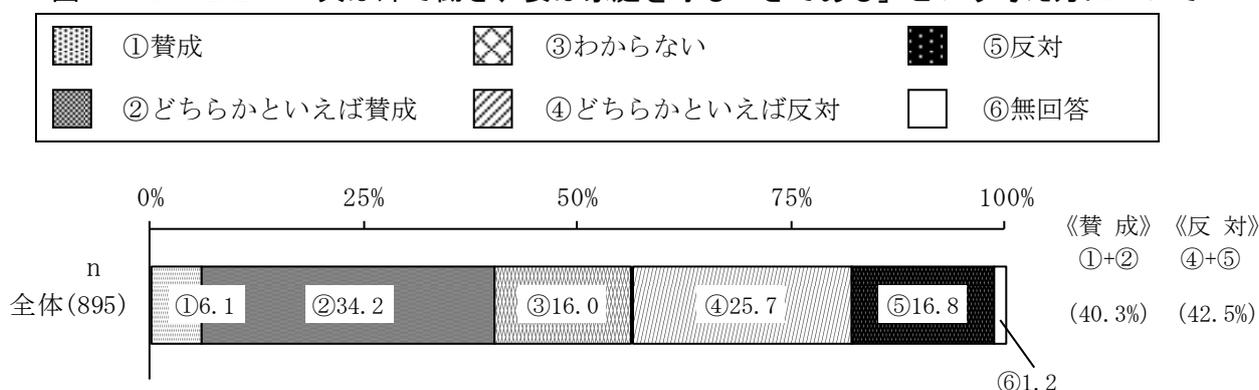
男女とも働きやすい環境をつくるためにどのようなことが重要か聞いたところ、「育児・介護休業制度が整備・充実されること」(43.2%)が4割台半ば近くで最も高く、「出産後などに職場復帰できる再雇用制度が整備・充実されること」(40.8%)が約4割、「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」(39.4%)が4割弱と続いている。(図1-3-21)

(8)「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

◎「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成》が約4割、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた《反対》が4割強

問17「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(n=895)		
1	賛成	6.1%
2	どちらかといえば賛成	34.2
3	わからない	16.0
4	どちらかといえば反対	25.7
5	反対	16.8
	無回答	1.2

図1-3-22 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

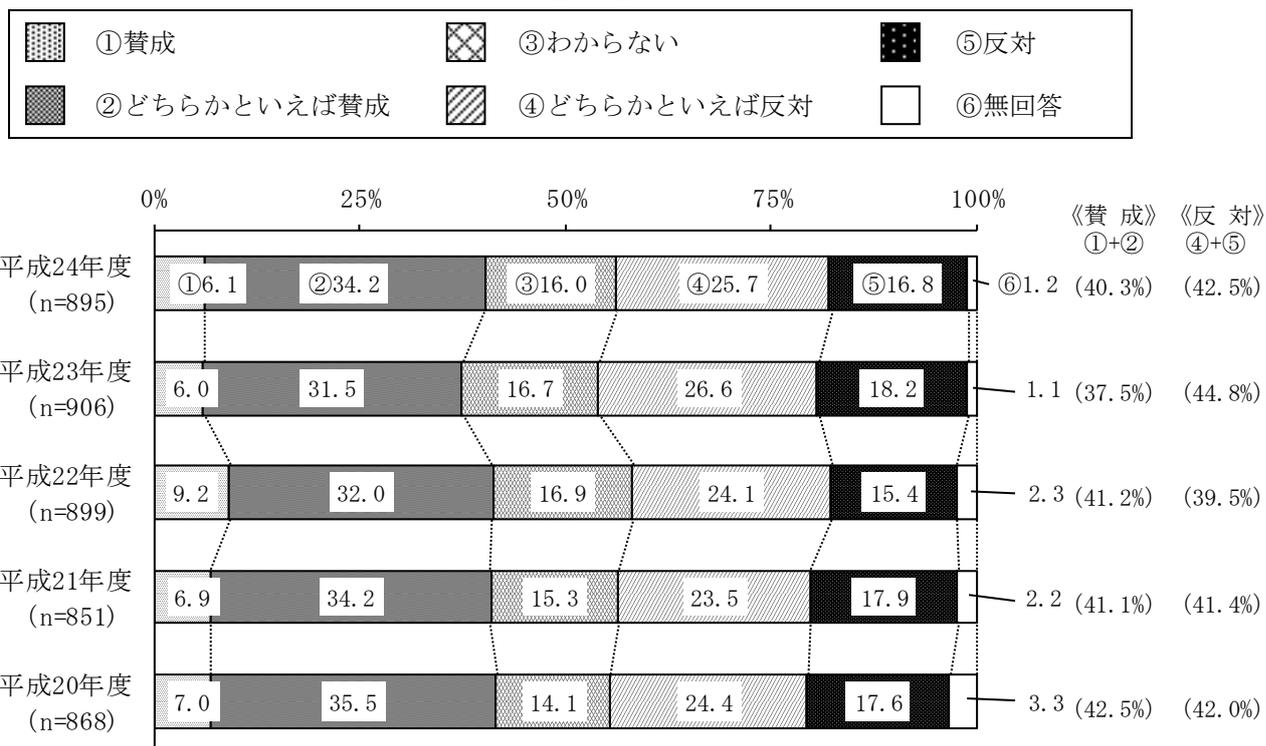


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について聞いたところ、「どちらかといえば賛成」(34.2%)が3割台半ば近くで最も高く、「どちらかといえば反対」(25.7%)、「反対」(16.8%)、「わからない」(16.0%)、「賛成」(6.1%)の順となっている。

「賛成」と、「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成》(40.3%)は約4割、「どちらかといえば反対」と、「反対」を合わせた《反対》(42.5%)は4割強となっており、《賛成》、《反対》がほぼ同率となっている。(図1-3-22)

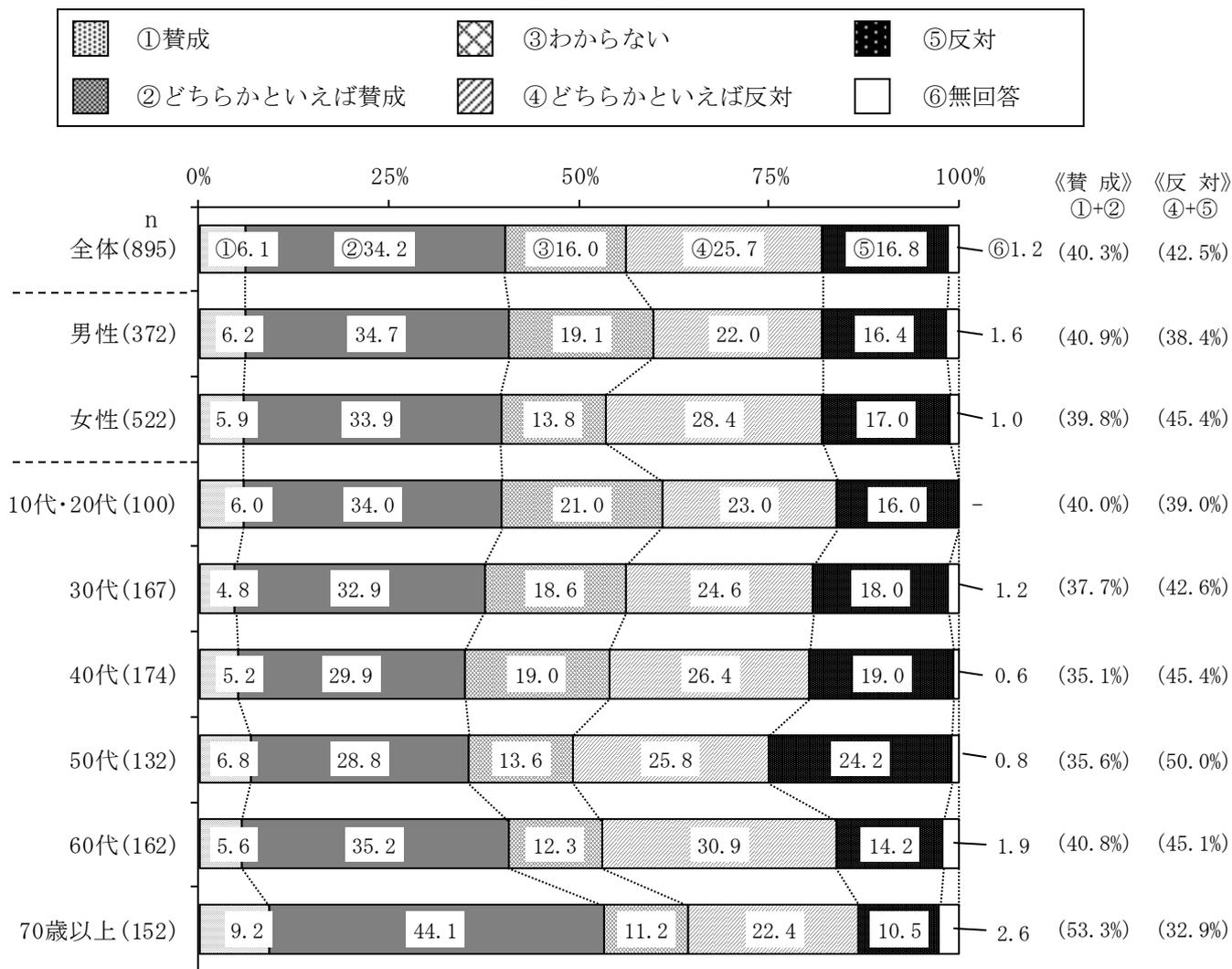
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-23 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(経年推移)



経年推移をみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成》は、平成24年度(40.3%)が、平成23年度(37.5%)を2.8ポイント上回っているものの、過去5年間はほぼ同じような割合で推移している。(図1-3-23)

図1-3-24 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(性別・年代別)

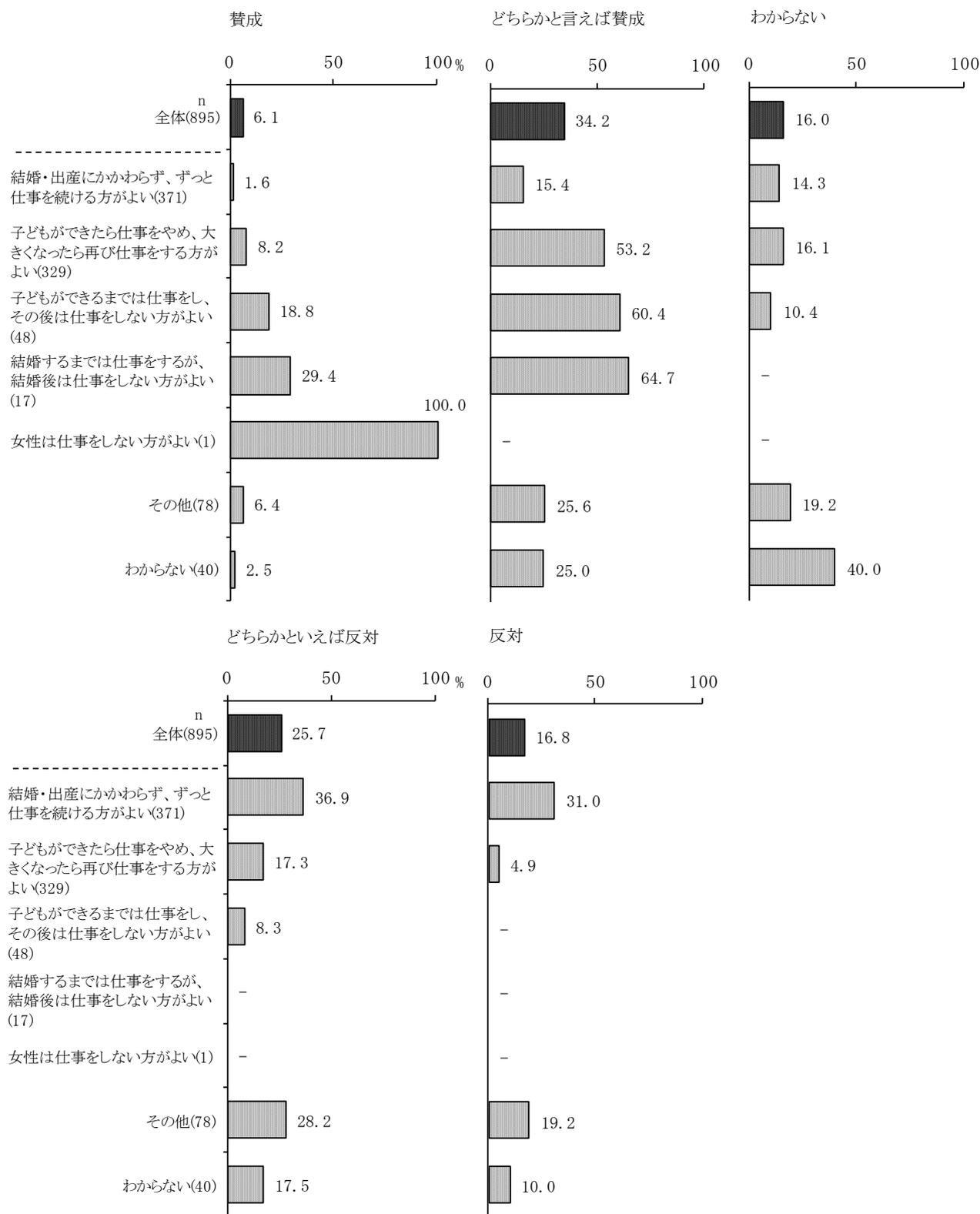


性別でみると、「反対」と、「どちらかといえば反対」を合わせた《反対》は、女性（45.4%）が男性（38.4%）より7ポイント上回っている。

年代別でみると、「賛成」と、「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成》は、70歳以上（53.3%）で5割台半ば近くと、他の年代と比べて10ポイント以上上回っている。（図1-3-24）

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-25 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
 (問12 女性が職業を持つことについての考え方別)



問12「女性が仕事を持つことについての考え方」別にみると、問12で「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」と答えた方は、「反対」(31.0%)と、「どちらかといえば反対」(36.9%)を合わせた《反対》(67.9%)で6割台半ばを超えている。(図1-3-25)

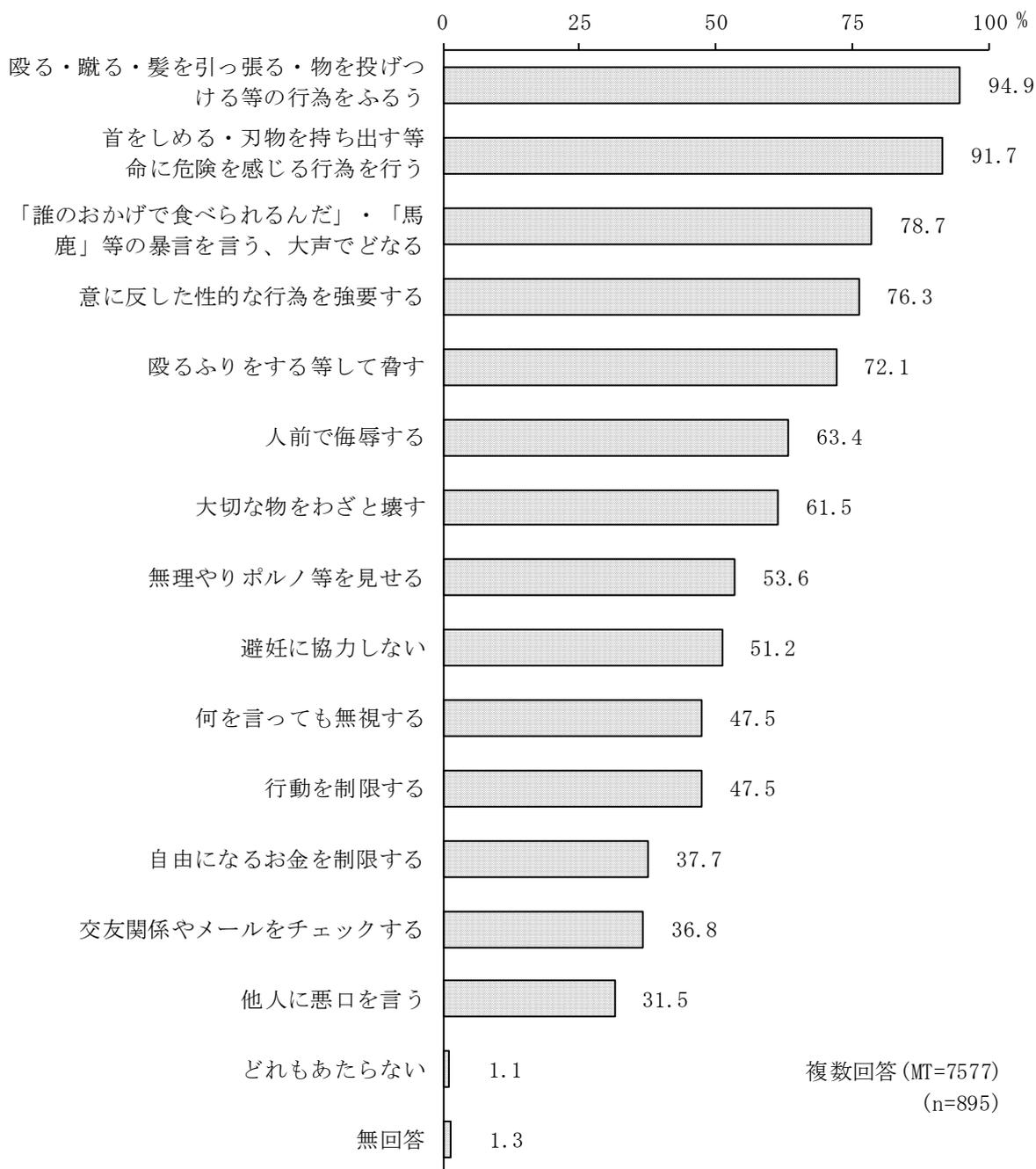
(9) DVだと思う行為について

◎「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」が9割半ば近く、「首をしめる・刃物を持ち出す等命に危険を感じる行為を行う」で9割強

問18 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）についてお伺いします。DVだと思う行為は次のうちどれですか。（複数回答可）（n=895）	
1 何を言っても無視する	47.5%
2 行動を制限する	47.5
3 交友関係やメールをチェックする	36.8
4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる	78.7
5 人前で侮辱する	63.4
6 他人に悪口を言う	31.5
7 大切な物をわざと壊す	61.5
8 殴るふりをする等して脅す	72.1
9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう	94.9
10 首をしめる・刃物を持ち出す等命に危険を感じる行為を行う	91.7
11 自由になるお金を制限する	37.7
12 意に反した性的な行為を強要する	76.3
13 無理やりポルノ等を見せる	53.6
14 避妊に協力しない	51.2
15 どれもあたらない	1.1
無回答	1.3

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

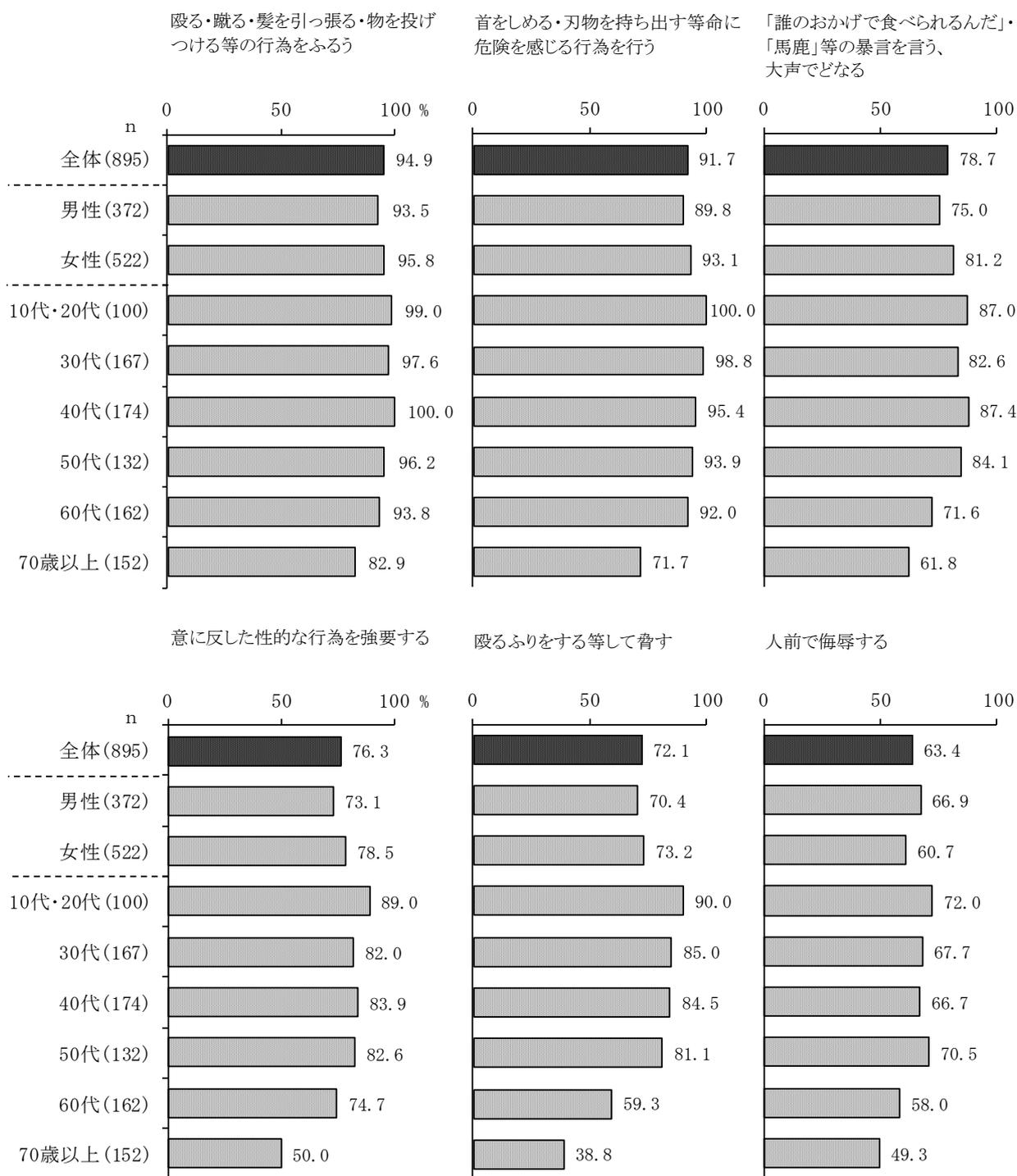
図1-3-26 DVだと思う行為について



ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下「DV」という）だと思う行為を聞いたところ、「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」（94.9%）が9割台半ば近くで最も高く、「首をしめる・刃物を持ち出す等命に危険を感じる行為を行う」（91.7%）で9割強となっている。

一方、「他人の悪口を言う」（31.5%）、「交友関係やメールをチェックする」（36.8%）、「自由になるお金を制限する」（37.7%）は3割台と低くなっている。（図1-3-26）

図1-3-27 DVだと思う行為について（性別・年代別）上位6項目

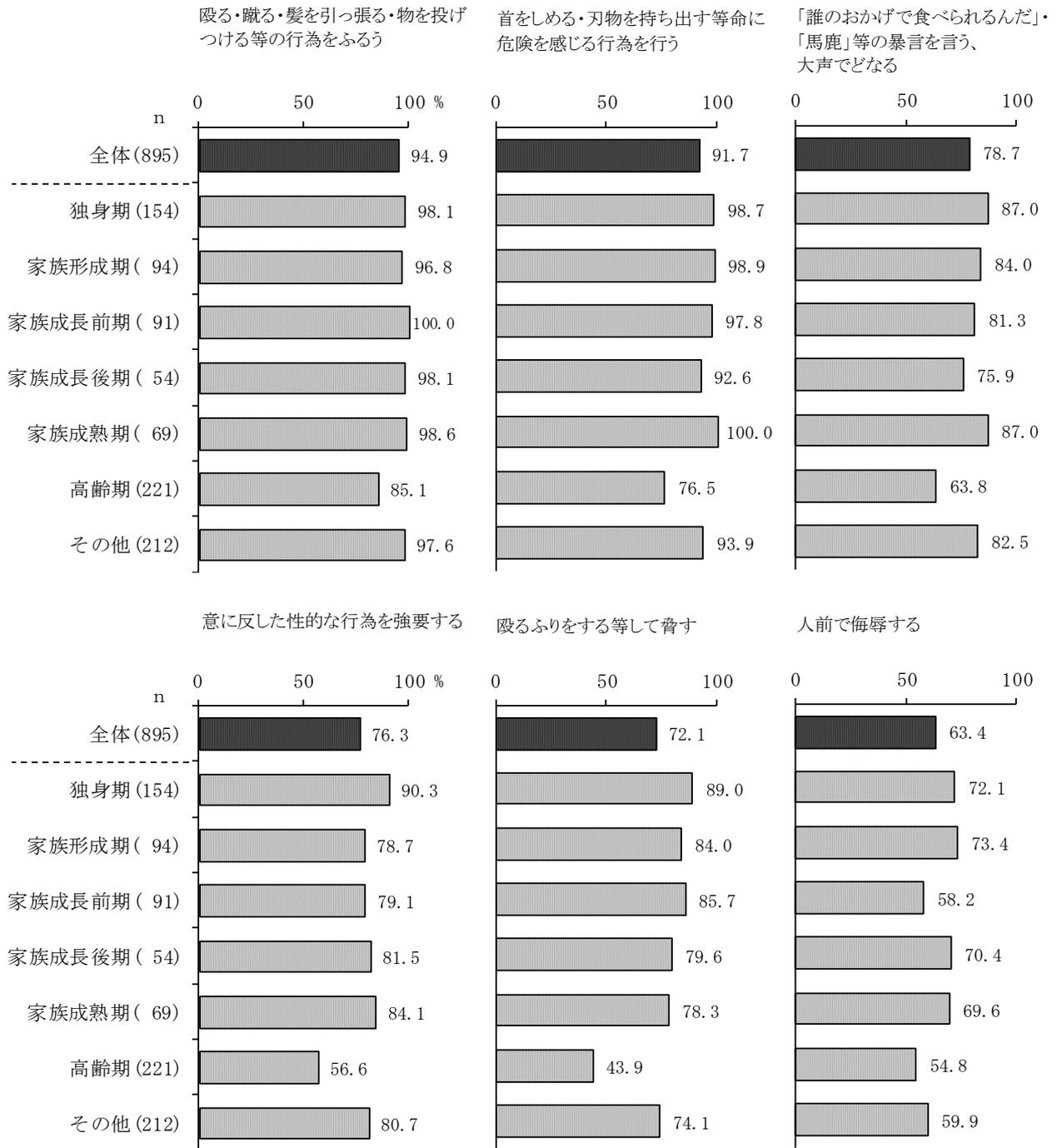


上位6項目を性別・年代別で見ると、性別では大きな差異はみられない。

年代別で見ると、「意に反した性的な行為を強要する」では70歳以上(50.0%)が全体(76.3%)より26.3ポイント下回っており、「殴るふりをする等して脅す」では、70歳以上(38.8%)が全体(72.1%)より33.3ポイント下回っている。(図1-3-27)

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-28 DVだと思う行為について（ライフステージ別）上位6項目



ライフステージ別でみると、「意に反した性的な行為を強要する」では、独身期（90.3%）が全体（76.3%）を14ポイント上回っている。

高齢期では、すべての項目で、各ライフステージ中最も低くなっている。（図1-3-28）

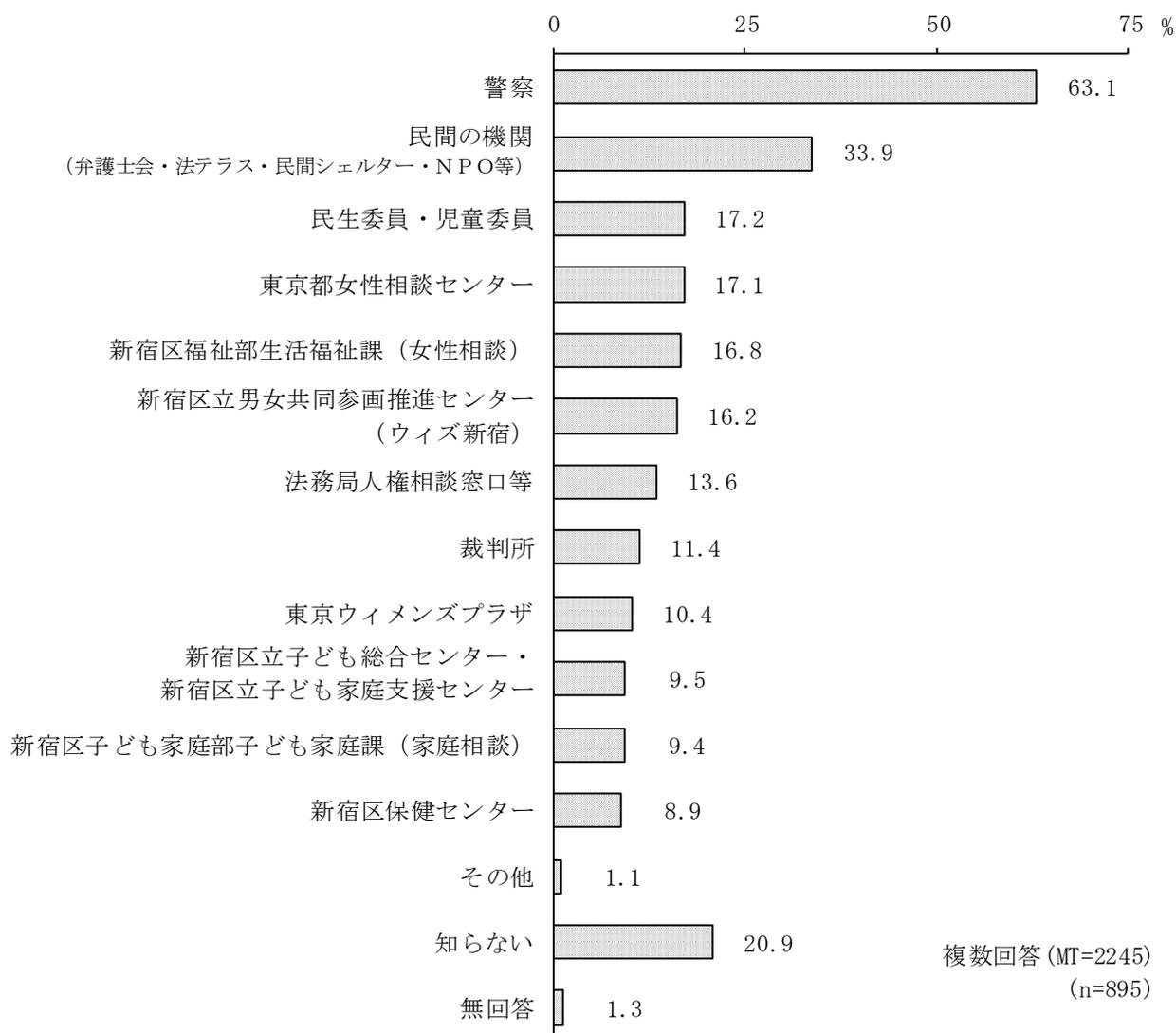
(10) DVについての相談機関の窓口について

◎「警察」で6割台半ば近く。「知らない」は約2割

問19 DVについての相談機関の窓口をご存じですか。(複数回答可) (n=895)		
1	新宿区立男女共同参画推進センター(ウィズ新宿) 悩みごと相談室	16.2%
2	新宿区福祉部生活福祉課(女性相談)	16.8
3	新宿区子ども家庭部子ども家庭課(家庭相談)	9.4
4	新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター	9.5
5	新宿区保健センター	8.9
6	東京都女性相談センター	17.1
7	東京ウィメンズプラザ	10.4
8	警察	63.1
9	法務局人権相談窓口等	13.6
10	裁判所	11.4
11	民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)	33.9
12	民生委員・児童委員	17.2
13	その他	1.1
14	知らない	20.9
	無回答	1.3

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図1-3-29 DVについての相談機関の窓口について

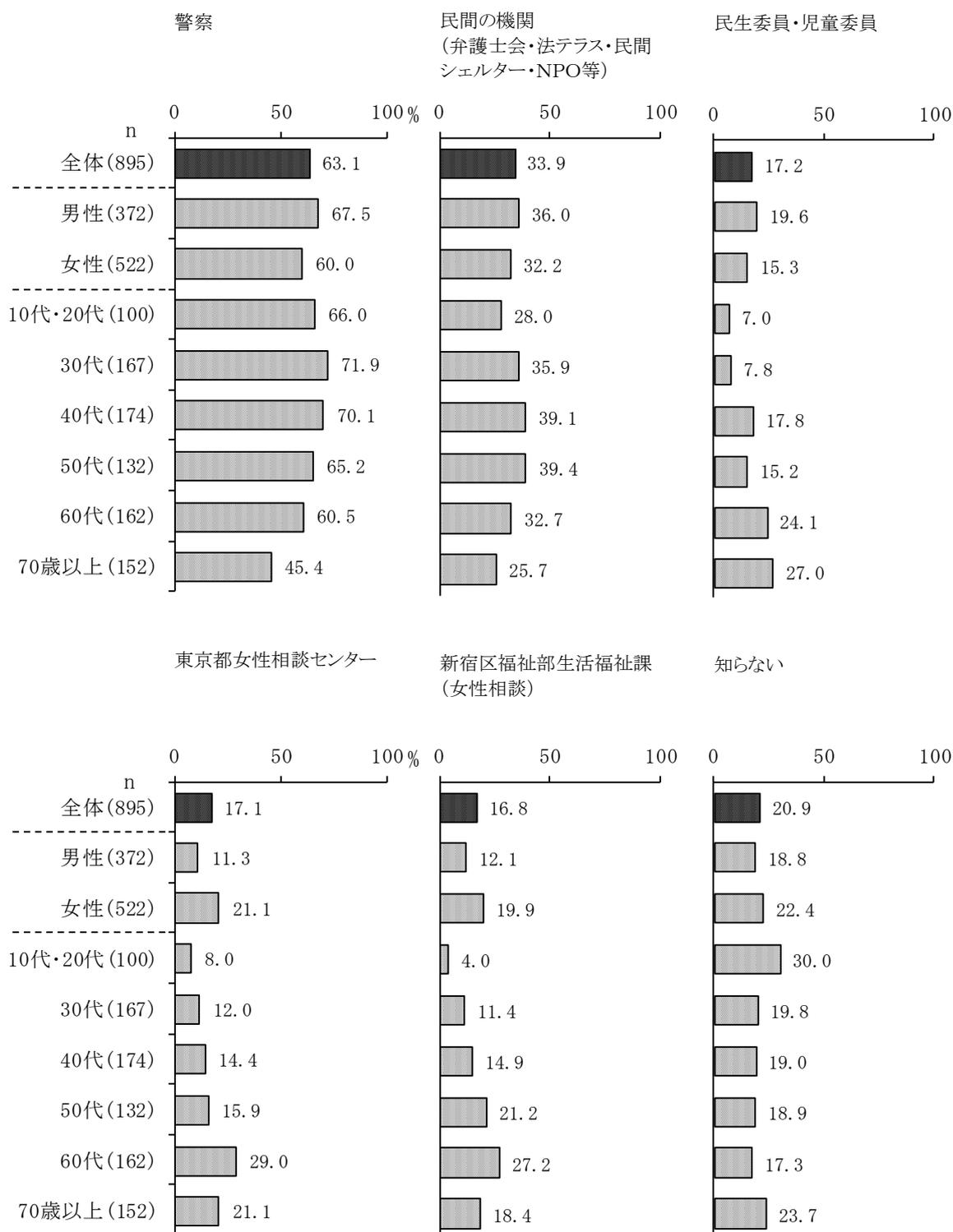


DVについての相談機関の窓口について聞いたところ、「警察」（63.1%）が6割台半ば近くで最も高く、「民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）」（33.9%）が続いている。

一方、「知らない」（20.9%）は約2割となっている。（図1-3-29）

図1-3-30 DVについての相談機関の窓口について（性別・年代別）

上位5項目+「知らない」



上位5項目と「知らない」について、性別・年代別にみると、性別では、「東京都女性相談センター」で、女性（21.1%）が男性（11.3%）に比べて1割ほど高くなっている。

年代別でみると、「民生委員・児童委員」で、70歳以上（27.0%）が全体（17.2%）と比べて1割ほど高くなっている。

「知らない」では、10代・20代（30.0%）が3割で、全体（20.9%）と比べて1割ほど高くなっている。（図1-3-30）

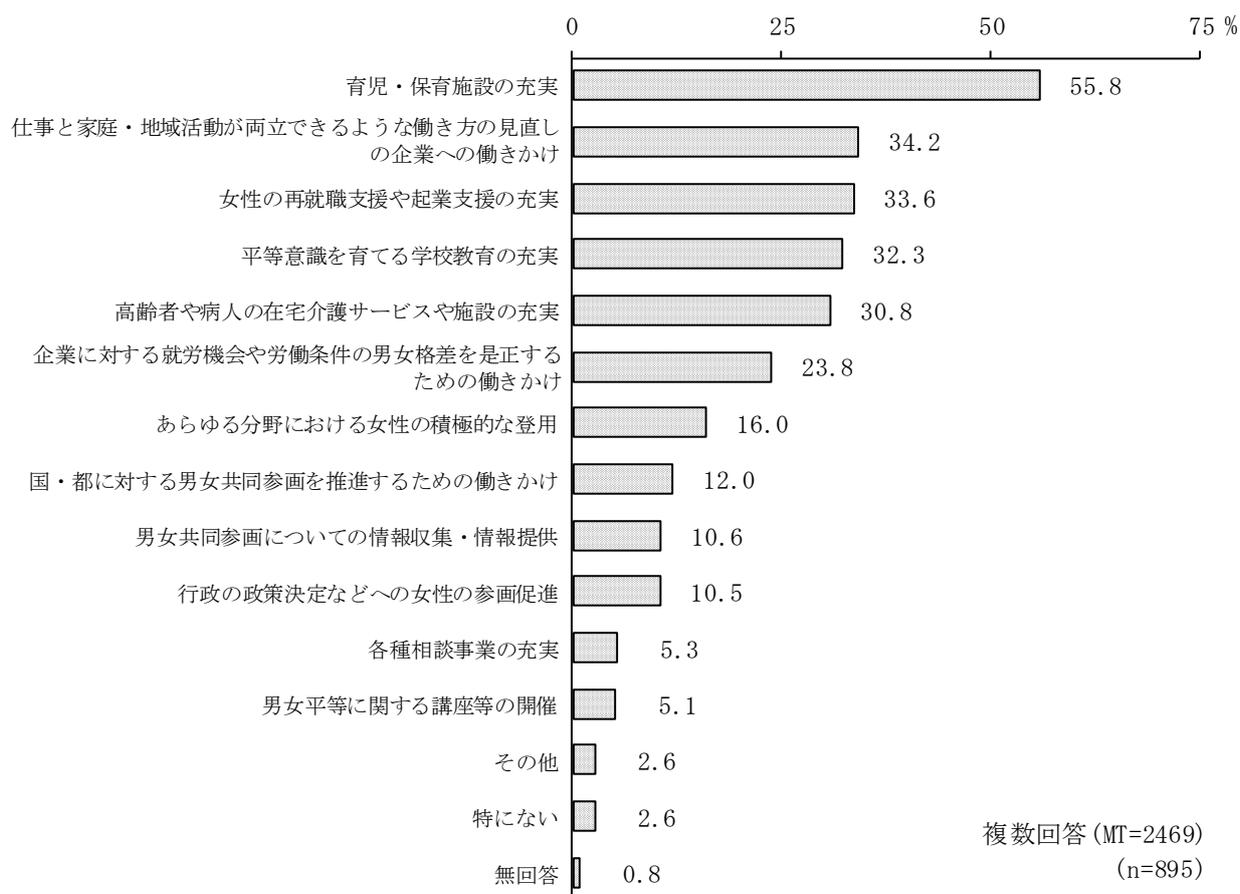
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

（11）男女共同参画を推進するために必要なこと

◎「育児・保育施設の充実」で5割台半ば近く

問20 今後、男女共同参画を進めるために、区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。		(複数回答可) (n=895)
1	平等意識を育てる学校教育の充実	32.3%
2	男女平等に関する講座等の開催	5.1
3	女性の再就職支援や起業支援の充実	33.6
4	企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	23.8
5	仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ	34.2
6	育児・保育施設の充実	55.8
7	あらゆる分野における女性の積極的な登用	16.0
8	行政の政策決定などへの女性の参画促進	10.5
9	高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実	30.8
10	各種相談事業の充実	5.3
11	男女共同参画についての情報収集・情報提供	10.6
12	国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ	12.0
13	その他	2.6
14	特にない	2.6
	無回答	0.8

図1-3-31 男女共同参画を推進するために必要なこと



男女共同参画を推進するために必要なことを聞いたところ、「育児・保育施設の充実」(55.8%)が5割台半ば近くで最も高く、以下、「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」(34.2%)、「女性の再就職支援や起業支援の充実」(33.6%)、「平等意識を育てる学校教育の充実」(32.3%)、「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実」(30.8%)が3割台で続く。(図1-3-31)

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ4 建物等の震災対策について）

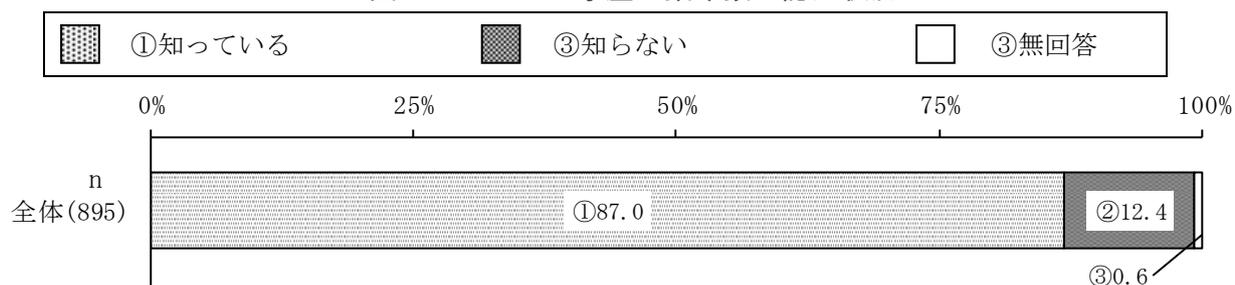
テーマ4 建物等の震災対策について

（1）家屋の築年数の認知状況

◎「知っている」が8割強

問2 1	あなたは、自分がお住まいの建物がいつ建てられたか知っていますか。（n=895）	
1	知っている	87.0%
2	知らない	12.4
	無回答	0.6

図1-4-1 家屋の築年数の認知状況



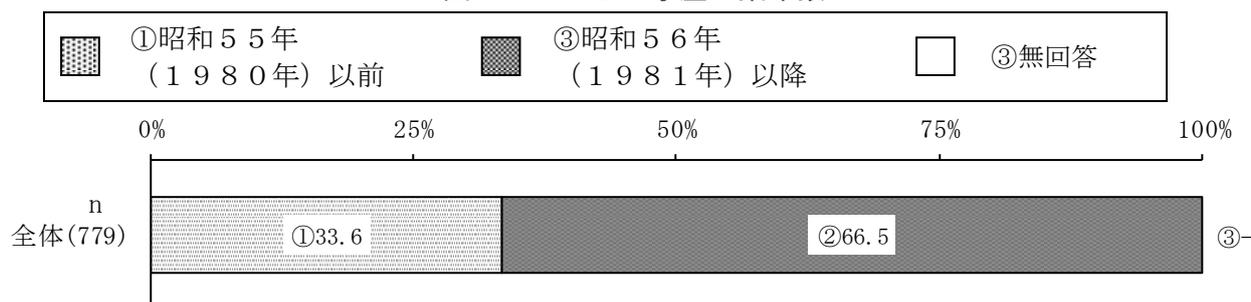
自分の住んでいる建物がいつ建てられたか知っているかを聞いたところ、「知っている」(87.0%)が8割台半ばを超え、「知らない」(12.4%)は1割強となっている。(図1-4-1)

(2) 家屋の築年数

◎「昭和55年以前」が3割台半ば近く、「昭和56年以降」が6割代半ばを超える

問21-1 問21で【1. 知っている】の方	
お住まいの建物はいつ建てられましたか。(n=779)	
1 昭和55年(1980年)以前	33.6%
2 昭和56年(1981年)以降	66.5
無回答	-

図1-4-2 家屋の築年数



問21で「知っている」と答えた方に、いつ建てられたかを聞いたところ、「昭和55年(1980年)以前」(33.6%)が3割台半ば近く、「昭和56年(1981年以降)」(66.5%)が6割台半ばを超えている。(図1-4-2)

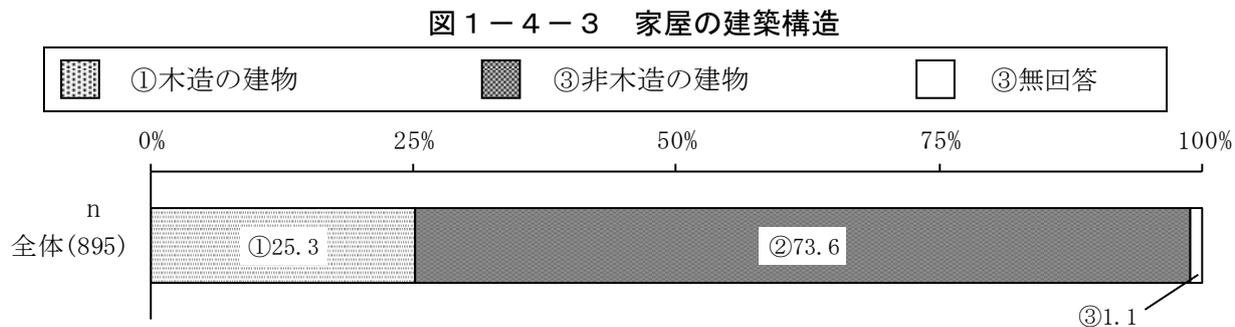
※昭和56年6月1日 建築基準法施行令が改正され、それ以前の建築基準法施行令に則って建てられた建物が「旧耐震基準」と呼ばれ、それ以降に建てられた建物が「新耐震基準」と呼ばれている。

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ4 建物等の震災対策について）

（3）家屋の建築構造

◎ 「非木造の建物」が7割台半ば近く、「木造の建物」が2割台半ば

問2 2 あなたがお住まいの建物は、次のうちどちらですか。(n=895)		
1	木造の建物	25.3%
2	非木造の建物	73.6
	無回答	1.1



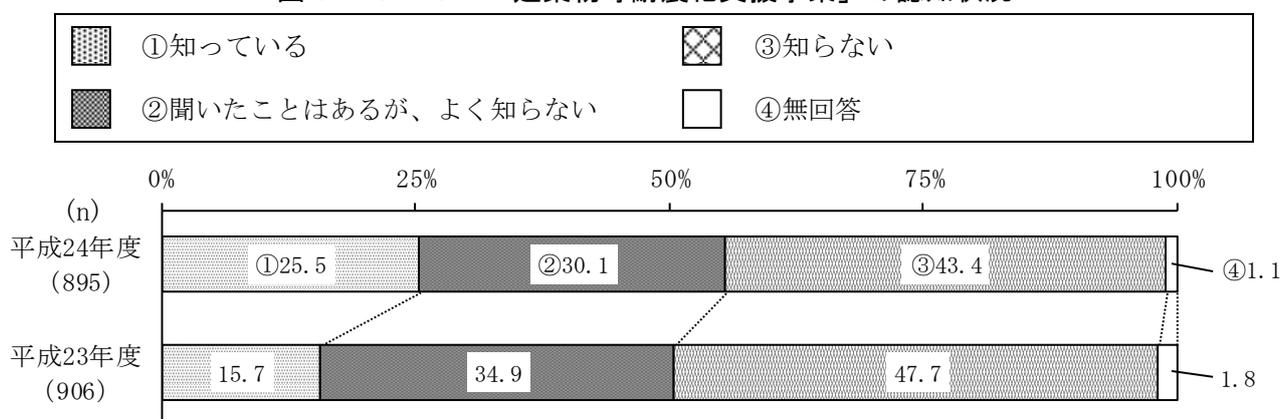
住まいの建築構造を聞いたところ、「非木造の建物」(73.6%)が7割台半ば近く、「木造の建物」(25.3%)が2割台半ばとなっている。(図1-4-3)

(4) 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況

◎「知らない」が4割台半ば近く、「知っている」が2割台半ば、「聞いたことはあるが、よく知らない」が約3割

問23 新宿区では、「建築物等耐震化支援事業」を行っています。あなたはこの事業を知っていますか。(n=895)	
1 知っている	25.5%
2 聞いたことはあるが、よく知らない	30.1
3 知らない	43.4
無回答	1.1

図1-4-4 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況

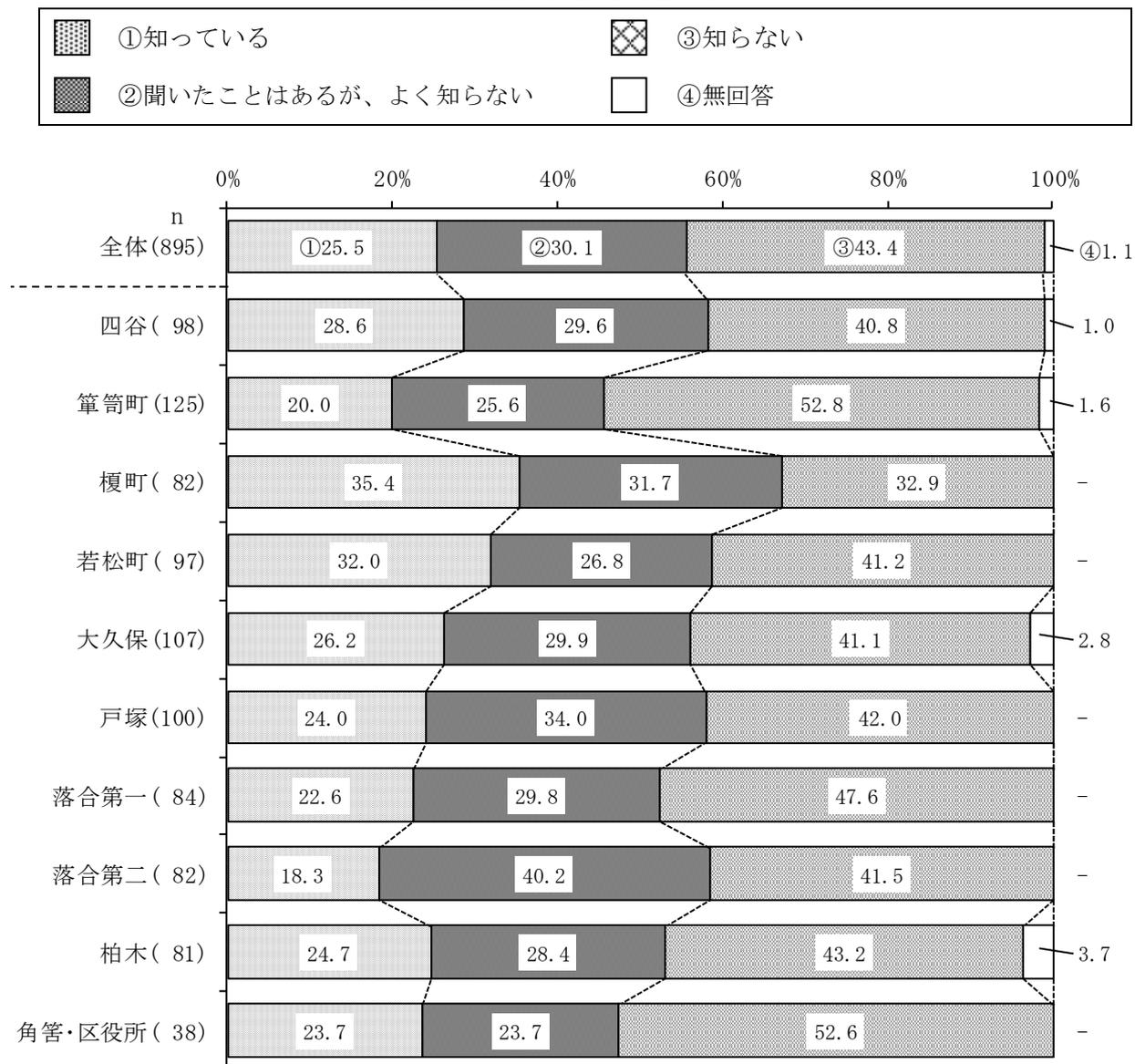


「建築物等耐震化支援事業」を知っているか聞いたところ、「知らない」(43.4%)が4割台半ば近くで最も高く、以下、「聞いたことはあるが、よく知らない」(30.1%)が約3割、「知っている」(25.5%)が2割台半ば近くとなっている。

前回調査(平成23年度区政モニターアンケート)の結果と比較すると、「知っている」では、前回(15.7%)と比べて1割ほど高くなっている。(図1-4-4)

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ4 建物等の震災対策について）

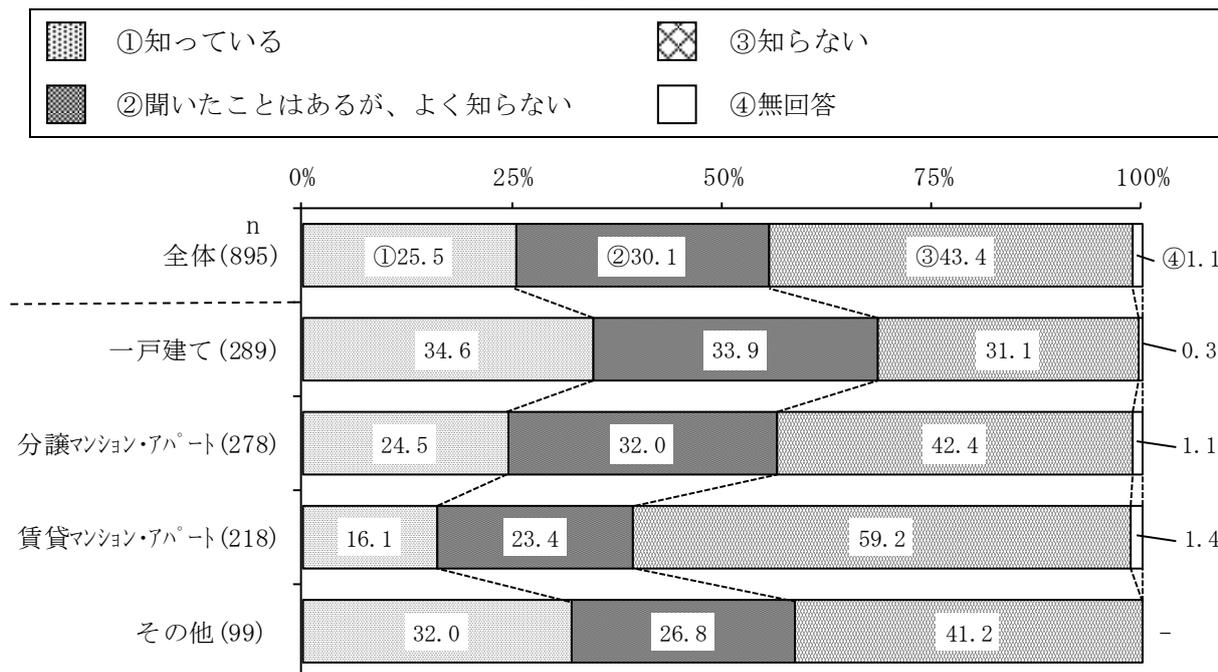
図1-4-5 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況（居住地域別）



居住地域別にみると、「知らない」では、箆笥町（52.8%）が5割強で最も高く、角筥・区役所（52.6%）とともに5割を超えている。

「知っている」では、榎町（35.4%）が3割台半ばで、全体（25.5%）に比べて1割ほど高くなっている。（図1-4-5）

図1-4-6 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況（住居形態別4区分）



住居形態別4区分で見ると、「知っている」では、一戸建て（34.6%）で、全体（25.5%）を9.1ポイント上回っている。

「知らない」では、賃貸マンション・アパート（59.2%）で6割弱と、全体（43.4%）を15.8ポイント上回っている。（図1-4-6）

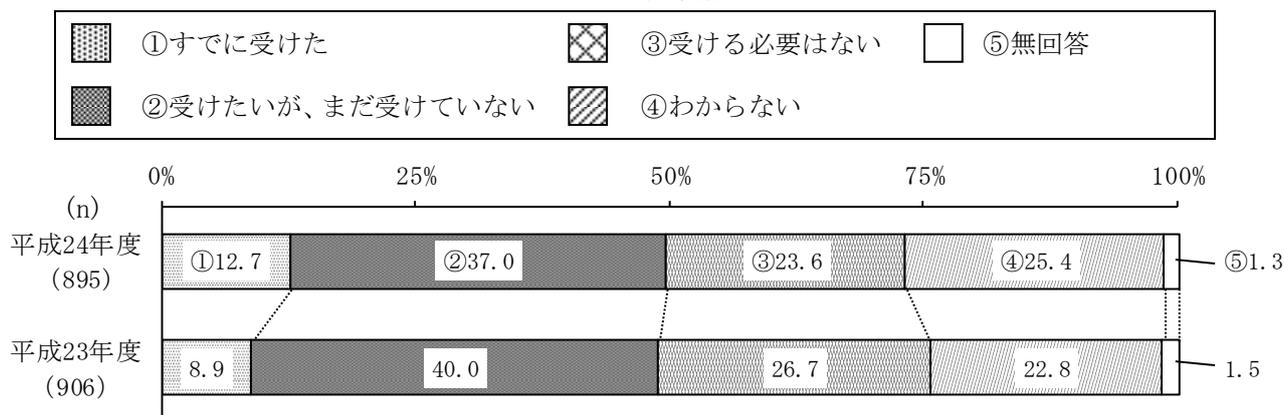
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ4 建物等の震災対策について）

（5）耐震診断の意向

◎「受けたいが、まだ受けていない」が3割台半ば超

問 2 4 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。(n=895)		
1	すでに受けた	12.7%
2	受けたいが、まだ受けていない	37.0
3	受ける必要はない	23.6
4	わからない	25.4
	無回答	1.3

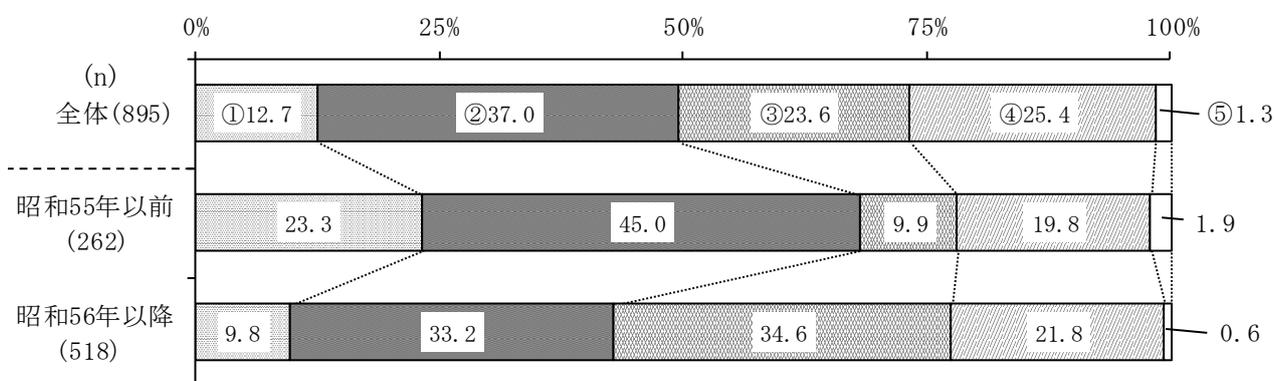
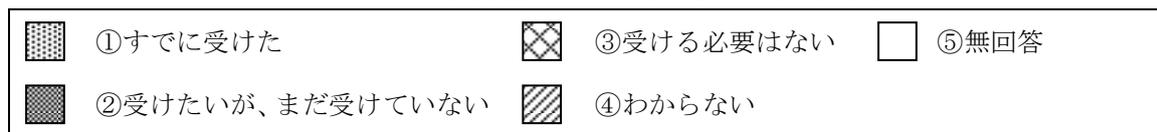
図 1 - 4 - 7 耐震診断の意向



耐震診断を受けたいと思うか聞いたところ、「受けたいが、まだ受けていない」(37.0%)が3割台半ばを超え最も高く、以下、「わからない」(25.4%)、「受ける必要はない」(23.6%)、「すでに受けた」(12.7%)の順となっている。

前回調査の結果と大きな差異はみられない。(図1-4-7)

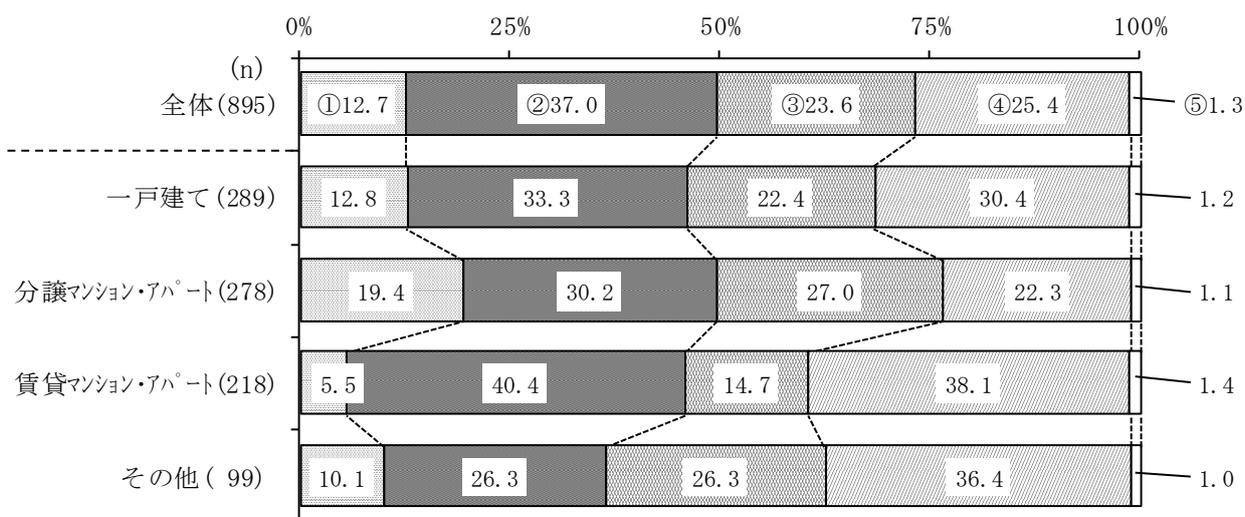
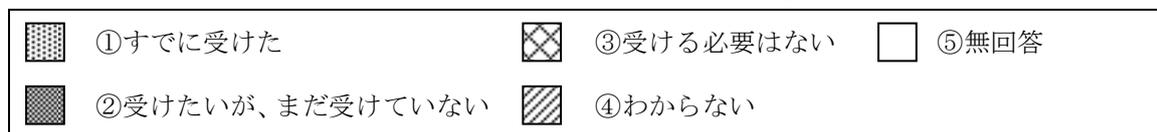
図1-4-8 耐震診断の意向（家屋の建築年数別）



問2 1-1「家屋の建築年数」の回答別でみると、「すでに受けた」では、昭和55年以前(23.3%)が昭和56年以降(9.8%)を13.5ポイント上回り、「受けたいが、まだ受けていない」では、昭和55年以前(45.0%)が昭和56年以降(33.2%)を11.8ポイント上回っている。

「受ける必要はない」では、昭和56年以降(34.6%)が昭和55年以前(9.9%)より24.7ポイント上回っている。(図1-4-8)

図1-4-9 耐震診断の意向（住居形態別4区分）



住居形態別4区分でみると、「受けたいが、まだ受けていない」では、賃貸マンション・アパート(40.4%)で約4割と最も高く、一戸建て(33.3%)は3割台半ば近く、分譲マンション・アパート(30.2%)では約3割となっている。(図1-4-9)

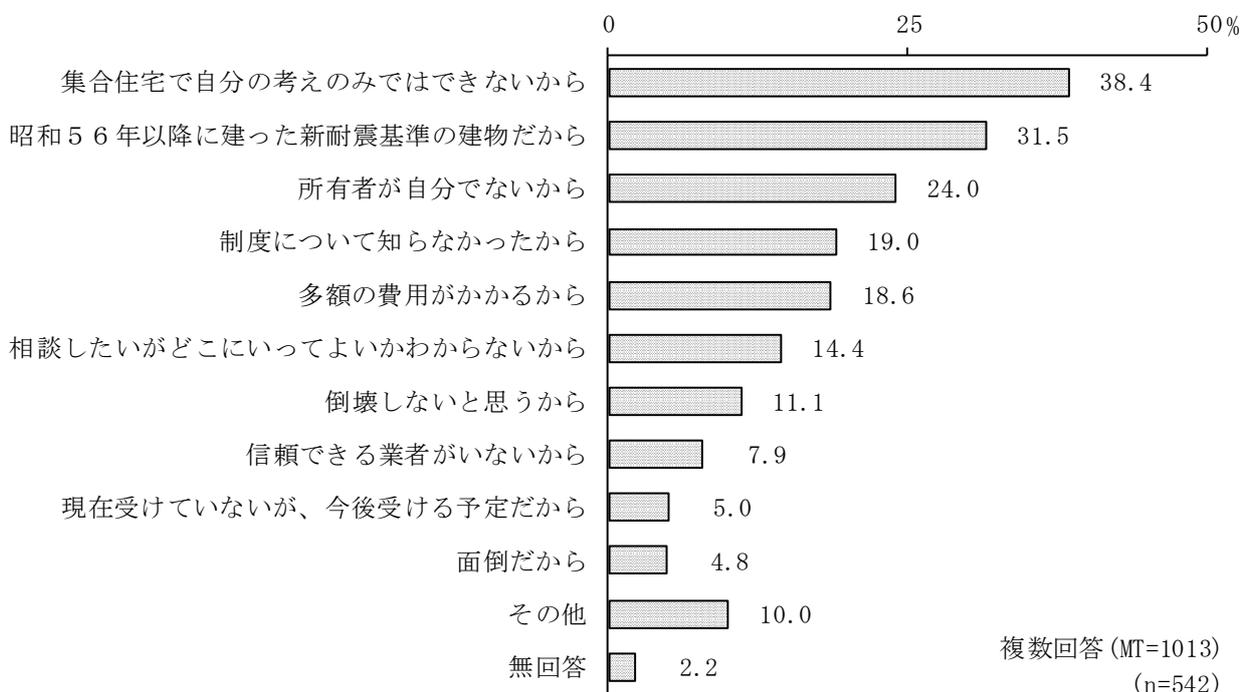
II 調査の結果 第1回（テーマ4 建物等の震災対策について）

（6）耐震診断を受けない理由

◎「集合住宅で自分の考えのみではできないから」が3割台半ば超

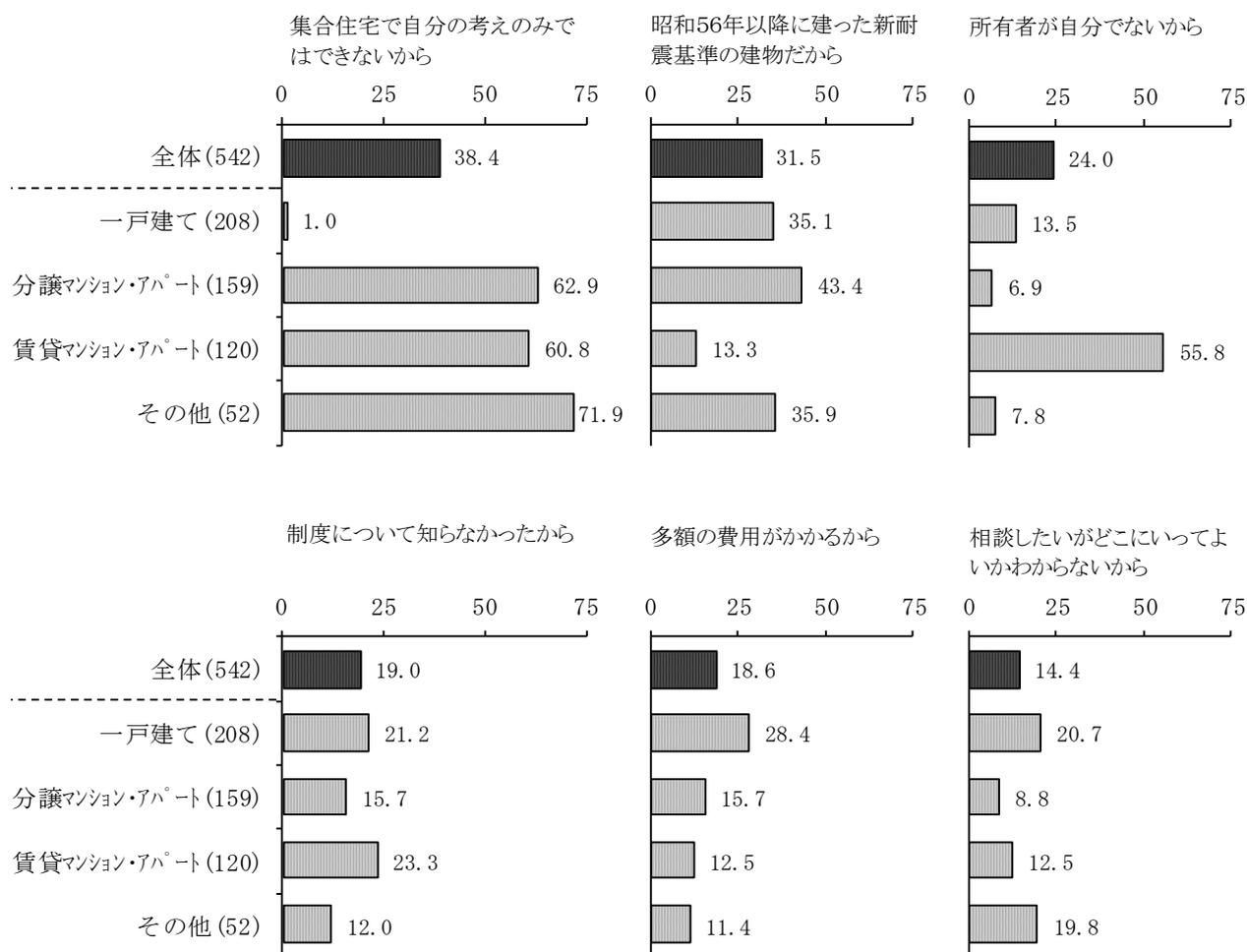
問24-1 問24で、【2. 受けたいが、まだ受けていない】または、【3. 受ける必要はない】の方	
耐震診断を受けていない理由は何ですか。（複数回答可）（n=542）	
1 現在受けていないが、今後受ける予定だから	5.0%
2 制度について知らなかったから	19.0
3 集合住宅で自分の考えのみではできないから	38.4
4 所有者が自分でないから	24.0
5 昭和56年以降に建った新耐震基準の建物だから	31.5
6 多額の費用がかかるから	18.6
7 倒壊しないと思うから	11.1
8 信頼できる業者がないから	7.9
9 相談したいがどこにいったらよいかわからないから	14.4
10 面倒だから	4.8
11 その他	10.0
無回答	2.2

図1-4-10 耐震診断を受けない理由



問24で、「受けたいが、まだ受けていない」または、「受ける必要はない」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「集合住宅で自分の考えのみではできないから」（38.4%）が3割台半ばを超え最も高く、「昭和56年以降に建った新耐震基準の建物だから」（31.5%）、「所有者が自分でないから」（24.0%）の順となっている。（図1-4-10）

図1-4-11 耐震診断を受けない理由（住居形態別4区分）



住居形態別4区分で見ると、「昭和56年以降に建った新耐震基準の建物だから」では、分譲マンション・アパート（43.4%）で4割台半ば近く、一戸建て（35.1%）で3割台半ば、賃貸マンション・アパート（13.3%）で1割台半ば近くとなっている。（図1-4-11）

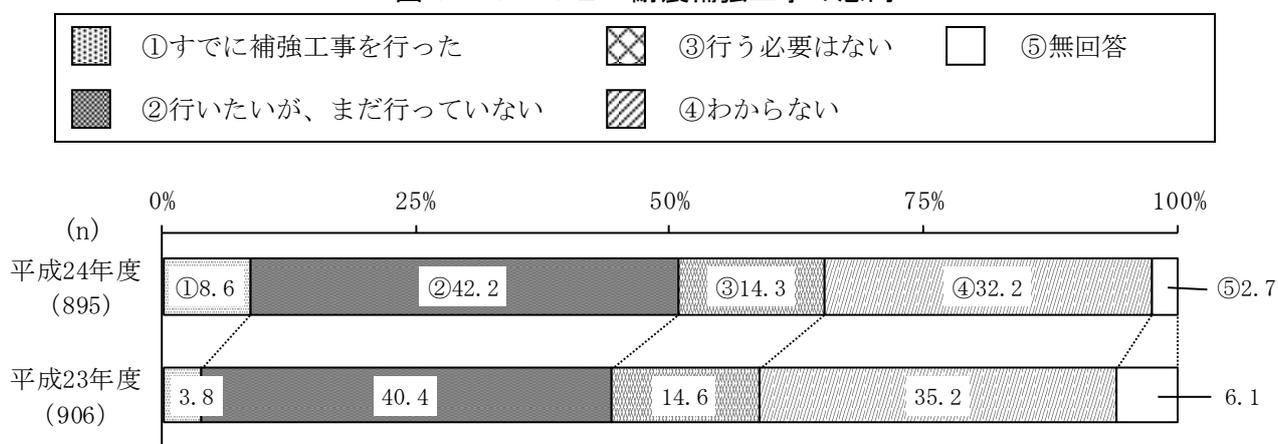
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ4 建物等の震災対策について）

（7）耐震補強工事の意向

◎「行いたい、まだ行っていない」が4割強

問25 お住まいの建物について耐震診断の結果で耐震補強が必要だった場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。(n=895)	
1	すでに補強工事を行った 8.6%
2	行いたい、まだ行っていない 42.2
3	行う必要はない 14.3
4	わからない 32.2
	無回答 2.7

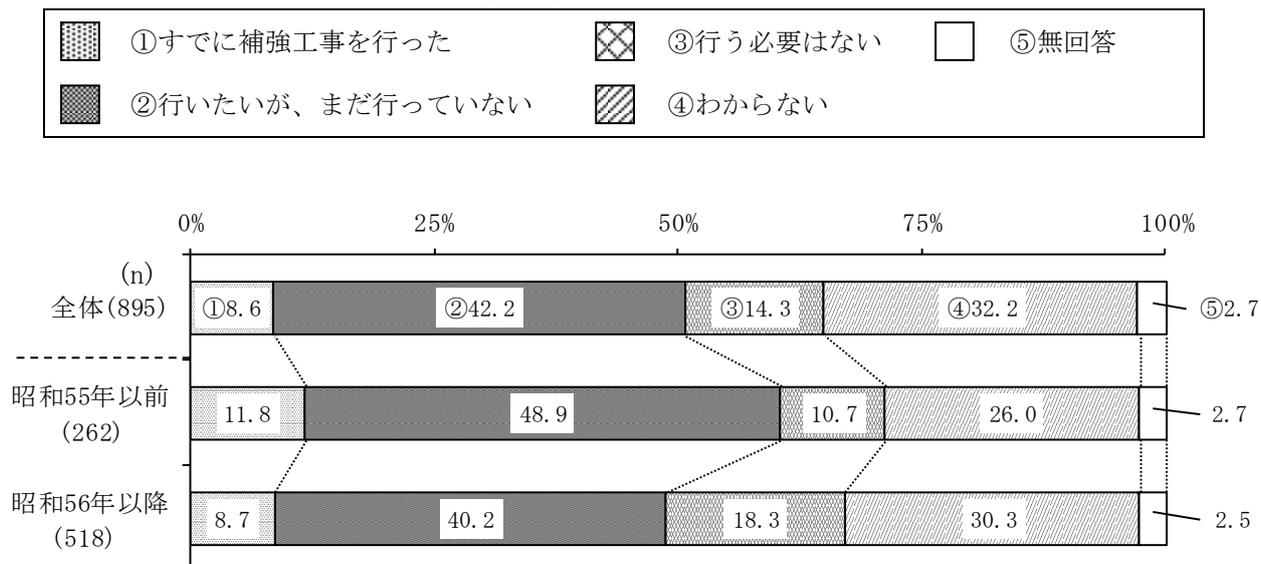
図1-4-12 耐震補強工事の意向



耐震補強工事の意向について聞いたところ、「行いたい、まだ行っていない」(42.2%)が4割強で最も高く、「わからない」(32.2%)、「行う必要はない」(14.3%)、「すでに補強工事を行った」(8.6%)の順となっている。

前回調査の結果と比較すると、大きな差異はみられない。(図1-4-12)

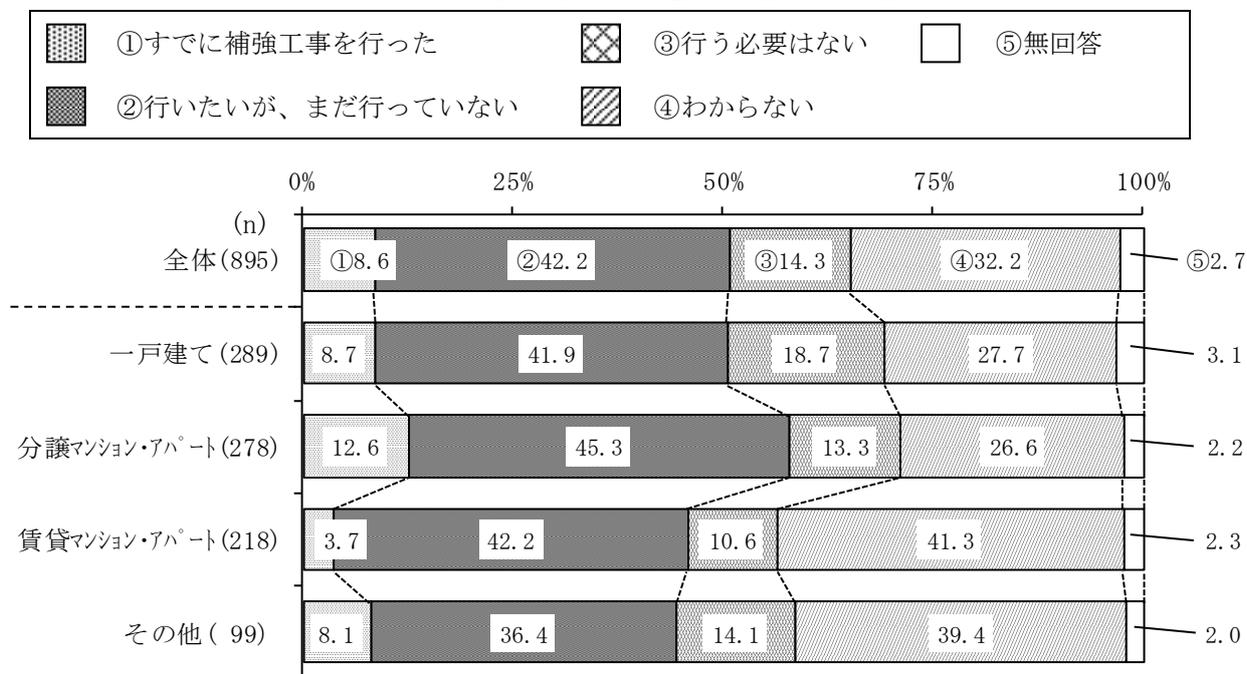
図1-4-13 耐震補強工事の意向（問21-1家屋の建築年数別）



問21-1「家屋の建築年数」別でみると、「行いたい、まだ行っていない」では、昭和55年以前（48.9%）が昭和56年以降（40.2%）を8.7ポイント上回っている。

「行う必要はない」では、昭和56年以降（18.3%）が、昭和55年以前（10.7%）を7.6ポイント上回っている。（図1-4-13）

図1-4-14 耐震補強工事の意向（住居形態別4区分）



住居形態別4区分でみると、「行う必要はない」では、一戸建て（18.7%）で1割台半ばを超え、他の住居形態より5.4から8.1ポイント上回っている。（図1-4-14）

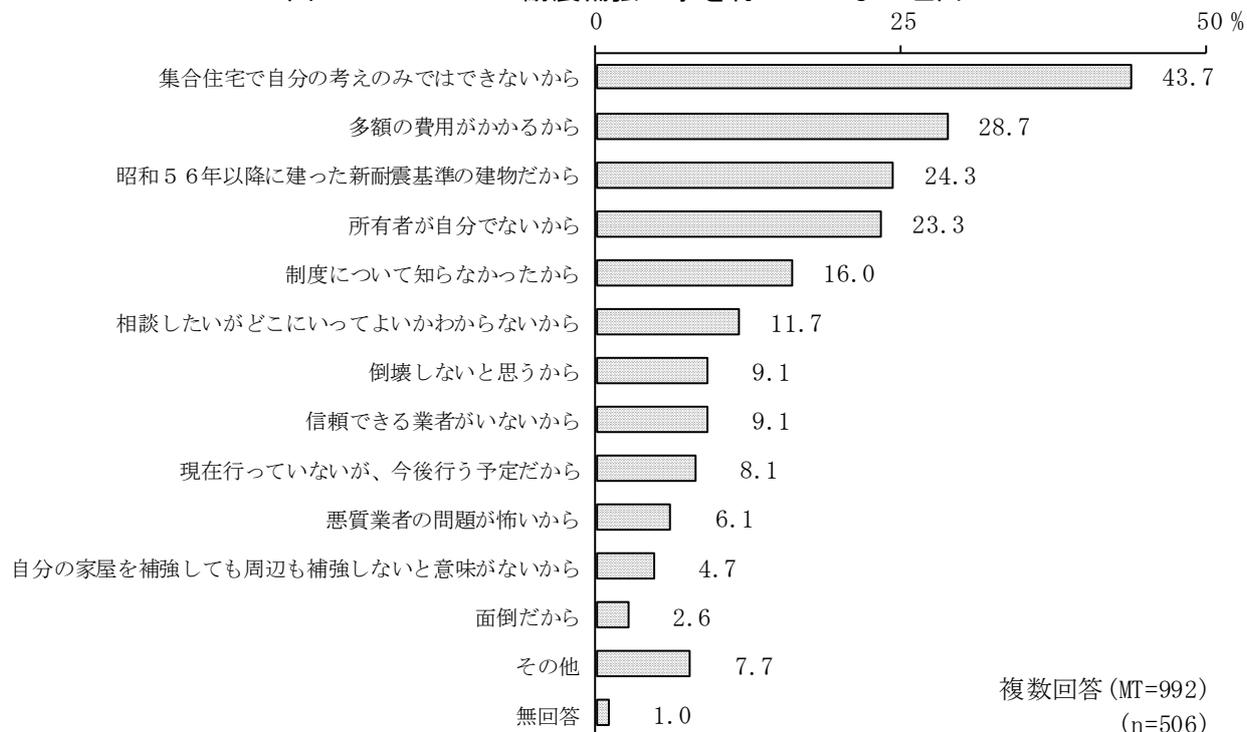
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ4 建物等の震災対策について）

（8）耐震補強工事を行っていない理由

◎「集合住宅で自分の考えのみではできないから」が4割台半ば近く

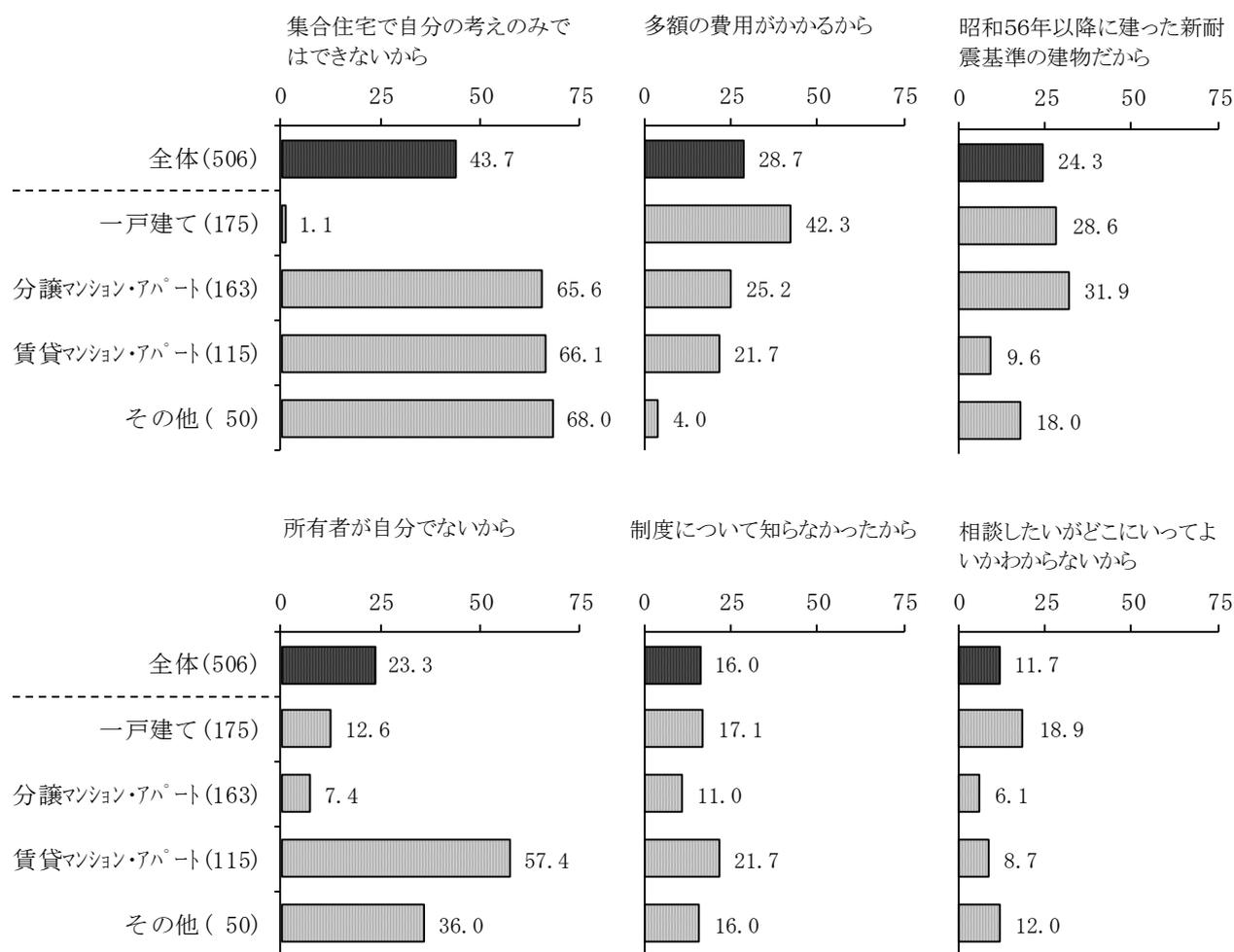
問25-1 問25で、【2. 行いたい、まだ行っていない】または、【3. 行う必要はない】の方 耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。（複数回答可）（n=506）	
1 現在行っていないが、今後行う予定だから	8.1%
2 制度について知らなかったから	16.0
3 集合住宅で自分の考えのみではできないから	43.7
4 所有者が自分でないから	23.3
5 昭和56年以降に建った新耐震基準の建物だから	24.3
6 多額の費用がかかるから	28.7
7 倒壊しないと思うから	9.1
8 信頼できる業者がないから	9.1
9 悪質業者の問題が怖いから	6.1
10 相談したいがどこにいったよいかわからないから	11.7
11 自分の家屋を補強しても周辺も補強しないと意味がないから	4.7
12 面倒だから	2.6
13 その他	7.7
無回答	1.0

図1-4-15 耐震補強工事を行っていない理由



問25で、「行いたい、まだ行っていない」または、「行う必要はない」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「集合住宅で自分の考えのみではできないから」（43.7%）が4割台半ば近くで最も高く、「多額の費用がかかるから」（28.7%）、「昭和56年以降に建った新耐震基準の建物だから」（24.3%）、「所有者が自分でないから」（23.3%）と続いている。（図1-4-15）

図1-4-16 耐震補強工事を行っていない理由（住居形態別4区分）



住居形態別4区分で見ると、「多額の費用がかかるから」では、一戸建て（42.3%）で4割強となっており、全体（28.7%）より13.6ポイント上回っている。

「昭和56年以降に建った新耐震基準の建物だから」では、分譲マンション・アパート（31.9%）で3割強、一戸建て（28.6%）で2割台半ば超、賃貸マンション・アパート（9.6%）で1割弱となっている。（図1-4-16）

Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ5 自転車利用について）

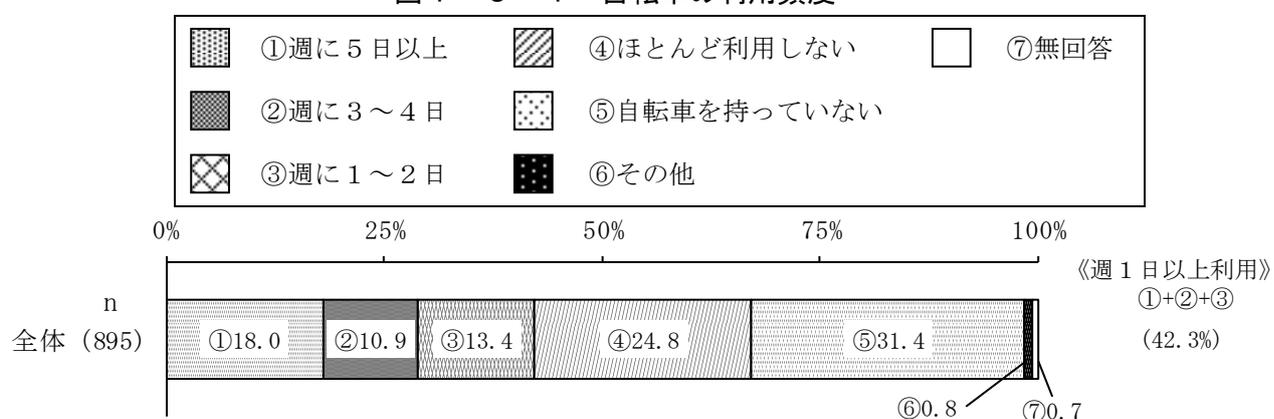
テーマ5 自転車利用について

（1）自転車の利用頻度

◎「自転車を持っていない」が3割強、「ほとんど利用しない」が2割台半ば近く

問26 普段、自転車をどの程度利用しますか。(n=895)		
1	週に5日以上	18.0%
2	週に3～4日	10.9
3	週に1～2日	13.4
4	ほとんど利用しない	24.8
5	自転車を持っていない	31.4
6	その他	0.8
	無回答	0.7

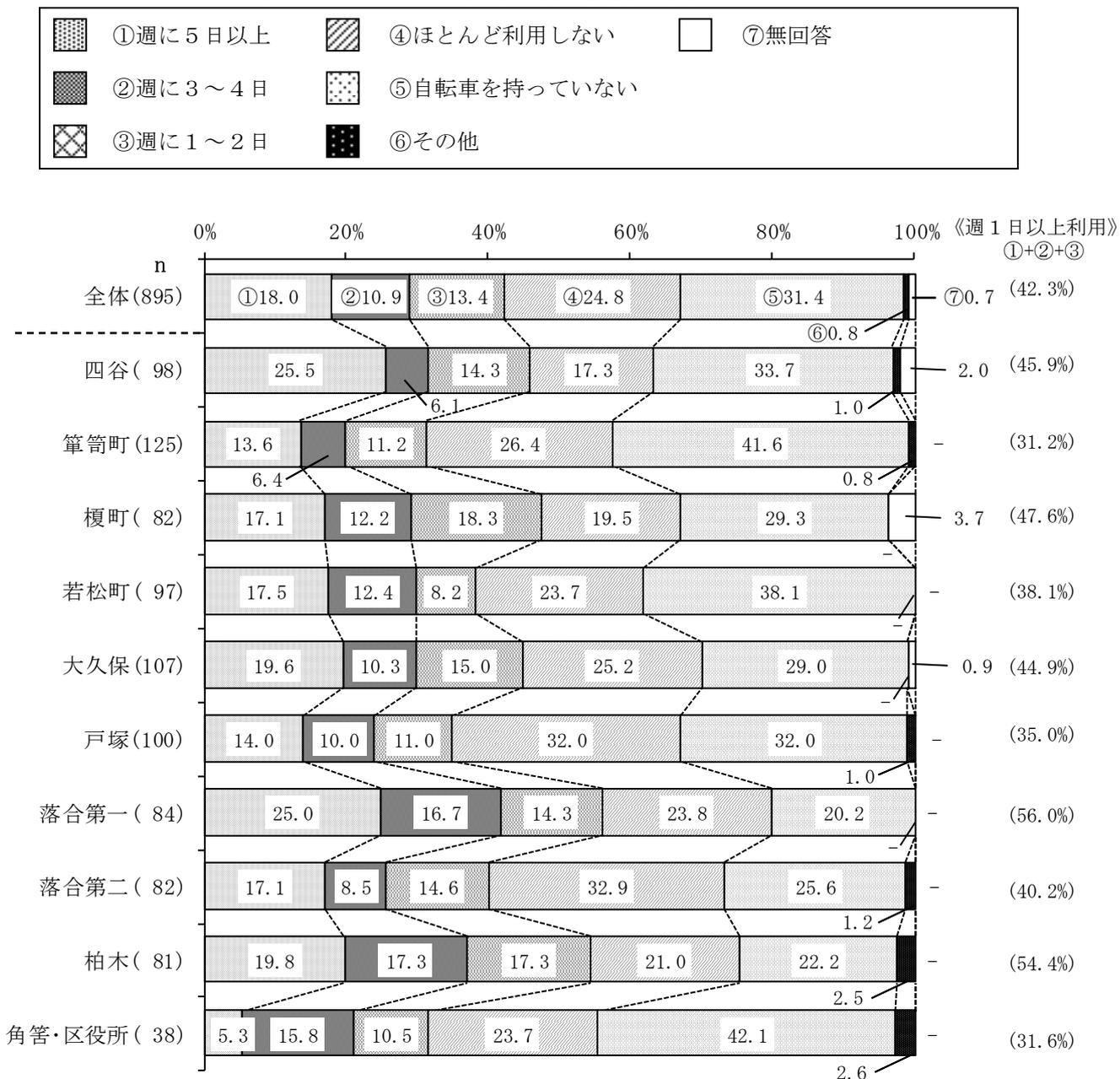
図1-5-1 自転車の利用頻度



自転車の利用頻度を聞いたところ、「自転車を持っていない」(31.4%)が3割強で最も高く、以下、「ほとんど利用しない」(24.8%)、「週に5日以上」(18.0%)、「週に1～2日」(13.4%)、「週に3～4日」(10.9%)の順となっている。

「週に5日以上」、「週に3～4日」、「週に1～2日」を合わせた《週1日以上利用》(42.3%)は4割強となっている。(図1-5-1)

図1-5-2 自転車の利用頻度（居住地域別）



居住地域別にみると、「自転車を持っていない」は、角筥・区役所（42.1%）が4割強で最も高く、箆笥町（41.6%）とともに4割台となっている。

「週に5日以上」、「週に3~4日」、「週に1~2日」を合わせた《週1日以上利用》は、落合第一（56.0%）が5割台半ばを越え、柏木（54.4%）とともに5割台となっている。（図1-5-2）

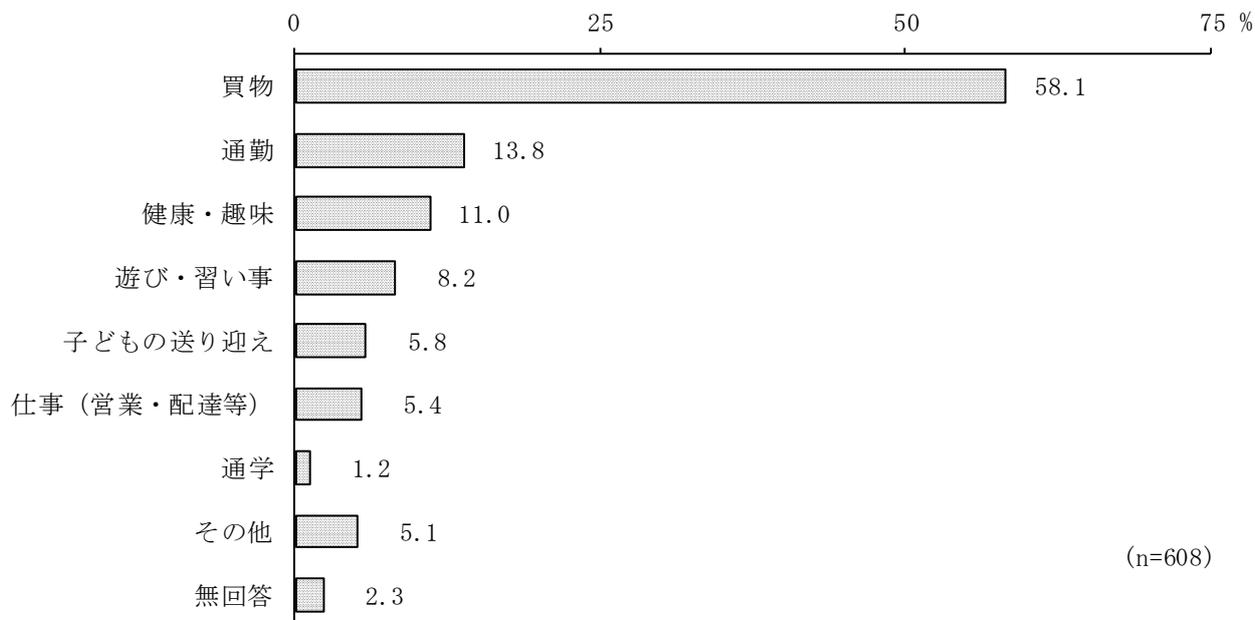
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ5 自転車利用について）

（2）自転車の主な利用目的

◎「買い物」が6割近く

問27 自転車を利用する主な目的は何ですか。(n=608)	
1 通勤	13.8%
2 通学	1.2
3 仕事（営業・配達等）	5.4
4 買い物	58.1
5 遊び・習い事	8.2
6 子どもの送り迎え	5.8
7 健康・趣味	11.0
8 その他	5.1
無回答	2.3

図1-5-3 自転車の主な利用目的



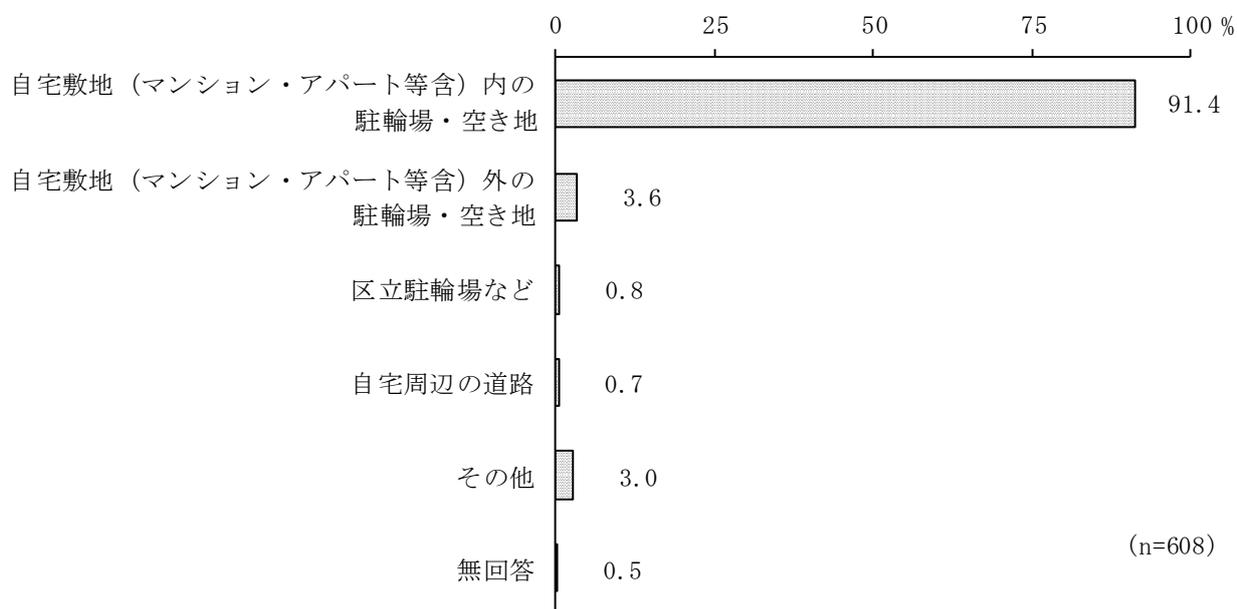
自転車の主な利用目的を聞いたところ、「買い物」(58.1%)が6割近くで最も高く、以下、「通勤」(13.8%)、「健康・趣味」(11.0%)と続いている。(図1-5-3)

(3) 自転車の保管場所

◎「自宅敷地（マンション・アパート等含）内の駐輪場・空き地」が9割強

問28 ご自宅では、日常的に自転車をどこに駐輪していますか。(n=608)	
1 自宅敷地（マンション・アパート等含）内の駐輪場・空き地	91.4%
2 自宅敷地（マンション・アパート等含）外の駐輪場・空き地	3.6
3 区立駐輪場など	0.8
4 自宅周辺の道路	0.7
5 その他	3.0
無回答	0.5

図1-5-4 自転車の保管場所



日常的に自転車をどこに駐輪しているか聞いたところ、「自宅敷地（マンション・アパート等含）内の駐輪場・空き地」（91.4%）が9割強となっている。（図1-5-4）

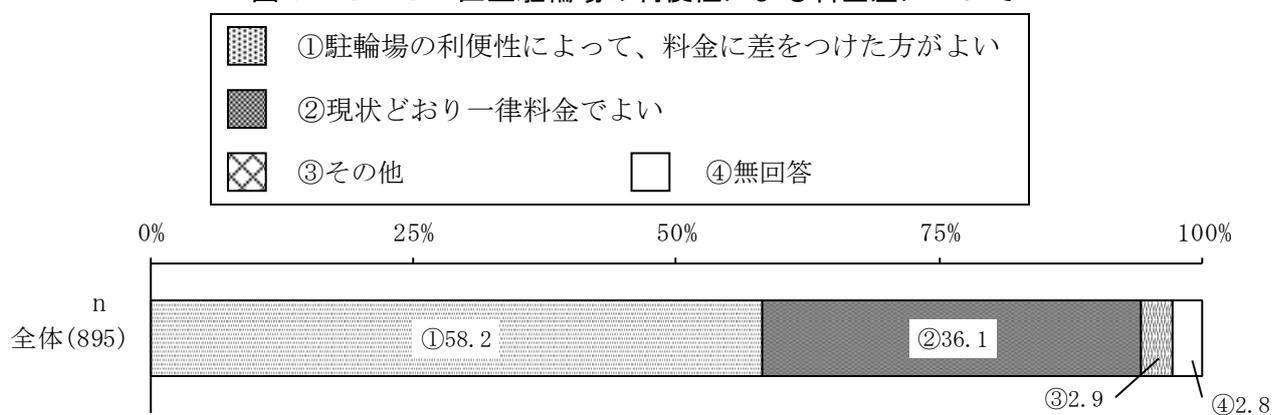
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ5 自転車利用について）

（4）区立駐輪場の利便性による料金差について

◎「駐輪場の利便性によって、料金に差をつけた方がよい」が6割近く

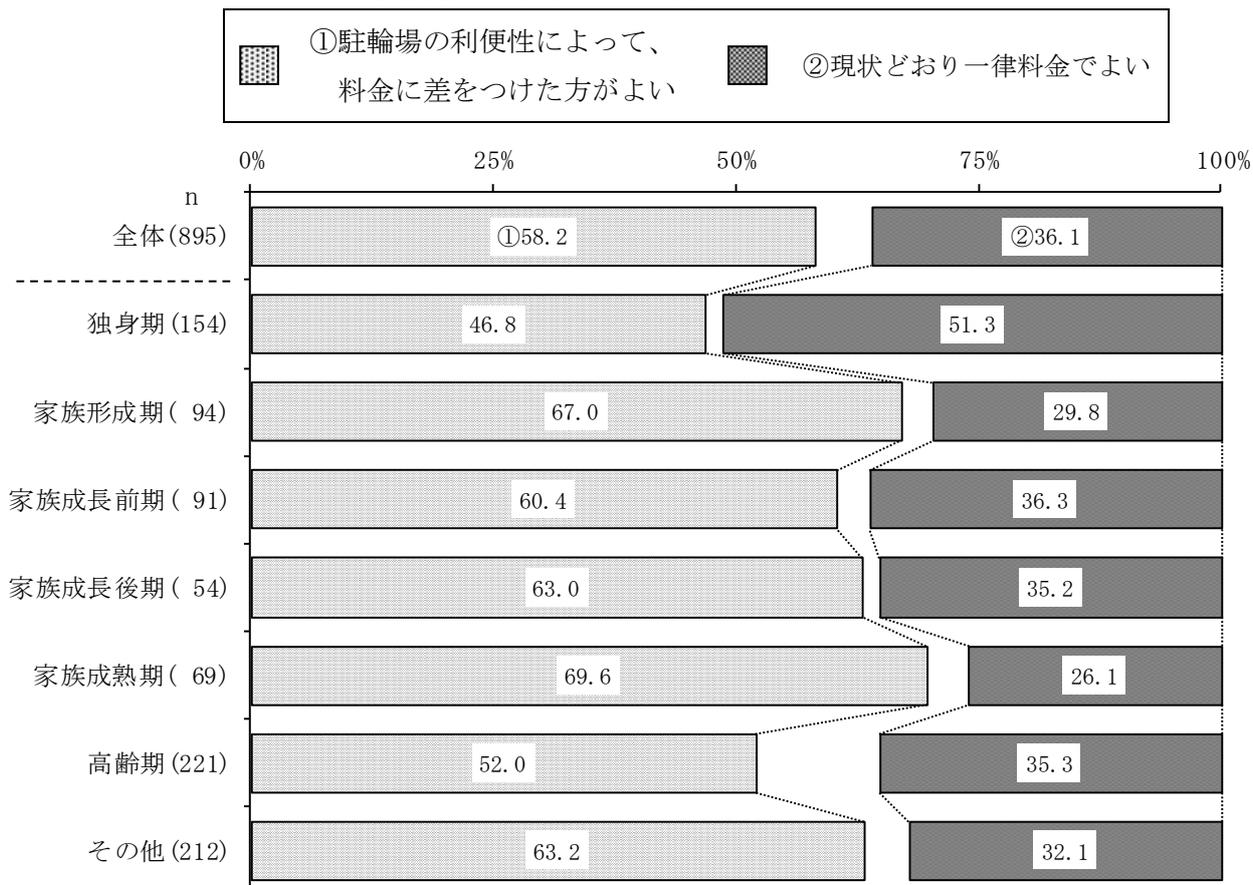
問29 現在、区立駐輪場は、一律料金になっています。駐輪場が駅に近い、屋根が整備されているなど個々の利便性によって料金に差をつけることについて、どのように思いますか。 あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(n=895)	
1 駐輪場の利便性によって、料金に差をつけた方がよい	58.2%
2 現状どおり一律料金でよい	36.1
3 その他	2.9
無回答	2.8

図1-5-5 区立駐輪場の利便性による料金差について



区立駐輪場を、利便性により料金に差をつけることについての考えを聞いたところ、「駐輪場の利便性によって、料金に差をつけた方がよい」(58.2%)が6割近くと最も高く、「現状どおり一律料金でよい」(36.1%)が3割台半ば超となっている。(図1-5-5)

図1-5-6 区立駐輪場の利便性による料金差について（ライフステージ別）



ライフステージ別でみると、「現状どおり一律料金でよい」では、独身期（51.3%）が5割強と、全体を15.2ポイント上回っている。（図1-5-6）

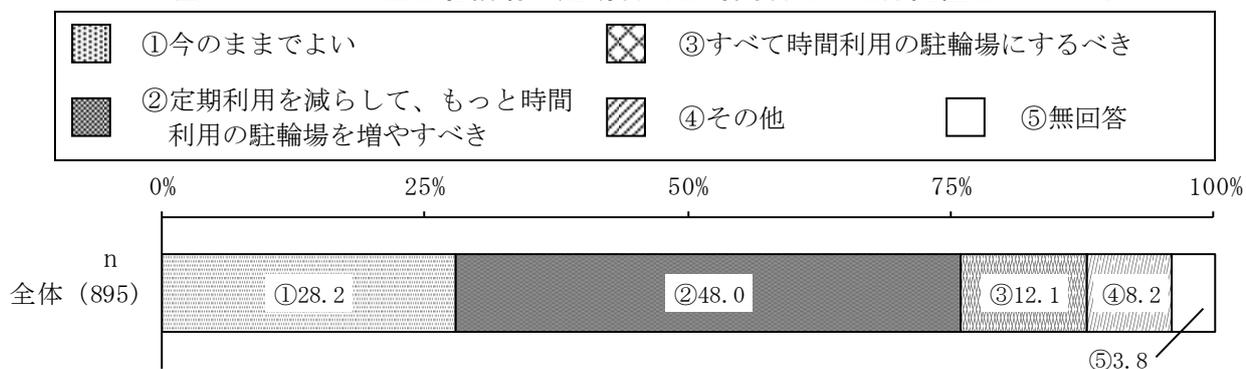
II 調査の結果 第1回（テーマ5 自転車利用について）

（5）区立駐輪場の定期利用と時間利用の配分見直しについて

◎「定期利用を減らして、もっと時間利用の駐輪場を増やすべき」が5割近く

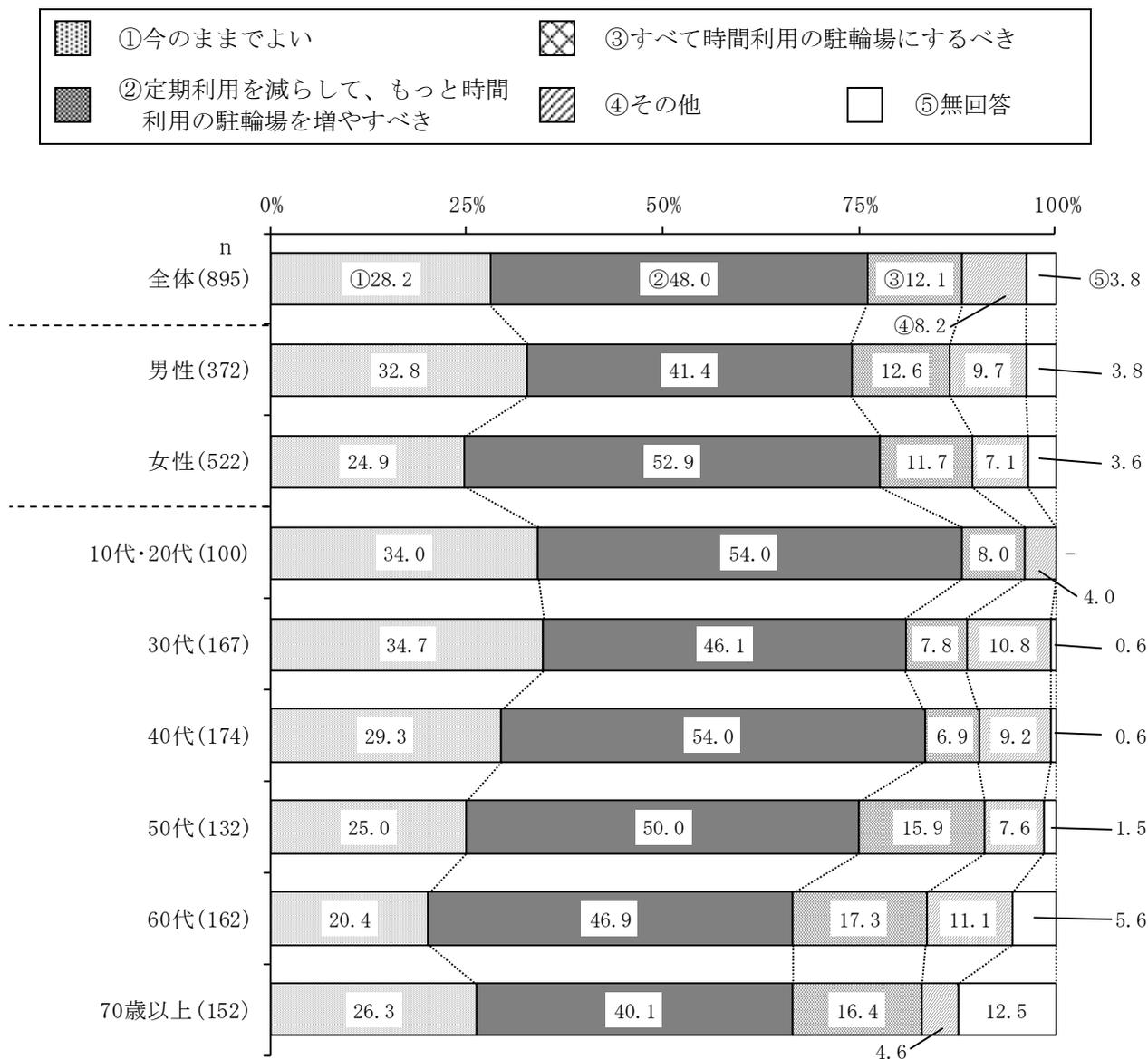
問30	現在、利用者から区に対して、買い物などに便利な時間利用駐輪場の整備について要望が寄せられています。区では、定期利用（全体の約90%）の台数配分を見直し、誰でも利用できる時間利用スペースを増やしていきます。これからの自転車駐輪場整備の在り方について、最も適当だと思うものは次のうちどれですか。 あてはまるものを1つ選んでください。（n=895）
1	今のままでよい 28.2%
2	定期利用を減らして、もっと時間利用の駐輪場を増やすべき 48.0
3	すべて時間利用の駐輪場にするべき 12.1
4	その他 8.2
	無回答 3.8

図1-5-7 区立駐輪場の定期利用と時間利用の配分見直しについて



区立駐輪場の定期利用と時間利用の配分見直しについて聞いたところ、「定期利用を減らして、もっと時間利用の駐輪を増やすべき」（48.0%）が5割近くで最も高く、以下、「今のままでよい」（28.2%）、「すべて時間利用の駐輪場にするべき」（12.1%）と続いている。（図1-5-7）

図1-5-8 区立駐輪場の定期利用と時間利用の配分見直しについて
(性別・年代別)



性別・年代別で見ると、性別では「定期利用を減らして、もっと時間利用の駐輪場を増やすべき」で、女性（52.9%）が男性（41.4%）を11.5ポイント上回っている。

年代別で見ると、「定期利用を減らして、もっと時間利用の駐輪場を増やすべき」で、40代（54.0%）と10代・20代（54.0%）が5割半ば近くで最も高く、50代（50.0%）とともに5割以上となっている。（図1-5-8）

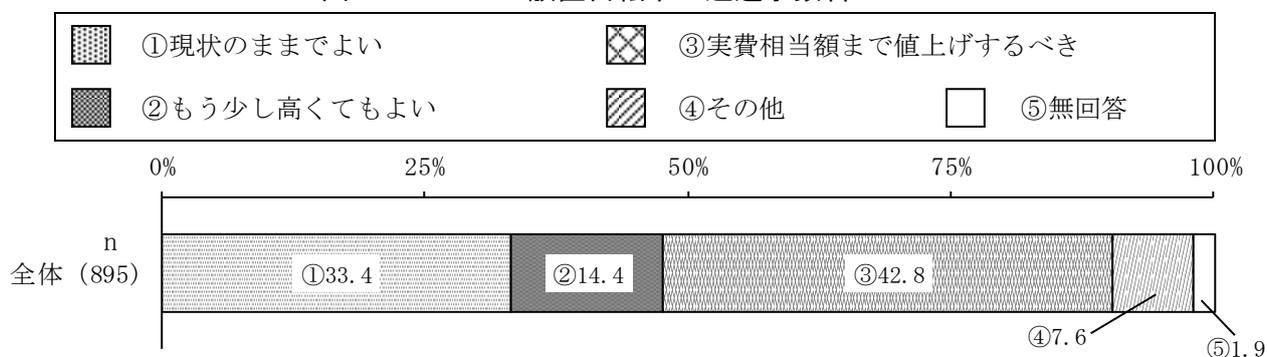
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ5 自転車利用について）

（6）放置自転車の返還手数料について

◎「実費相当額まで値上げするべき」が4割強

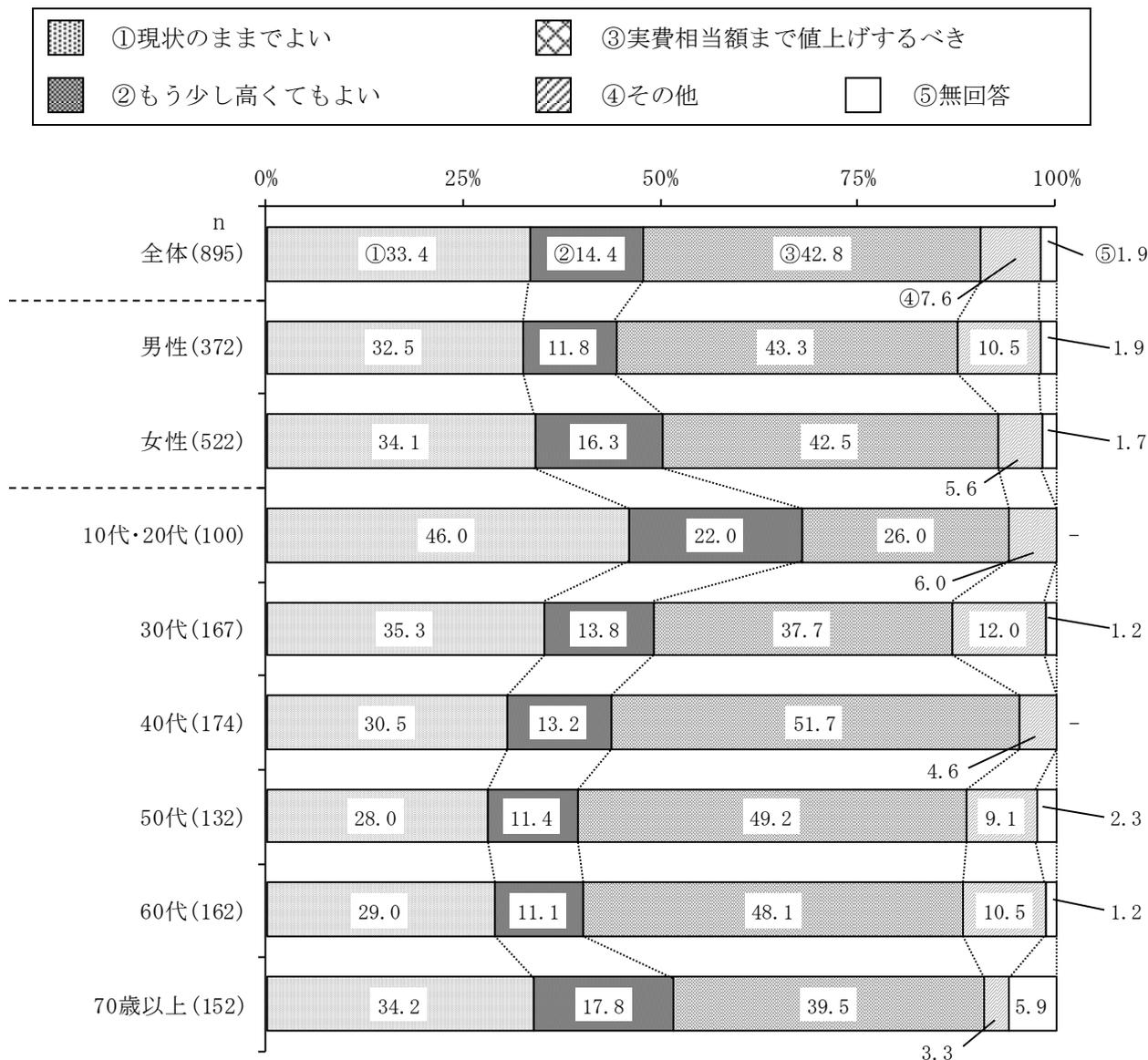
問3 1 放置自転車の撤去や保管には1台あたり約5,500円の費用がかかっていますが、返還手数料は、現在3,000円となっています。返還手数料の金額についてどう思いますか。 あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(n=895)	
1 現状のままでよい	33.4%
2 もう少し高くてもよい	14.4
3 実費相当額まで値上げするべき	42.8
4 その他	7.6
無回答	1.9

図1-5-9 放置自転車の返還手数料について



放置自転車の返還手数料について聞いたところ、「実費相当額まで値上げするべき」(42.8%)が4割強で最も高く、以下、「現状のままでよい」(33.4%)、「もう少し高くてもよい」(14.4%)の順となっている。(図1-5-9)

図1-5-10 放置自転車の返還手数料について（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別でみると、「実費相当額まで値上げすべき」では、40代（51.7%）が5割強で最も高く、50代（49.2%）、60代（48.1%）ともに5割前後となっている。

一方、10代・20代（26.0%）では2割台半ばで、全体（42.8%）を16.8ポイント下回っている。

（図1-5-10）

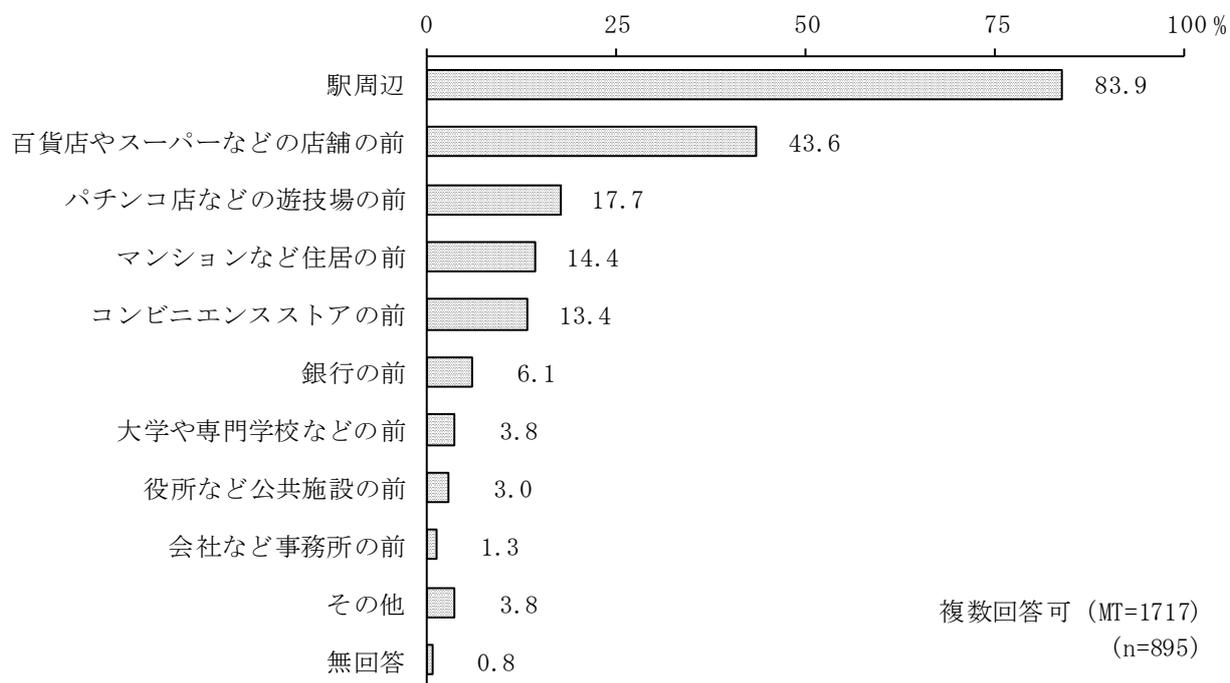
Ⅱ 調査の結果 第1回（テーマ5 自転車利用について）

（7）放置自転車が多いと思う場所

◎「駅周辺」が8割代半ば近く

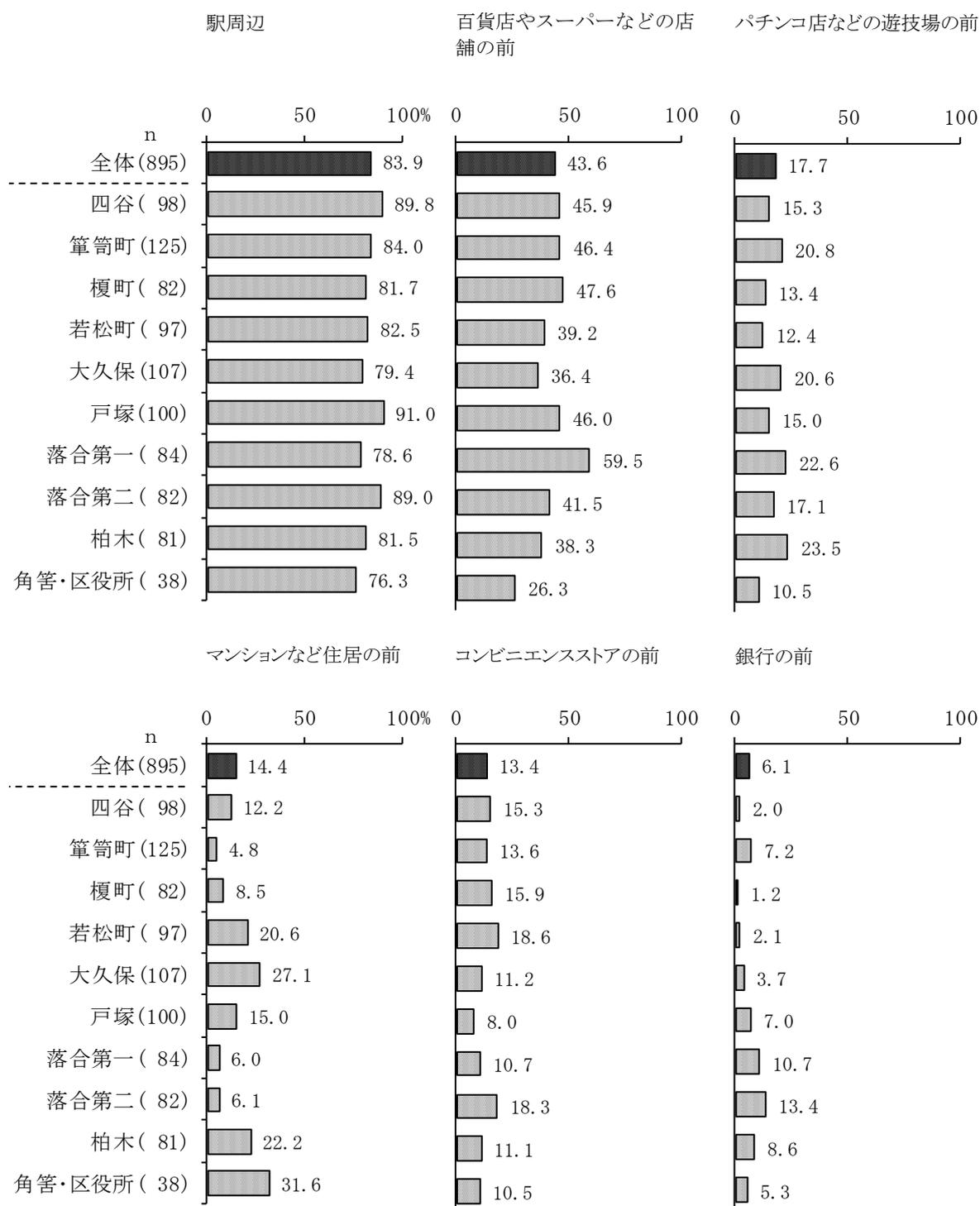
問3 2 歩行者の通行の障害になったり、街の美観を乱す放置自転車ですが、放置自転車が多いと思う場所はどこですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答可）（n=895）	
1 駅周辺	83.9%
2 百貨店やスーパーなどの店舗の前	43.6
3 コンビニエンスストアの前	13.4
4 パチンコ店などの遊技場の前	17.7
5 銀行の前	6.1
6 役所など公共施設の前	3.0
7 大学や専門学校などの前	3.8
8 会社など事務所の前	1.3
9 マンションなど住居の前	14.4
10 その他	3.8
無回答	0.8

図1-5-11 放置自転車が多いと思う場所



放置自転車が多いと思う場所を聞いたところ、「駅周辺」(83.9%)が8割台半ば近くで最も高く、「百貨店やスーパーなどの店舗の前」(43.6%)が4割台半ば近くで続いている。(図1-5-11)

図1-5-12 放置自転車が多いと思う場所（居住地域別）上位6項目



上位6項目を居住地域別にみると、「百貨店やスーパーなど店舗の前」では、落合第一（59.5%）が6割弱で最も高く、全体（43.6%）を15.9ポイント上回っている。

「マンションなどの住居の前」では、角筈・区役所（31.6%）が、全体（14.4%）を17.2ポイント上回っている。（図1-5-12）

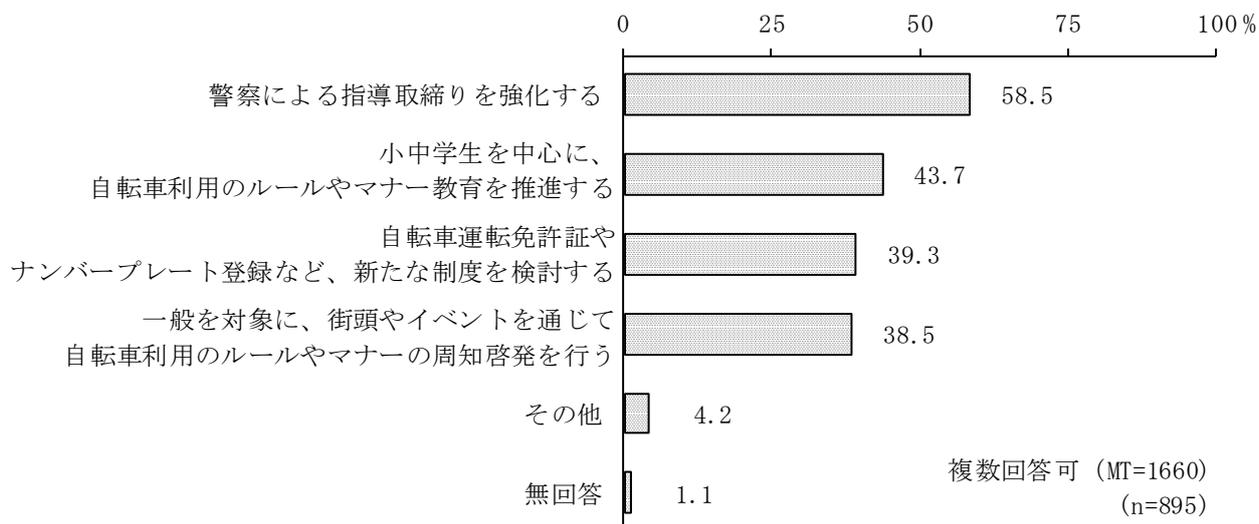
II 調査の結果 第1回（テーマ5 自転車利用について）

（8）自転車利用のルール・マナー向上のために効果的だと思うこと

◎「警察による指導取締りを強化する」が6割近く

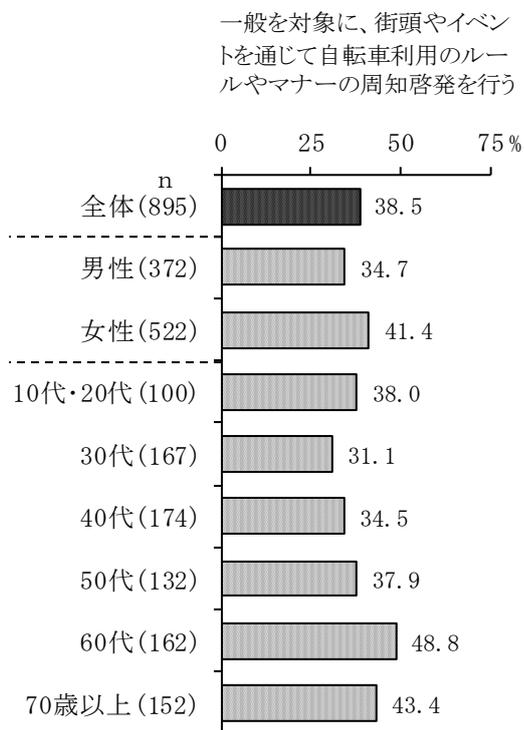
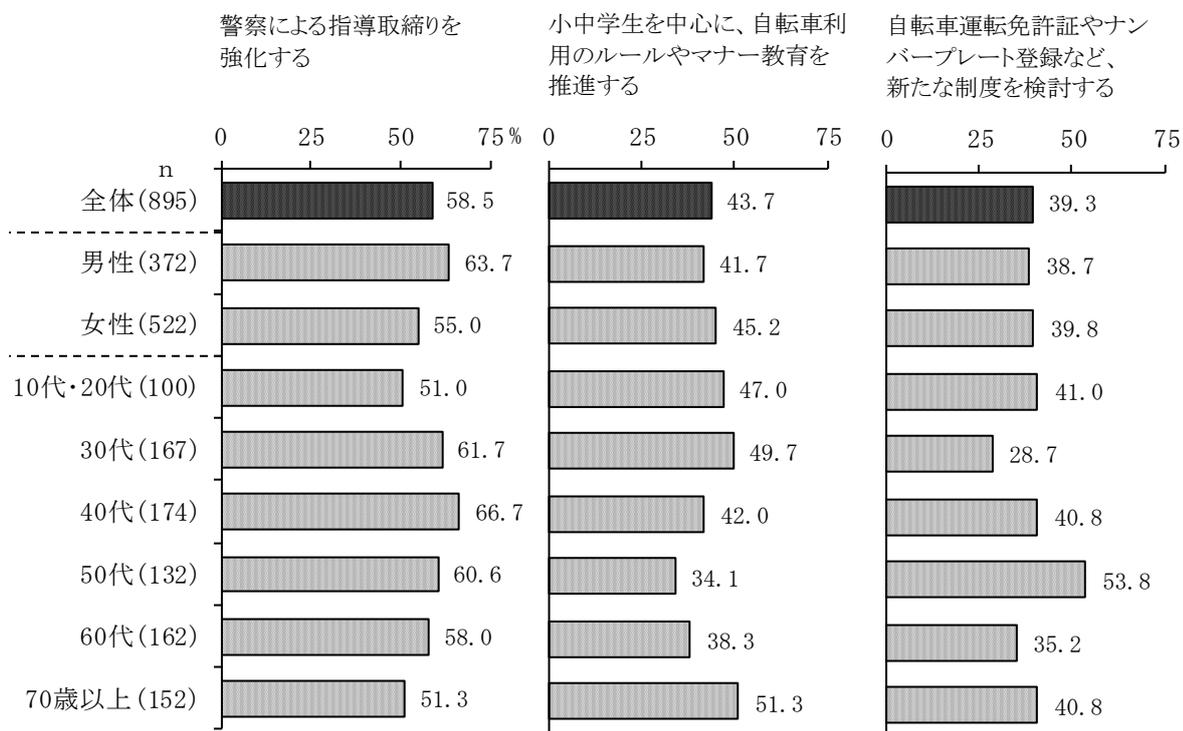
問33 信号無視や携帯電話を操作しながら運転するなど自転車のルールやマナーが社会問題となっています。自転車利用のルール・マナーを向上させるために、効果的だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答可）（n=895）	
1 小中学生を中心に、自転車利用のルールやマナー教育を推進する	43.7%
2 一般を対象に、街頭やイベントを通じて自転車利用のルールやマナーの周知啓発を行う	38.5
3 自転車運転免許証やナンバープレート登録など、新たな制度を検討する	39.3
4 警察による指導取締りを強化する	58.5
5 その他	4.2
無回答	1.1

図1-5-13 自転車利用のルール・マナー向上のために効果的だと思うこと



自転車利用のルール・マナー向上のために効果的だと思うことを聞いたところ、「警察による指導取締りを強化する」(58.5%)が6割近くで最も高く、以下、「小中学生を中心に、自転車利用のルールやマナー教育を推進する」(43.7%)、「自転車運転免許証やナンバープレート登録など、新たな制度を検討する」(39.3%)、「一般を対象に、街頭やイベントを通じて自転車利用のルールやマナーの周知啓発を行う」(38.5%)の順となっている。(図1-5-13)

図1-5-14 自転車利用のルール・マナー向上のために効果的だと思うこと
(性別・年代別)



性別で見ると、「警察による指導取締りを強化する」では、男性（63.7%）が女性（55.0%）を8.7ポイント上回っている。

年代別では、「自転車運転免許証やナンバープレート登録など、新たな制度を検討する」では、50代（53.8%）が5割半ば近くと、全体（39.3%）を14.5ポイント上回っている。

(図1-5-14)

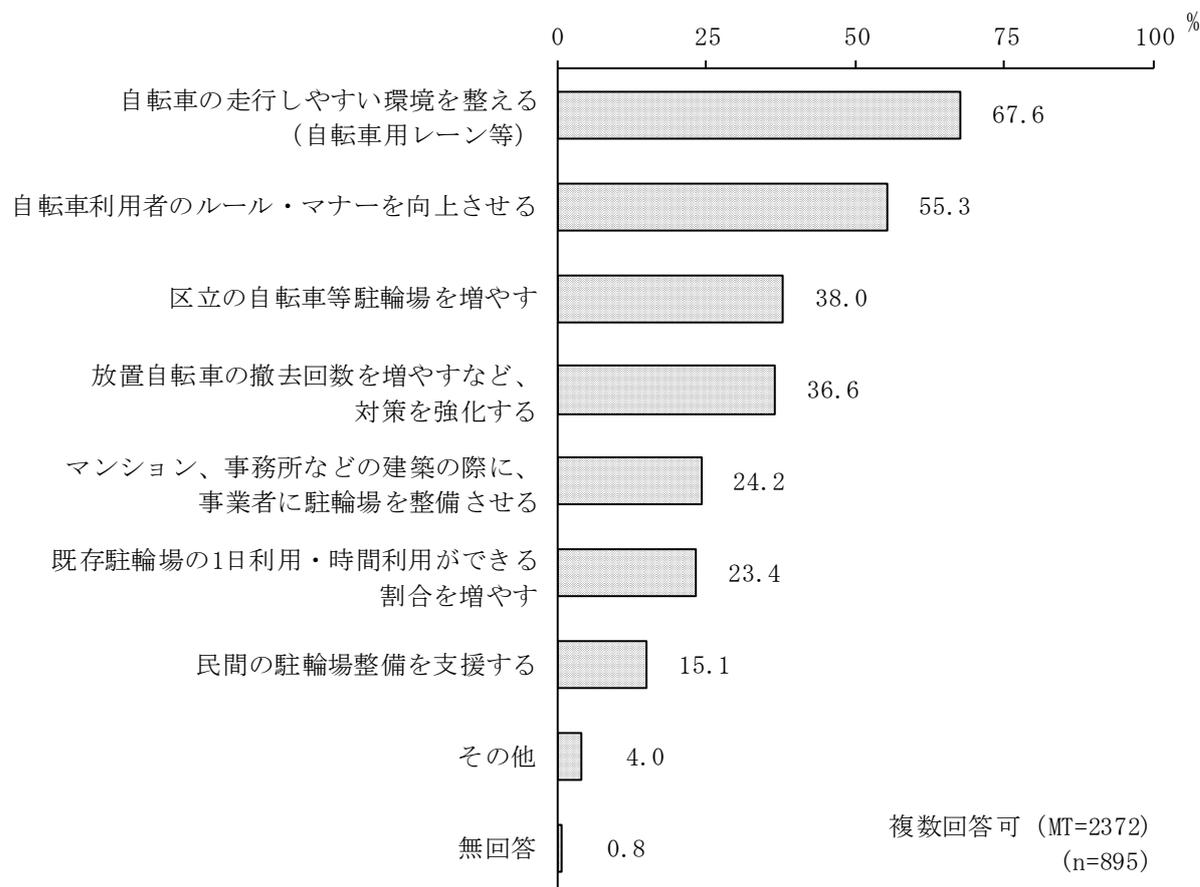
II 調査の結果 第1回（テーマ5 自転車利用について）

（9）自転車利用環境に関する区が取り組むべき施策

◎「自転車の走行しやすい環境を整える（自転車用レーン等）」が6割半ばを超える

問3 4 今後の自転車に関して区が取り組むべき施策の中で重要だと思うことは何ですか。 あてはまるものを3つまで選んでください。（複数回答可）（n=895）	
1 自転車利用者のルール・マナーを向上させる	55.3%
2 自転車の走行しやすい環境を整える（自転車用レーン等）	67.6
3 区立の自転車等駐輪場を増やす	38.0
4 既存駐輪場の1日利用・時間利用ができる割合を増やす	23.4
5 放置自転車の撤去回数を増やすなど、対策を強化する	36.6
6 民間の駐輪場整備を支援する	15.1
7 マンション、事務所などの建築の際に、事業者駐輪場を整備させる	24.2
8 その他	4.0
無回答	0.8

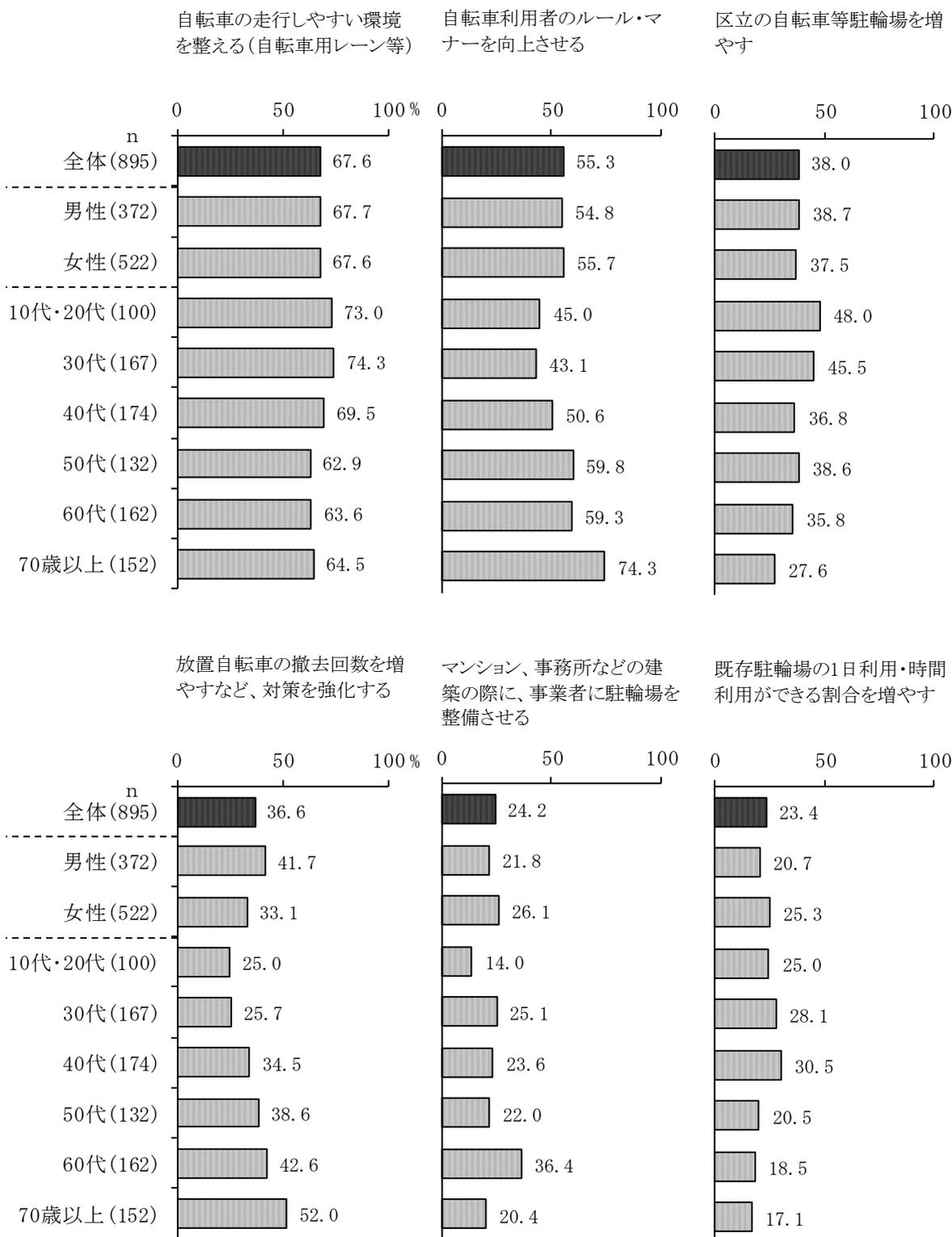
図1-5-15 自転車利用環境に関する区が取り組むべき施策



自転車利用環境に関する区が取り組むべきと思う施策を聞いたところ、「自転車の走行しやすい環境を整える（自転車用レーン等）」（67.6%）が6割台半ばを超え最も高く、以下、「自転車利用者のルール・マナーを向上させる」（55.3%）、「区立の自転車等駐輪場を増やす」（38.0%）、「放置自転車の撤去回数を増やすなど、対策を強化する」（36.6%）と続いている。（図1-5-15）

図1-5-16 自転車利用環境に関する区が取り組むべき施策（性別・年代別）

上位6項目



性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別にみると、「自転車利用者のルール・マナーを向上させる」では、70歳以上（74.3%）が7割半ば近くで最も高く、最も低い30代（43.1%）との差は31.2ポイントとなっている。

(図1-5-16)

第2回

<テーマ>

- テーマ1 区職員の接遇について
- テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて
- テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について
- テーマ4 成年後見制度について

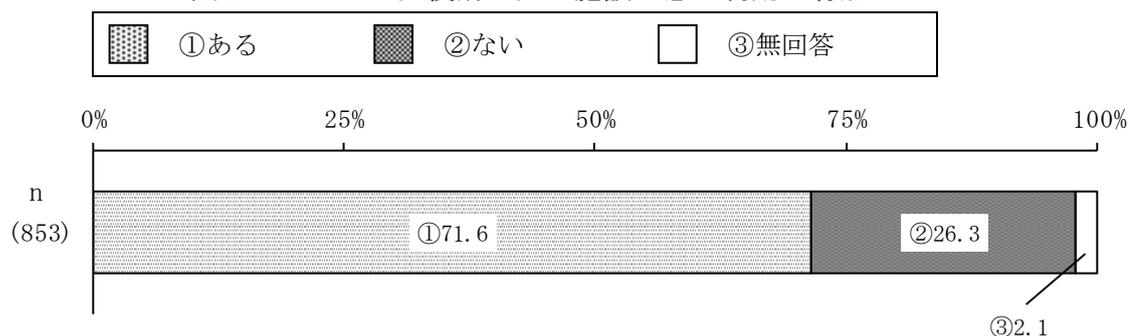
テーマ1 区職員の接遇について

(1) 区役所・区の施設の窓口利用の有無

◎「ある」が7割強

問1	あなたは、過去1年以内に、区役所や区の施設の窓口に出かけたことがありますか。(n=853)	
1	ある	71.6%
2	ない	26.3
	無回答	2.1

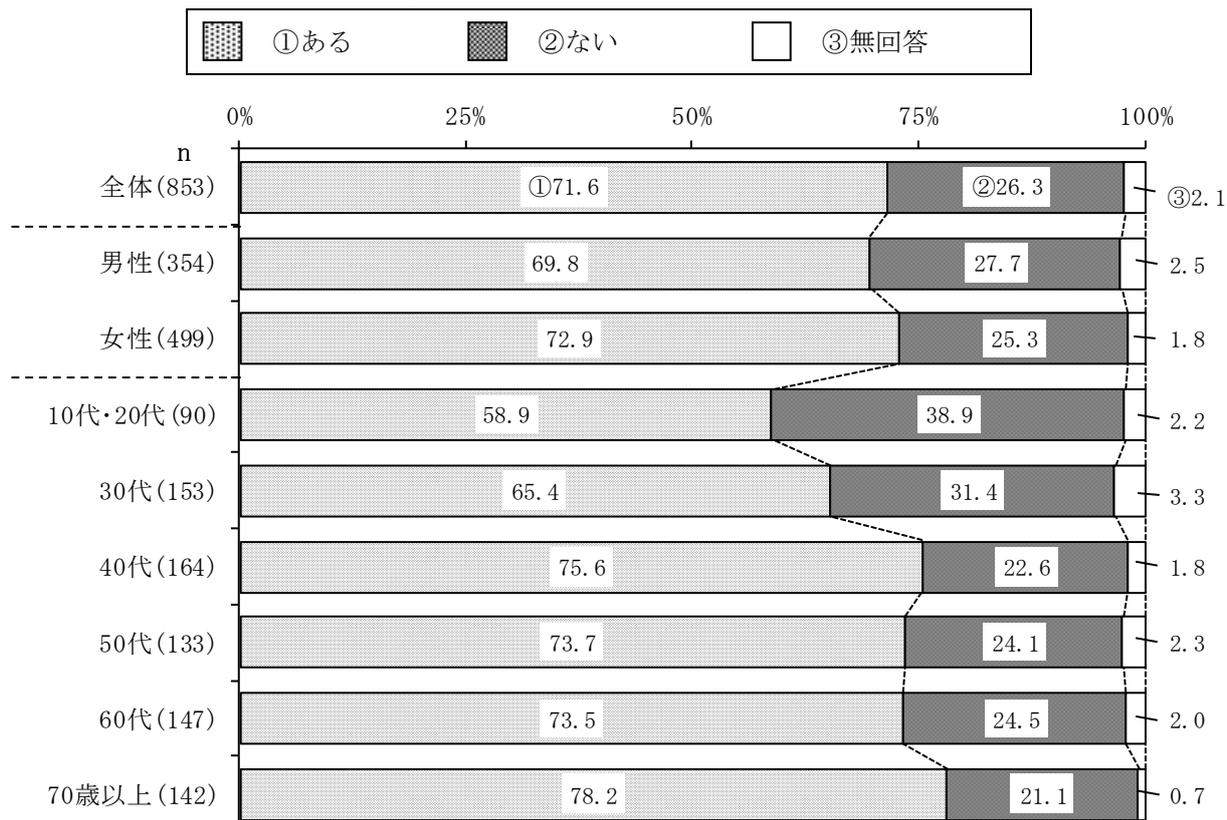
図2-1-1 区役所・区の施設の窓口利用の有無



過去1年以内の区役所・区の施設の窓口利用の有無を聞いたところ、「ある」(71.6%)が7割強、「ない」(26.3%)が2割台半ばを超える。(図2-1-1)

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ1 区職員の接遇について）

図2-1-2 区役所・区の施設の窓口利用の有無（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「ある」は70歳以上（78.2%）が8割近くで最も高く、全体（71.6%）を6.6ポイント上回っている。

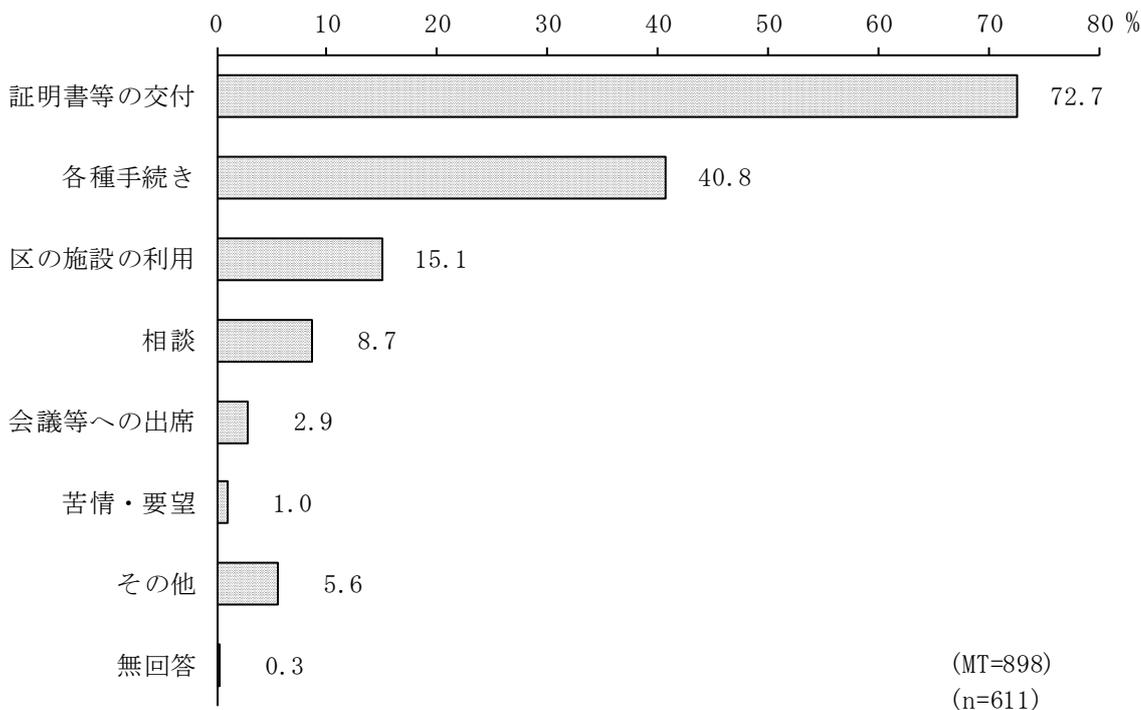
「ない」は、10代・20代（38.9%）が4割近くで最も高く、全体（26.3%）を12.6ポイント上回っている。（図2-1-2）

(2) 区役所・区の施設の窓口利用の用件

◎「証明書等の交付」が7割強

問1-1 問1で、【1ある】の方		
どのような用件で出かけましたか。(複数回答可) (n=611)		
1	証明書等の交付	72.7%
2	各種手続き	40.8
3	相談	8.7
4	区の施設の利用	15.1
5	会議等への出席	2.9
6	苦情・要望	1.0
7	その他	5.6
	無回答	0.3

図2-1-3 区役所・区の施設の窓口利用の用件



問1で「ある」の方に、窓口利用の用件を聞いたところ、「証明書等の交付」(72.7%)が7割強で最も高く、以下、「各種手続き」(40.8%)、「区の施設の利用」(15.1%)の順となっている。

(図2-1-3)

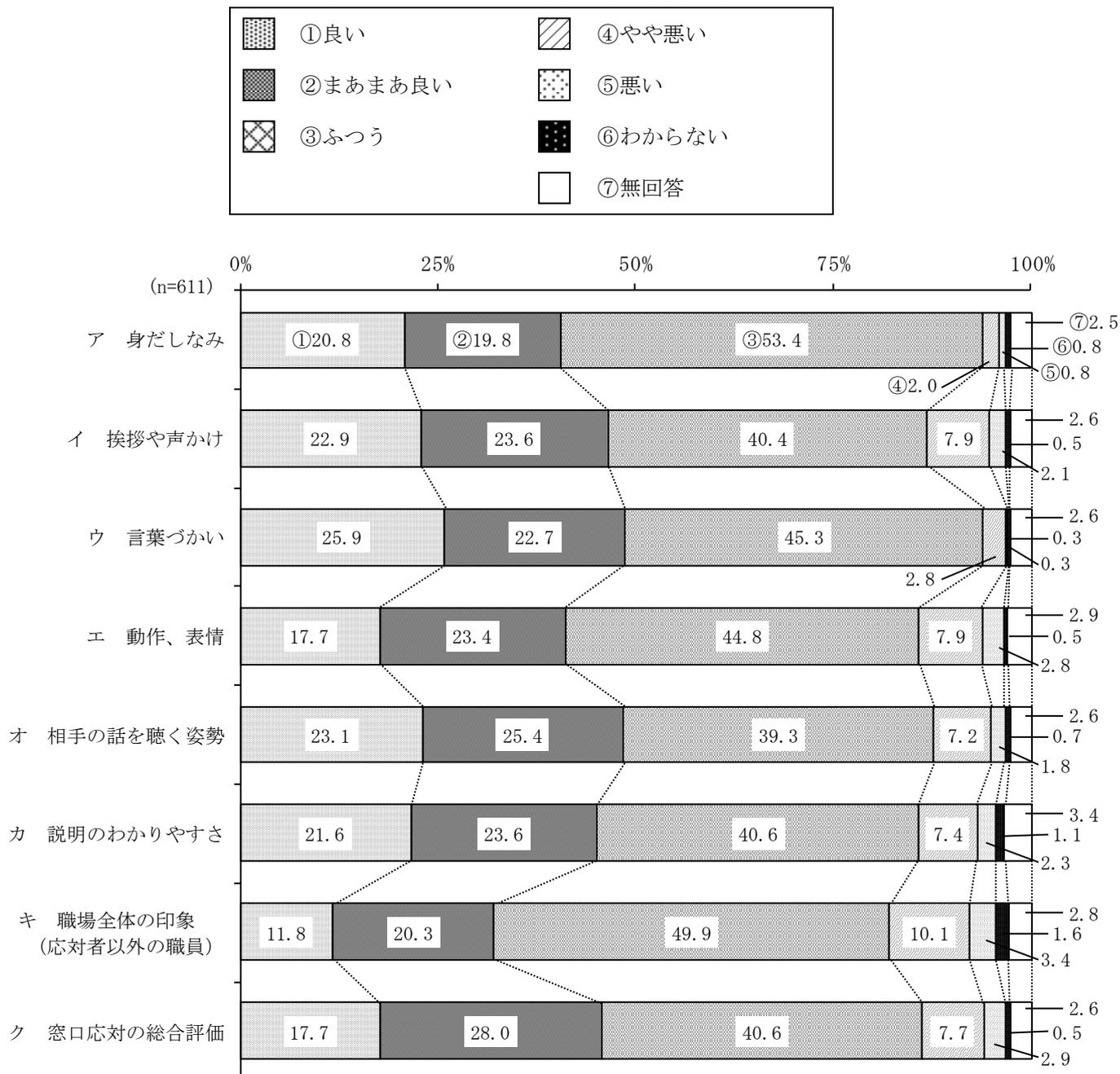
Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ1 区職員の接遇について）

（3）窓口利用時の職員の対応

◎「良い」が最も高いのは、『言葉づかい』で2割台半ば

問1-2 問1で【1ある】の方 その時の区職員の対応はいかがでしたか。(n=611)							
	良い	まあまあ良い	ふつう	やや悪い	悪い	わからない	無回答
ア 身だしなみ	20.8%	19.8%	53.4%	2.0%	0.8%	0.8%	2.5%
イ 挨拶や声かけ	22.9	23.6	40.4	7.9	2.1	0.5	2.6
ウ 言葉づかい	25.9	22.7	45.3	2.8	0.3	0.3	2.6
エ 動作、表情	17.7	23.4	44.8	7.9	2.8	0.5	2.9
オ 相手の話を聴く姿勢	23.1	25.4	39.3	7.2	1.8	0.7	2.6
カ 説明のわかりやすさ	21.6	23.6	40.6	7.4	2.3	1.1	3.4
キ 職場全体の印象 (応対者以外の職員)	11.8	20.3	49.9	10.1	3.4	1.6	2.8
ク 窓口対応の総合評価	17.7	28.0	40.6	7.7	2.9	0.5	2.6

図2-1-4 窓口利用時の職員の対応

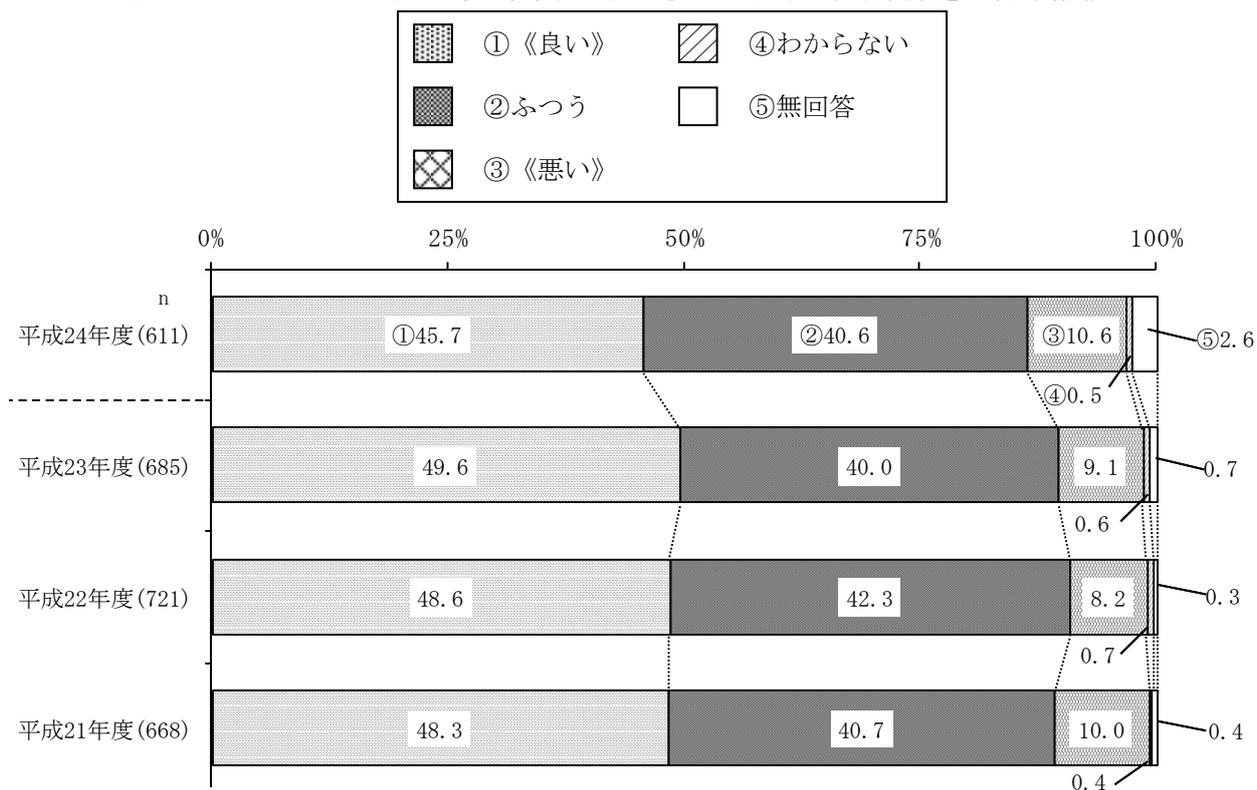


問1で「ある」の方に、窓口利用時の職員の対応を聞いたところ、「良い」が最も高かったのは、『言葉づかい』(25.9%)で2割台半ばとなり、『相手の話を聴く姿勢』(23.1%)、『挨拶や声かけ』(22.9%)、『説明のわかりやすさ』(21.6%)、『身だしなみ』(20.8%)で2割を超えている。

(図2-1-4)

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ1 区職員の接遇について）

図2-1-5 窓口利用時の職員の対応『窓口対応の総合評価』（経年推移）



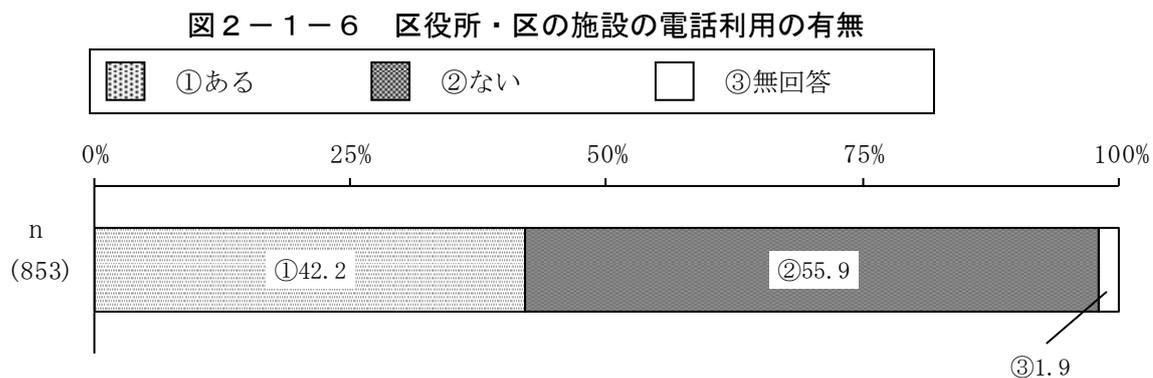
『窓口対応の総合評価』についての経年推移をみると、「良い」と「まあまあ良い」を合わせた《良い》は、平成24年度（45.7%）が平成23年度（49.6%）を3.9ポイント下回っている。

（図2-1-5）

(4) 区役所・区の施設の電話利用の有無

◎「ない」が5割台半ば

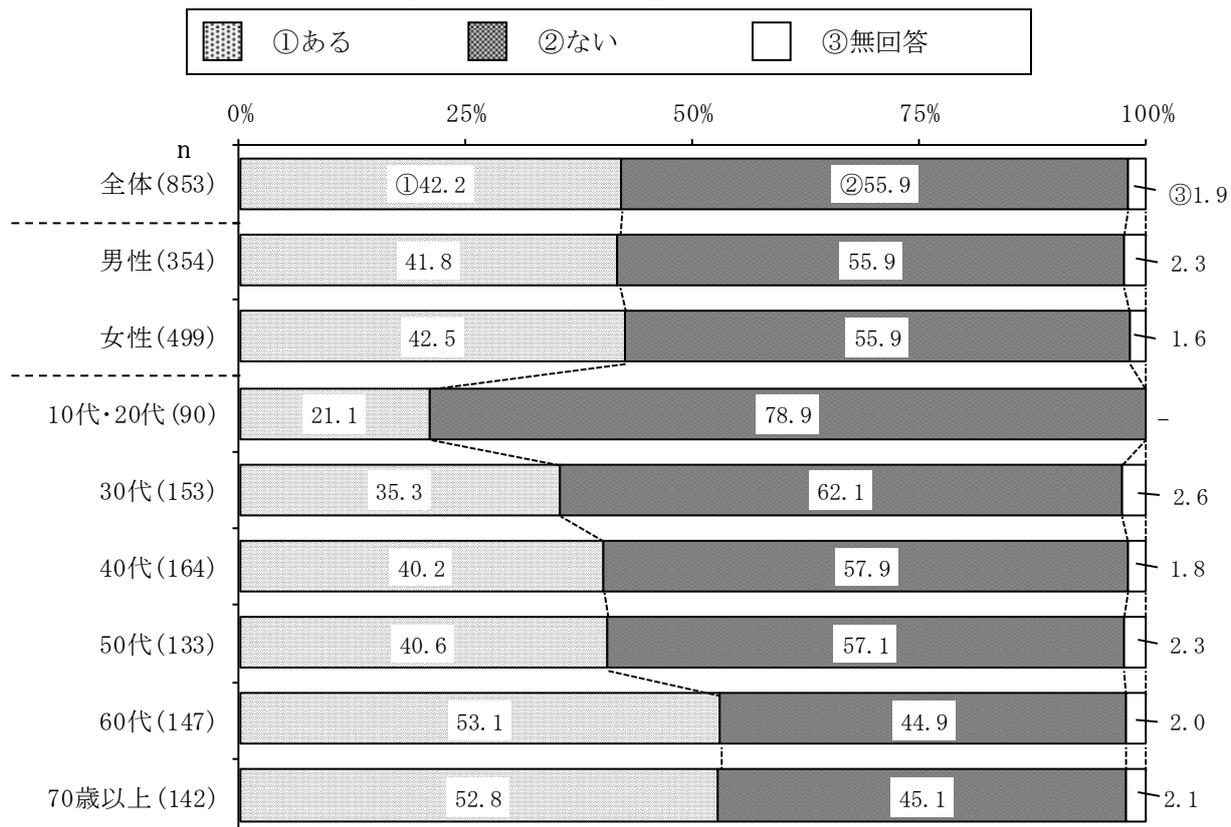
問2 あなたは、過去1年以内に、区役所や区の施設に電話をかけたことがありますか。(n=853)		
1	ある	42.2%
2	ない	55.9
	無回答	1.9



過去1年以内の区役所・区の施設の電話利用の有無を聞いたところ、「ある」(42.2%)が4割強、「ない」(55.9%)が5割台半ばとなっている。(図2-1-6)

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ1 区職員の接遇について）

図2-1-7 区役所・区の施設の電話利用の有無（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「ある」は、60代（53.1%）が5割台半ば近くで最も高く、70歳以上（52.8%）でも5割を超えている。

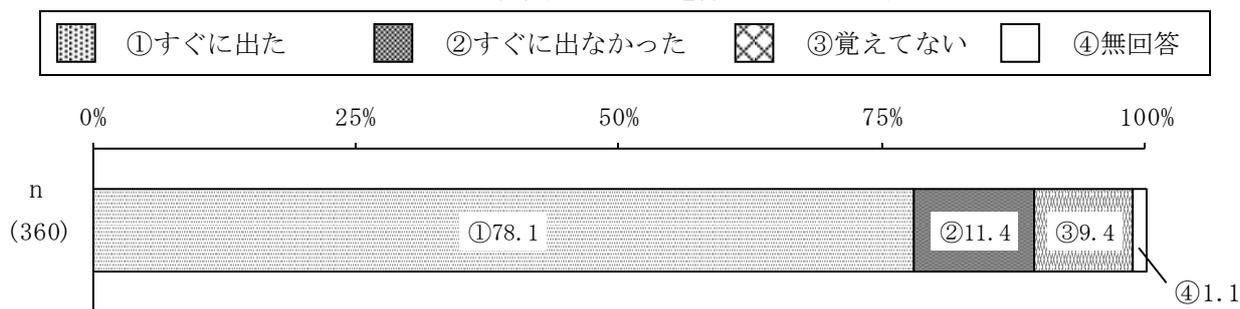
10代・20代（21.1%）では2割強と、全体（42.2%）を21.1ポイント下回っており、30代（35.3%）では6.9ポイント下回っている。（図2-1-7）

(5) 職員はすぐに電話に出たかどうか

◎「すぐに出了」が8割近く

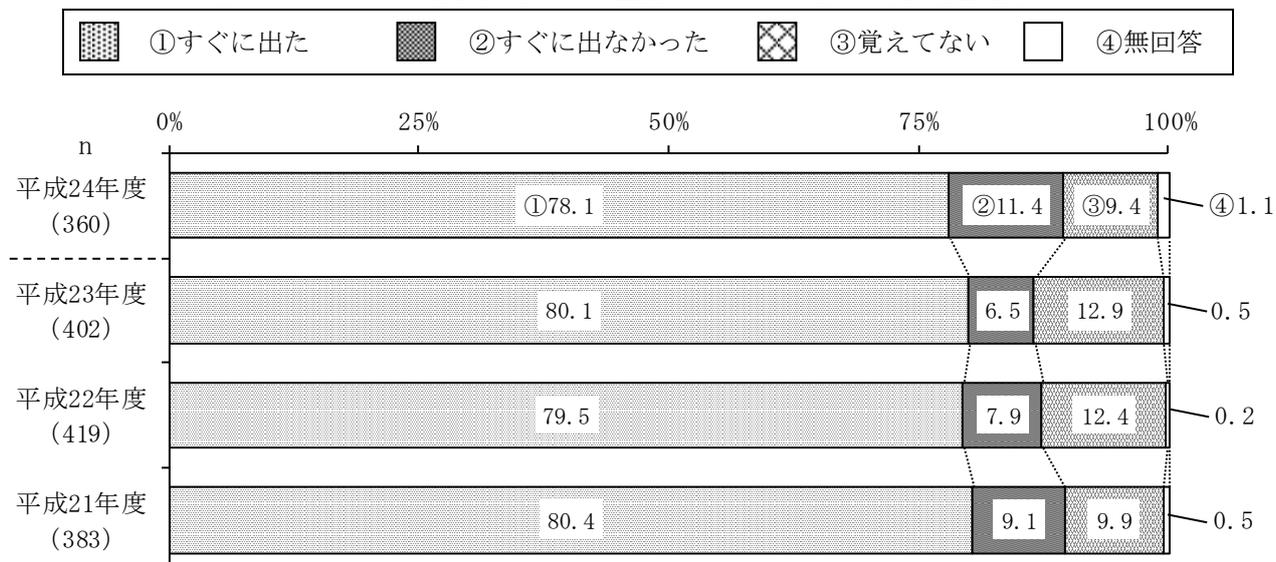
問2-1 問2で、【1ある】の方	
職員はすぐに電話に出ましたか。(n=360)	
1 すぐに出了	78.1%
2 すぐに出了なかった	11.4%
3 覚えていない	9.4%
無回答	1.1%

図2-1-8 職員はすぐに電話に出たかどうか



問2で、「ある」の方に、職員はすぐに電話に出たか聞いたところ、「すぐに出了」(78.1%)が8割近く、「すぐに出了なかった」(11.4%)が1割強、「覚えていない」(9.4%)が1割弱となっている。(図2-1-8)

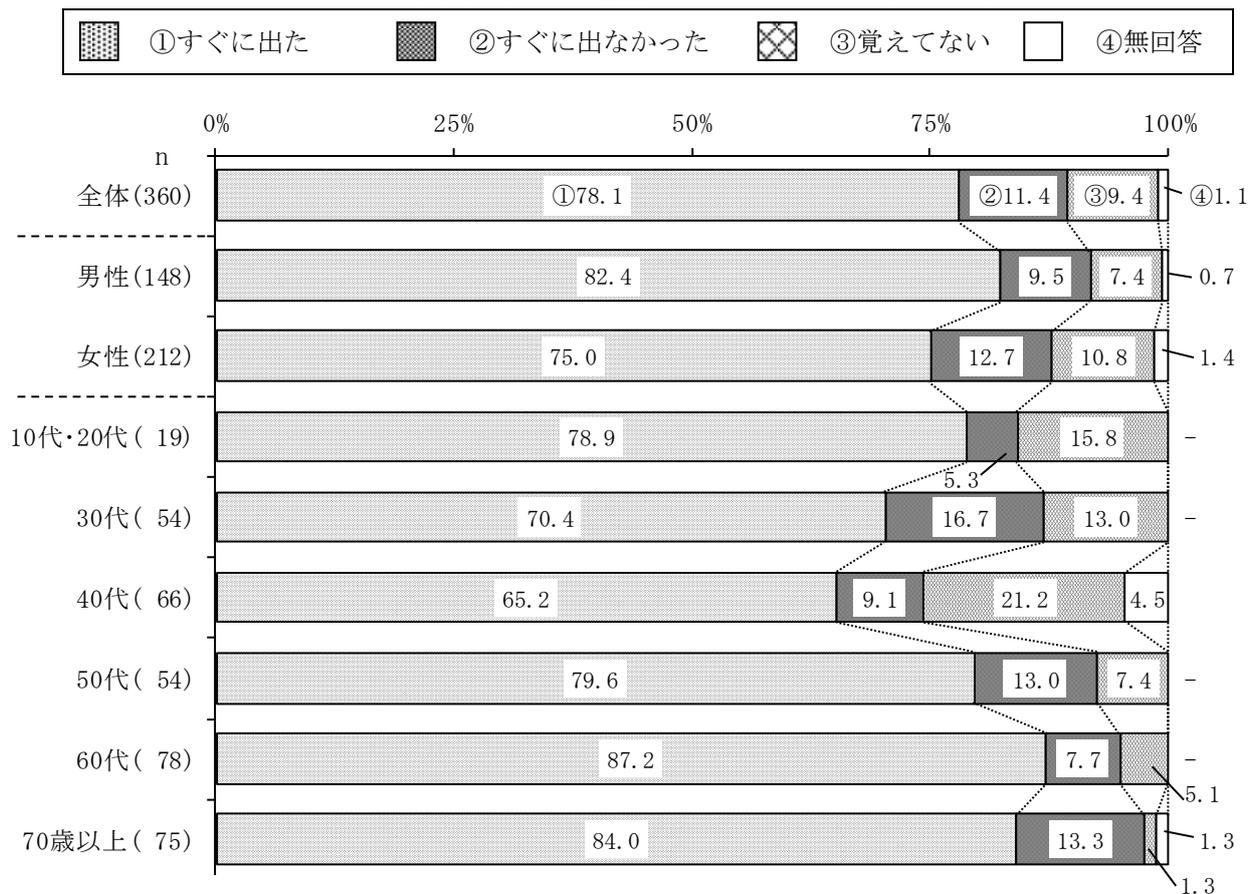
図2-1-9 職員はすぐに電話に出たかどうか(経年推移)



経年推移をみると、「すぐに出了」では、平成24年度(78.1%)が平成23年度(80.1%)を2.0ポイント下回っている。(図2-1-9)

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ1 区職員の接遇について）

図2-1-10 職員はすぐに電話に出たかどうか（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

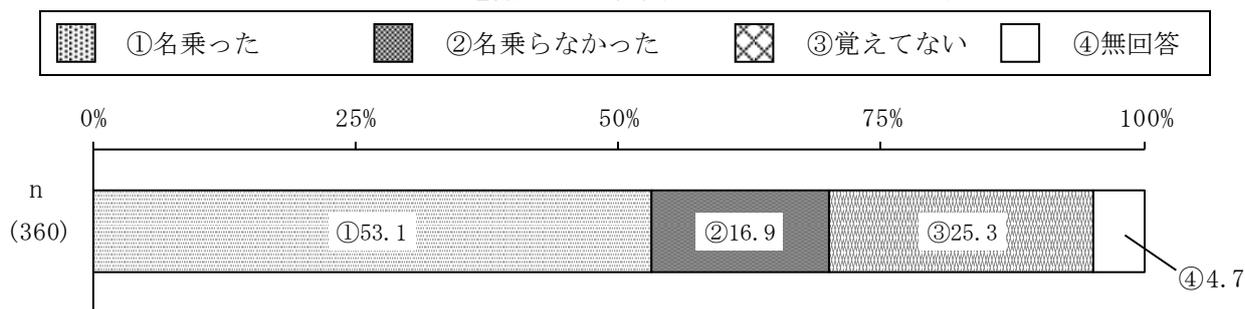
年代別にみると、「すぐに出なかった」では、30代（16.7%）で最も高く、全体（11.4%）を5.3ポイント上回っている。（図2-1-10）

(6) 電話に出た職員が先に名乗ったかどうか

◎「名乗った」が5割台半ば近く

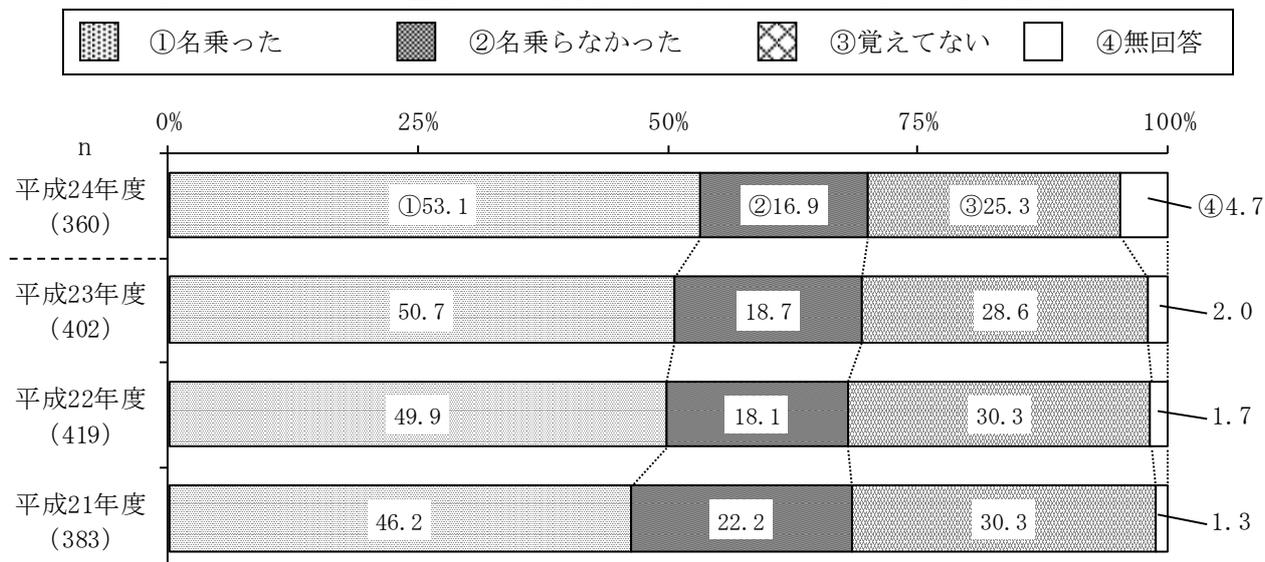
問2-2 問2で、【1ある】の方	
電話に出た職員は、自分の部署や名前を先に名乗りましたか。(n=360)	
1 名乗った	53.1%
2 名乗らなかった	16.9
3 覚えていない	25.3
無回答	4.7

図2-1-11 電話に出た職員が先に名乗ったかどうか



問2で、「ある」の方に、電話に出た職員が先に名乗ったかどうか聞いたところ、「名乗った」(53.1%)が5割台半ば近く、「名乗らなかった」(16.9%)が1割台半ばを超え、「覚えていない」(25.3%)が2割台半ばとなっている。(図2-1-11)

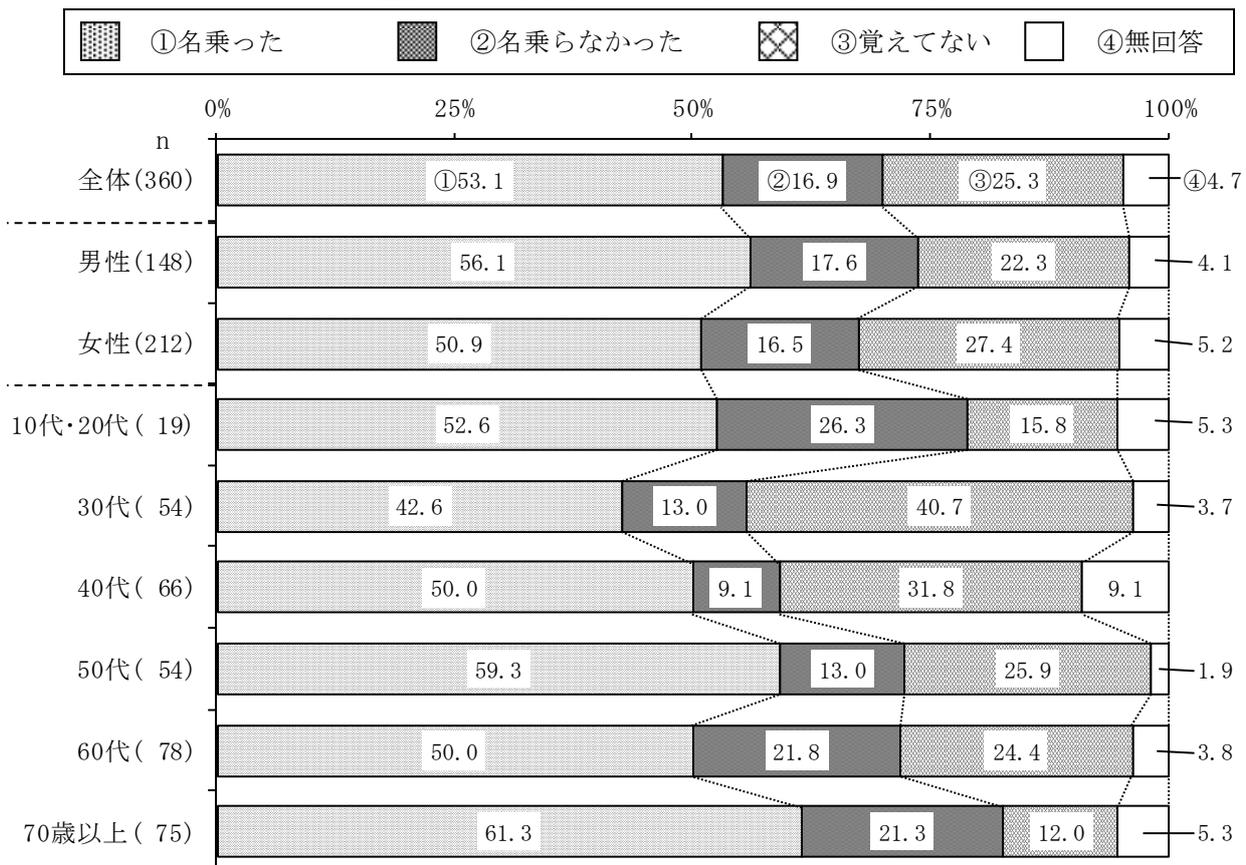
図2-1-12 電話に出た職員が先に名乗ったかどうか(経年推移)



経年推移をみると、「名乗った」では、平成24年度(53.1%)が平成23年度(50.7%)を2.4ポイント上回っている。(図2-1-12)

Ⅱ 調査の結果 第2回 (テーマ1 区職員の接遇について)

図2-1-13 電話に出た職員が先に名乗ったかどうか (性別・年代別)



性別による大きな差異はみられない。

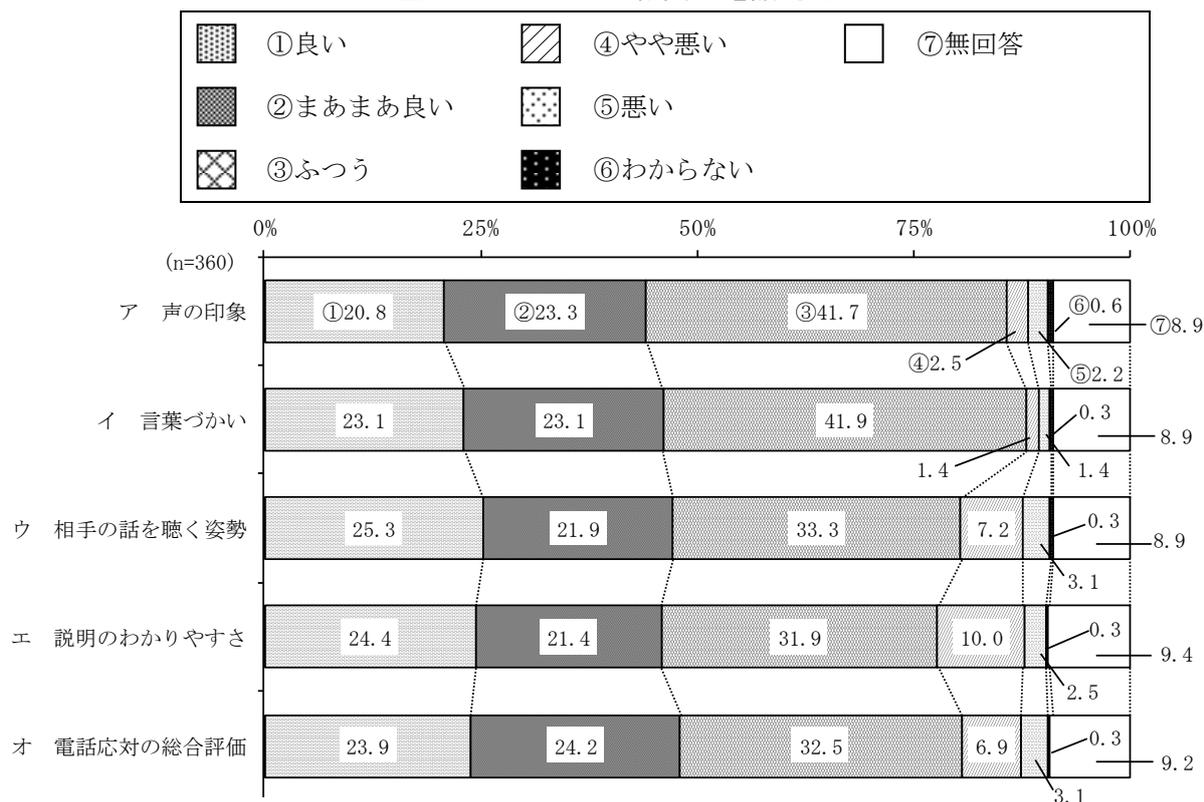
年代別にみると、「名乗った」では、70歳以上 (61.3%) が6割強で最も高く、全体 (53.1%) を8.2ポイント上回っている。(図2-1-13)

(7) 職員の電話対応

◎「良い」が最も高いのは、『相手の話を聴く姿勢』で2割台半ば

問2-3 問2で、【1ある】の方 その時の区職員の電話対応はいかがでしたか。(n=360)							
	良い	まあまあ良い	ふつう	やや悪い	悪い	わからない	無回答
ア 声の印象	20.8%	23.3%	41.7%	2.5%	2.2%	0.6%	8.9%
イ 言葉づかい	23.1	23.1	41.9	1.4	1.4	0.3	8.9
ウ 相手の話を聴く姿勢	25.3	21.9	33.3	7.2	3.1	0.3	8.9
エ 説明のわかりやすさ	24.4	21.4	31.9	10.0	2.5	0.3	9.4
オ 電話対応の総合評価	23.9	24.2	32.5	6.9	3.1	0.3	9.2

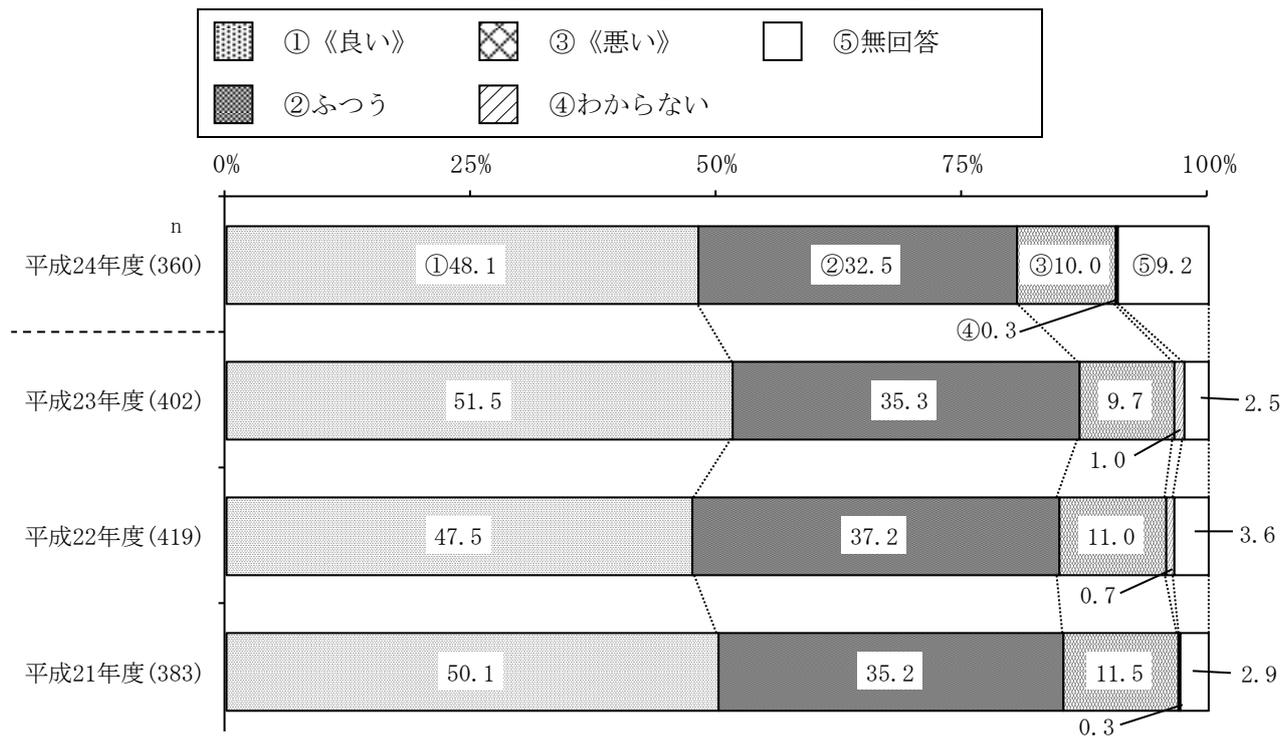
図2-1-14 職員の電話対応



問2で、「ある」の方に、職員の電話対応について聞いたところ、「良い」が最も高かったのは、『相手の話を聴く姿勢』(25.3%)で2割台半ばとなり、『説明のわかりやすさ』(24.4%)では2割台半ば近くとなっている。(図2-1-14)

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ1 区職員の接遇について）

図2-1-15 職員の電話対応『電話対応の総合評価』（経年推移）



『電話対応の総合評価』についての経年推移をみると、「良い」と「まあまあ良い」を合わせた《良い》は、平成24年度（48.1%）が平成23年度（51.5%）を3.4ポイント下回っている。

（図2-1-15）

(8) 職員の窓口対応や電話対応についてのご意見

問3 職員の窓口対応や電話対応についてご意見がありましたらお書きください。(自由記述)

★ご意見・ご提案(抜粋)★

- ・もう少し丁寧に対応して欲しい。
- ・相手がわかっている前提の話をせず、1つ1つ確認をとって頂きたかった。
- ・新宿区の職員の方々は、すごく対応が丁寧だと思う。気持ちよく利用できる。
- ・問合せ内容を説明したあと、係がちがうと担当係に回される場合、もう一度説明しなければならない事がある。どこに問合せをすればよいか、係に簡単に説明(電話を回した人)をしてもらえたら助かる。受けた人は「~の件ですね」と話がスムーズになる努力をして欲しい。
- ・全体的に昔と比較して窓口、電話対応に関しては良くなった。昔は役所という事で上から目線の対応が多かったと思う。
- ・電話では説明等時間がかかると思い、わざわざ区役所まで伺ったのに、知らないんですか、というような対応だった。区民はほとんど情報・知識がない素人だから、それを前提に対応して欲しかった。
- ・「こんにちは」等、あいさつくらいあっても良いのではと思う。いつもすごく事務的である。
- ・少しまごついてると、どなたか出て来て、どちらをお探しですかと何回となく声をかけて下さった。
- ・話し方が少し早口で聞きとりづらい時がある。
- ・電話で対応して下さった方は、何時も親切に説明して下さり、とても感謝している。理解の遅い年寄りなのに、荒い口調になることもなく、最後まで丁寧に説明して頂き、深く感謝している。
- ・各人が勝手な働きで全体に機敏性が感じられない。
- ・自分が意欲的に問題を解決しようなどの態度がみられず、気分の悪くなる対応も以前からあった。正直サービス業として成立していない人が多く見られる。
- ・対応する人によって言葉づかいが違う。丁寧な方もいれば上から目線の人もある。対応マナーなど男女職員問わず定期的実施して欲しい。
- ・何でもマニュアル通りの答えしかできない人が多い。そのため質問していてもこちらがイライラする。
- ・服装がカジュアルすぎる人がいる。チェックのコットンシャツやジーンズは良くない。
- ・現在の対応で、特に不満はない。このままの状態を続けて頂ければと思う。
- ・私は耳が不自由なので、電話などは特に大声でなくゆっくり話をして欲しい。
- ・相手の立場になって話を聞いて欲しい。
- ・エレベーター内での区職員の会話は控えめと思う。(特に昼前後)
- ・他の職員が多くいたが、担当の方が忙しい様子だったため、長く待たされた。担当以外の方は対応できないのか疑問である。
- ・制度を知らなかったが、電話でとても親切に説明してくれた。以前より全体的に感じよくなった。
- ・暗い感じがするので、明るく声をかけて欲しい。

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて）

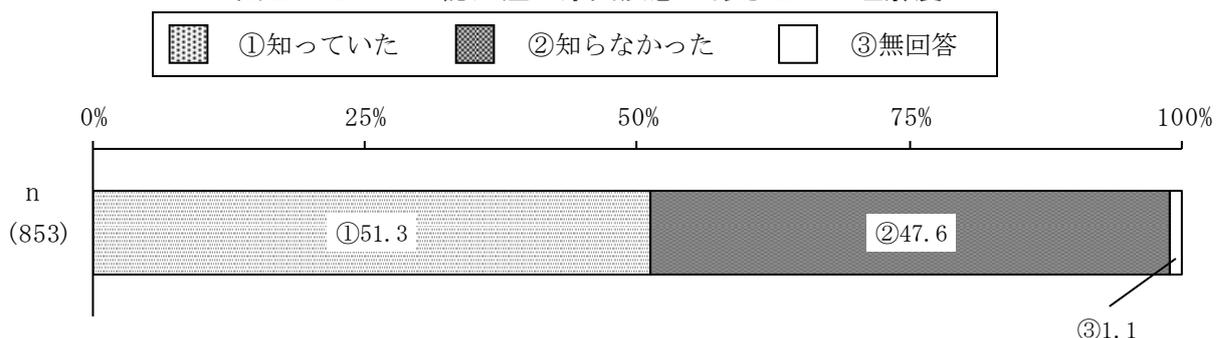
テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて

（1）認知症に原因疾患があることへの理解度

◎ 「知っていた」が5割強、「知らなかった」が4割台半ばを超える

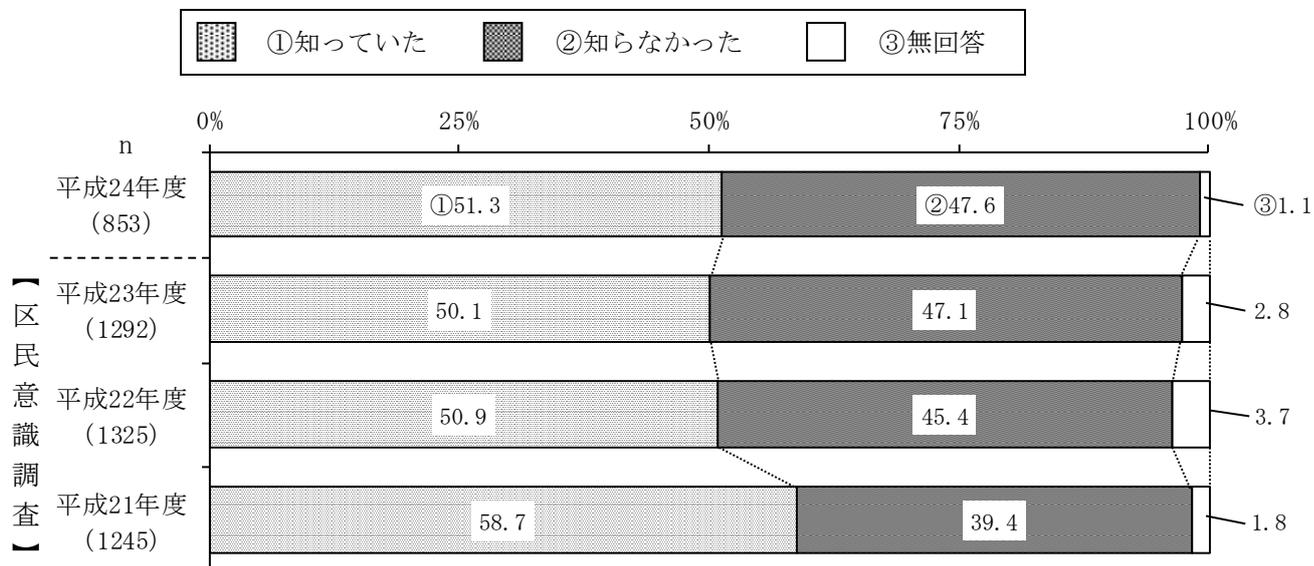
問4 あなたは、認知症には原因となる病気があることを知っていましたか。(n=853)		
1	知っていた	51.3%
2	知らなかった	47.6%
	無回答	1.1%

図2-2-1 認知症に原因疾患があることへの理解度



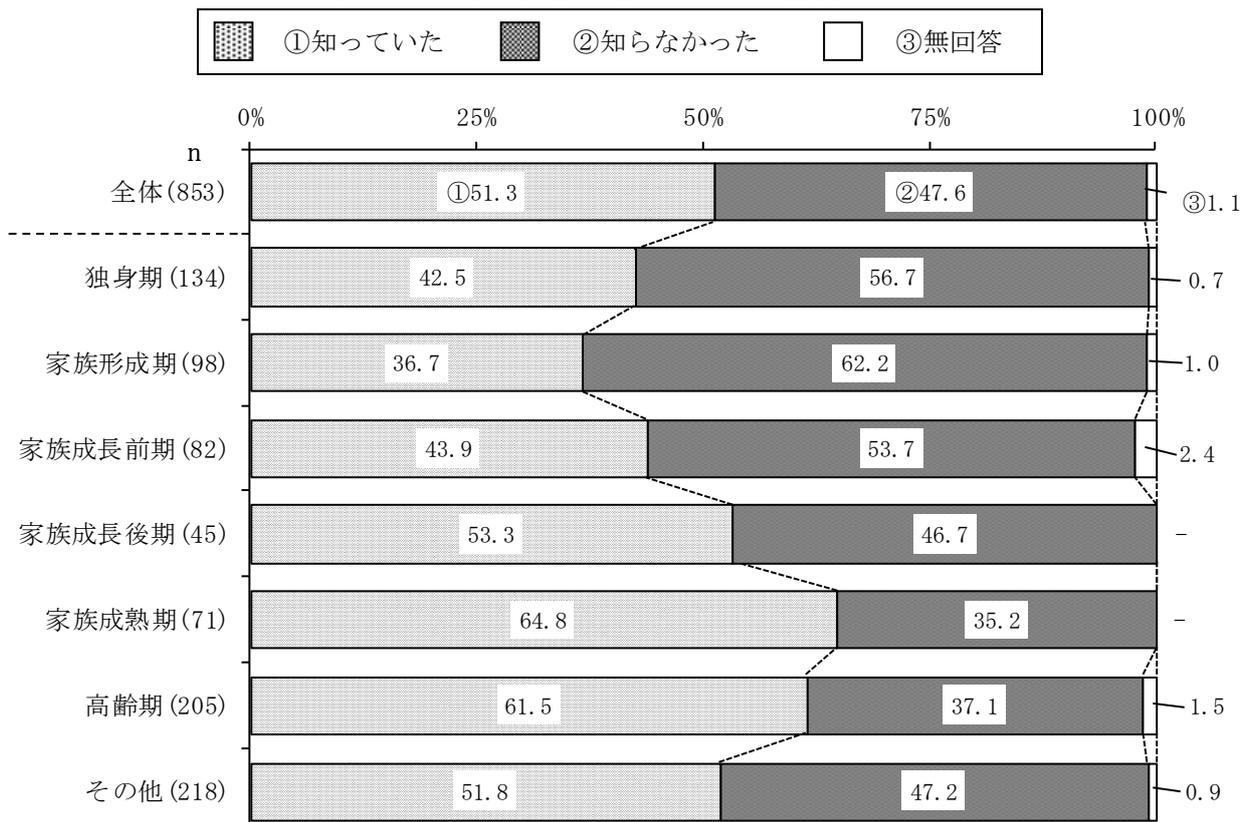
認知症には原因となる病気があることを知っていたか聞いたところ、「知っていた」(51.3%)が5割強、「知らなかった」(47.6%)が4割台半ばを超える。(図2-2-1)

図2-2-2 認知症に原因疾患があることへの理解度（経年推移）



経年推移をみると、「知っていた」の割合は、5割台で推移している。(図2-2-2)

図2-2-3 認知症に原因疾患があることへの理解度（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「知っていた」では、家族成熟期（64.8%）が6割台半ば近くで最も高く、高齢期（61.5%）でも6割を超えている。

一方、「知らなかった」では、家族形成期（62.2%）が6割強で最も高く、家族成長前期（53.7%）では5割台半ば近くとなっている。（図2-2-3）

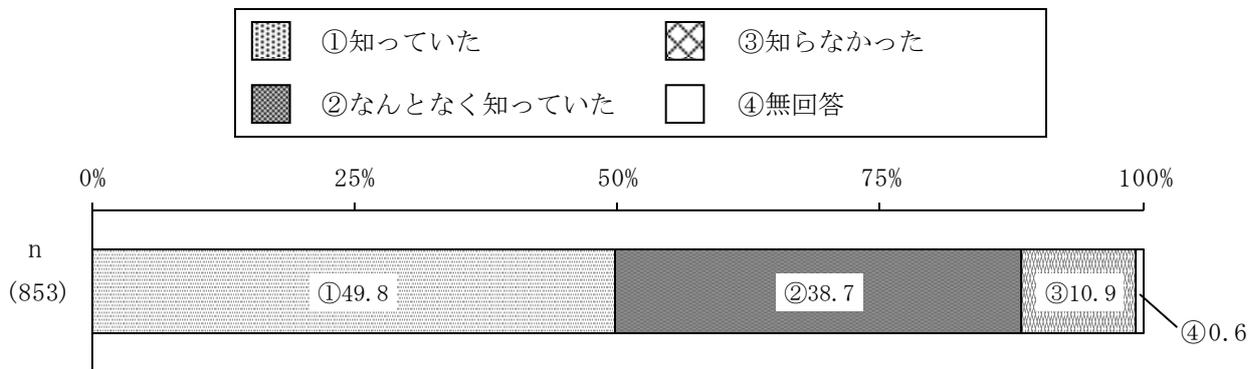
Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて）

（2）認知症は早期診断・早期治療が大切であることへの理解度

◎「知っていた」が5割弱、「なんとなく知っていた」が4割近く

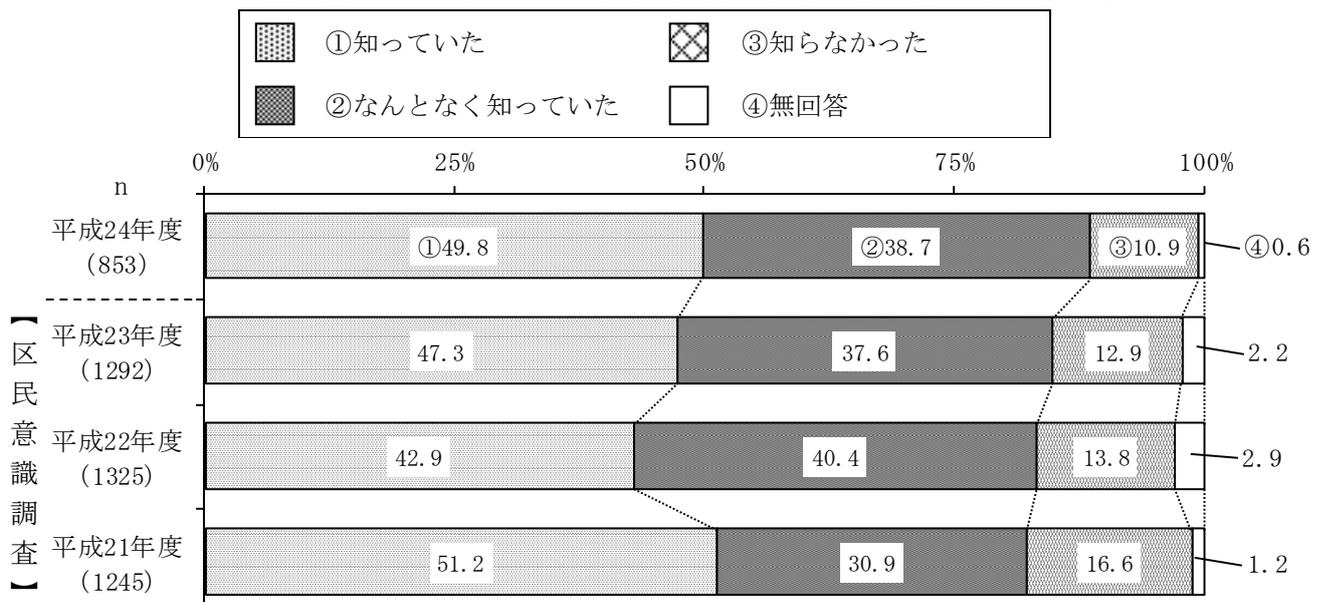
問5 認知症は、早期診断・早期治療を受けることで、進行を遅らせたり、症状を改善して生活上の障害を軽減することができると言われていました。	
あなたは、このことを知っていましたか。（n=853）	
1 知っていた	49.8%
2 なんとなく知っていた	38.7
3 知らなかった	10.9
無回答	0.6

図2-2-4 認知症は早期診断・早期治療が大切であることへの理解度



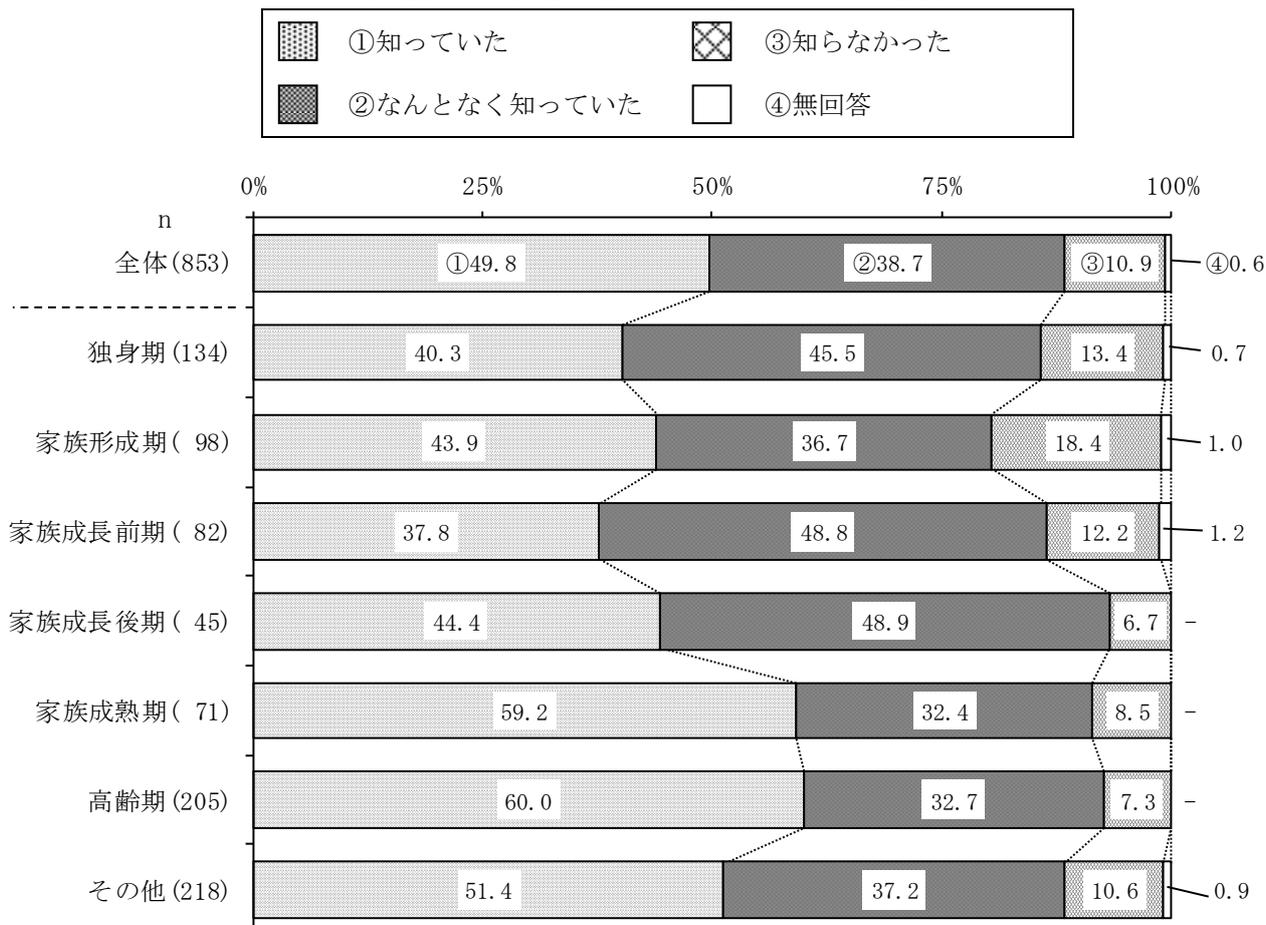
認知症は早期診断・早期治療が大切であることを知っていたか聞いたところ、「知っていた」(49.8%)が5割弱、「なんとなく知っていた」(38.7%)が4割近く、「知らなかった」(10.9%)が約1割となった。(図2-2-4)

図2-2-5 認知症は早期診断・早期治療が大切であることへの理解度（経年推移）



経年推移をみると、「知っていた」では、平成24年度(49.8%)は、平成23年度(47.3%)を2.5ポイント上回り、平成22年度(42.9%)を6.9ポイント上回っている。(図2-2-5)

図2-2-6 認知症は早期診断・早期治療が大切あることへの理解度（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「知っていた」では、高齢期（60.0%）が6割で最も高く、家族成熟期（59.2%）でも6割弱と、全体（49.8%）と比べて1割ほど高い割合を示している。一方、「知らなかった」では、家族形成期（18.4%）が2割近くで最も高くなっている。（図2-2-6）

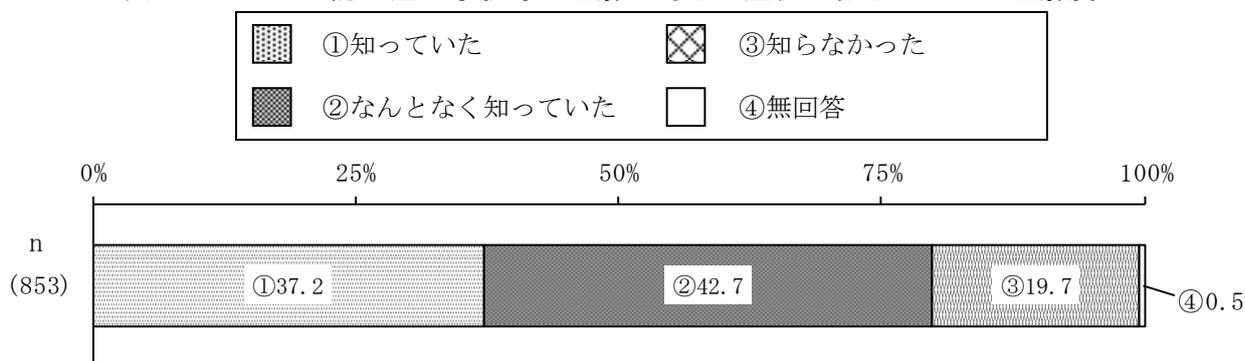
II 調査の結果 第2回（テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて）

（3）認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことへの理解度

◎「なんとなく知っていた」が4割強、「知っていた」が3割台半ばを超える

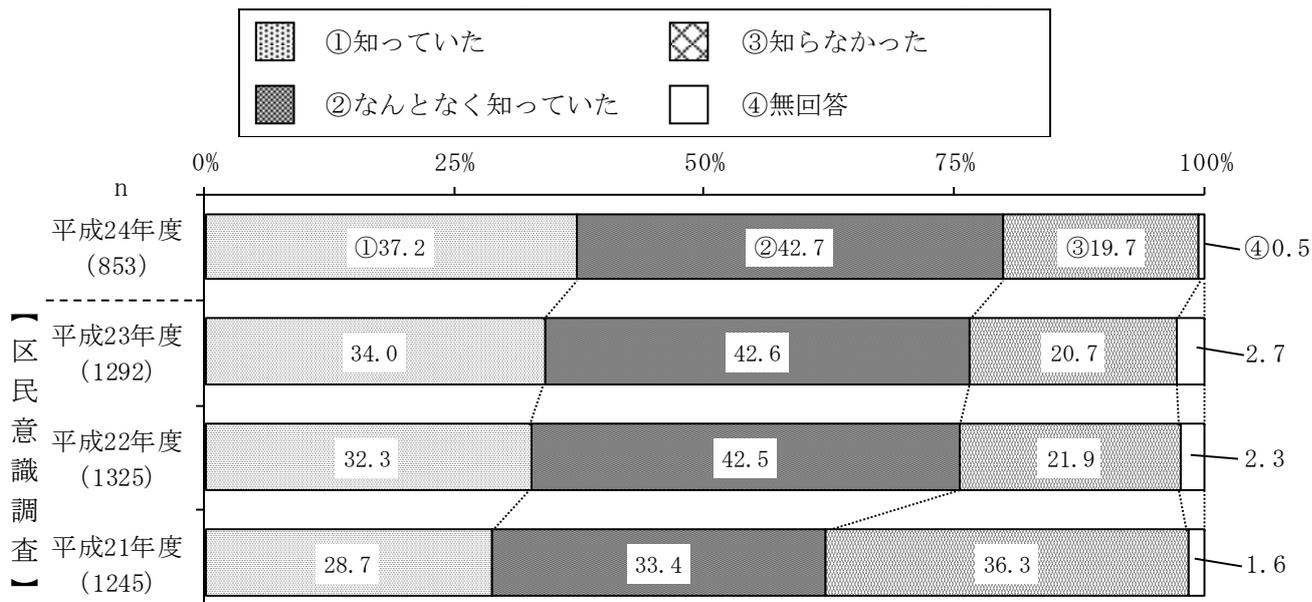
問6	認知症になっても、ご家族や周囲の方の理解と適切な対応によって、物とられ妄想や徘徊などの介護を困難にする症状を和らげることができると言われていました。 あなたは、このことを知っていましたか。（n=853）	
1	知っていた	37.2%
2	なんとなく知っていた	42.7
3	知らなかった	19.7
	無回答	0.5

図2-2-7 認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことへの理解度



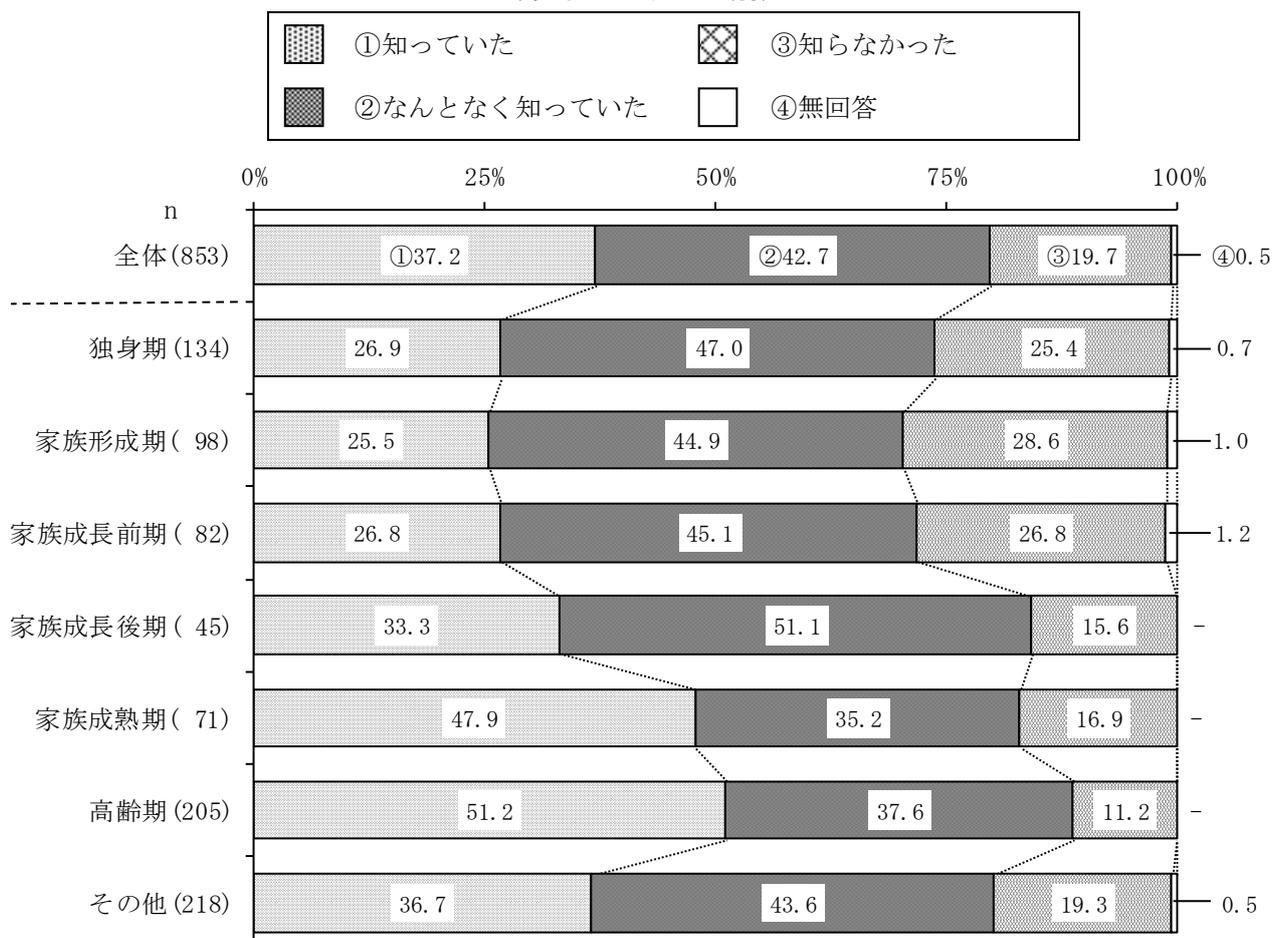
認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことを知っていたか聞いたところ、「知っていた」（37.2%）が3割台半ばを超え、「なんとなく知っていた」（42.7%）が4割強、「知らなかった」（19.7%）が2割弱となった。（図2-2-7）

図2-2-8 認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことへの理解度（経年推移）



経年推移をみると、「知っていた」では、平成24年度（37.2%）は平成21年度（28.7%）を8.5ポイント上回る。「なんとなく知っていた」では平成24年度（42.7%）が平成21年度（33.4%）を9.3ポイント上回っている。（図2-2-8）

図2-2-9 認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことへの理解度
(ライフステージ別)



ライフステージ別にみると、「知っていた」では、高齢期（51.2%）が5割強で最も高く、全体（37.2%）を14ポイント上回っている。家族成熟期（47.9%）では、全体を10.7ポイント上回っている。

一方、「知らなかった」では、家族形成期（28.6%）が3割近くで最も高く、家族成長前期（26.8%）、独身期（25.4%）とともに2割台後半となっている。（図2-2-9）

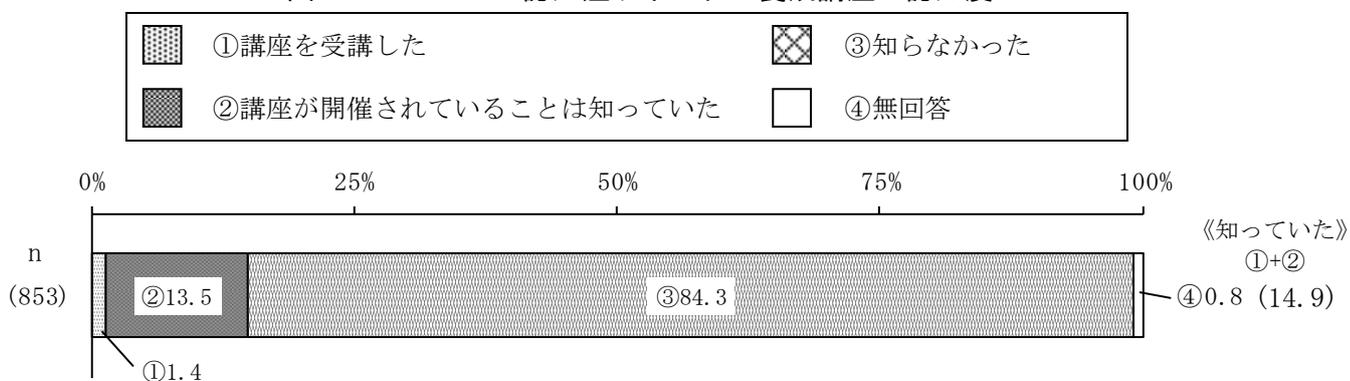
II 調査の結果 第2回（テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて）

（4）認知症サポーター養成講座の認知度

◎「講座を受講した」と、「講座が開催されていることは知っていた」を合わせた《知っていた》が1割台半ば近く、一方「知らなかった」が8割台半ば近く

問7 区では、認知症について正しく理解し、本人やその家族を支援する認知症サポーターを養成する講座を開催しています。	
あなたは、この講座を知っていましたか。(n=853)	
1 講座を受講した	1.4%
2 講座が開催されていることは知っていた	13.5
3 知らなかった	84.3
無回答	0.8

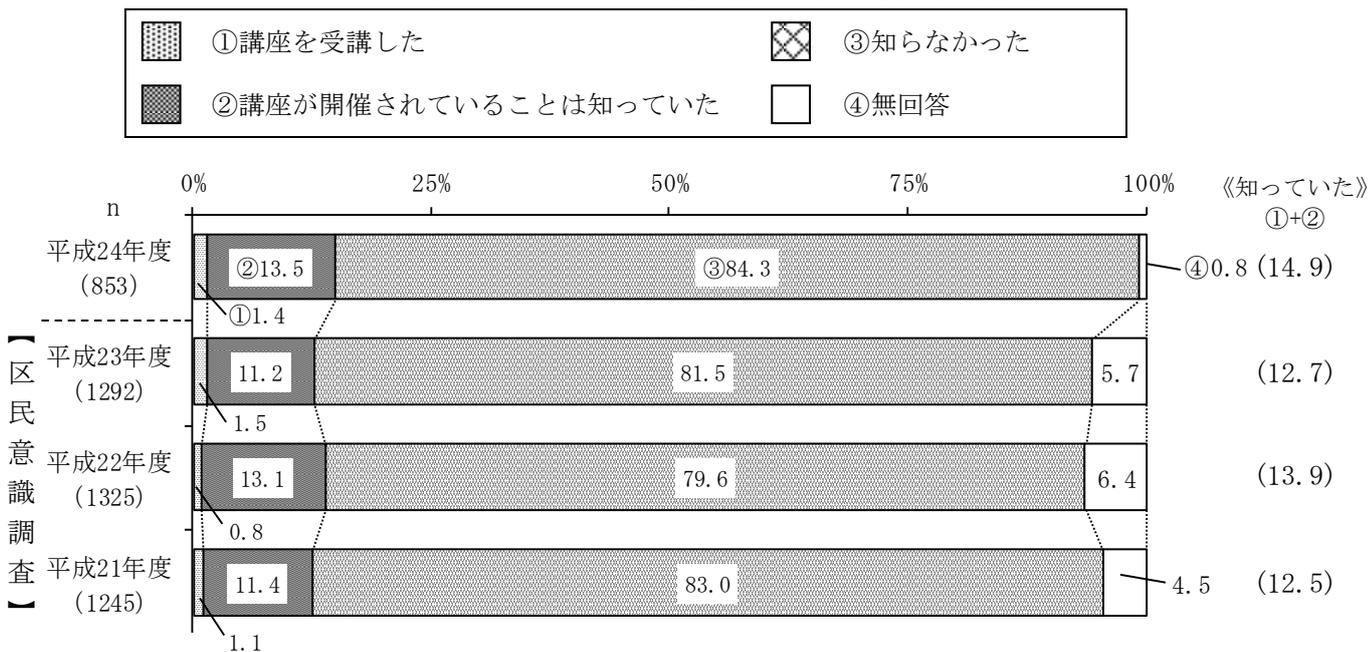
図2-2-10 認知症サポーター養成講座の認知度



認知症サポーター養成講座を知っているか聞いたところ、「知らなかった」(84.3%)が8割台半ば近くで最も高く、「講座が開催されていることは知っていた」(13.5%)、「講座を受講した」(1.4%)の順となっている。

「講座を受講した」と「講座が開催されていることは知っていた」を合わせた《知っていた》(14.9%)は1割台半ば近くとなっている。(図2-2-10)

図2-2-11 認知症サポーター養成講座の認知度（経年推移）



経年推移をみると、「講座を受講した」と、「講座が開催されていることは知っていた」を合わせた《知っていた》(14.9%)は1割強で推移している。(図2-2-11)

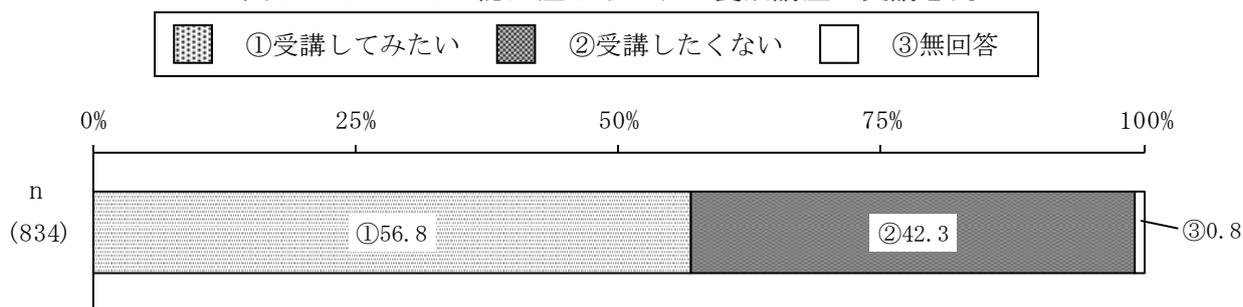
II 調査の結果 第2回（テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて）

（5）認知症サポーター養成講座の受講意向

◎「受講してみたい」が5割台半ばを超え、「受講したくない」が4割強

問7-1	問7で、【2講座が開催されていることは知っていた】または、【3知らなかった】の方はあなたは、認知症サポーターを養成する講座を受講してみたいと思いますか。(n=834)	
1	受講してみたい	56.8%
2	受講したくない	42.3%
	無回答	0.8%

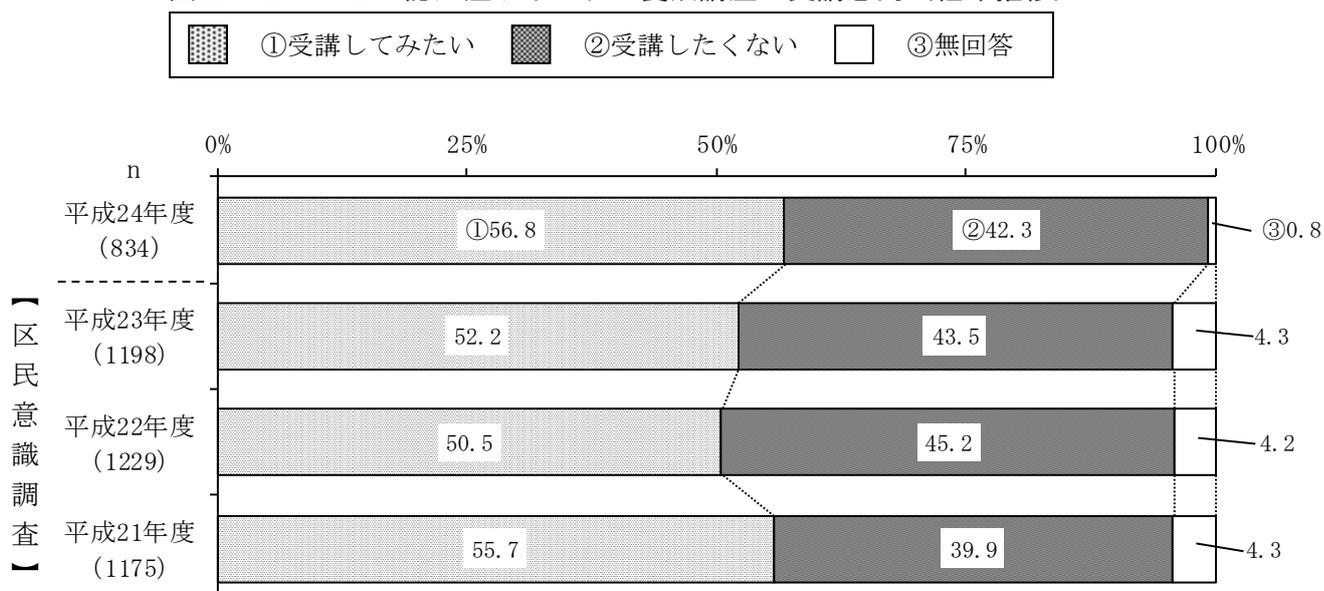
図2-2-12 認知症サポーター養成講座の受講意向



問7で、「講座が開催されていることは知っていた」または、「知らなかった」の方に、認知症サポーター養成講座の受講意向を聞いたところ、「受講してみたい」（56.8%）が5割台半ばを超え、「受講したくない」（42.3%）が4割強となった。

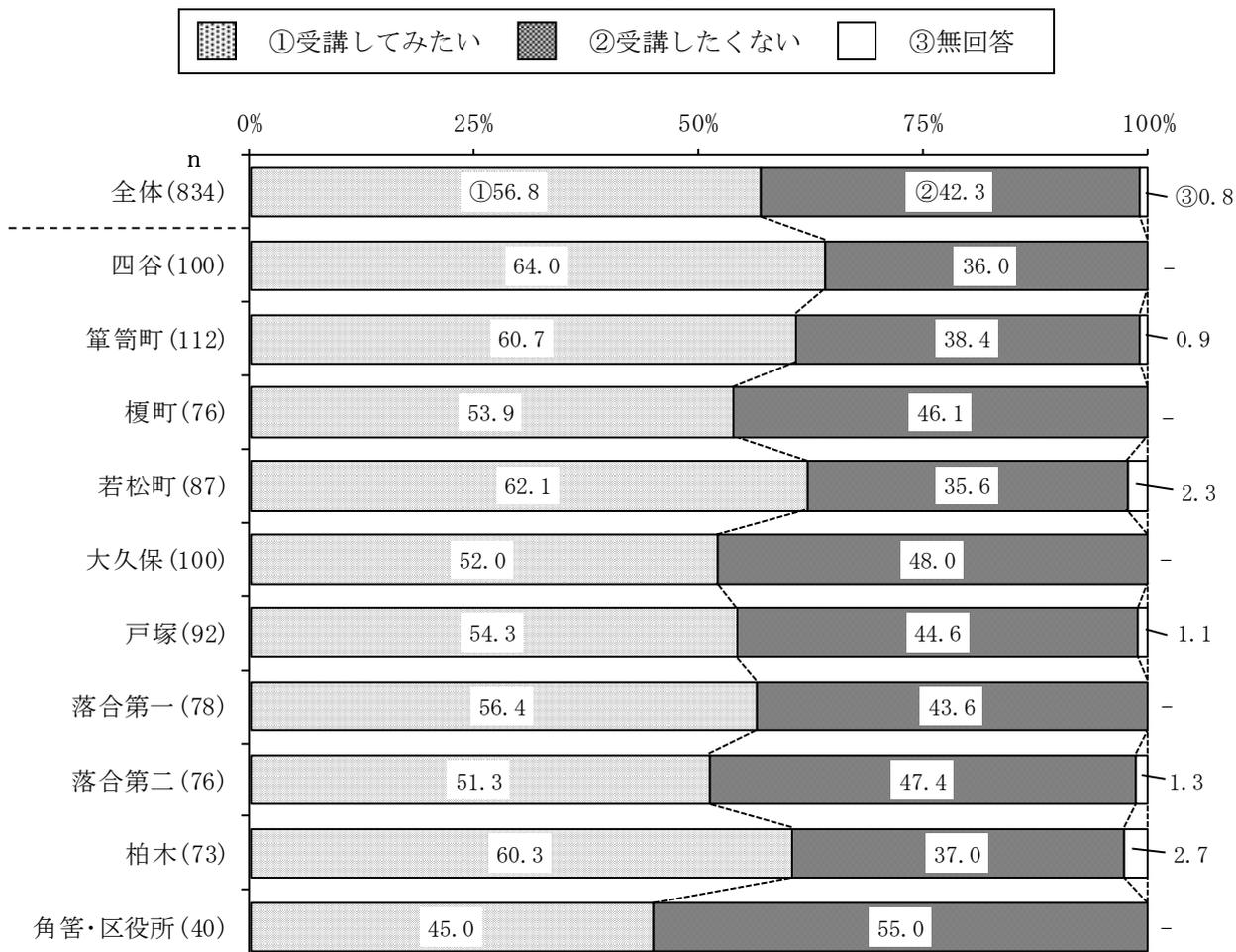
「受講したくない」理由としては、「時間がない（仕事をしているなど）」が圧倒的に多く、「身近に該当する人がいないから」や、「自身が高齢のため」なども見受けられた。（図2-2-12）

図2-2-13 認知症サポーター養成講座の受講意向（経年推移）



経年推移をみると、「受講してみたい」では、平成24年度（56.8%）は、平成22年度（50.5%）を6.3ポイント上回り、平成23年度（52.2%）を4.6ポイント上回っている。（図2-2-13）

図2-2-14 認知症サポーター養成講座の受講意向（居住地別）

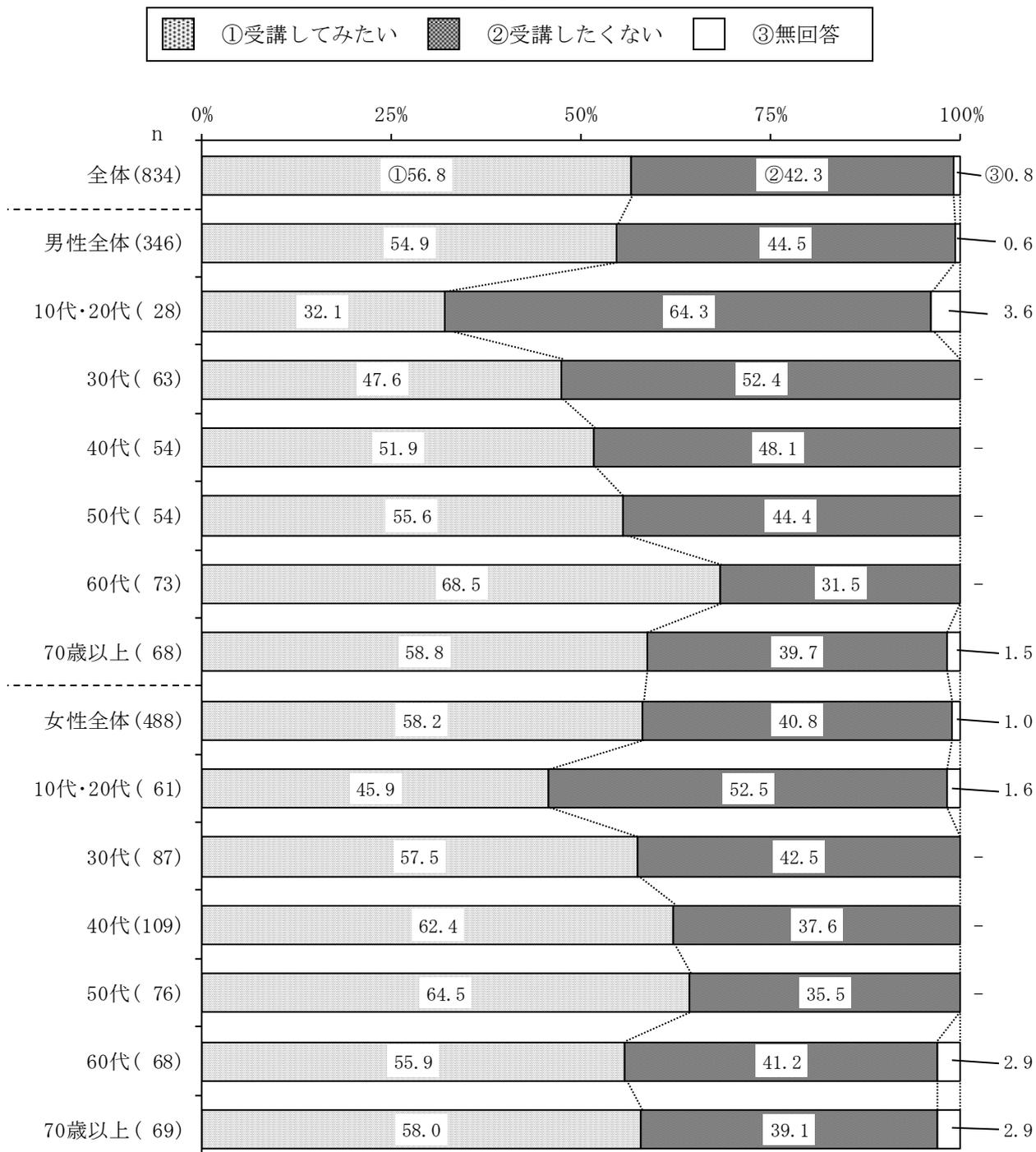


居住地別にみると、「受講してみたい」では、四谷（64.0%）が6割台半ば近くで最も高く、若松町（62.1%）、箆笥町（60.7%）、柏木（60.3%）でも6割を超える。

「受講したくない」では、角筈・区役所（55.0%）が5割台半ばで最も高く、全体（42.3%）を12.7ポイント上回っている。（図2-2-14）

II 調査の結果 第2回（テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて）

図2-2-15 認知症サポーター養成講座の受講意向（性別・性/年代別）



性別による大きな差異はみられない。

性/年代別にみると、「受講してみたい」では、男性の60代（68.5%）が7割近くで最も高く、全体（56.8%）を11.7ポイント上回っている。

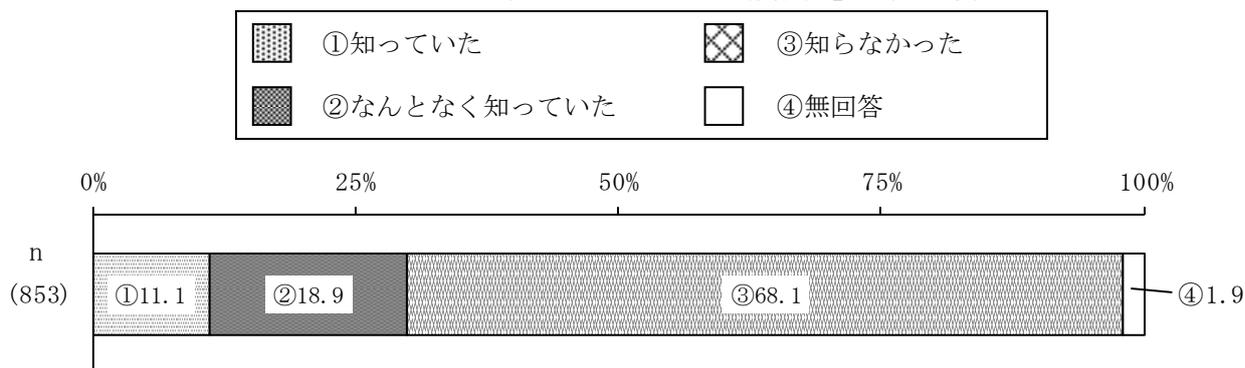
「受講したくない」では、男性の10代・20代（64.3%）が6割台半ば近くで最も高く、同年代の女性（52.5%）と比べて11.8ポイント上回っている。（図2-2-15）

(6) 「認知症・もの忘れ相談医」の認知度

◎ 「知らなかった」が7割近く

問8	もの忘れが気になったり、認知症の症状があり困っているときなど、身近で相談できる「認知症・もの忘れ相談医」がいることを知っていましたか。(n=853)	
1	知っていた	11.1%
2	なんとなく知っていた	18.9
3	知らなかった	68.1
	無回答	1.9

図2-2-16 「認知症・もの忘れ相談医」の認知度

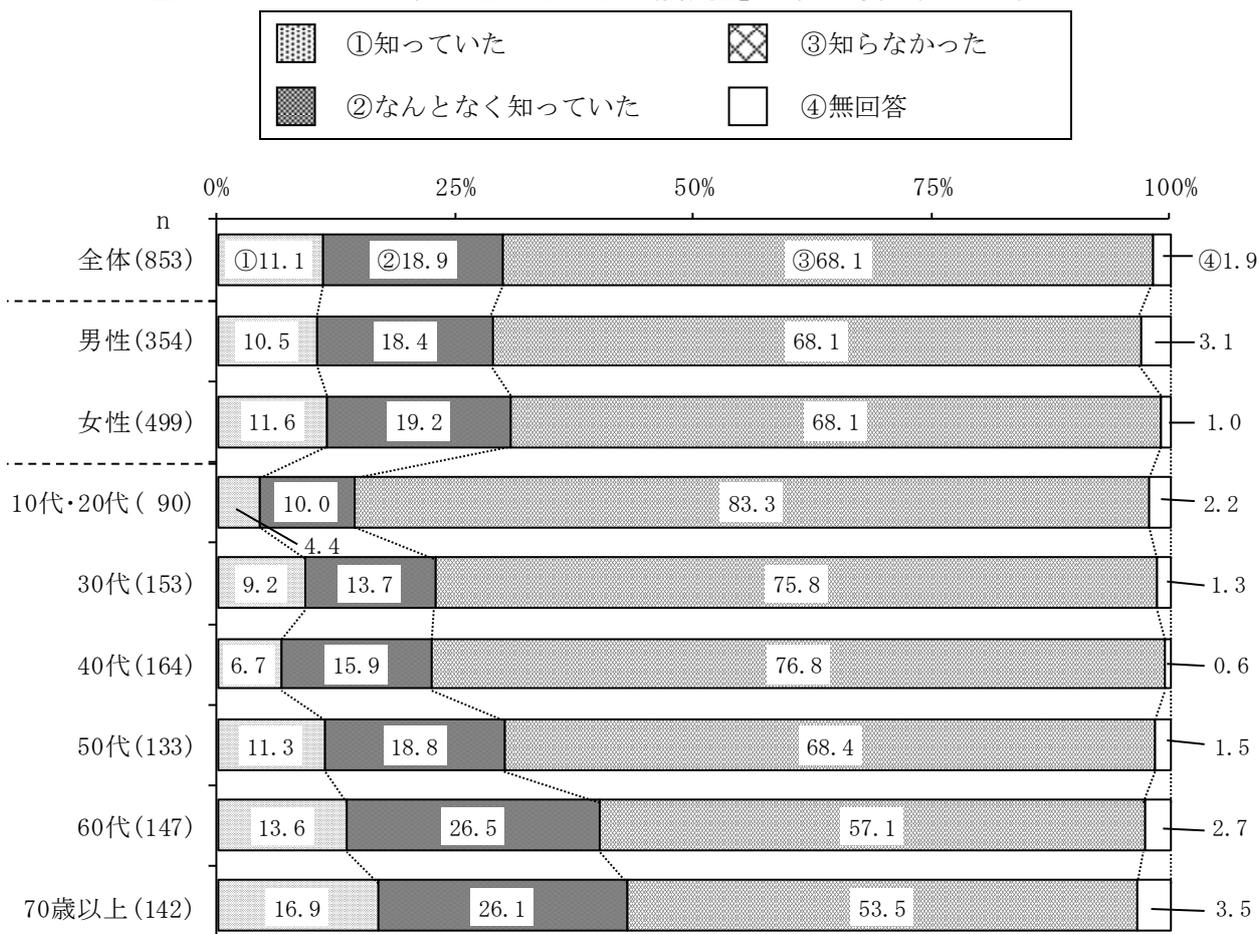


「認知症・もの忘れ相談医」を知っていたか聞いたところ、「知らなかった」(68.1%)が7割近くで最も高く、「なんとなく知っていた」(18.9%)、「知っていた」(11.1%)の順となっている。

(図2-2-16)

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて）

図2-2-17 「認知症・もの忘れ相談医」の認知度（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「知っていた」では、70歳以上（16.9%）が1割台半ばを超え最も高くなっている。

10代・20代（4.4%）、40代（6.7%）、30代（9.2%）では1割未満となっている。

（図2-2-17）

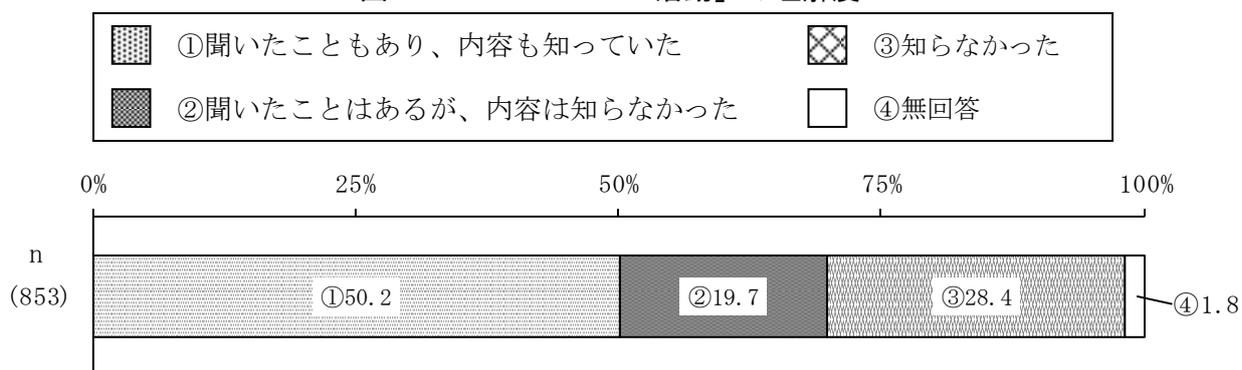
テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について

(1)「3R活動」の理解度

◎「聞いたこともあり、内容も知っていた」が約5割

問9 あなたは、「3R活動」について知っていましたか。(n=853)	
1 聞いたこともあり、内容も知っていた	50.2%
2 聞いたことはあるが、内容は知らなかった	19.7%
3 知らなかった	28.4%
無回答	1.8%

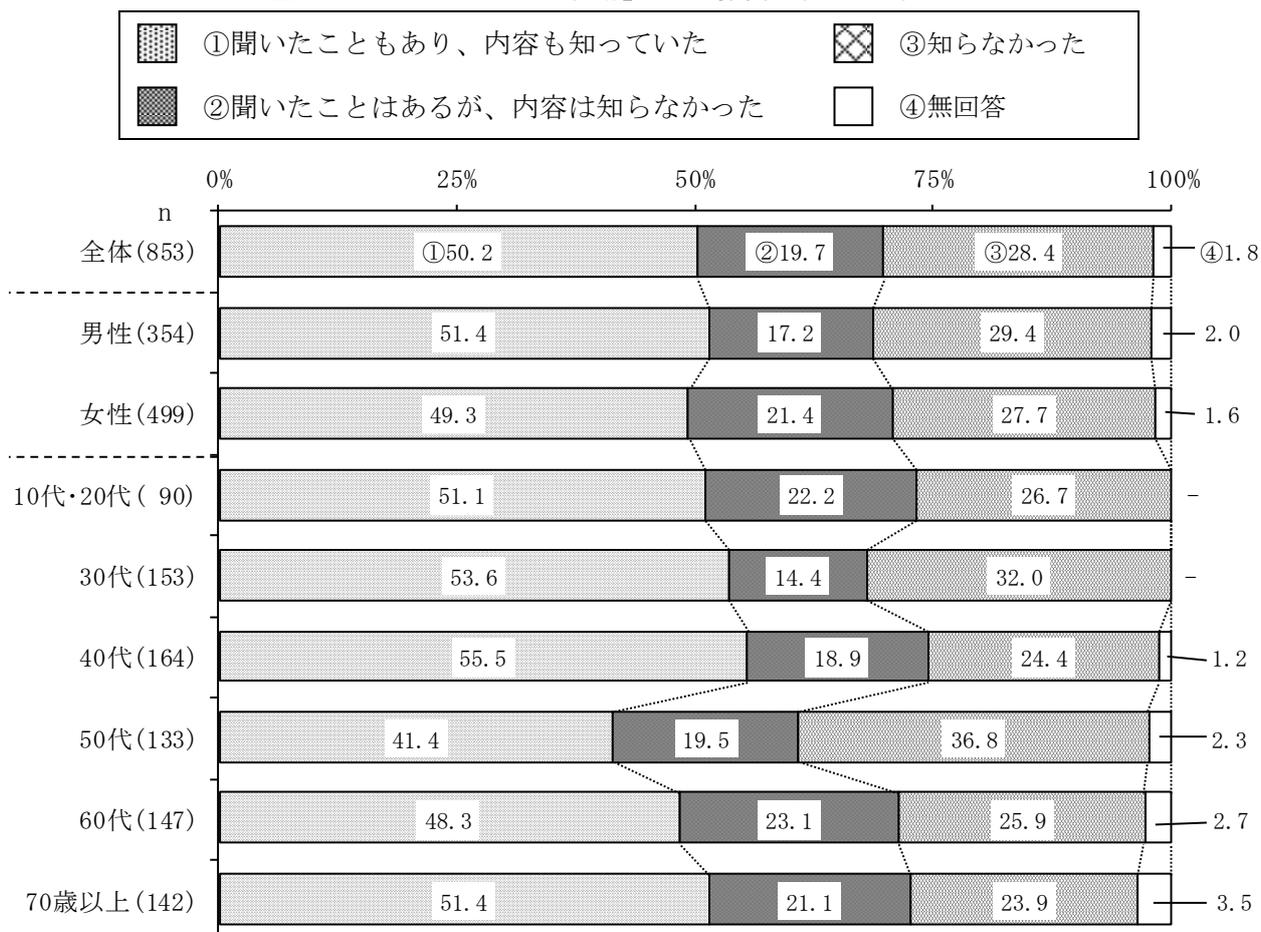
図2-3-1 「3R活動」の理解度



「3R活動」の理解度を聞いたところ、「聞いたこともあり、内容も知っていた」(50.2%)が約5割で最も高く、「知らなかった」(28.4%)、「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」(19.7%)の順となっている。「聞いたこともあり、内容も知っていた」と、「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」を合わせた《聞いたことがある》(69.9%)は、7割弱となっている。(図2-3-1)

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

図2-3-2 「3R活動」の理解度（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「聞いたこともあり、内容も知っていた」では、40代（55.5%）が5割台半ばで最も高く、30代（53.6%）、70歳以上（51.4%）、10代・20代（51.1%）でも5割を超える。

「知らなかった」では、50代（36.8%）が3割台半ばを超え最も高く、30代（32.0%）でも3割強と、全体（28.4%）と比べてやや高い割合を示している。（図2-3-2）

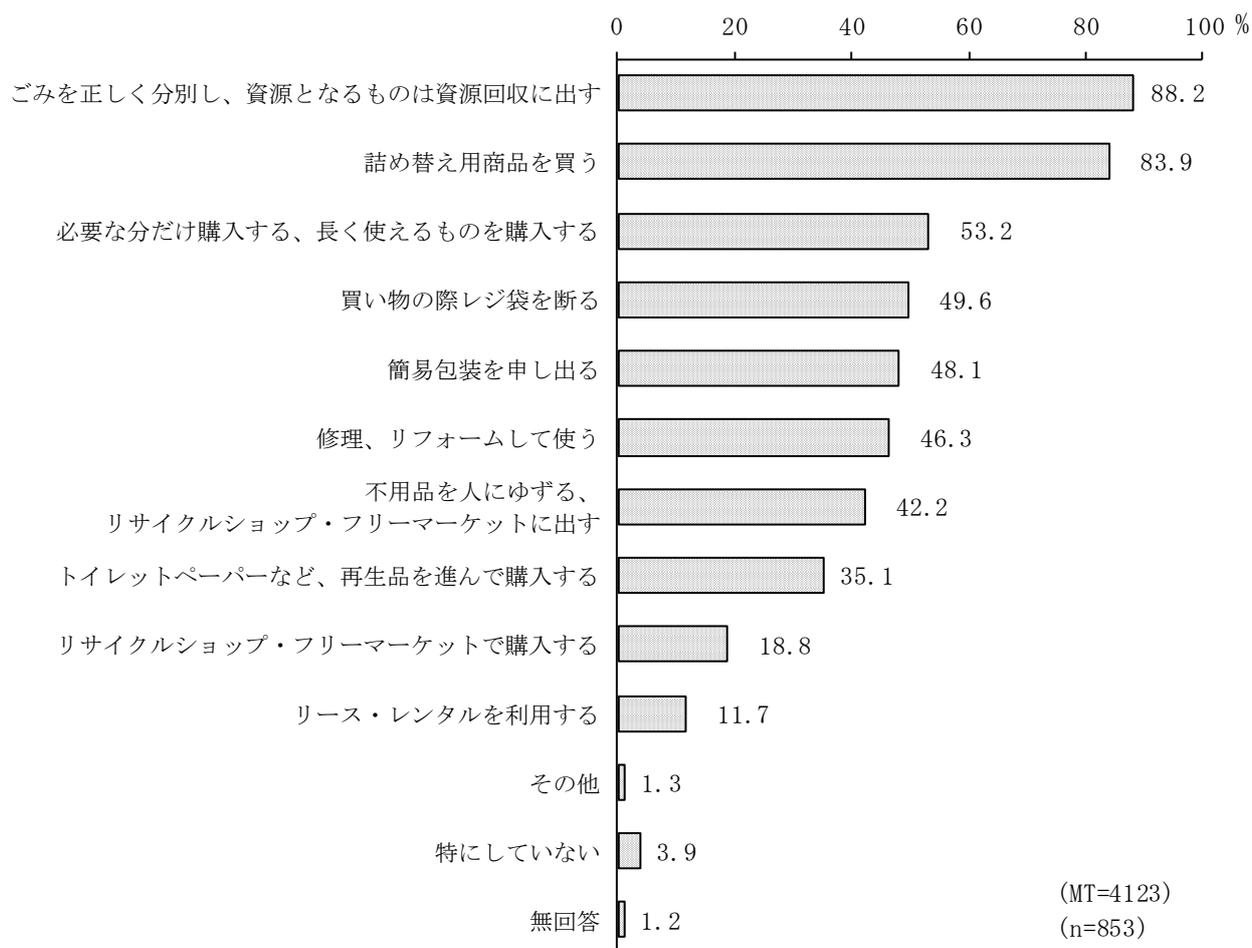
(2) 実際に行っている「3R活動」

◎「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」が9割近く

問10 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。		(複数回答可) (n=853)
【リデュース】		
1	必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する	53.2%
2	買い物の際レジ袋を断る	49.6
3	簡易包装を申し出る	48.1
【リデュース・リユース】		
4	詰め替え用商品を買う	83.9
【リユース】		
5	不用品を人にゆずる、リサイクルショップ・フリーマーケットに出す	42.2
6	リサイクルショップ・フリーマーケットで購入する	18.8
7	リース・レンタルを利用する	11.7
8	修理、リフォームして使う	46.3
【リサイクル】		
9	ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す	88.2
10	トイレットペーパーなど、再生品を進んで購入する	35.1
11	その他	1.3
12	特にしていない	3.9
	無回答	1.2

II 調査の結果 第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

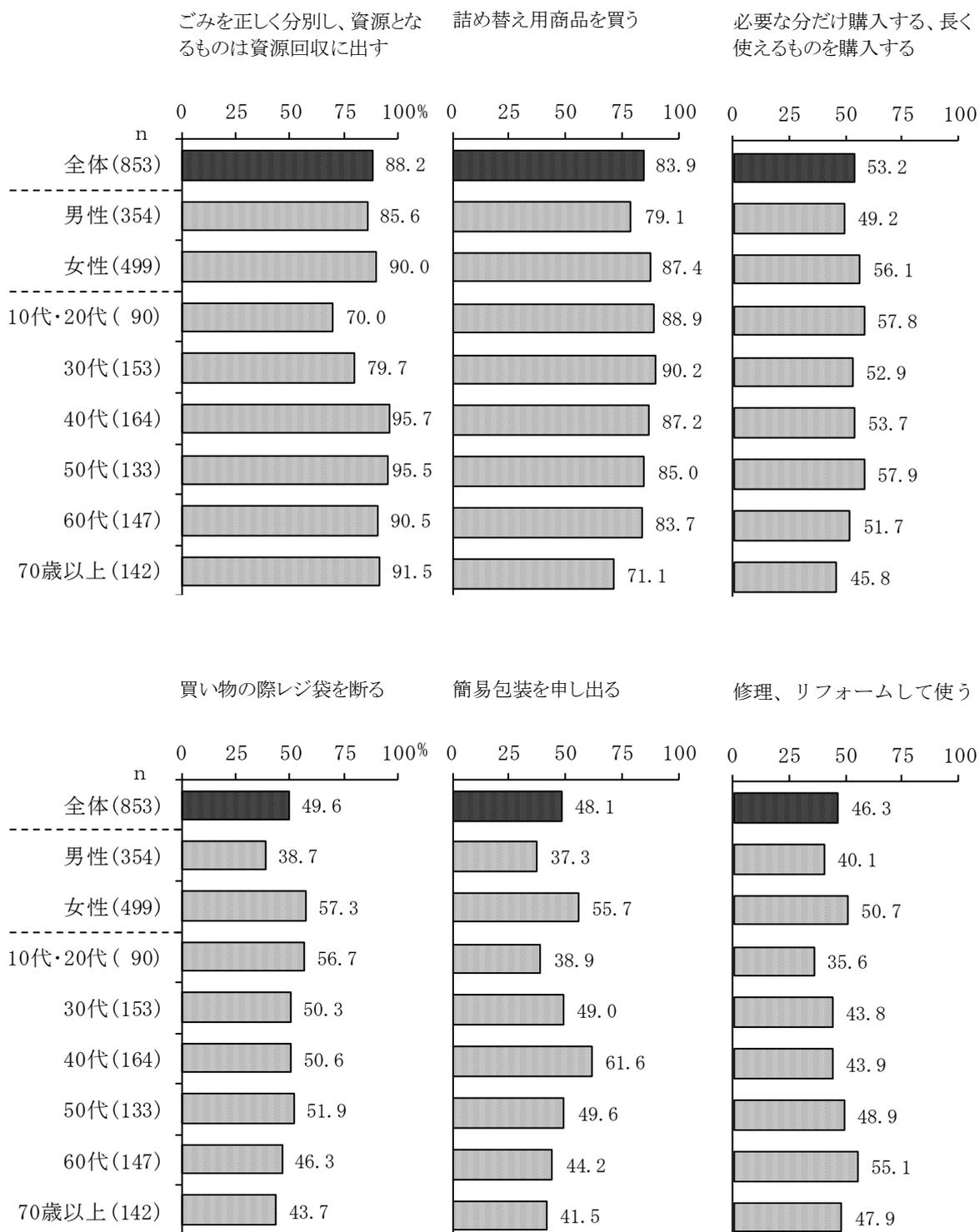
図2-3-3 実際に行っている「3R活動」



実際に行っている「3R活動」を聞いたところ、「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」(88.2%)が9割近くで最も高く、「詰め替え用商品を買う」(83.9%)で8割台半ば近くとなっている。(図2-3-3)

図2-3-4 実際に行っている「3R活動」(性別・年代別)

上位6項目



上位6項目を性別で見ると、「買い物の際レジ袋を断る」では、女性(57.3%)が男性(38.7%)を18.6ポイント上回っている。

年代別にみると、「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」では、40代(95.7%)が9割台半ばと最も高く、最も低かった10代・20代(70.0%)と比べて25.7ポイントの差がみられる。(図2-3-4)

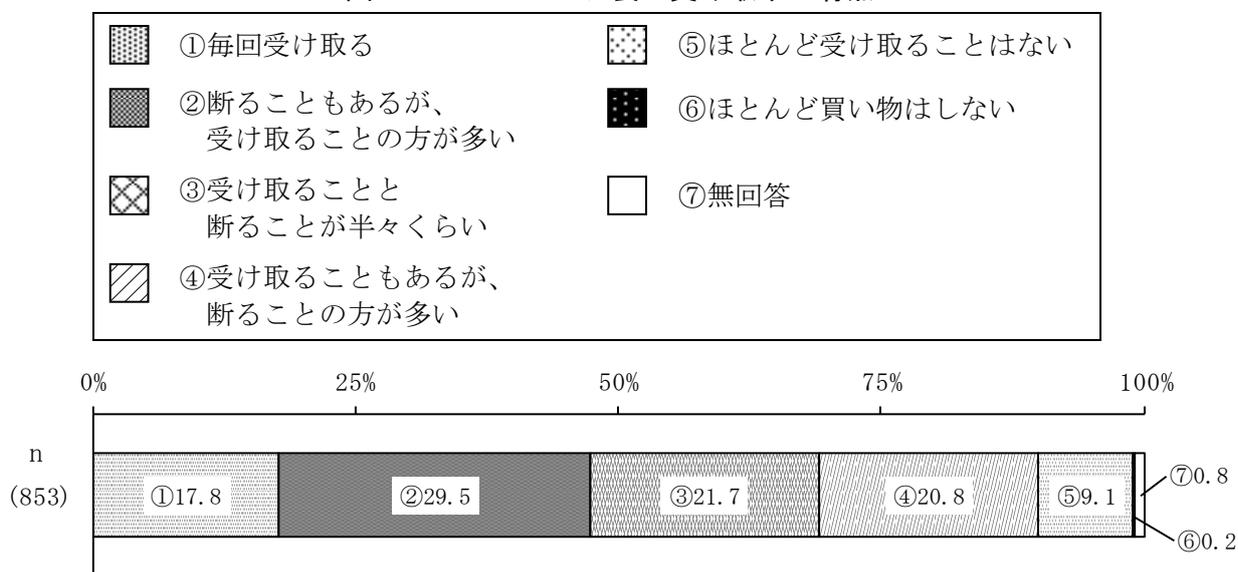
II 調査の結果 第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

（3）レジ袋の受け取りの有無

◎「断ることもあるが、受け取ることの方が多い」が3割弱

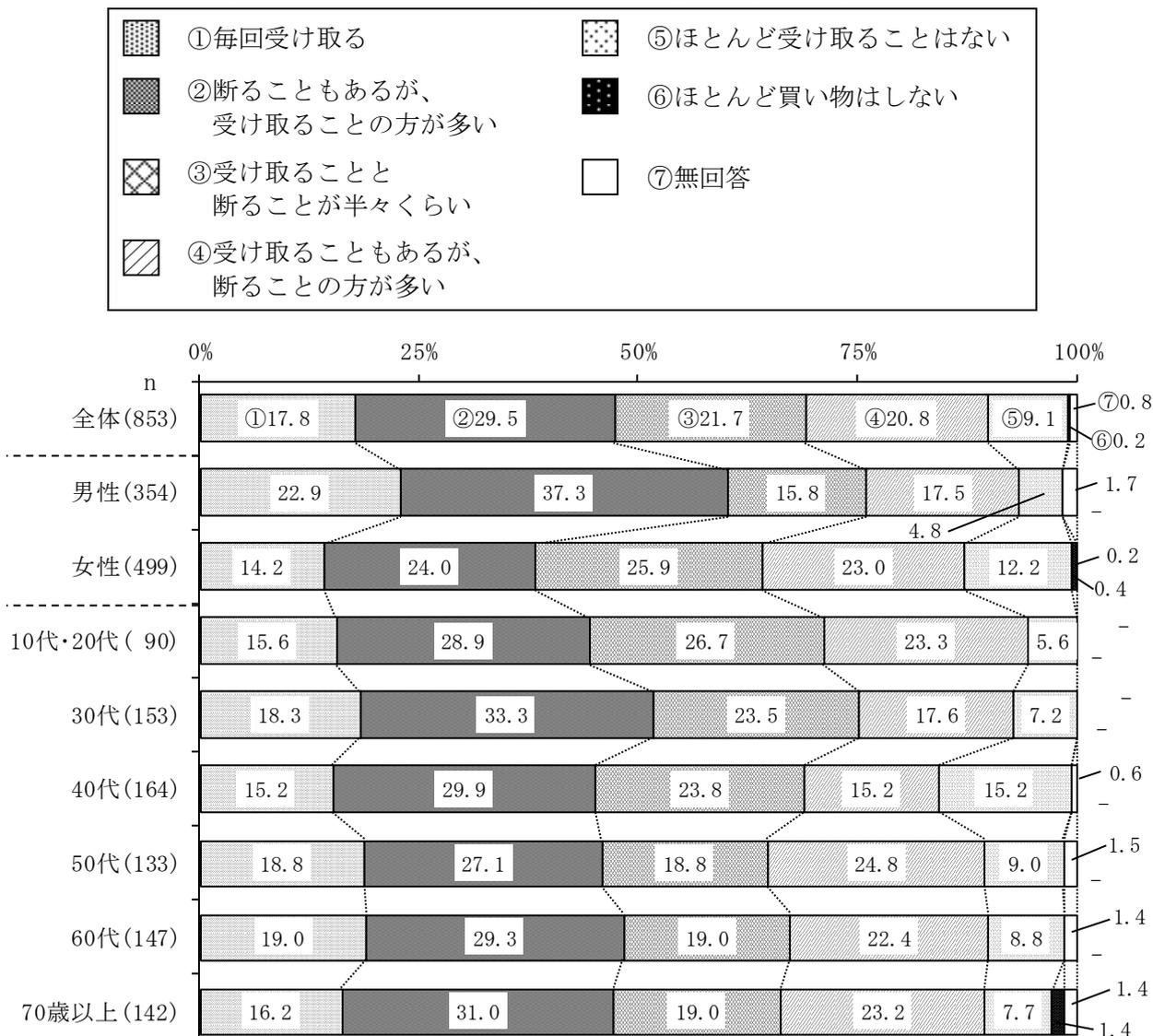
問11 あなたは買い物の際、レジ袋を受け取りますか。(n=853)	
1 毎回受け取る	17.8%
2 断ることもあるが、受け取ることの方が多い	29.5
3 受け取ることと断ることが半々くらい	21.7
4 受け取ることもあるが、断ることの方が多い	20.8
5 ほとんど受け取ることはない	9.1
6 ほとんど買い物はしない	0.2
無回答	0.8

図2-3-5 レジ袋の受け取りの有無



レジ袋の受け取りの有無を聞いたところ、「断ることもあるが、受け取ることの方が多い」(29.5%)が3割弱で最も高く、「受け取ることと断ることが半々くらい」(21.7%)、「受け取ることもあるが、断ることの方が多い」(20.8%)の順となっている。「毎回受け取る」(17.8%)と、「断ることもあるが、受け取ることの方が多い」、「受け取ることと断ることが半々くらい」、「受け取ることもあるが、断ることの方が多い」を合わせた《受け取る》(89.8%)は9割弱となっている。(図2-3-5)

図2-3-6 レジ袋の受け取りの有無（性別・年代別）



性別で見ると、「毎回受け取る」では、男性（22.9%）が女性（14.2%）を8.7ポイント上回り、「断ることもあるが、受け取ることの方が多い」では、男性（37.3%）が女性（24.0%）を13.3ポイント上回っている。「ほとんど受け取ることはない」では、女性（12.2%）が男性（4.8%）を7.4ポイント上回っている。

年代別で見ると、「ほとんど受け取ることはない」では、40代（15.2%）が1割台半ばと、他の年代に比べてやや高い割合を示している。（図2-3-6）

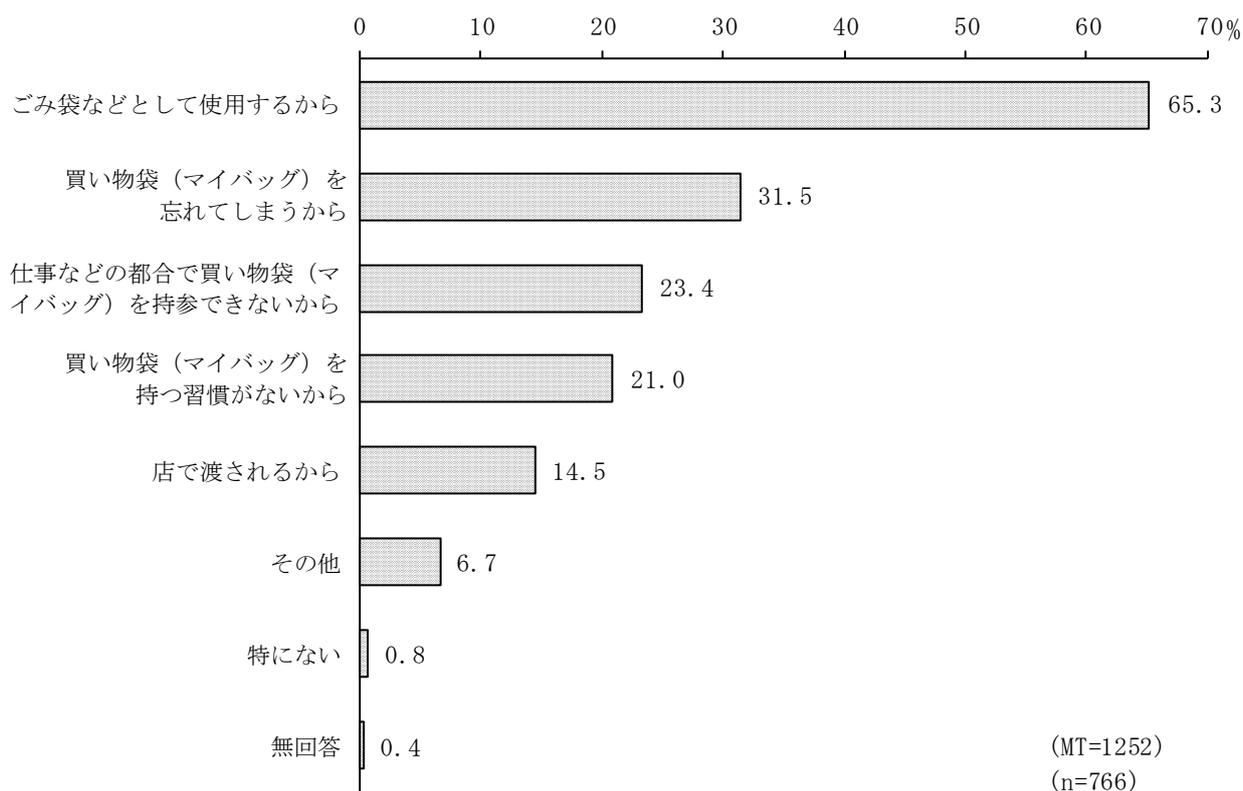
Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

（4）レジ袋を受け取る理由

◎「ごみ袋などとして使用するから」が6割台半ば

問11-1	問11で、【1毎回受け取る】、【2断ることもあるが、受け取ることの方が多い】、【3受け取ることと断ることが半々くらい】、【4受け取ることもあるが、断ることの方が多い】の方	
	あなたがレジ袋を受け取る理由は何ですか。（複数回答可）(n=766)	
1	買い物袋（マイバッグ）を持つ習慣がないから	21.0%
2	買い物袋（マイバッグ）を忘れてしまうから	31.5
3	仕事などの都合で買い物袋（マイバッグ）を持参できないから	23.4
4	ごみ袋などとして使用するから	65.3
5	店で渡されるから	14.5
6	その他	6.7
7	特にない	0.8
	無回答	0.4

図2-3-7 レジ袋を受け取る理由



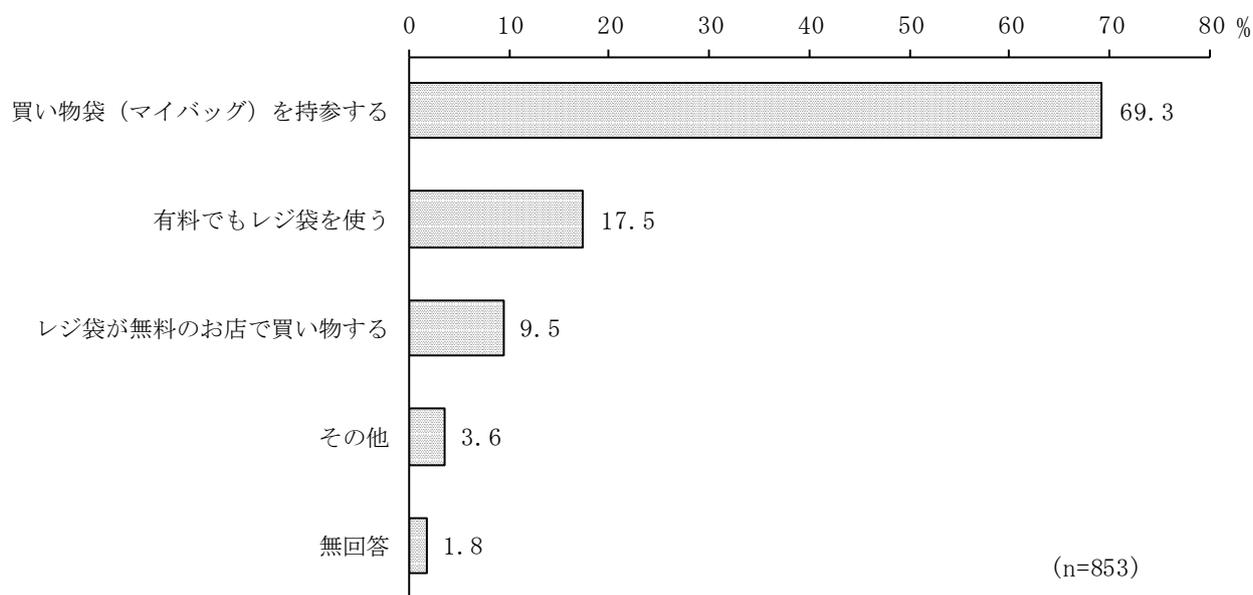
問11で、「毎回受け取る」、「断ることもあるが、受け取ることの方が多い」、「受け取ることと断ることが半々くらい」、「受け取ることもあるが、断ることの方が多い」の方に、レジ袋を受け取る理由を聞いたところ、「ごみ袋などとして使用するから」(65.3%)が6割台半ばで最も高く、「買い物袋（マイバッグ）を忘れてしまうから」(31.5%)が3割強で続いている。(図2-3-7)

(5) レジ袋有料化後の対応

◎「買い物袋（マイバッグ）を持参する」が7割弱

問12 レジ袋削減を目的として、レジ袋を有料化するスーパーなどが出てきています。	
あなたがよく利用するお店がレジ袋を有料化したらどうしますか。(n=853)	
1 買い物袋（マイバッグ）を持参する	69.3%
2 有料でもレジ袋を使う	17.5
3 レジ袋が無料のお店で買い物する	9.5
4 その他	3.6
無回答	1.8

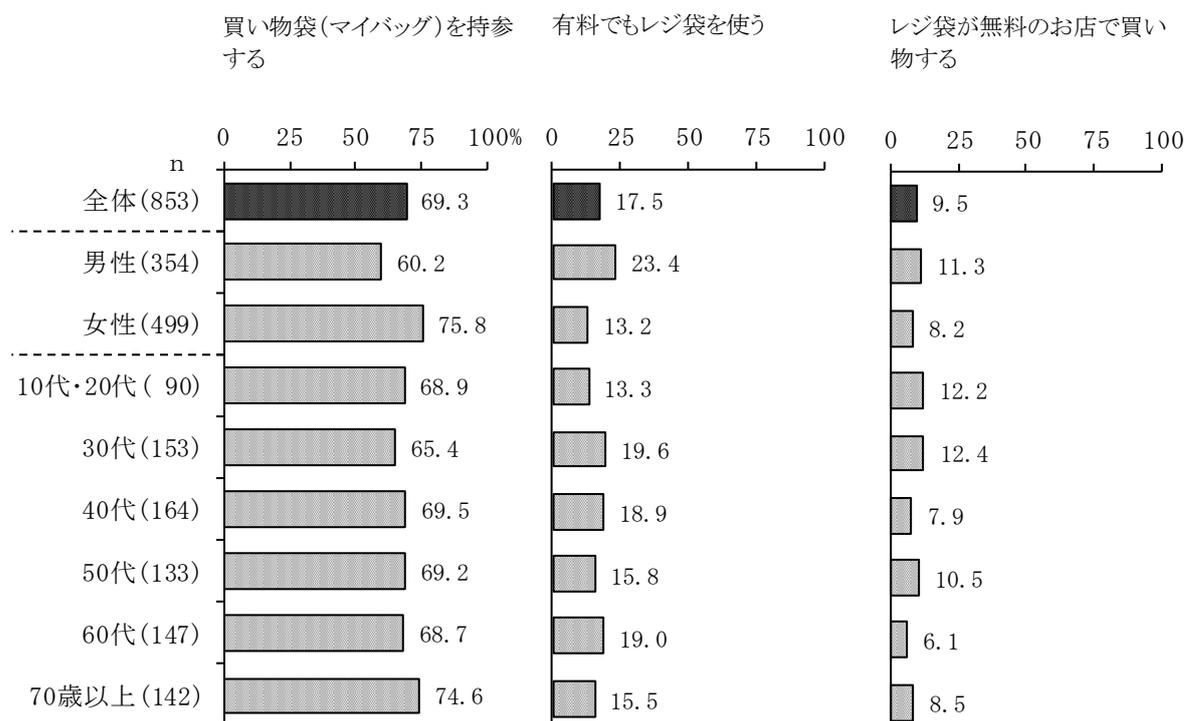
図2-3-8 レジ袋有料化後の対応



レジ袋有料化後の対応について聞いたところ、「買い物袋（マイバッグ）を持参する」（69.3%）が7割弱で最も高く、以下、「有料でもレジ袋を使う」（17.5%）、「レジ袋が無料のお店で買い物する」（9.5%）の順となっている。（図2-3-8）

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

図2-3-9 レジ袋有料化後の対応（性別・年代別）



性別でみると、「買い物袋（マイバッグ）を持参する」では、女性（75.8%）が男性（60.2%）を 15.6 ポイント上回っており、「有料でもレジ袋を使う」では、男性（23.4%）が女性（13.2%）を 10.2 ポイント上回っている。

年代別でみると、「買い物袋（マイバッグ）を持参する」では、70歳以上（74.6%）が7割台半ば近くで最も高くなっている。（図2-3-9）

(6) 分別方法・分別種別の変更の理解度

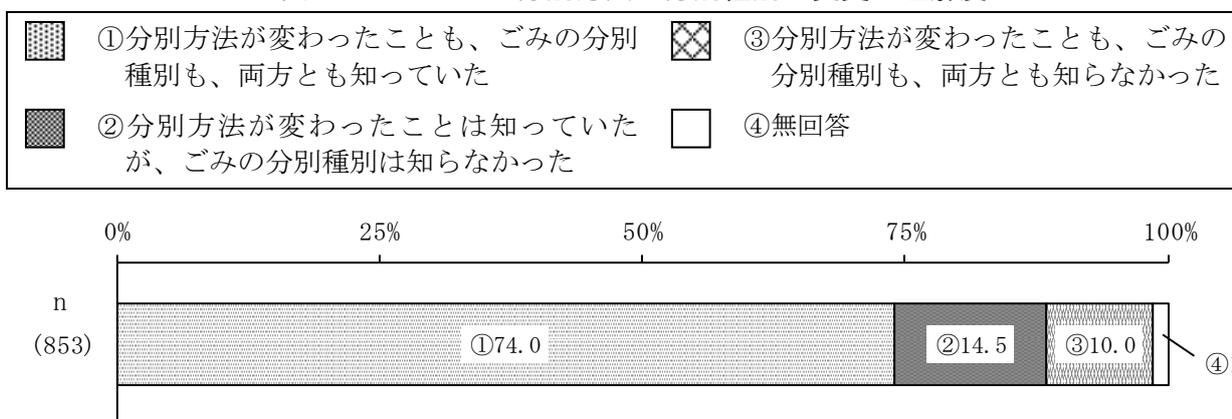
◎「分別方法が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知っていた」が7割台半ば近く

問13 新宿区では、平成20年4月から区内全域で容器包装プラスチックは「資源」、その他のプラスチック製品やゴム・皮革は「燃やすごみ」に分別方法が変わりました。

あなたは分別方法が変わったこと、ごみの分別種別を知っていましたか。(n=853)

1	分別方法が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知っていた	74.0%
2	分別方法が変わったことは知っていたが、ごみの分別種別は知らなかった	14.5
3	分別方法が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知らなかった	10.0
	無回答	1.5

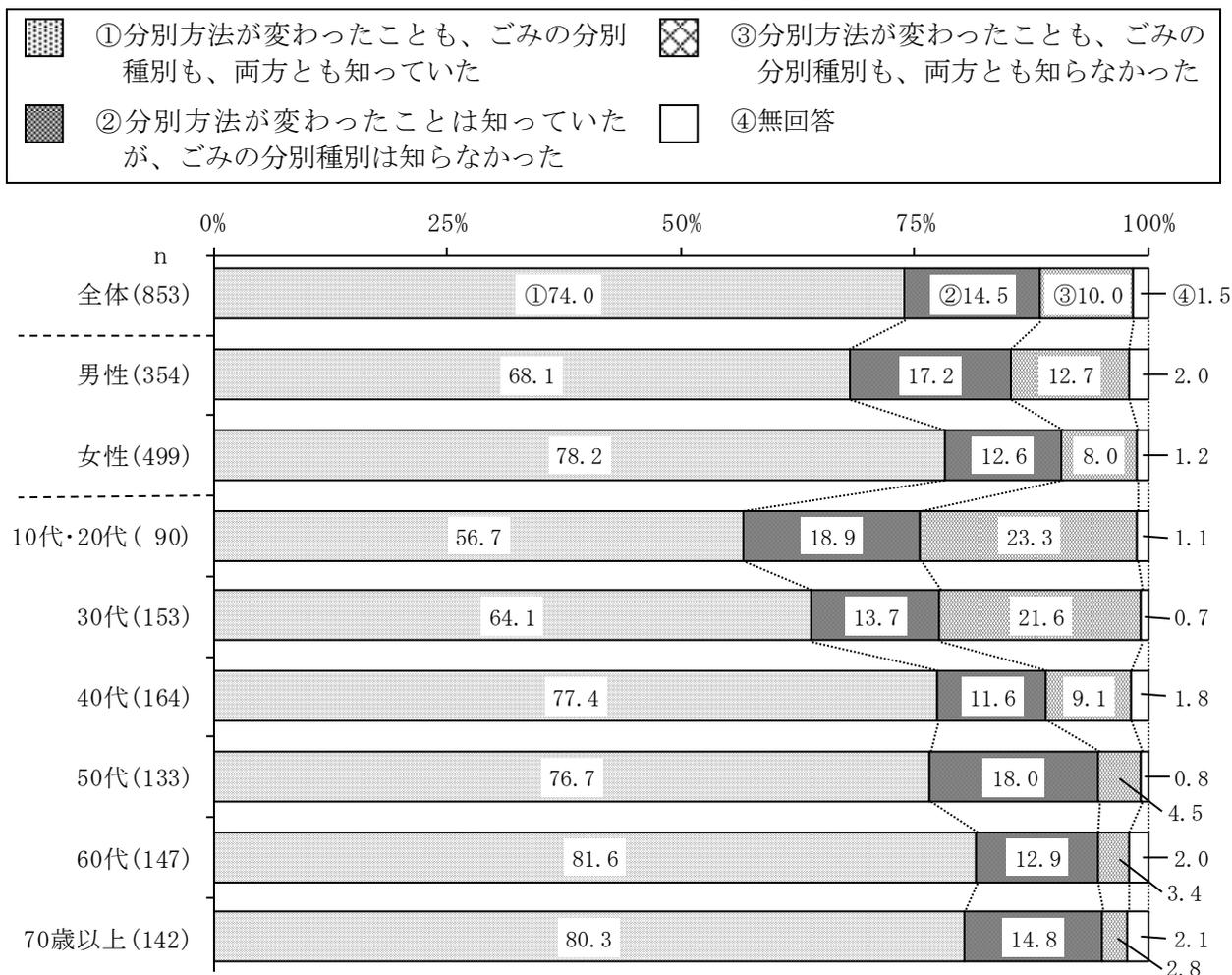
図2-3-10 分別方法・分別種別の変更の理解度



分別方法・分別種別の変更を知っているか聞いたところ、「分別方法が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知っていた」(74.0%)が7割台半ば近くで最も高く、以下、「分別方法が変わったことは知っていたが、ごみの分別種別は知らなかった」(14.5%)、「分別方法が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知らなかった」(10.0%)の順となっている。(図2-3-10)

II 調査の結果 第2回 (テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について)

図2-3-11 分別方法・分別種別の変更の理解度 (性別・年代別)



性別で見ると、「分別方法が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知っていた」では、女性 (78.2%) が男性 (68.1%) を 10.1 ポイント上回っている。

年代別で見ると、「分別方法が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知らなかった」では、10代・20代 (23.3%) が2割台半ば近くで最も高く、30代 (21.6%) でも2割強と、他の年代に比べて高い割合を示している。(図2-3-11)

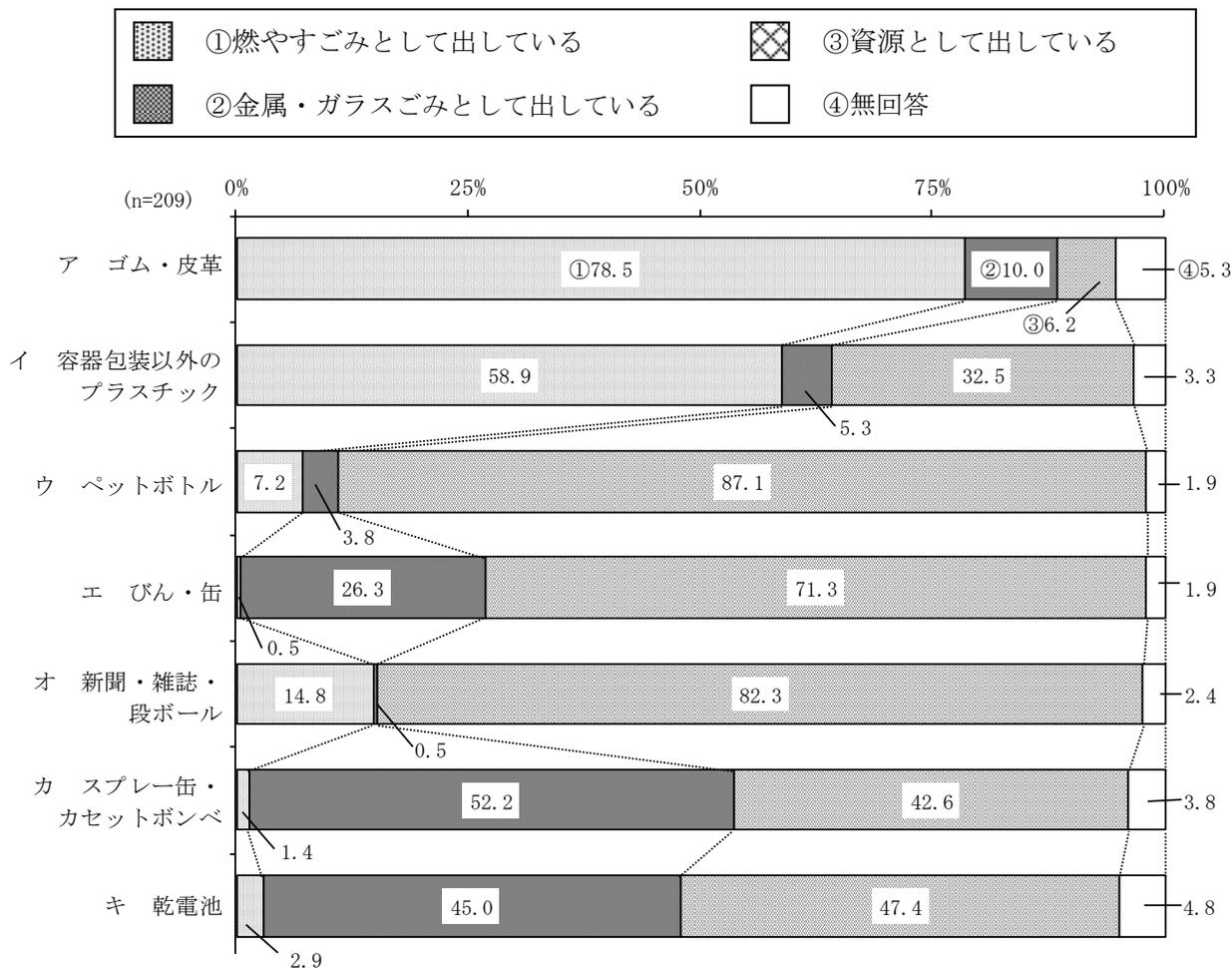
(7) ごみ・資源の出し方

◎『ペットボトル』の「資源として出している」が8割台半ばを超える

問13-1 問13で【2分別方法が変わったことは知っていたが、ごみの分別種別は知らなかった】 または、【3分別種類が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知らなかった】の 方 ごみ・資源の出し方はどのようにしていますか。(n=209)				
	燃やすごみとして 出している	金属・陶器・ガ ラスごみとして 出している	資源として 出している	無回答
ア ゴム・皮革	78.5%	10.0%	6.2%	5.3%
イ 容器包装以外のプラスチック	58.9	5.3	32.5	3.3
ウ ペットボトル	7.2	3.8	87.1	1.9
エ びん・缶	0.5	26.3	71.3	1.9
オ 新聞・雑誌・段ボール	14.8	0.5	82.3	2.4
カ スプレー缶・カセットボンベ	1.4	52.2	42.6	3.8
キ 乾電池	2.9	45.0	47.4	4.8

II 調査の結果 第2回 (テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について)

図2-3-12 ごみ・資源の出し方



問13で「分別方法が変わったことは知っていたが、ごみの分別種別は知らなかった」または、「分別種別が変わったことも、ごみの分別種別も、両方とも知らなかった」の方に、ごみ・資源の出し方を聞いたところ、項目別で「燃やすごみとして出している」が最も高かったのは、『ゴム・皮革』(78.5%)で8割近くとなっている。

「金属・ガラスごみとして出している」が最も高かったのは、『スプレー缶・カセットボンベ』(52.2%)で5割強となっている。

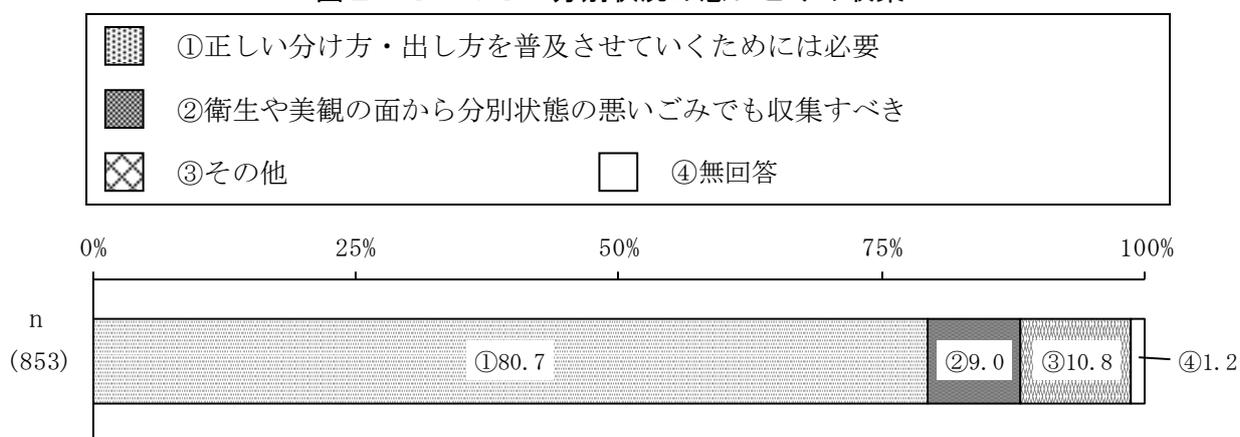
「資源として出している」が最も高かったのは、『ペットボトル』で(87.1%)8割台半ばを超える。(図2-3-12)

(8) 分別状況の悪いごみの収集

◎「正しい分け方・出し方を普及させていくためには必要」が約8割

問14 ごみと資源の正しい分け方・出し方をより理解していただくため、分別状況の悪い集積所では、警告シールを貼り収集をしないようにしていますが、あなたは、これについてどう思われますか。(n=853)	
1 正しい分け方・出し方を普及させていくためには必要	80.7%
2 衛生や美観の面から分別状態の悪いごみでも収集すべき	9.0
3 その他	10.8
無回答	1.2

図2-3-13 分別状況の悪いごみの収集



分別状況の悪いごみの収集について聞いたところ、「正しい分け方・出し方を普及させていくためには必要」(80.7%)が約8割で最も高くなっている。

一方「衛生や美観の面から分別状態の悪いごみでも収集すべき」(9.0%)は1割弱となっている。

(図2-3-13)

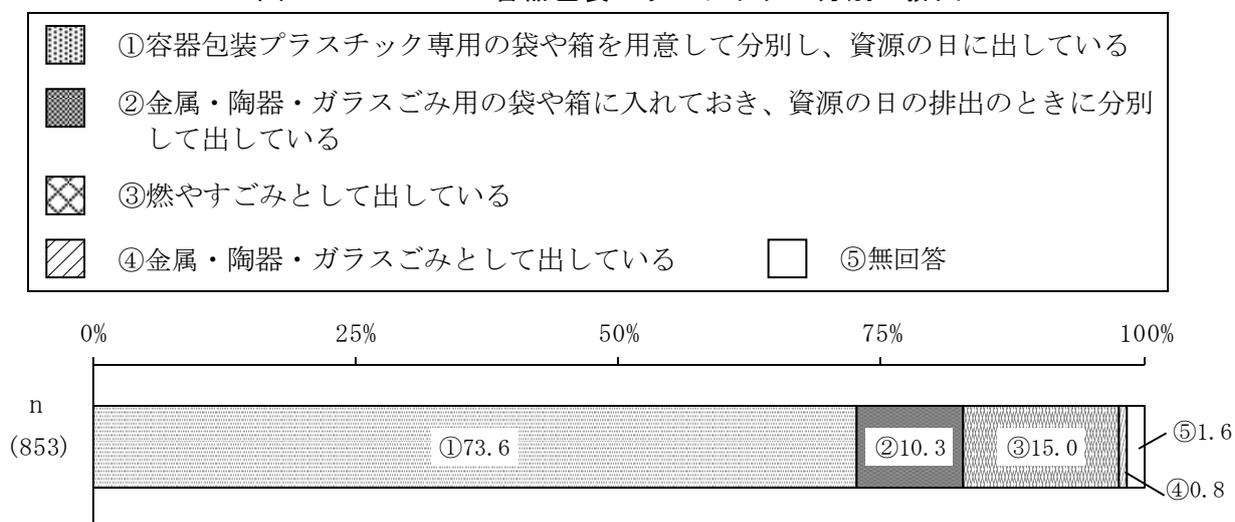
II 調査の結果 第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

（9）容器包装プラスチックの分別・排出

◎「容器包装プラスチック専用の袋や箱を用意して分別し、資源の日に出している」が7割台半ば近く

問15 新しく資源となった容器包装プラスチックをご家庭ではどのように分別・排出していますか。(n=853)	
1 容器包装プラスチック専用の袋や箱を用意して分別し、資源の日に出している	73.6%
2 金属・陶器・ガラスごみ用の袋や箱に入れておき、資源の日の排出のときに分別して出している	10.3
3 燃やすごみとして出している	15.0
4 金属・陶器・ガラスごみとして出している	0.8
無回答	1.6

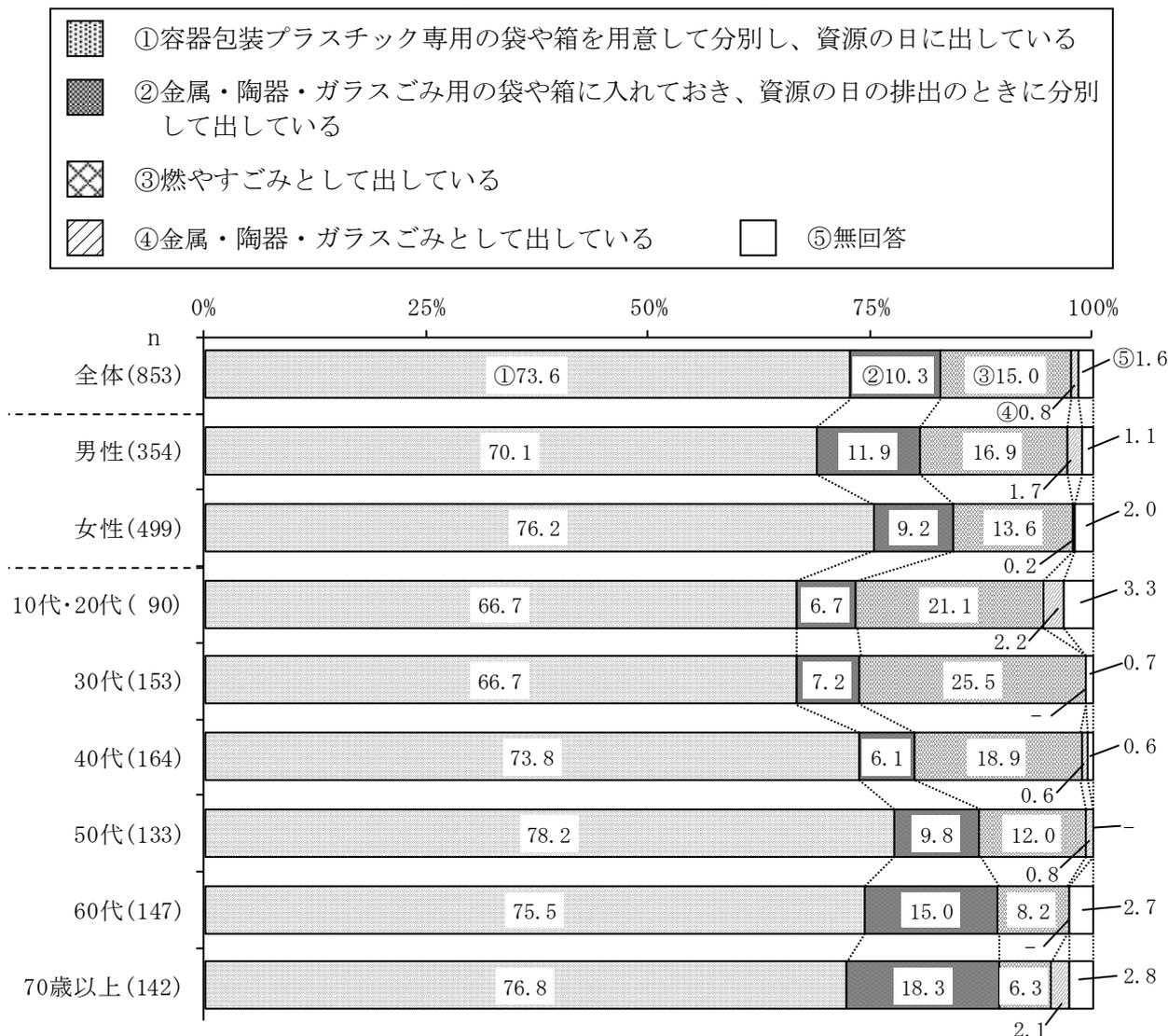
図2-3-14 容器包装プラスチックの分別・排出



容器包装プラスチックの分別・排出について聞いたところ、「容器包装プラスチック専用の袋や箱を用意して分別し、資源の日に出している」（73.6%）が7割台半ば近くで最も高く、以下、「燃やすごみとして出している」（15.0%）、「金属・陶器・ガラスごみ用の袋や箱に入れておき、資源の日の排出のときに分別して出している」（10.3%）、「金属・陶器・ガラスごみとして出している」（0.8%）の順となっている。

「容器包装プラスチック専用の袋や箱を用意して分別し、資源の日に出している」と「金属・陶器・ガラスごみ用の袋や箱に入れておき、資源の日の排出のときに分別して出している」を合わせた《資源の日に出している》（83.9%）は8割台半ば近くとなっている。（図2-3-14）

図2-3-15 容器包装プラスチックの分別・排出（性別・年代別）



性別で見ると、「容器包装プラスチック専用の袋や箱を用意して分別し、資源の日に出している」では、女性（76.2%）が7割台半ばを超え、男性（70.1%）より6.1ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「燃やすごみとして出している」では、30代（25.5%）が2割台半ばで最も高く、10代・20代（21.1%）でも2割強と、全体（15.0%）と比べてやや高くなっている。

（図2-3-15）

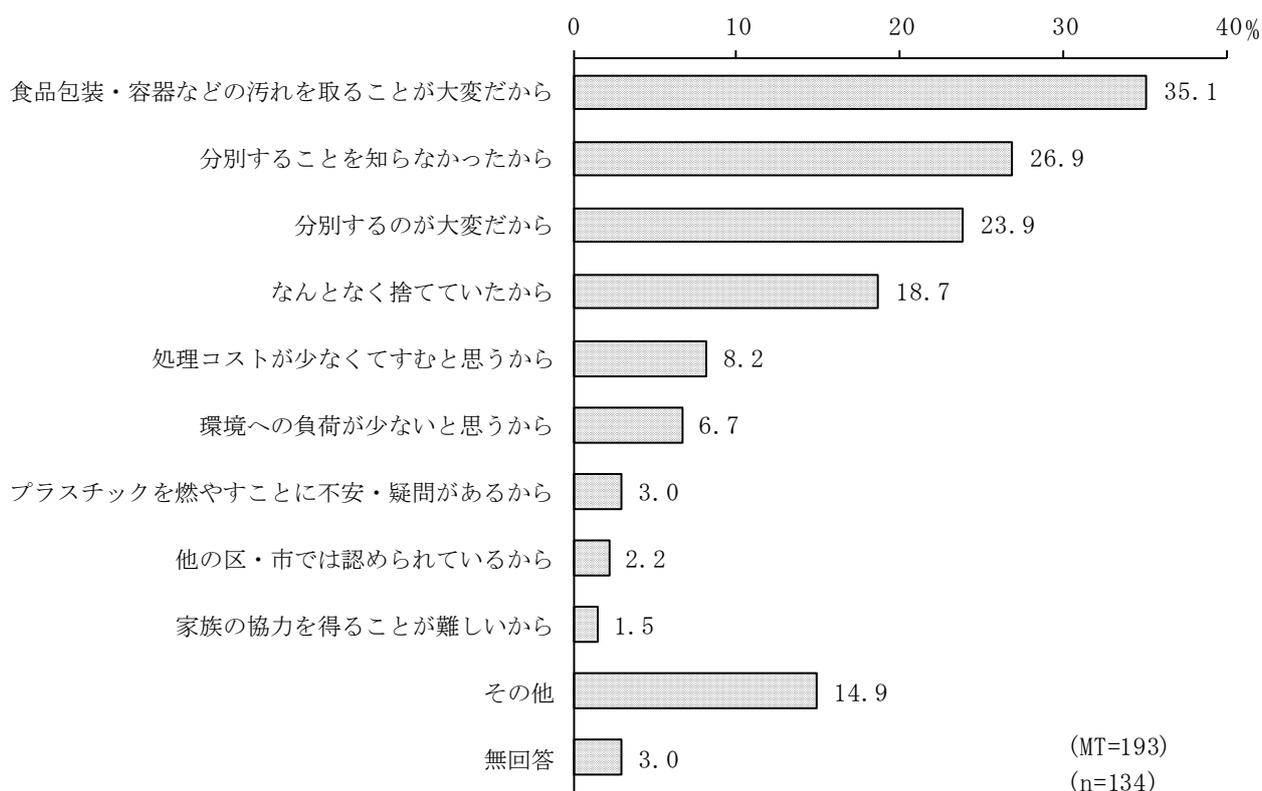
Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

（10）容器包装プラスチックを燃やすごみ、金属・陶器・ガラスごみとして出す理由

◎「食品包装・容器などの汚れを取ることが大変だから」が3割台半ば

問15-1	問15で、【3燃やすごみとして出している】または、【4金属・陶器・ガラスごみとして出している】の方 燃やすごみ、または金属・陶器・ガラスごみとして出す主な理由は何ですか。 (複数回答可) (n=134)	
1	分別するのが大変だから	23.9%
2	食品包装・容器などの汚れを取ることが大変だから	35.1
3	プラスチックを燃やすことに不安・疑問があるから	3.0
4	家族の協力を得ることが難しいから	1.5
5	他の区・市では認められているから	2.2
6	環境への負荷が少ないと思うから	6.7
7	処理コストが少なくすむと思うから	8.2
8	分別することを知らなかったから	26.9
9	なんとなく捨てていたから	18.7
10	その他	14.9
	無回答	3.0

図2-3-16 容器包装プラスチックを燃やすごみ、金属・陶器・ガラスごみとして出す理由



問15で、「燃やすごみとして出している」または、「金属・陶器・ガラスごみとして出している」と答えた方に、燃やすごみ、または金属・陶器・ガラスごみとして出す主な理由を聞いたところ、「食品包装・容器などの汚れを取ることが大変だから」(35.1%)が3割台半ばで最も高く、「分別することを知らなかったから」(26.9%)、「分別するのが大変だから」(23.9%)と続いている。

(図2-3-16)

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ4 成年後見制度について）

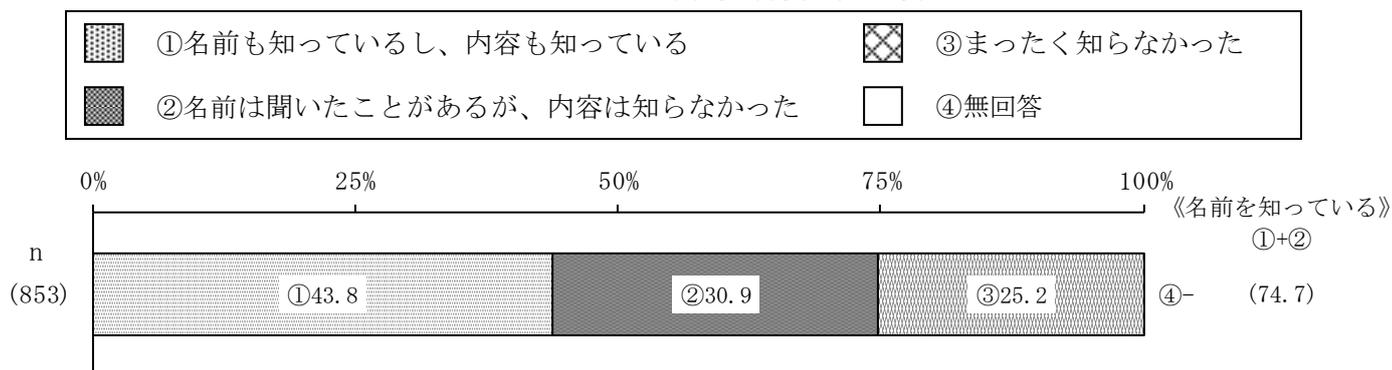
テーマ4 成年後見制度について

（1）成年後見制度の認知度

◎「名前も知っているし、内容も知っている」が4割台半ば近く

問16 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(n=853)	
1 名前も知っているし、内容も知っている	43.8%
2 名前は聞いたことがあるが、内容は知らなかった	30.9%
3 まったく知らなかった	25.2%
無回答	0.0%

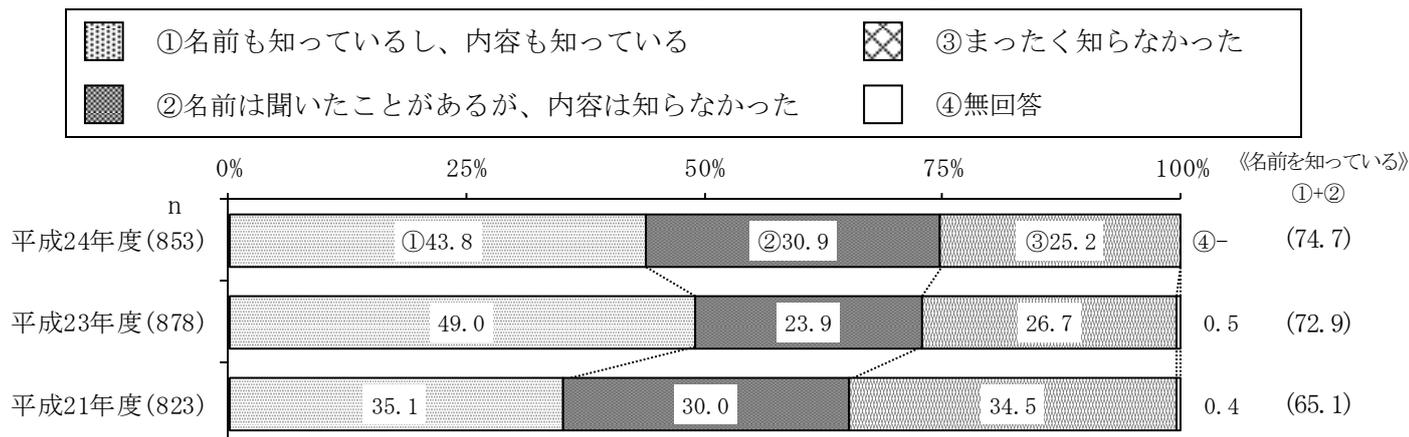
図2-4-1 成年後見制度の認知度



成年後見制度を知っているか聞いたところ、「名前も知っているし、内容も知っている」(43.8%)が4割台半ば近くで最も高く、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らなかった」(30.9%)、「まったく知らなかった」(25.2%)の順となっている。

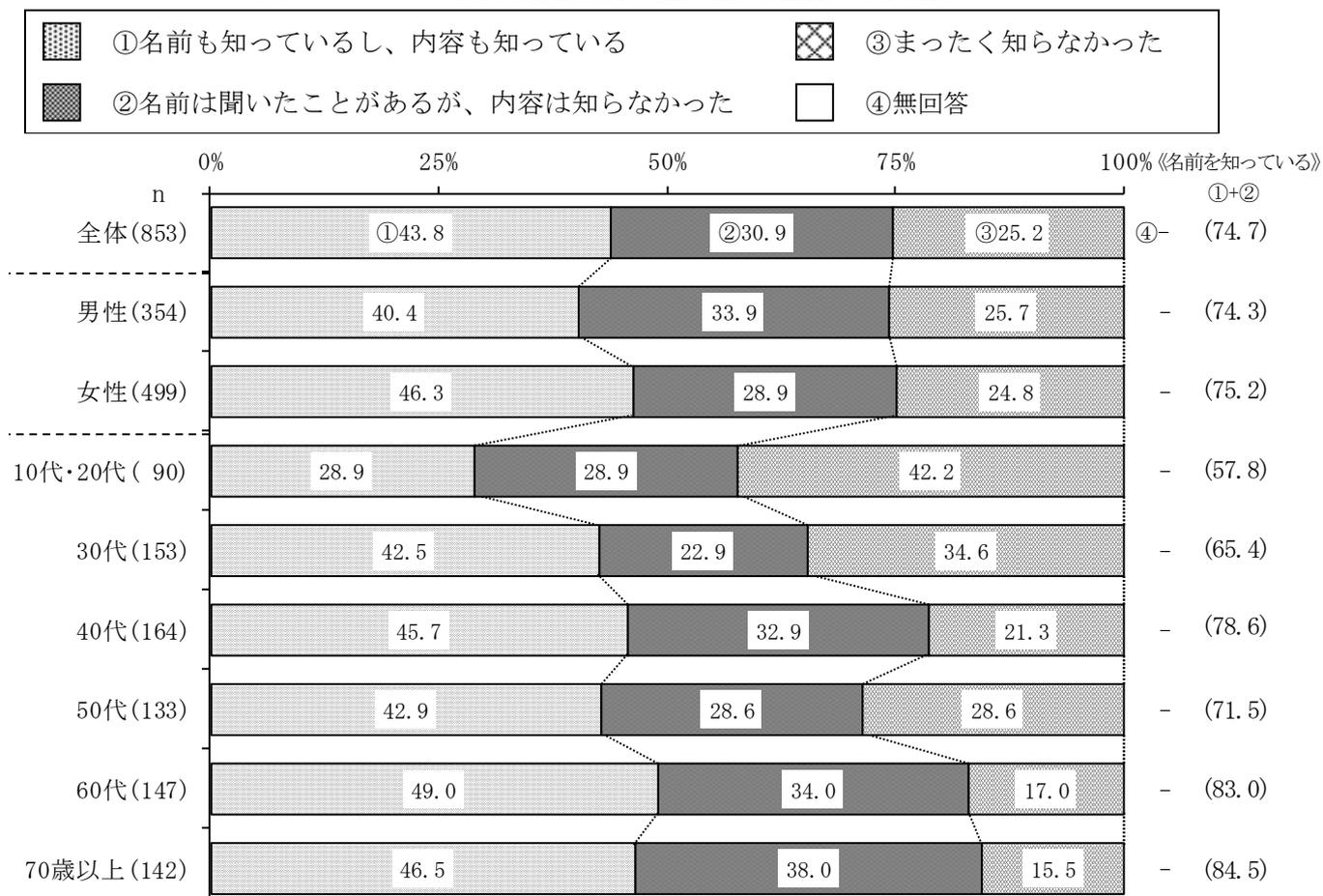
「名前も知っているし、内容も知っている」と「名前は聞いたことがあるが、内容は知らなかった」を合わせた《名前を知っている》(74.7%)は7割台半ば近くとなっている。(図2-4-1)

図2-4-2 成年後見制度の認知度（経年推移）



経年推移をみると、「名前を知っている」では、平成24年度（74.7%）が平成21年度（65.1%）を9.6ポイント上回っており、年を追うごとに高い割合を示している。（図2-4-2）

図2-4-3 成年後見制度の認知度（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「名前も知っているし、内容も知っている」では、10代・20代（28.9%）が全体（43.8%）を14.9ポイント下回っている。（図2-4-3）

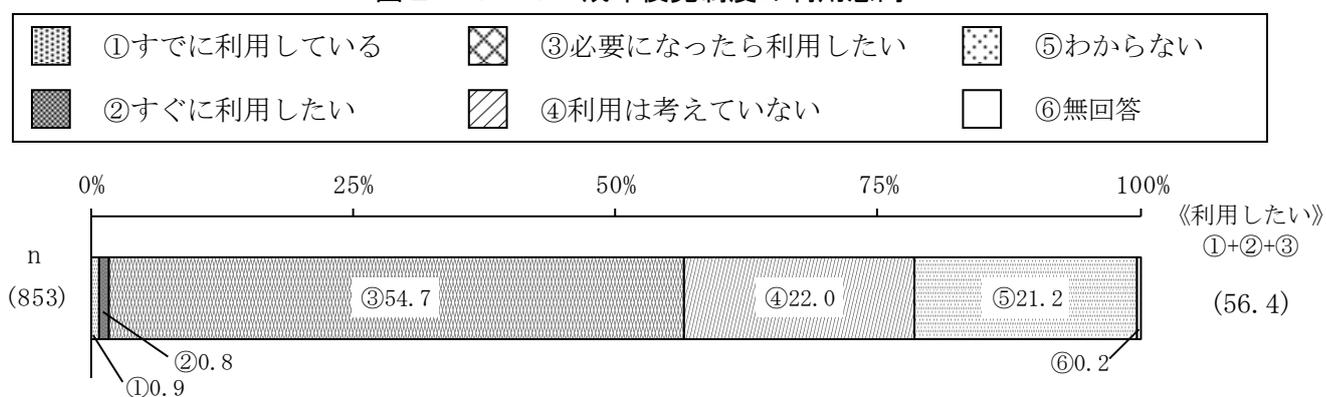
Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ4 成年後見制度について）

（2）成年後見制度の利用意向

◎「必要になったら利用したい」が5割台半ば近く

問17 あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。(n=853)		
1	すでに利用している	0.9%
2	すぐに利用したい	0.8
3	必要になったら利用したい	54.7
4	利用は考えていない	22.0
5	わからない	21.2
	無回答	0.2

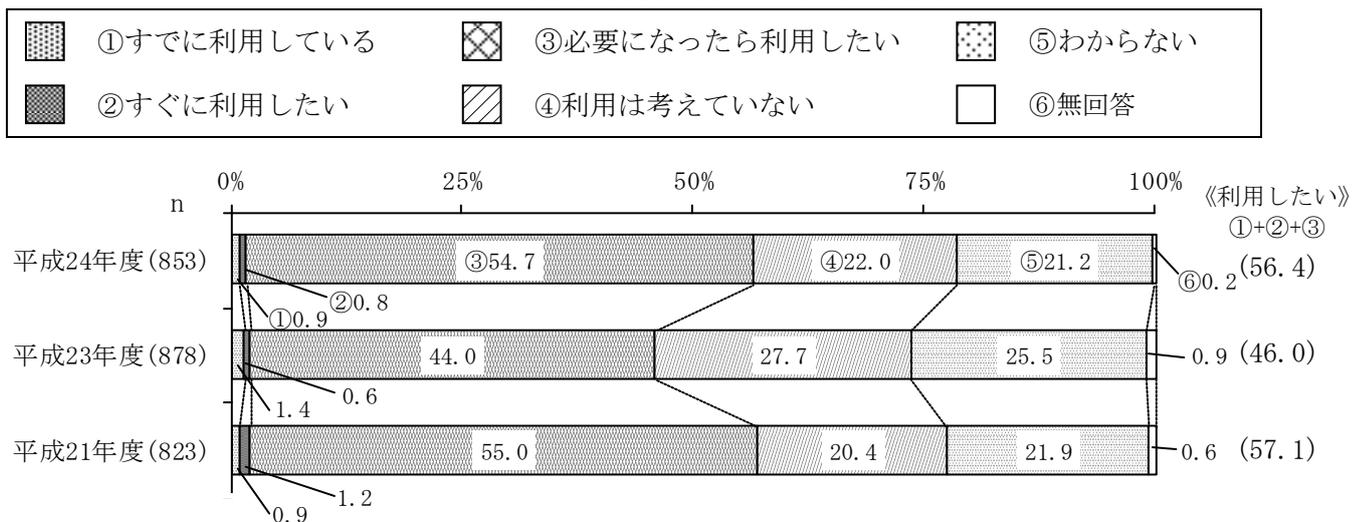
図2-4-4 成年後見制度の利用意向



成年後見制度の利用意向を聞いたところ、「必要になったら利用したい」(54.7%)が5割台半ば近くで最も高く、以下、「利用は考えていない」(22.0%)、「わからない」(21.2%)、「すでに利用している」(0.9%)、「すぐに利用したい」(0.8%)の順となっている。

「すでに利用している」と、「すぐに利用したい」、「必要になったら利用したい」を合わせた《利用したい》(56.4%)は5割台半ばを超える。(図2-4-4)

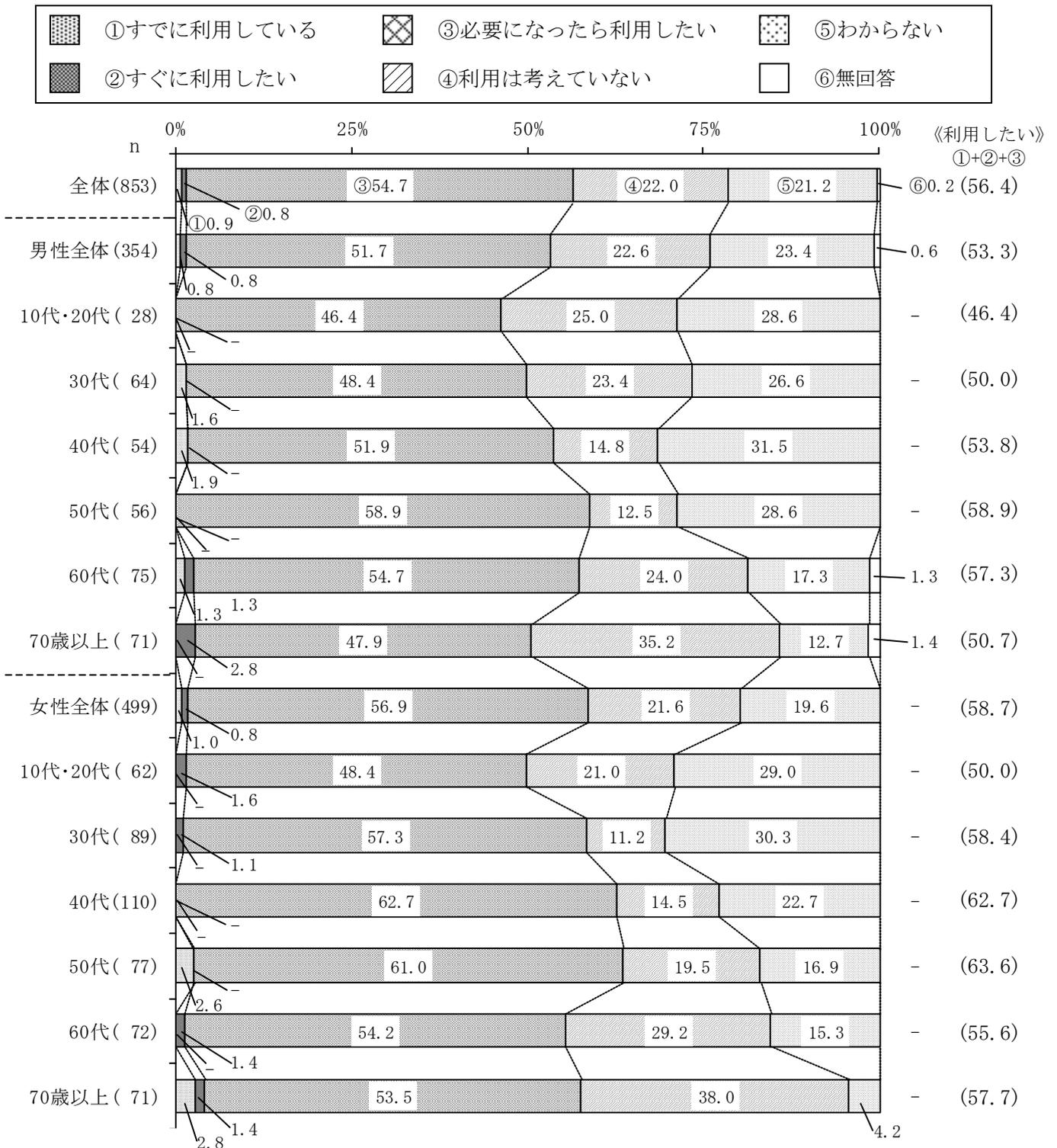
図2-4-5 成年後見制度の利用意向（経年推移）



経年推移をみると、「必要になったら利用したい」では、平成24年度（54.7%）が、平成23年度（44.0%）を10.7ポイント上回っている。（図2-4-5）

Ⅱ 調査の結果 第2回 (テーマ4 成年後見制度について)

図2-4-6 成年後見制度の利用意向 (性別・性/年代別)



性/年代別にみると、「すでに利用している」と、「すぐに利用したい」、「必要になったら利用したい」を合わせた《利用したい》は、女性の50代(63.6%)が6割半ば近くで最も高く、女性の40代(62.7%)でも6割を超えている。男性では、50代(58.9%)が6割近くで最も高くなっている。(図2-4-6)

(3) 後見人になってほしい人

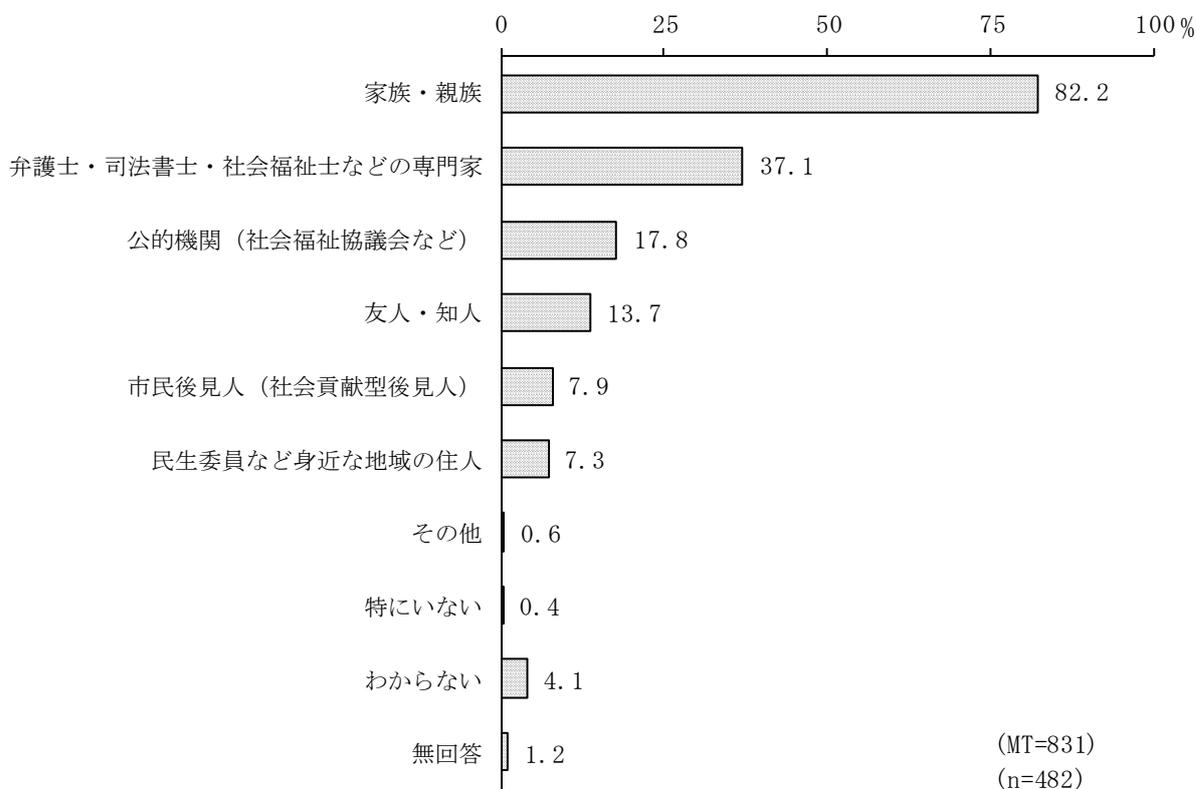
◎「家族・親族」が8割強

問17-1 問17で、【1すでに利用している】、【2すぐに利用したい】、【3必要になったら利用したい】の方

あなたは、成年後見制度を利用する際、どのような人に後見人になってほしいと思いますか。すでに利用している人もお答えください。(複数回答可) (n=482)

1	家族・親族	82.2%
2	友人・知人	13.7
3	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家	37.1
4	民生委員など身近な地域の住人	7.3
5	市民後見人（社会貢献型後見人）	7.9
6	公的機関（社会福祉協議会など）	17.8
7	その他	0.6
8	特にない	0.4
9	わからない	4.1
	無回答	1.2

図2-4-7 後見人になってほしい人



問17で、「すでに利用している」、「すぐに利用したい」、「必要になったら利用したい」の方に、後見人になってほしい人を聞いたところ、「家族・親族」(82.2%)が8割強で最も高く、「弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家」(37.1%)が続いている。(図2-4-7)

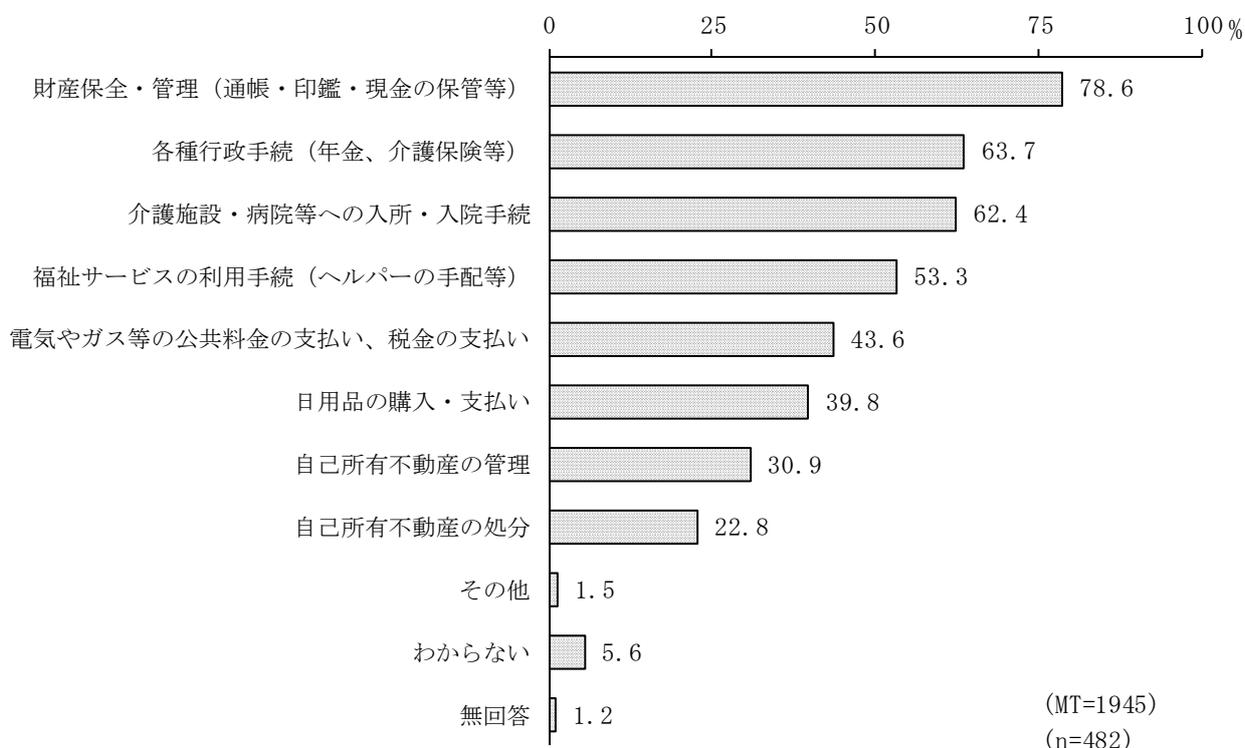
Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ4 成年後見制度について）

（4）成年後見制度で将来利用したいもの

◎「財産保全・管理（通帳・印鑑・現金の保管等）」が8割近く

問17-2 問17で、【1すでに利用している】、【2すぐに利用したい】、【3必要になったら利用したい】の方	
あなたが、成年後見制度で、将来利用したいと思う（利用している）ものは何ですか。	
（複数回答可）（n=482）	
1 財産保全・管理（通帳・印鑑・現金の保管等）	78.6%
2 日用品の購入・支払い	39.8
3 電気やガス等の公共料金の支払い、税金の支払い	43.6
4 各種行政手続（年金、介護保険等）	63.7
5 介護施設・病院等への入所・入院手続	62.4
6 福祉サービスの利用手続（ヘルパーの手配等）	53.3
7 自己所有不動産の処分	22.8
8 自己所有不動産の管理	30.9
9 その他	1.5
10 わからない	5.6
無回答	1.2

図2-4-8 成年後見制度で将来利用したいもの



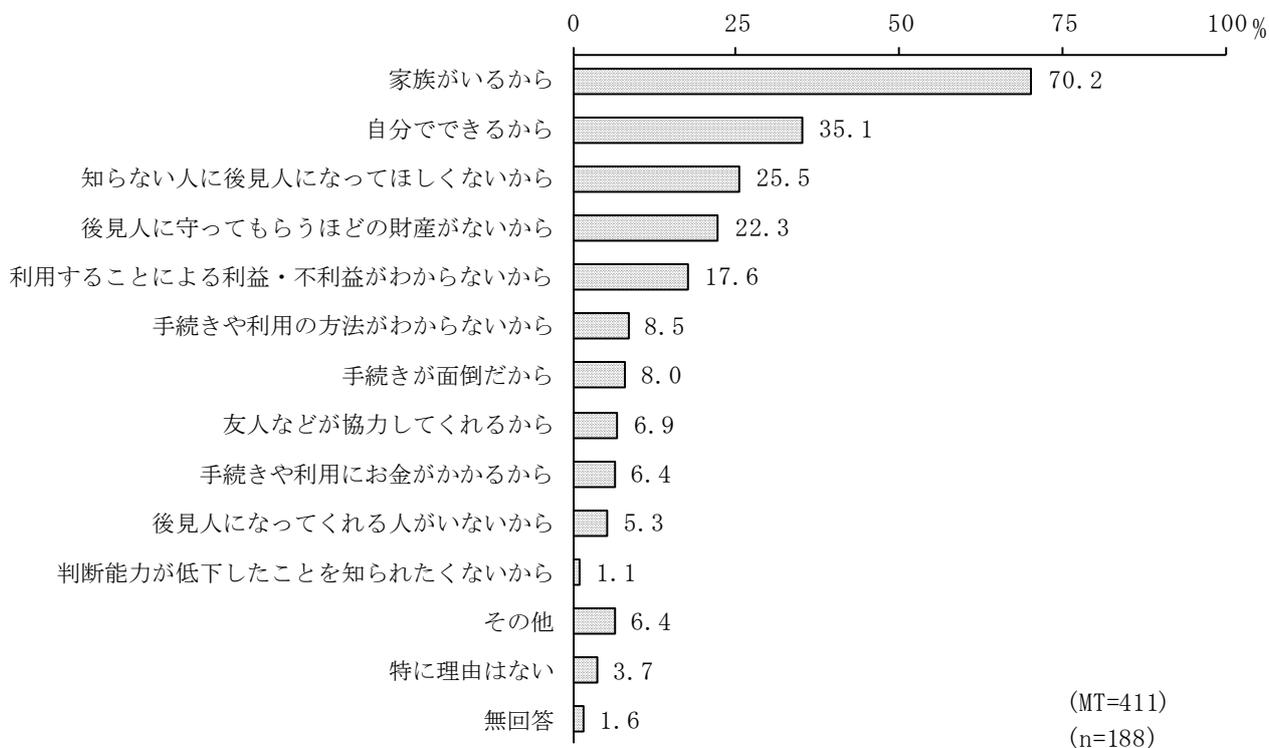
問17で、「すでに利用している」、「すぐに利用したい」、「必要になったら利用したい」の方に、成年後見制度で将来利用したいものを聞いたところ、「財産保全・管理（通帳・印鑑・現金の保管等）」（78.6%）が8割近くで最も高く、「各種行政手続（年金、介護保険等）」（63.7%）、「介護施設・病院等への入所・入院手続」（62.4%）と続いている。（図2-4-8）

(5) 成年後見制度の利用を考えていない理由

◎「家族がいるから」が約7割

問17-3 問17で、【4利用は考えていない】の方 利用を考えていない理由は何ですか。(複数回答可) (n=188)	
1 自分でできるから	35.1%
2 家族がいるから	70.2
3 友人などが協力してくれるから	6.9
4 後見人になってくれる人がいないから	5.3
5 知らない人に後見人になってほしくないから	25.5
6 後見人に守ってもらうほどの財産がないから	22.3
7 手続きや利用にお金がかかるから	6.4
8 手続きが面倒だから	8.0
9 手続きや利用の方法がわからないから	8.5
10 利用することによる利益・不利益がわからないから	17.6
11 判断能力が低下したことを知られたくないから	1.1
12 その他	6.4
13 特に理由はない	3.7
無回答	1.6

図2-4-9 成年後見制度の利用を考えていない理由

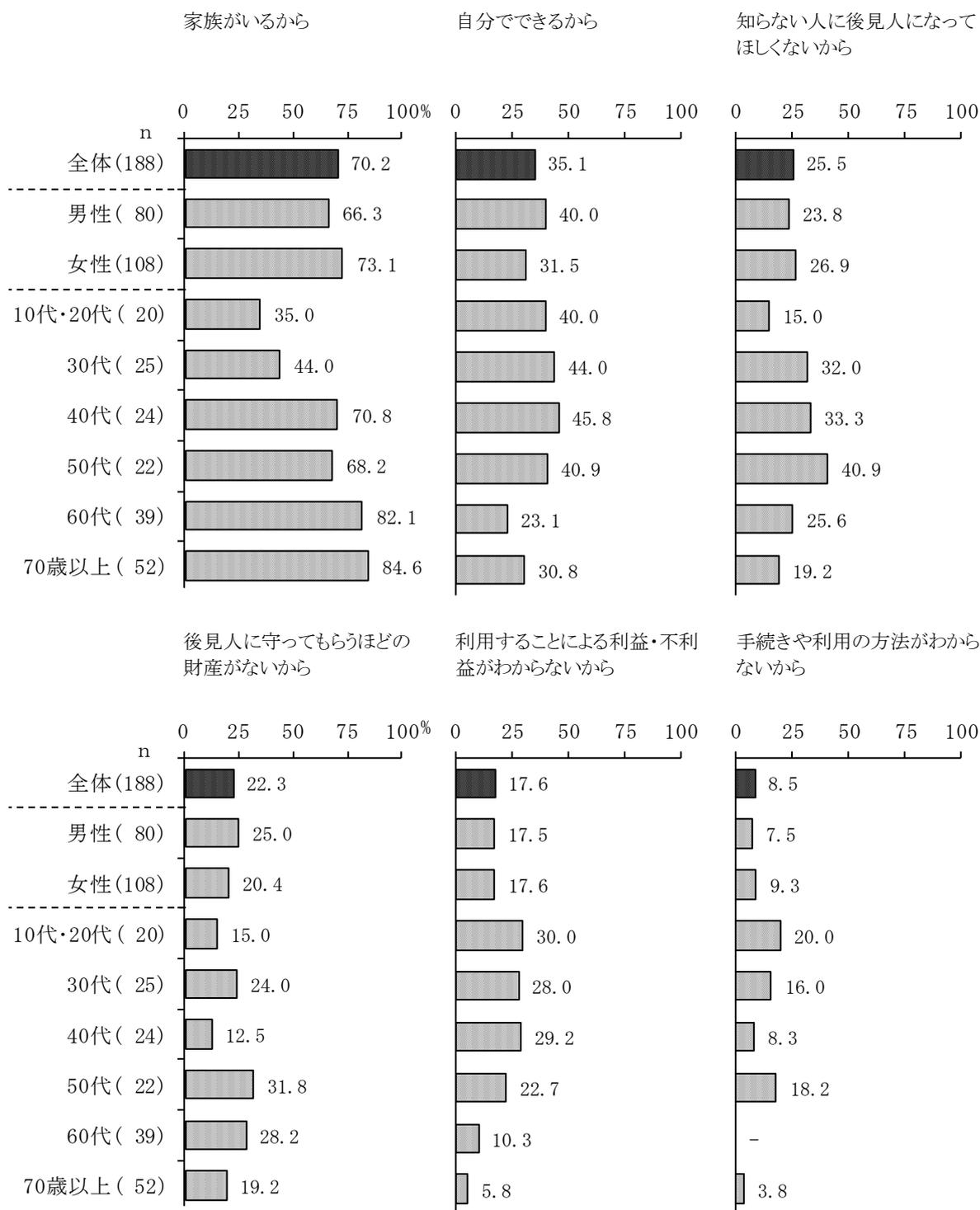


問17で、「利用は考えていない」の方に、その理由を聞いたところ、「家族がいるから」(70.2%)が約7割で最も高くなっている。(図2-4-9)

II 調査の結果 第2回 (テーマ4 成年後見制度について)

図2-4-10 成年後見制度の利用を考えていない理由 (性別・年代別)

上位6項目



上位6項目を性別でみると、「家族がいるから」では、女性 (73.1%) が男性 (66.3%) を 6.8 ポイント上回っている。

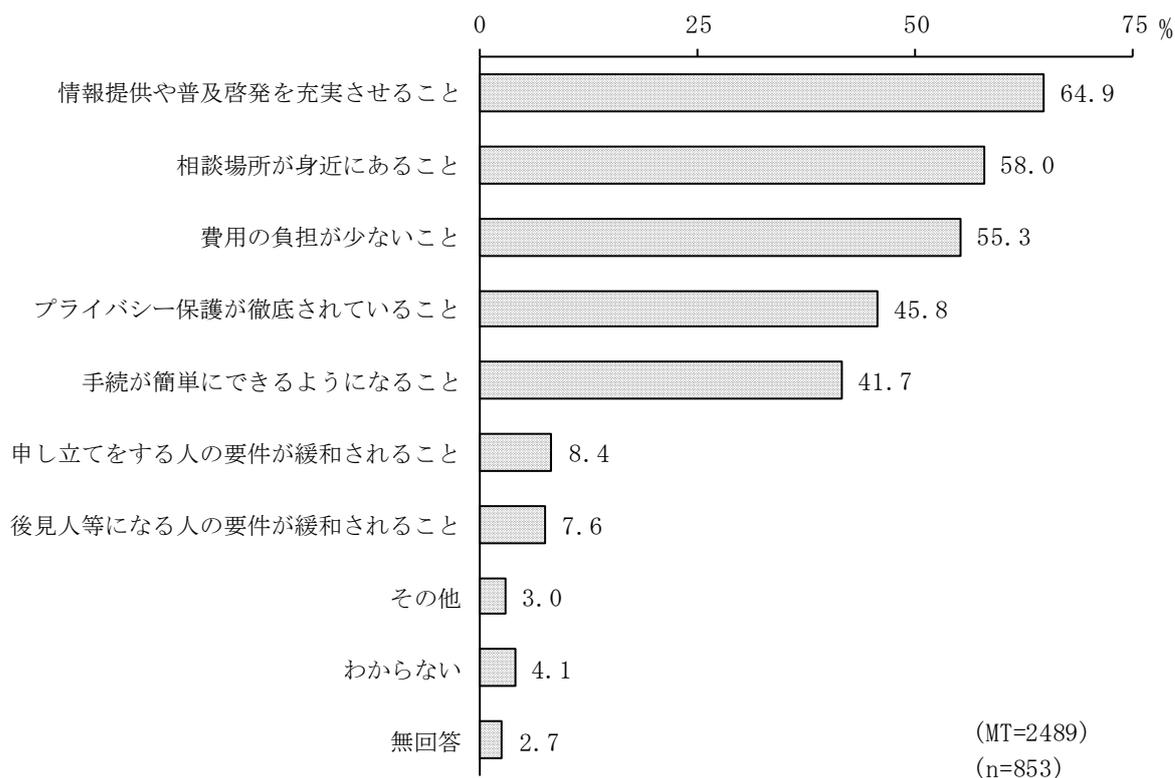
年代別でみると、「家族がいるから」では、70歳以上 (84.6%) が全体 (70.2%) を 14.4 ポイント上回っており、「知らない人に後見人になってほしくないから」では、50代 (40.9%) が全体 (25.5%) を 15.4 ポイント上回っている。(図2-4-10)

(6) 成年後見制度を利用するために必要なこと

◎「情報提供や普及啓発を充実させること」が6割台半ば近く

問18 あなたは、成年後見制度がより多くの人に利用されるために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)(n=853)	
1 情報提供や普及啓発を充実させること	64.9%
2 相談場所が身近にあること	58.0
3 費用の負担が少ないこと	55.3
4 後見人等になる人の要件が緩和されること	7.6
5 申し立てをする人の要件が緩和されること	8.4
6 プライバシー保護が徹底されていること	45.8
7 手続きが簡単にできるようになること	41.7
8 その他	3.0
9 わからない	4.1
無回答	2.7

図2-4-11 成年後見制度を利用するために必要なこと



成年後見制度を利用するために必要なことを聞いたところ、「情報提供や普及啓発を充実させること」(64.9%)が6割台半ば近くで最も高く、「相談場所が身近にあること」(58.0%)、「費用の負担が少ないこと」(55.3%)と続いている。(図2-4-11)

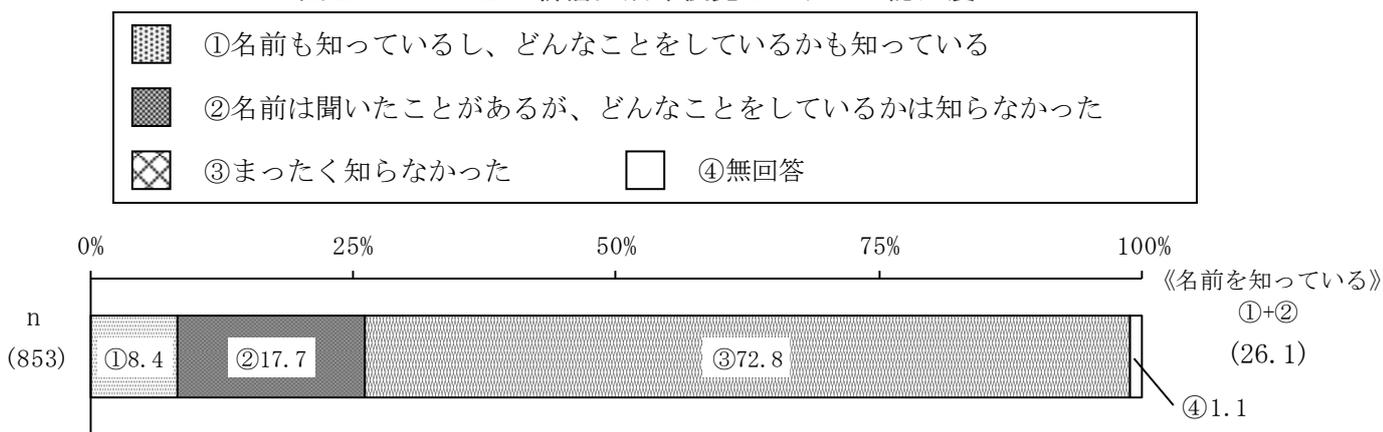
II 調査の結果 第2回（テーマ4 成年後見制度について）

（7）新宿区成年後見センターの認知度

◎「まったく知らない」が7割強

問19 あなたは、新宿区成年後見センターを知っていましたか。(n=853)	
1 名前も知っているし、どんなことをしているかも知っている	8.4%
2 名前は聞いたことがあるが、どんなことをしているかは知らなかった	17.7
3 まったく知らなかった	72.8
無回答	1.1

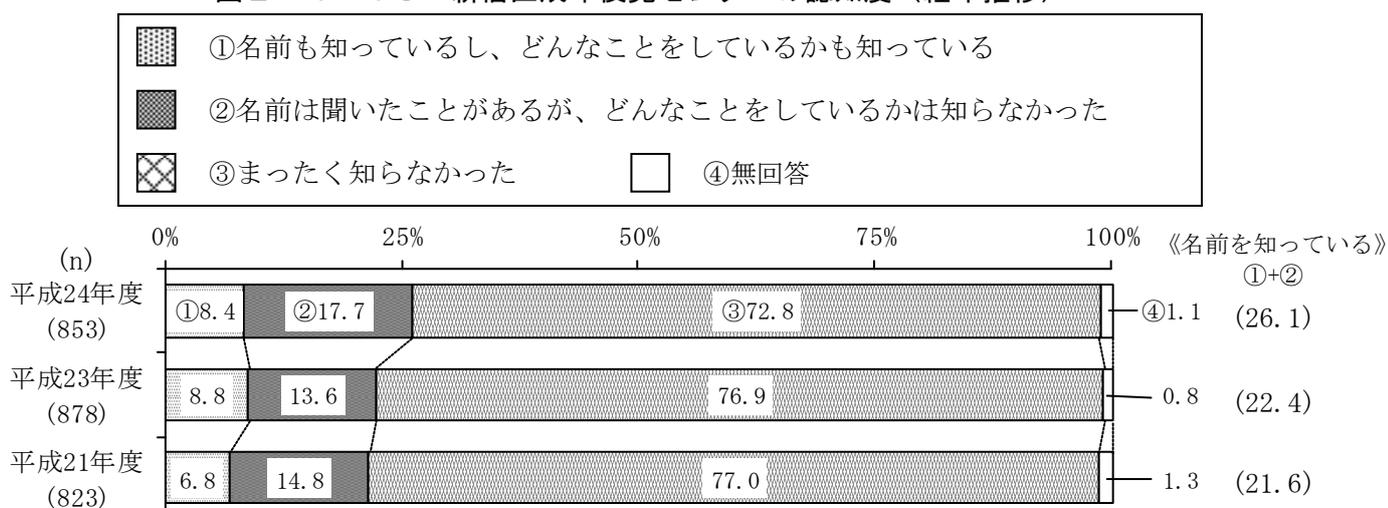
図2-4-12 新宿区成年後見センターの認知度



新宿区成年後見センターを知っていたか聞いたところ、「まったく知らなかった」(72.8%)が7割強で最も高く、「名前は聞いたことがあるが、どんなことをしているかは知らなかった」(17.7%)、「名前も知っているし、どんなことをしているかも知っている」(8.4%)の順となっている。

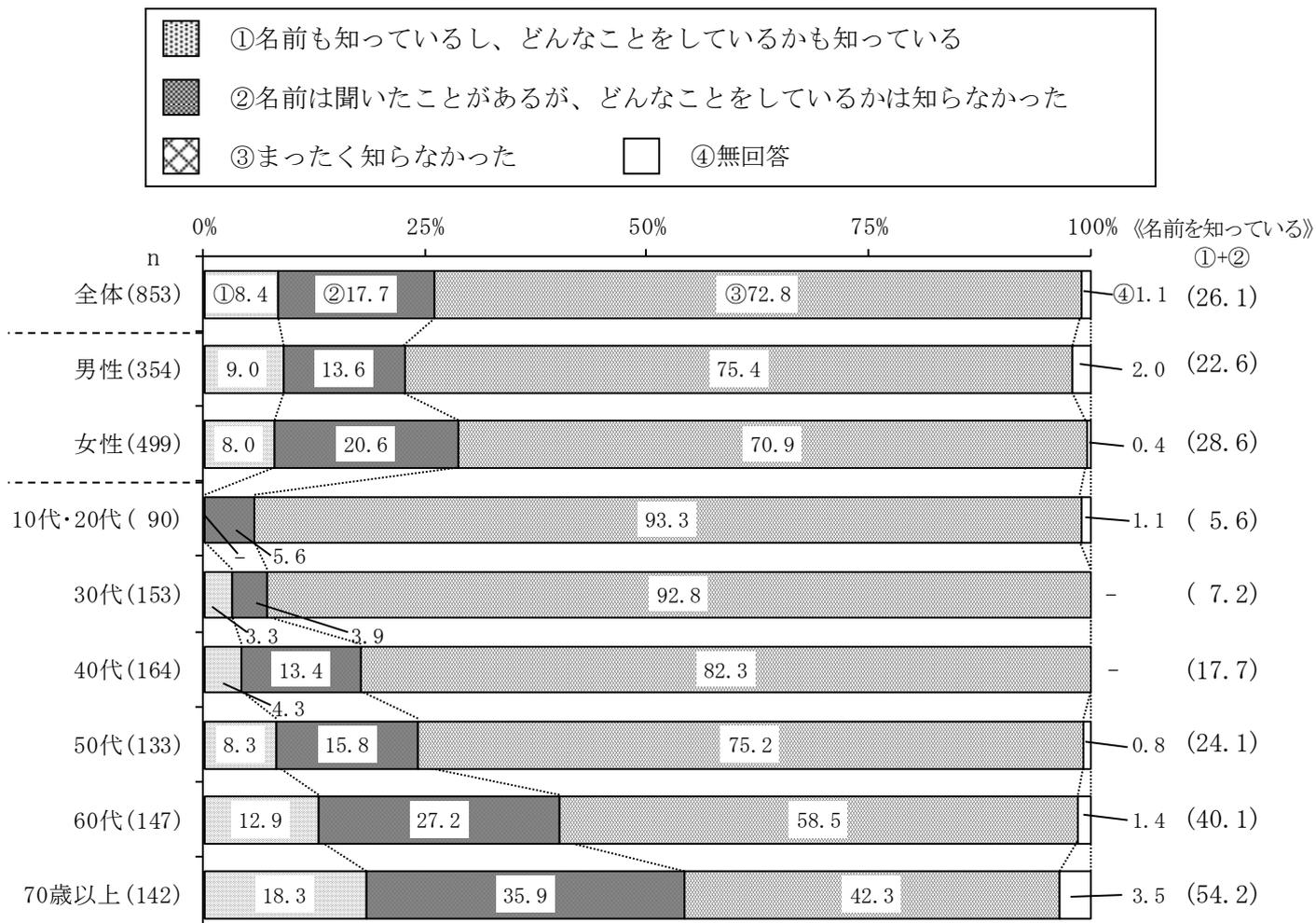
(図2-4-12)

図2-4-13 新宿区成年後見センターの認知度（経年推移）



経年推移をみると、「名前を知っている」は、平成24年度(26.1%)が平成23年度(22.4%)を3.7ポイント上回り、年を追うごとに高い割合を示している。(図2-4-13)

図2-4-14 新宿区成年後見センターの認知度（性別・年代別）



性別で見ると、「名前は聞いたことはあるが、どんなことをしているかは知らない」では、女性（20.6%）が、男性（13.6%）を7ポイント上回っている。

年代別で見ると、「まったく知らない」では、10代・20代（93.3%）が9割台半ば近くで最も高くなっている。30代（92.8%）でも9割強となっており、年代が上がるにつれて低い割合を示している。（図2-4-14）

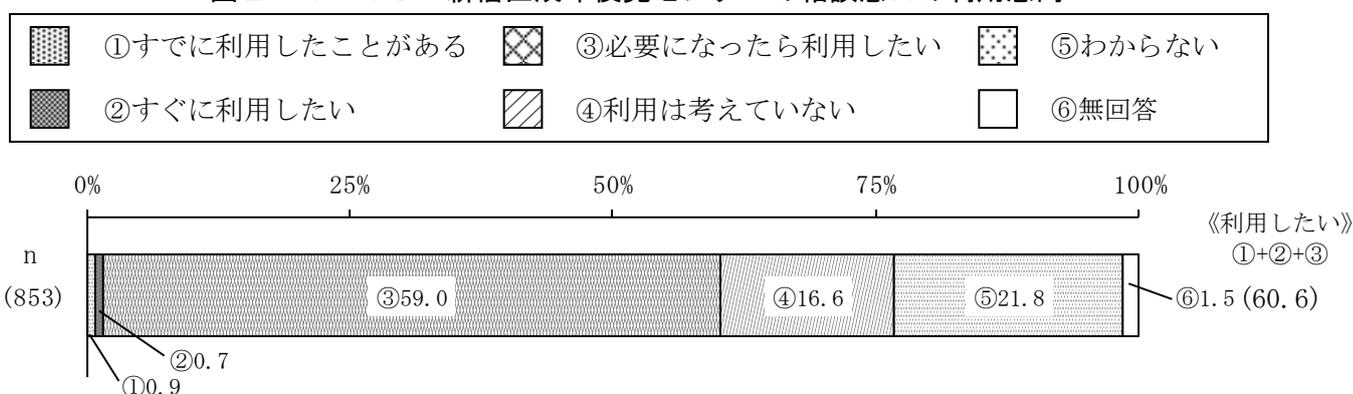
Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ4 成年後見制度について）

（8）新宿区成年後見センターの相談窓口の利用意向

◎「必要になったら利用したい」が6割弱

問20 あなたは、新宿区成年後見センターの相談窓口を利用したいと思いますか。(n=853)		
1	すでに利用したことがある	0.9%
2	すぐに利用したい	0.7
3	必要になったら利用したい	59.0
4	利用は考えていない	16.6
5	わからない	21.8
	無回答	1.5

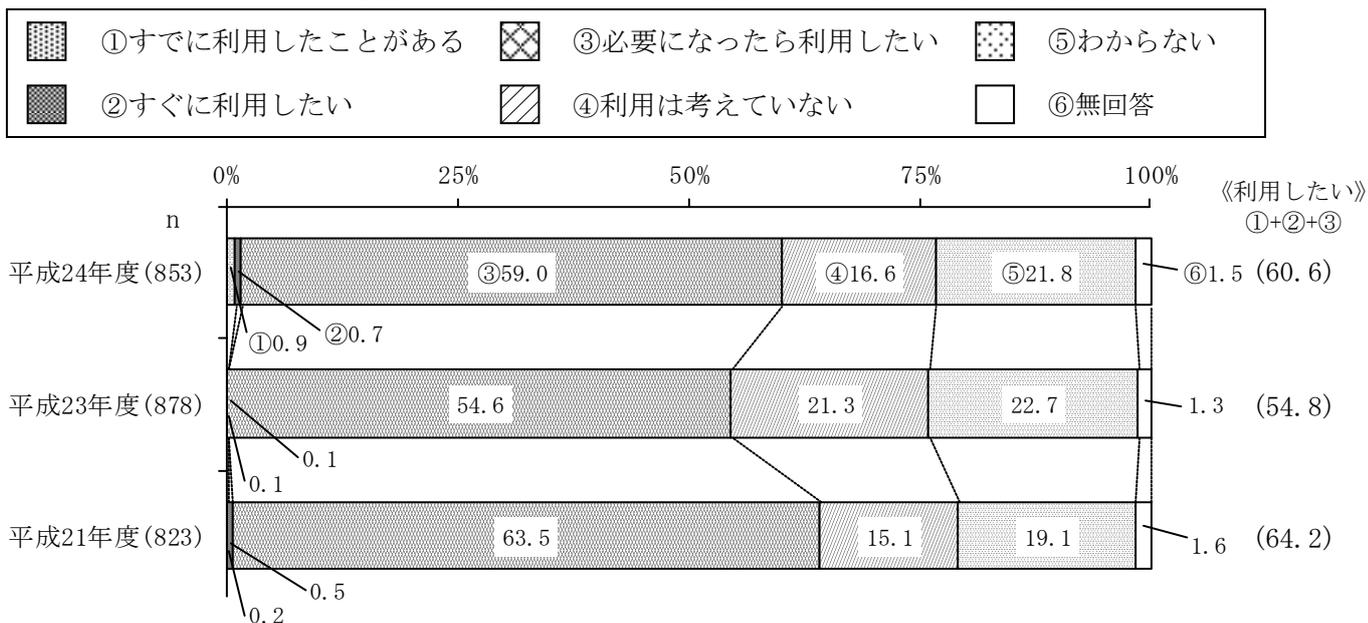
図2-4-15 新宿区成年後見センターの相談窓口の利用意向



新宿区成年後見センターの相談窓口の利用意向を聞いたところ、「必要になったら利用したい」(59.0%)が6割弱で最も高く、「わからない」(21.8%)、「利用は考えていない」(16.6%)、「すでに利用したことがある」(0.9%)、「すぐに利用したい」(0.7%)の順となっている。

「すでに利用したことがある」と、「すぐに利用したい」、「必要になったら利用したい」を合わせた《利用したい》(60.6%)は約6割となっている。(図2-4-15)

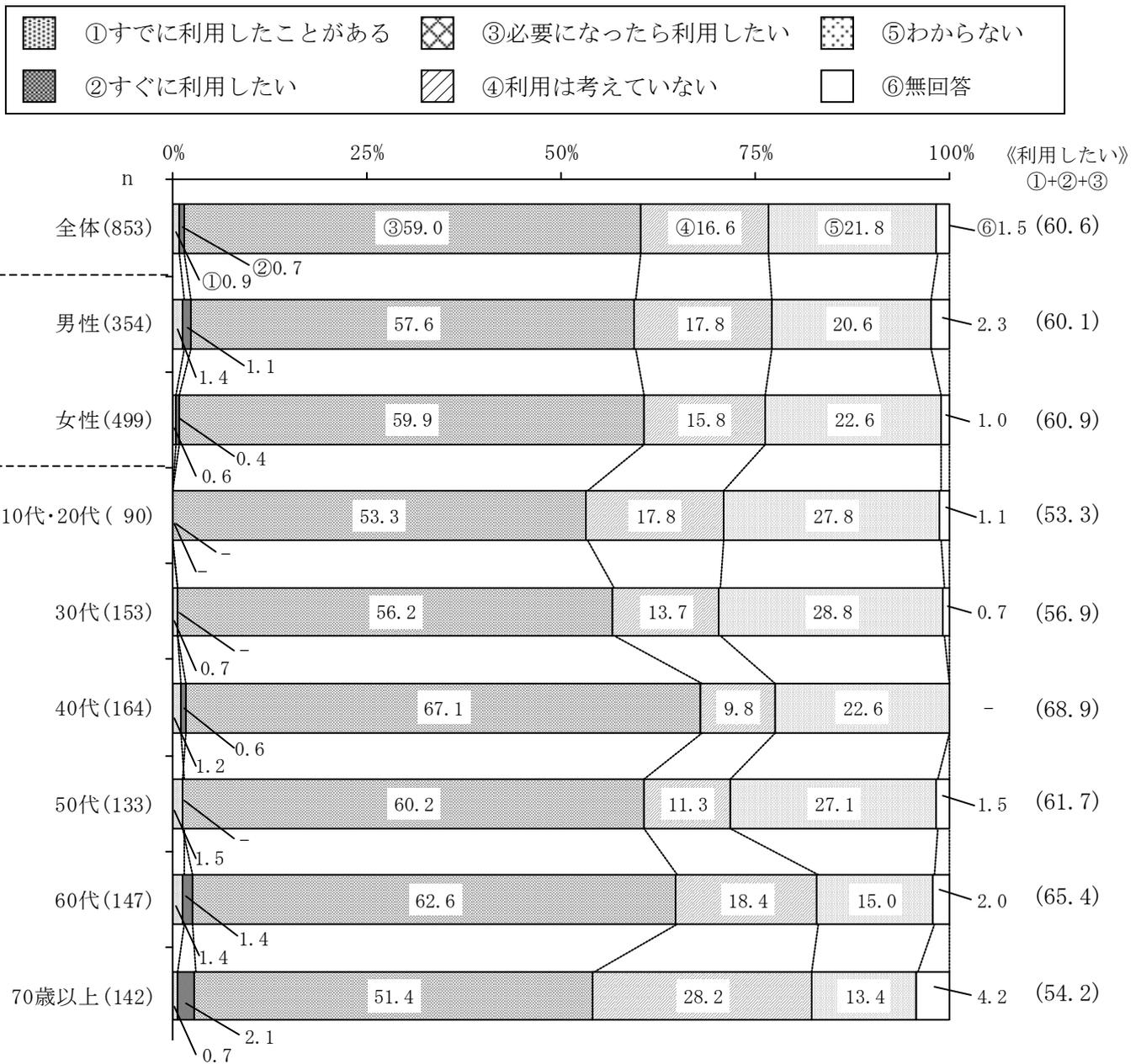
図2-4-16 新宿区成年後見センターの相談窓口の利用意向（経年推移）



経年推移をみると、「すでに利用したことがある」と、「すぐに利用したい」、「必要になったら利用したい」を合わせた《利用したい》では、平成24年度（60.6%）が、平成23年度（54.8%）より5.8ポイント上回っている。（図2-4-16）

Ⅱ 調査の結果 第2回（テーマ4 成年後見制度について）

図2-4-17 新宿区成年後見センターの相談窓口の利用意向（性別・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

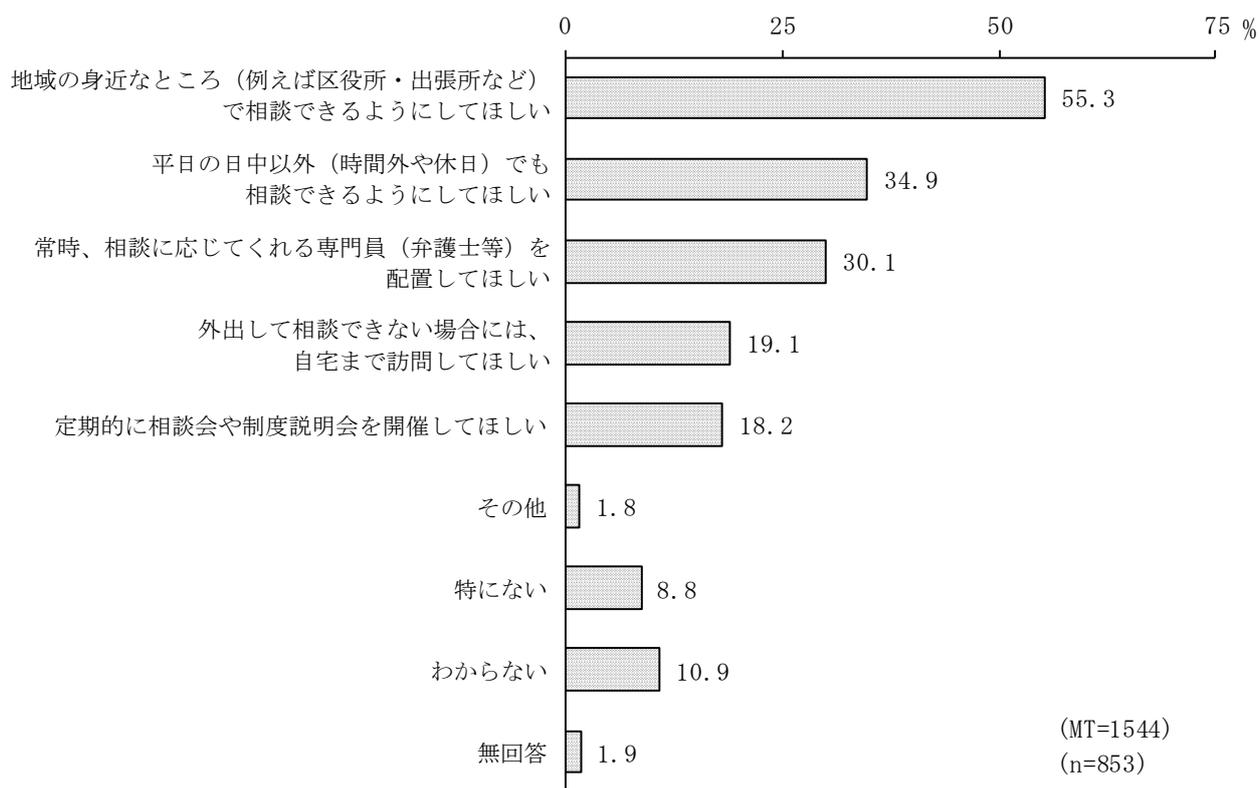
年代別にみると、「すでに利用したことがある」と、「すぐに利用したい」、「必要になったら利用したい」を合わせた《利用したい》では40代（68.9%）が7割近くで最も高く、60代（65.4%）と50代（61.7%）でも6割を超えている。（図2-4-17）

(9) 新宿区成年後見センターの相談に望むこと

◎「地域の身近なところで相談できるようにしてほしい」が5割台半ば

問21 あなたは、新宿区成年後見センターの相談にどのようなことを望みますか。	
(複数回答可) (n=853)	
1 地域の身近なところ（例えば区役所・出張所など）で相談できるようにしてほしい	55.3%
2 平日の日中以外（時間外や休日）でも相談できるようにしてほしい	34.9
3 常時、相談に応じてくれる専門員（弁護士等）を配置してほしい	30.1
4 定期的に相談会や制度説明会を開催してほしい	18.2
5 外出して相談できない場合には、自宅まで訪問してほしい	19.1
6 その他	1.8
7 特にない	8.8
8 わからない	10.9
無回答	1.9

図2-4-18 新宿区成年後見センターの相談に望むこと



新宿区成年後見センターの相談に望むことを聞いたところ、「地域の身近なところ（例えば区役所・出張所など）で相談できるようにしてほしい」（55.3%）が5割台半ばで最も高く、「平日の日中以外（時間外や休日）でも相談できるようにしてほしい」（34.9%）が3割台半ば近く、「常時、相談に応じてくれる専門員（弁護士等）を配置してほしい」（30.1%）が約3割で続いている。

(図2-4-18)

第3回

<テーマ>

- テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について
- テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について
- テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について
- テーマ4 景観まちづくりについて

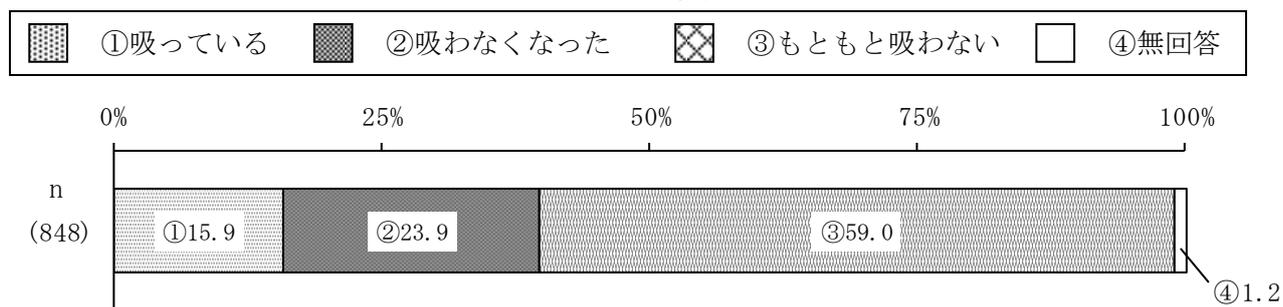
テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について

(1) 喫煙状況

◎「もともと吸わない」が6割弱

問1 あなたは、タバコを吸っていますか。(n=848)	
1 吸っている	15.9%
2 吸わなくなった	23.9
3 もともと吸わない	59.0
無回答	1.2

図3-1-1 喫煙状況



喫煙状況を聞いたところ、「もともと吸わない」(59.0%)が6割弱で最も高く、以下、「吸わなくなった」(23.9%)、「吸っている」(15.9%)と続く。(図3-1-1)

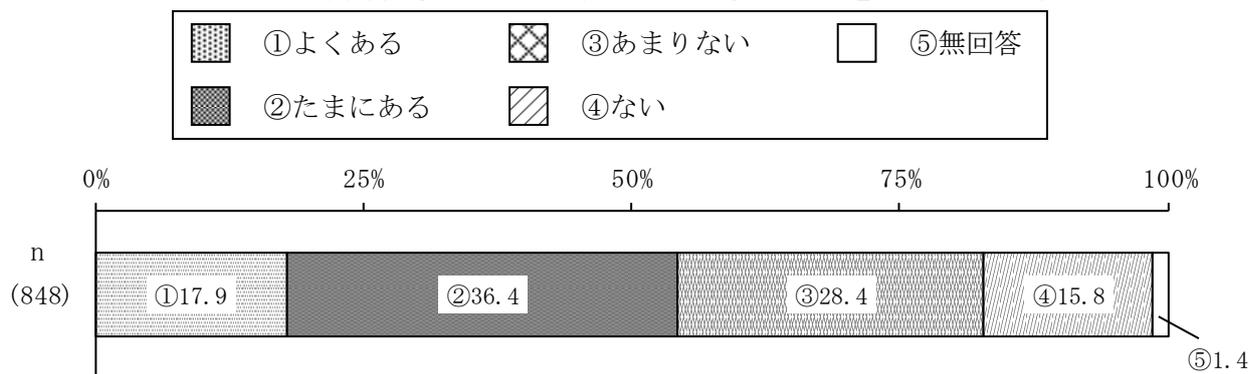
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について）

（2）飲食店等でタバコの煙により不快な思いをしたことがあるか

◎「たまにある」が3割台半ばを超える

問2 区内の飲食店等にて、ここ1年、タバコの煙で不快な思いをしたことがありますか。(n=848)	
1 よくある	17.9%
2 たまにある	36.4
3 あまりない	28.4
4 ない	15.8
無回答	1.4

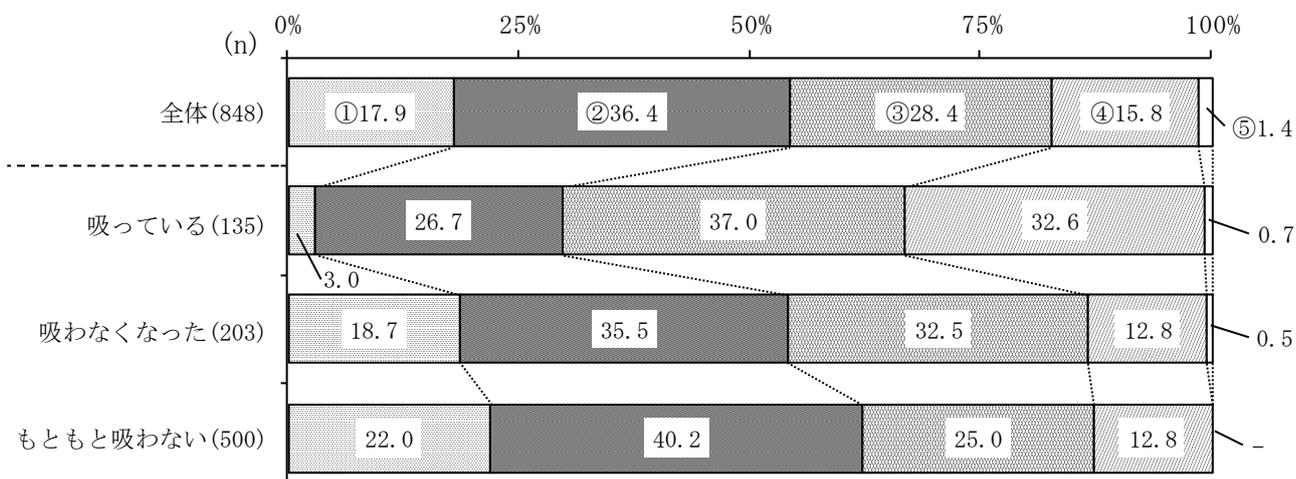
図3-1-2 飲食店等でタバコの煙により不快な思いをしたことがあるか



飲食店等でタバコの煙により不快な思いをしたことがあるか聞いたところ、「たまにある」(36.4%)が3割台半ばを超え最も高く、以下、「あまりない」(28.4%)、「よくある」(17.9%)、「ない」(15.8%)の順となっている。(図3-1-2)

図3-1-3 飲食店等でタバコの煙により不快な思いをしたことがあるか

(問1 喫煙状況別)



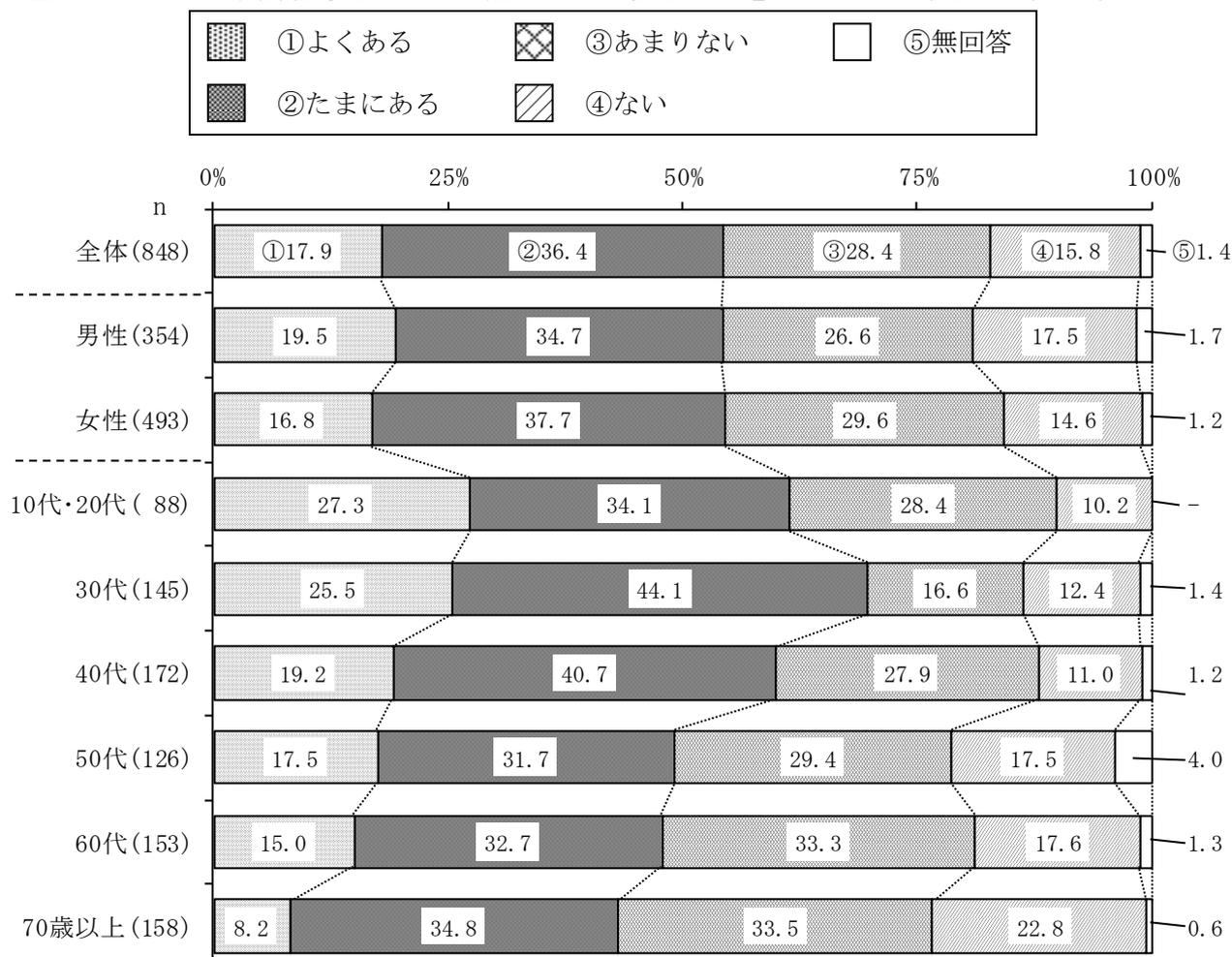
問1・喫煙状況の回答別にみると、「よくある」の割合は、問1で『もともと吸わない』(22.0%)が2割強で最も高く、『吸わなくなった』(18.7%)が2割近くとなっている。

一方、『吸っている』(3.0%)では、全体(17.9%)を14.9ポイント下回っている。

(図3-1-3)

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について）

図3-1-4 飲食店等でタバコの煙により不快な思いをしたことがあるか（性・年代別）



性別による大きな差異はみられない。

年代別にみると、「よくある」では、10代・20代（27.3%）が2割台半ばを超え最も高く、30代（25.5%）では2割台半ばとなっている。

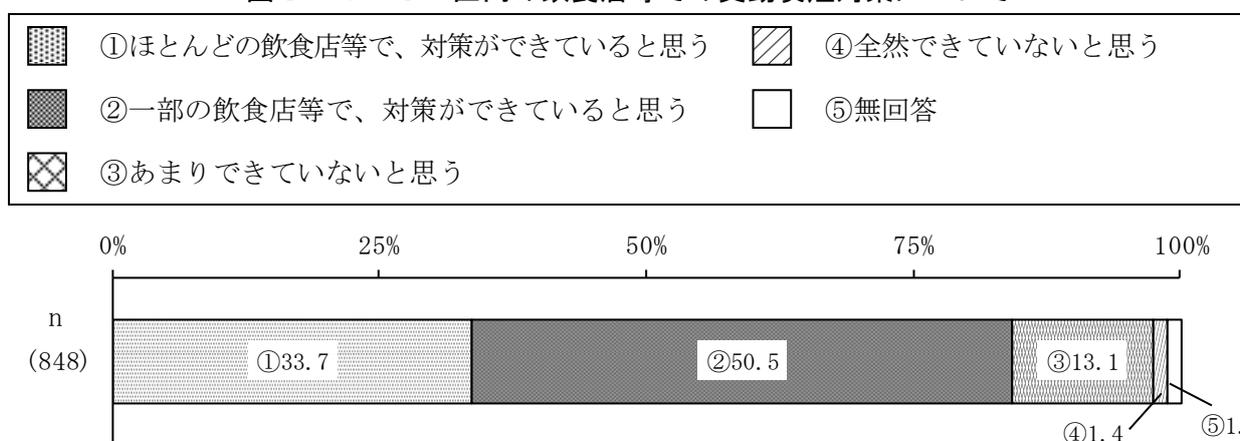
一方、70歳以上（8.2%）では1割近く、60代（15.0%）では1割台半ばと、年代が上がるにつれて低い割合を示す傾向がみられる。（図3-1-4）

(3) 区内の飲食店等での受動喫煙対策について

◎「一部の飲食店等で、対策ができていると思う」が約5割

問3	区内の飲食店等での、受動喫煙対策（禁煙、分煙、時間分煙等含む）について、どのように考えますか。（n=848）	
1	ほとんどの飲食店等で、対策ができていると思う	33.7%
2	一部の飲食店等で、対策ができていると思う	50.5
3	あまりできていないと思う	13.1
4	全然できていないと思う	1.4
	無回答	1.3

図3-1-5 区内の飲食店等での受動喫煙対策について

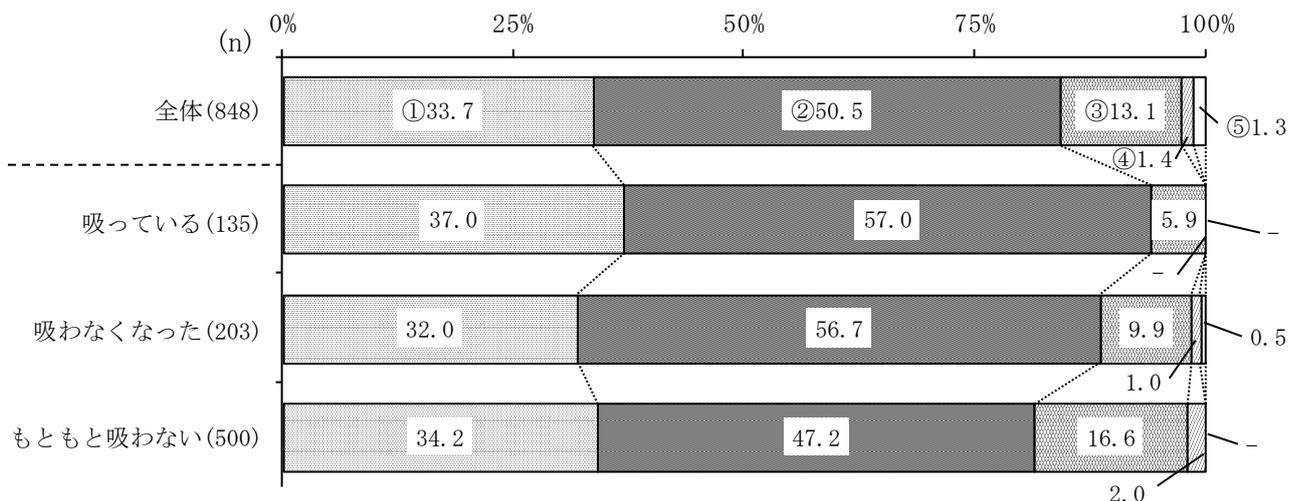
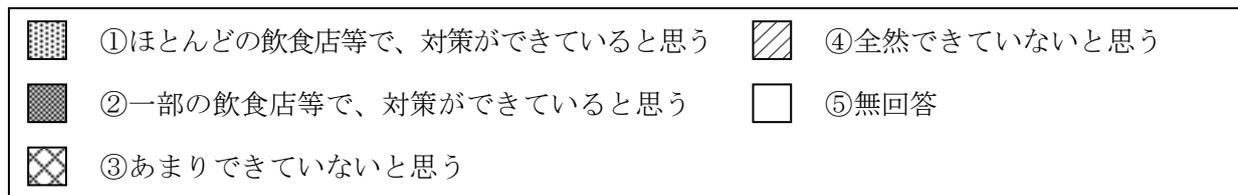


区内の飲食店等での受動喫煙対策について聞いたところ、「一部の飲食店等で、対策ができていると思う」(50.5%)が約5割で最も高く、以下、「ほとんどの飲食店等で、対策ができていると思う」(33.7%)、「あまりできていないと思う」(13.1%)、「全然できていないと思う」(1.4%)の順となっている。(図3-1-5)

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について）

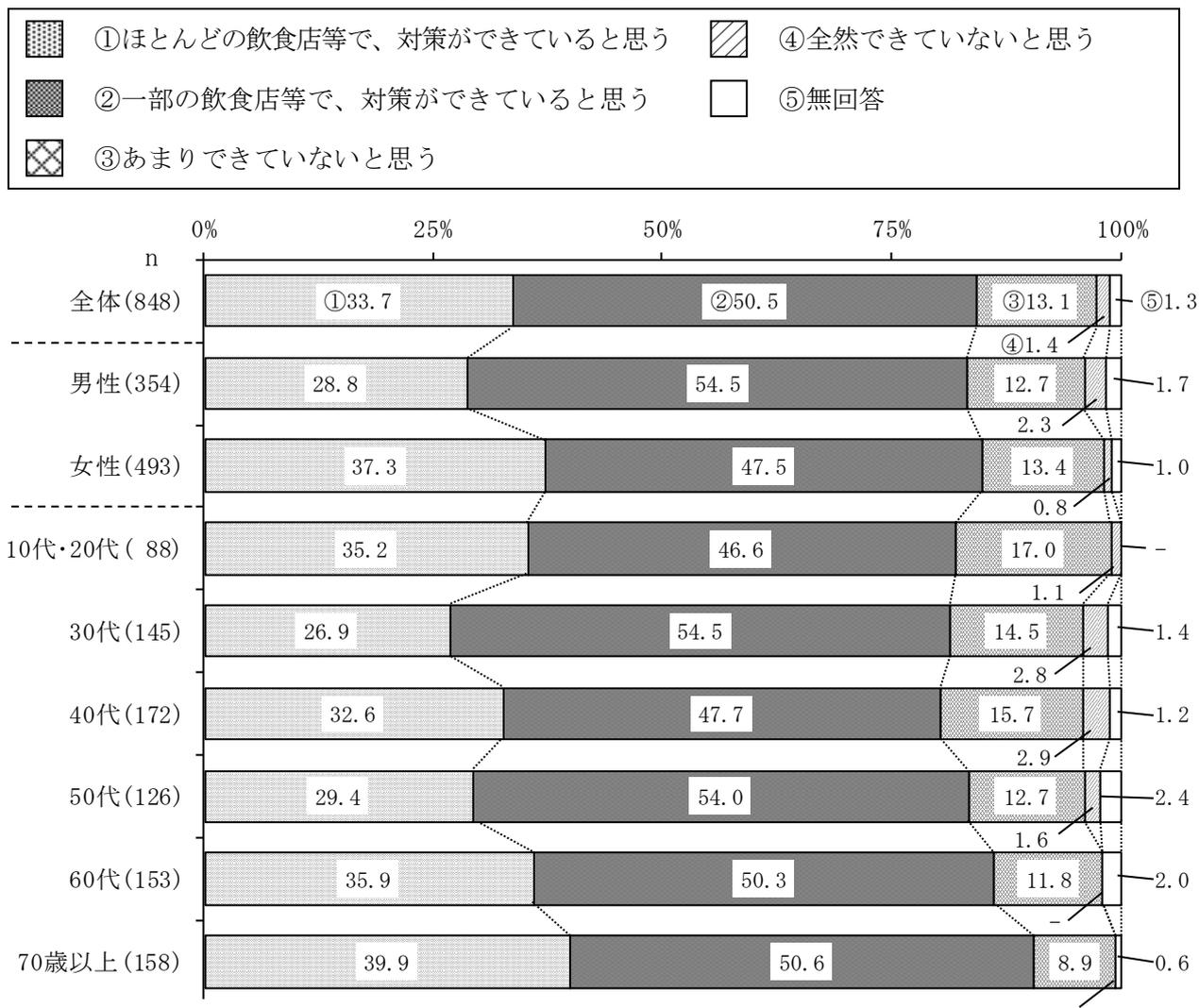
図3-1-6 区内の飲食店等での受動喫煙対策について

（問1 喫煙状況別）



問1・喫煙状況別で見ると、「あまりできていないと思う」では、問1で『もともと吸わない』（16.6%）が1割台半ばを超えて最も高く、『吸わなくなった』（9.9%）、『吸っている』（5.9%）の順となっている。（図3-1-6）

図3-1-7 区内の飲食店等での受動喫煙対策について（性・年代別）



性別で見ると、「ほとんどの飲食店等で、対策ができていると思う」では、女性（37.3%）が男性（28.8%）を8.5ポイント上回っている。

年代別で見ると、「あまりできていないと思う」では、10代・20代（17.0%）が1割台半ばを超え最も高く、70歳以上（8.9%）では1割近くで最も低くなっている。（図3-1-7）

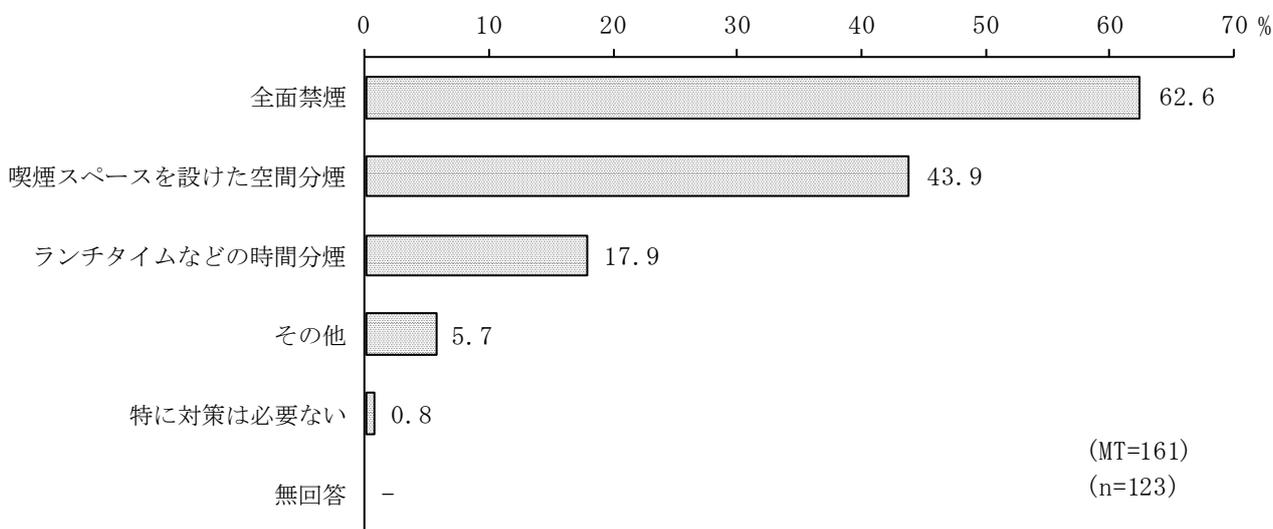
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について）

（4）どのような受動喫煙防止対策が必要だと思うか

◎「全面禁煙」が6割強、「喫煙スペースを設けた空間分煙」が4割台半ば近く

問3-1 問3で【3 あまりできていないと思う】または、【4 全然できていないと思う】のどのような受動喫煙防止対策が必要だと思いますか。（複数回答可）(n=123)		
1	全面禁煙	62.6%
2	喫煙スペースを設けた空間分煙	43.9
3	ランチタイムなどの時間分煙	17.9
4	特に対策は必要ない	0.8
5	その他	5.7
	無回答	0.0

図3-1-8 どのような受動喫煙防止対策が必要だと思うか



問3で、「あまりできていないと思う」または、「全然できていないと思う」と答えた方に、どのような受動喫煙防止対策が必要だと思うか聞いたところ、「全面禁煙」(62.6%)が6割強で最も高く、「喫煙スペースを設けた空間分煙」(43.9%)が4割台半ば近く、「ランチタイムなどの時間分煙」(17.9%)と続く。(図3-1-8)

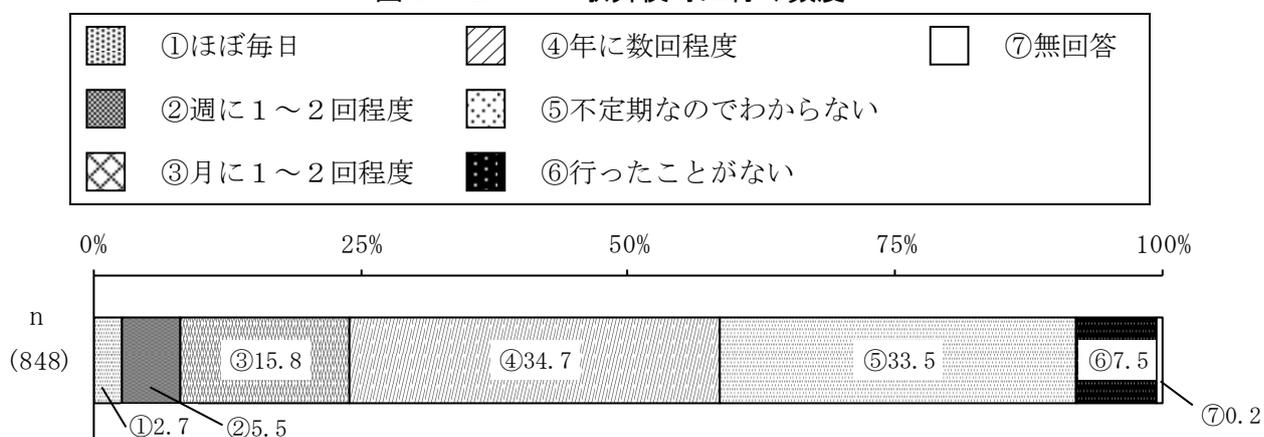
テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について

(1) 歌舞伎町に行く頻度

◎ 「年に数回程度」、「不定期なのでわからない」が3割台半ば近く

問4 あなたは、歌舞伎町にどの程度行きますか。(n=848)		
1	ほぼ毎日	2.7%
2	週に1～2回程度	5.5
3	月に1～2回程度	15.8
4	年に数回程度	34.7
5	不定期なのでわからない	33.5
6	行ったことがない	7.5
	無回答	0.2

図3-2-1 歌舞伎町に行く頻度

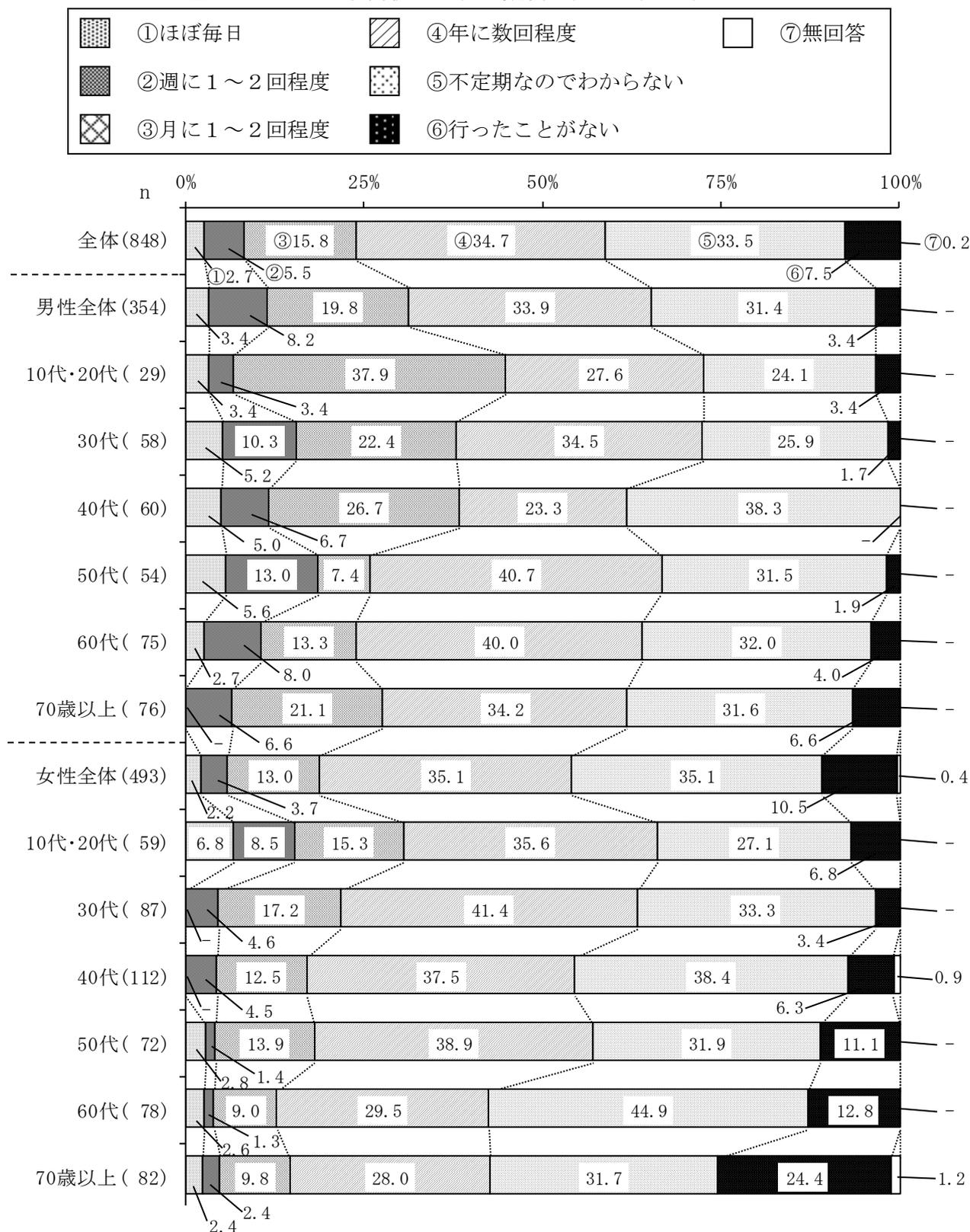


歌舞伎町に行く頻度を聞いたところ、「年に数回程度」(34.7%)が3割台半ば近くで最も高く、以下、「不定期なのでわからない」(33.5%)、「月に1～2回程度」(15.8%)と続く。

(図3-2-1)

II 調査の結果 第3回 (テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について)

図3-2-2 歌舞伎町に行く頻度 (性別・性/年代別)



性/年代別で見ると、「月に1~2回程度行っている」では、男性の10代・20代(37.9%)が3割台半ばを超え、全体(15.8%)を22.1ポイント上回っている。

「行ったことがない」では、女性の70歳以上(24.4%)が2割台半ば近くで全体(7.5%)を16.9ポイント上回っている。(図3-2-2)

(2) 歌舞伎町に行く目的

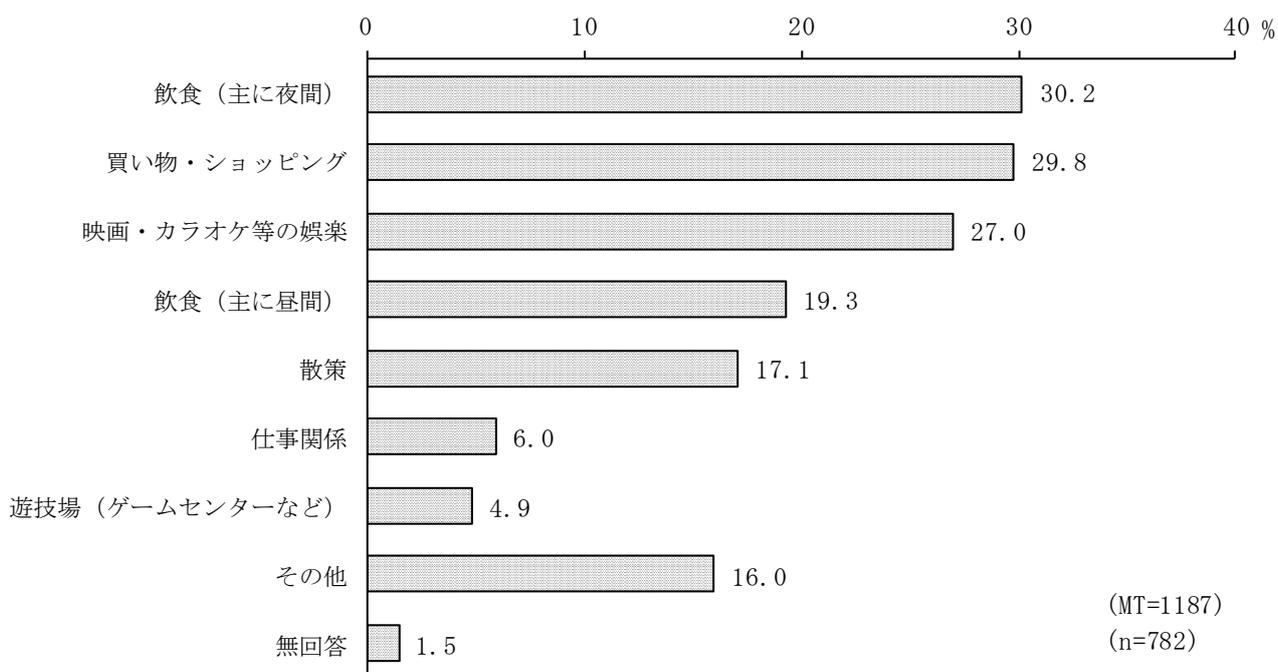
◎「飲食（主に夜間）」が約3割、「買い物・ショッピング」が3割弱

問4-1 問4で【「1」～「5」に○をつけた方】

歌舞伎町に行く主な目的はなんですか。(複数回答可) (n=782)

1	買い物・ショッピング	29.8%
2	映画・カラオケ等の娯楽	27.0
3	散策	17.1
4	遊技場（ゲームセンターなど）	4.9
5	仕事関係	6.0
6	飲食（主に昼間）	19.3
7	飲食（主に夜間）	30.2
8	その他	16.0
	無回答	1.5

図3-2-3 歌舞伎町に行く目的



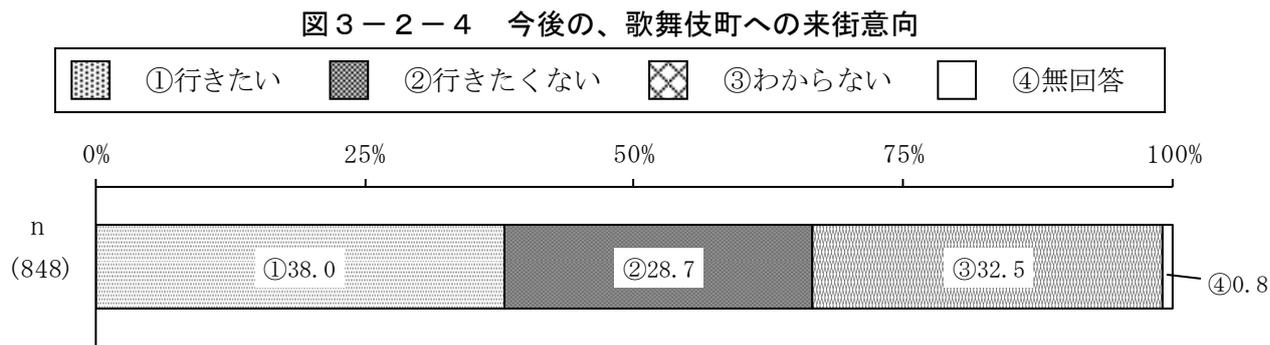
問4で、「1」から「5」に○をつけた方に、歌舞伎町に行く目的を聞いたところ、「飲食（主に夜間）」（30.2%）が約3割で最も高く、「買い物・ショッピング」（29.8%）、「映画・カラオケ等の娯楽」（27.0%）と続く。（図3-2-3）

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

（3）今後の、歌舞伎町への来街意向

◎ 「行きたい」が4割近く、「行きたくない」は3割近く

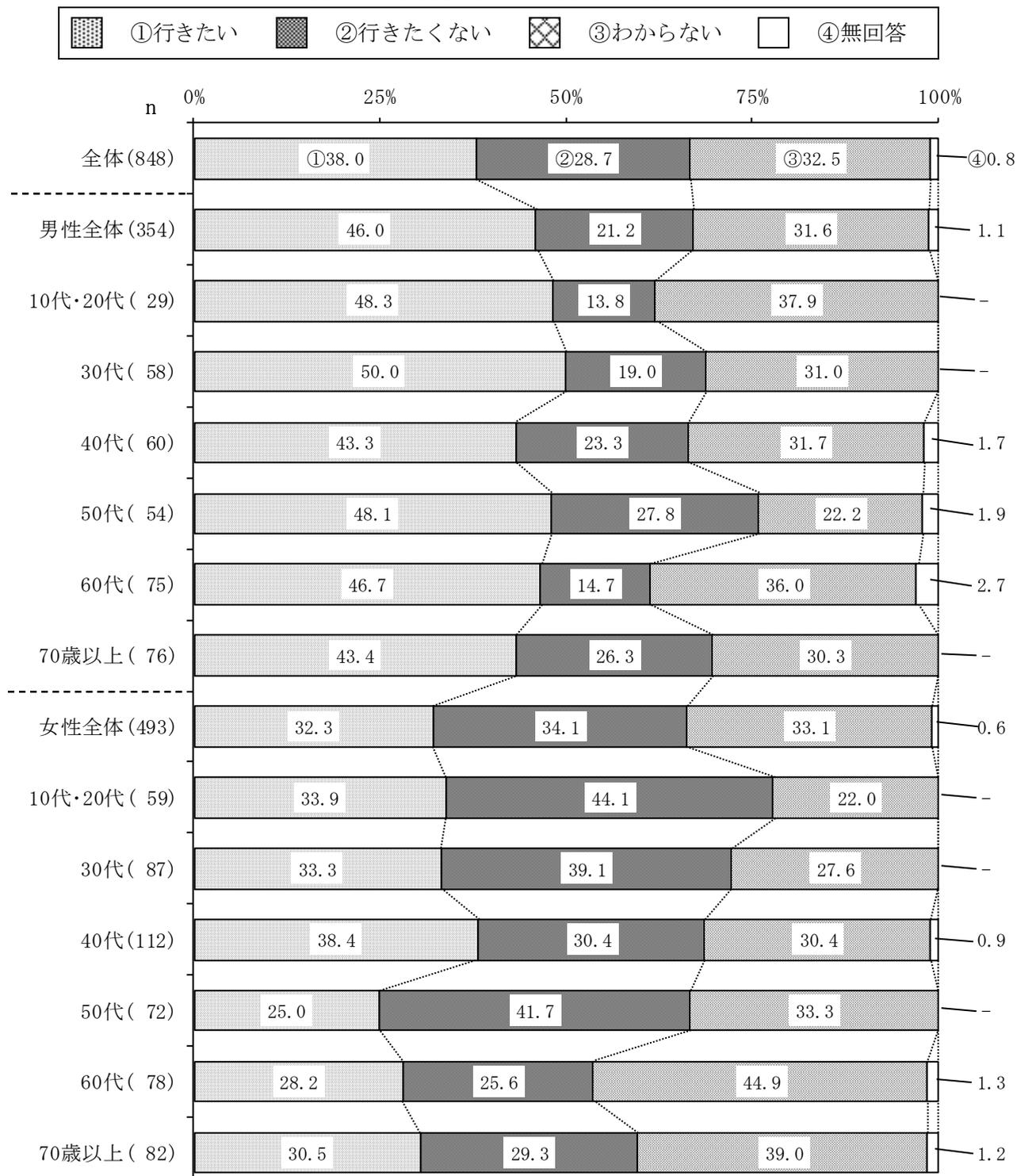
問5 あなたは今後、歌舞伎町へ行きたいと思いますか。(n=848)	
1 行きたい	38.0%
2 行きたくない	28.7
3 わからない	32.5
無回答	0.8



今後の、歌舞伎町への来街意向を聞いたところ、「行きたい」(38.0%)が4割近くで最も高く、「行きたくない」(28.7%)は3割近く、「わからない」(32.5%)は3割強となっている。

(図3-2-4)

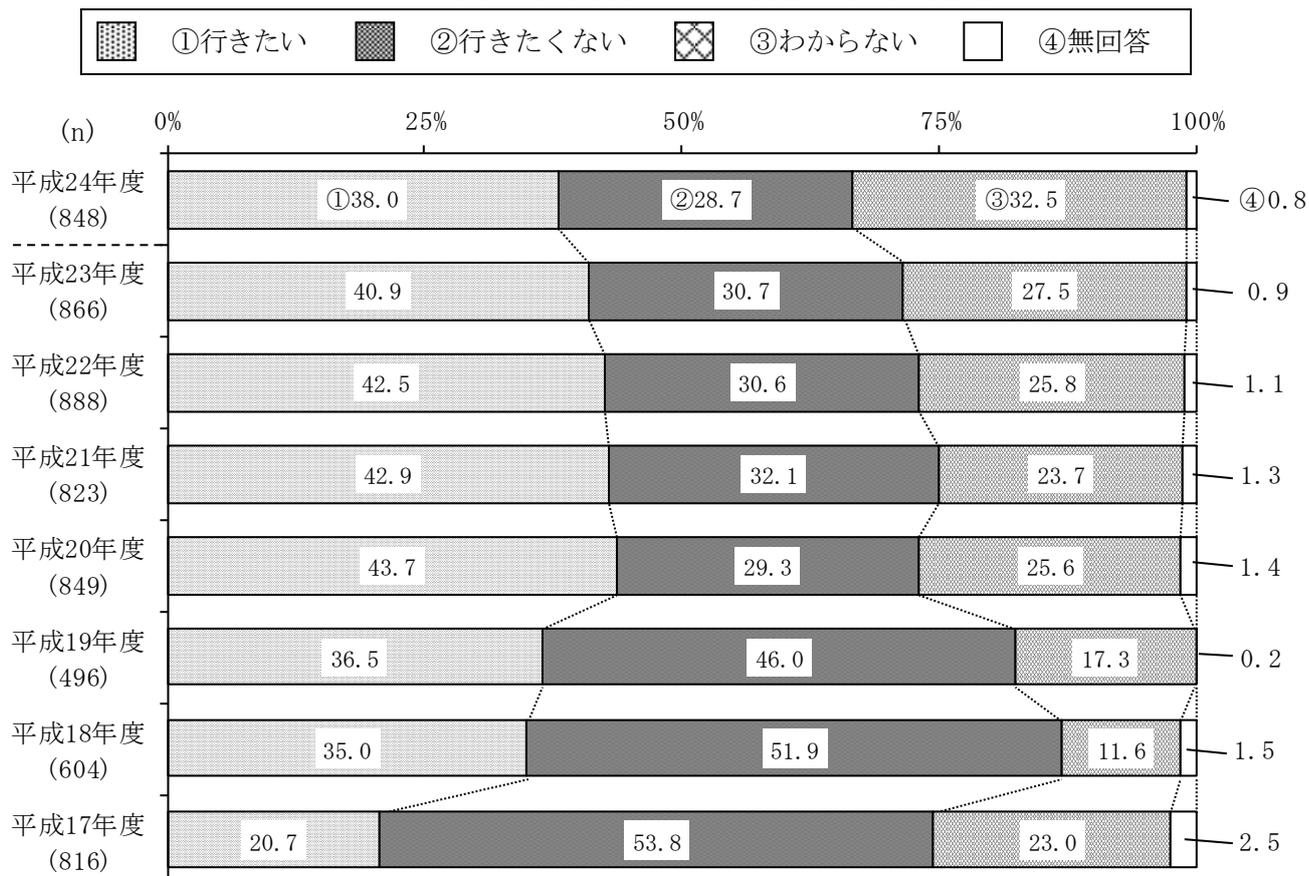
図3-2-5 今後の、歌舞伎町への来街意向（性別・性/年代別）



性別で見ると、「行きたい」では、男性（46.0%）が女性（32.3%）を13.7ポイント上回っている。性/年代別で見ると、「行きたい」では、男性の30代（50.0%）が5割で最も高く、「行きたくない」では、女性の10代・20代（44.1%）が4割台半ば近くで最も高い。（図3-2-5）

II 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

図3-2-6 今後の、歌舞伎町への来街意向（経年推移）



経年推移をみると、「行きたい」では、平成17年度から平成20年度まで年を追うごとに高くなっていったが、平成21年度以降は年を追うごとに低くなっている。（図3-2-6）

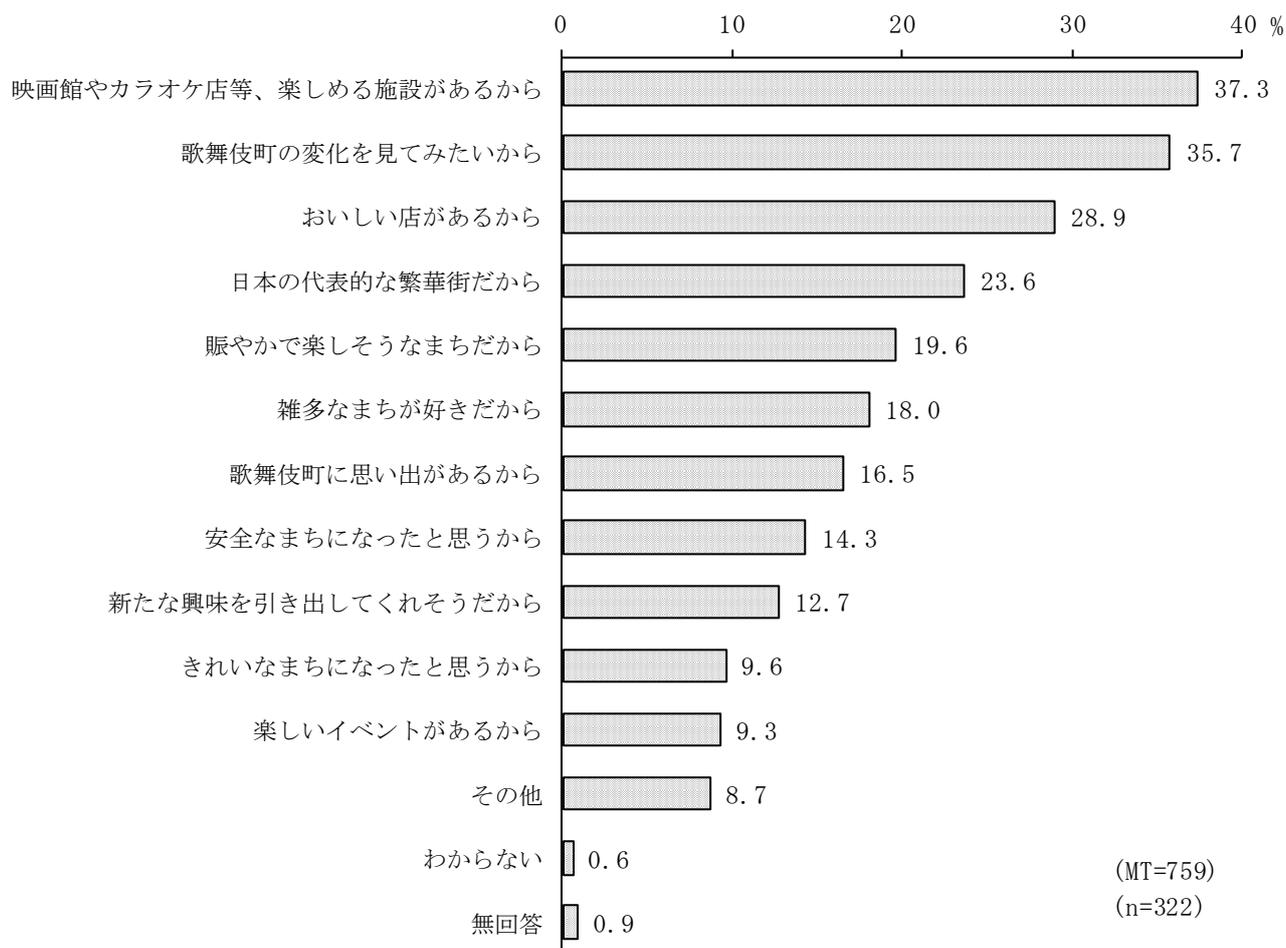
(4) 歌舞伎町へ行きたい理由

◎「映画館やカラオケ店等、楽しめる施設があるから」が3割台半ばを超える

問5-1 問5で【1 行きたい】の方	
行きたい理由は何ですか。(複数回答可) (n=322)	
1 安全なまちになったと思うから	14.3%
2 きれいなまちになったと思うから	9.6
3 歌舞伎町の変化を見てみたいから	35.7
4 楽しいイベントがあるから	9.3
5 新たな興味を引き出してくれそうだから	12.7
6 日本の代表的な繁華街だから	23.6
7 雑多なまちが好きだから	18.0
8 映画館やカラオケ店等、楽しめる施設があるから	37.3
9 おいしい店があるから	28.9
10 賑やかで楽しそうなまちだから	19.6
11 歌舞伎町に思い出があるから	16.5
12 その他	8.7
13 わからない	0.6
無回答	0.9

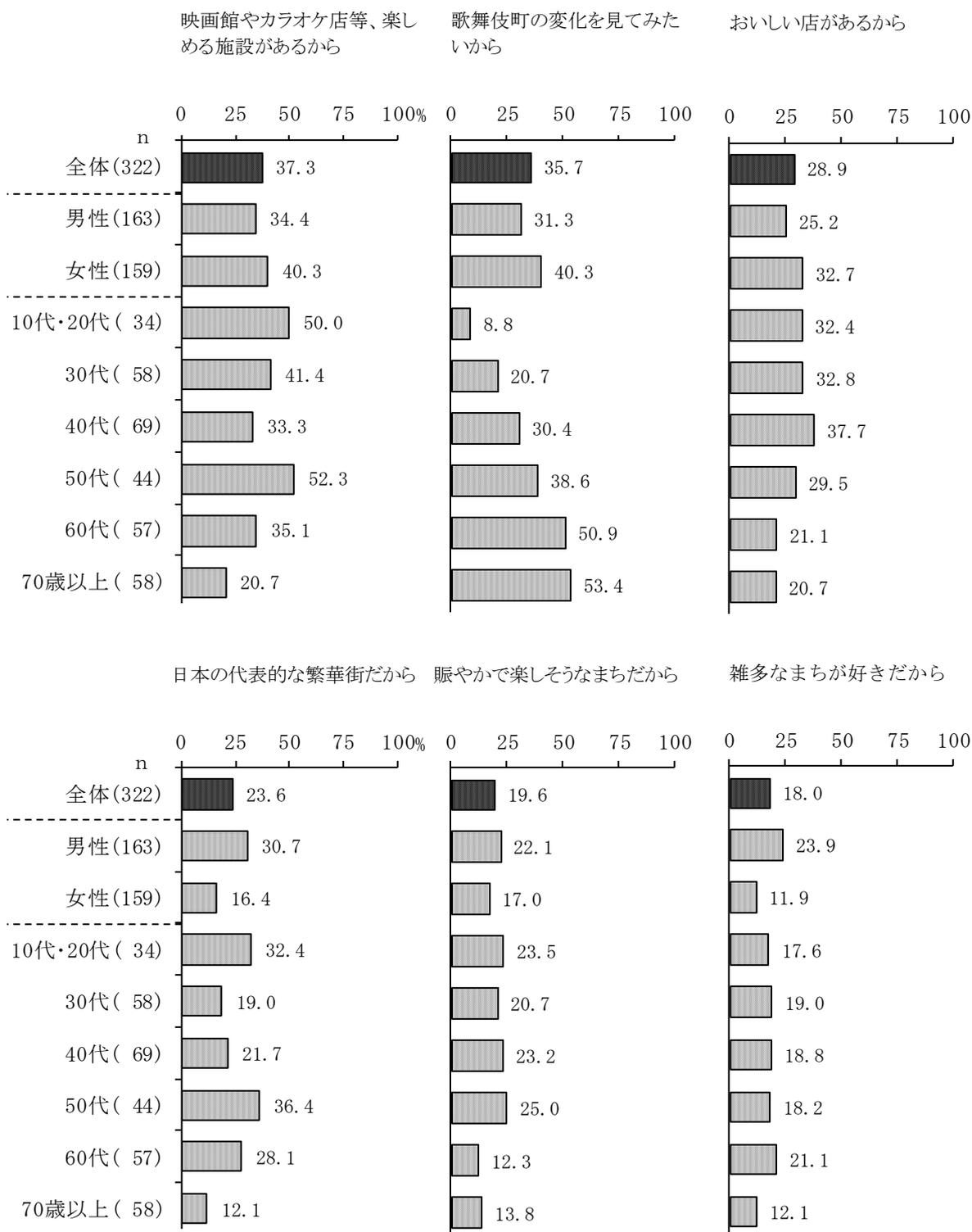
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

図3-2-7 歌舞伎町へ行きたい理由



問5で「行きたい」と答えた方に、歌舞伎町へ行きたい理由を聞いたところ、「映画館やカラオケ店等、楽しめる施設があるから」(37.3%)が3割台半ばを超え最も高く、「歌舞伎町の変化を見てみたいから」(35.7%)が3割台半ばで続く。(図3-2-7)

図3-2-8 歌舞伎町へ行きたい理由（性・年代別）上位6項目



上位6項目を性別で見ると、「歌舞伎町の変化を見てみたいから」では女性（40.3%）が男性（31.3%）を9.0ポイント上回り、「日本の代表的な繁華街だから」では、男性（30.7%）が女性（16.4%）を14.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、「歌舞伎町の変化を見てみたいから」では、70歳以上（53.4%）が5割台半ば近くで最も高く、年代が上がるにつれて高い割合を示す傾向がみられる。（図3-2-8）

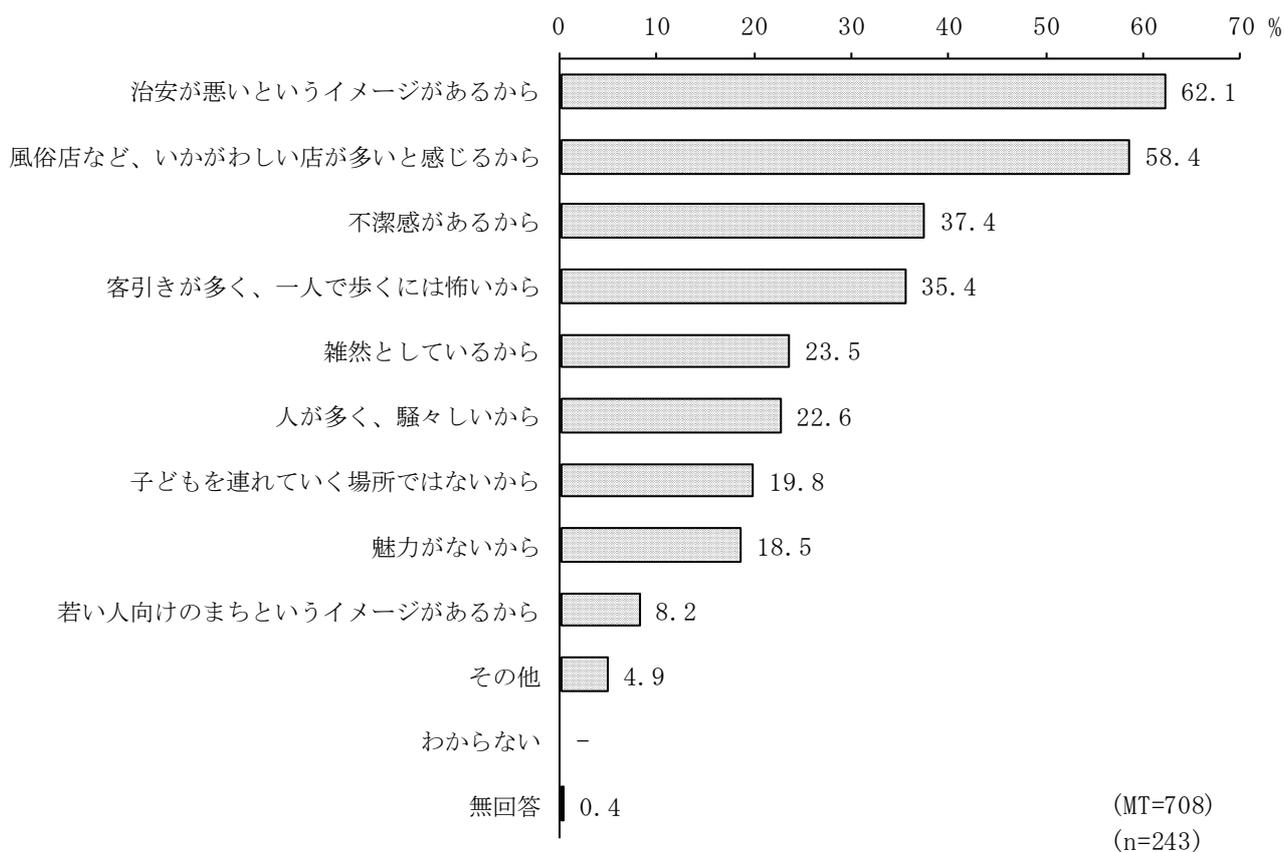
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

（5）歌舞伎町へ行きたくない理由

◎「治安が悪いというイメージがあるから」が6割強

問5-2 問5で【2 行きたくない】の方	
行きたくない理由は何ですか。（複数回答可）（n=243）	
1 治安が悪いというイメージがあるから	62.1%
2 客引きが多く、一人で歩くには怖いから	35.4
3 風俗店など、いかがわしい店が多いと感じるから	58.4
4 魅力がないから	18.5
5 雑然としているから	23.5
6 不潔感があるから	37.4
7 人が多く、騒々しいから	22.6
8 子どもを連れていく場所ではないから	19.8
9 若い人向けのまちというイメージがあるから	8.2
10 その他	4.9
11 わからない	0.0
無回答	0.4

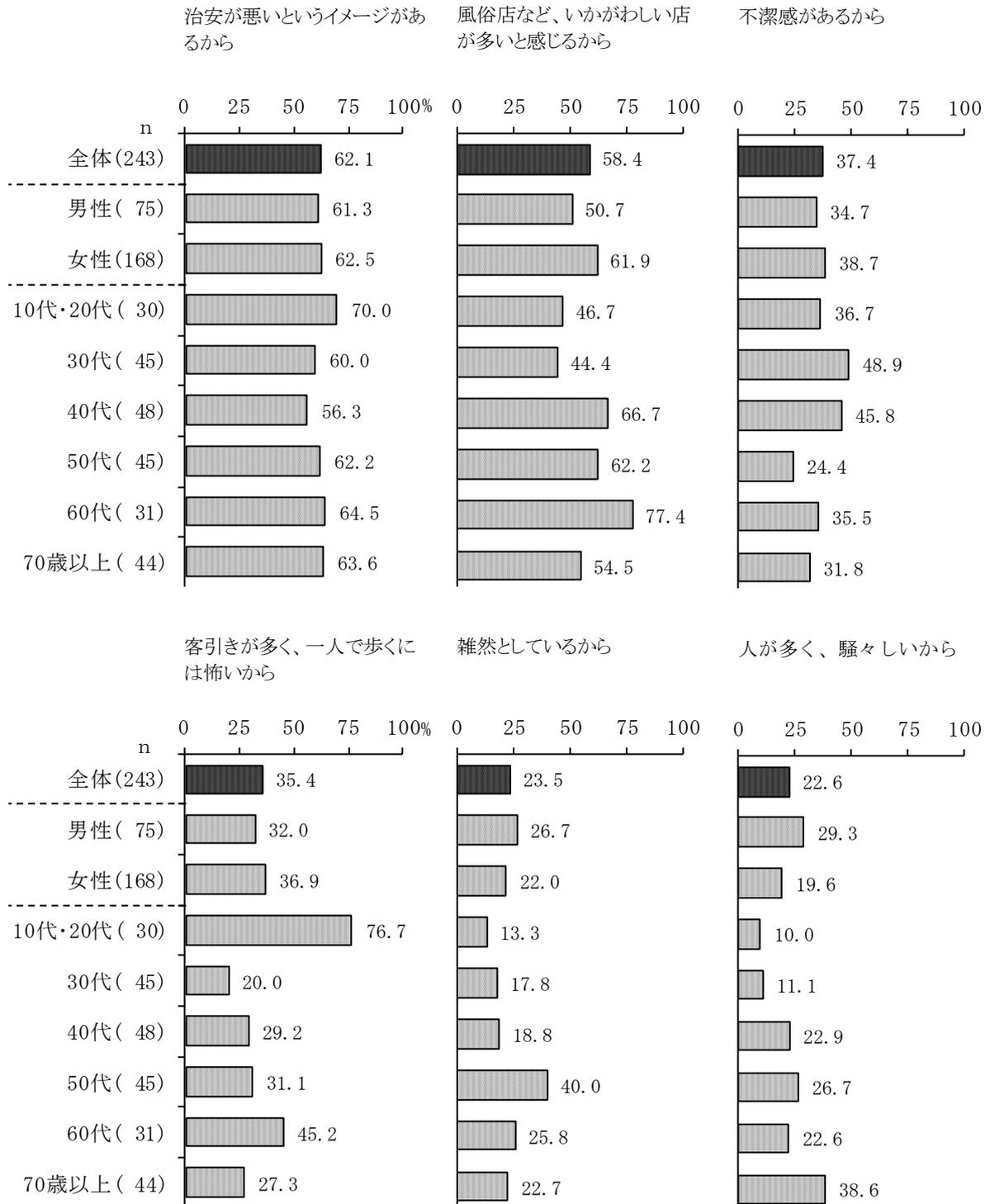
図3-2-9 歌舞伎町へ行きたくない理由



問5で、「行きたくない」の方に、歌舞伎町へ行きたくない理由を聞いたところ、「治安が悪いというイメージがあるから」(62.1%)が6割強で最も高く、「風俗店など、いかがわしい店が多いと感じるから」(58.4%)が6割近く、「不潔感があるから」(37.4%)、「客引きが多く、一人で歩くには怖いから」(35.4%)と続く。(図3-2-9)

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

図3-2-10 歌舞伎町へ行きたくない理由（性・年代別）上位6項目



上位6項目を性別で見ると、「風俗店など、いかがわしい店が多いと感じるから」では、女性（61.9%）が男性（50.7%）を11.2ポイント上回っている。

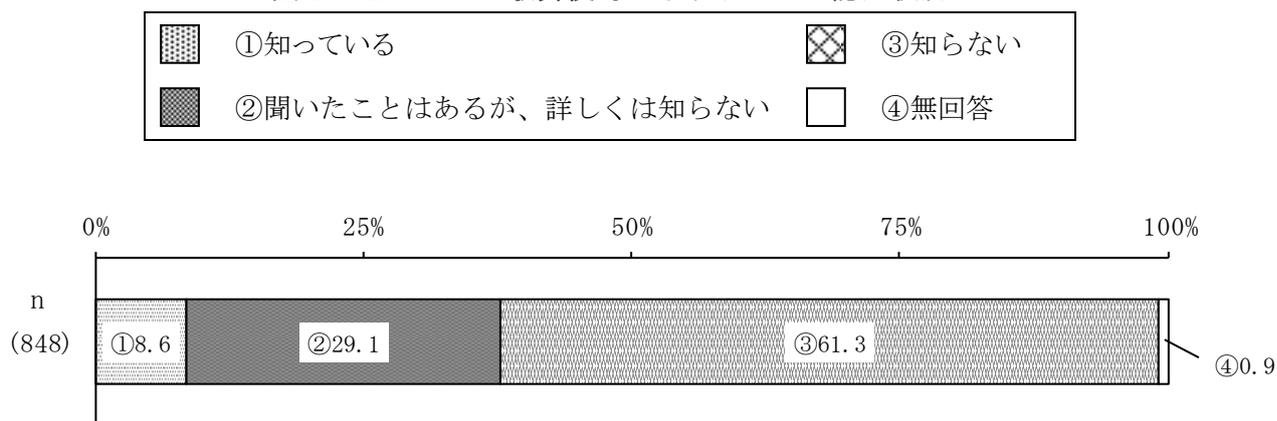
年代別で見ると、「客引きが多く、一人で歩くには怖いから」では、10代・20代（76.7%）が7割台半ばを超え最も高く、全体（35.4%）を41.3ポイント上回っている。（図3-2-10）

(6) 歌舞伎町ルネッサンスの認知状況

◎「知らない」が6割強

問6 あなたは、歌舞伎町ルネッサンスを知っていますか。(n=848)	
1 知っている	8.6%
2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない	29.1
3 知らない	61.3
無回答	0.9

図3-2-11 歌舞伎町ルネッサンスの認知状況



歌舞伎町ルネッサンスの認知状況を聞いたところ、「知らない」(61.3%)が6割強で最も高く、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」(29.1%)、「知っている」(8.6%)の順となっている。

(図3-2-11)

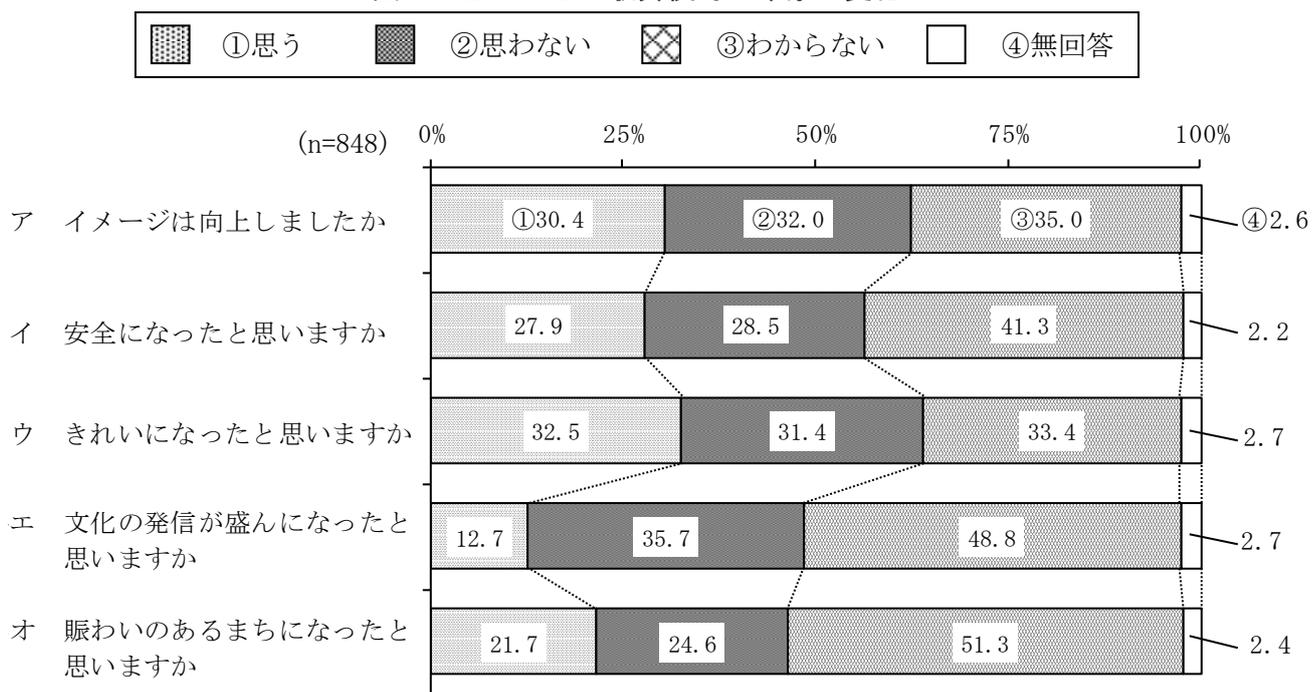
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

（7）歌舞伎町の印象の変化

◎「歌舞伎町の印象は変わったと思う」では、『きれいになったと思いますか』で3割強、「歌舞伎町の印象は変わったと思わない」では、『文化の発信が盛んになったと思いますか』で3割台半ば

問7 以前と比べて、歌舞伎町の印象は変わったと思いますか。 ア～オ全ての項目について該当する番号に○を付けてください。(n=848)	思う	思わない	わからない	無回答
ア イメージは向上しましたか	30.4%	32.0%	35.0%	2.6%
イ 安全になったと思いますか	27.9	28.5	41.3	2.2
ウ きれいになったと思いますか	32.5	31.4	33.4	2.7
エ 文化の発信が盛んになったと思いますか	12.7	35.7	48.8	2.7
オ 賑わいのあるまちになったと思いますか	21.7	24.6	51.3	2.4

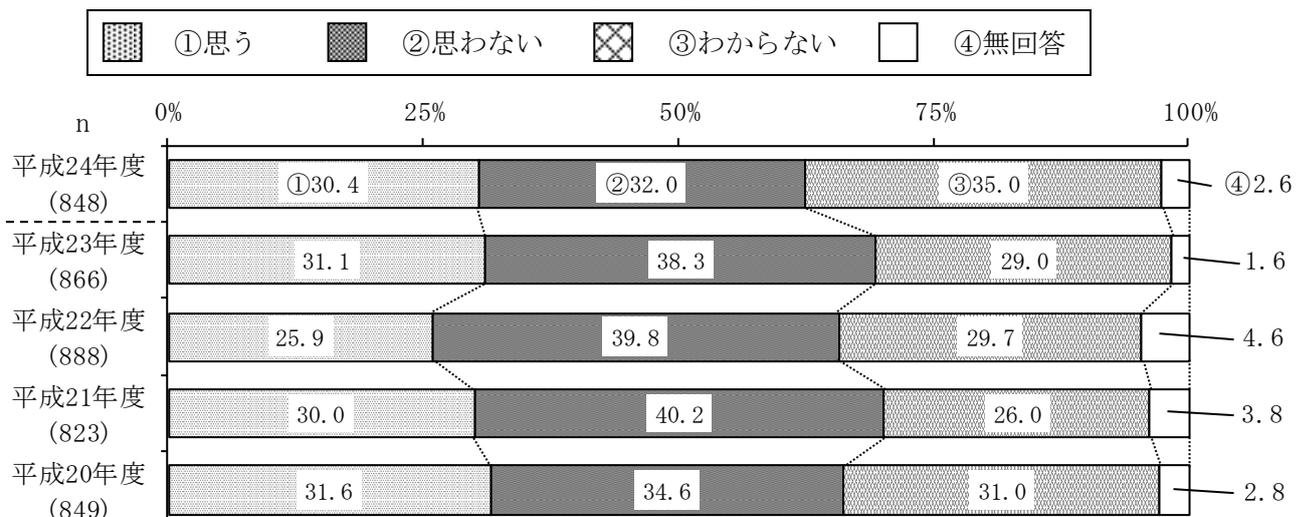
図3-2-12 歌舞伎町の印象の変化



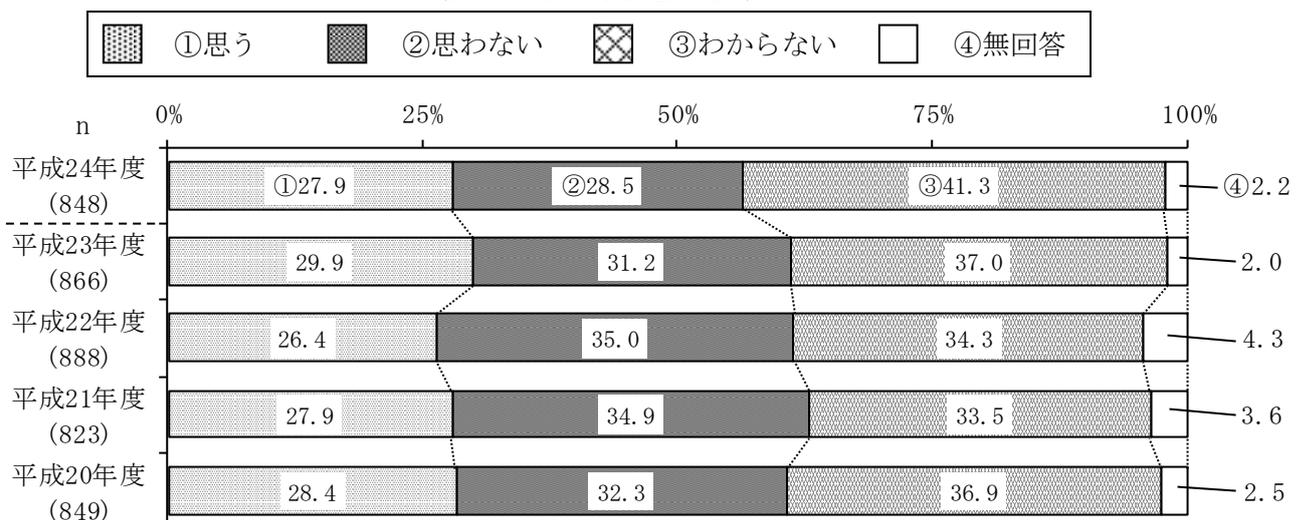
歌舞伎町の印象の変化について聞いたところ、「思う」が最も高かったのは、『きれいになったと思いますか』(32.5%)、「思わない」が最も高かったのは、『文化の発信が盛んになったと思いますか』(35.7%)となっている。(図3-2-12)

図3-2-13 歌舞伎町の印象の変化（経年推移）

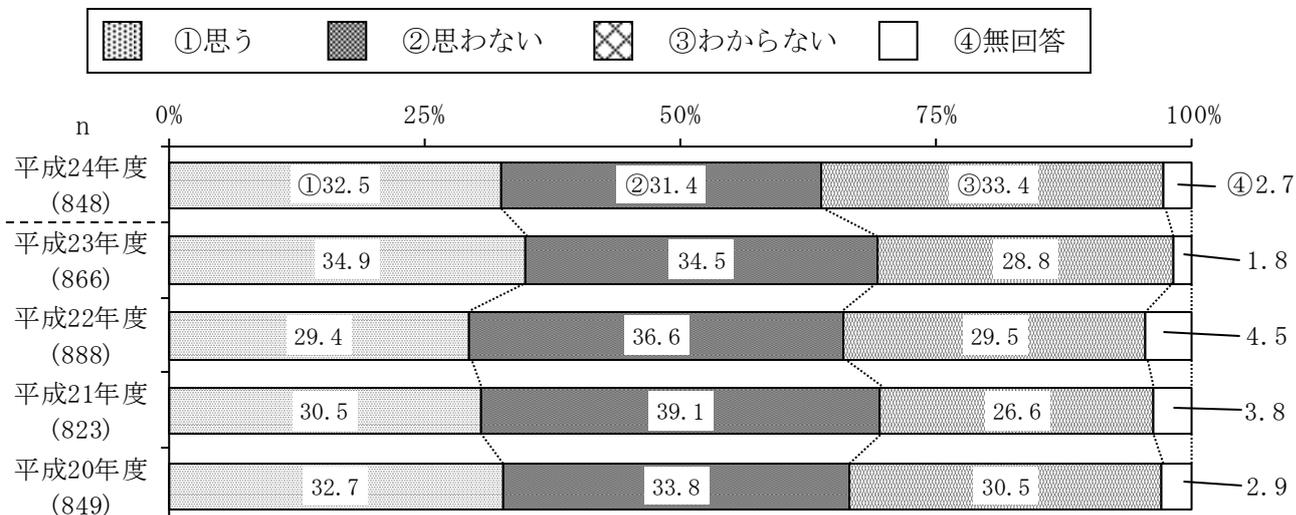
ア イメージは向上しましたか



イ 安全になったと思いますか

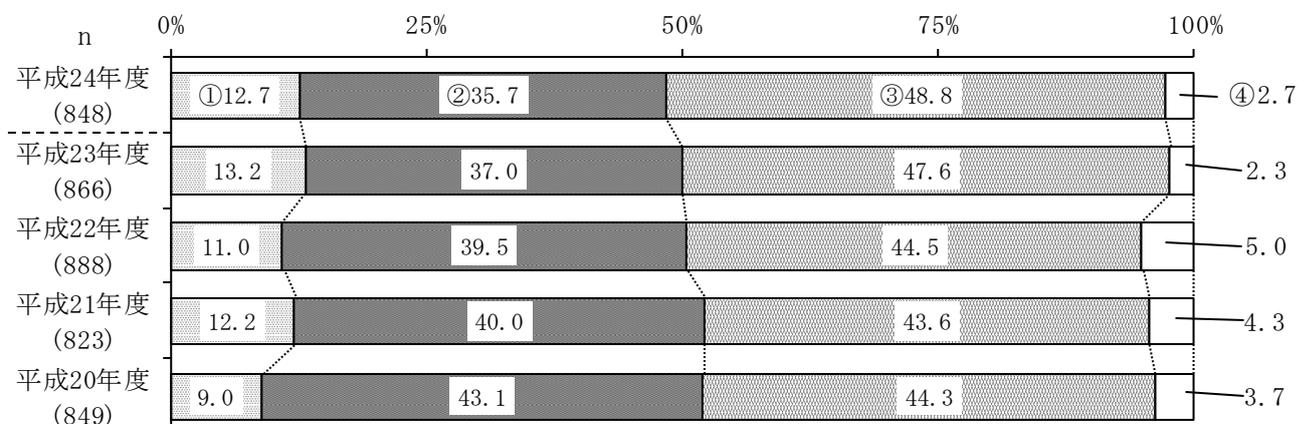


ウ きれいになったと思いますか

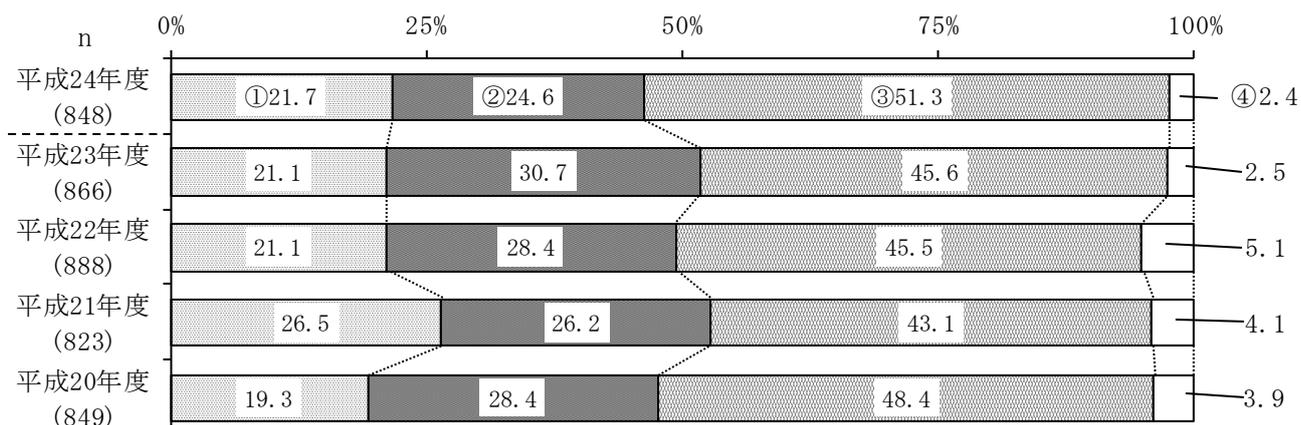
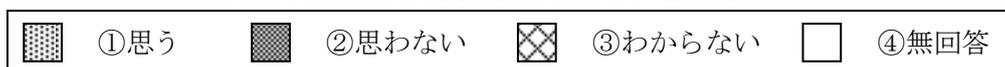


II 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

エ 文化の発信が盛んになったと思いますか



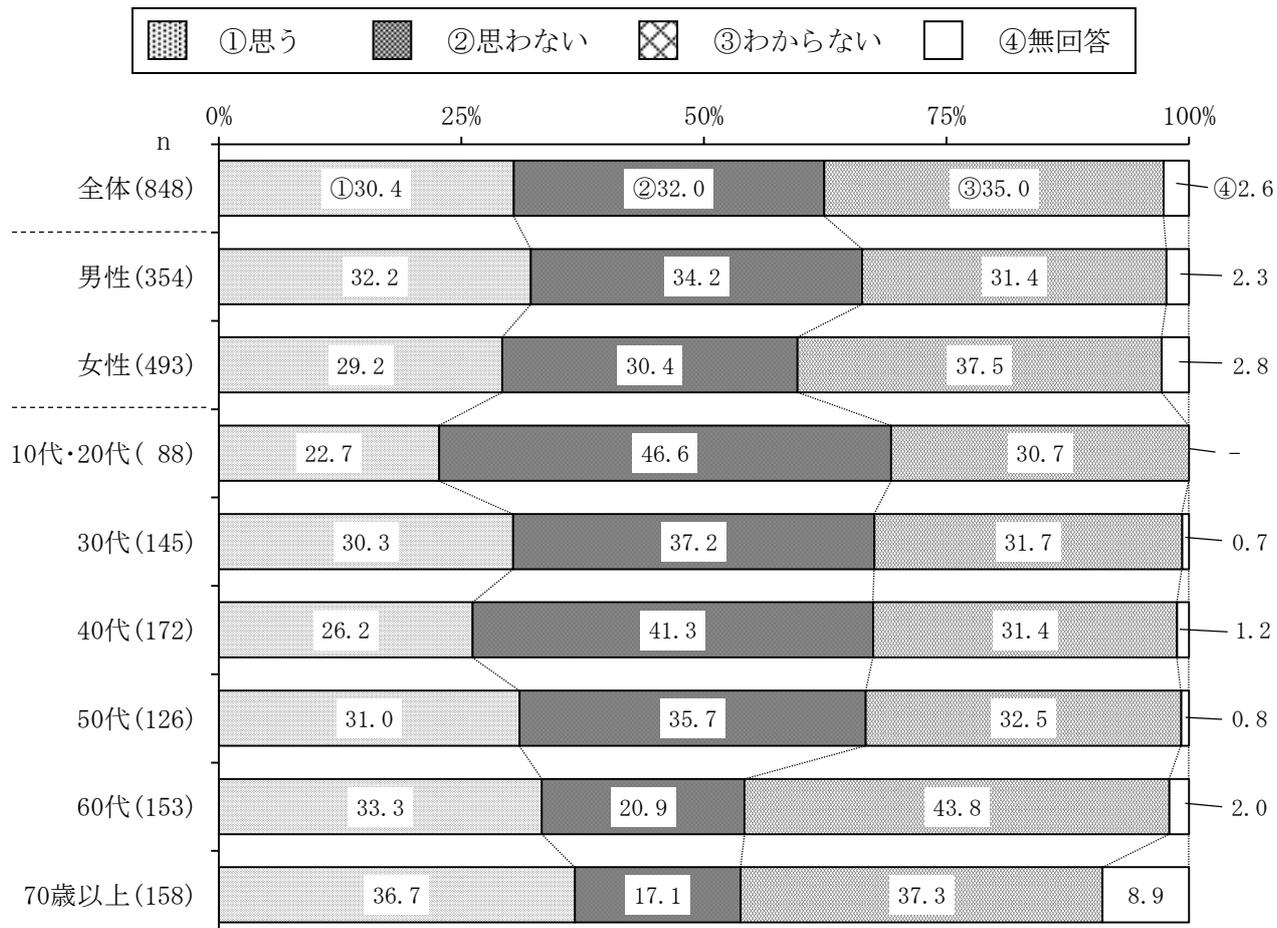
オ 賑わいのあるまちになったと思いますか



経年推移をみると、平成23年度の結果と比べて、全ての項目で「思わない」の割合が1.3ポイントから6.3ポイント下回っている（図3-2-13）

図3-2-14 歌舞伎町の印象の変化（性・年代別）

ア イメージは向上しましたか

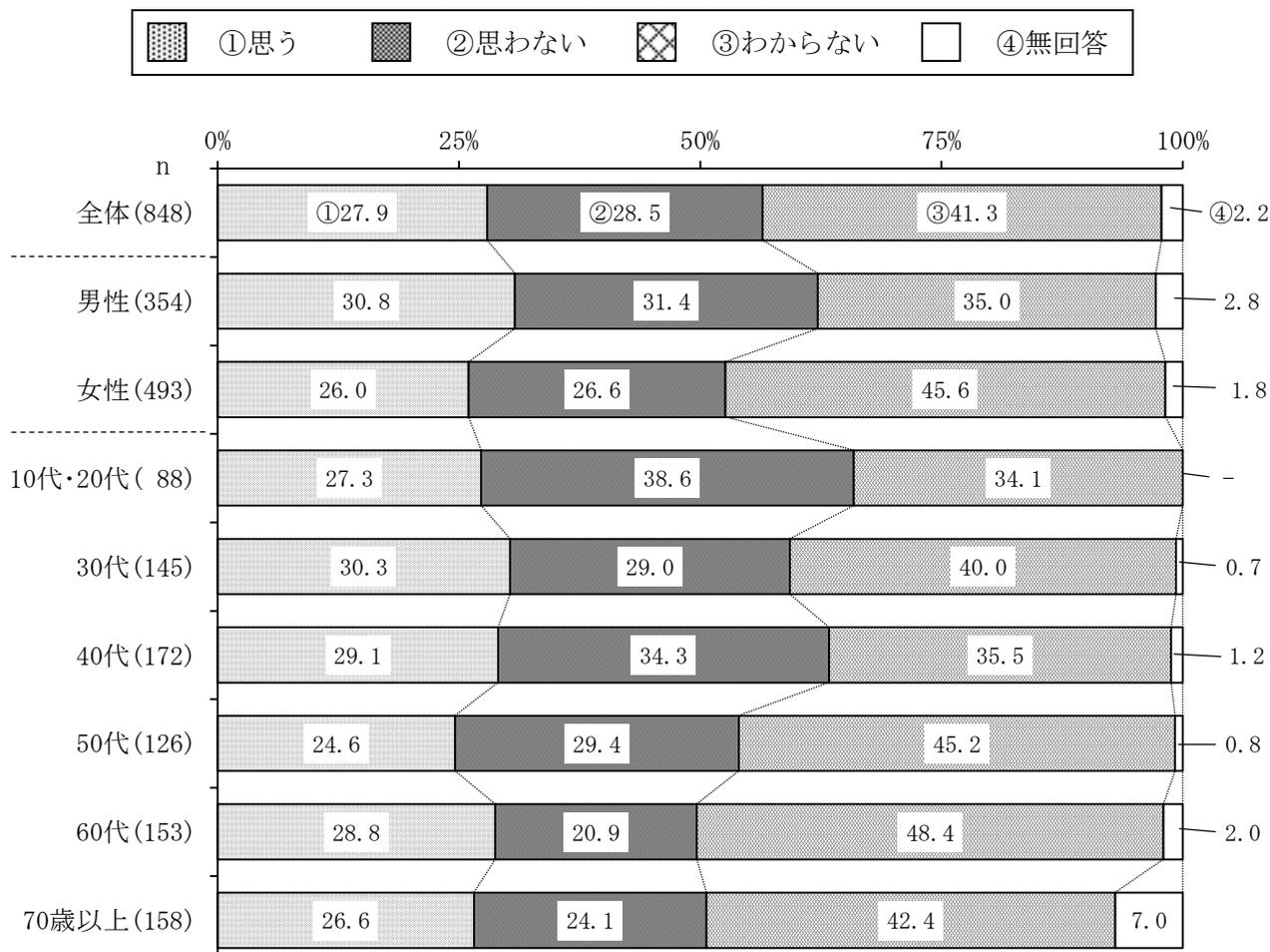


年代別で見ると、「思わない」では、10代・20代（46.6%）が4割台半ばを超え最も高く、全体（32.0%）を14.6ポイント上回っている。70歳以上（17.1%）では全体を14.9ポイント、60代（20.9%）では全体を11.1ポイント下回っている。（図3-2-14）

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

図3-2-15 歌舞伎町の印象の変化（性・年代別）

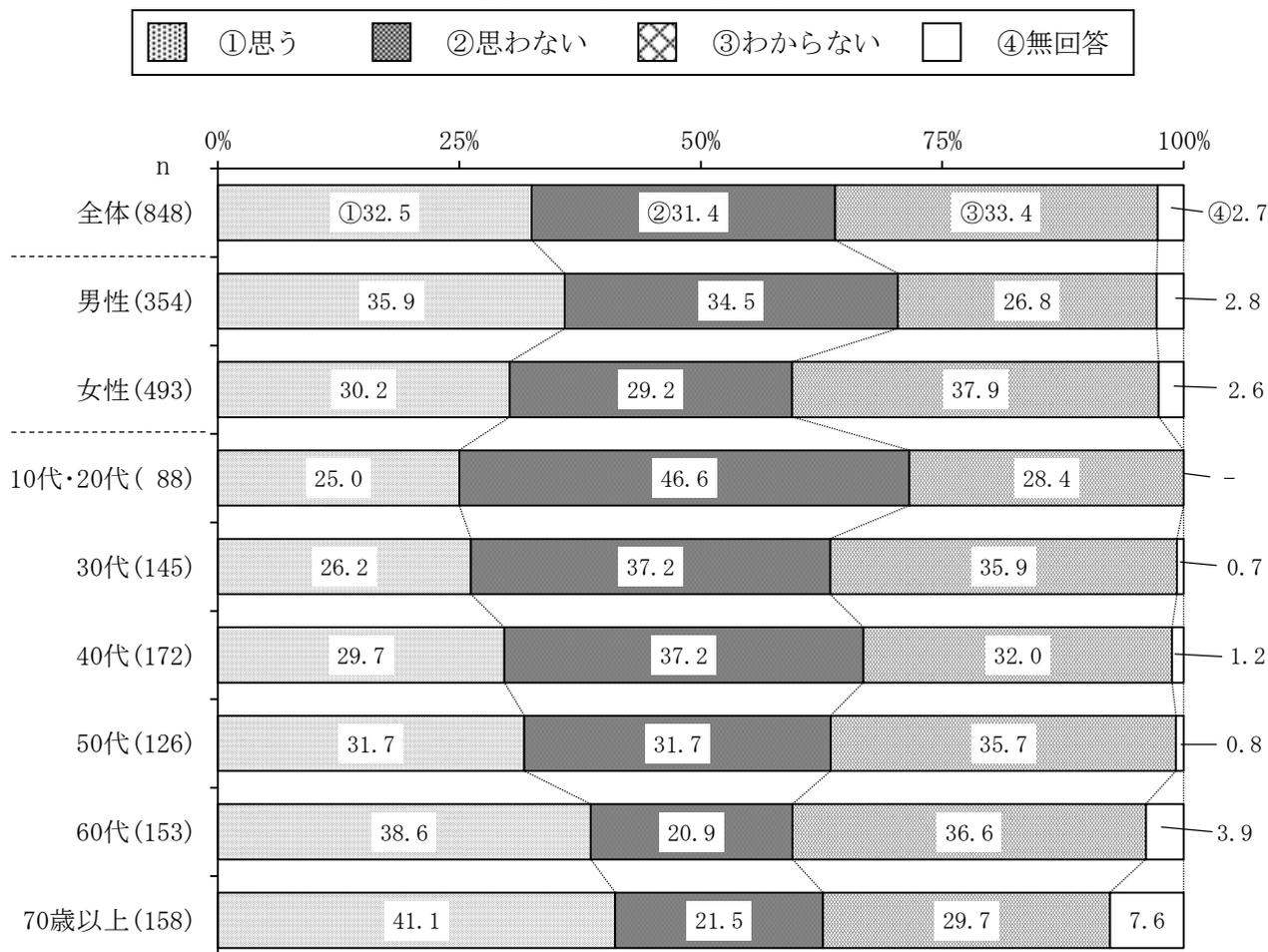
イ 安全になったと思いますか



年代別で見ると、「思わない」では、10代・20代（38.6%）が4割近くで最も高く、全体（28.5%）を10.1ポイント上回り、40代（34.3%）では3割台半ば近く、50代（29.4%）と30代（29.0%）では3割弱となっている。（図3-2-15）

図3-2-16 歌舞伎町の印象の変化（性・年代別）

ウ きれいになったと思いますか



年代別で見ると、「思う」では、70歳以上（41.1%）が全体（32.5%）を8.6ポイント上回り、年代が上がるにつれて高い割合を示す傾向が見られる。

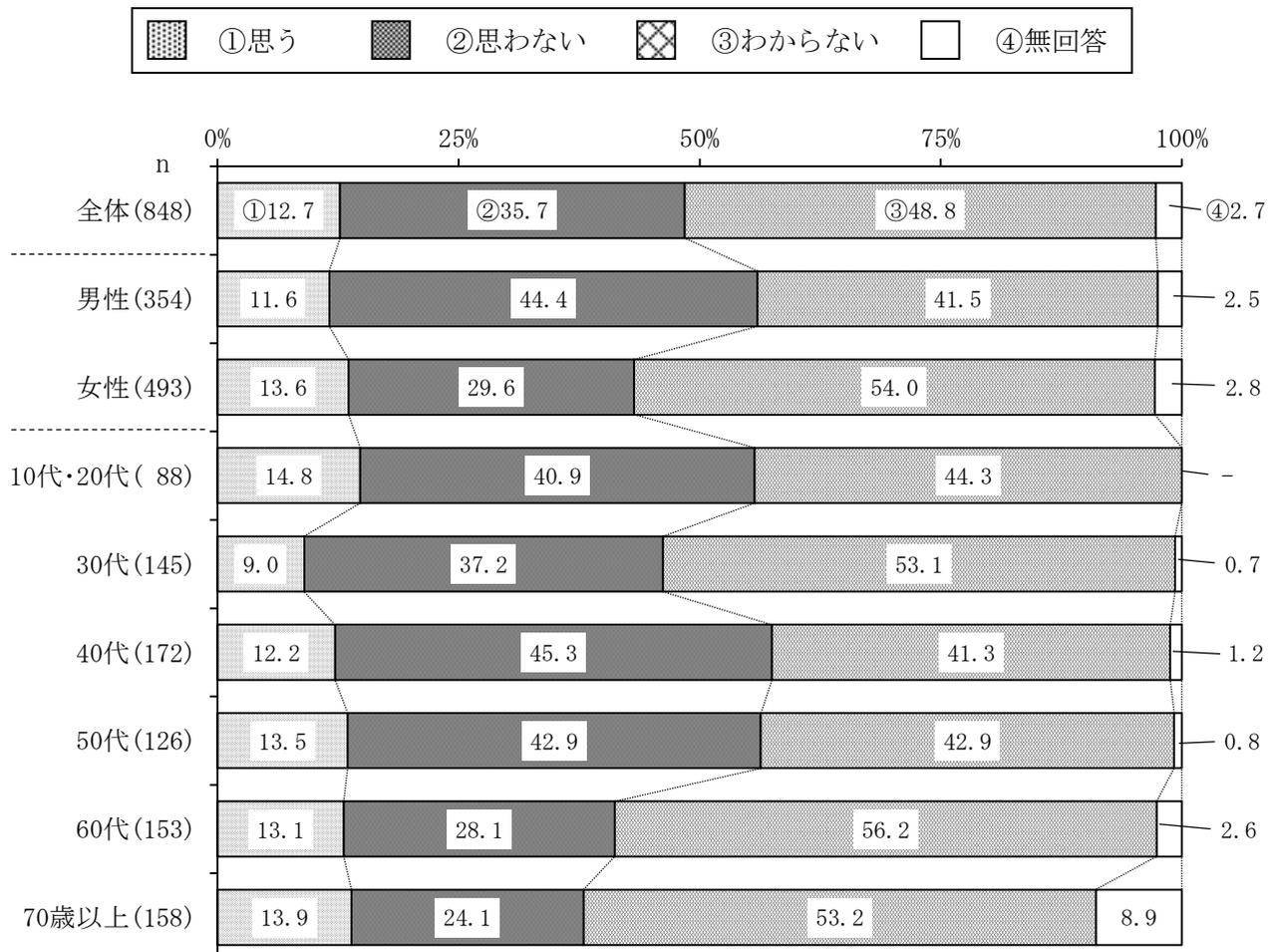
「思わない」では、10代・20代（46.6%）が4割台半ばを超え最も高く、全体（31.4%）を15.2ポイント上回っており、30代（37.2%）と40代（37.2%）では同率で3割台半ばを超える。

（図3-2-16）

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

図3-2-17 歌舞伎町の印象の変化（性・年代別）

エ 文化の発信が盛んになったと思いますか

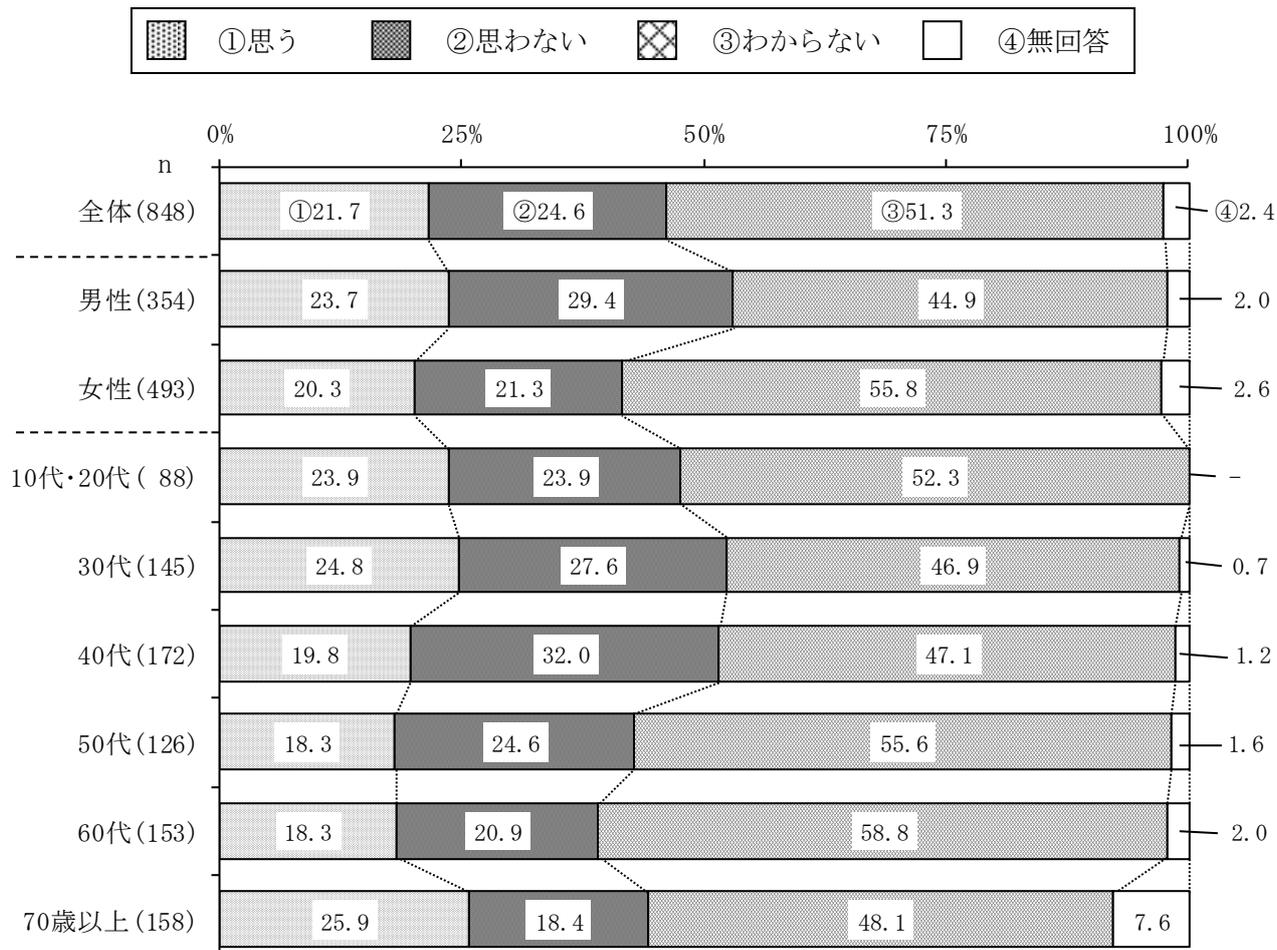


『文化の発信が盛んになったと思いますか』を性別で見ると、「思わない」では、男性（44.4%）が女性（29.6%）を14.8ポイント上回っている。

年代別で見ると、「思わない」では、40代（45.3%）が4割台半ばで最も高く、50代（42.9%）では4割強、10代・20代（40.9%）では約4割となっている。（図3-2-17）

図3-2-18 歌舞伎町の印象の変化（性・年代別）

オ 賑わいのあるまちになったと思いますか



『賑わいのあるまちになったと思いますか』を性別で見ると、「思わない」では、男性（29.4%）が女性（21.3%）を8.1ポイント上回っている。

年代別で見ると、「思う」では、70歳以上（25.9%）が2割台半ばで最も高く、「思わない」では、40代（32.0%）が3割強で最も高くなっている。（図3-2-18）

II 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

（8）歌舞伎町のイメージアップをするうえで、期待するもの・効果的なもの

問8 現在、歌舞伎町では、路上清掃や安全・安心対策、シネシティ広場や大久保公園を使ったイベント開催、道路や公園の整備など様々な取り組みを行っています。
今後、歌舞伎町のイメージアップをするうえで、期待するものや効果的なものがありましたらご記入ください。（自由記述）

★ご意見・ご提案（抜粋）★

- ・たまにしか行くことがないので靖国通りから見えている派手な看板が目につく。特に風俗などが気になる。コマ劇場跡地にビルが出来るまでの間にキレイなまち並みになってほしい。
- ・歌舞伎町は自分が子どもの頃から危険で、近づいてはいけない場所といわれていたので、新宿区役所へ行くことも何となくいやだと感じるほどである。今回、歌舞伎町ルネッサンスの冊子を見て驚いた。この冊子をスーパーなどに置いて、まず活動を知ってもらうことがイメージアップにつながると思う。
- ・私自身、以前組合の婦人部で歌舞伎町の路上清掃を5～6年行ったことがある。今でも続けていると思うが、昔と比較すると、道路もきれいになったと思う。続けることによってお店の人達も店の前だけでも清掃する様になったからだと思う。
- ・イメージアップには、親子が歌舞伎町で遊べるように、また、行けるようになることが一番だと思う。大久保公園等で子どもスポーツ大会を頻繁に開けば親も一緒に来るのではないか。フットサルの公式戦なら（定期戦）、普段練習を見に来ない親子も来るし、子ども達も将来思い出の場所として心に残ると思う。
- ・歌舞伎町のイメージが灰色っぽくて暗いので、通り全体の色彩が明るいものになると嬉しい。駅の周りは最先端のようなイメージなので、それに相反して、昔ながらの昭和な雰囲気前面に出すと楽しいまちになりそうだ。駄菓子屋のように、昭和というイメージのものがあると、子どもと行ってみたいくなる。
- ・新宿区に住む人や企業が、恒例のイベントを歌舞伎町で実施しようと思えば良いと思う。そうしたまちの活用を呼びかけるような活動を地道に行っていくと、効果も出てくると考える。
- ・休日のレクリエーション活動。子どもから年配の方まで参加できるような無料のイベント開催。もともとコマ劇場があったり、映画館がたくさんある場所なので、文化的な要素を求めて訪れる方も多いと思う。さらなる発展と、良質な芸術文化に触れられるようなスペースやイベントも良いと思う。
- ・様々な方々が働いたり生活していると思うが、名前から少し暗いイメージがある。しかし、いろいろと再生に取り組んでいるのを、まちを歩いていて感じられる。どのような職種の方々がいても、きれいに清掃されていることで、安心する。一人ひとりが心掛けるまちであれば良いと思う。
- ・以前と比べれば治安が悪い、ホームレスが多いと思わなくなり、クリーンな感じになっているが、風俗店が集合している地域なので、映画を観に行く時しか行かない。店を移転させるのは無理だと思うので、客引きを立たせない、お店の外観等を変えるということができれば良いと思う。
- ・歌舞伎町の商店会が一致団結してイベントや、定期的なマップづくりに取り組むなど、店が相互につきあいがあり、まち全体を考えているというメッセージがあると、より安心感が増す。

- ・歌舞伎町と聞くと、繁華街で治安が悪く汚いという印象が抜けきれない。しかし、以前よりはまちがきれいになったと感じる。家族連れが外出する週末は特にきれいになっていると印象も違ってくると思う。公園でのイベントがあるようだが、正直知らなかった。もっとPRしたり、歌舞伎町方面に子ども連れでも入りやすい店、遊び場があるとさらに変化するのではないか。
- ・建物自体の外観（看板なども）を美しくしてほしい。
- ・犯罪のない明るい歌舞伎町にするために、地域の人々と協力して（町会や店主たちみんなで）安心して遊べるまちにしていきたい。路上清掃は「ブロークン・ウィンドウ」のないまちづくりからニューヨークが美しいまちになったように、美しいまちづくりに役立つ。一人ひとりの努力の積み重ねが大切だ。協力して美しいまちにしたい。
- ・客引きが多いことと、しつこいことから、歌舞伎町に行くのがめんどろになってしまった。客引きが改善されればイメージもだいぶ変わる。
- ・歌舞伎町にさらに人が集まるようになるためには、クリーン作戦の徹底が必要だと思う。誰でも安心して歩けるようにするため、ぜひとも推進をお願いしたい。
- ・大阪の太陽の塔や直島のカボチャのオブジェのようなインパクトの大きな巨大アートを取り入れてほしい。地方や外国から遊びに来た人が記念写真を撮る場がなく、案内をするのに困った。
- ・出来れば昼夜を問わず警官、ボランティア、地元の方達が常に巡回していただけると安心できる。また、最近は食べながら歩いている人が多いので、ゴミを捨てる場所があればいいと思う。
- ・店舗からのゴミの出し方がまちまちで、ネズミの増加、景観を損ねる一因となっている。ゴミ出しの規制、罰則の強化を行うと、モラル上昇につながると思う。（ビルごとのダストボックス設置義務化など）。
- ・客引きの規制を徹底的に実施する。とにかく客引きが多くイメージが悪い。中には、肩をつかんだり引っ張ったり強引極まりないものもある。迷惑防止条例に抵触しているケースがほとんどなので、これらを含めて客引き、呼び込みを一斉に取り締まればイメージは改善すると思う。
- ・子育て中のママや、子ども向けイベントの企画に期待している。広場、公園でフリーマーケット等も開催していただけたら嬉しい。ママや子どもを対象とした取り組みはイメージアップにもなると思う。
- ・放置自転車が多いので、駐輪場をつくってほしい。買い物に行くにも自転車を置けないため、駐輪場があれば行きやすいし、より身近に感じるのでイメージアップにもなると思う。
- ・以前に比べてまちがとてもきれいになった。「歌舞伎」の名前が示すように、今後は日本伝統文化の催し物（子ども向けのプログラムも含む）の開催を期待している。
- ・やはり治安の向上が第一だと思う。歌舞伎町というと、どうしてもポン引き、ぼったくり、犯罪等のイメージが付きまとう。警察等とも連携し、治安の向上に努め、それを絶え間なくPRしていくことが重要であると思う。
- ・雑多な感じが歌舞伎町の魅力なので、あまりきれいにしすぎない方が良く思う。最近の整備されすぎたまちをみると、無機質な感じがして非常につまらない。歌舞伎町の良いところも残しつつ整備していただきたい。
- ・道路や街灯がキレイ（デザインの良い）になったら、雰囲気もさらに明るくなると思う。

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

- ・10年ほど前には、よく歌舞伎町を通過して新宿まで行っていた。午前中の、すさんだ雰囲気忘れられない。あのイメージを払拭するには、多大な努力が必要だと思う。一番わかりやすいのは、歌舞伎町の名前を変えることだと思う。難しいようなら「かぶき町」とするのはどうか。看板、ネオンなどもどうにかならないか。パリのファーストフード店のロゴは黄色ではなく白色だった。（シャンゼリゼ通り）。
- ・路上清掃をしてくださっている方をたまに見かけるが、それでもまだゴミが気になる。もっと清掃員を増やしたり、ポスターをもっと貼って、みんなに気をつけてもらいたい。
- ・大久保公園で子ども向けイベントを開催してほしい。大久保公園でふれあい市場の開催頻度を増やす、大久保公園でマルシェ（土日の朝市）の開催など。
- ・コマ劇場の跡地に、ショッピング、シネマ、オフィスを兼ねた総合ビルがつけられると聞いた。それを中心として、とにかくきれいで一般人も入りやすいまちづくりをしていただきたい。また、西武新宿駅とも連携して、官民共同でとにかく歌舞伎町を変えていただきたいと思う。
- ・大久保公園でのイベントがいい方向に大きく変化したと感じている。公園の整備によるところも大きいと思う。モア4番街のイベントなどもすごく盛り上がっている。今後もこのようなイベントで盛り上がっていったら、それぞれのイベントに共感する同士が自然に出てくるのが期待されるので、続けていただきたいと思う。
- ・歌舞伎町近くのゴールデン街は、女性ひとりでも行ける程、安全で清潔な雰囲気になったと聞いている。歌舞伎町も男性客ばかりでなく、女性も安心して行ける様な店やイベントを開催してほしい。また、まち全体に緑（植木など）を増やして、落ち着いたほっとできる空間をつくるのもいいと思う。
- ・女性だけでも入りやすいカフェなどがあるといいと思う。
- ・夜はあまり行かなくなったのでわからないが、昼間のイベントに行った時、楽しかった。広場があるので、どんどん活用してほしい。歌舞伎町に行くまでの風俗店を紹介する店などは、夜のイメージが強くなってしまう。子どもがいるので、子どもが楽しめるお店も増えるといいと思う。
- ・以前、歌舞伎町といえば怖いイメージがあったが、今はだいぶ変わって来たと思う。今後は、大人から子どもまで、また家族で楽しめるエリアになればいいと思う。
- ・まちの美化、安全面を向上させて、今までの歌舞伎町のイメージにあった暴力団・客引きを一掃してもらいたい。

(9) 歌舞伎町ルネッサンスについてご意見・ご要望

問9 歌舞伎町ルネッサンスについてご意見・ご要望がありましたらご記入ください。(自由記述)

★ご意見・ご提案(抜粋)★

- ・歌舞伎町をどのようなまちにしていくかという枠組みをつくるのは大事なことだが、有識者等の意見だけではなく、そこに住む人、働く人、遊びに来る人など実際にそのまちに関わる人達の意見も聞くべきであると思う。
- ・不法看板の是正や悪質客引き防止は、ぜひ取り組んでいただきたい。
- ・イベントに頼りすぎるのはよくないと思う。変化するには時間がかかると思う。
- ・歌舞伎町のイメージアップのために取り組みがあることを初めて知った。環境美化活動や各種イベント等、一般区民に開かれた歌舞伎町を実現するための様々なアイデアに取り組む人々の熱意に感動した。今後は積極的に情報を集め、参加し、新しい歌舞伎町のイメージを区外の人にも知ってもらいたいと思った。
- ・安全なまちである方が良いのは当然だが、今のまま、歌舞伎町らしさが残っていても良いと思う。どこも24時間同じ表情を持ったまちでは特徴もなく、魅力がない。
- ・初めて歌舞伎町ルネッサンスについて知った。私は新宿が大好きなので、これからも注目していきたいと思う。
- ・すばらしいことだと思う。安全な、たのしいまちが今、多くの人から求められているのではないかとと思う。年をとるとつい億劫になるため、何か気持ちを引きつけるものがほしい。歌舞伎町ルネッサンスは魅力的だ。アンケートを出す前に一度行きたかったが、機会がなかった。ぜひ行ってみたいと思う。
- ・文化の発信地・歌舞伎町であってほしい。「歌舞伎町映画祭」とネーミングし、映画祭を開催して、赤絨毯で有名スターが来場するなど。本物の歌舞伎俳優が来て芝居をしたり、本物を伺える場所になってほしい。
- ・何がどうなるのか「ルネッサンス」の目指す姿をビジュアルにわかり易くポスターや広報でもっと知らせてほしい。協力したくても何ができるか判断し難い。
- ・全く知らなかったので、もっとメディアを利用して宣伝する、町会の回覧板を使う等、まずは「少しは変わったか」では「見に行ってみよう」と思わせることが大事なのではないか。もう少し身近なイメージの取り組みをしてほしい。今回のパンフレットを見て思い当たることはあった。しかし、例えば大久保公園もきれいにはなったと思うが、大人がボールで遊んでいる状況等は変わらない。地域の人々の憩いの場がほしい。
- ・商業ビルの規制を強化してほしい。まちの計画にデザイナーを厳選して品格を導入してほしい。
- ・歌舞伎町ルネッサンスの取り組みはすばらしいと思う。劇場、コンサートホール(屋外もあればいい)、映画館などが集まり、なによりも子ども達が安心して遊びに来られる所にしてほしいと思う。
- ・実施するにあたり、徹底してやる、継続してやることが大事だと思う。中途半端はあまり意味がない。効果が出ないので。
- ・歌舞伎町というイメージを強く意識するのは中高年で、若い世代にはこだわりがあまりないかもしれない。そうであるならば、悪いイメージを取り払い、若い世代を取り込むチャンスではないか。安心して行ける歌舞伎町に変化してほしい。

II 調査の結果 第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

- ・治安や衛生環境は向上しているように見える。最近の夜の状況はよくわからないが、風俗産業で人を集めるようなまちからは、脱却してほしいと思う。
- ・小さい子どもがいるので、歌舞伎町には、という考えがあったが、今回、歌舞伎町ルネッサンスの取り組みをみて、イベントなどに行ってみたいと思えるものもあった。もっとイベントの内容などの説明をみんながわかるよう、宣伝していくべきだと思う。
- ・日本一の繁華街なのにスケールが小さいと感じる。外国人が日本に旅行に来て必ず立ち寄るような文化とエネルギーにあふれた、求心力のあるまちづくりができれば、自然と安全できれいなまちになると思う。
- ・様々な取り組みがあることを知った。私達区民も何か出来ることがあれば、区の発展のために行動を共にしたいと思う。
- ・この運動をメディアに強くアピールする方法を検討してはいかがか。（歌舞伎町に来る人は新宿区民だけでなく、日本各地、世界各地から来ている。）
- ・大勢の人から愛される文化の香りのする娯楽のまち（ミュージカル、演劇、絵画、博物館など）に発展するよう誘導してもらいたい。
- ・外から演者を呼ぶのではなく、地元の祭りになればよいと思う。近くには小学校も複数ある。子ども歌舞伎、子ども浄瑠璃、ストリートダンスなど、学校・地域と組んでこそ祭りの意味があるように思うし、長く続くのではないか。新宿は新宿村スタジオのように、ジャンクな文化を育てる施設を持つ歴史もある。ジャンクで構わないので、地域を発信してほしいと思う。
- ・どのようなまちの再構築が可能なかわからないが、歓楽街それも風俗のまちのイメージが強すぎる。少し時間をかけて、薄めてゆく必要があると思われる。
- ・一般区民に知られていないような気がする。まずは地元からアピールをし、続けていくことで、歌舞伎町＝夜のまちのイメージが少しずつなくなってほしいと思う。私は区民になってまだ10年だが、とても住みやすく、地域のことを守ってもらっていることを感じている。安心感こそが豊かな地域づくりに欠かせないと思う。これからも住みたい。
- ・広報等で色々な取り組みを知り、良いことだと思っているが、今までのイメージが強く、どうしても用事がある時以外は、足を運ぶ気になれない。根気よく情報を発信してほしい。
- ・歌舞伎町ルネッサンスという計画について、今回はじめて聞いた。（子どもが生まれ、夜外出することがなくなり）自身が歌舞伎町から遠ざかっているためかもしれないが、この活動のPRを活発にすることで、新しい明るいまちというイメージが広がると思った。

テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について

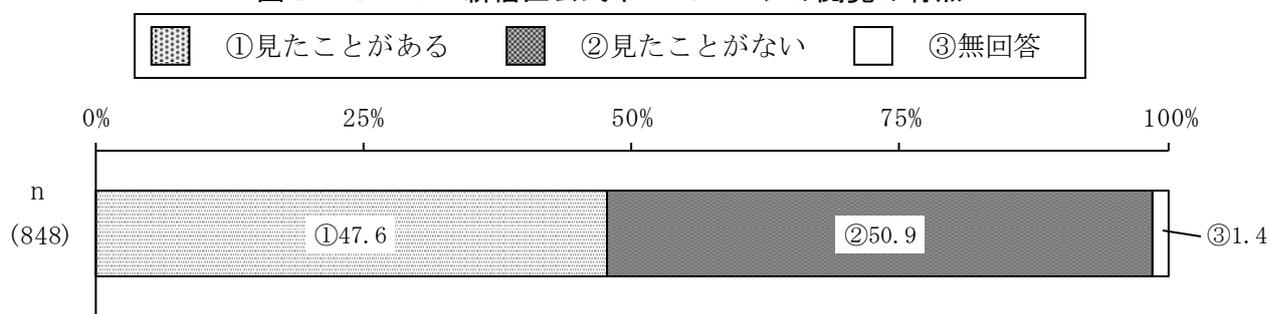
[1] 区ホームページ

(1) 新宿区公式ホームページの閲覧の有無

◎「見たことがある」が4割台半ばを超える

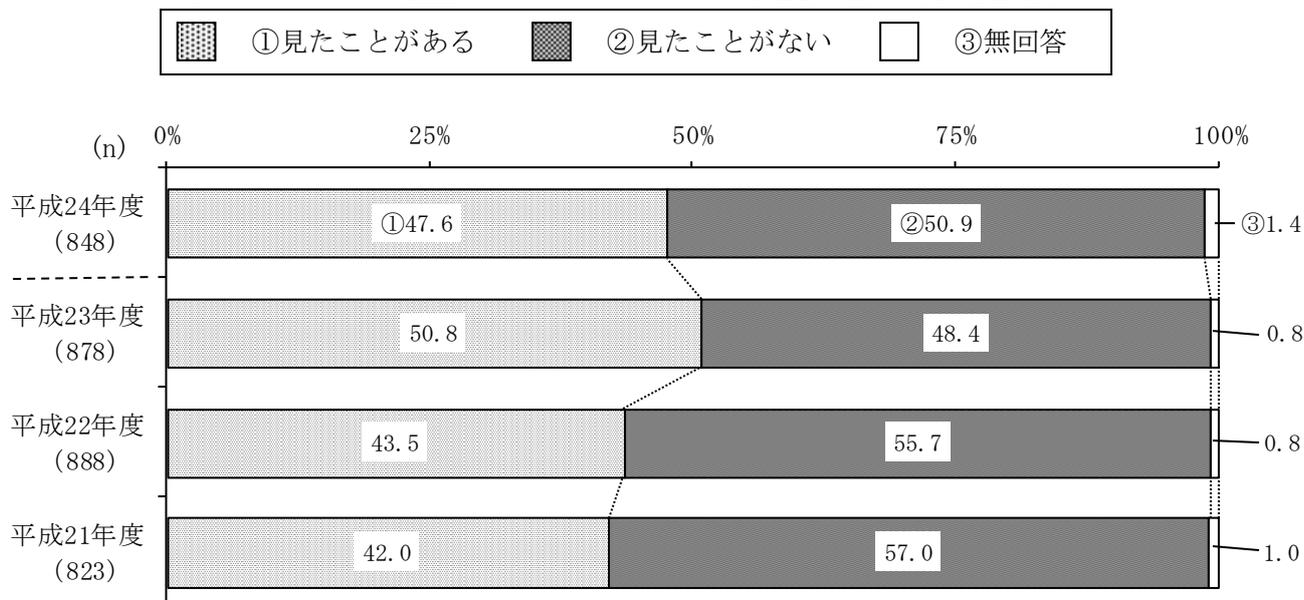
問10 あなたは、新宿区の公式ホームページ(http://www.city.shinjuku.lg.jp/)を見たことがありますか。(n=848)		
1	見たことがある	47.6%
2	見たことがない	50.9%
	無回答	1.4%

図3-3-1 新宿区公式ホームページの閲覧の有無



新宿区公式ホームページの閲覧の有無を聞いたところ、「見たことがある」(47.6%)が4割台半ばを超え、「見たことがない」(50.9%)が約5割となっている。(図3-3-1)

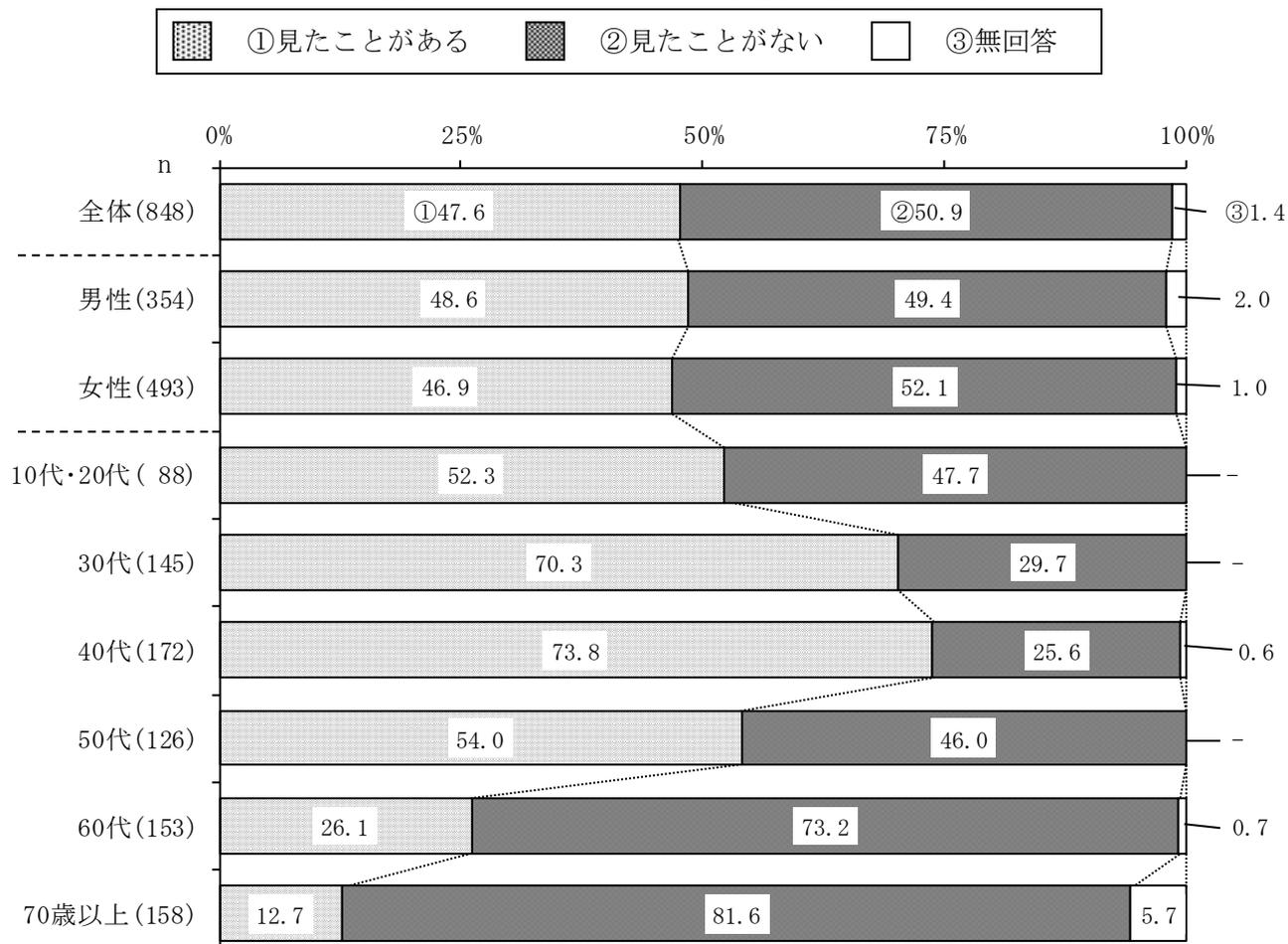
図3-3-2 新宿区公式ホームページの閲覧の有無(経年推移)



経年推移をみると、「見たことがある」では、平成21年度(42.0%)から平成23年度(50.8%)にかけて8.8ポイント増加していたが、平成24年度(47.6%)では、平成23年度を3.2ポイント下回っている。(図3-3-2)

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

図3-3-3 新宿区公式ホームページの閲覧の有無（性・年代別）



年代別で見ると、「見たことがある」では、40代（73.8%）が7割台半ば近くで最も高く、30代（70.3%）では約7割となっている。

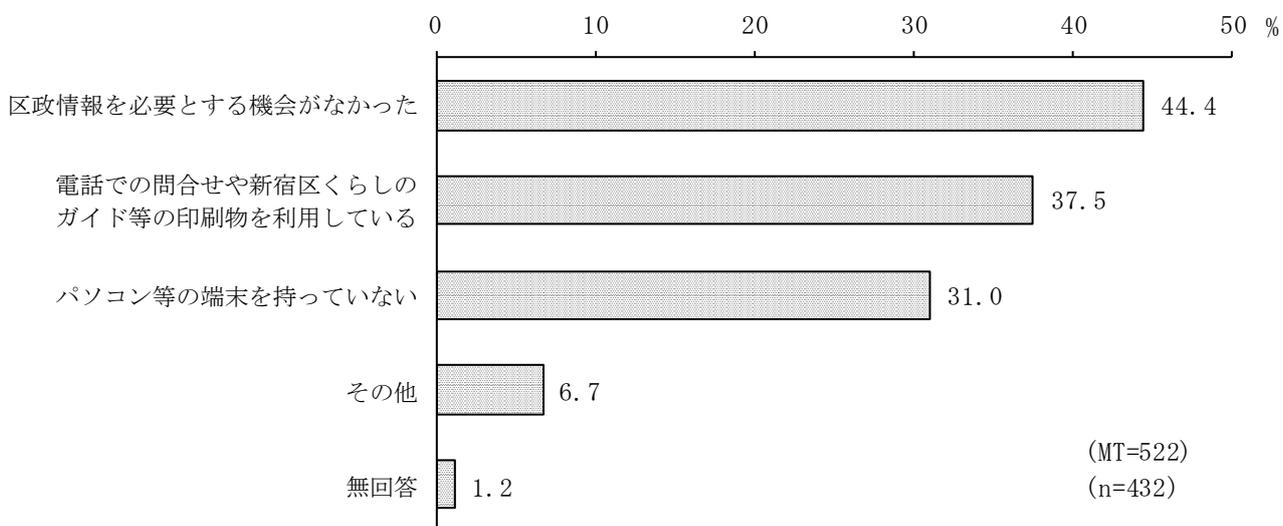
一方、「見たことがない」では、70歳以上（81.6%）が8割強で最も高く、70代（73.2%）では7割台半ば近くとなっている。（図3-3-3）

(2) 区ホームページを見たことがない理由

◎「区政情報を必要とする機会がなかった」が4割台半ば近く

問10-1 問10で、【2 見たことがない】の方		
区ホームページを見たことがない理由を教えてください。(複数回答可)(n=432)		
1	パソコン等の端末を持っていない	31.0%
2	電話での問合せや新宿区くらしのガイド等の印刷物を利用している	37.5
3	区政情報を必要とする機会がなかった	44.4
4	その他	6.7
	無回答	1.2

図3-3-4 区ホームページを見たことがない理由



問10で、「見たことがない」の方に、その理由を聞いたところ、「区政情報を必要とする機会がなかった」(44.4%)が4割台半ば近くで最も高く、以下、「電話での問合せや新宿区くらしのガイド等の印刷物を利用している」(37.5%)、「パソコン等の端末を持っていない」(31.0%)の順となっている。(図3-3-4)

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

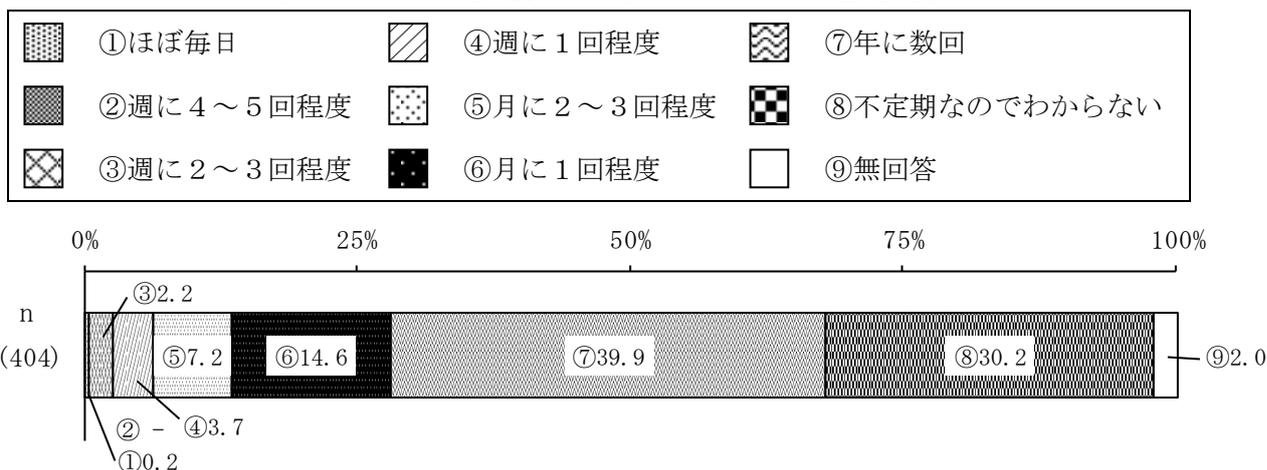
（3）新宿区公式ホームページの閲覧頻度

◎「年に数回」が4割弱

問10-2 問10で、【1 見たことがある】の方
平均して、どのくらいご覧になりますか。(n=404)

1	ほぼ毎日	0.2%
2	週に4～5回程度	0.0
3	週に2～3回程度	2.2
4	週に1回程度	3.7
5	月に2～3回程度	7.2
6	月に1回程度	14.6
7	年に数回	39.9
8	不定期なのでわからない	30.2
	無回答	2.0

図3-3-5 新宿区公式ホームページの閲覧頻度



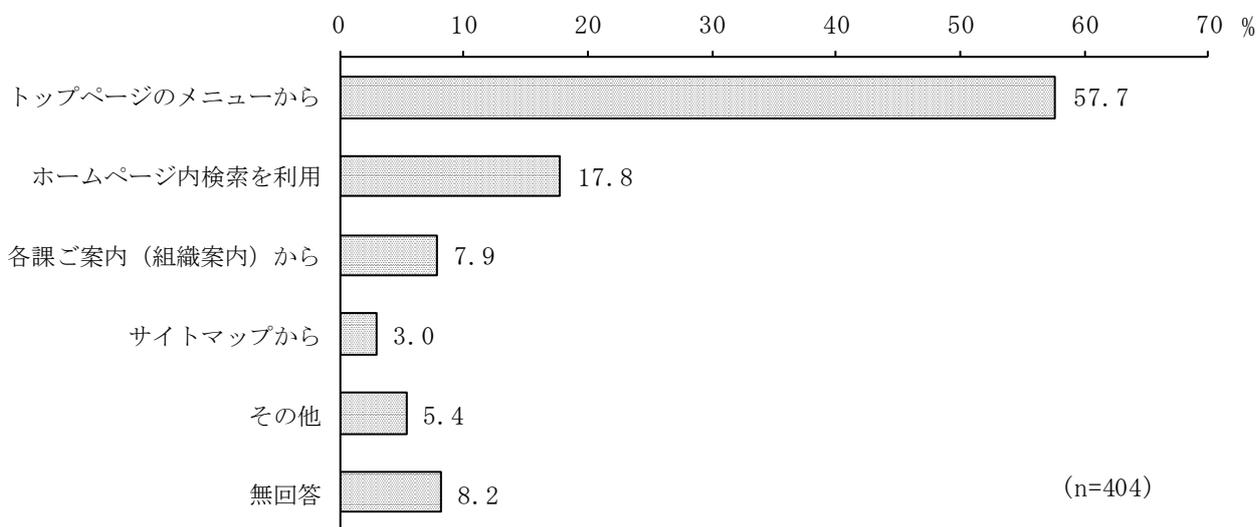
問10で、「見たことがある」の方に、新宿区公式ホームページの閲覧頻度を聞いたところ、「年に数回」(39.9%)が4割弱で最も高く、「不定期なのでわからない」(30.2%)、「月に1回程度」(14.6%)と続く。(図3-3-5)

(4) ホームページ内の情報の探し方

◎「トップページのメニューから」が5割台半ばを超える

問10-3 問10で、【1 見たことがある】の方		
ホームページ内の情報はどのように探していますか。		
最も多い探し方を選んでください。(n=404)		
1	トップページのメニューから	57.7%
2	ホームページ内検索を利用	17.8
3	サイトマップから	3.0
4	各課ご案内(組織案内)から	7.9
5	その他	5.4
	無回答	8.2

図3-3-6 ホームページ内の情報の探し方



問10で、「見たことがある」の方に、ホームページ内の情報の探し方を聞いたところ、「トップページのメニューから」(57.7%)が5割台半ばを超え最も高く、「ホームページ内検索を利用」(17.8%)と続く。(図3-3-6)

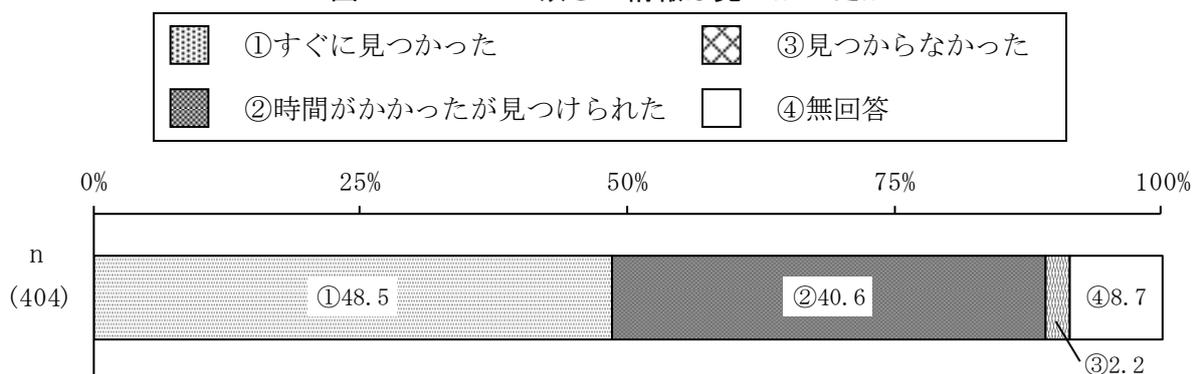
II 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

（5）欲しい情報は見つかったか

◎「すぐに見つかった」が5割近く

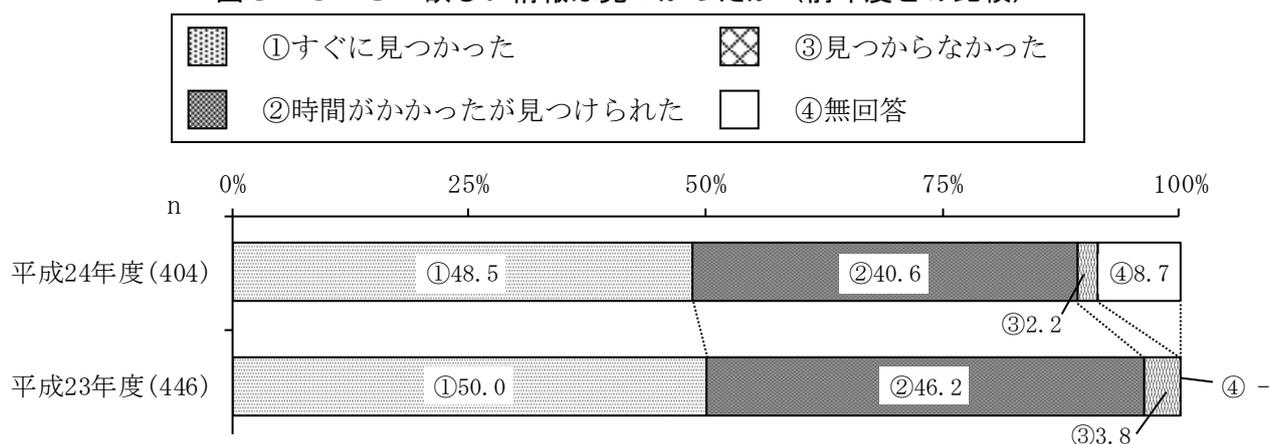
問10-4 問10で、【1 見たことがある】の方	
ホームページをご覧になって、欲しい情報は見つかりましたか。(n=404)	
1 すぐに見つかった	48.5%
2 時間がかかったが見つけれられた	40.6
3 見つからなかった	2.2
無回答	8.7

図3-3-7 欲しい情報は見つかったか



問10で、「見たことがある」の方に、欲しい情報は見つかったか聞いたところ、「すぐに見つかった」(48.5%)が5割近くで最も高く、「時間がかかったが見つけれられた」(40.6%)、「見つからなかった」(2.2%)の順となっている。(図3-3-7)

図3-3-8 欲しい情報は見つかったか（前年度との比較）



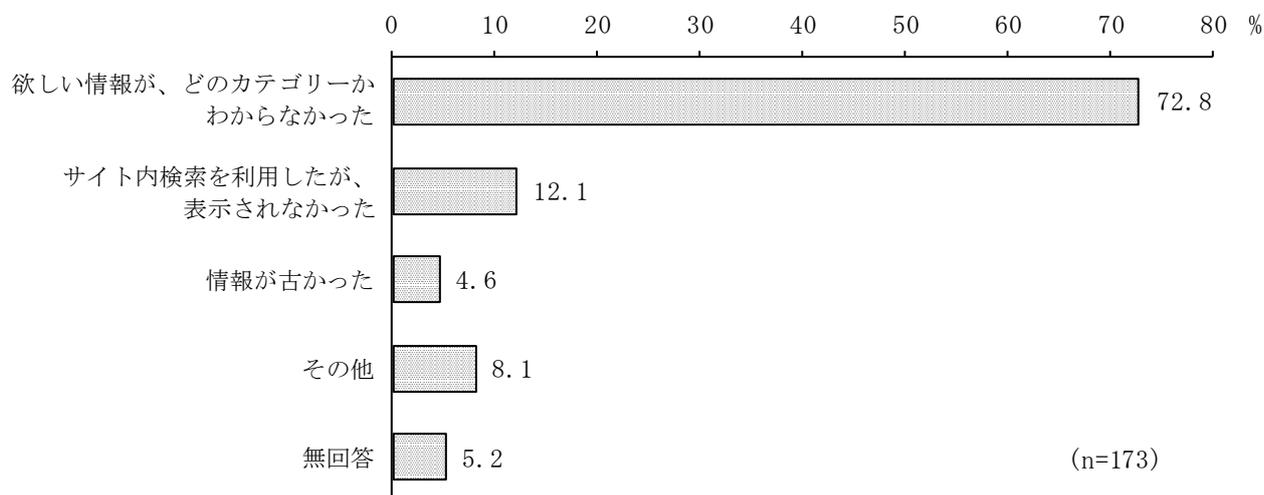
前年度調査の結果と比較すると、「時間がかかったが見つけれられた」では、今回(40.6%)が前回(46.2%)を5.6ポイント下回っている。(図3-3-8)

(6) 情報が見つかるまで時間がかかった理由・見つからなかった理由

◎「欲しい情報が、どのカテゴリーかわからなかった」が7割強

問10-4-1	問10-4で、【2 時間がかかったが見つけられた】または、【3 見つからなかった】の方	
	なぜ時間がかかった、または見つかりませんでしたか。	
	最もあてはまるものを1つ選んでください。(n=173)	
1	欲しい情報が、どのカテゴリーかわからなかった	72.8%
2	サイト内検索を利用したが、表示されなかった	12.1
3	情報が古かった	4.6
4	その他	8.1
	無回答	5.2

図3-3-9 情報が見つかるまで時間がかかった理由・見つからなかった理由



問10-4で、「時間がかかったが見つけられた」または、「見つからなかった」の方に、その理由を聞いたところ、「欲しい情報が、どのカテゴリーかわからなかった」(72.8%)が7割強で最も高く、「サイト内検索を利用したが、表示されなかった」(12.1%)と続く。(図3-3-9)

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

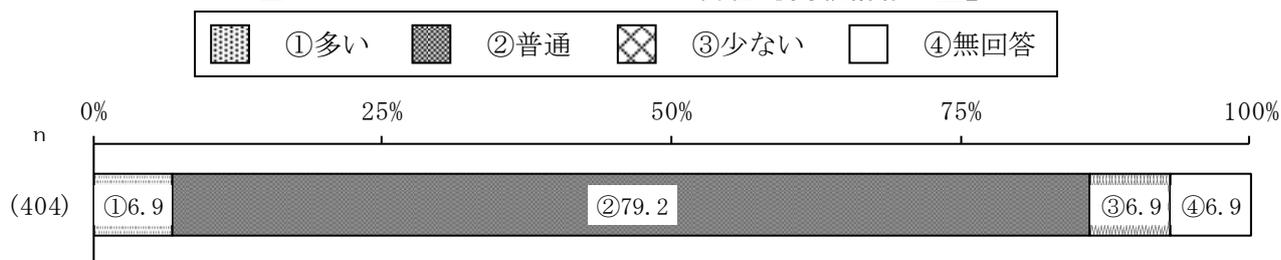
（7）ホームページの評価

◎『掲載情報のわかりやすさ』の評価で「わかりやすい」が2割近く

問10-5 問10で、【1 見たことがある】の方
ホームページをご覧になって、どのように感じましたか。
(ア)～(エ)全ての項目について該当する番号に○を付けてください。(n=404)

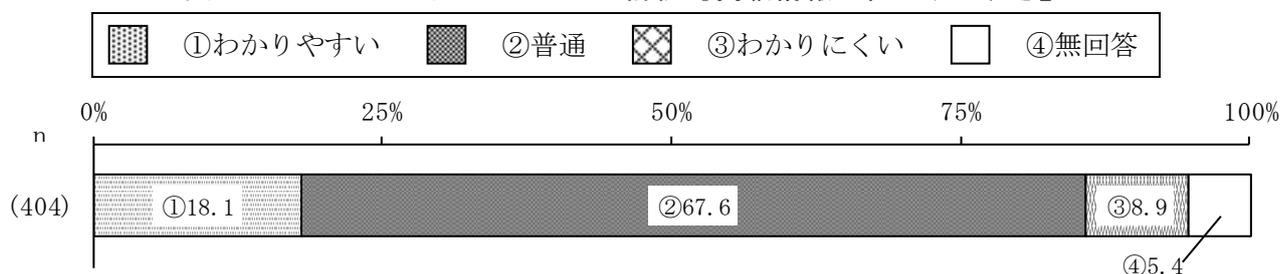
(ア) 掲載情報の量	多い 6.9%	普通 79.2%	少ない 6.9%	無回答 6.9%
(イ) 掲載情報のわかりやすさ	わかりやすい 18.1	普通 67.6	わかりにくい 8.9	無回答 5.4
(ウ) レイアウト	良い 12.6	普通 73.5	悪い 8.4	無回答 5.4
(エ) 使いやすさ	良い 12.9	普通 72.5	悪い 8.7	無回答 5.9

図3-3-10 ホームページの評価『掲載情報の量』



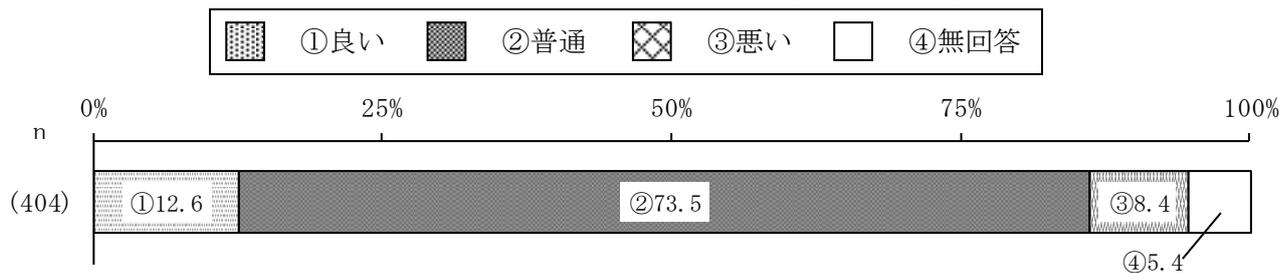
『掲載情報の量』の評価では、「普通」(79.2%)が8割弱で最も高く、同率で「多い」(6.9%)、「少ない」(6.9%)となっている。(図3-3-10)

図3-3-11 ホームページの評価『掲載情報のわかりやすさ』



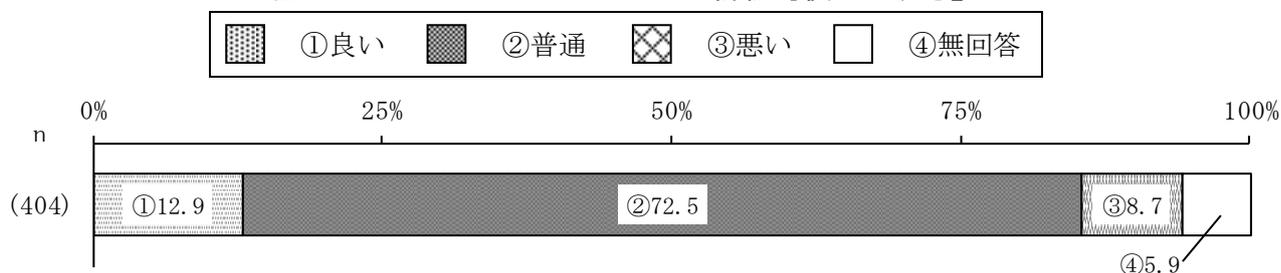
『掲載情報のわかりやすさ』の評価では、「普通」(67.6%)が6割台半ばを超え最も高く、「わかりやすい」(18.1%)、「わかりにくい」(8.9%)の順となっている。(図3-3-11)

図3-3-12 ホームページの評価『レイアウト』



『レイアウト』の評価では、「普通」(73.5%)が7割台半ば近くで最も高く、「良い」(12.6%)、「悪い」(8.4%)の順となっている。(図3-3-12)

図3-3-13 ホームページの評価『使いやすさ』



『使いやすさ』の評価では、「普通」(72.5%)が7割強で最も高く、「良い」(12.9%)、「悪い」(8.7%)の順となっている。(図3-3-13)

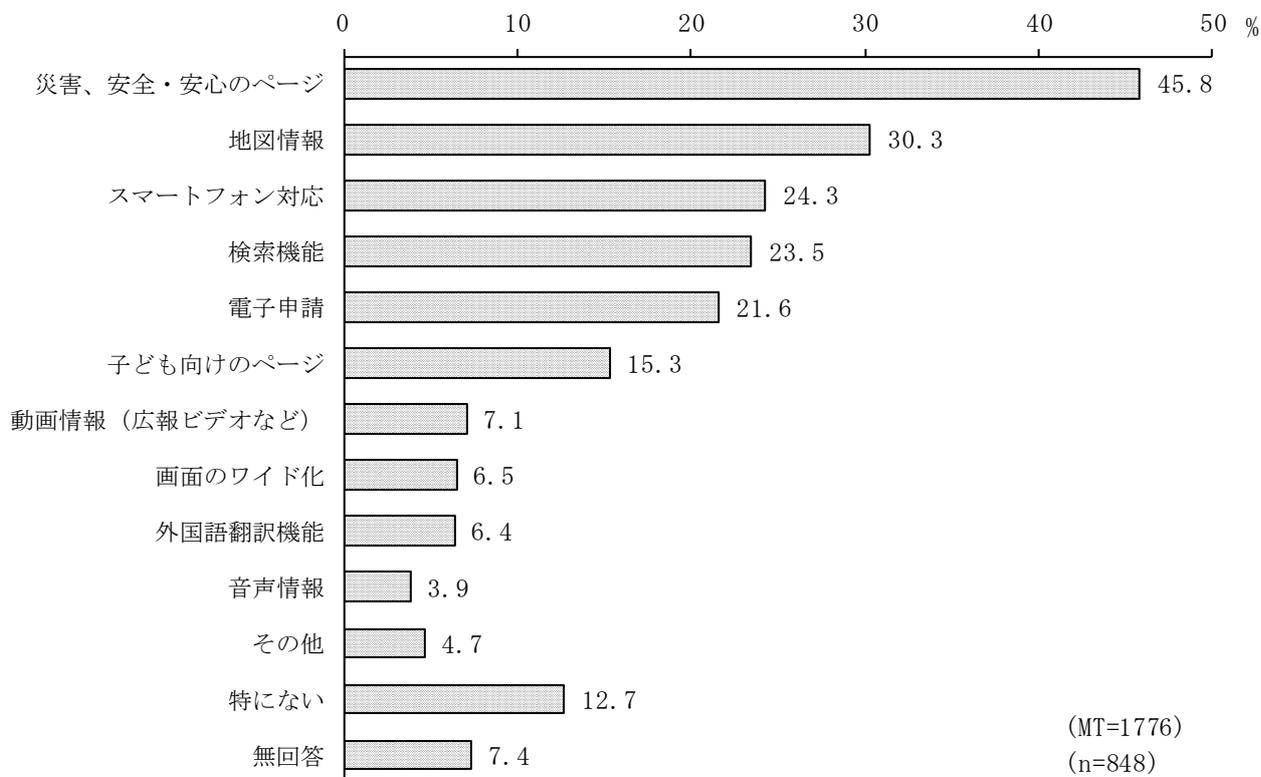
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

（8）新宿区公式ホームページに追加や充実が必要な機能

◎「災害、安全・安心のページ」が4割台半ば

問11 新宿区の公式ホームページに、今後、どのような機能の追加や充実が必要だと思いますか。 (複数回答可) (n=848)		
1	災害、安全・安心のページ	45.8%
2	子ども向けのページ	15.3
3	検索機能	23.5
4	電子申請	21.6
5	動画情報（広報ビデオなど）	7.1
6	音声情報	3.9
7	スマートフォン対応	24.3
8	外国語翻訳機能	6.4
9	地図情報	30.3
10	画面のワイド化	6.5
11	その他	4.7
12	特にない	12.7
	無回答	7.4

図3-3-14 新宿区公式ホームページに追加や充実が必要な機能



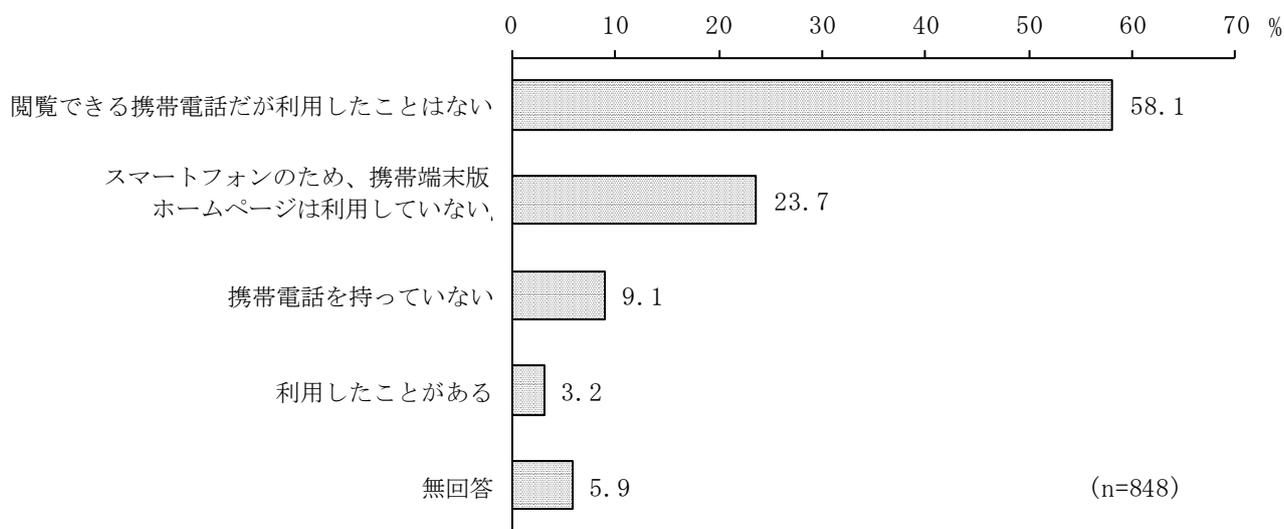
新宿区公式ホームページに追加や充実が必要な機能について聞いたところ、「災害、安全・安心のページ」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、「地図情報」(30.3%)が約3割、「スマートフォン対応」(24.3%)、「検索機能」(23.5%)と続く。(図3-3-14)

(9)「モバイル新宿区」の利用状況

◎「閲覧できる携帯電話だが利用したことはない」が6割近く

問12 携帯端末版ホームページ「モバイル新宿区」を利用したことがありますか。(n=848)	
1 利用したことがある	3.2%
2 閲覧できる携帯電話だが利用したことはない	58.1
3 スマートフォンのため、携帯端末版ホームページは利用していない	23.7
4 携帯電話を持っていない	9.1
無回答	5.9

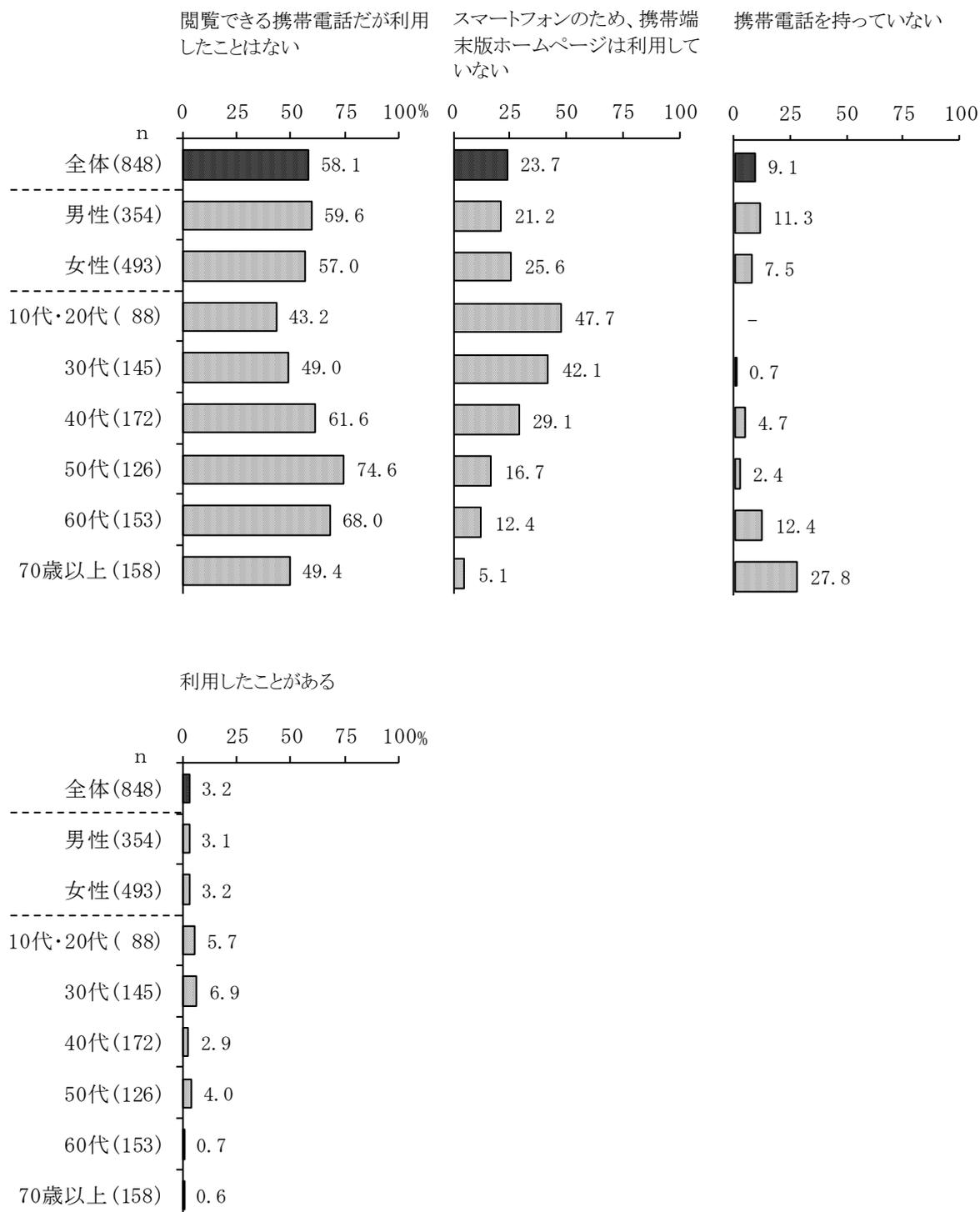
図3-3-15 「モバイル新宿区」の利用状況



「モバイル新宿区」の利用状況を聞いたところ、「閲覧できる携帯電話だが利用したことはない」(58.1%)が6割近くで最も高く、「スマートフォンのため、携帯端末版ホームページは利用していない」(23.7%)、「携帯電話を持っていない」(9.1%)、「利用したことがある」(3.2%)の順となっている。(図3-3-15)

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

図3-3-16 「モバイル新宿区」の利用状況（性・年代別）



年代別でみると、「閲覧できる携帯電話だが利用したことはない」では、50代（74.6%）が7割台半ば近くで最も高く、60代（68.0%）で7割近く、40代（61.6%）で6割強となっている。

「スマートフォンのため、携帯端末版ホームページは利用していない」では、10代・20代（47.7%）が4割台半ばを超え最も高く、年代が上がるにつれて低い割合を示す傾向がみられる。

「携帯電話を持っていない」では、70歳以上（27.8%）が2割台半ばを超え、全体（9.1%）を18.7ポイント上回っている。（図3-3-16）

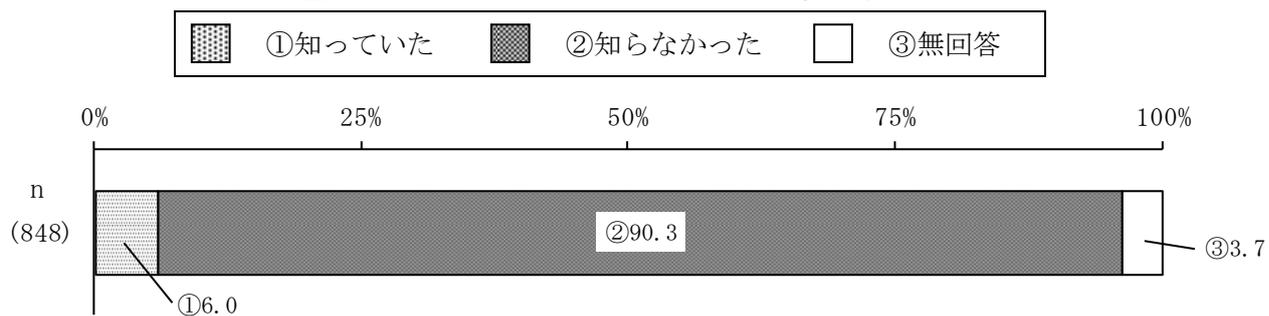
[2] 区公式ツイッター

(10) 区公式ツイッターの認知状況

◎ 「知らなかった」が約9割

問13 区公式ツイッターを知っていましたか。(n=848)		
1	知っていた	6.0%
2	知らなかった	90.3
	無回答	3.7

図3-3-17 区公式ツイッターの認知状況



区公式ツイッターの認知状況を聞いたところ、「知らなかった」(90.3%)が約9割となっている。

(図3-3-17)

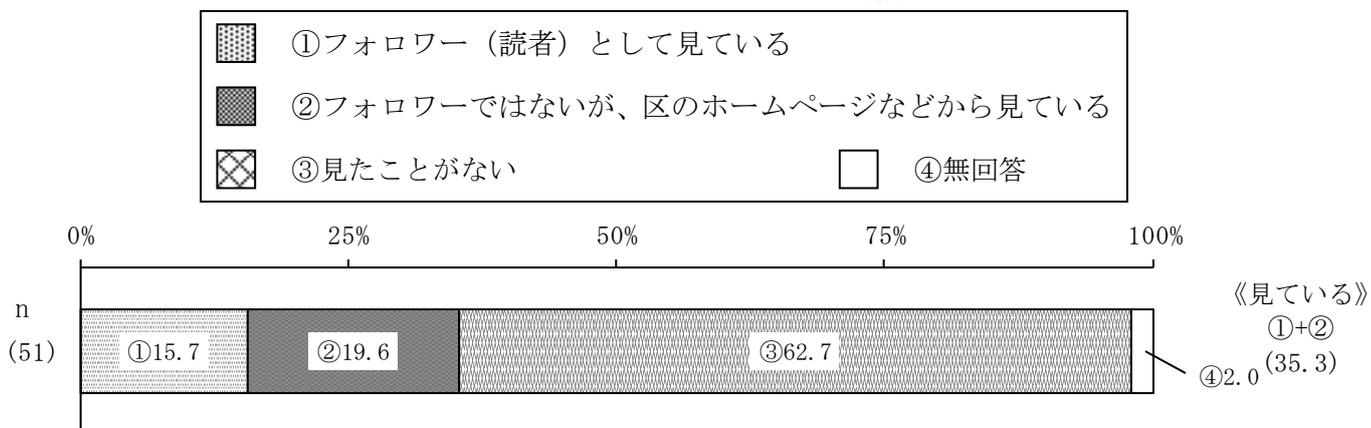
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

（11）区公式ツイッターの購読状況

◎「フォロワー（読者）として見ている」と、「フォロワーではないが、区のホームページなどから見ている」を合わせた《見ている》が3割台半ば

問14 問13で、【1 知っていた】の方	
区公式ツイッターを見たことがありますか。(n=51)	
1 フォロワー（読者）として見ている	15.7%
2 フォロワーではないが、区のホームページなどから見ている	19.6
3 見たことがない	62.7
無回答	2.0

図3-3-18 区公式ツイッターの購読状況



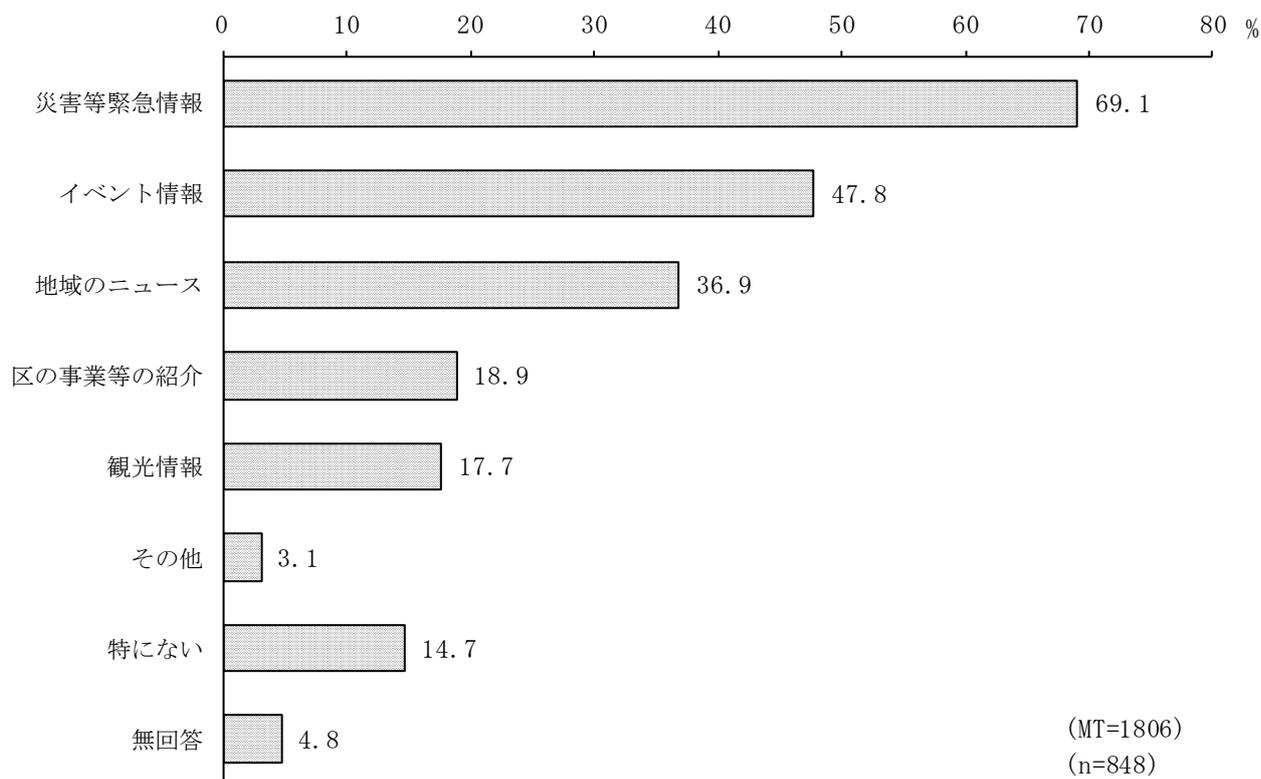
問13で、「知っていた」の方に、区公式ツイッターの購読状況を聞いたところ、「見たことがない」(62.7%)が6割強となっている。「フォロワーではないが、区のホームページなどから見ている」(19.6%)、「フォロワー（読者）として見ている」(15.7%)を合わせた《見ている》(35.3%)は3割台半ばとなっている。(図3-3-18)

(12) 区公式ツイッターでどのような情報の発信が必要だと思うか

◎「災害等緊急情報」が7割弱

問15 区公式ツイッターでどのような情報のツイート（発信）が必要だと思いますか。 (複数回答可) (n=848)		
1	災害等緊急情報	69.1%
2	観光情報	17.7
3	イベント情報	47.8
4	区の事業等の紹介	18.9
5	地域のニュース	36.9
6	その他	3.1
7	特にない	14.7
	無回答	4.8

図3-3-19 区公式ツイッターでどのような情報の発信が必要だと思うか



区公式ツイッターでどのような発信が必要だと思うか聞いたところ、「災害等緊急情報」(69.1%)が7割弱で最も高く、「イベント情報」(47.8%)、「地域のニュース」(36.9%)と続く。

(図3-3-19)

Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

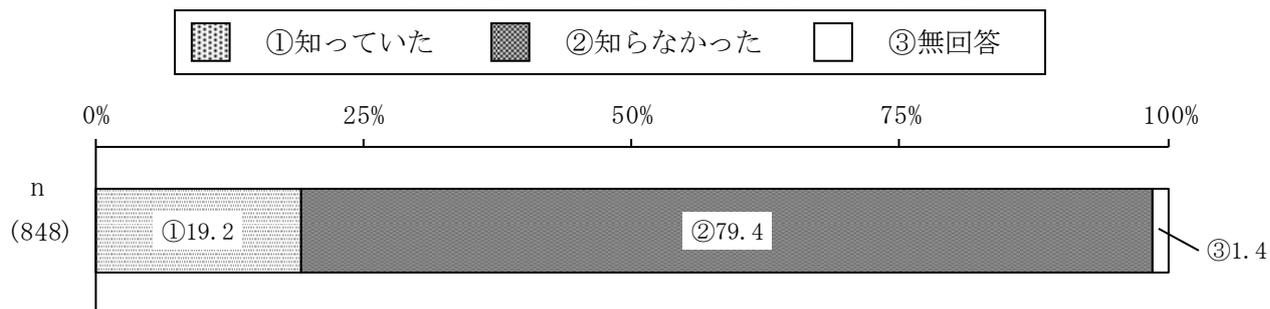
[3] 広報番組「こんにちは新宿区長です！」

(13) 広報番組「こんにちは新宿区長です！」の認知状況

◎ 「知っていた」が2割弱、「知らなかった」が8割弱

問16 広報番組「こんにちは新宿区長です！」を放送していることを知っていましたか。(n=848)	
1 知っていた	19.2%
2 知らなかった	79.4%
無回答	1.4%

図3-3-20 広報番組「こんにちは新宿区長です！」の認知状況



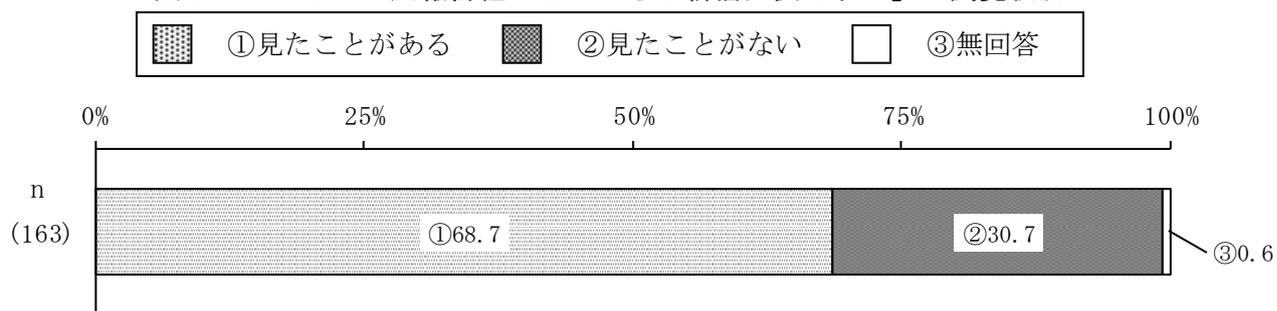
広報番組の認知状況を聞いたところ、「知っていた」(19.2%)が2割弱、「知らなかった」(79.4%)が8割弱となっている。(図3-3-20)

(14) 広報番組「こんにちは新宿区長です！」の閲覧状況

◎「見たことがある」が7割近く

問17 問16で【1 知っていた】の方	
広報番組「こんにちは新宿区長です！」を見たことがありますか。(n=163)	
1 見たことがある	68.7%
2 見たことがない	30.7
無回答	0.6

図3-3-21 広報番組「こんにちは新宿区長です！」の閲覧状況



問16で、「知っていた」の方に、広報番組の閲覧状況を聞いたところ、「見たことがある」(68.7%)が7割近く、「見たことがない」(30.7%)が約3割となっている。(図3-3-21)

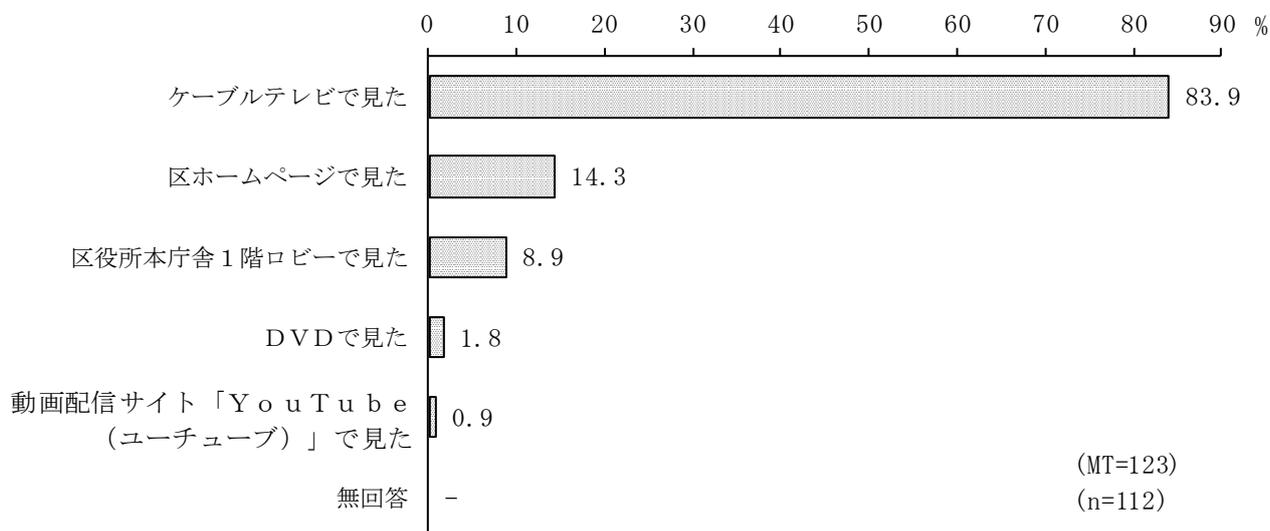
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

（15）広報番組「こんにちは新宿区長です！」の閲覧方法

◎「ケーブルテレビで見た」が8割台半ば近く

問18 問17で【1 見たことがある】の方	
どのような手段でご覧になりましたか。（複数回答可）（n=112）	
1 ケーブルテレビで見た	83.9%
2 区ホームページで見た	14.3
3 動画配信サイト「YouTube（ユーチューブ）」で見た	0.9
4 DVDで見た	1.8
5 区役所本庁舎1階ロビーで見た	8.9
無回答	0.0

図3-3-22 広報番組「こんにちは新宿区長です！」の閲覧方法



問17で、「見たことがある」の方に、広報番組の閲覧方法を聞いたところ、「ケーブルテレビで見た」（83.9%）が8割台半ば近くで最も高く、「区ホームページで見た」（14.3%）、「区役所本庁舎1階ロビーで見た」（8.9%）と続く。（図3-3-22）

テーマ4 景観まちづくりについて

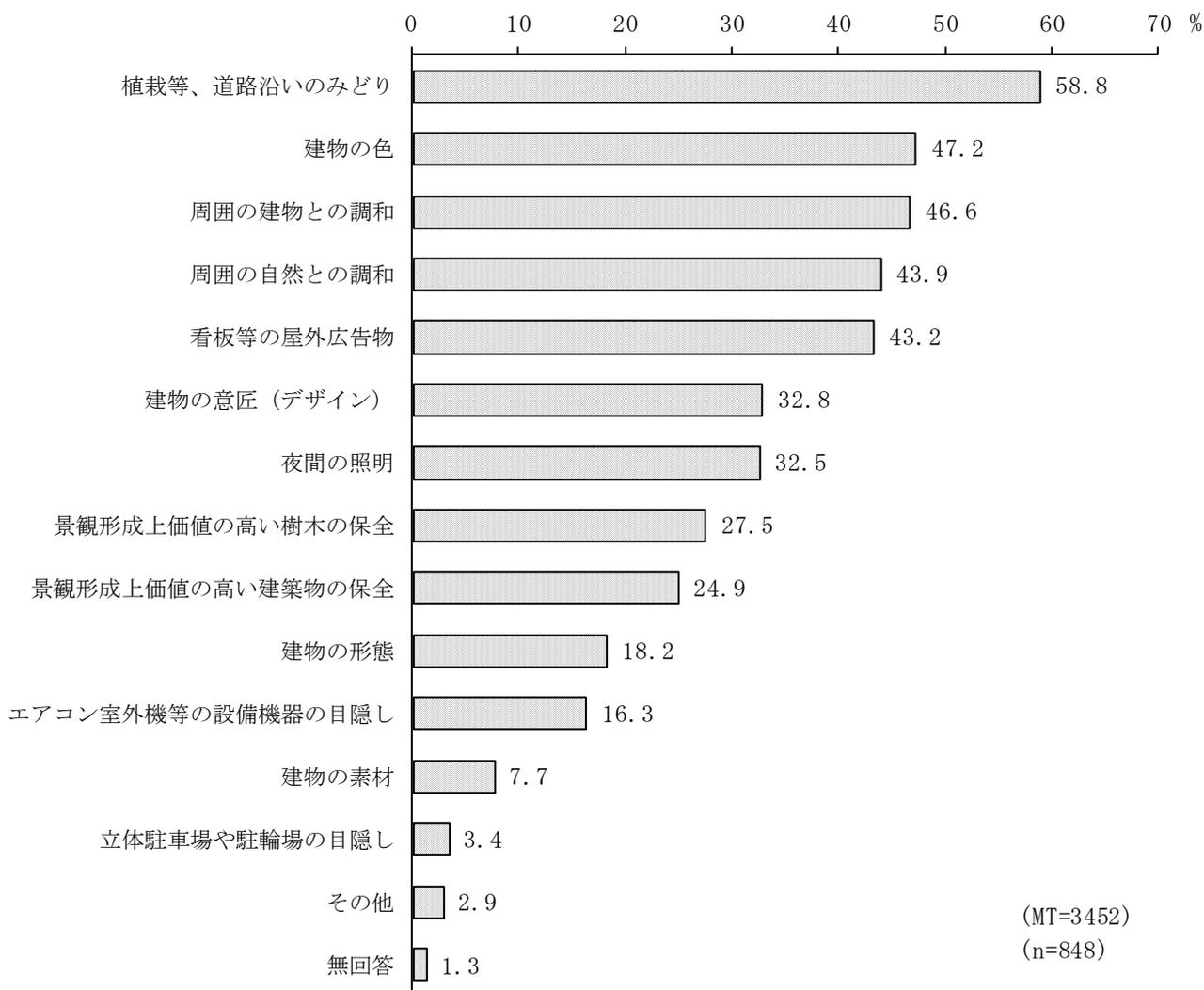
(1) 建築物・工作物で、景観上重要であるとするもの

◎「植栽等、道路沿いのみどり」が6割近く

問19 あなたが建築物や工作物において、景観上重要であるとするものはなんですか。 (複数回答可)(n=848)	
1 建物の色	47.2%
2 建物の素材	7.7
3 建物の意匠(デザイン)	32.8
4 建物の形態	18.2
5 エアコン室外機等の設備機器の目隠し	16.3
6 立体駐車場や駐輪場の目隠し	3.4
7 植栽等、道路沿いのみどり	58.8
8 看板等の屋外広告物	43.2
9 夜間の照明	32.5
10 周囲の建物との調和	46.6
11 周囲の自然との調和	43.9
12 景観形成上価値の高い建築物の保全	24.9
13 景観形成上価値の高い樹木の保全	27.5
14 その他	2.9
無回答	1.3

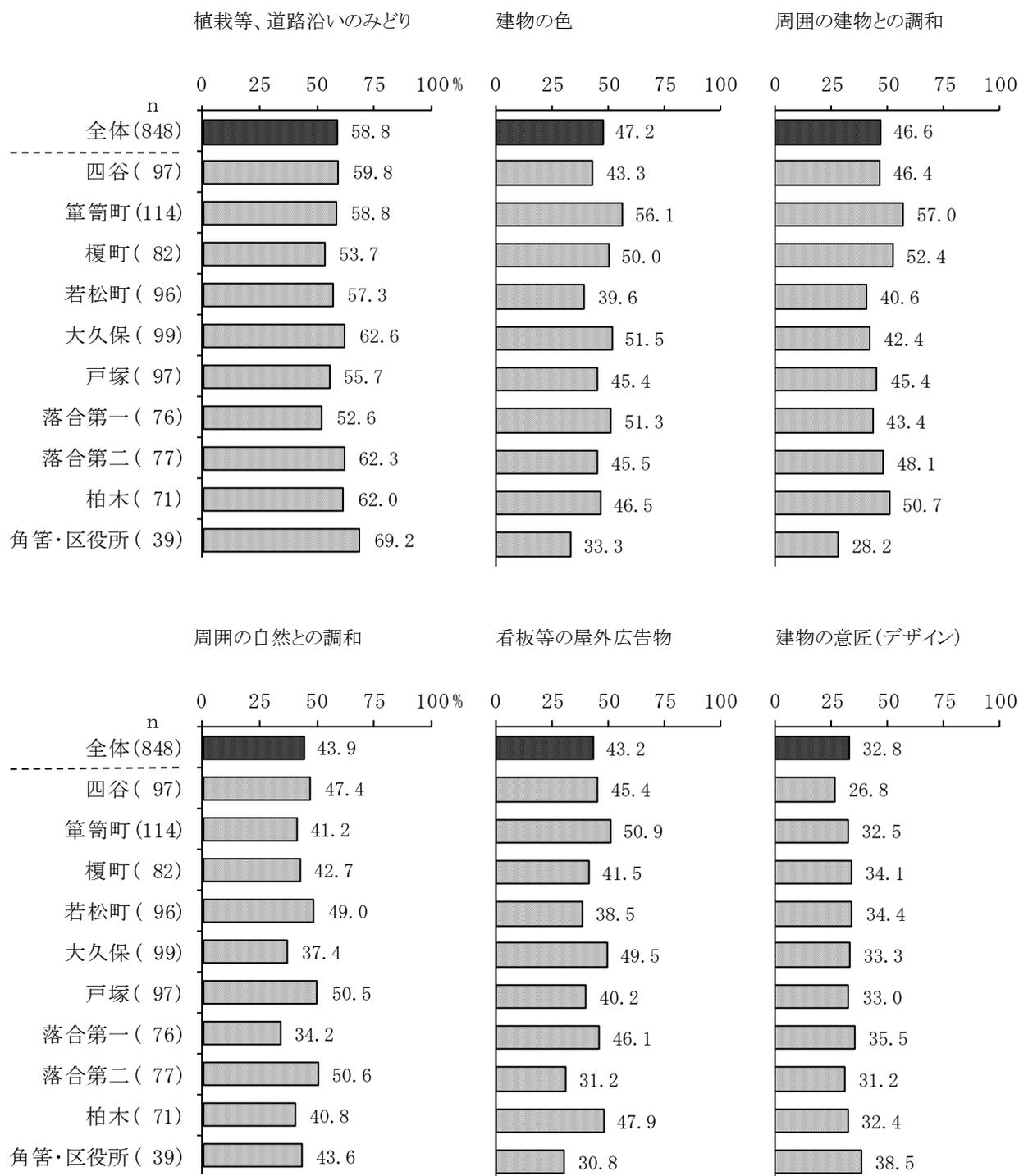
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ4 景観まちづくりについて）

図3-4-1 建築物・工作物で、景観上重要であると考えるもの



建築物・工作物で、景観上重要であると考えるものを聞いたところ、「植栽等、道路沿いのみどり」（58.8%）が6割近くで最も高く、「建物の色」（47.2%）と、「周囲の建物との調和」（46.6%）が4割台半ばを超え、「周囲の自然との調和」（43.9%）と、「看板等の屋外広告物」（43.2%）が4割台半ば近くで続く。（図3-4-1）

図3-4-2 建築物・工作物で、景観上重要であるとするもの（居住地域別）
上位6項目



上位6項目を居住地域別にみると、「建物の色」では、角筈・区役所（33.3%）が全体（47.2%）を13.9ポイント下回り、「周囲の建物との調和」では、角筈・区役所（28.2%）が全体（46.6%）を18.4ポイント下回っている。（図3-4-2）

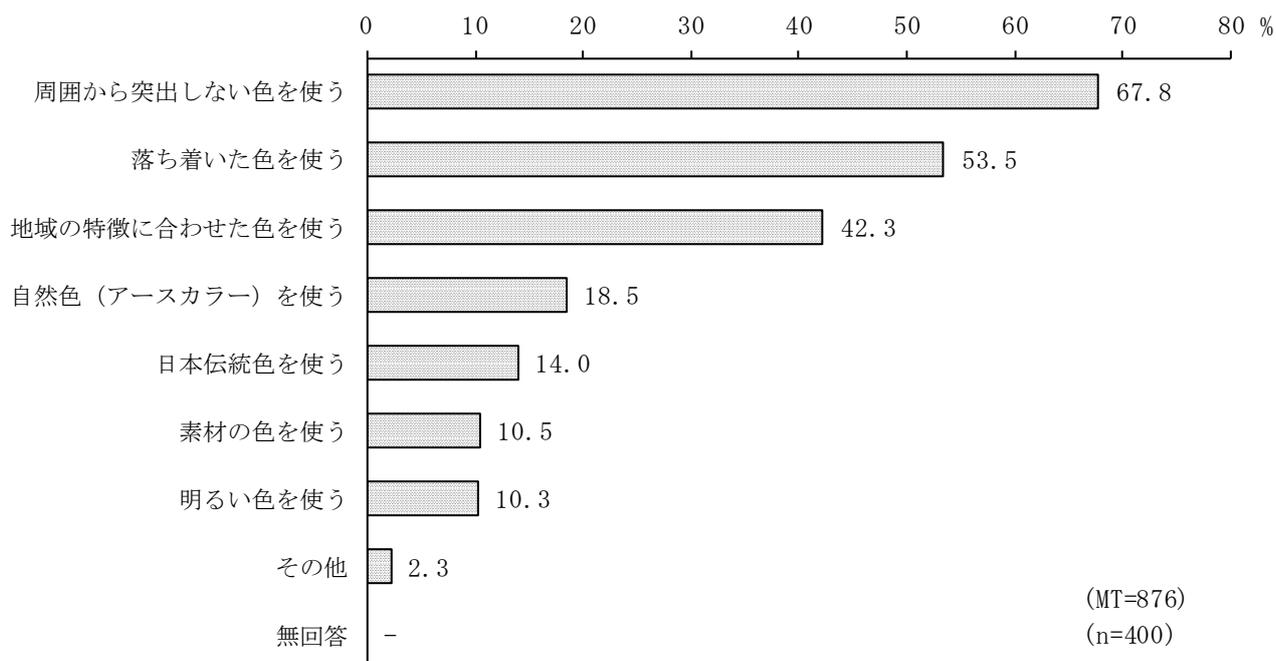
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ4 景観まちづくりについて）

（2）建物の色で景観上重要な基準

◎「周囲から突出しない色を使う」が6割台半ばを超える

問19-1 問19で、【1 建物の色】を選んだ方	
建物の色で景観上重要な基準はなんですか。（複数回答可）(n=400)	
1 落ち着いた色を使う	53.5%
2 明るい色を使う	10.3
3 日本伝統色を使う	14.0
4 素材の色を使う	10.5
5 自然色（アースカラー）を使う	18.5
6 周囲から突出しない色を使う	67.8
7 地域の特徴に合わせた色を使う	42.3
8 その他	2.3
無回答	0.0

図3-4-3 建物の色で景観上重要な基準



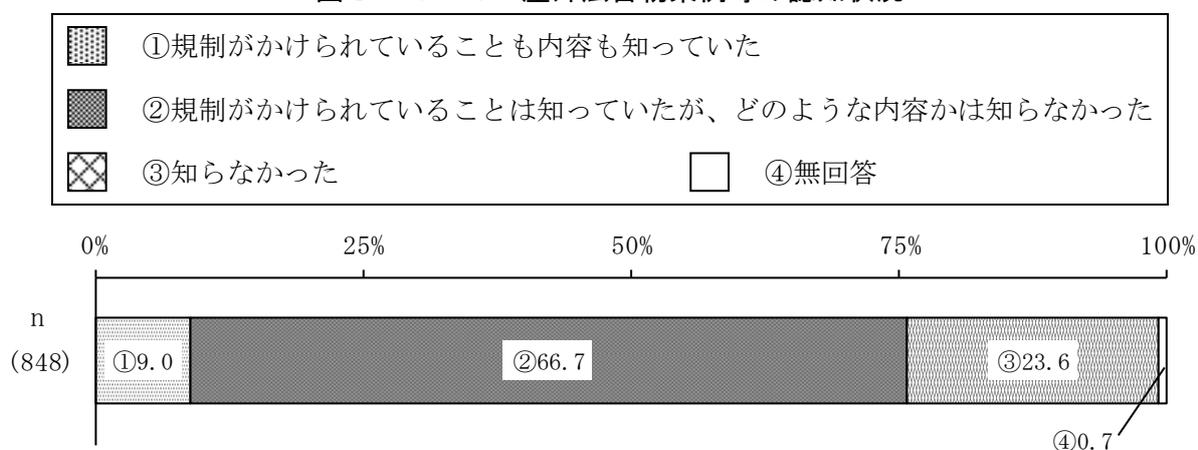
問19で、「建物の色」を選んだ方に、建物の色で景観上重要な基準を聞いたところ、「周囲から突出しない色を使う」（67.8%）が6割台半ばを超え最も高く、「落ち着いた色を使う」（53.5%）、「地域の特徴に合わせた色を使う」（42.3%）と続く。（図3-4-3）

(3) 屋外広告物条例等の認知状況

◎「規制がかけられていることは知っていたが、どのような内容かは知らなかった」が6割台半ばを超える

問20 あなたは、屋外広告物に対して法律や条例により規制がかけられていることを知っていますか。(n=848)	
1 規制がかけられていることも内容も知っていた	9.0%
2 規制がかけられていることは知っていたが、どのような内容かは知らなかった	66.7
3 知らなかった	23.6
無回答	0.7

図3-4-4 屋外広告物条例等の認知状況



屋外広告物条例等の認知状況を聞いたところ、「規制がかけられていることは知っていたが、どのような内容かは知らなかった」(66.7%)が6割台半ばを超え最も高く、「知らなかった」(23.6%)、「規制がかけられていることも内容も知っていた」(9.0%)の順となっている。

(図3-4-4)

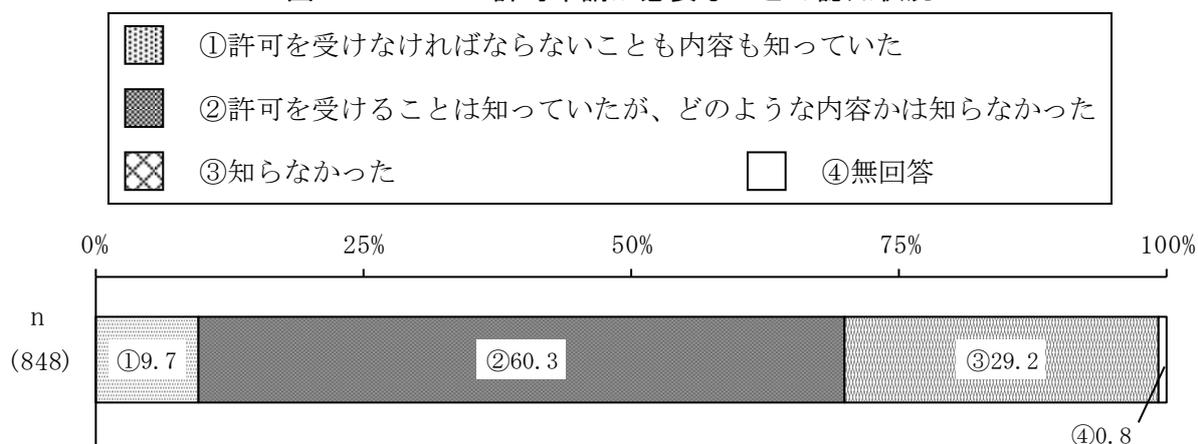
Ⅱ 調査の結果 第3回（テーマ4 景観まちづくりについて）

（4）許可申請が必要なことの認知状況

◎「許可を受けることは知っていたが、どのような内容かは知らなかった」が約6割

問2 1 屋外広告物を掲出するには事前に申請し、許可を受けなければならないことを知っていますか。(n=848)	
1 許可を受けなければならないことも内容も知っていた	9.7%
2 許可を受けることは知っていたが、どのような内容かは知らなかった	60.3
3 知らなかった	29.2
無回答	0.8

図3-4-5 許可申請が必要なことの認知状況



許可申請が必要なことの認知状況を聞いたところ、「許可を受けることは知っていたが、どのような内容かは知らなかった」（60.3%）が約6割で最も高く、「知らなかった」（29.2%）、「許可を受けなければならないことも内容も知っていた」（9.7%）の順となっている。（図3-4-5）

(5) 屋外広告物についての課題

問22 今後、よりよい景観形成を図るうえで、屋外広告物について、どのようなことが課題だと思いますか。お気づきの点や感じていることをお書きください。(自由記述)

★ご意見・ご提案(抜粋)★

- ・あまりにも派手すぎて、その広告だけが目立ってしまい、周りと全く調和していないのが目につく。周りの環境に合わせて屋外広告物を設置するべきだ。
- ・広告物の設置場所や設置の仕方を、景観だけでなく安全面も配慮した上で考えるべきだ。
- ・清潔感や調和があると、統一感のある景観が生まれるのではないかと思う。
- ・外堀通りに面したJRから見える広告が見苦しい。せつかくのお堀沿いの自然の景観を台無しにしている。
- ・新宿は店や企業が多いので仕方がないと思うが、広告物が多すぎると思う。
- ・広告物がある程度目立つことも大事だが、景観を損ねるデザイン、色、内容は、地域によっては避けてほしい。
- ・掲げる側も観る側も行政も、その屋外広告物が「公共の空間にあることをわきまえる」ということではないだろうか。公共性が肝要である、尊重されるべきということから、すべてを始めるべき。
- ・屋外広告物に対する法律や条例の周知が必要ではないか。
- ・子どもに刺激的な広告などはやめてもらいたい。激しい電飾などで目を引くものは、子どもも見つけやすく、気になるため。
- ・あまりにもバラバラで見苦しいので、ある程度の強制力を持って良好な景観を作っていくことは大事だと思う。まちの中を歩いているだけでも楽しい、心地良いと感じるような景観になれば、多くの人が訪れてくれるようになるから。
- ・景観を重視したデザインのルールを設ける。
- ・大きさ(面積)、色、明るさ(照度)などのルール作りが必要である。
- ・レトロな感じの地区、乱雑な感じの地区は歴史を感じさせてくれる意味で大切だと思う。それ以外の地区においては、コンパクトですっきりした品のある景観に統一したり、エコを意識している感じが表れたりすると思う。
- ・景観を良くするために、視覚的な規制が厳しすぎると広告効果が薄くなってしまうので、どの程度まで規制したらよいのか専門的な意見が必要だと思う。
- ・例えば京都では、ファーストフードチェーンのような統一イメージの店ですら、まちの景観に害を及ぼさない色を使うようにしていることは、いいことだと思う。しかし、新宿は猥雑でエネルギーに満ちた、型にはまらないまちなので、行政押しつけの「よりよい景観形成」などは、なくて良いと思う。むしろ他で否定されるものを「良」とするべきだ。
- ・広告物は自由だと思うが、世界中の人々が訪れても日本らしいデザイン、色等に統一できたらと願う。
- ・人の通行の妨げになる看板等の屋外広告物は、極力減らすべきである。
- ・形や大きさ等も大切だが、センスがよい、品がよいなど、アート感覚も重要だと思う。
- ・子ども達に悪影響を与えない広告物がよい。また、人を不快にさせるようなものはよくないと思う。
- ・規制するのもいいが、今の新宿のゴチャゴチャした活気ある繁華街の雰囲気はなくさないでほしい。
- ・区内の歴史、文化等にマッチした広告物になったら良いと思う。

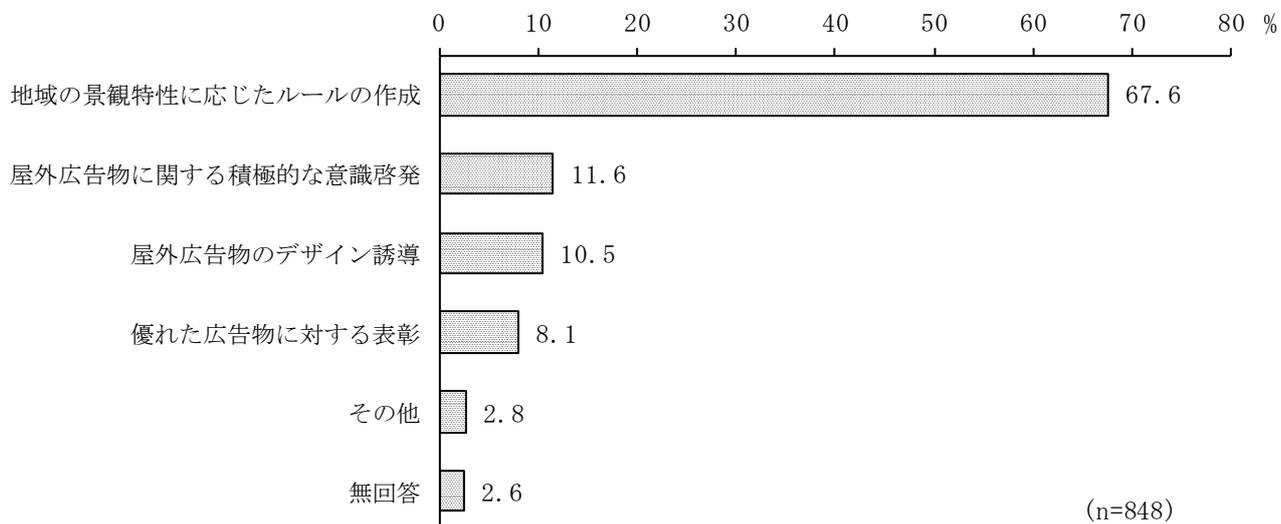
II 調査の結果 第3回（テーマ4 景観まちづくりについて）

（6）屋外広告物により、よりよい景観形成を図る手法として重要なこと

◎「地域の景観特性に応じたルール作成」が6割台半ばを超える

問23 掲出される屋外広告物によって、よりよい景観形成を図る手法として、どのようなことが重要と考えますか。(n=848)	
1 地域の景観特性に応じたルール作成	67.6%
2 屋外広告物のデザイン誘導	10.5
3 優れた広告物に対する表彰	8.1
4 屋外広告物に関する積極的な意識啓発	11.6
5 その他	2.8
無回答	2.6

図3-4-6 屋外広告物により、よりよい景観形成を図る手法として重要なこと



屋外広告物により、よりよい景観形成を図る手法として重要なことを聞いたところ、「地域の景観特性に応じたルール作成」(67.6%)が6割台半ばを超え最も高く、「屋外広告物に関する積極的な意識啓発」(11.6%)、「屋外広告物のデザイン誘導」(10.5%)、「優れた広告物に対する表彰」(8.1%)の順となっている。(図3-4-6)

第4回

<テーマ>

テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～

テーマ2 震災に備えて

テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～

基本目標Ⅰ 区民が自治の主役として、考え、行動していけるまち

〔1〕地域活動

(1) 地域活動への参加

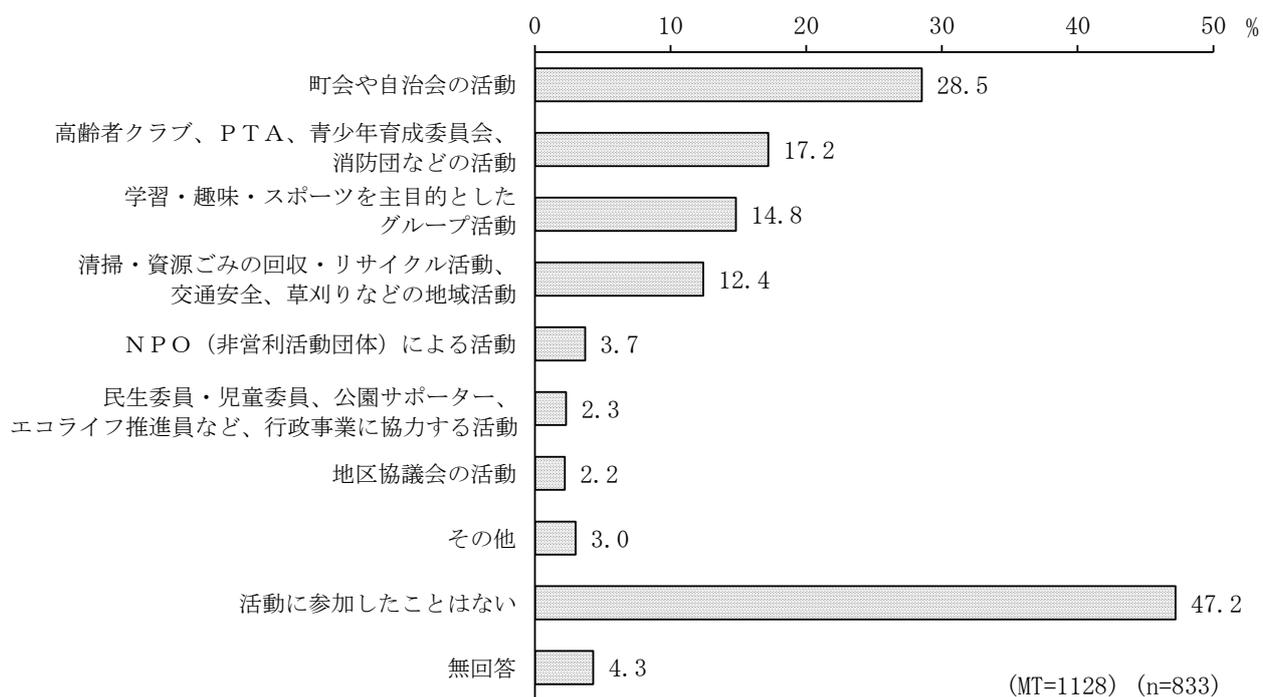
◎「町会や自治会の活動」が3割近く、「活動に参加したことはない」が4割台半ばを超える

問1 次の地域活動・ボランティア活動のうち、参加している（したことがある）ものに○をつけてください。（複数回答可）(n=833)

1	町会や自治会の活動	28.5%
2	高齢者クラブ、PTA、青少年育成委員会、消防団などの活動	17.2
3	民生委員・児童委員、公園サポーター、エコライフ推進員など、行政事業に協力する活動	2.3
4	学習・趣味・スポーツを主目的としたグループ活動	14.8
5	清掃・資源ごみの回収・リサイクル活動、交通安全、草刈りなどの地域活動	12.4
6	NPO（非営利活動団体）による活動	3.7
7	地区協議会の活動	2.2
8	その他	3.0
9	活動に参加したことはない	47.2
	無回答	4.3

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

図4-1-1 地域活動への参加



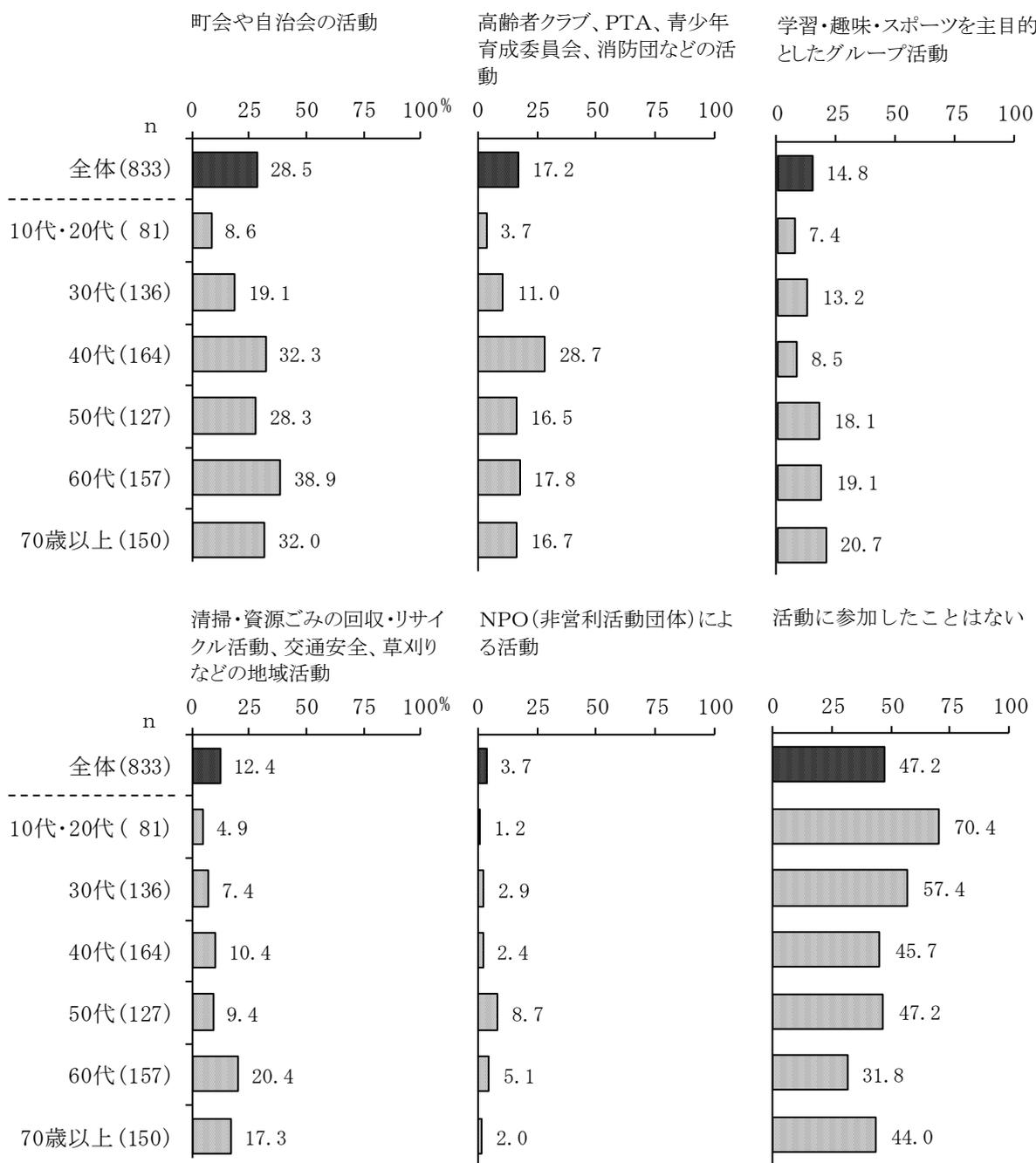
地域活動への参加について、「町会や自治会の活動」（28.5%）が3割近く、「高齢者クラブ、PTA、青少年育成委員会、消防団などの活動」（17.2%）が1割台半ばを超え、「学習・趣味・スポーツを主目的としたグループ活動」（14.8%）が1割台半ば近く、「清掃・資源ごみの回収・リサイクル活動、交通安全、草刈りなどの地域活動」（12.4%）が1割強と続く。

一方、「活動に参加したことはない」（47.2%）は4割台半ばを超える。（図4-1-1）

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
地域コミュニティ活動への参加率	地域の中でコミュニティ活動を行なっている人の割合	地域における自主的なコミュニティ活動の活性化は地域における自治推進の大きな要素となるため	46.0%	48.5%	60.0%

図4-1-2 地域活動への参加（年代別）
上位5項目+「活動に参加したことはない」



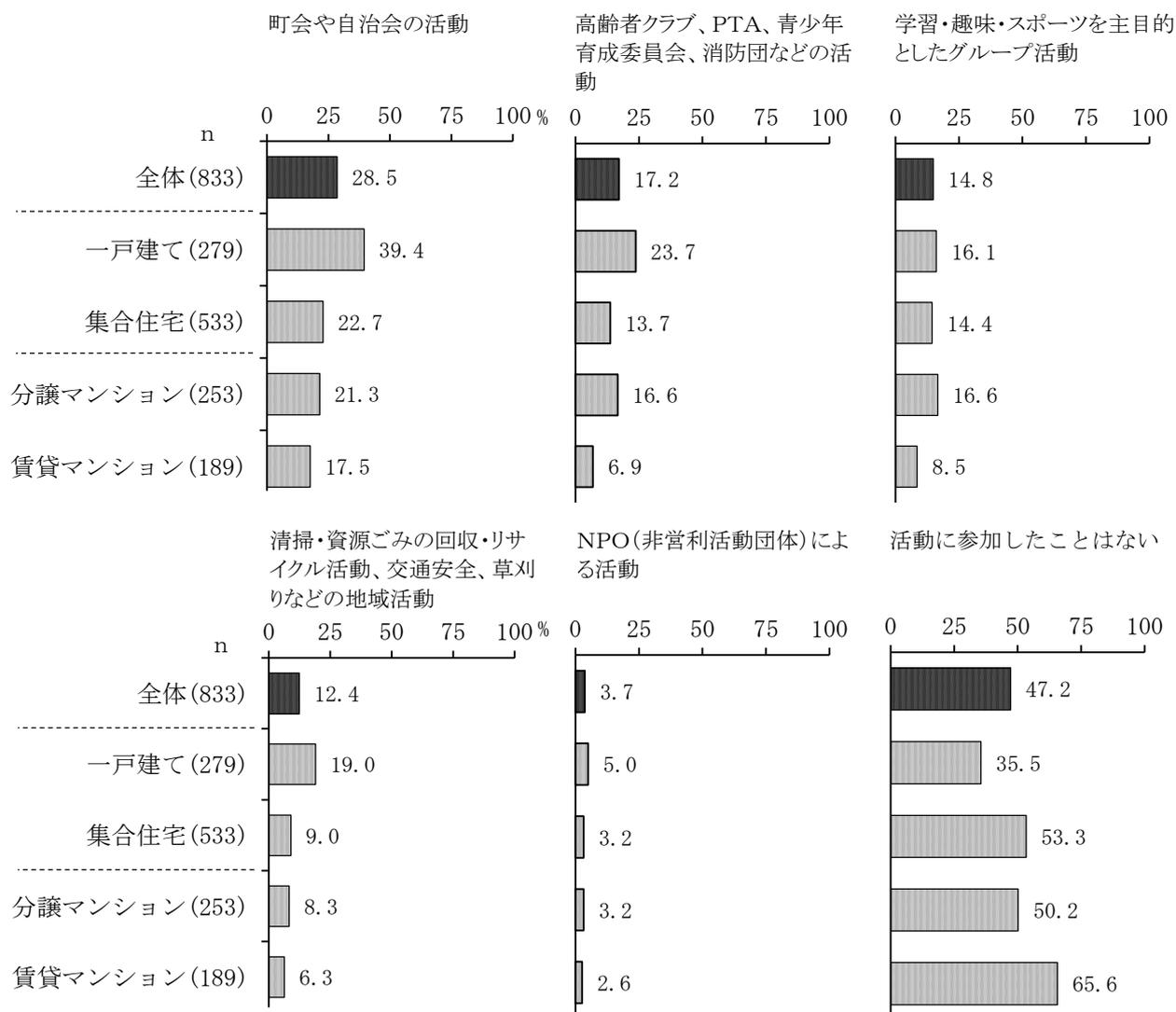
上位5項目+「活動に参加したことはない」を年代別で見ると、「町会や自治会の活動」では60代(38.9%)が4割近くで高くなっている。

「活動に参加したことはない」では、10代・20代(70.4%)が約7割と高くなっている。

(図4-1-2)

図4-1-3 地域活動への参加（住居形態別）

上位5項目+「活動に参加したことはない」



上位5項目+「活動に参加したことはない」を住居形態別で見ると、「町会や自治会の活動」では一戸建て（39.4%）が4割弱で高くなっている。

「活動に参加したことはない」では、集合住宅（53.3%）が、一戸建て（35.5%）よりも17.8ポイント高く、特に賃貸マンション（65.6%）では6割台半ば近くと高くなっている。

(図4-1-3)

基本目標Ⅱ だれもが人として尊重され、自分らしく成長していけるまち

[1] 人権意識

(1) 人権に対する意識

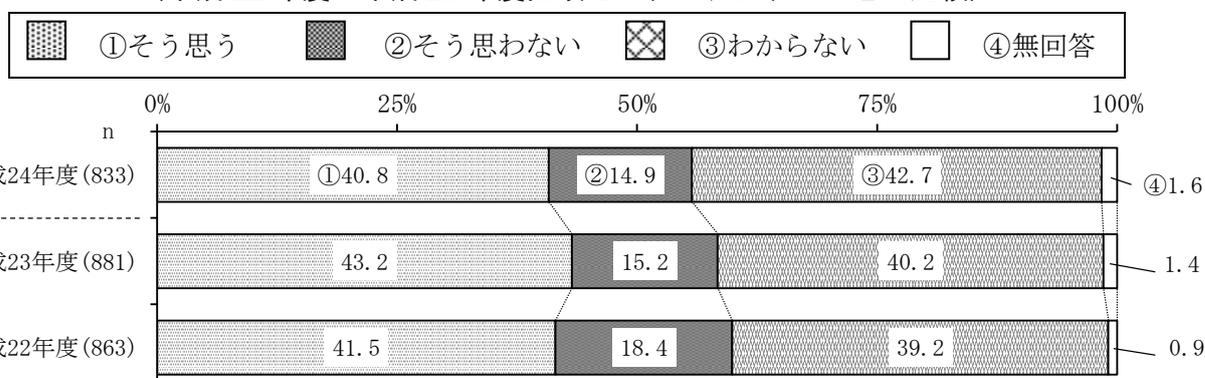
◎人権を尊重し認めあうまちだと思う人は、約4割

問2 新宿のまちは、性別や障害の有無、信条や職業、国籍の違いにかかわらず、お互いを尊重し、認めあうまちだと思いますか。(n=833)

1	そう思う	40.8%
2	そう思わない	14.9%
3	わからない	42.7%
	無回答	1.6%

図4-2-1 人権に対する意識

(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



人権に対する意識について、「そう思う」(40.8%)が約4割、「そう思わない」(14.9%)が1割台半ば近く、「わからない」(42.7%)が4割強となっている。

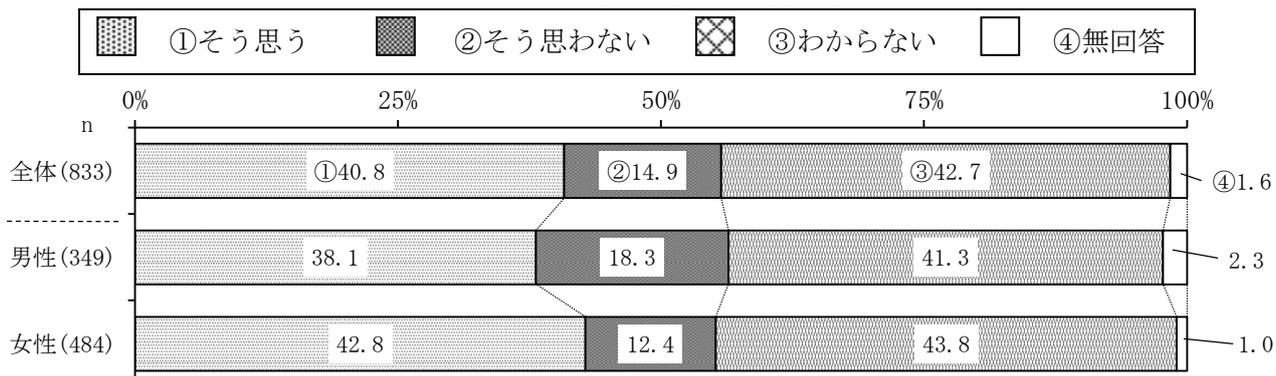
過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「そう思う」では、平成23年度(43.2%)と比べて平成24年度(40.8%)が2.4ポイント下回っている。(図4-2-1)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
区民の人権に対する意識	性別、障害の有無、信条、職業、国籍の違いにかかわらずお互いを尊重し認め合っていると思う区民の割合	人権を育む取組に対する成果を示すため	29.7%	40.8%	

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

図4-2-2 人権に対する意識（性別）



性別で見ると、「そう思う」では、女性（42.8%）が4割強で、男性（38.1%）を4.7ポイント上回っている。

「そう思わない」では、男性（18.3%）が2割近くで、女性（12.4%）を5.9ポイント上回っている。（図4-2-2）

[2] 健康

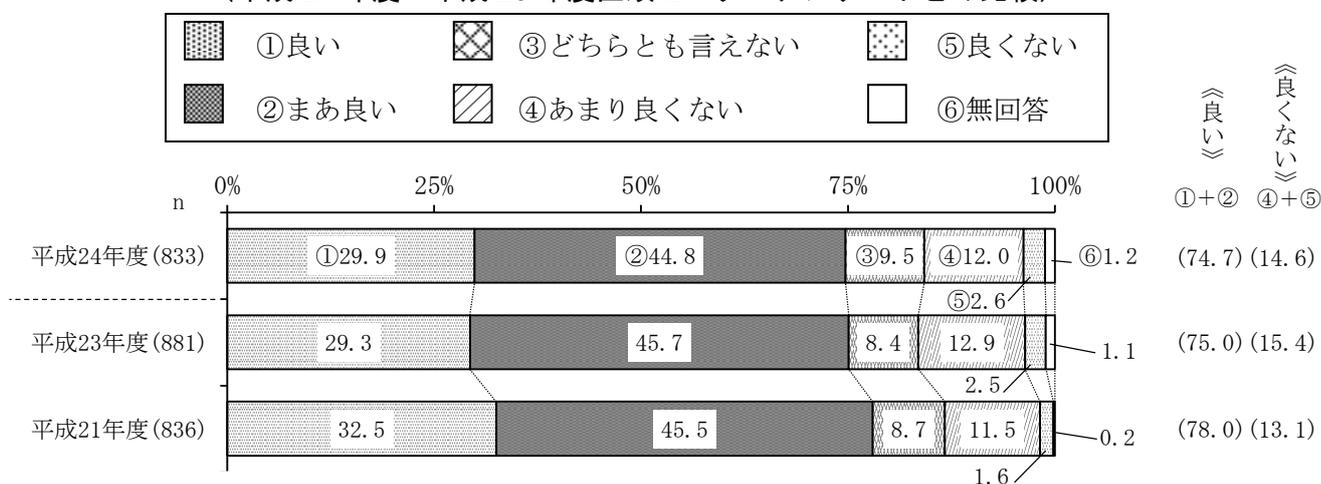
(1) 現在の健康状態

◎ 《良い》が7割台半ば近く

問3 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(n=833)		
1	良い	29.9%
2	まあ良い	44.8
3	どちらともいえない	9.5
4	あまり良くない	12.0
5	良くない	2.6
	無回答	1.2

図4-2-3 現在の健康状態

(平成21年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



※平成22年度は、「健康づくり区民意識調査(平成22年10月)」により調査したため、掲載していない。

現在の健康状態について、「良い」(29.9%)と「まあ良い」(44.8%)を合わせた《良い》(74.7%)が7割台半ば近く、「あまり良くない」(12.0%)と「良くない」(2.6%)を合わせた《良くない》(14.6%)が1割台半ば近く、「どちらとも言えない」(9.5%)は1割弱となっている。

平成23年度との大きな差異はみられないが、平成21年度と比べて、《良い》は3.3ポイント下回っている。(図4-2-3)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
健康に対する状態	現在の健康状態を良いと感じている人の割合	健康づくりに対する区民意識を示すため	70.9%	74.7%	↑

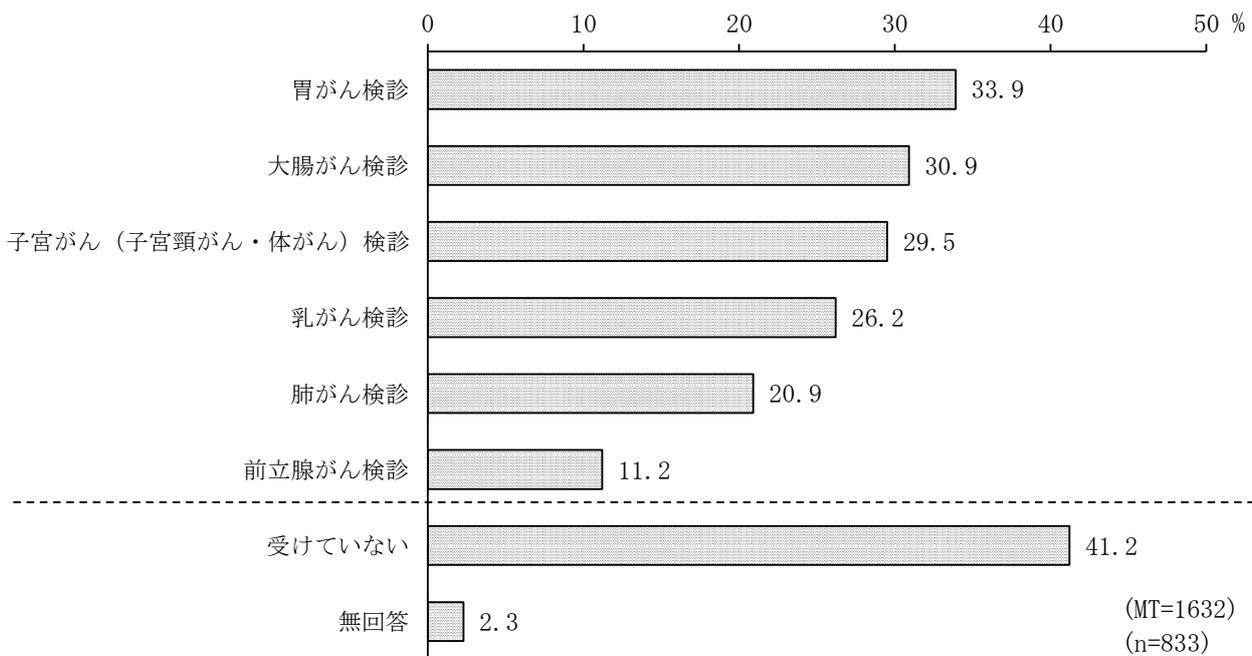
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（2）がん検診の受診状況

◎「胃がん検診」が3割台半ば近く

問4 あなたは、次のがん検診を受けていますか。受けている検診全てに○をつけてください。 (複数回答可) (n=833)		
1	胃がん検診	33.9%
2	大腸がん検診	30.9
3	肺がん検診	20.9
4	前立腺がん検診	11.2
5	子宮がん（子宮頸がん・体がん）検診	29.5
6	乳がん検診	26.2
7	受けていない	41.2
	無回答	2.3

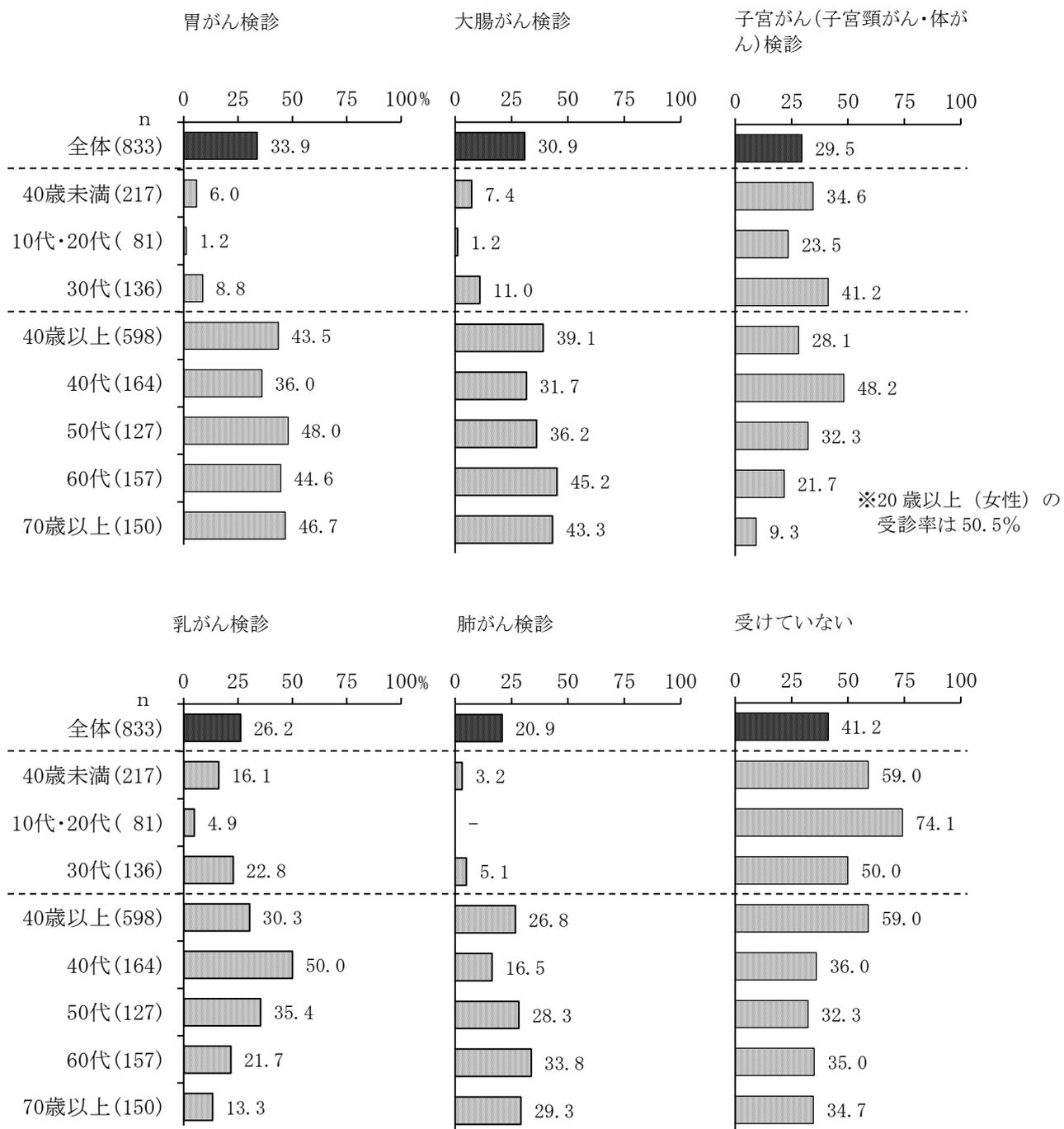
図4-2-4 がん検診の受診状況



がん検診の受診状況について、「胃がん検診」(33.9%)が3割台半ば近くで最も高く、「大腸がん検診」(30.9%)が約3割、「子宮がん(子宮頸がん・体がん)」(29.5%)が3割弱と続く。

全体から「受けていない」(41.2%)と「無回答」(2.3%)を除いた、「何かしらのがん検診を受けている」(56.5%)割合は5割台半ばを超える。(図4-2-4)

図4-2-5 がん検診の受診状況（年代別）
上位5項目+「受けていない」



年代別でみると、「胃がん検診」では、50代（48.0%）が5割近くで最も高く、70歳以上（46.7%）では4割台半ばを超え、60代（44.6%）では4割台半ば近くとなっている。（図4-2-5）

なお、厚生労働省の「がん検診実施のための指針」により、がん検診対象者とされる40歳以上でみると、胃がん検診（43.5%）では4割台半ば近く、大腸がん検診（39.1%）では4割弱、肺がん検診（26.8%）では2割台半ばを超え、乳がん検診（30.3%）では約3割の人が受診をしている。

また、同指針により、子宮がん検診は20歳以上の女性が対象とされるが、子宮がん検診（50.5%）では、約5割の人が受診をしている。

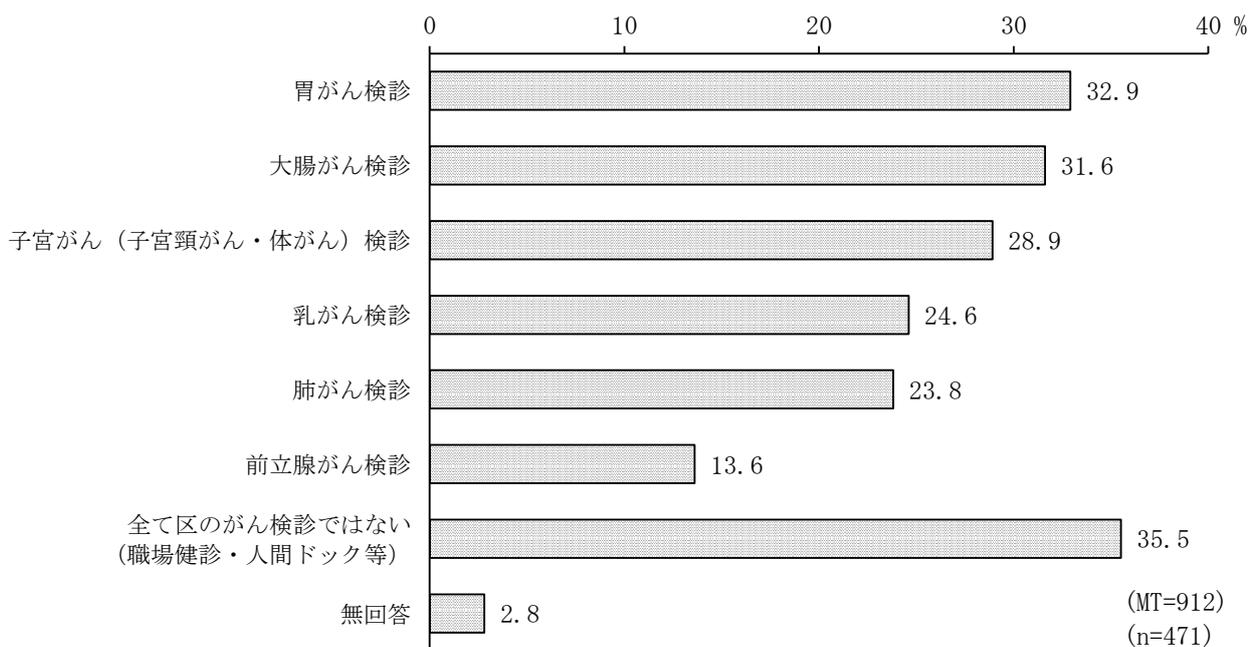
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（3）区が実施するがん検診の受診状況

◎「胃がん検診」が3割強

問4-1 問4で【7 受けていない】以外の方		
問4のうち、新宿区のがん検診を受診されたのは、次のうちどの検診ですか。		
(複数回答可) (n=471)		
1	胃がん検診	32.9%
2	大腸がん検診	31.6
3	肺がん検診	23.8
4	前立腺がん検診	13.6
5	子宮がん（子宮頸がん・体がん）検診	28.9
6	乳がん検診	24.6
7	全て区のがん検診ではない（職場健診・人間ドック等）	35.5
	無回答	2.8

図4-2-6 区が実施するがん検診の受診状況



問4で「受けていない」以外の方に、区が実施するがん検診の受診状況を聞いたところ、「胃がん検診」(32.9%)が3割強、以下、「大腸がん検診」(31.6%)、「子宮がん（子宮頸がん・体がん）」(28.9%)と続く。

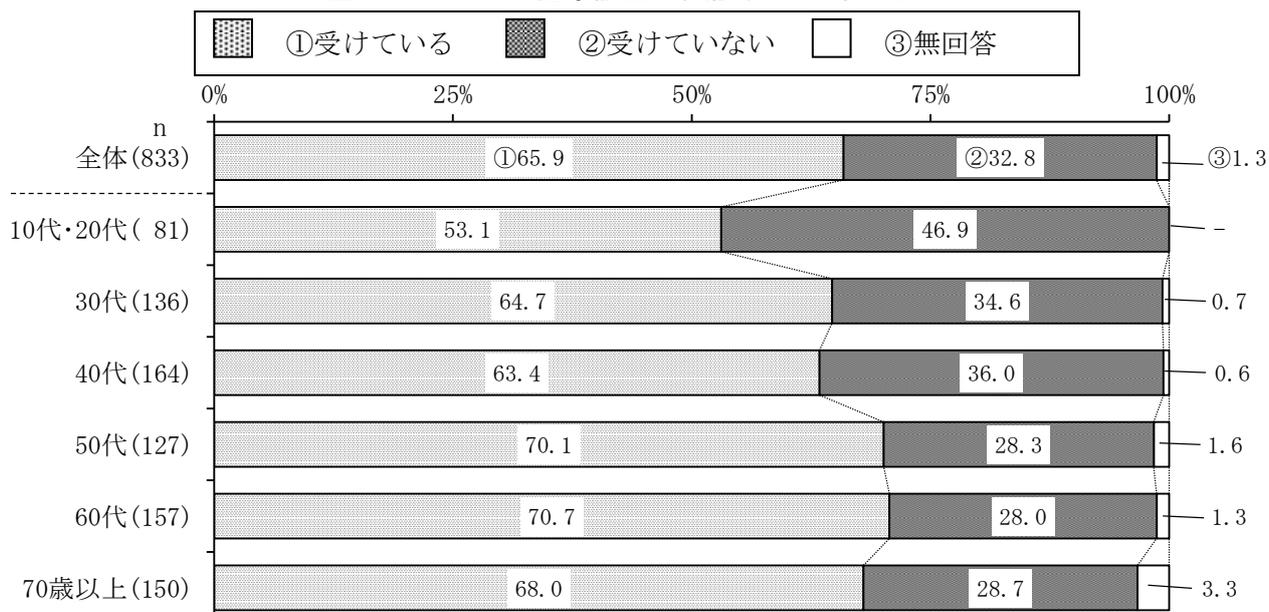
「全て区のがん検診ではない（職場健診・人間ドック等）」(35.5%)は3割台半ばとなっている。
(図4-2-6)

(4) 健康診査の受診状況

◎ 「受けている」が6割台半ば、「受けていない」が3割強

問5 あなたは、毎年、一般の健康診査を受けていますか。(n=833)		
1 受けている		65.9%
2 受けていない		32.8
無回答		1.3

図4-2-7 健康診査の受診状況(年代別)



健康診査の受診状況について、「受けている」(65.9%)が6割台半ば、「受けていない」(32.8%)が3割強となっている。

年代別でみると、「受けている」は、60代(70.7%)が最も高く、50代(70.1%)とともに約7割となっている。

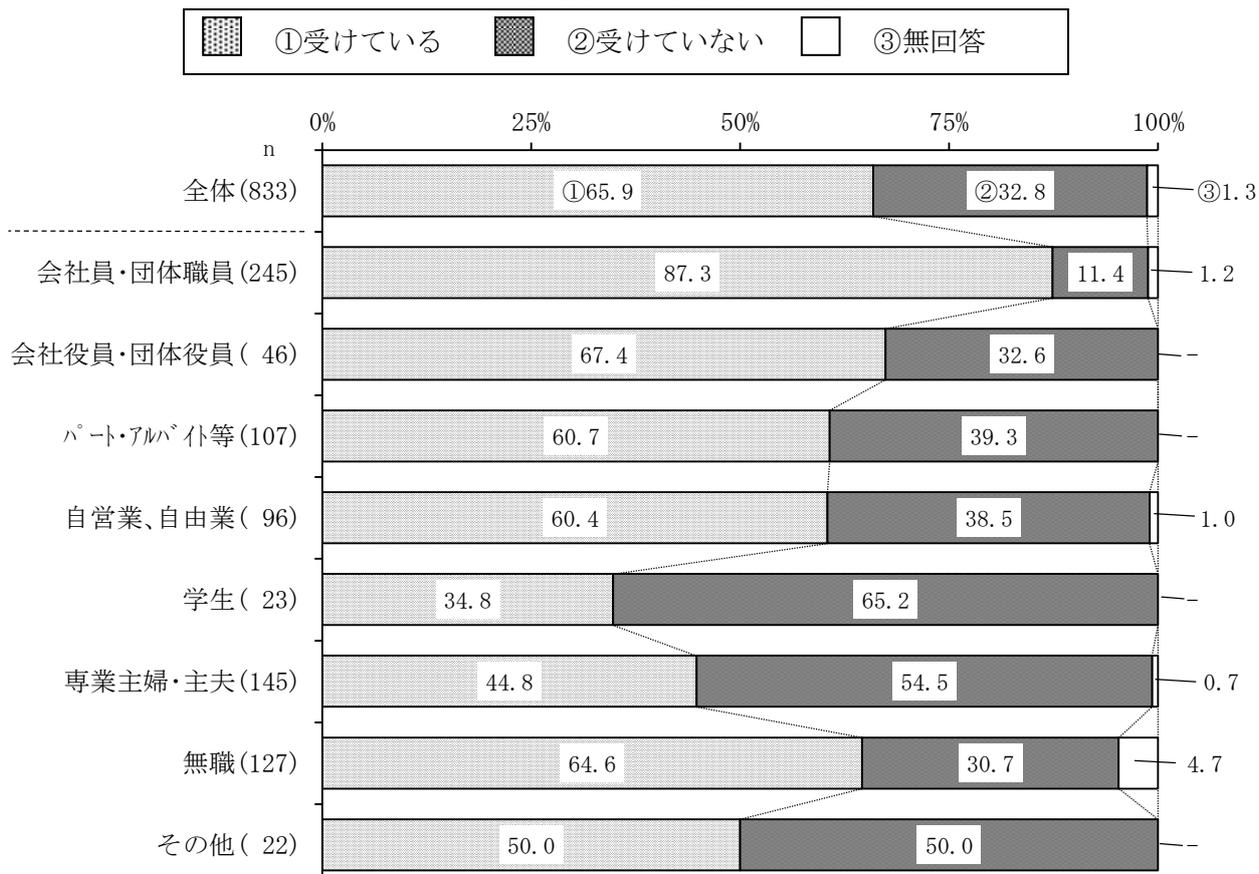
「受けていない」では、10代・20代(46.9%)が4割台半ばを超え、全体(32.8%)を14.1ポイント上回っている。(図4-2-7)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
毎年の健康診断の受診	毎年健康診断を受診している人の割合	区民の健康管理に対する意識と行動を示す	62.7%	65.9%	↑

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

図4-2-8 健康診査の受診状況（職業別）



職業別でみると、「受けている」では、会社員・団体職員（87.3%）が8割台半ばを超え最も高く、会社役員・団体役員（67.4%）が6割台半ばを超え、無職（64.8%）が6割台半ば近くとなっている。

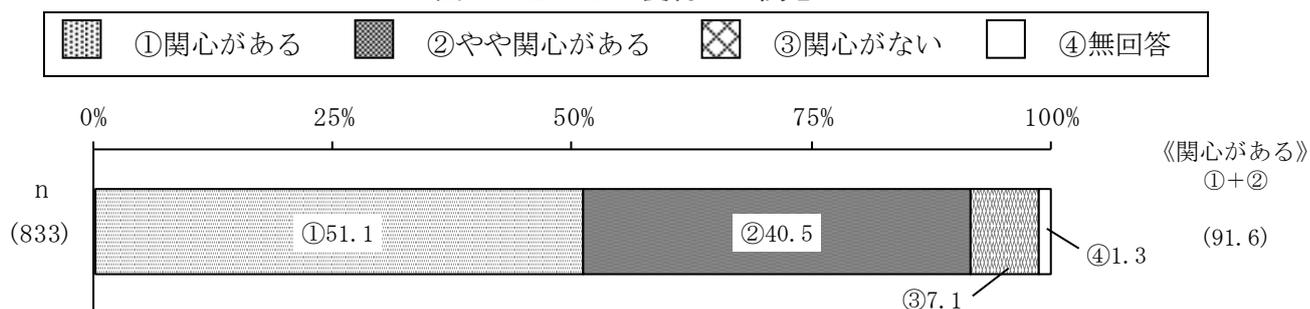
「受けていない」では、学生（65.2%）が6割台半ばで最も高く、「専業主婦・主夫」（54.5%）では5割台半ば近くとなっている。（図4-2-8）

(5) 食育への関心

◎ 《関心がある》が9割強

問6 あなたは、食育について関心がありますか。(n=833)		
1	関心がある	51.1%
2	やや関心がある	40.5
3	関心がない	7.1
	無回答	1.3

図4-2-9 食育への関心



食育への関心について、「関心がある」(51.1%)が5割強、「やや関心がある」(40.5%)が約4割、「関心がない」(7.1%)が1割未満となっている。

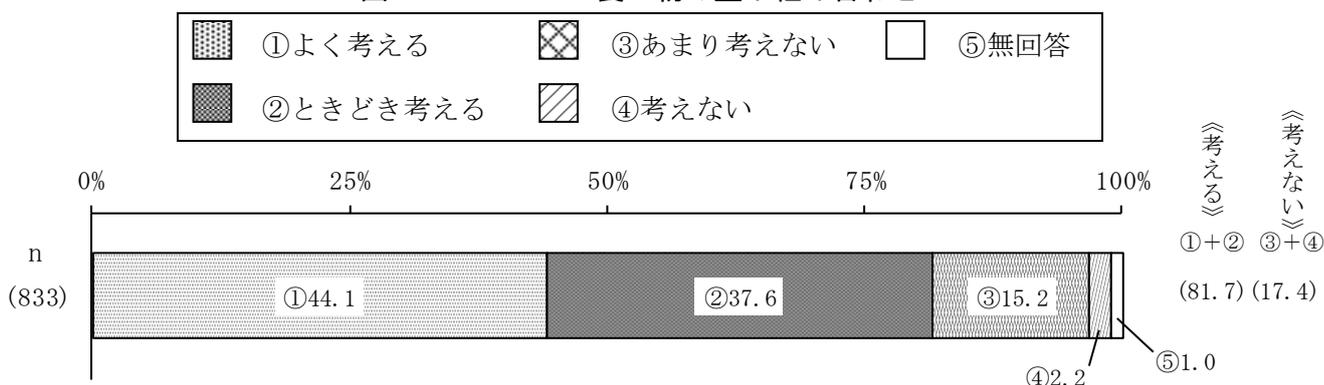
「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた《関心がある》(91.6%)は9割強となっている。(図4-2-9)

（6）食べ物の量や組み合わせ

◎ 《考える》が8割強

問7 あなたは、食べ物の量や組み合わせを考えて食べていますか。(n=833)		
1	よく考える	44.1%
2	ときどき考える	37.6
3	あまり考えない	15.2
4	考えない	2.2
	無回答	1.0

図4-2-10 食べ物の量や組み合わせ



食べ物の量や組み合わせについて、「よく考える」(44.1%)が4割台半ば近く、「ときどき考える」(37.6%)が3割台半ばを超え、「あまり考えない」(15.2%)が1割台半ば、「考えない」(2.2%)が1割未満となっている。

「よく考える」と「ときどき考える」を合わせた《考える》(81.7%)は8割強となっている。

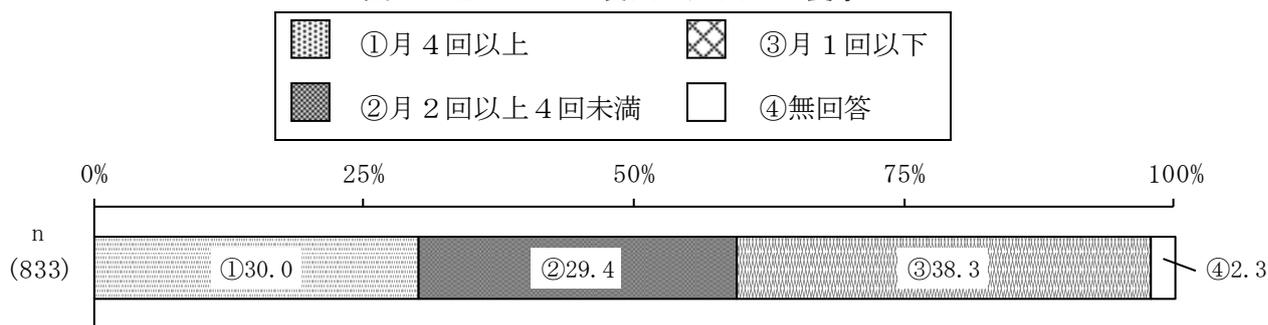
(図4-2-10)

(7) 友人・知人との食事

◎「月1回以下」が4割近く

問8 あなたは、友人・知人などと一緒に食事をすることがありますか。(n=833)	
1 月4回以上	30.0%
2 月2回以上4回未満	29.4
3 月1回以下	38.3
無回答	2.3

図4-2-11 友人・知人との食事



友人・知人との食事について、「月1回以下」(38.3%)が4割近くで最も高く、「月4回以上」(30.0%)が3割、「月2回以上4回未満」(29.4%)が3割弱の順となっている。

(図4-2-11)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

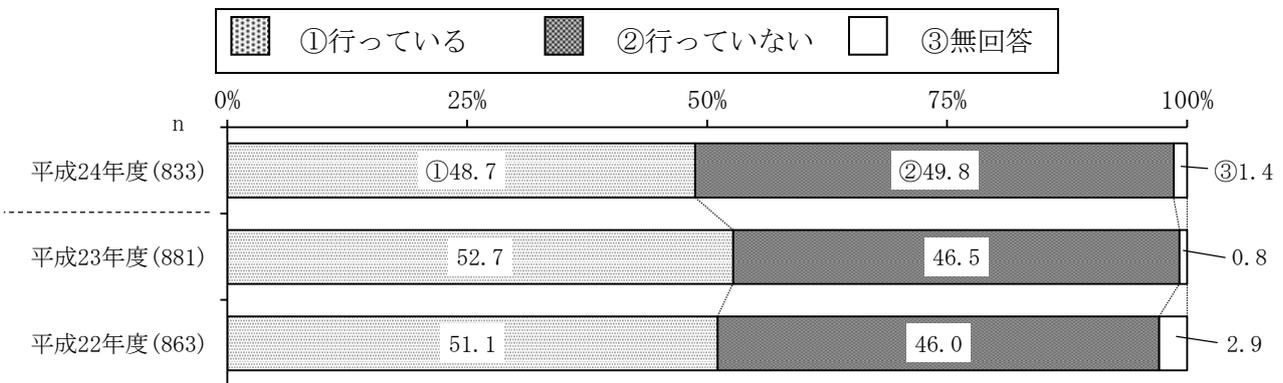
〔3〕生涯学習

（1）スポーツ・生涯学習等の実施状況

◎ 「行っている」が5割近く、「行っていない」が5割弱

問9	あなたは現在、スポーツ・軽度な身体活動（ハイキング・ウォーキング、体操等を含む）、文化・学習活動等を行っていますか。（n=833）	
1	行っている	48.7%
2	行っていない	49.8
	無回答	1.4

図4-2-12 スポーツ・生涯学習等の実施状況
（平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較）



スポーツ・生涯学習等の実施状況について、「行っている」（48.7%）が5割近く、「行っていない」（49.8%）が5割弱となっている。

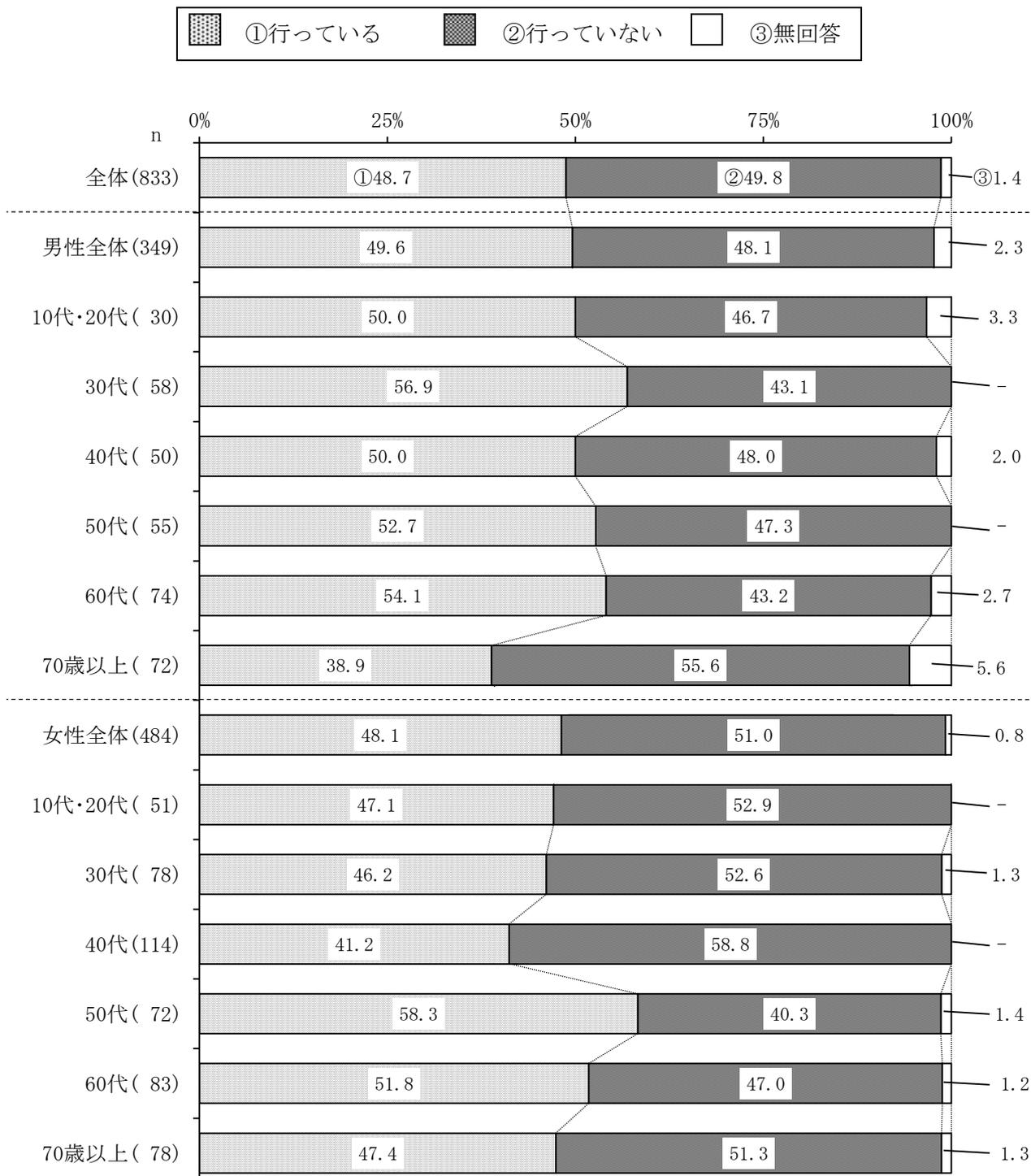
過去の調査結果（平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート）の結果と比較すると、「行っている」では、平成24年度（48.7%）が平成23年度（52.7%）を4ポイント下回っている。

（図4-2-12）

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
学習・スポーツ活動の実施状況	習・スポーツ活動を継続的に 行っている区民の割合	学習・スポーツ活動の活性化 が生きがいのある人生につな がるため	51.7%	48.7%	

図4-2-13 スポーツ・生涯学習等の実施状況（性別・性／年代別）



性別・性／年代別でみると、「行っている」は、女性の50代（58.3%）が6割近くで最も高く、男性の30代（56.9%）が5割台半ばを超え、男性の60代（54.1%）では5割台半ば近くとなっている。

「行っていない」では、女性の40代（58.8%）が6割近くで最も高くなっている。

（図4-2-13）

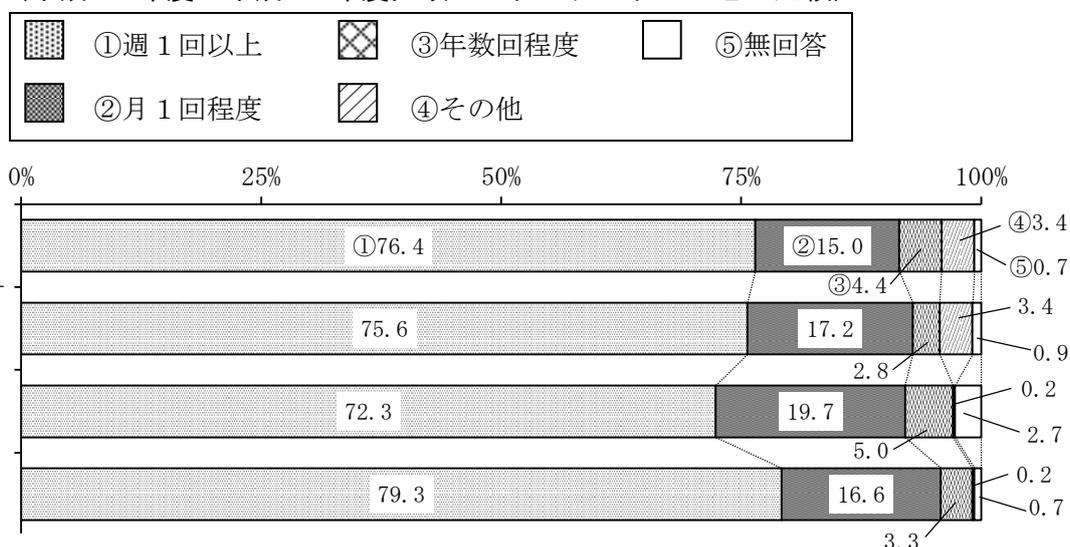
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（2）スポーツ・生涯学習等の頻度

◎「週1回以上」が7割台半ばを超える

問9-1 問9で、【1 行っている】の方	
平均して、どのくらいの頻度で行っていますか。(n=406)	
1 週1回以上	76.4%
2 月1回程度	15.0
3 年数回程度	4.4
4 その他	3.4
無回答	0.7

図4-2-14 スポーツ・生涯学習等の頻度
（平成21年度～平成23年度区政モニターアンケートとの比較）



スポーツ・生涯学習等の頻度について、「週1回以上」(76.4%)が7割台半ばを超え、「月1回程度」(15.0%)が1割台半ば、「年に数回程度」(4.4%)が1割未満となっている。

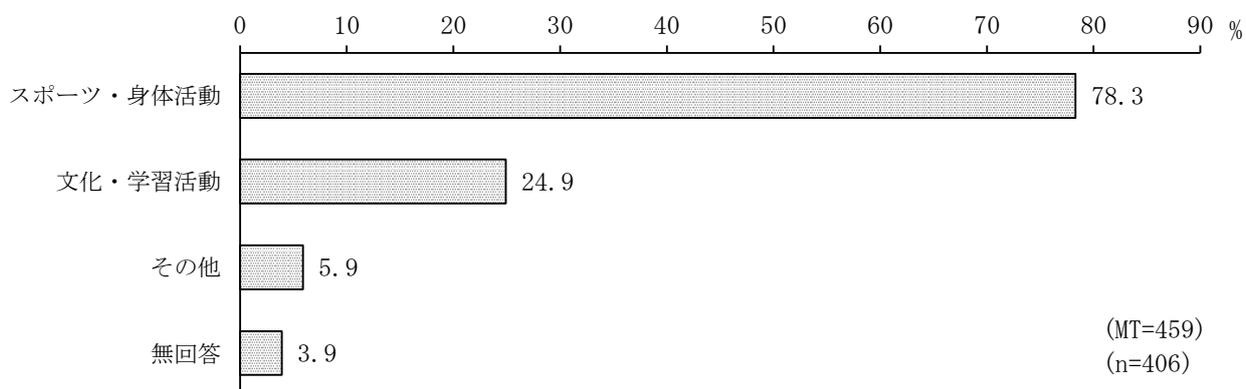
過去の調査結果(平成21年度～平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、平成23年度と平成24年度での大きな差異はみられない。(図4-2-14)

(3) 活動内容

◎「スポーツ・身体活動」が8割近く

問9-2 問9で、【1 行っている】の方	
どのような活動をしていますか。(複数回答可)(n=406)	
1	スポーツ・身体活動 78.3%
2	文化・学習活動 24.9
3	その他 5.9
	無回答 3.9

図4-2-15 活動内容



活動内容について、「スポーツ・身体活動」(78.3%)が8割近く、「文化・学習活動」(24.9%)が2割台半ば近くとなっている。(図4-2-15)

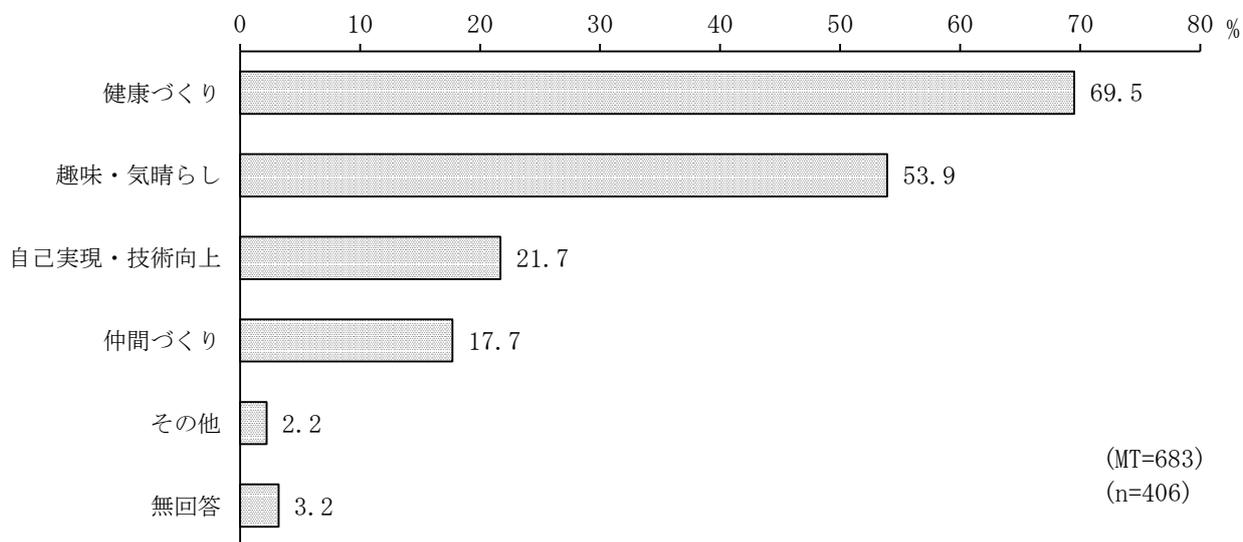
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（4）活動目的

◎「健康づくり」が7割弱

問9－3 問9で、【1 行っている】の方	
活動の目的はなんですか。（複数回答可）(n=406)	
1 趣味・気晴らし	53.9%
2 健康づくり	69.5
3 仲間づくり	17.7
4 自己実現・技術向上	21.7
5 その他	2.2
無回答	3.2

図4－2－16 活動目的



活動目的について、「健康づくり」(69.5%)が7割弱で最も高く、以下、「趣味・気晴らし」(53.9%)が5割台半ば近く、「自己実現・技術向上」(21.7%)、「仲間づくり」(17.7%)の順となっている。

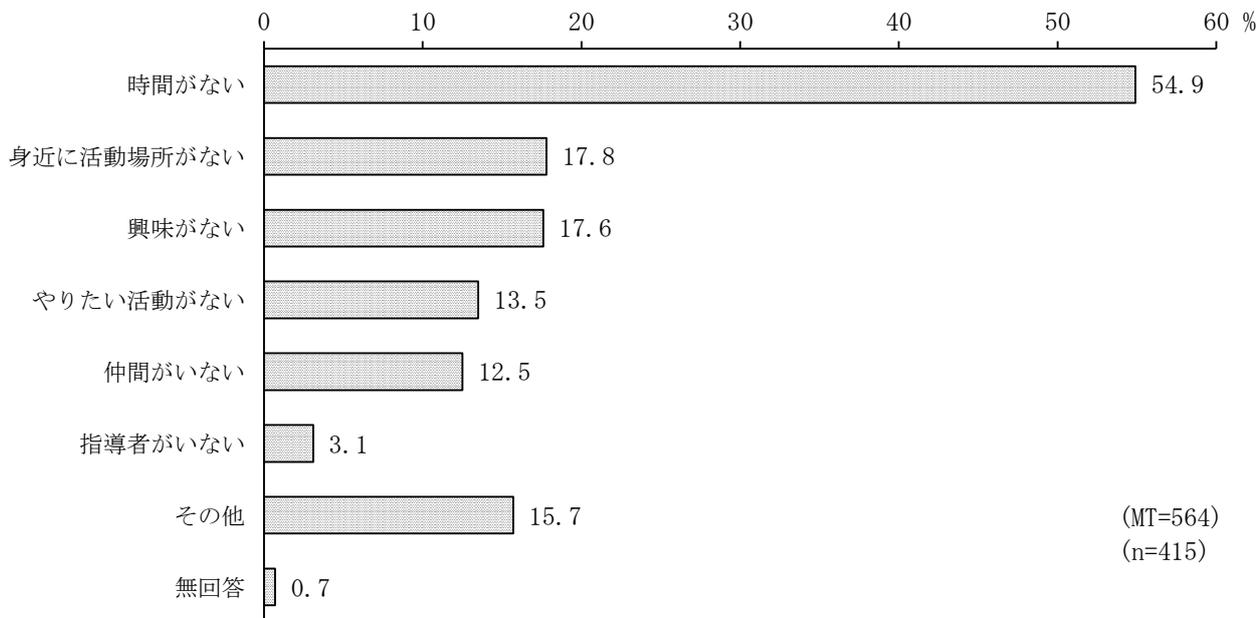
(図4－2－16)

(5) 行っていない理由

◎「時間がない」が5割台半ば近く

問9-4 問9で、【2 行っていない】の方 行っていない理由はなんですか。(複数回答可)(n=415)		
1	やりたい活動がない	13.5%
2	時間がない	54.9
3	身近に活動場所がない	17.8
4	指導者がいない	3.1
5	仲間がいない	12.5
6	興味がない	17.6
7	その他	15.7
	無回答	0.7

図4-2-17 行っていない理由



行っていない理由として、「時間がない」(54.9%)が5割台半ば近くで最も高く、以下、「身近に活動場所がない」(17.8%)と「興味が無い」(17.6%)が1割台半ばを超え、「やりたい活動がない」(13.5%)が1割台半ば近く、「仲間がいない」(12.5%)が1割強となっている。

(図4-2-17)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

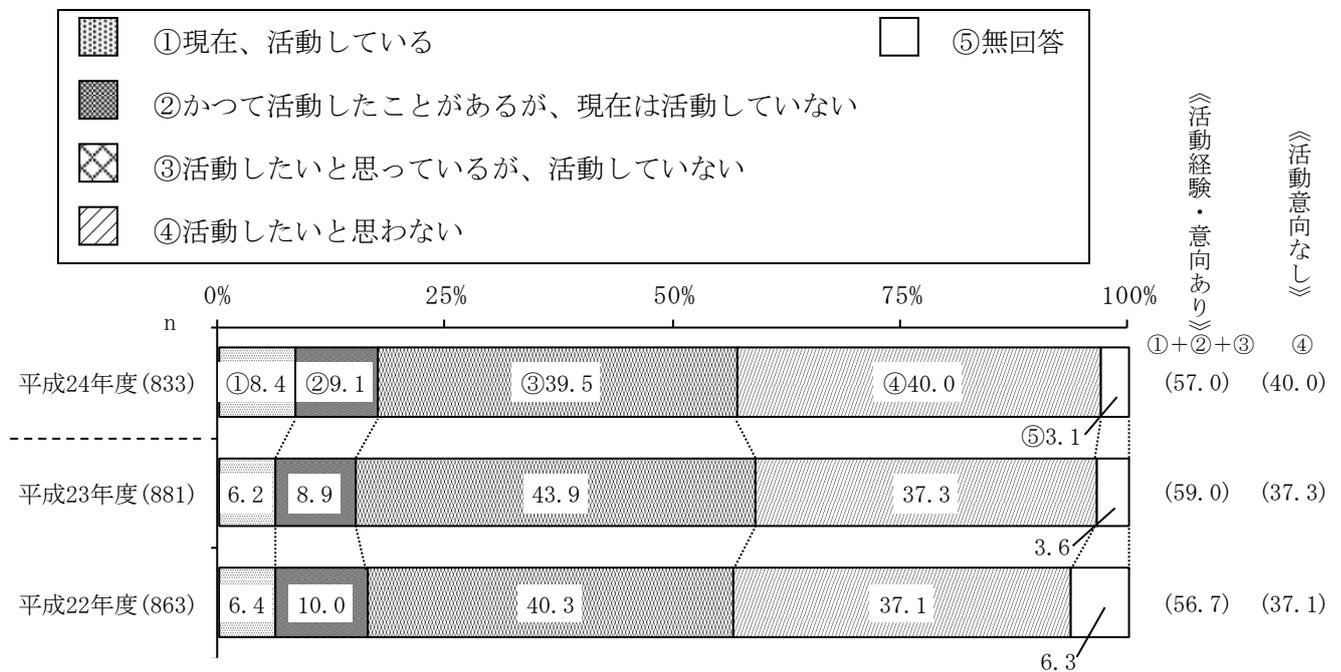
[4] 子育て支援への参加

(1) 子育て支援に関する活動状況

◎ 《活動経験・意向あり》が5割台半ばを超える

問10 あなたは、子育て支援に関する活動をしていますか。(n=833)	
1 現在、活動している	8.4%
2 かつて活動したことがあるが、現在は活動していない	9.1
3 活動したいと思っているが、活動していない	39.5
4 活動したいと思わない	40.0
無回答	3.1

図4-2-18 子育て支援に関する活動状況
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



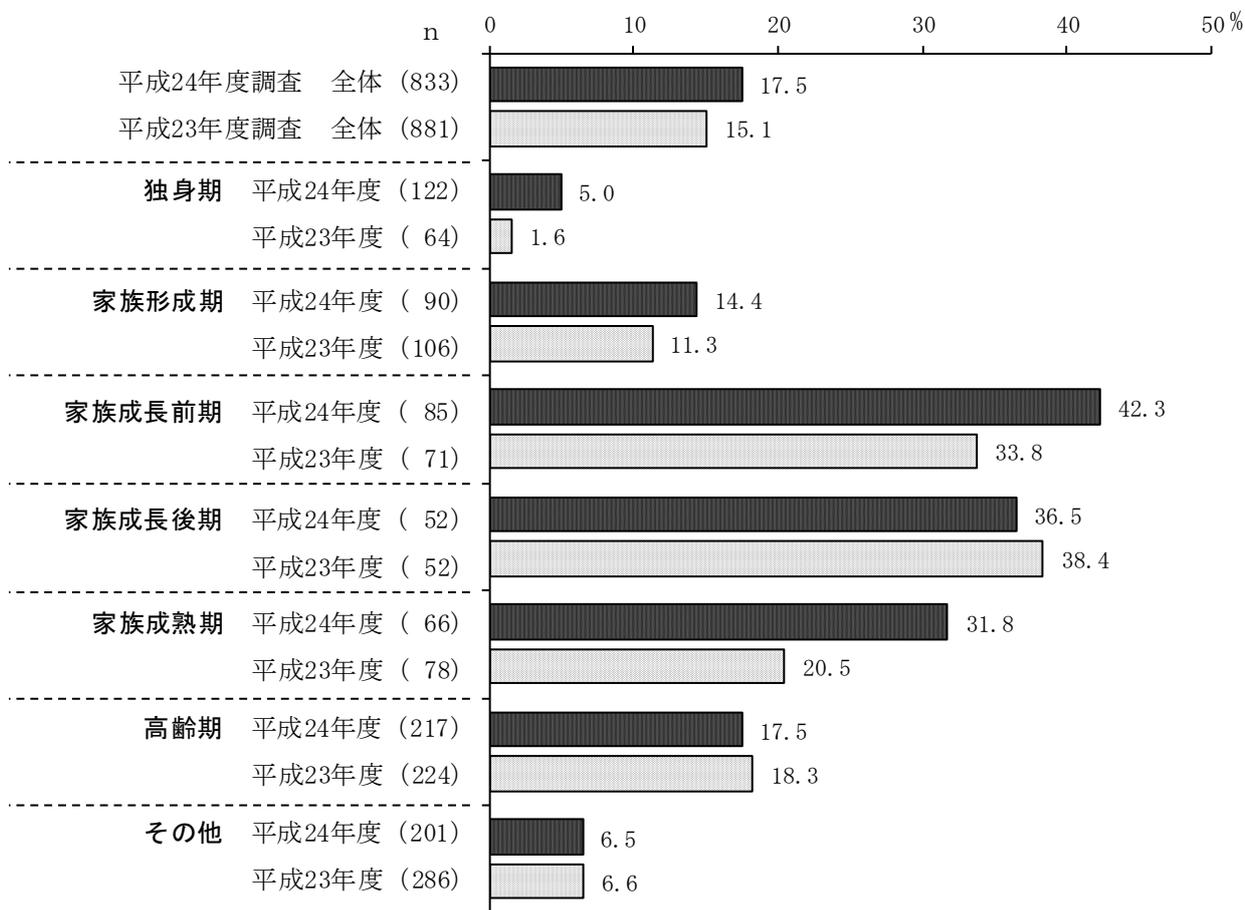
子育て支援に関する活動状況について、「現在、活動している」(8.4%)、「かつて活動したことがあるが、現在は活動していない」(9.1%)及び、「活動したいと思っているが、活動していない」(39.5%)を合わせた《活動経験・意向あり》(57.0%)は5割台半ばを超える。

(図4-2-18)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
子育て支援に関する地域活動状況	子育て支援に関する活動に参加している人や参加意欲を持っている人の割合	子育てを応援するサポーターや活動の拡充が子育てしやすいまちの実現につながるため	56.5%	57.0%	70.0%

図4-2-19 子育て支援に関する活動状況《活動経験あり》
ライフステージ別・平成23年度区政モニターアンケートとの比較



ライフステージ別に過去の調査結果（平成23年度区政モニターアンケート）と比較すると、「現在活動している」と「かつて活動したことがあるが、現在は活動していない」を合わせた《活動経験あり》は、家族成長前期で平成24年度（42.3%）が平成23年度（33.8%）を8.5ポイント上回り、家族成長前期、家族成長後期では平成23年度、平成24年度ともに3割を超え、家族成熟期では、平成24年度（31.8%）が平成23年度（20.5%）を11.3ポイント上回っている。

（図4-2-19）

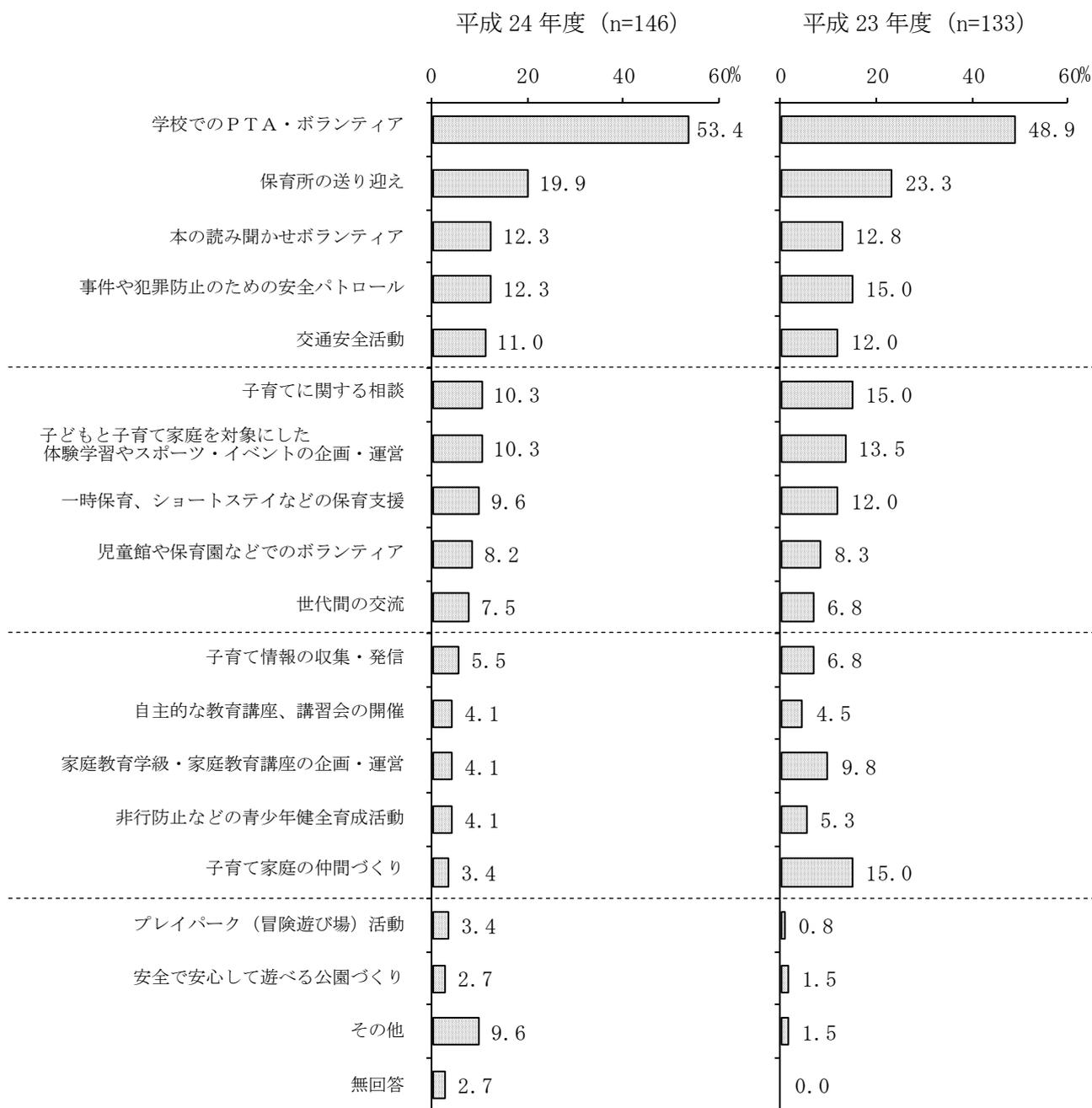
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（2）子育て支援に関する活動内容

◎「学校でのPTA・ボランティア」が5割台半ば近く

問10-1 問10で、【1 現在、活動している】または、【2 かつて活動したことがあるが、現在は活動していない】の方	
それはどんな活動ですか。（複数回答可）(n=146)	
1 一時保育、ショートステイなどの保育支援	9.6%
2 保育所の送り迎え	19.9
3 子育てに関する相談	10.3
4 子育て情報の収集・発信	5.5
5 子育て家庭の仲間づくり	3.4
6 世代間の交流	7.5
7 児童館や保育園などでのボランティア	8.2
8 学校でのPTA・ボランティア	53.4
9 本の読み聞かせボランティア	12.3
10 自主的な教育講座、講習会の開催	4.1
11 子どもと子育て家庭を対象にした体験学習やスポーツイベントの企画・運営	10.3
12 家庭教育学級・家庭教育講座の企画・運営	4.1
13 安全で安心して遊べる公園づくり	2.7
14 プレイパーク（冒険遊び場）活動	3.4
15 非行防止などの青少年健全育成活動	4.1
16 事件や犯罪防止のための安全パトロール	12.3
17 交通安全活動	11.0
18 その他	9.6
無回答	2.7

図4-2-20 子育て支援に関する活動内容
(平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



子育て支援に関する活動内容について、「学校でのPTA・ボランティア」(53.4%)が5割台半ば近くで最も高く、「保育所の送り迎え」(19.9%)が2割弱で続く。

過去の調査結果(平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「学校でのPTA・ボランティア」は、両年度で最も高い割合を示し、平成24年度(53.4%)が平成23年度(48.9%)を4.5ポイント上回っている。

「子育て家庭の仲間づくり」では、平成24年度(3.4%)が平成23年度(15.0%)を11.6ポイント下回っている。(図4-2-20)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

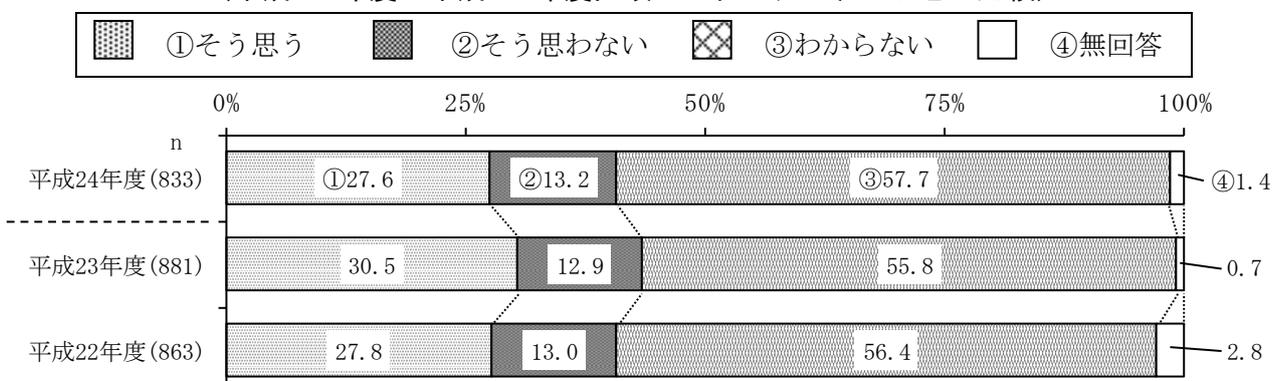
[5] 地域連携による教育

(1) 地域連携による教育に関する意識

◎ 「そう思う」が2割台半ばを超える

問11 新宿のまちは、学校・家庭・地域が協力して子どもの教育に取り組んでいるまちだと思いますか。(n=833)	
1 そう思う	27.6%
2 そう思わない	13.2
3 わからない	57.7
無回答	1.4

図4-2-21 地域連携による教育に関する意識
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



地域連携による教育に関する意識について、「そう思う」(27.6%)が2割台半ばを超え、「そう思わない」(13.2%)が1割台半ば近く、「わからない」(57.7%)が5割台半ばを超える。過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「そう思う」では、平成23年度(30.5%)より2.9ポイント減少している。(図4-2-21)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

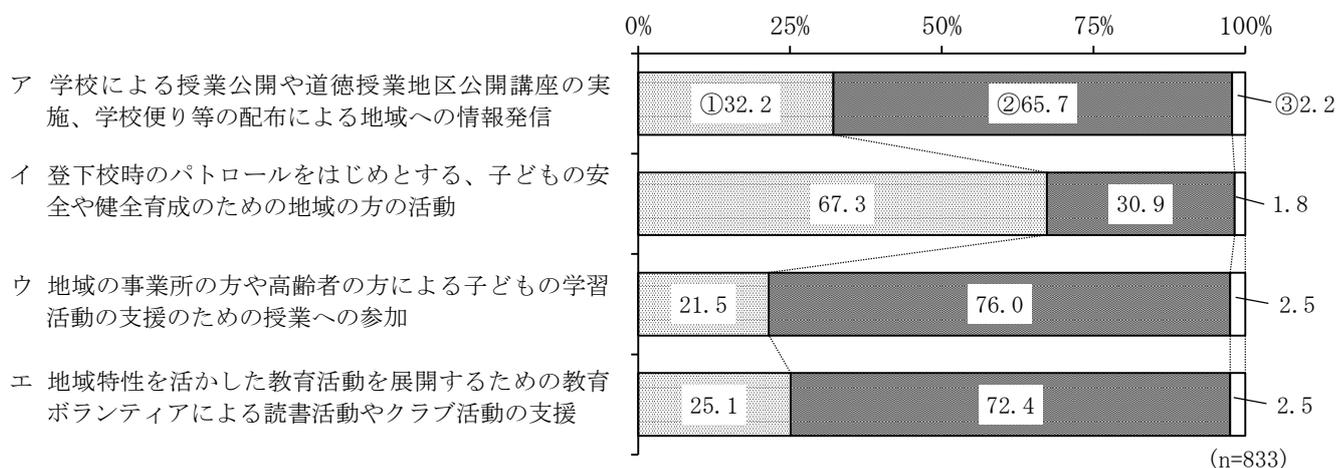
指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
学校・家庭・地域が協力した教育の取組	学校・家庭・地域が協力して教育に取り組んでいると感じる区民の割合	地域連携による教育に関する区民意識を示すため	24.9%	27.6%	↑

(2) 地域連携による教育活動の認知度

◎『登下校時のパトロールをはじめとする、子どもの安全や健全育成のための地域の方の活動』の認知度が6割台半ばを超える

問12 あなたは、地域連携による教育の一環として下記の活動等を知っていますか。ア～エ全ての項目について該当する番号に○をつけてください。(n=833)	知っている	知らない	無回答
ア 学校による授業公開や道徳授業地区公開講座の実施、学校便り等の配布による地域への情報発信	32.2%	65.7%	2.2%
イ 登下校時のパトロールをはじめとする、子どもの安全や健全育成のための地域の方の活動	67.3	30.9	1.8
ウ 地域の事業所の方や高齢者の方による子どもの学習活動の支援のための授業への参加	21.5	76.0	2.5
エ 地域特性を活かした教育活動を展開するための教育ボランティアによる読書活動やクラブ活動の支援	25.1	72.4	2.5

図4-2-22 地域連携による教育活動の認知度



地域連携による教育活動の認知度について、「知っている」は、『登下校時のパトロールをはじめとする、子どもの安全や健全育成のための地域の方の活動』(67.3%)が6割台半ばを超えている。

一方、「知らない」は、『地域の事業所の方や高齢者の方による子どもの学習活動の支援のための授業への参加』(76.0%)で7割台半ばを超え『地域特性を活かした教育活動を展開するための教育ボランティアによる読書活動やクラブ活動の支援』(72.4%)でも7割強となっている。

(図4-2-22)

基本目標Ⅲ 安全で安心な、質の高い暮らしを実感できるまち

[1] 地域福祉

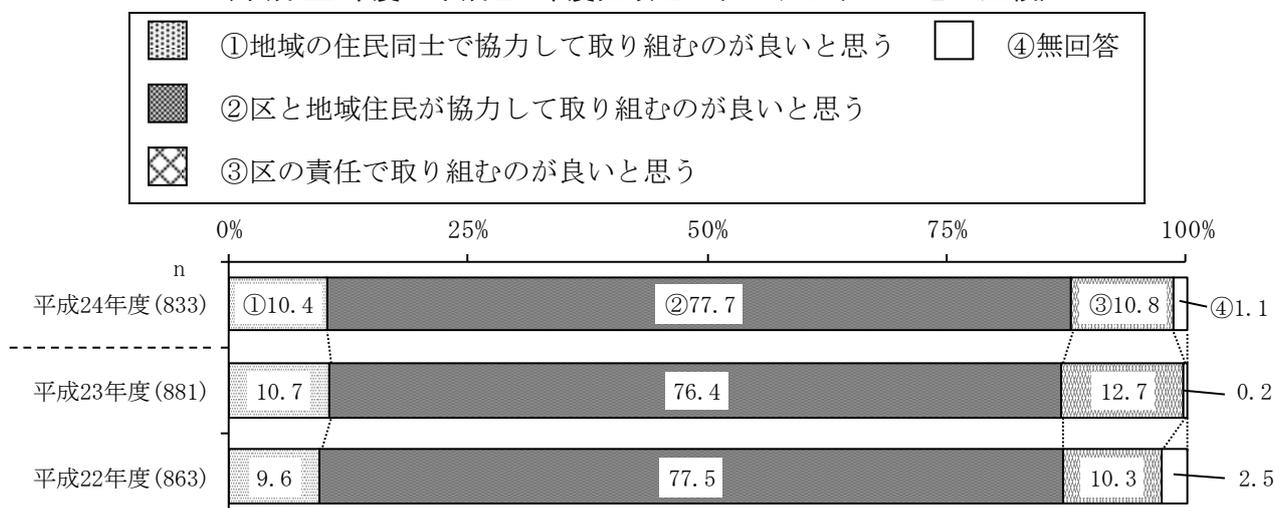
(1) 高齢者・障害者の見守りに関する意識

◎「区と地域住民が協力して取り組むのが良いと思う」が7割台半ばを超える

問13 あなたは、高齢者や障害のある人などを見守り支えるための取り組みを、どのように推進していくのが良いと思いますか。(n=833)	
1 地域の住民同士で協力して取り組むのが良いと思う	10.4%
2 区と地域住民が協力して取り組むのが良いと思う	77.7
3 区の責任で取り組むのが良いと思う	10.8
無回答	1.1

図4-3-1 高齢者・障害者の見守りに関する意識

(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



高齢者・障害者の見守りに関する意識について、「区と地域住民が協力して取り組むのが良いと思う」(77.7%)が7割台半ばを超え最も高くなっている。以下、「区の責任で取り組むのが良いと思う」(10.8%)、「地域の住民同士で協力して取り組むのが良いと思う」(10.4%)の順となっている。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると大きな差異はみられない。各年度ともに、「区と地域住民が協力して取り組むのが良いと思う」が7割台半ばを超える。(図4-3-1)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

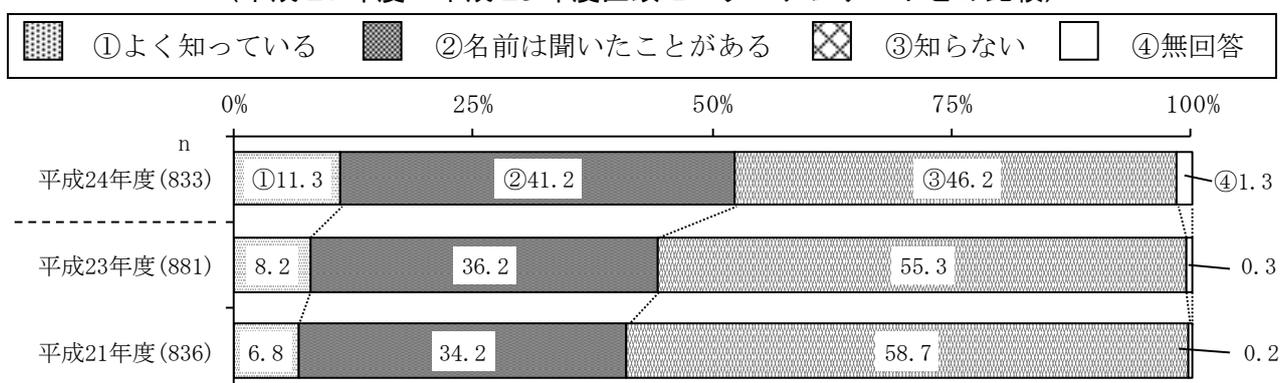
指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
区民の地域福祉活動への協働意識	「高齢者の見守りを住民同士で行う」と考える区民の割合	支え合いのしくみづくりの進捗度を検証するため	8.2%	10.4%	30.0%

(2) 「高齢者総合相談センター」の認知状況

◎ 「知らない」が4割台半ばを超える

問14 あなたは、高齢者のための相談機関である「高齢者総合相談センター」を知っていますか。 (n=833)	
1 よく知っている	11.3%
2 名前は聞いたことがある	41.2
3 知らない	46.2
無回答	1.3

図4-3-2 「高齢者総合相談センター」の認知状況
(平成21年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



「高齢者総合相談センター」の認知状況について、「知らない」(46.2%)が4割台半ばを超え最も高く、以下、「名前は聞いたことがある」(41.2%)、「よく知っている」(11.3%)の順となっている。

過去の調査結果(平成21年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「よく知っている」では、平成24年度(11.3%)が、平成23年度(8.2%)より3.1ポイント、平成21年度(6.8%)より4.5ポイントそれぞれ上回っている。

一方、「知らない」は、平成24年度(46.2%)が、平成23年度(55.3%)9.1ポイント、平成21年度(58.7%)12.5ポイントそれぞれ下回っている。(図4-3-2)

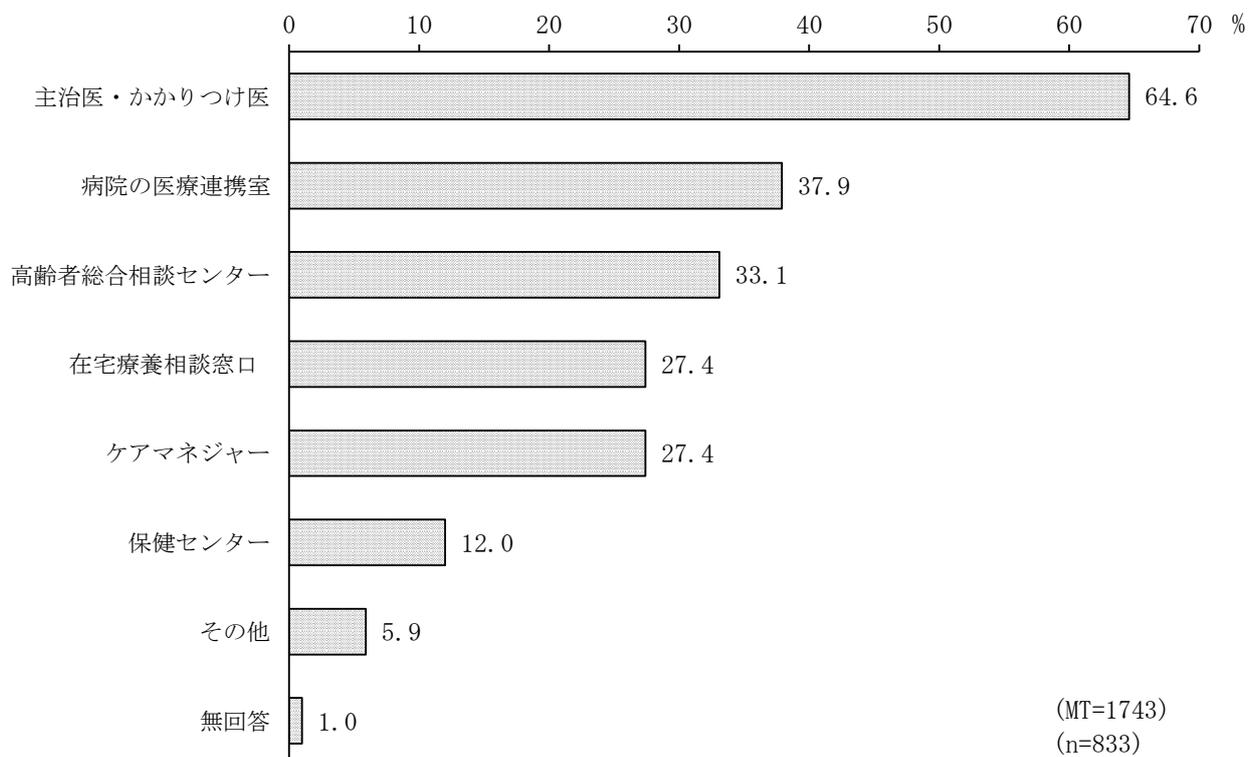
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（3）在宅療養を送ることになった場合、どこに（誰に）相談するか

◎「主治医・かかりつけ医」が6割台半ば近く

問15 あなたやあなたの家族が自宅で療養生活（在宅療養）を送ることになった場合、どこに（誰に）相談しますか。（複数回答可）(n=833)	
1 病院の医療連携室	37.9%
2 主治医・かかりつけ医	64.6
3 在宅療養相談窓口	27.4
4 高齢者総合相談センター	33.1
5 ケアマネジャー	27.4
6 保健センター	12.0
7 その他	5.9
無回答	1.0

図4-3-3 在宅療養を送ることになった場合、どこに（誰に）相談するか



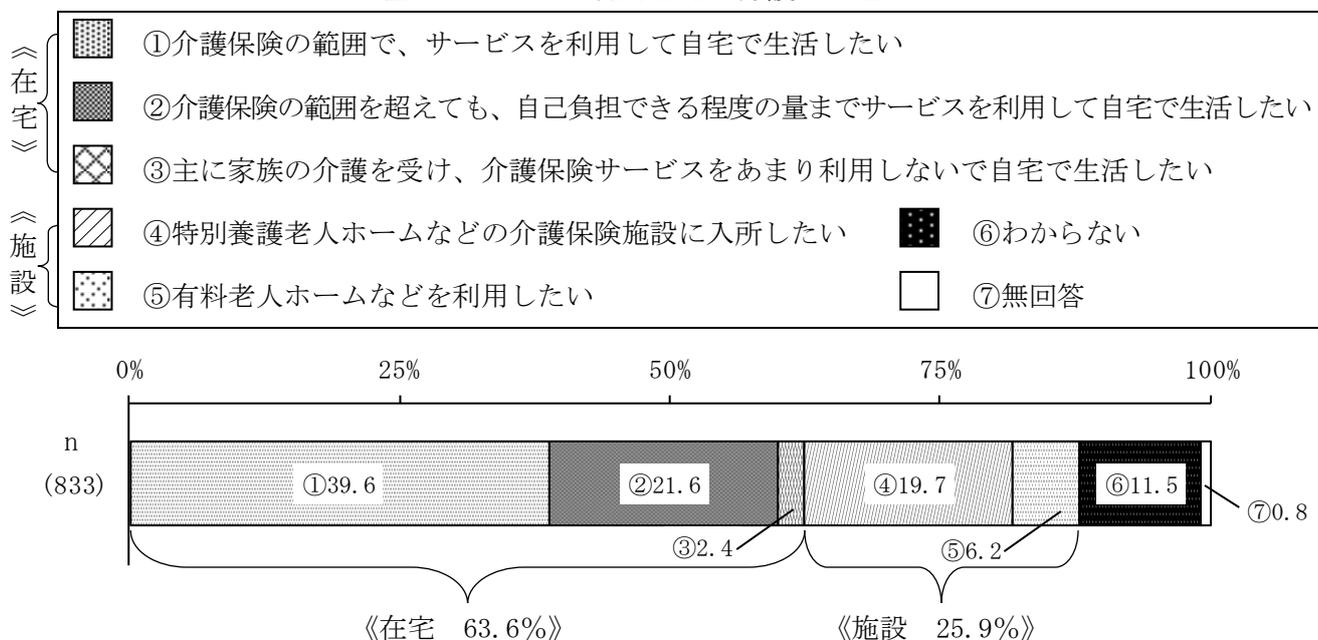
在宅療養を送ることになった場合、どこに（誰に）相談するかについて、「主治医・かかりつけ医」（64.6%）が6割台半ば近くで最も高く、「病院の医療連携室」（37.9%）が3割台半ばを超え、「高齢者総合相談センター」（33.1%）が3割台半ば近くとなっている。（図4-3-3）

(4) 利用したい介護サービス

◎「介護保険の範囲で、サービスを利用して自宅で生活したい」が4割弱

問16 あなたは、介護が必要になったら介護サービスをどのように利用したいと思いますか。 (n=833)		
1	介護保険の範囲で、サービスを利用して自宅で生活したい	39.6%
2	介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい	21.6
3	主に家族の介護を受け、介護保険サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい	2.4
4	特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい	19.7
5	有料老人ホームなどを利用したい	6.2
6	わからない	11.5
	無回答	0.8

図4-3-4 利用したい介護サービス



利用したい介護サービスについて、「介護保険の範囲で、サービスを利用して自宅で生活したい」(39.6%)が4割弱で最も高く、以下、「介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい」(21.6%)が2割強、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい」(19.7%)が2割弱と続く。(図4-3-4)

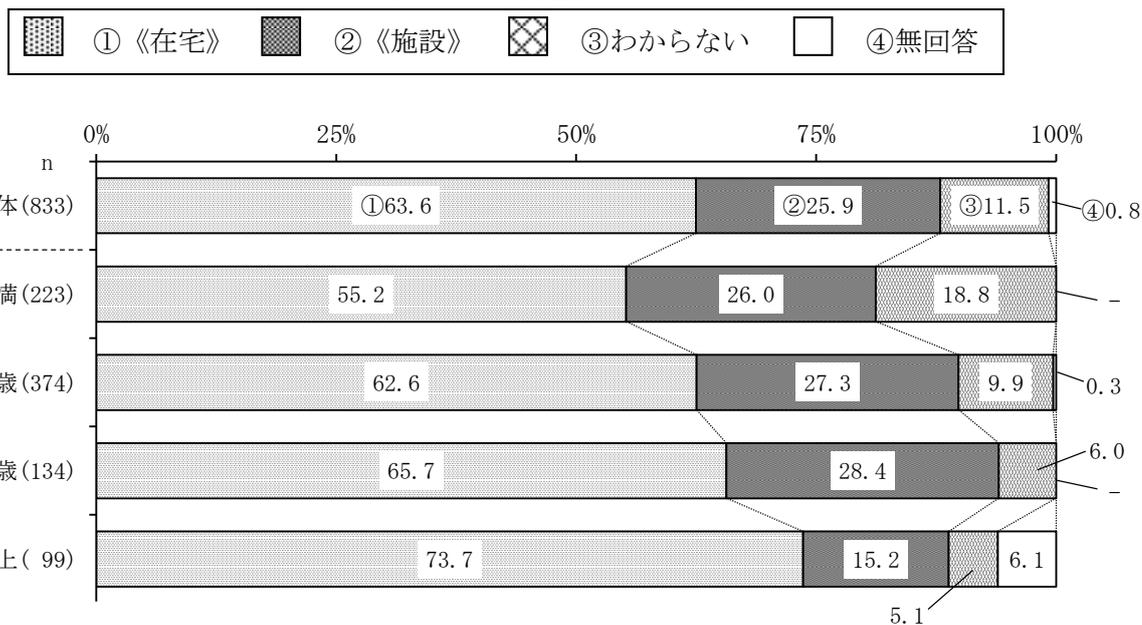
～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
介護サービスを利用した在宅生活の継続	「介護サービスを受けたい場所」の在宅の割合	住み慣れた地域での生活希望者の増加は、在宅サービスの充実度を示すため	60.4%	63.6% 66.9%*	一般高齢者 70.0%

※データ出典「新宿区高齢者の健康と福祉に関する調査(平成23年3月)」

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

図4-3-5 利用したい介護サービス（年代別）



年代別で見ると、「介護保険の範囲で、サービスを利用して自宅で生活したい」、「介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい」、「主に家族の介護を受け、介護保険サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい」を合わせた《在宅》は、75歳以上（73.7%）が7割台半ば近くで、全体（63.6%）を10.1ポイント上回っている。

（図4-3-5）

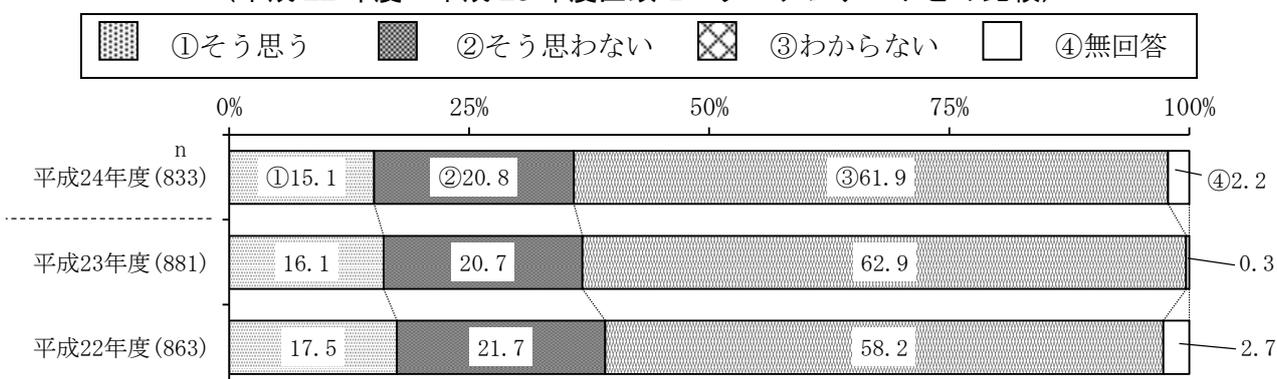
[2] 障害福祉

(1) 障害者の社会参加のしやすさ

◎「そう思う」が1割台半ば

問17 新宿のまちは、障害があっても積極的に社会参加しやすいまちだと思いますか。(n=833)	
1 そう思う	15.1%
2 そう思わない	20.8
3 わからない	61.9
無回答	2.2

図4-3-6 障害者の社会参加のしやすさ
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



障害者の社会参加のしやすさについて、「そう思う」(15.1%)が1割台半ば、「そう思わない」(20.8%)が約2割、「わからない」(61.9%)が6割強となっている。(図4-3-6)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
障害者の社会参加のしやすさ	障害があっても積極的に社会参加しやすいまちだと思う割合	ノーマライゼーション*の視点から障害者の社会参加や就労機会の拡大に対する実感を把握するため	16.2%	15.1%	↑

※高齢者や障害のある人等、社会的支援を必要とする人がそうでない人とともに、地域において普通の生活をし、ともに生きることができる社会をめざす考え方。

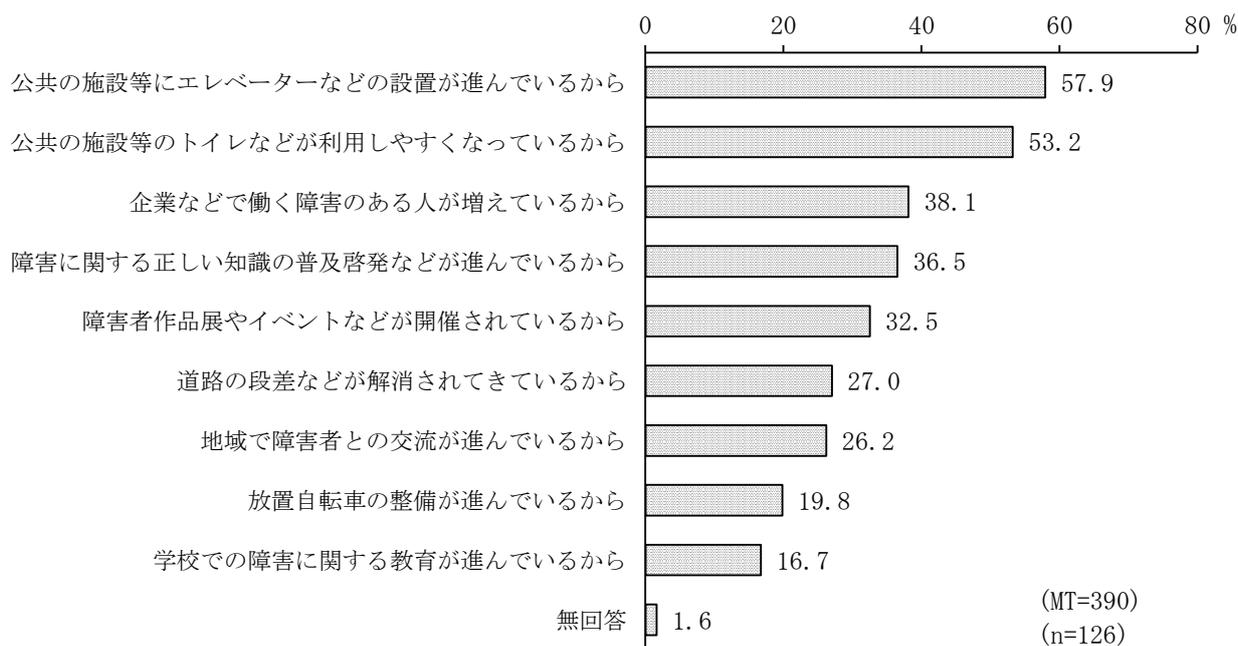
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（2）障害者が社会参加しやすいまちだと思う点

◎「公共の施設等にエレベーターなどの設置が進んでいるから」が5割台半ばを超える

問17-1 問17で、【1 そう思う】の方	
どのような点でそう思いますか。（複数回答可）(n=126)	
1 障害に関する正しい知識の普及啓発などが進んでいるから	36.5%
2 企業などで働く障害のある人が増えているから	38.1
3 学校での障害に関する教育が進んでいるから	16.7
4 地域で障害者との交流が進んでいるから	26.2
5 障害者作品展やイベントなどが開催されているから	32.5
6 公共の施設等にエレベーターなどの設置が進んでいるから	57.9
7 公共の施設等のトイレなどが利用しやすくなっているから	53.2
8 放置自転車の整備が進んでいるから	19.8
9 道路の段差などが解消されてきているから	27.0
無回答	1.6

図4-3-7 障害者が社会参加しやすいまちだと思う点



障害者が社会参加しやすいまちだと思う点について、「公共の施設等にエレベーターなどの設置が進んでいるから」（57.9%）5割台半ばを超え最も高く、「公共の施設等のトイレなどが利用しやすくなっているから」（53.2%）が5割台半ば近くで続く。（図4-3-7）

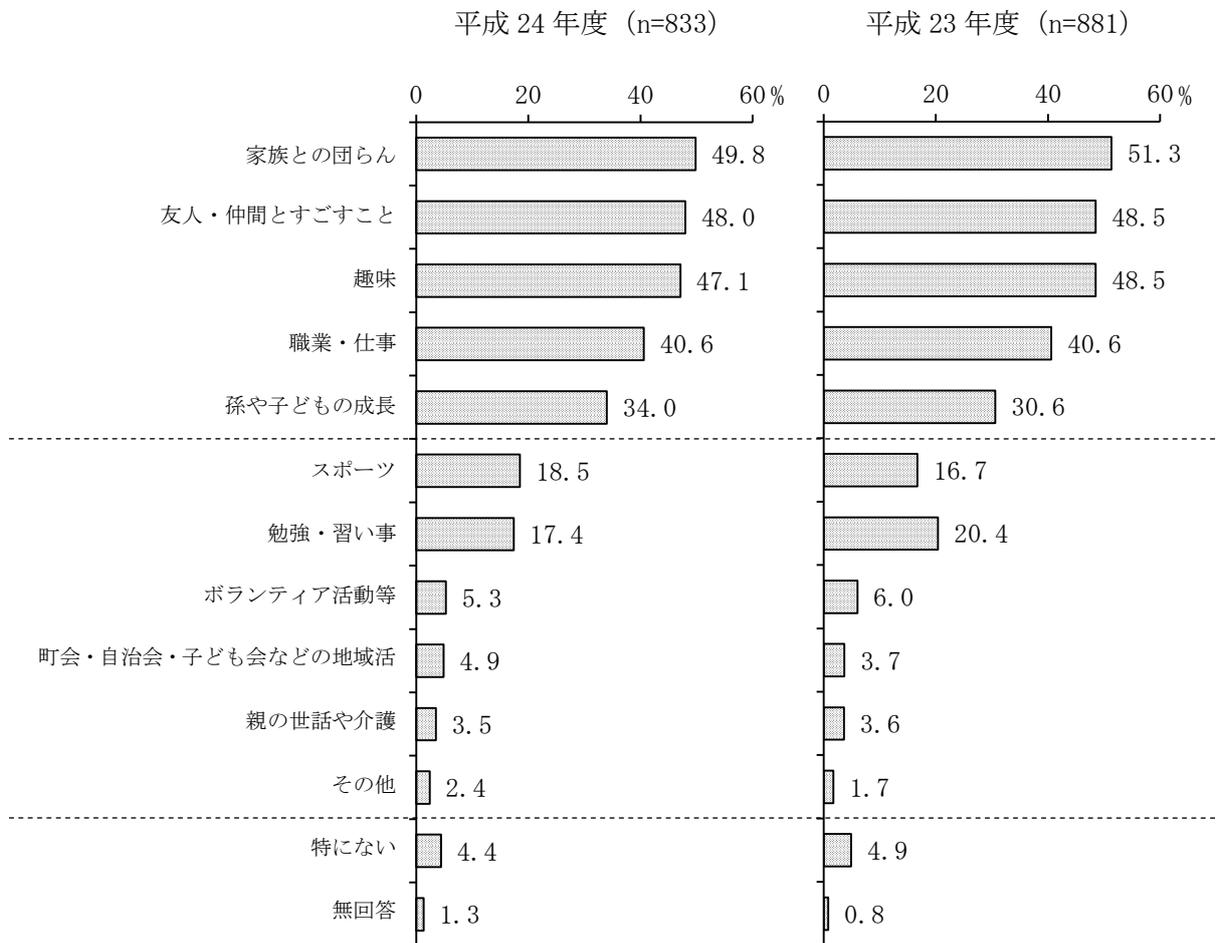
[3] 生きがい

(1) 生きがいを感じること

◎「家族との団らん」が5割弱

問18 あなたは、現在どのようなことに生きがいを感じていますか。(複数回答可)(n=833)	
1 職業・仕事	40.6%
2 町会・自治会・子ども会などの地域活動	4.9
3 ボランティア活動等	5.3
4 趣味	47.1
5 スポーツ	18.5
6 勉強・習い事	17.4
7 友人・仲間とすごすこと	48.0
8 家族との団らん	49.8
9 孫や子どもの成長	34.0
10 親の世話や介護	3.5
11 その他	2.4
12 特にない	4.4
無回答	1.3

図4-3-8 生きがいを感じること
（平成23年度区政モニターアンケートとの比較）



生きがいを感じることに、「家族との団らん」(49.8%)が5割弱で最も高く、「友人・仲間とすごすこと」(48.0%)が5割近く、「趣味」(47.1%)が4割台半ばを超え、続く。

(図4-3-8)

過去の調査結果(平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、全体から「特にない」と無回答を除いた《生きがいを感じている》割合は、平成24年度(94.3%)、平成23年度(94.3%)で同率となっている。

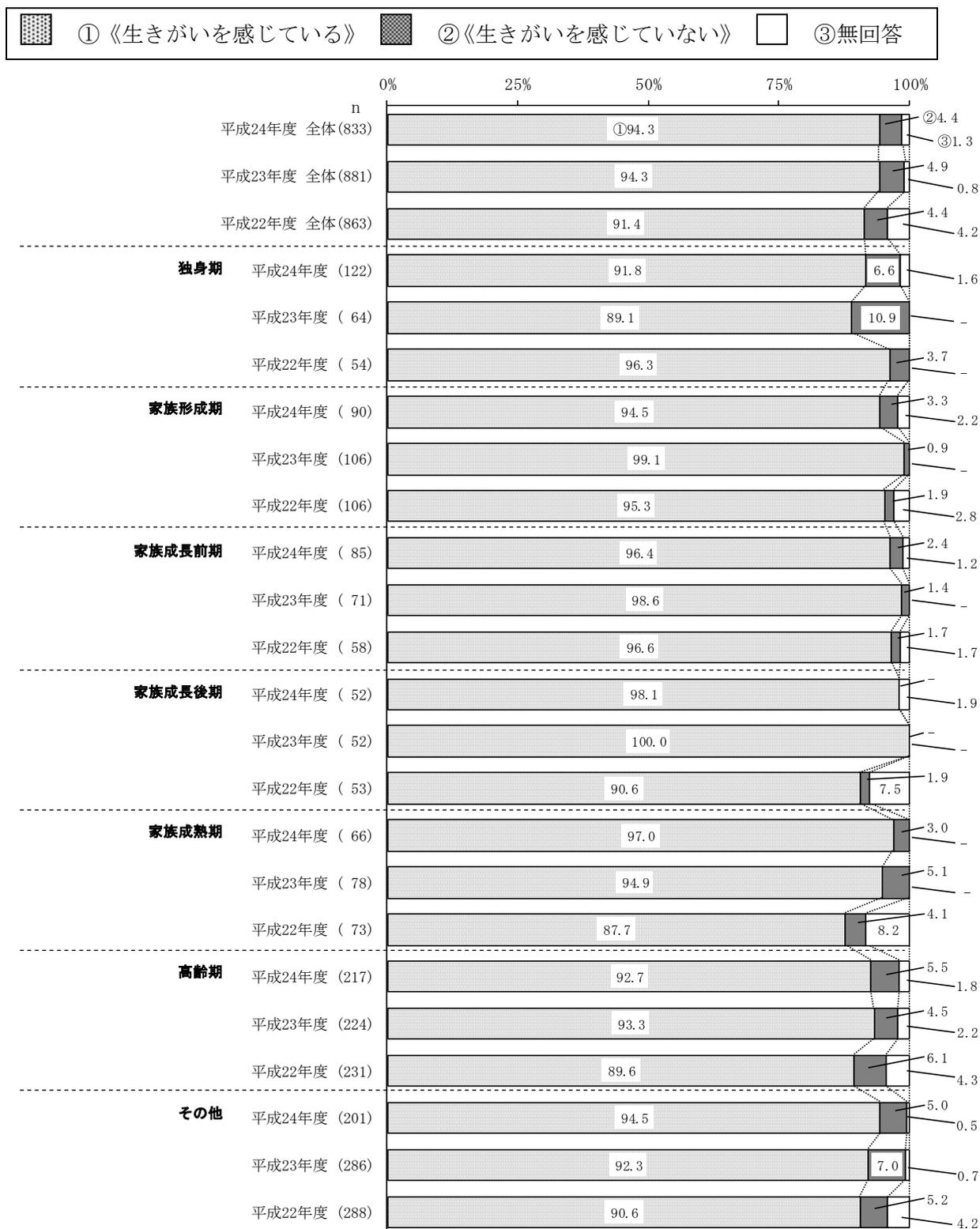
《生きがいを感じている》高齢者の割合を集計するため、ライフステージ別に再分類した。

(41ページ図4-3-9)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
高齢者で生きがいを感じている人の割合	高齢者で生きがいを感じている人の割合	高齢者が自立して元気で暮らしていくためには高齢者が生きがいを持っていることが重要なため	94.1%	92.7%*	▲

図4-3-9 生きがいを感じること（ライフステージ別）
（平成23年度区政モニターアンケートとの比較）



ライフステージ別に過去の調査結果（平成23年度・平成24年度区政モニターアンケート）と比較すると、高齢期の《生きがいを感じている》割合は、平成22年度(89.6%)から平成23年度(93.3%)は3.7ポイント増加したが、平成23年度と平成24年度(92.7%)に大きな差異はみられない。

(図4-3-9)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

[4] 防災対策

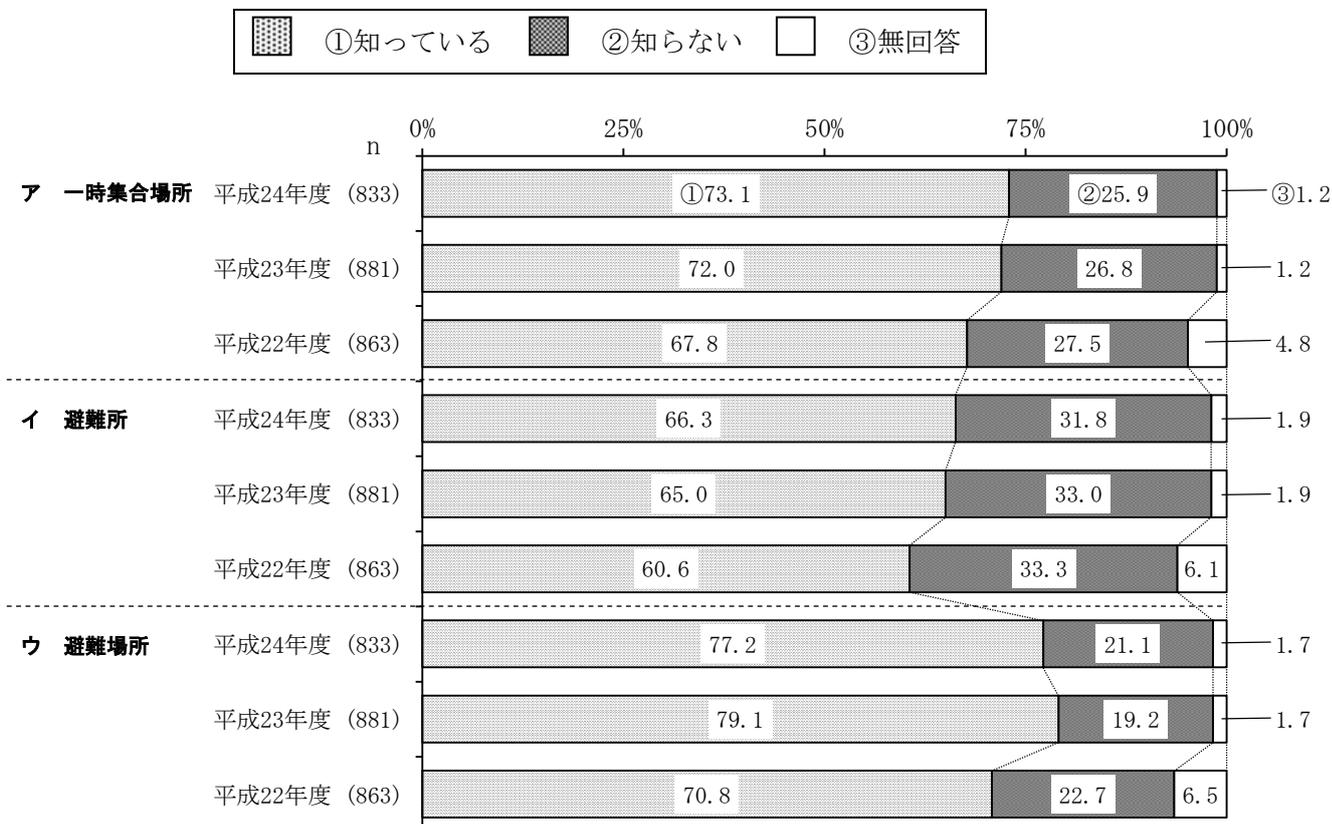
(1) 避難場所・避難所の認知度

◎『避難場所』を「知っている」が7割台半ば近く

問19 あなたは、地震などの災害が発生した際、安全を確保するために避難する場所がどこにあるか知っていますか。 ア～ウ全ての項目について該当する番号に○をつけてください。(n=833)	知っている	知らない	無回答
ア 一時（いつとき）集合場所 ※避難所や避難場所に避難する前に、近隣の避難者が一時的に集合して様子を見る場所（自宅付近の公園など）	73.1%	25.9%	1.2%
イ 避難所 ※倒壊や焼失などによって、自宅での生活ができなくなった人が一時的に避難生活をする場所（小・中学校など）	66.3	31.8	1.9
ウ 避難場所 ※大震災時の大火災から生命を守るために必要なスペースのある大規模公園、緑地等をいい、都が指定している。 （新宿御苑、戸山公園一帯、新宿中央公園一帯など）	77.2	21.1	1.7

図4-3-10 避難場所・避難所の認知度

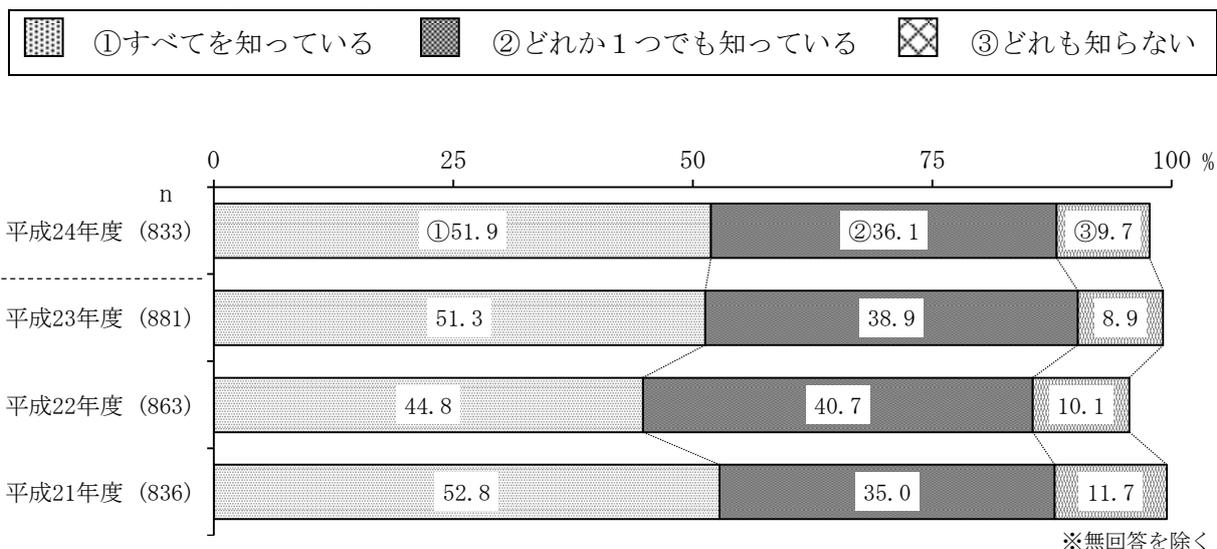
（平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較）



避難場所・避難所の認知度について「知っている」は、『避難場所』(77.2%)が7割台半ばを超え最も高く、『一時集合場所』(73.1%)では7割台半ば近く、『避難所』(66.3%)では6割台半ばを超える。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、『避難場所』では、「知っている」が平成24年度(77.2%)が平成23年度(79.1%)を1.9ポイント下回っている。(図4-3-10)

図4-3-11 避難場所・避難所の認知度(再分類)
(平成21年度～平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



※避難場所・避難所の認知度(再分類)

『ア 一時集合場所』、『イ 避難所』、『ウ 避難場所』を「すべてを知っている」、「どれか1つでも知っている」、「どれも知らない」の3つに再分類した。

避難場所・避難所の認知度で、すべてを知っている人の割合(再分類)について、「すべてを知っている」(51.9%)が5割強、「どれか1つでも知っている」(36.1%)が3割台半ばを超える。

過去の調査結果(平成21年度～平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「どれも知らない」では、平成23年度(8.9%)と比べて平成24年度(9.7%)が0.8ポイント上回っている。(図4-3-11)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
避難場所・避難所の理解度	一時集合場所、避難所、避難場所を理解している区民の割合	被害を最小限にとどめ、区民の安全を確保するためには、避難場所等を知っていることは重要なため	23.8%	51.9%	80.0%

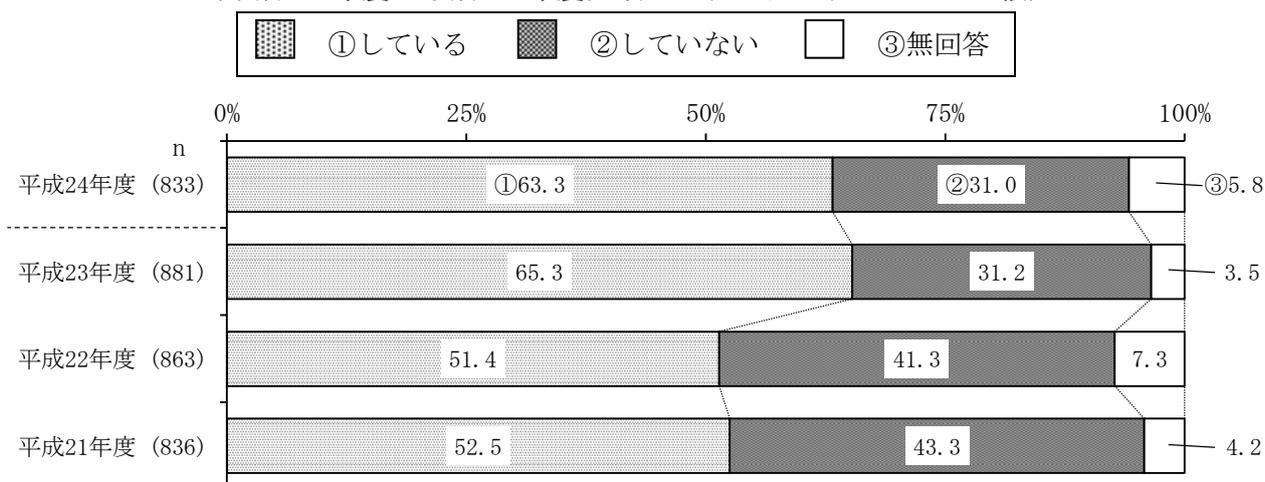
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（2）家庭内の防災対策

◎家庭内の防災対策を「している」が6割台半ば近く

問20 あなたの家庭では、日ごろ防災対策をしていますか。(n=833)		
1	している	63.3%
2	していない	31.0
	無回答	5.8

図4-3-12 家庭内の防災対策
(平成21年度～平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



家庭内の防災対策について、「している」(63.3%)が6割台半ば近く、「していない」(31.0%)が3割強となっている。

過去の調査結果(平成21年度～平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「している」では、平成22年度(51.4%)から平成23年度(65.3%)にかけて13.9ポイント増加したが、平成24年度(63.3%)と平成23年度では大きな差異はみられない。(図4-3-12)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

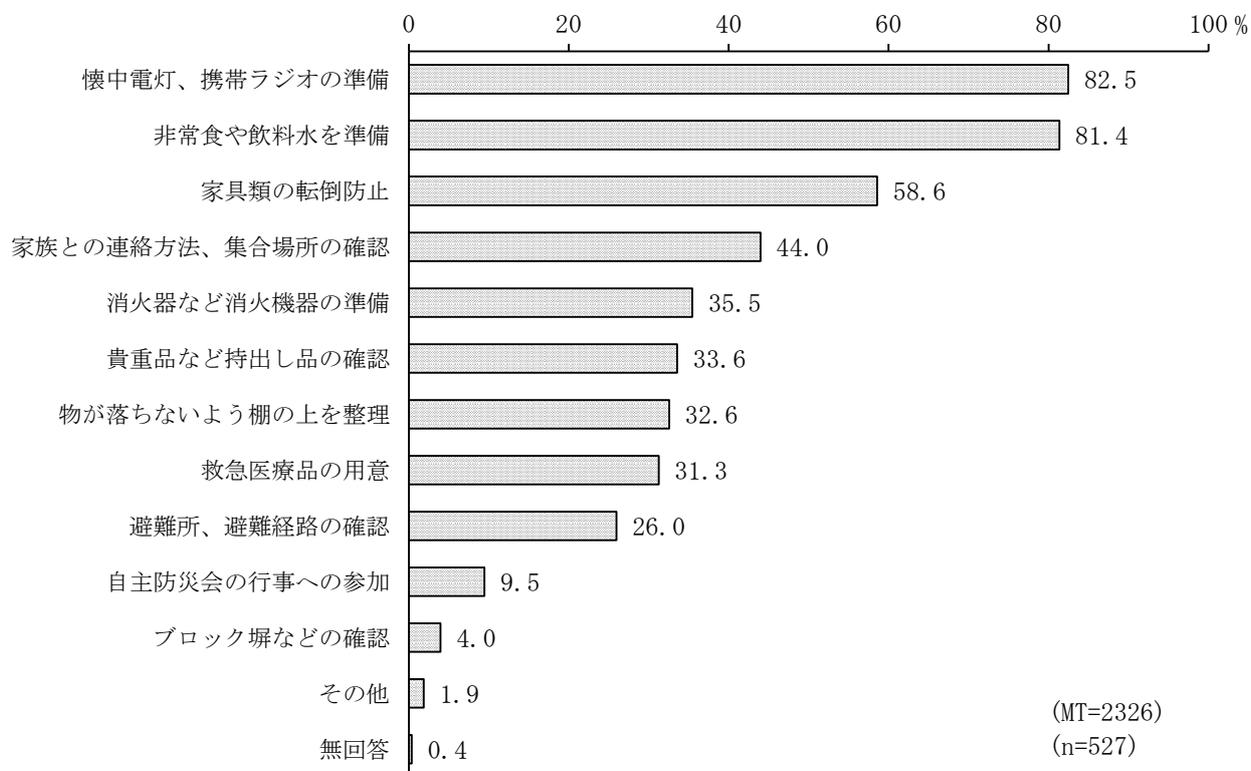
指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
家庭内の防災対策の普及	家庭内の防災対策実施率	家庭内での防災対策の実施が一人ひとりの防災意識を高め、災害への対応能力の向上につながるため	81.5%	63.3%	90.0%

(3) 防災対策の内容

◎ 「懐中電灯、携帯ラジオの準備」、「非常食や飲料水を準備」が8割強

問20-1 問20で、【1 している】の方	
どのような対策をしていますか。(複数回答可)(n=527)	
1 家具類の転倒防止	58.6%
2 物が落ちないように棚の上を整理	32.6
3 非常食や飲料水を準備	81.4
4 貴重品など持出し品の確認	33.6
5 消火器など消火機器の準備	35.5
6 懐中電灯、携帯ラジオの準備	82.5
7 救急医療品の用意	31.3
8 家族との連絡方法、集合場所の確認	44.0
9 ブロック塀などの確認	4.0
10 避難所、避難経路の確認	26.0
11 自主防災会の行事への参加	9.5
12 その他	1.9
無回答	0.4

図4-3-13 防災対策の内容



防災対策の内容について、「懐中電灯、携帯ラジオの準備」(82.5%)が8割強で最も高く、「非常食や飲料水を準備」(81.4%)でも8割強となっている。(図4-3-13)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

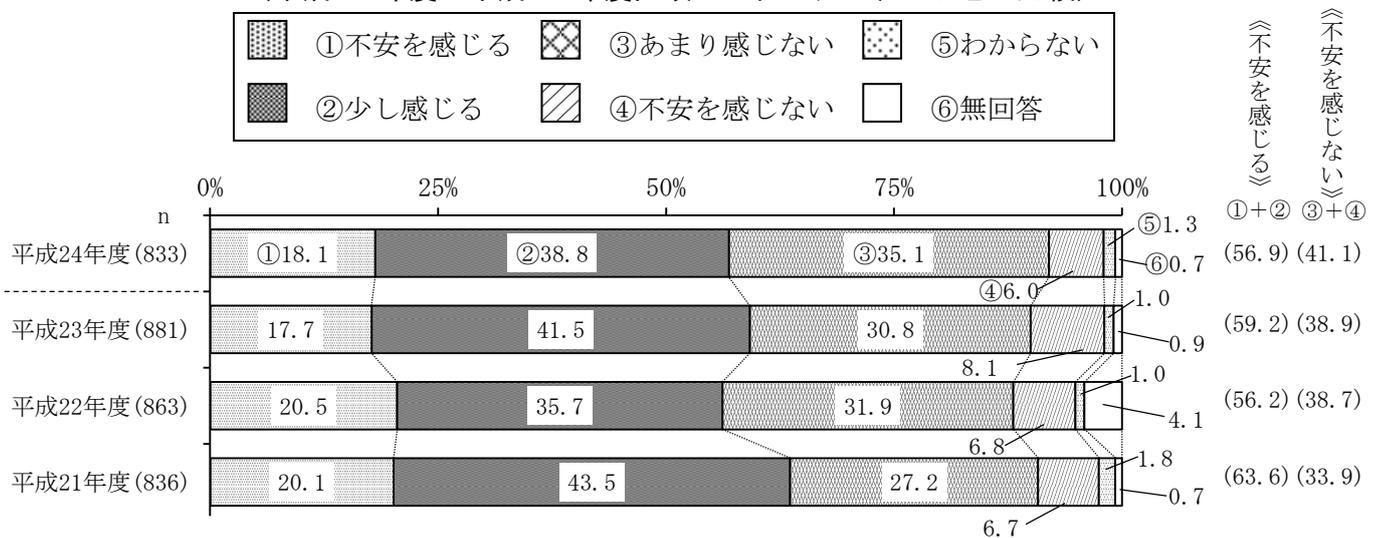
（4）犯罪への不安

◎居住地域で犯罪の《不安を感じない》が4割強

問21 あなたは、お住まいの地域で、犯罪への不安を感じることがありますか。(n=833)		
1	不安を感じる	18.1%
2	少し感じる	38.8
3	あまり感じない	35.1
4	不安を感じない	6.0
5	わからない	1.3
	無回答	0.7

図4-3-14 犯罪への不安

（平成21年度～平成23年度区政モニターアンケートとの比較）



犯罪への不安について、「不安を感じる」(18.1%)と「少し感じる」(38.8%)を合わせた《不安を感じる》(56.9%)が5割台半ばを超え、「あまり感じない」(35.1%)と「感じない」(6.0%)を合わせた《不安を感じない》(41.1%)が4割強となっている。

過去の調査結果（平成21年度～平成23年度区政モニターアンケート）と比較すると、《不安を感じない》が年々高くなっている。（図4-3-14）

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

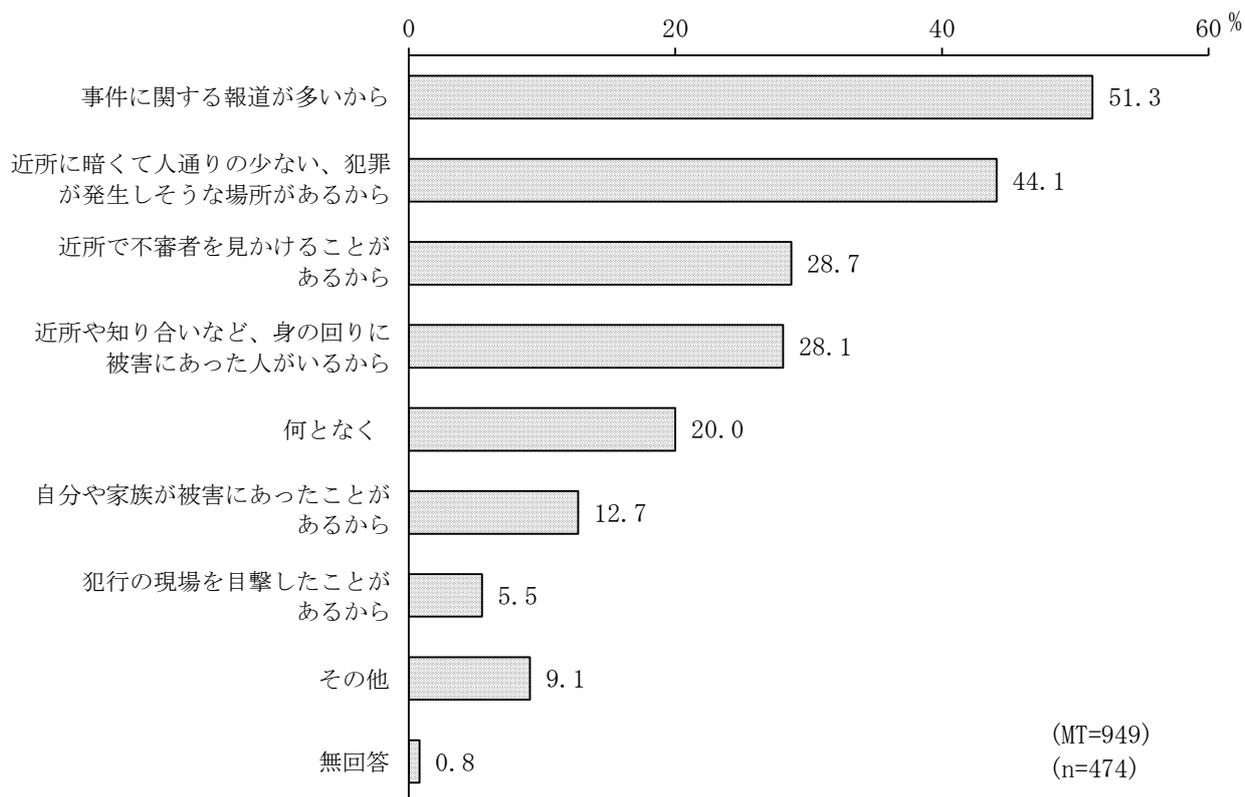
指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
区民の日常生活における安心感	居住地域での犯罪への不安を感じない区民の割合	安全・安心な生活については個々の施策の実施状況とあわせ、安心して暮らしているかどうかの実感が重要なため	22.8%	41.1%	↑

(5) 不安を感じる理由

◎「事件に関する報道が多いから」が5割強

問21-1 問20で、【1 不安を感じる】または【2 少し感じる】の方	
不安を感じる理由はなんですか。(複数回答可)(n=474)	
1 事件に関する報道が多いから	51.3%
2 近所に暗くて人通りの少ない、犯罪が発生しそうな場所があるから	44.1
3 近所や知り合いなど、身の回りに被害にあった人がいるから	28.1
4 近所で不審者を見かけることがあるから	28.7
5 自分や家族が被害にあったことがあるから	12.7
6 犯行の現場を目撃したことがあるから	5.5
7 何となく	20.0
8 その他	9.1
無回答	0.8

図4-3-15 不安を感じる理由



不安を感じる理由として、「事件に関する報道が多いから」(51.3%)が5割強で最も高く、「近所に暗くて人通りの少ない、犯罪が発生しそうな場所があるから」(44.1%)が4割台半ば近くで続く。(図4-3-15)

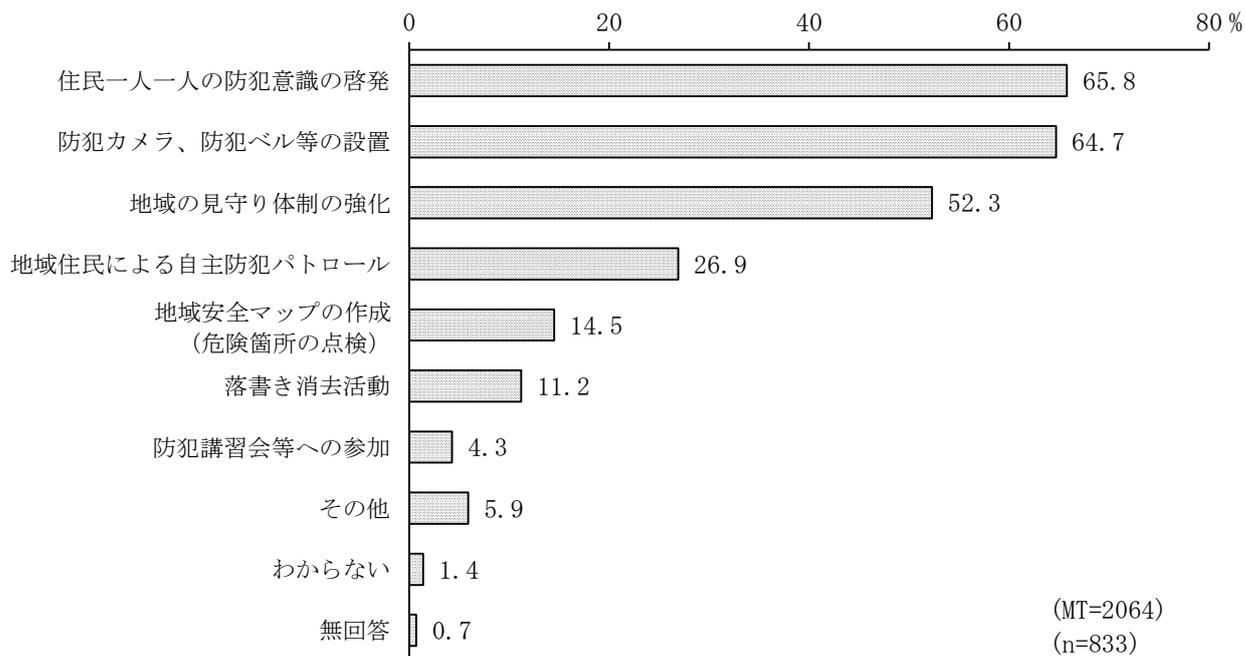
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（6）安全・安心のまちにするための取り組み

◎「住民一人一人の防犯意識の啓発」が6割台半ば

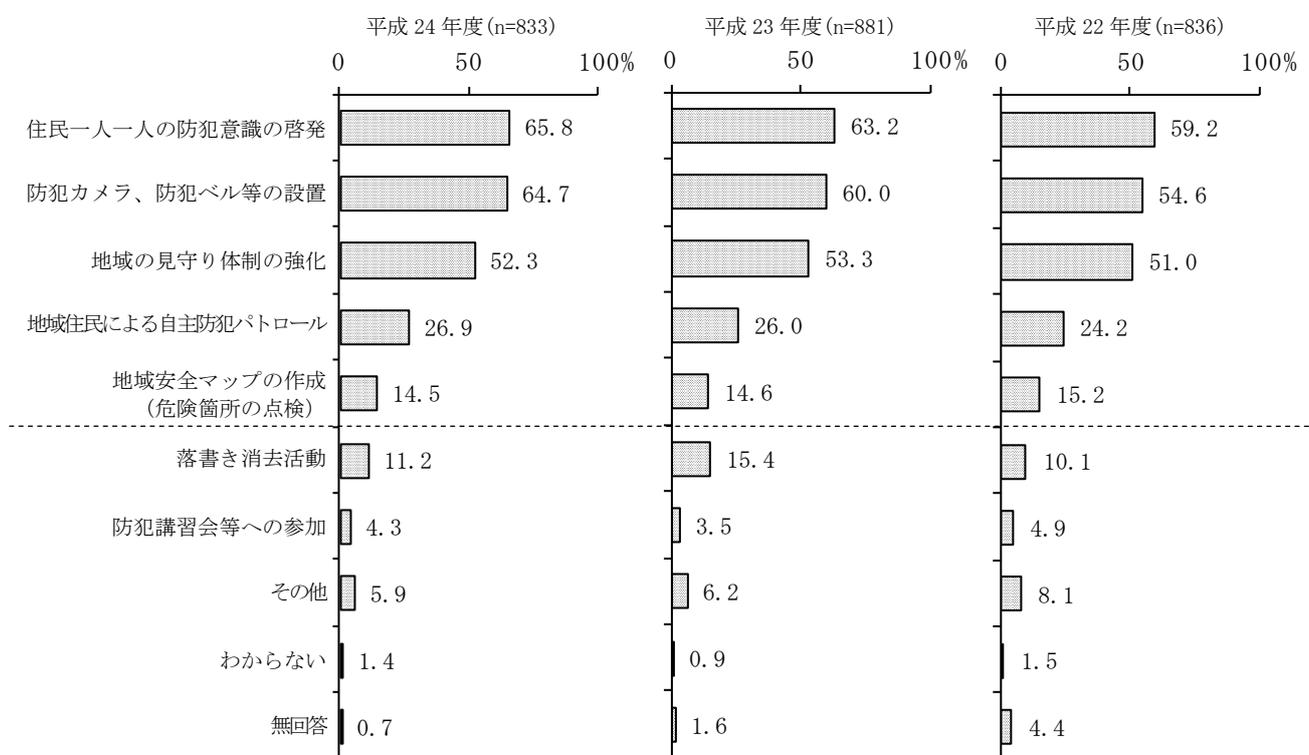
問22 あなたは、犯罪の起こりにくい、安全・安心のまちにするためにどのような取り組みが有効だと思いますか。（複数回答可）(n=833)	
1 住民一人一人の防犯意識の啓発	65.8%
2 地域の見守り体制の強化	52.3
3 地域住民による自主防犯パトロール	26.9
4 防犯カメラ、防犯ベル等の設置	64.7
5 地域安全マップの作成（危険箇所の点検）	14.5
6 落書き消去活動	11.2
7 防犯講習会等への参加	4.3
8 その他	5.9
9 わからない	1.4
無回答	0.7

図4-3-16 安全・安心のまちにするための取り組み



安全・安心のまちにするための取り組みについて、「住民一人一人の防犯意識の啓発」（65.8%）が6割台半ばで最も高く、「防犯カメラ、防犯ベル等の設置」（64.7%）が6割台半ば近く、「地域の見守り体制の強化」（52.3%）が5割強で続く。（図4-3-16）

図4-3-17 安全・安心のまちにするための取り組み
 (平成21年度～平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



過去の調査結果（平成21年度～平成23年度区政モニターアンケート）と比較すると、「住民一人一人の防犯意識の啓発」、「防犯カメラ、防犯ベル等の設置」、「地域の見守り体制の強化」については、各年度とも5割を超え上位を占めている。（図4-3-17）

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

〔5〕安全な消費生活

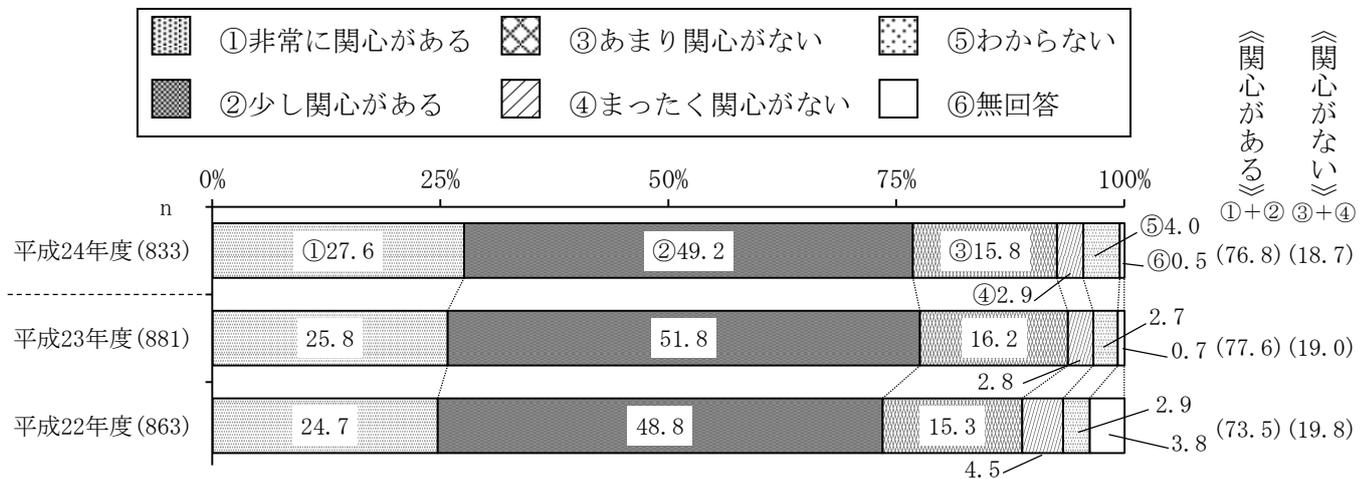
（1）消費者問題への関心度

◎消費者問題への《関心がある》が7割台半ばを超える

問23 あなたは、悪質商法や消費者問題に対して関心がありますか。(n=833)		
1	非常に関心がある	27.6%
2	少し関心がある	49.2
3	あまり関心がない	15.8
4	まったく関心がない	2.9
5	わからない	4.0
	無回答	0.5

図4-3-18 消費者問題への関心度

（平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較）



消費者問題への関心度について、「非常に関心がある」(27.6%)と「少し関心がある」(49.2%)を合わせた《関心がある》(76.8%)が7割台半ばを超え、「あまり関心がない」(15.8%)と「まったく関心がない」(2.9%)を合わせた《関心がない》(18.7%)は2割近くとなっている。

過去の調査結果（平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート）と比較すると、《関心がない》が年々低くなっている。(図4-3-18)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

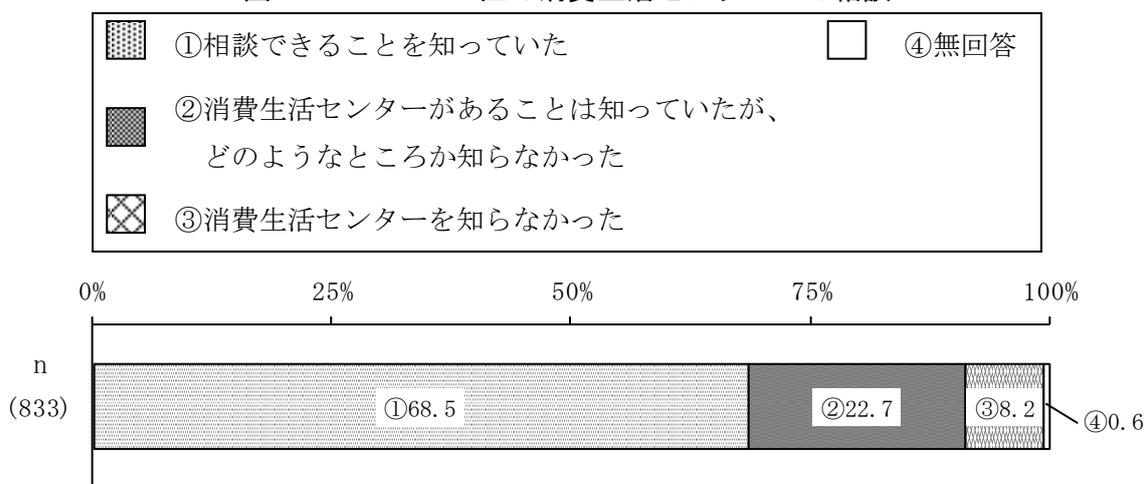
指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
消費者問題に対する関心度	悪質商法や消費者問題に対して関心がある区民の割合	消費者問題に対して関心がある区民の割合により情報提供や普及啓発の進捗状況を計るため	82.5%	76.8%	↑

(2) 区の消費生活センターへの相談

◎「相談できることを知っていた」が7割近く

問24 あなたは、契約のトラブルなどで困ったときに区の消費生活センターに相談できることを知っていましたか。(n=833)	
1 相談できることを知っていた	68.5%
2 消費生活センターがあることは知っていたが、どのようなところか知らなかった	22.7
3 消費生活センターを知らなかった	8.2
無回答	0.6

図4-3-19 区の消費生活センターへの相談



区の消費生活センターへの相談について、「相談できることを知っていた」(68.5%)が7割近くで最も高く、「消費生活センターがあることは知っていたが、どのようなところか知らなかった」(22.7%)、「消費生活センターを知らなかった」(8.2%)の順となっている。(図4-3-19)

基本目標Ⅳ 持続可能な都市と環境を創造するまち

[1] 安全で快適な道路

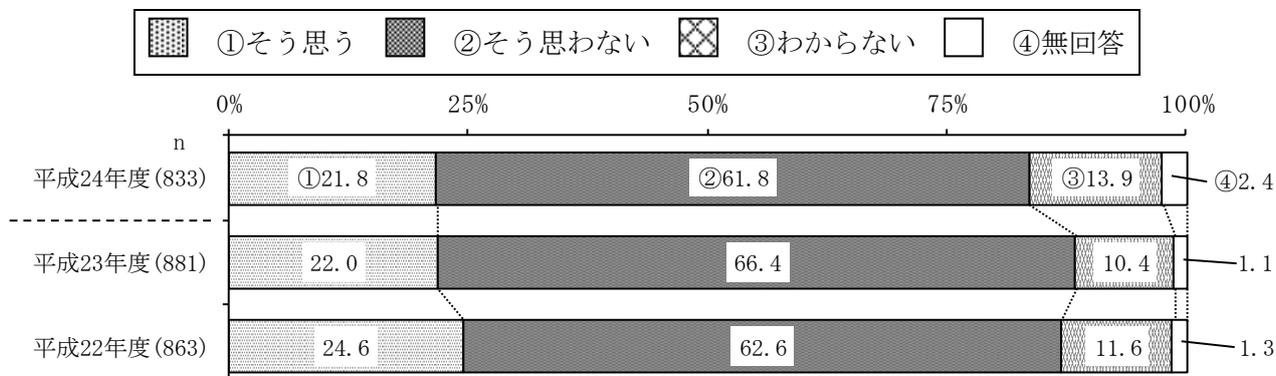
(1) 道路の歩きやすさの満足度

◎「そう思う」が2割強

問25 新宿区内の道路は、安全で快適な歩きやすい道路だと思いますか。(n=833)	
1 そう思う	21.8%
2 そう思わない	61.8
3 わからない	13.9
無回答	2.4

図4-4-1 道路の歩きやすさの満足度

(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



道路の歩きやすさの満足度について、「そう思う」(21.8%)は2割強、「そう思わない」(61.8%)が6割強となっている。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「そう思わない」では、平成24年度(61.8%)が平成23年度(66.4%)を4.6ポイント下回っている。

(図4-4-1)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

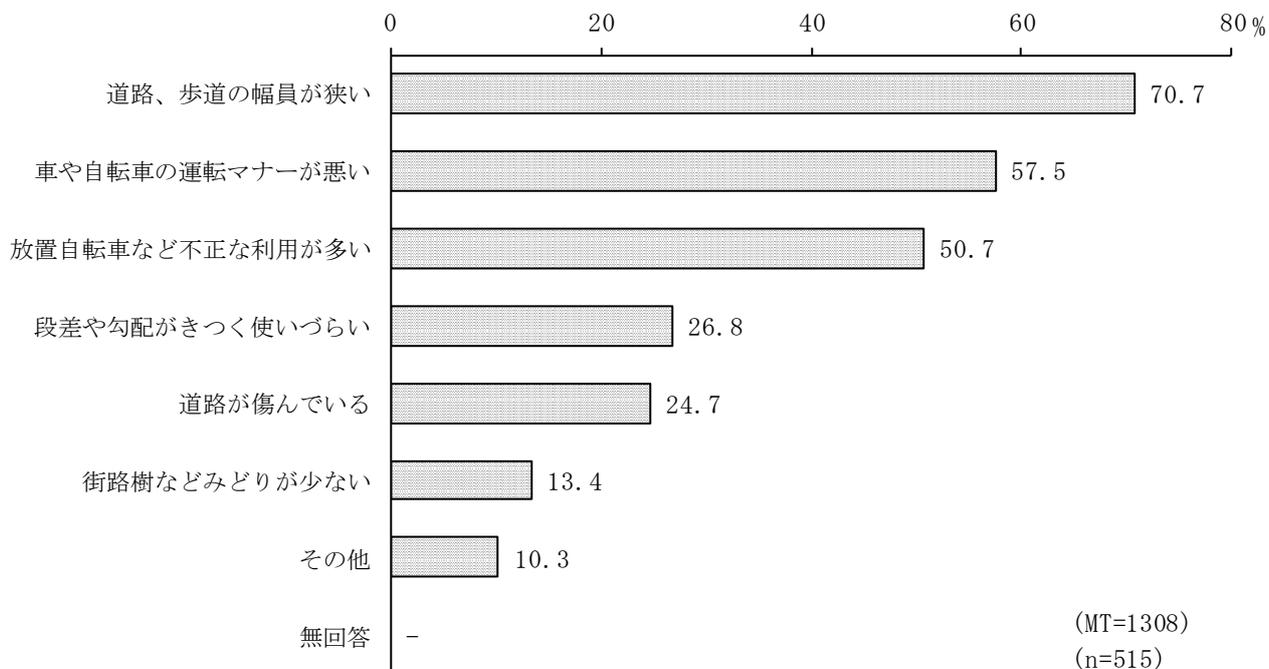
指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
道路の歩きやすさ 満足度	安全で快適な歩きやすい道路 だと感じる人の割合	「歩きやすさ」を感じる区民 の割合の増減で、放置自転車 対策や道路整備の状況を検証 するため	17.3%	21.8%	↑

(2) 安全で快適な道路だと思わない理由

◎「道路、歩道の幅員が狭い」が約7割

問25-1 問25で、【2 思わない】の方	
そう思わない理由はなんですか。(複数回答可)(n=515)	
1 道路が傷んでいる	24.7%
2 段差や勾配がきつく使いづらい	26.8
3 道路、歩道の幅員が狭い	70.7
4 街路樹などみどりが少ない	13.4
5 放置自転車など不正な利用が多い	50.7
6 車や自転車の運転マナーが悪い	57.5
7 その他	10.3
無回答	0.0

図4-4-2 安全で快適な道路だと思わない理由



安全で快適な道路だと思わない理由として、「道路、歩道の幅員が狭い」(70.7%)が約7割で最も高く、「車や自転車の運転マナーが悪い」(57.5%)が5割台半ばを超え、「放置自転車など不正な利用が多い」(50.7%)が約5割で続く。(図4-4-2)

基本目標V まちの記憶を活かした美しい新宿を創造するまち

[1] 美しいまちづくり

(1) 新宿区全体の景観に対する区民意識

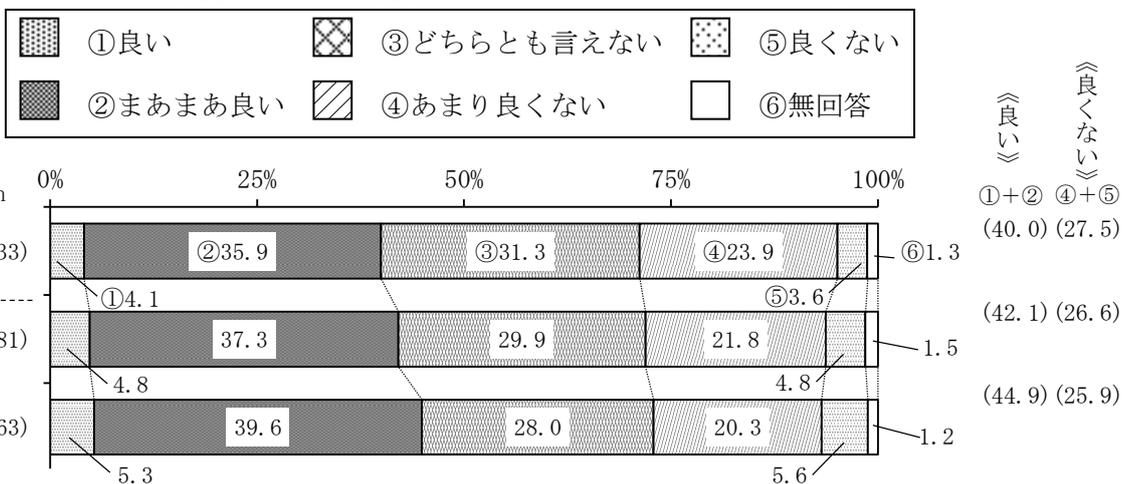
◎ 《良い》が4割

問26 あなたは、新宿区全体のまちなみや景観は良いと思いますか。(n=833)

1 良い	4.1%
2 まあまあ良い	35.9
3 どちらともいえない	31.3
4 あまり良くない	23.9
5 良くない	3.6
無回答	1.3

図4-5-1 新宿区全体の景観に対する区民意識

(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



新宿区全体の景観に対する区民意識について、「良い」(4.1%)と「まあまあ良い」(35.9%)を合わせた《良い》(40.0%)が4割となっている。

一方、「あまり良くない」(23.9%)と「良くない」(3.6%)を合わせた《良くない》(27.5%)は2割台半ばを超えている。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、《良い》が年々低くなっている。(図4-5-1)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

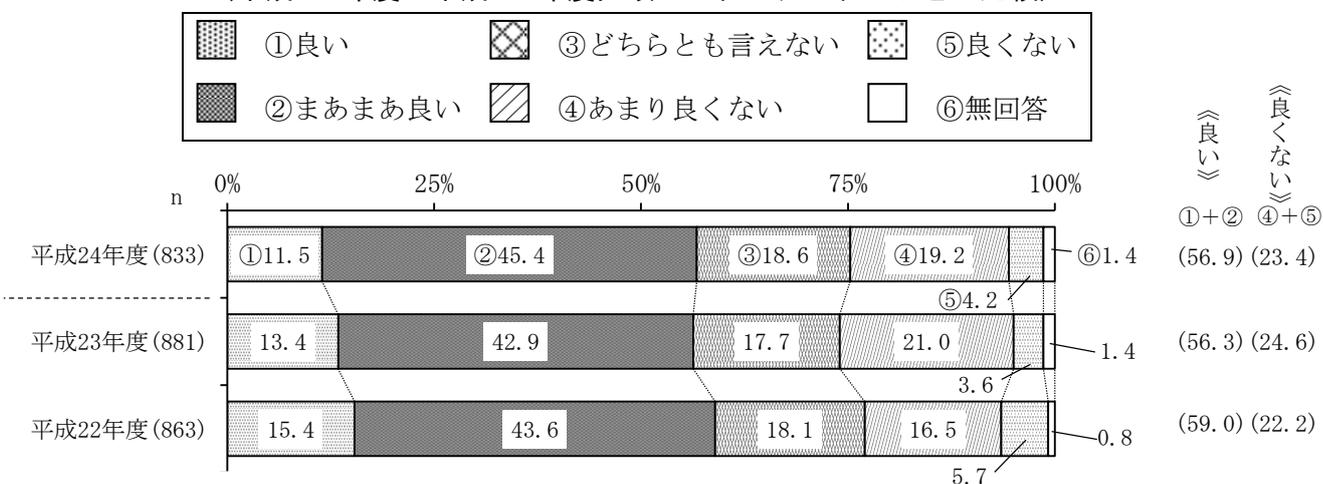
指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
景観に対する区民意識	まちなみや景観が良いと感じる区民の割合	美しい景観が実感できるか区民の意識を把握するため	28.1%	40.0%	↑

(2) 居住地域の景観に対する区民意識

◎ 《良い》が5割台半ばを超える

問27 あなたは、お住まいの地域のまちなみや景観は良いと思いますか。(n=833)		
1	良い	11.5%
2	まあまあ良い	45.4
3	どちらともいえない	18.6
4	あまり良くない	19.2
5	良くない	4.2
	無回答	1.4

図4-5-2 居住地域の景観に対する区民意識
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



居住地域の景観に対する区民意識について、「良い」(11.5%)と「まあまあ良い」(45.4%)を合わせた《良い》(56.9%)が5割台半ばを超える。

一方、「あまり良くない」(19.2%)と「良くない」(4.2%)を合わせた《良くない》(23.4%)は2割台半ば近くとなっている。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、《良い》では、平成22年度(59.0%)から平成23年度(56.3%)にかけて2.7ポイント減少しているが、平成23年度と平成24年度(56.9%)では大きな差異はみられない。(図4-5-2)

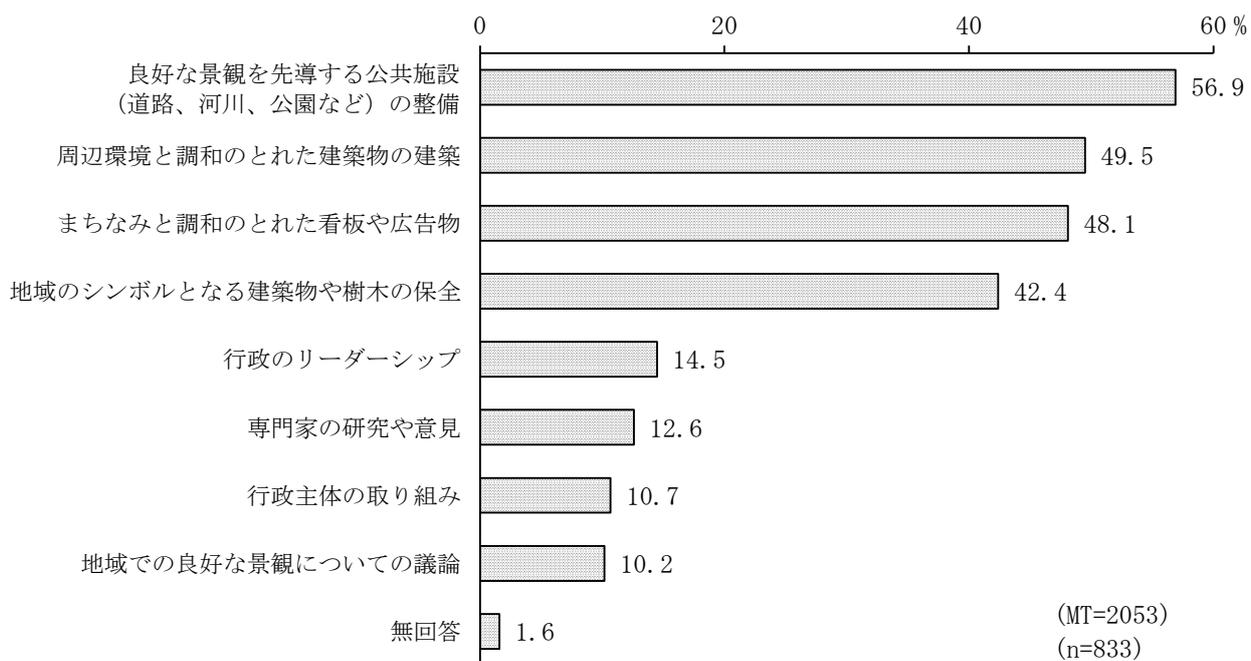
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（3）新宿の景観づくりに重要なこと

◎「良好な景観を先導する公共施設（道路、河川、公園など）の整備」が5割台半ばを超える

問28 あなたは、これからの新宿の景観づくりで、以下の中ではどれが重要だと思いますか。 (複数回答可) (n=833)	
1 地域のシンボルとなる建築物や樹木の保全	42.4%
2 周辺環境と調和のとれた建築物の建築	49.5
3 良好な景観を先導する公共施設（道路、河川、公園など）の整備	56.9
4 まちなみと調和のとれた看板や広告物	48.1
5 行政のリーダーシップ	14.5
6 行政主体の取り組み	10.7
7 地域での良好な景観についての議論	10.2
8 専門家の研究や意見	12.6
無回答	1.6

図4-5-3 新宿の景観づくりに重要なこと



新宿の景観づくりに重要なことについて、「良好な景観を先導する公共施設（道路、河川、公園など）の整備」（56.9%）が5割台半ばを超え最も高く、「周辺環境と調和のとれた建築物の建築」（49.5%）が5割弱、「まちなみと調和のとれた看板や広告物」（48.1%）が5割近くで続く。

（図4-5-3）

〔2〕 地域特性をふまえたまちづくり

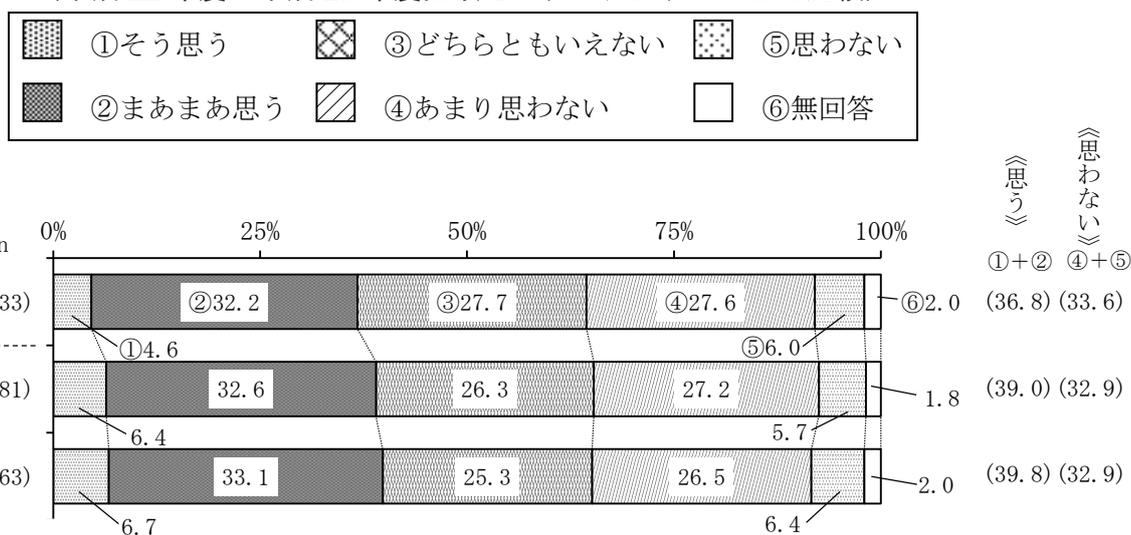
(1) 地域の特性をふまえたまちづくりへの意識

◎ 《思う》が3割台半ばを超え、《思わない》が3割台半ば近く

問29 あなたは、新宿区では、地域の特性を活かして、住宅地における良好な居住環境の保全や商業地における賑わいの創出などを目指していくまちづくりが行われていると思いますか。
(n=833)

1	そう思う	4.6%
2	まあまあ思う	32.2
3	どちらともいえない	27.7
4	あまり思わない	27.6
5	思わない	6.0
	無回答	2.0

図4-5-4 地域の特性をふまえたまちづくりへの意識
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



地域の特性をふまえたまちづくりへの意識について、「そう思う」(4.6%)と「まあまあ思う」(32.2%)を合わせた《思う》(36.8%)は3割台半ばを超え、「あまり思わない」(27.6%)と「思わない」(6.0%)を合わせた《思わない》(33.6%)は3割台半ば近くとなっている。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、《思う》が年々低くなっている。(図4-5-4)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
地域特性を踏まえたまちづくり	地域の土地利用の特性を踏まえたまちづくりが行われていると感じる区民の割合	地域特性を踏まえたまちづくりを区民の実感で示すため	10.1%	36.8%	↑

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

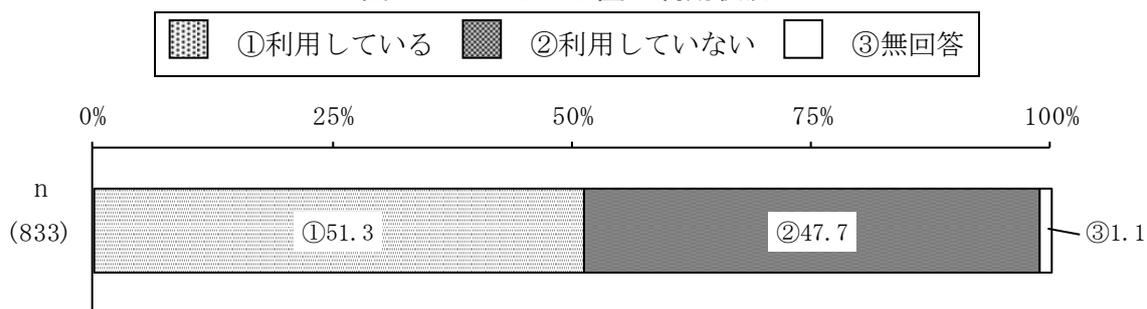
[3] 公園整備

(1) 公園の利用状況

◎公園を「利用している」が5割強

問30 あなたは、新宿区内の公園を利用していますか。(n=833)		
1	利用している	51.3%
2	利用していない	47.7
	無回答	1.1

図4-5-5 公園の利用状況



公園の利用状況について、「利用している」(51.3%)が5割強、「利用していない」(47.7%)が4割台半ばを超える。(図4-5-5)

(2) 公園の満足度

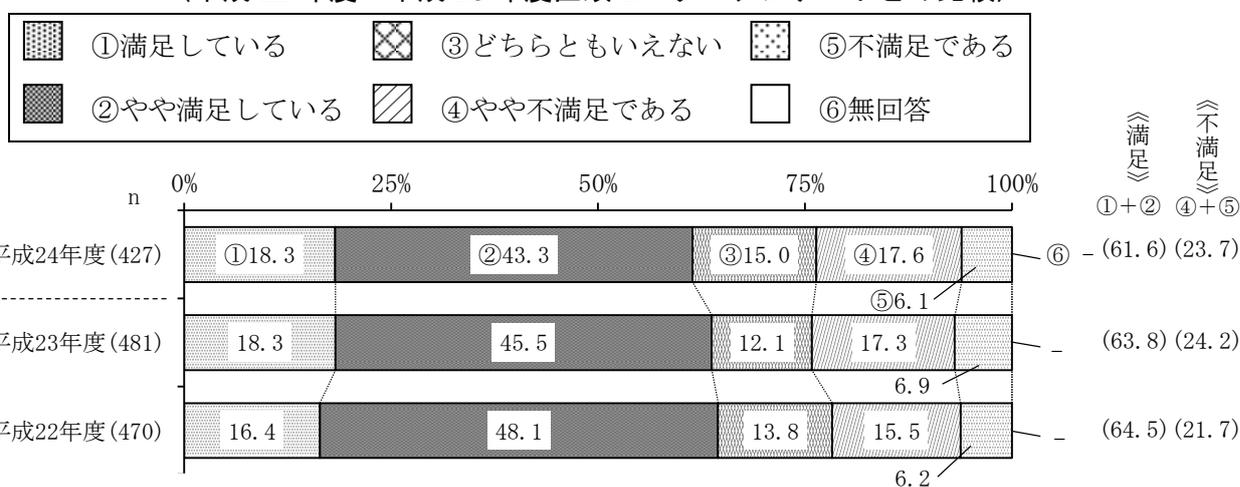
◎ 《満足》が6割強

問30-1 問30で、【1 利用している】の方
新宿区内の公園に満足していますか。(n=427)

1 満足している	18.3%
2 やや満足している	43.3
3 どちらともいえない	15.0
4 やや不満足である	17.6
5 不満足である	6.1
無回答	0.0

図4-5-6 公園の満足度

(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



公園の満足度について、「満足している」(18.3%)と「やや満足している」(43.3%)を合わせた《満足》(61.6%)は6割強、「やや不満足である」(17.6%)と「不満足である」(6.1%)を合わせた《不満足》(23.7%)は2割台半ば近くとなっている。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、《満足》が年々低くなっている。(図4-5-6)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
公園利用者満足度	公園の利用に関して満足している区民の割合	公園利用者の満足度を把握するため	55.9%	61.6%	↑

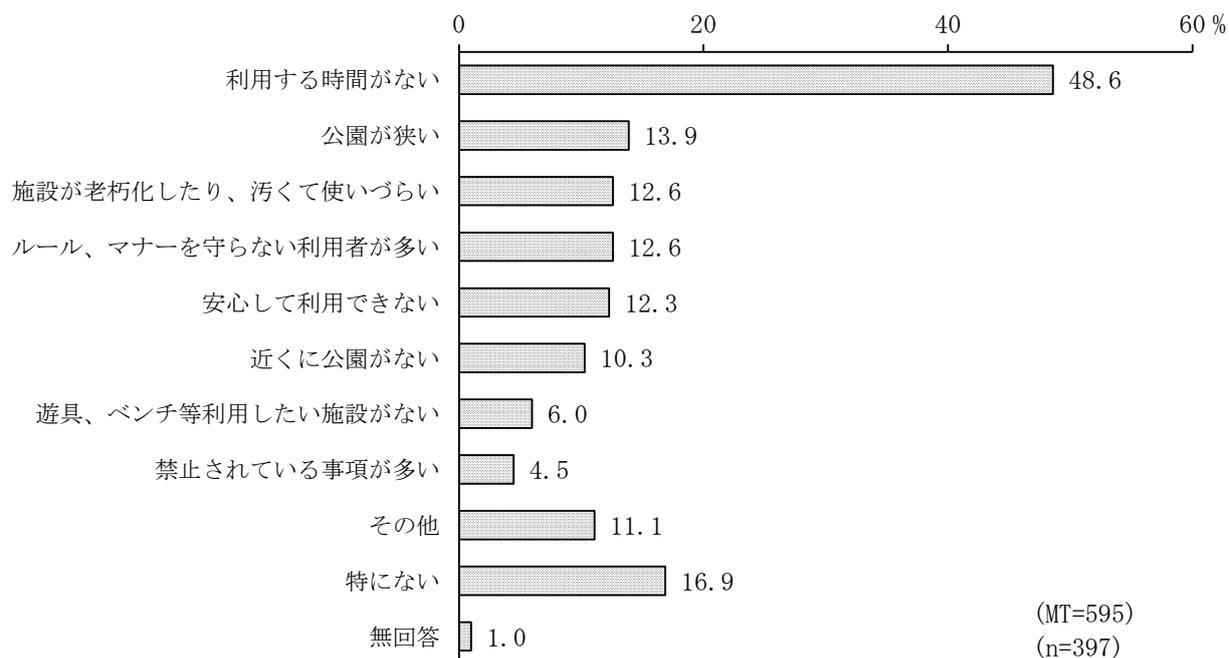
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（3）公園を利用しない理由

◎「利用する時間がない」が約5割

問30-2 問30で、【2 利用していない】の方	
あなたが公園を利用しない理由は何ですか。（複数回答可）(n=397)	
1 利用する時間がない	48.6%
2 近くに公園がない	10.3
3 公園が狭い	13.9
4 遊具、ベンチ等利用したい施設がない	6.0
5 安心して利用できない	12.3
6 施設が老朽化したり、汚くて使いづらい	12.6
7 禁止されている事項が多い	4.5
8 ルール、マナーを守らない利用者が多い	12.6
9 その他	11.1
10 特にない	16.9
無回答	1.0

図4-5-7 公園を利用しない理由



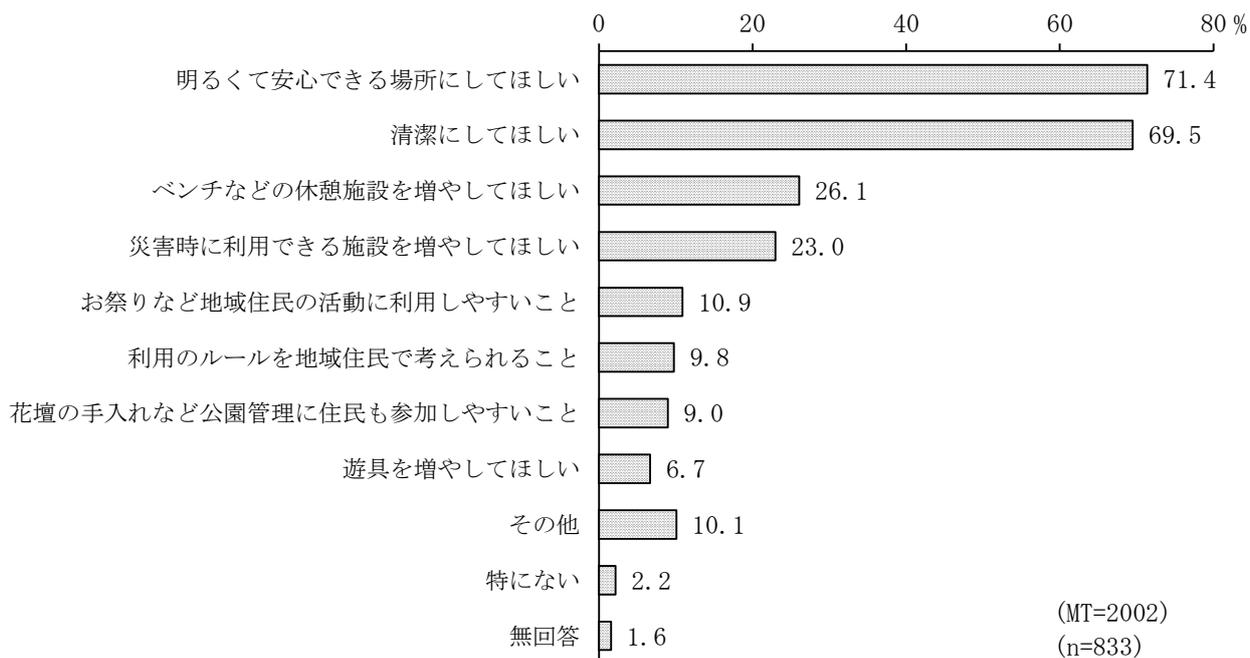
公園を利用しない理由としては、「利用する時間がない」（48.6%）が5割近くで最も高く、「公園が狭い」（13.9%）が1割台半ば近く、「施設が老朽化したり、汚くて使いづらい」（12.6%）、「ルール、マナーを守らない利用者が多い」（12.6%）、「安心して利用できない」（12.3%）がそれぞれ1割強、「近くに公園がない」（10.3%）が約1割で続いている。（図4-5-7）

(4) 地域の公園に望むこと

◎「明るくて安心できる場所にしてほしい」が7割強

問3 1 あなたが地域の公園に望むことは何ですか。(複数回答可) (n=833)	
1 清潔にしてほしい	69.5%
2 明るくて安心できる場所にしてほしい	71.4
3 遊具を増やしてほしい	6.7
4 ベンチなどの休憩施設を増やしてほしい	26.1
5 災害時に利用できる施設を増やしてほしい	23.0
6 お祭りなど地域住民の活動に利用しやすいこと	10.9
7 花壇の手入れなど公園管理に住民も参加しやすいこと	9.0
8 利用のルールを地域住民で考えられること	9.8
9 その他	10.1
10 特にない	2.2
無回答	1.6

図4-5-8 地域の公園に望むこと



地域の公園に望むことについて、「明るくて安心できる場所にしてほしい」(71.4%)が7割強で最も高く、「清潔にしてほしい」(69.5%)が7割弱で続いている。(図4-5-8)

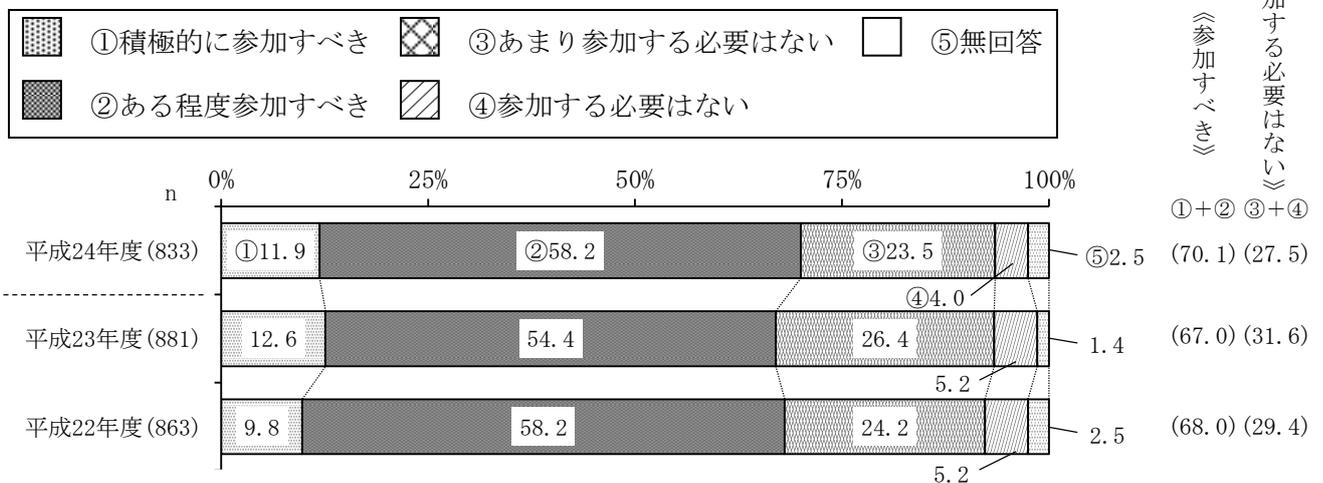
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（5）地域住民や利用者が公園の管理や運営に参加することについて

◎ 《参加すべき》が約7割

問3 2 あなたは、地域住民や利用者が公園の管理や運営に参加することについてどう思いますか。 (n=833)	
1 積極的に参加すべき	11.9%
2 ある程度参加すべき	58.2
3 あまり参加する必要はない	23.5
4 参加する必要はない	4.0
無回答	2.5

図4-5-9 地域住民や利用者が公園の管理や運営に参加することについて
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



地域住民や利用者が公園の管理や運営に参加することについて、「積極的に参加すべき」(11.9%)と「ある程度参加すべき」(58.2%)を合わせた《参加すべき》(70.1%)は約7割、「あまり参加する必要はない」(23.5%)と「参加する必要はない」(4.0%)を合わせた《参加する必要はない》(27.5%)は2割台半ばを超える。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、《参加すべき》では、平成24年度(70.1%)が平成23年度(67.0%)より3.1ポイント上回っている。

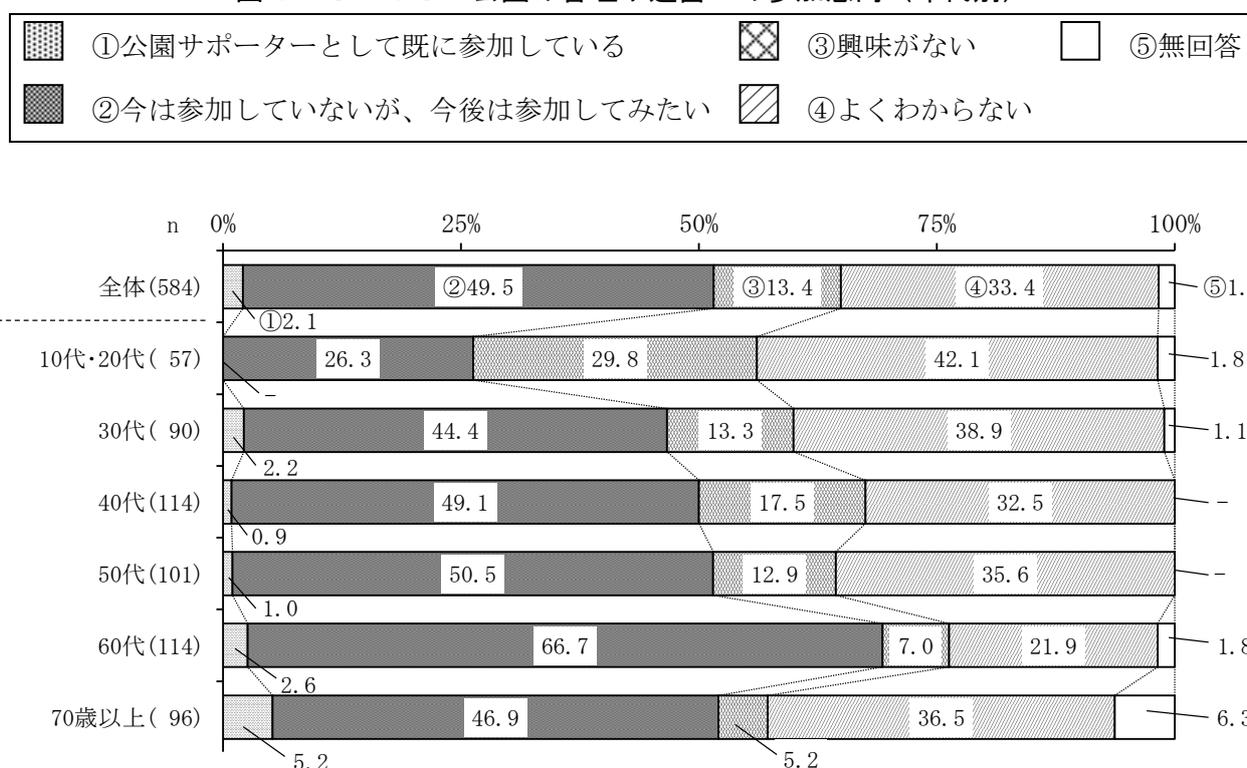
(図4-5-9)

(6) 公園の管理や運営への参加意向

◎「今は参加していないが、今後は参加してみたい」が5割弱

問32-1 問32で、【1 積極的に参加すべき】、または【2 ある程度参加すべき】の方 あなたは公園の管理や運営に参加したいですか。(n=584)	
1 公園サポーターとして既に参加している	2.1%
2 今は参加していないが、今後は参加してみたい	49.5
3 興味がない	13.4
4 よくわからない	33.4
無回答	1.7

図4-5-10 公園の管理や運営への参加意向 (年代別)



公園の管理や運営への参加意向について、「今は参加していないが、今後は参加してみたい」(49.5%)が5割弱で最も高く、以下、「よくわからない」(33.4%)、「興味が無い」(13.4%)、「公園サポーターとして既に参加している」(2.1%)の順となっている。

年代別でみると、「今は参加していないが、今後は参加してみたい」では、60代(66.7%)が6割台半ばを超え最も高く、全体(49.5%)を17.2ポイント上回っている。

「興味がない」では、10代・20代(29.8%)が3割弱で最も高く、全体(13.4%)を16.4ポイント上回っている。(図4-5-10)

基本目標Ⅵ 多様なライフスタイルが交流し、「新宿らしさ」を想像していくまち

[1] 文化・芸術

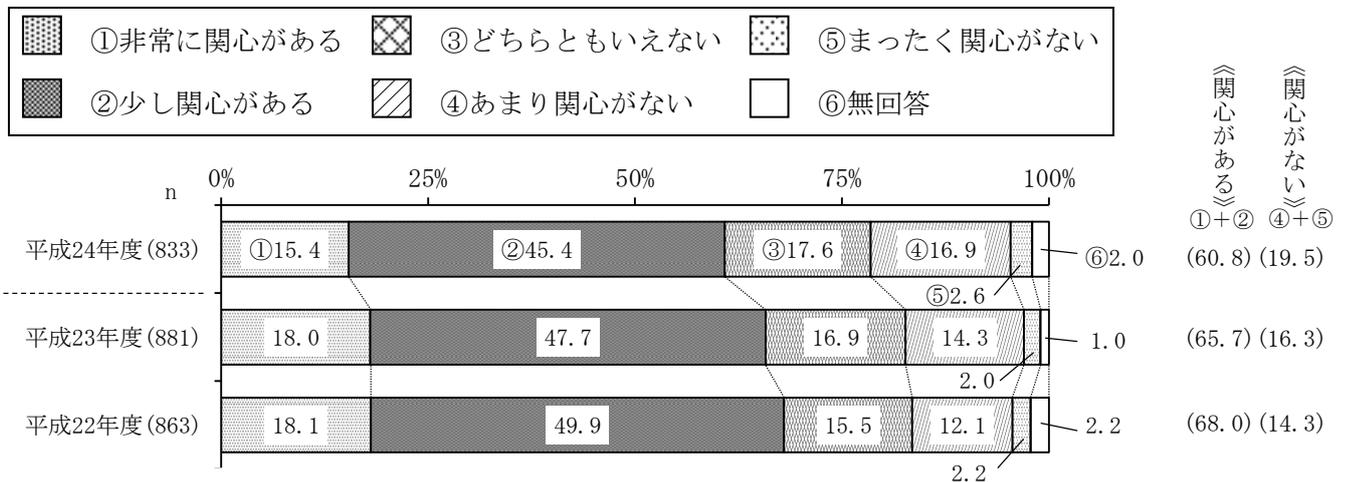
(1) 新宿区の伝統文化や文化財への関心度

◎ 《関心がある》が約6割

問33 あなたは、新宿区の伝統文化や文化財への関心がありますか。(n=833)

1 非常に関心がある	15.4%
2 少し関心がある	45.4
3 どちらともいえない	17.6
4 あまり関心がない	16.9
5 まったく関心がない	2.6
無回答	2.0

図4-6-1 新宿区の伝統文化や文化財への関心度
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



新宿区の伝統文化や文化財への関心度について、「非常に関心がある」(15.4%)と「少し関心がある」(45.4%)を合わせた《関心がある》(60.8%)は約6割、「あまり関心がない」(16.9%)と「まったく関心がない」(2.6%)を合わせた《関心がない》(19.5%)は2割弱となっている。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)の結果と比較すると、《関心がある》は年々減少している。(図4-6-1)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

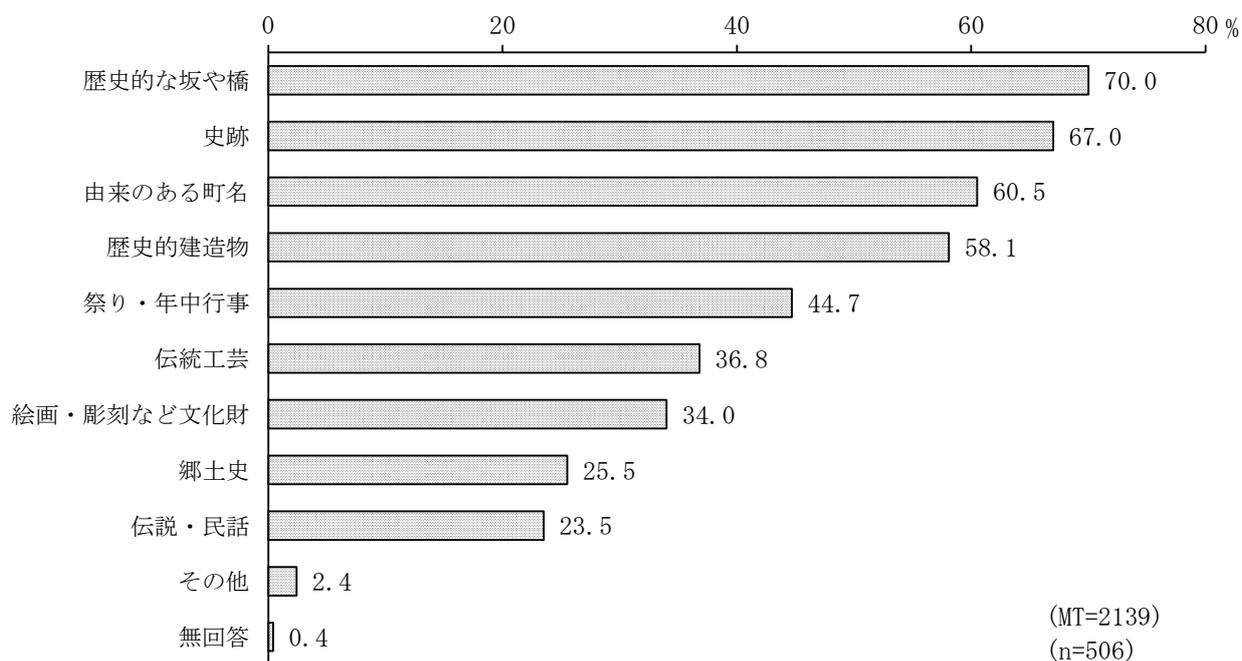
指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
区の伝統文化や文化財への関心度	区の伝統文化や文化財への関心の有無や深さ	区の伝統文化や文化財の認知度、興味の深さを示すため	69.9%	60.8%	↑

(2) 関心のある事柄

◎「歴史的な坂や橋」が7割

問33-1 問33で、【1 非常に関心がある】または、【2 少し関心がある】の方 あなたが、関心があるのはどのようなものですか。(複数回答可)(n=506)	
1 史跡 (小泉八雲終焉の地・夏目漱石誕生及び終焉の地・玉川上水跡など)	67.0%
2 歴史的建造物 (絵画館・早稲田大学の演劇博物館など)	58.1
3 由来のある町名 (高田馬場・笹塚町など)	60.5
4 歴史的な坂や橋 (神楽坂・夏目坂・面影橋など)	70.0
5 絵画・彫刻など文化財 (善国寺の毘沙門天・須賀神社の三十六歌仙絵など)	34.0
6 祭り・年中行事 (高田馬場流鏝馬・萩原社中里神楽・鉄砲組百人隊行列など)	44.7
7 郷土史	25.5
8 伝説・民話 (太田道灌の山吹の里など)	23.5
9 伝統工芸 (江戸小紋など)	36.8
10 その他	2.4
無回答	0.4

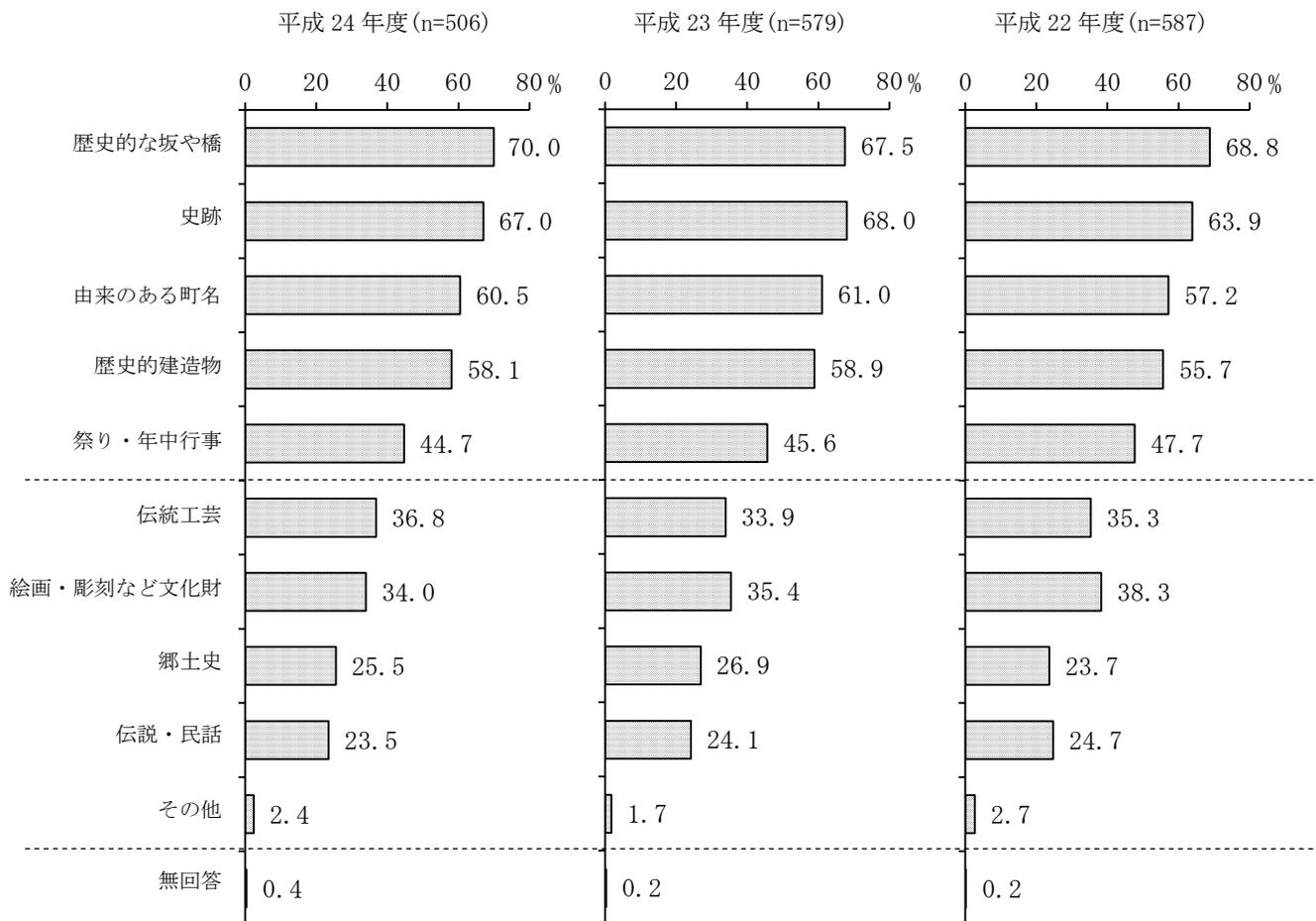
図4-6-2 関心のある事柄



関心のある事柄について、「歴史的な坂や橋 (神楽坂・夏目坂・面影橋など)」(70.0%) が7割で最も高く、「史跡 (小泉八雲終焉の地・夏目漱石誕生及び終焉の地・玉川上水跡など)」(67.0%) が6割台半ばを超え、「由来のある町名 (高田馬場・笹塚町など)」(60.5%) が約6割、「歴史的建造物 (絵画館・早稲田大学の演劇博物館など)」(58.1%) が6割近くで続いている。

(図4-6-2)

図4-6-3 関心のある事柄
 （平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較）



過去の調査結果（平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート）と比較すると、「歴史的な坂や橋（神楽坂・夏目坂・面影橋など）」、「史跡（小泉八雲終焉の地・夏目漱石誕生及び終焉の地・玉川上水跡など）」、「由来のある町名（高田馬場・笹笥町など）」、「歴史的建造物（絵画館・早稲田大学の演劇博物館など）」については、各年度とも5割を超え上位を占めている。

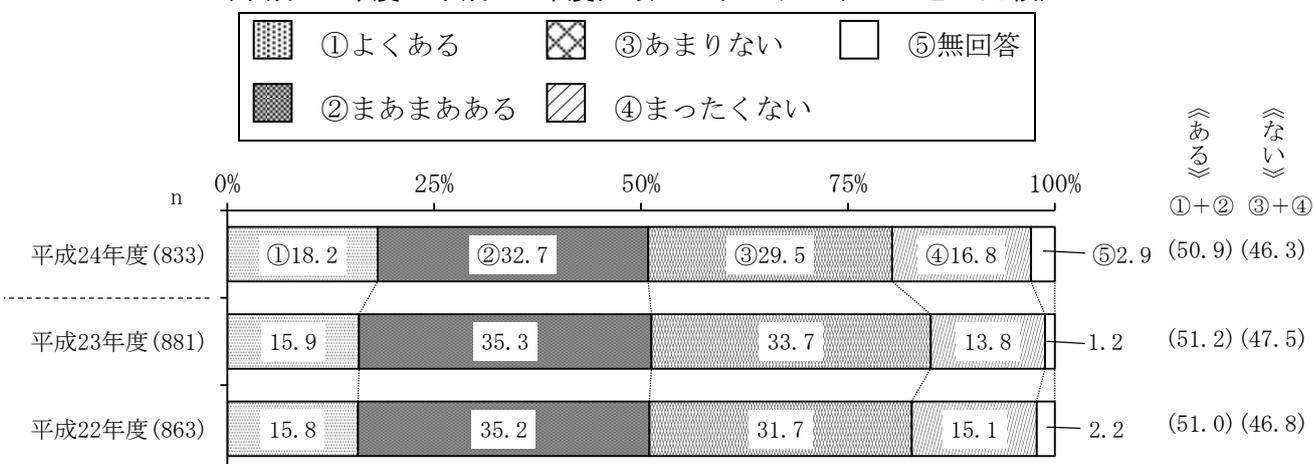
（図4-6-3）

(3) 文化・芸術に触れる機会の有無

◎ 《ある》が約5割

問34 あなたは、日頃、文化芸術の鑑賞や創作、表現活動など、文化・芸術を実際に体験する機会がありますか。(n=833)	
1 よくある	18.2%
2 まあまあある	32.7
3 あまりない	29.5
4 まったくない	16.8
無回答	2.9

図4-6-4 文化・芸術に触れる機会の有無
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



文化・芸術に触れる機会の有無について、「よくある」(18.2%)と「まあまあある」(32.7%)を合わせた《ある》(50.9%)が約5割、「あまりない」(29.5%)と「まったくない」(16.8%)を合わせた《ない》(46.3%)が4割台半ばを超える。

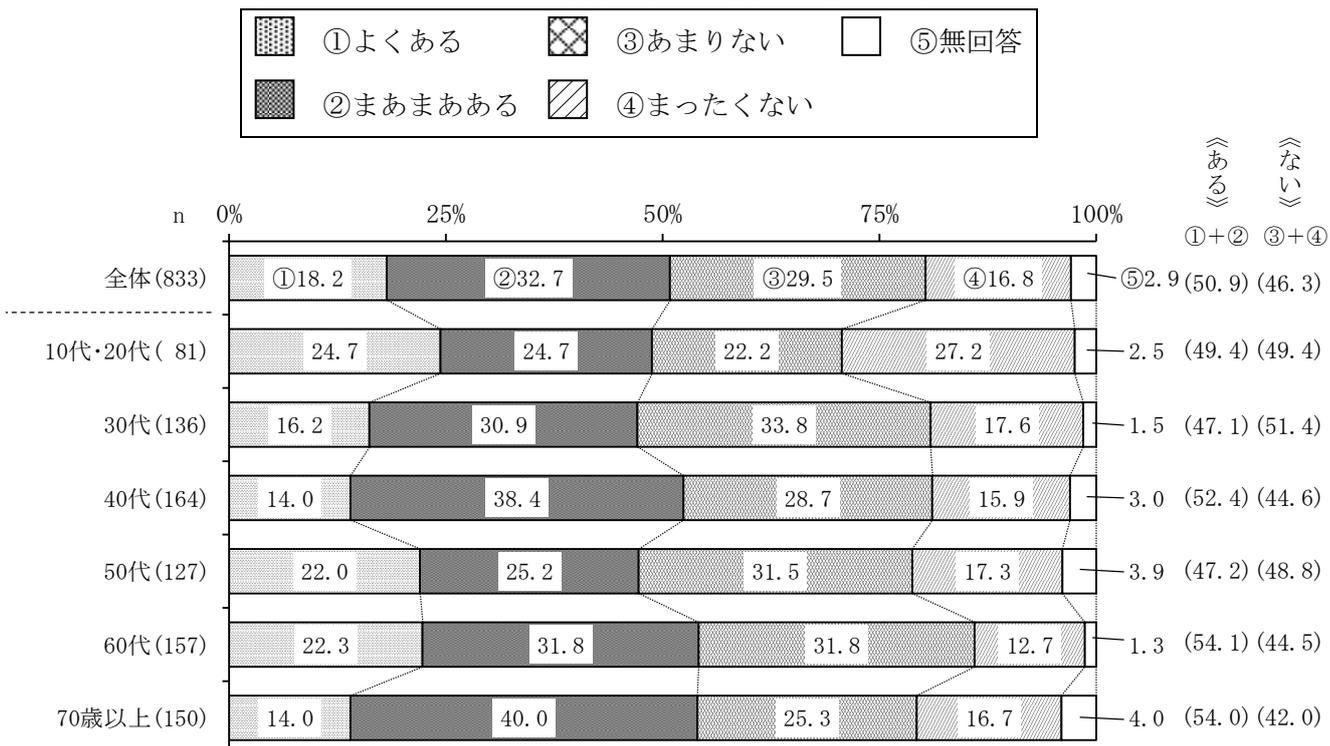
過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、《ある》は各年度ともに5割台前半、《ない》は各年度ともに4割台後半で推移している。(図4-6-4)

～参考～ 新宿区総合計画・成果指標

指標名	指標の定義	指標の選定理由	当初 (平成19年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)
文化芸術活動の状況	文化芸術の鑑賞や創作、表現活動など、文化芸術に触れる機会がある区民の割合	区民が文化芸術に接する機会があると感じているかを示すため	70.7%	50.9%	↑

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

図4-6-5 文化・芸術に触れる機会の有無（年代別）



年代別にみると、《ある》では、60代（54.1%）、70歳以上（54.0%）、が5割台半ば近く、40代（52.4%）が5割強となっている。

一方、《ない》では、30代（51.4%）が5割強、10代・20代（49.4%）が5割弱となっている。

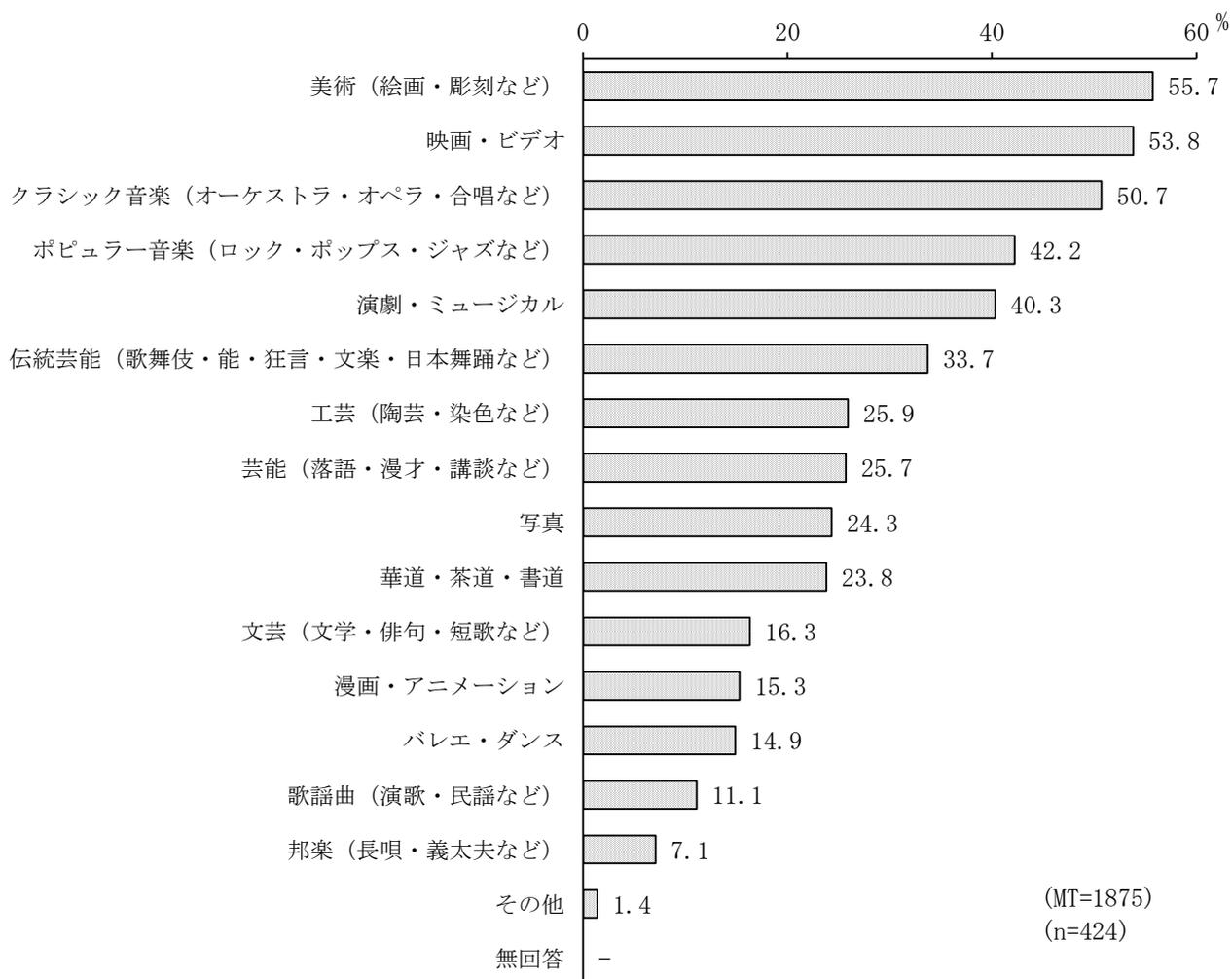
（図4-6-5）

(4) 関心のある内容

◎「美術（絵画・彫刻など）」が5割台半ば

問34-1 問34で、【1 よくある】または、【2 まあまあある】の方	
あなたが、関心があるのはどのようなものですか。(複数回答可)(n=424)	
1	クラシック音楽（オーケストラ・オペラ・合唱など） 50.7%
2	ポピュラー音楽（ロック・ポップス・ジャズなど） 42.2
3	邦楽（長唄・義太夫など） 7.1
4	歌謡曲（演歌・民謡など） 11.1
5	美術（絵画・彫刻など） 55.7
6	工芸（陶芸・染色など） 25.9
7	映画・ビデオ 53.8
8	写真 24.3
9	演劇・ミュージカル 40.3
10	バレエ・ダンス 14.9
11	伝統芸能（歌舞伎・能・狂言・文楽・日本舞踊など） 33.7
12	芸能（落語・漫才・講談など） 25.7
13	華道・茶道・書道 23.8
14	文芸（文学・俳句・短歌など） 16.3
15	漫画・アニメーション 15.3
16	その他 1.4
	無回答 0.0

図4-6-6 関心のある内容



関心のある内容について、「美術（絵画・彫刻など）」（55.7%）が5割台半ばで最も高く、「映画・ビデオ」（53.8%）、「クラシック音楽（オーケストラ・オペラ・合唱など）」（50.7%）と続く。

（図4-6-6）

(5) 「新宿フィールドミュージアム」の認知度

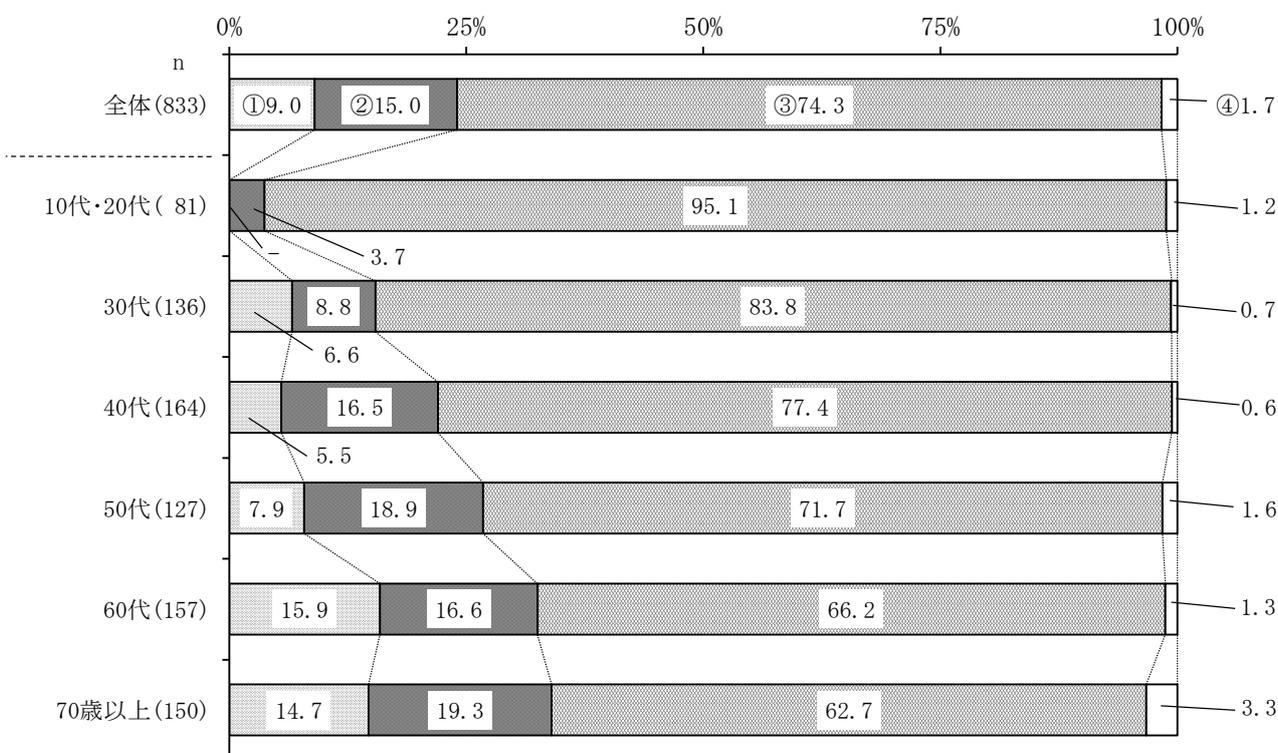
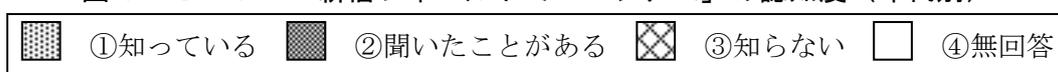
◎ 「知らない」が7割台半ば近く

問35 新宿区では、特に10月と11月を文化月間として設定し、「来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム」として多彩な文化芸術イベントを紹介しています。

あなたは、「新宿フィールドミュージアム」を知っていますか。(n=833)

1 知っている	9.0%
2 聞いたことがある	15.0
3 知らない	74.3
無回答	1.7

図4-6-7 「新宿フィールドミュージアム」の認知度（年代別）



「新宿フィールドミュージアム」の認知度について、「知らない」(74.3%)が7割台半ば近くで最も高く、「聞いたことがある」(15.0%)、「知っている」(9.0%)の順となっている。

年代別でみると、「知っている」では、60代(15.9%)が1割台半ばで最も高く、70歳以上(14.7%)が1割台半ば近くとなっている。

一方、「知らない」では、10代・20代(95.1%)が9割台半ばと、全体(74.3%)を20.8ポイント上回っている。(図4-6-7)

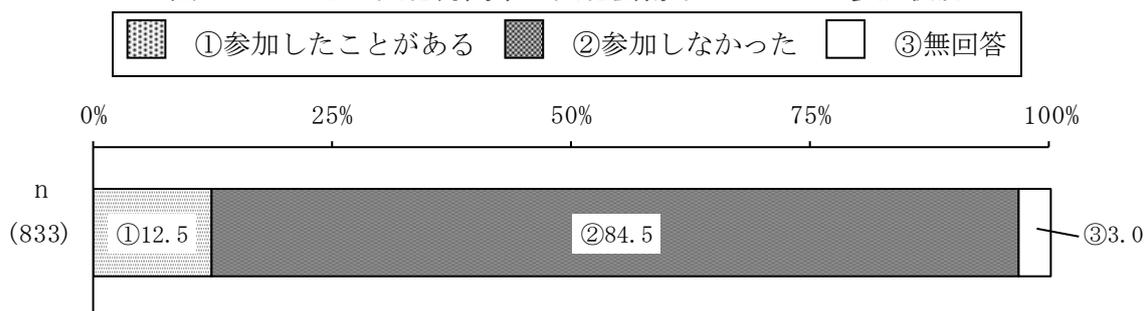
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（6）文化月間中の文化芸術イベントへの参加状況

◎「参加しなかった」が8割台半ば近く

問36 あなたは、10月～11月の文化月間中に、なんらかの文化芸術イベントに参加しましたか。	
(n=833)	
1 参加したことがある	12.5%
2 参加しなかった	84.5
無回答	3.0

図4-6-8 文化月間中の文化芸術イベントへの参加状況



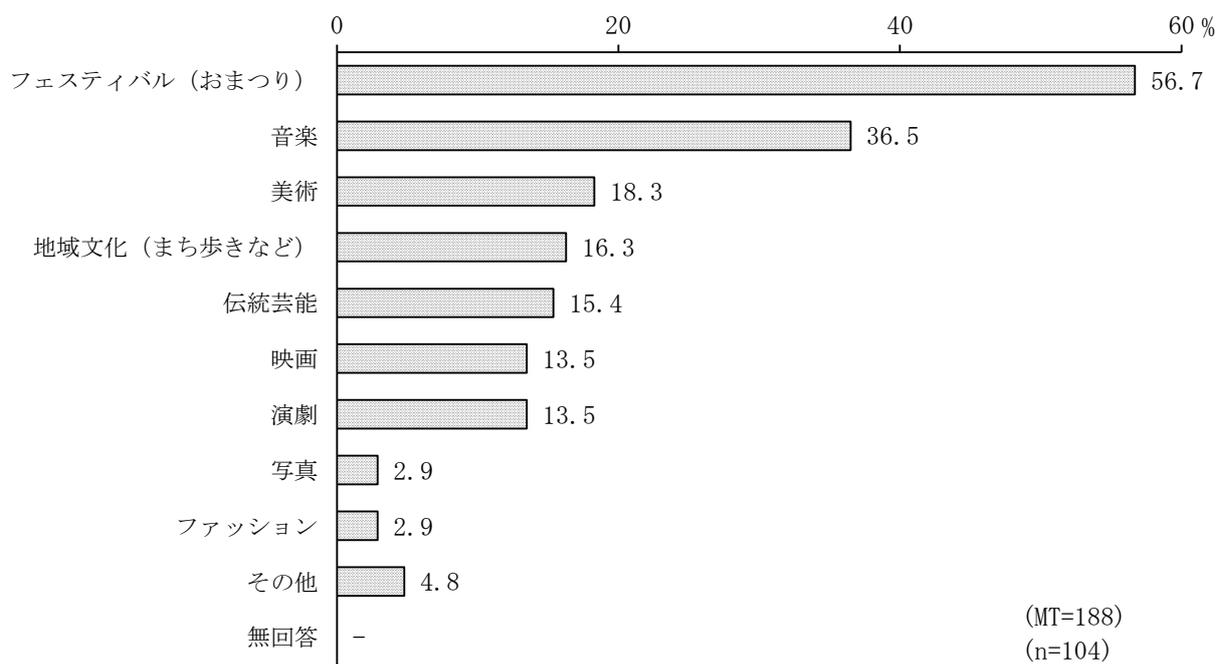
文化月間中の文化芸術イベントへの参加状況について、「参加したことがある」(12.5%)が1割強、「参加しなかった」(84.5%)が8割台半ば近くとなっている。(図4-6-8)

(7) どのようなジャンルのイベントに参加したか

◎「フェスティバル（おまつり）」が5割台半ばを超える

問36-1 問36で、【1 参加したことがある】の方	
どのようなジャンルの文化芸術イベントに参加しましたか。(複数回答可)(n=104)	
1 フェスティバル（おまつり）	56.7%
2 音楽	36.5
3 映画	13.5
4 演劇	13.5
5 美術	18.3
6 写真	2.9
7 ファッション	2.9
8 地域文化（まち歩きなど）	16.3
9 伝統芸能	15.4
10 その他	4.8
無回答	0.0

図4-6-9 どのようなジャンルのイベントに参加したか



どのようなジャンルのイベントに参加したかについて、「フェスティバル（おまつり）」(56.7%)が5割台半ばを超え最も高く、「音楽」(36.5%)が3割台半ばを超えて続く。(図4-6-9)

区政運営の目標Ⅰ 好感度一番の区役所の実現

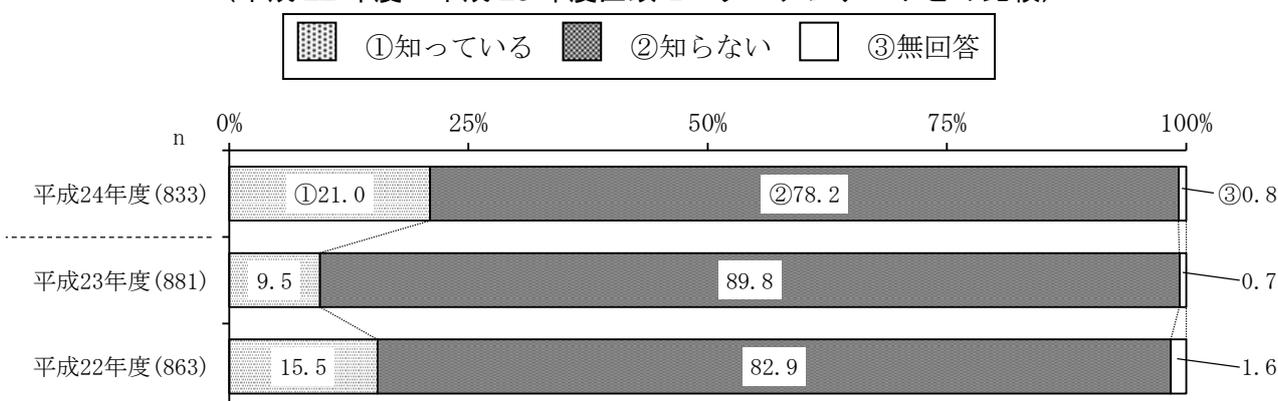
[1] しんじゅくコール（新宿区コールセンター）

(1) 「しんじゅくコール」の認知度

◎ 「知っている」が2割強

問37 あなたは、「しんじゅくコール」（新宿区コールセンター）をご存知ですか。(n=833)		
1	知っている	21.0%
2	知らない	78.2
	無回答	0.8

図4-7-1 「しんじゅくコール」の認知度
(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケートとの比較)

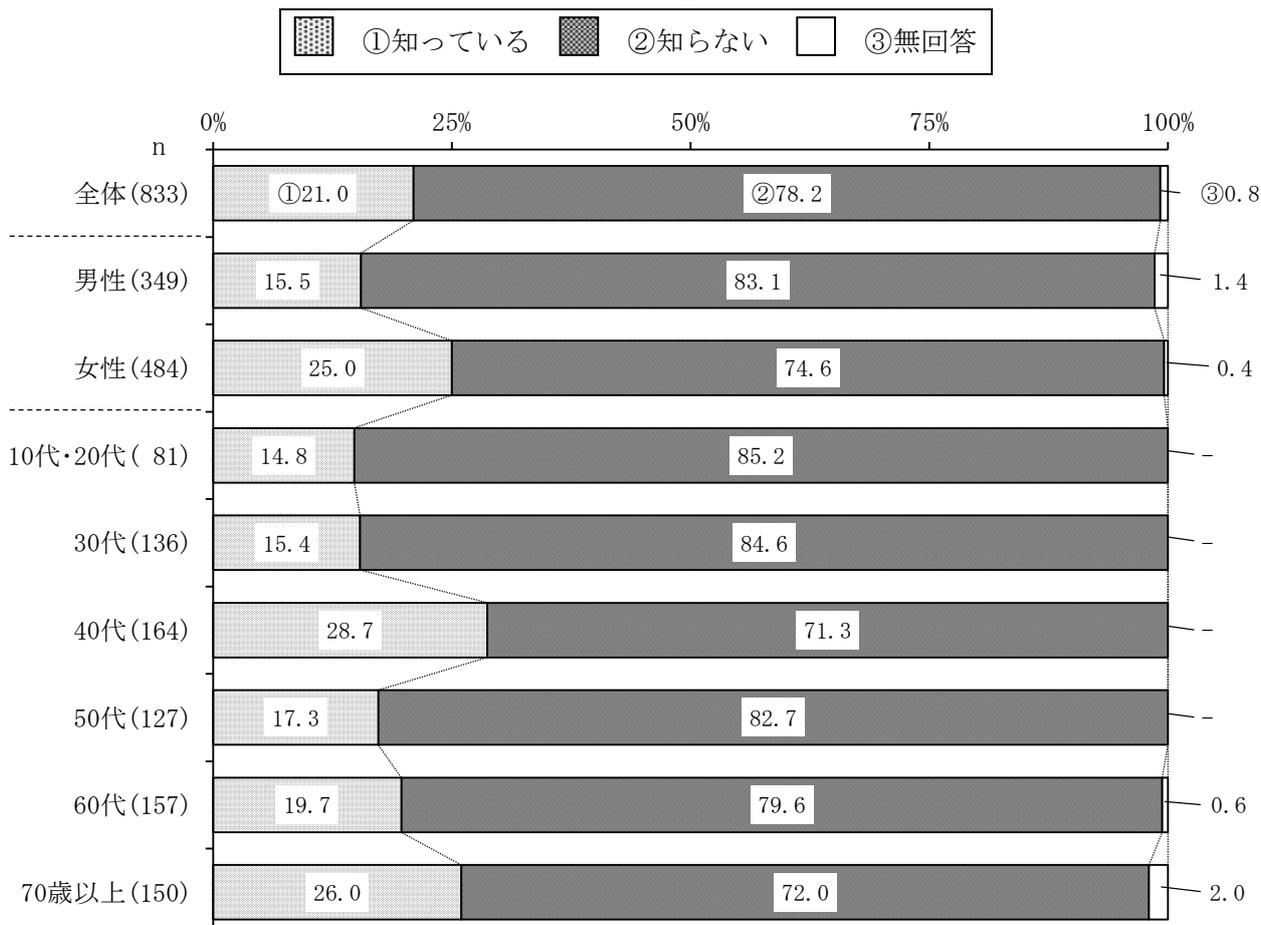


「しんじゅくコール」の認知度について、「知っている」(21.0%)が2割強、「知らない」(78.2%)が8割近くとなっている。

過去の調査結果(平成22年度・平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「知っている」では、平成24年度(21.0%)が平成23年度(9.5%)より11.5ポイント高くなっている。

(図4-7-1)

図4-7-2 「しんじゅくコール」の認知度（性別・年代別）



性別で見ると、「知っている」は女性（25.0%）が2割台半ばで、男性（15.5%）を9.5ポイント上回っている。

年代別で見ると、「知っている」では、40代（28.7%）が3割近くで最も高く、70歳以上（26.0%）では2割台半ばを超える。

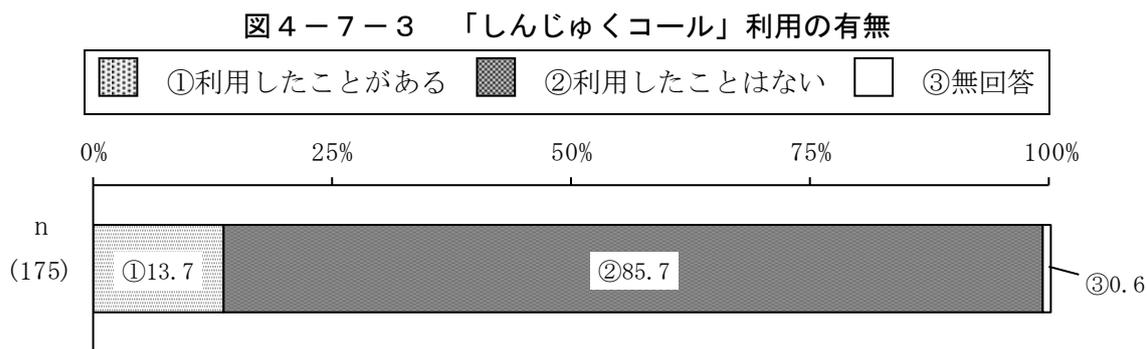
一方、「知らない」では、10代・20代（85.2%）が8割台半ばで最も高く、30代（84.6%）では8割台半ば近く、50代（82.7%）では8割強となっている。（図4-7-2）

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（2）「しんじゅくコール」利用の有無

◎「利用したことがある」が1割台半ば近く

問37-1 問37で、【1 知っている】の方	
「しんじゅくコール」をご利用になったことはありますか。(n=175)	
1 利用したことがある	13.7%
2 利用したことはない	85.7
無回答	0.6



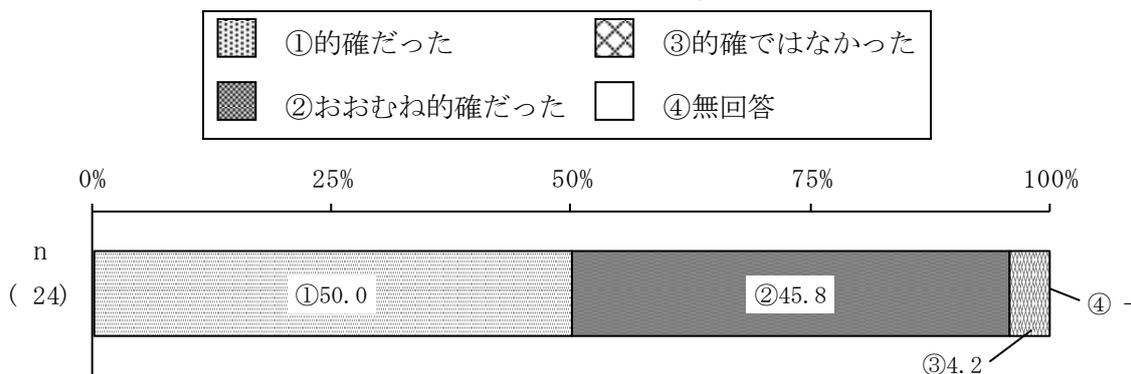
「しんじゅくコール」利用の有無について、「利用したことがある」(13.7%)が1割台半ば近く、「利用したことはない」(85.7%)が8割台半ばとなっている。(図4-7-3)

(3) オペレーターのご案内について

◎「的確だった」が5割

問37-2 問37-1で、【1 利用したことがある】の方	
オペレーターのご案内は的確でしたか。(n=24)	
1 的確だった	50.0%
2 おおむね的確だった	45.8
3 的確ではなかった	4.2
無回答	0.0

図4-7-4 オペレーターのご案内について



※基数が30以下と小数のため参考値とする。

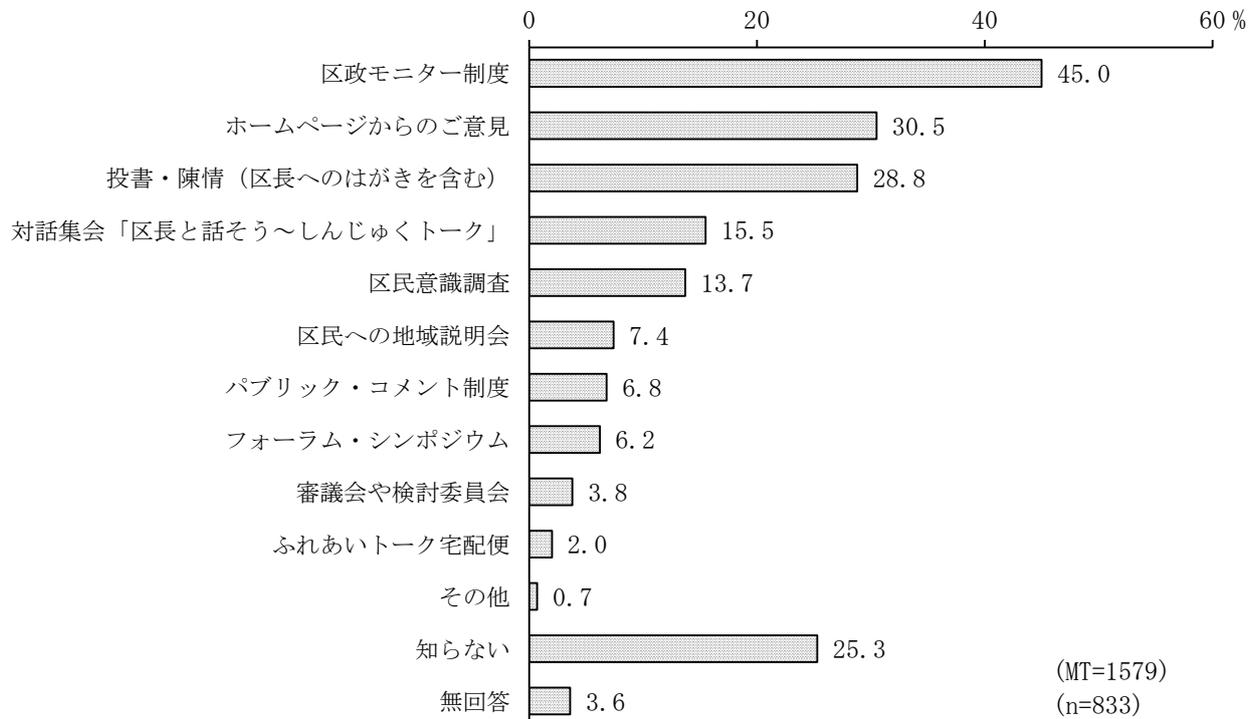
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

（4）区民意見を反映する制度やしくみの認知度

◎「区政モニター制度」が4割台半ば

問38 皆様のご意見やご要望を区政に反映するための制度、方法等の中で、あなたが実際に見たり聞いたりしたことがあるものは何ですか。（複数回答可）(n=833)		
1	投書・陳情（区長へのはがきを含む）	28.8%
2	ホームページからのご意見	30.5
3	パブリック・コメント制度	6.8
4	区民意識調査	13.7
5	区政モニター制度	45.0
6	ふれあいトーク宅配便	2.0
7	対話集会「区長と話そう～しんじゅくトーク」	15.5
8	区民への地域説明会	7.4
9	フォーラム・シンポジウム	6.2
10	審議会や検討委員会	3.8
11	その他	0.7
12	知らない	25.3
	無回答	3.6

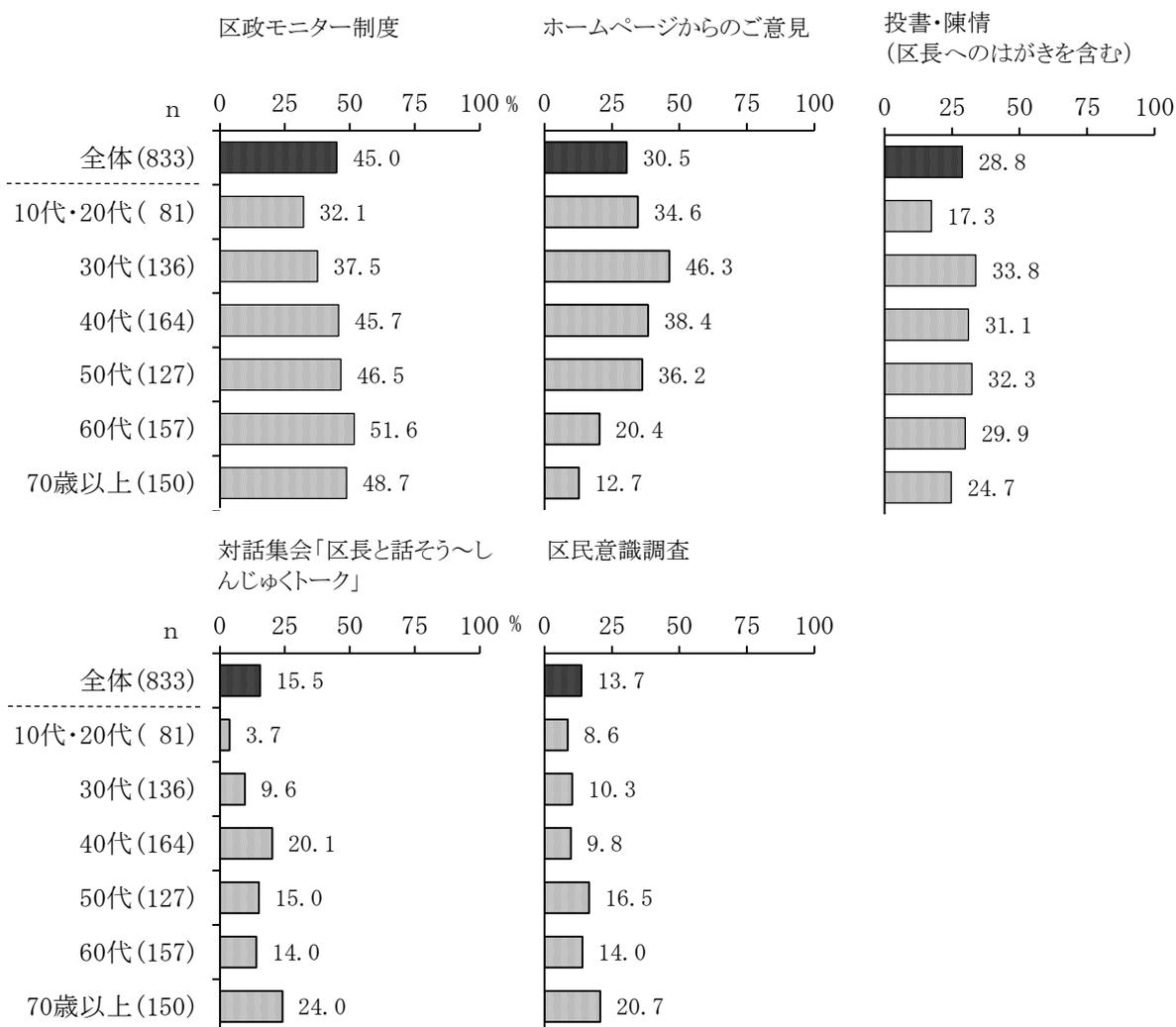
図4-7-5 区民意見を反映する制度やしくみの認知度



区民意見を反映する制度やしくみの認知度について、「区政モニター制度」（45.0%）が4割台半ばで最も高く、「ホームページからのご意見」（30.5%）が約3割、「投書・陳情（区長へのはがきを含む）」（28.8%）が3割近くで続く。

一方、「知らない」（25.3%）は2割台半ばとなっている。（図4-7-5）

図4-7-6 区民意見を反映する制度やしくみの認知度（年代別）上位5項目



上位5項目を年代別で見ると、「ホームページからのご意見」では、30代（46.3%）が4割台半ばを超え、全体（30.5%）を15.8ポイント上回っている。（図4-7-6）

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～）

<参考>区政モニターアンケートで調査する「新宿区総合計画・成果指標」の項目

指標名	指標の定義	計画当初	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)	
まちづくり編					
基本目標Ⅰ 区民が自治の主役として、考 え、行動していけるまち	地域コミュニティ活動への 参加率	地域の中でコミュニティ活動を行 なっている人の割合	46.0%	48.5%	60.0%
基本目標Ⅱ だれもが人として尊重され、 自分らしく成長していけるま ち	区民の人権に対する意識	性別、障害の有無、信条、職業、国 籍の違いにかかわらずお互いを尊 重し認め合っていると思う区民の 割合	29.7%	40.8%	↑
	男女共同参画に対する意識	家庭生活や職場、地域活動など、社 会全体で男女が平等と感じる区民 の割合	37.1%	38.2%※1	↑
	子育て支援に関する地域活 動状況	子育て支援に関する活動に参加し ている人や参加意欲を持っている 人の割合	56.5%	57.0%	70.0%
	健康に対する状態	現在の健康状態を良いと感じてい る人の割合	70.9%	74.7%	↑
	毎年の健康診断の受診	毎年健康診断を受診している人の 割合	62.7%	65.9%	↑
	心の問題について気軽に相 談できる場所の認知度	心の問題について気軽に相談でき る場所を知っている人の割合	29.5%	37.3%※2	↑
	学習・スポーツ活動の実施状 況	学習・スポーツ活動を継続的に行っ ている区民の割合	51.7%	48.7%	↑
	学校・家庭・地域が協力した 教育の取組	学校・家庭・地域が協力して教育に 取り組んでいると感じる区民の割 合	24.9%	27.6%	↑
基本目標Ⅲ 安全で安心な、質の高いくら しを実感できるまち	区民の地域福祉活動への協 働意識	「高齢者の見守りを住民同士で行 う」と考える区民の割合	8.2%	10.4%	30.0%
	介護サービスを利用した在 宅生活の継続	「介護サービスを受けたい場所」の 在宅の割合	60.4%	63.6% 66.9%※3	一般高齢者 70.0%
	障害者の社会参加のしやす さ	障害があっても積極的に社会参加 しやすいまちだと思う割合	16.2%	15.1%	↑
	高齢者で生きがいを感じて いる人の割合	高齢者で生きがいを感じている人 の割合	94.1%	92.7%	↑
	避難場所・避難所の理解度	一時集合場所、避難所、避難場所を 理解している区民の割合	23.8%	51.9%	80.0%
	家庭内の防災対策の普及	家庭内の防災対策実施率	81.5%	63.3%	90.0%
	区民の日常生活における安 心度	居住地域での犯罪への不安を感じ ない区民の割合	22.8%	41.1%	↑
	消費者問題に対する関心度	悪質商法や消費者問題に対して関 心がある区民の割合	82.5%	76.8%	↑
基本目標Ⅳ 持続可能な都市と環境を創造 するまち	道路の歩きやすさ満足度	安全で快適な歩きやすい道路だと 感じる人の割合	17.3%	21.8%	↑

※1 データ出典「平成24年度第1回区政モニターアンケート」

※2 データ出典「健康づくり区民意識調査（平成22年10月）」

※3 データ出典「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査（平成23年3月）」

※行政管理課が実施する行政評価の指標と異なる場合があります。

<参考>区政モニターアンケートで調査する「新宿区総合計画・成果指標」の項目

指標名	指標の定義	計画当初	現状 (平成24年度)	目標 (平成29年度)	
まちづくり編					
基本目標V まちの記憶を活かした美しい 新宿を創造するまち	景観に対する区民意識	まちなみや景観が良いと感じる区 民の割合	28.1%	40.0%	
	地域特性を踏まえたまちづ くり	地域の土地利用の特性を踏まえた まちづくりが行われていると感じ る区民の割合	10.1%	36.8%	
	公園利用者満足度	公園の利用に関して満足している 区民の割合	55.9%	61.6%	
基本目標VI 多様なライフスタイルが交流 し、「新宿らしさ」を創造し ていくまち	区の伝統文化や文化財への 関心度	区の伝統文化や文化財への関心の 有無や深さ	69.9%	60.8%	
	文化芸術活動の状況	文化芸術の鑑賞や創作、表現活動な ど、文化芸術に触れる機会がある区 民の割合	70.7%	50.9%	
区政運営編					
基本目標I 好感度一番の区役所の実現	接遇対応力の向上度	職員の窓口対応の印象が「良い」と 感じる人の割合	42.6%	45.7% ^{※4}	

※4 データ出典「平成24年度第2回区政モニターアンケート」

<参考>区政モニターアンケートで調査する「新宿区第二次実行計画」の主な指標

指標名	指標の定義	計画当初 (平成23年度)	現状 (平成24年度)	目標 (平成27年度)
まちづくり編				
成年後見制度の認知度	成年後見制度の内容を理解している人の割合	35.0%	43.8% ^{※4}	42.0%
配偶者からの暴力に関する認知度	「配偶者からの暴力だと思ふ行為」の認知度	58.7%	60.3% ^{※1}	80.0%
家庭生活や職場、地域活動などで男女が平等と感じる区民の割合	さまざまな分野での男女平等意識の設問で「平等である」の回答率	39.4%	21.2% ^{※1}	50.0%
食育に関心を持っている区民の増加	食育の内容を知っている人の割合	91.5%	91.6%	95.0%
ごみの発生抑制の推進	買い物の際、レジ袋を断る方が多い、もしくはほとんど受け取らない人の割合	30.6%	29.9% ^{※4}	50.0%
歌舞伎町に対する区民のイメージ	以前と比較して歌舞伎町のイメージが向上したと思ふ人の割合	30.0%	30.4% ^{※5}	34.0%
公共の空間・施設を活用した文化の発信	以前と比較して文化の発信が盛んになったと思ふ人の割合	12.0%	12.7% ^{※5}	22.0%
公共の空間・施設を活用した賑わいの創出	以前と比較して歌舞伎町が賑わいのあるまちになったと思ふ人の割合	22.0%	32.5% ^{※5}	30.0%
歌舞伎町対策の推進	以前と比較して歌舞伎町が安全になったと思ふ人の割合	26.4%	27.9% ^{※5}	30.4%
区政運営編				
ホームページの満足度	「すぐに見つかった」と回答した割合	48.0%	57.7% ^{※5}	55.0%
職員の対応満足度	新宿区職員の窓口対応（総合評価）	50.0%	45.7% ^{※4}	60.0%

※1 データ出典「平成24年度第1回区政モニターアンケート」

※4 データ出典「平成24年度第2回区政モニターアンケート」

※5 データ出典「平成24年度第3回区政モニターアンケート」

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

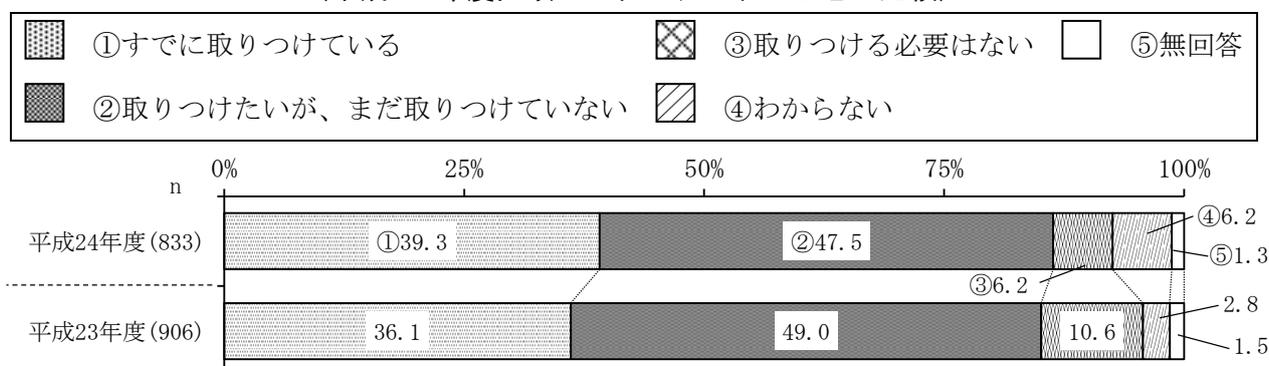
テーマ2 震災に備えて

（1）家具転倒防止器具の取り付けの意向

◎「取りつきたいが、まだ取りつけていない」が4割台半ばを超える

問39 あなたは家具転倒防止器具を取りつきたいと思いますか。(n=833)	
1	すでに取りつけている 39.3%
2	取りつきたいが、まだ取りつけていない 47.5
3	取りつける必要はない 6.2
4	わからない 6.2
	無回答 1.3

図4-8-1 家具転倒防止器具の取り付けの意向
（平成23年度区政モニターアンケートとの比較）

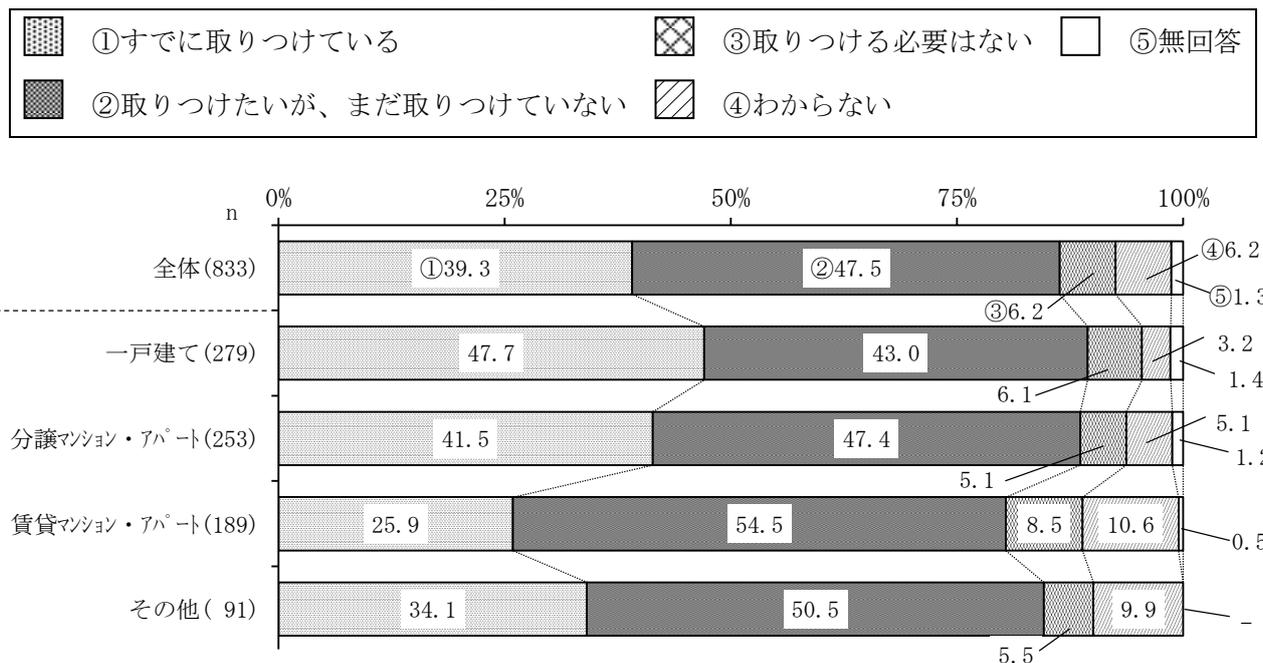


家具転倒防止器具の取り付けの意向について、「取りつきたいが、まだ取りつけていない」(47.5%)が4割台半ばを超え最も高く、「すでに取りつけている」(39.3%)が4割弱で続き、同率で「取りつける必要がない」(6.2%)、「わからない」(6.2%)の順となっている。

過去の調査結果(平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「すでに取りつけている」では、平成24年度(39.3%)が平成23年度(36.1%)より3.2ポイント高くなっている。

(図4-8-1)

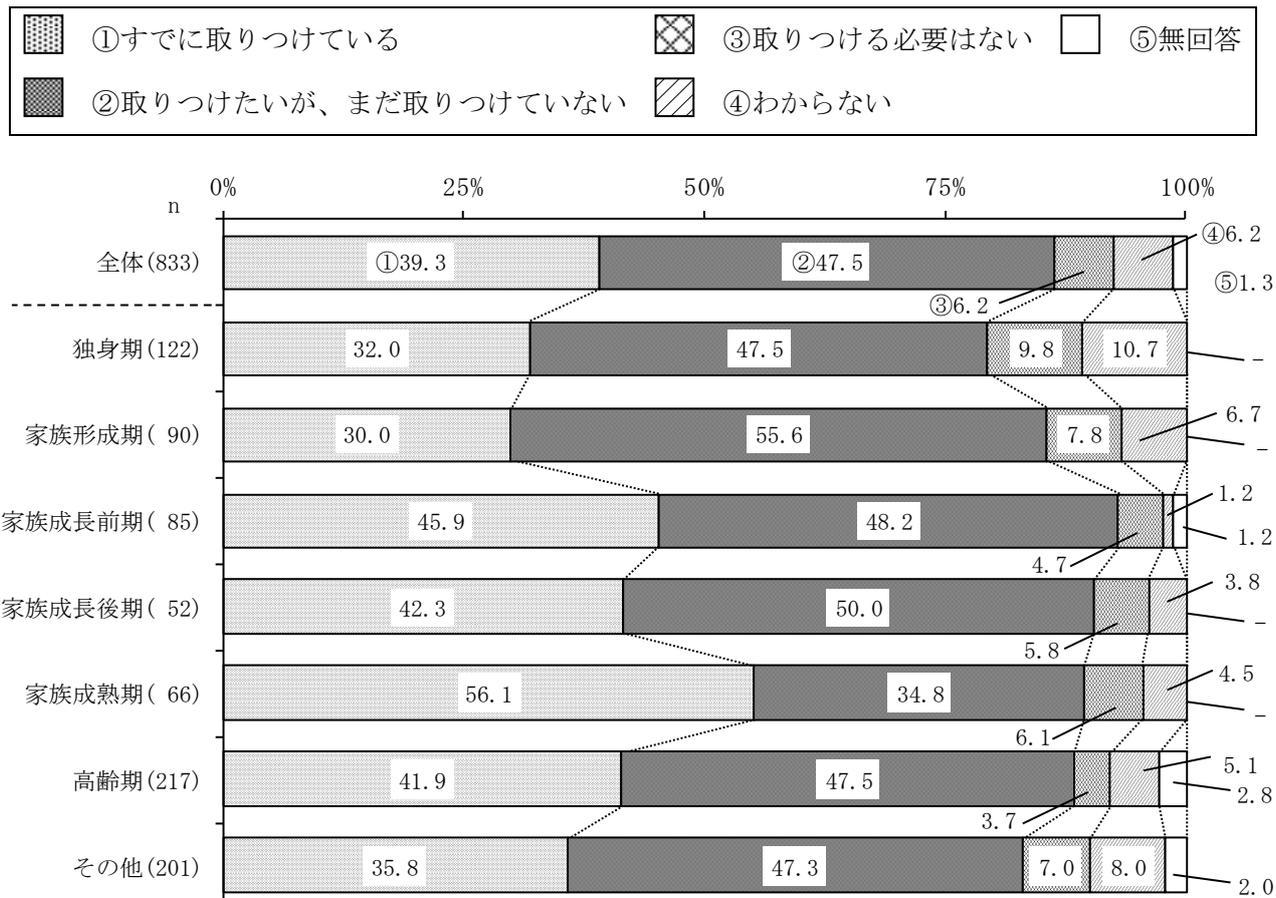
図4-8-2 家具転倒防止器具の取り付けの意向（住居形態4区分別）



住居形態4区分別にみると、「すでに取っつけている」では、一戸建て（47.7%）が4割台半ばを超え最も高く、「賃貸マンション・アパート」（25.9%）では2割台半ばと、全体（39.3%）を13.4ポイント下回っている。（図4-8-2）

II 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

図4-8-3 家具転倒防止器具の取り付けの意向（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「すでに取り付けている」では、家族成熟期(56.1%)が全体(39.3%)を16.8ポイント上回っている。

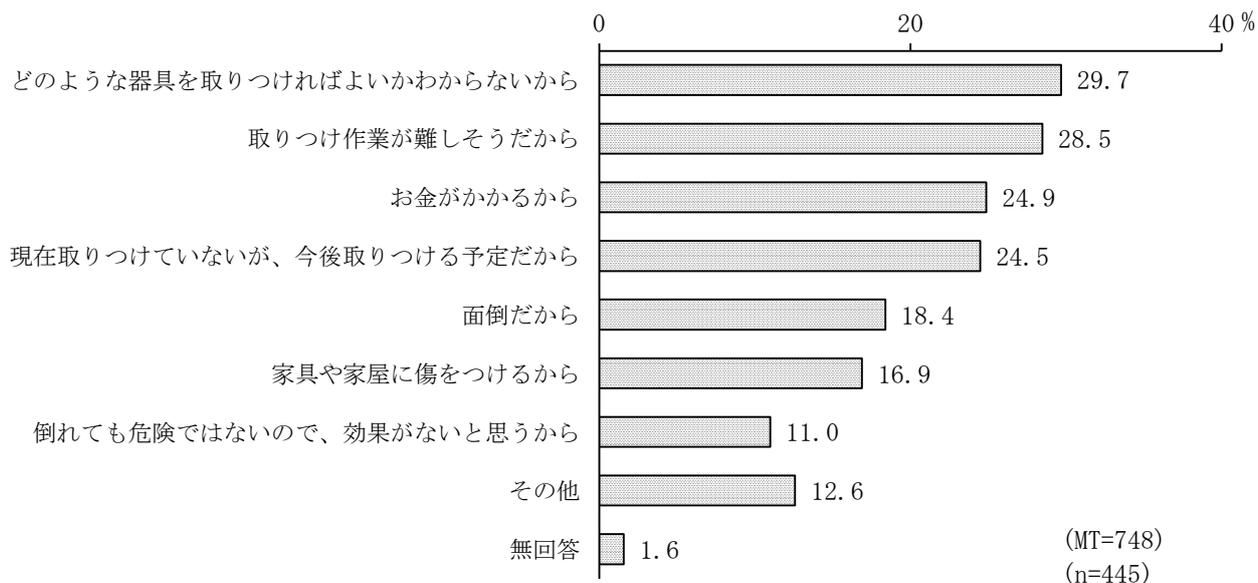
一方、家族形成期(30.0%)では3割、独身期(32.0%)では3割強と全体よりやや低い割合を示している。(図4-8-3)

(2) 家具転倒防止器具を取りつけていない理由

◎「どのような器具を取りつければよいかわからないから」が3割弱

問39-1 問39で、【2 取りつけたいが、まだ取りつけていない】または、【3 取りつける必要はない】の方	
家具転倒防止器具を取りつけていない理由はなんですか。(n=445)	
1 現在取りつけていないが、今後取りつける予定だから	24.5%
2 どのような器具を取りつければよいかわからないから	29.7
3 家具や家屋に傷をつけるから	16.9
4 取り付け作業が難しそうだから	28.5
5 お金がかかるから	24.9
6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから	11.0
7 面倒だから	18.4
8 その他	12.6
無回答	1.6

図4-8-4 家具転倒防止器具を取りつけていない理由



家具転倒防止器具を取りつけていない理由として、「どのような器具を取りつければよいかわからないから」(29.7%)が3割弱で最も高く、「取り付け作業が難しそうだから」(28.5%)が3割近く、「お金がかかるから」(24.9%)と「現在取りつけていないが、今後取りつける予定だから」(24.5%)が2割台半ば近くで続く。(図4-8-4)

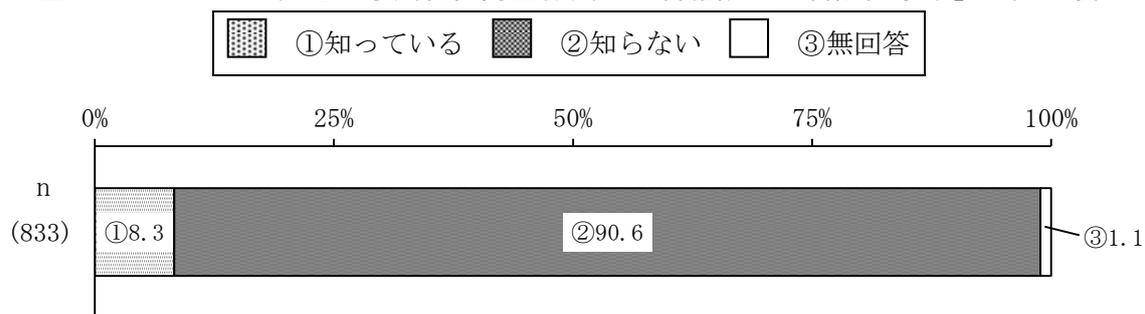
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

（3）「住宅用家具転倒防止器具の無料相談・無料設置事業」の認知度

◎「知っている」が1割近く、「知らない」が約9割

問40 あなたは区の住宅用家具転倒防止器具の無料相談・無料設置事業を知っていますか。(n=833)	
1 知っている	8.3%
2 知らない	90.6
無回答	1.1

図4-8-5 「住宅用家具転倒防止器具の無料相談・無料設置事業」の認知度



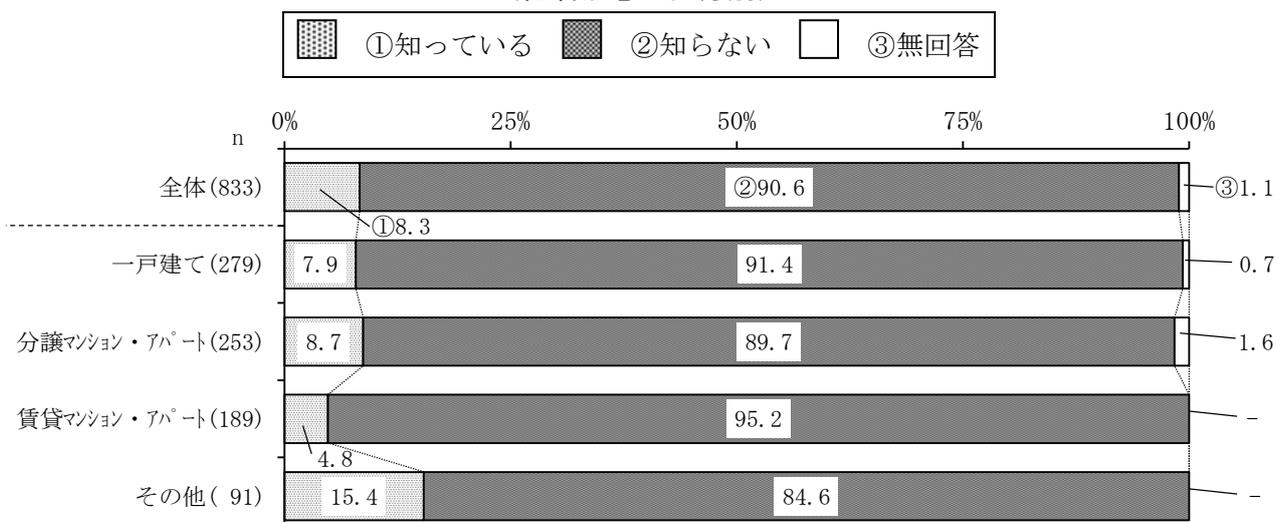
「住宅用家具転倒防止器具の無料相談・無料設置事業」の認知度について、「知っている」(8.3%)が1割近く、「知らない」(90.6%)が約9割となっている。(図4-8-5)

～ 参 考 ～

新宿区では、区内に住所を有する方を対象に、家具転倒防止器具を取りつけるための訪問相談と取り付けを無料で行っています。

(新宿区区長室 危機管理課)

図4-8-6 「住宅用家具転倒防止器具の無料相談・無料設置事業」の認知度
(住居形態4区分別)



住居形態4区分別にみると、「知らない」では、賃貸マンション・アパート（95.2%）が9割台半ば、一戸建て（91.4%）では9割強となっている。（図4-8-6）

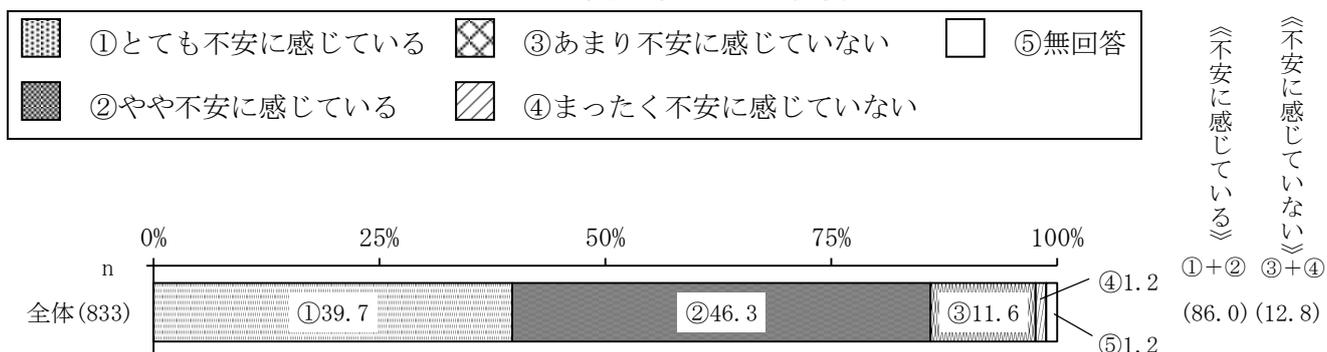
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

（4）震災時の不安の程度

◎地震が起きることについて《不安を感じている》が8割台半ばを超える

問4 1 現在お住まいの地域で地震が起きることについて、どの程度不安を感じていますか。(n=833)	
1 とても不安を感じている	39.7%
2 やや不安を感じている	46.3
3 あまり不安を感じていない	11.6
4 まったく不安を感じていない	1.2
無回答	1.2

図4-8-7 震災時の不安の程度



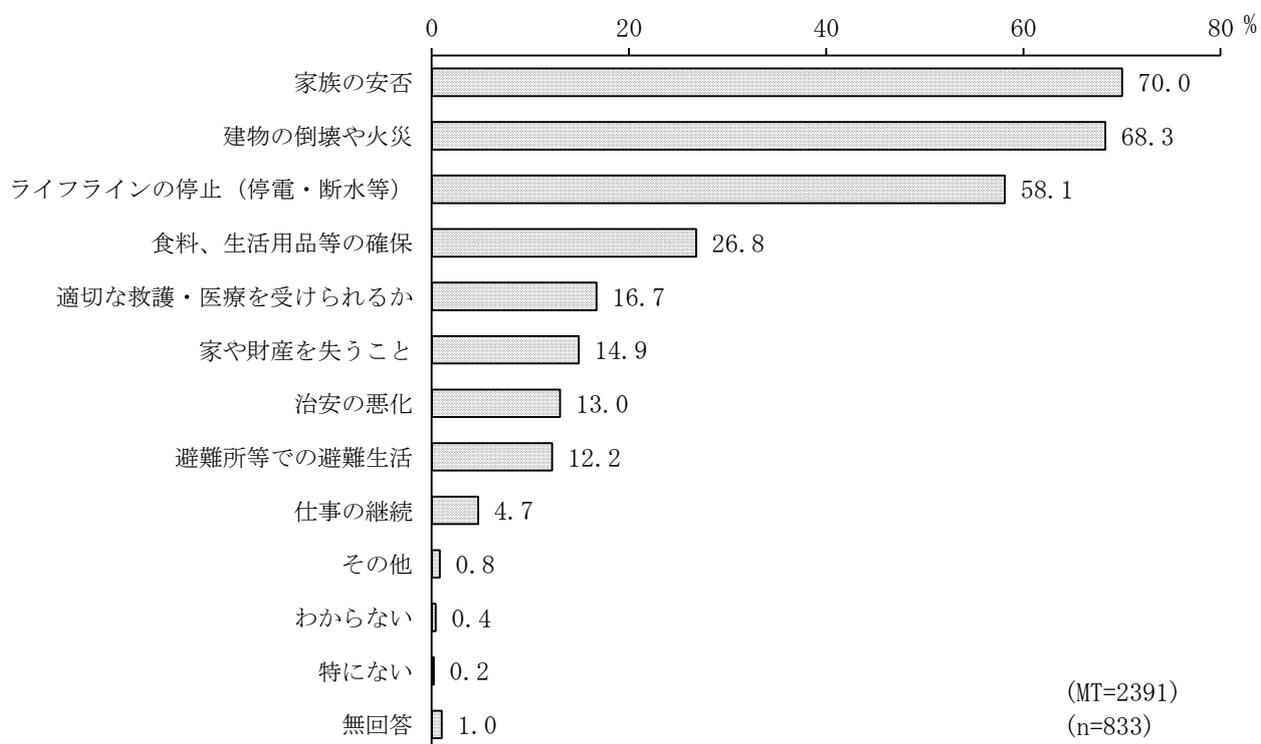
震災時の不安の程度について、「とても不安を感じている」(39.7%)と「やや不安を感じている」(46.3%)を合わせた《不安を感じている》(86.0%)が8割台半ばを超え、「あまり不安を感じていない」(11.6%)と「まったく不安を感じていない」(1.2%)を合わせた《不安を感じていない》(12.8%)が1割強となっている。(図4-8-7)

(5) 震災時に心配なこと

◎「家族の安否」が7割

問4 2 大きな地震が発生した場合、もっとも心配なことはなんですか。(複数回答可)(n=833)	
1 建物の倒壊や火災	68.3%
2 家族の安否	70.0
3 ライフラインの停止(停電・断水等)	58.1
4 食料、生活用品等の確保	26.8
5 家や財産を失うこと	14.9
6 避難所等での避難生活	12.2
7 適切な救護・医療を受けられるか	16.7
8 仕事の継続	4.7
9 治安の悪化	13.0
10 その他	0.8
11 わからない	0.4
12 特になし	0.2
無回答	1.0

図4-8-8 震災時に心配なこと



震災時に心配なことについて、「家族の安否」(70.0%)が7割で最も高く、「建物の倒壊や火災」(68.3%)が7割近く、「ライフラインの停止(停電・断水等)」(58.1%)が6割近くで続く。

(図4-8-8)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

図4-8-9 震災時に心配なこと
 (問4-1 震災時の不安の程度別) 上位5項目

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
とても不安に感じている (n=331)	建物の倒壊や火災 78.9%	家族の安否 72.2%	ライフラインの停止 (停電・断水等) 56.2%	食料、生活用品等の確保 21.8%	適切な救護・医療を受けられるか 17.5%
やや不安に感じている (n=386)	家族の安否 71.8%	建物の倒壊や火災 65.0%	ライフラインの停止 (停電・断水等) 60.9%	食料、生活用品等の確保 30.1%	適切な救護・医療を受けられるか 17.6%
あまり不安に感じていない (n=97)	家族の安否 61.9%	ライフラインの停止 (停電・断水等) 60.8%	建物の倒壊や火災 55.7%	食料、生活用品等の確保 30.9%	家や財産を失うこと 避難所等での避難生活 (同率) 14.4%
まったく不安に感じていない (n=10)	家族の安否 60.0%	食料、生活用品等の確保 50.0%	ライフラインの停止 (停電・断水等) 40.0%	建物の倒壊や火災・治安の悪化 (同率) 20.0%	

上位5項目について、問4-1「震災時の不安の程度」の回答別（震災時の不安の程度別）でみると、不安の程度が「とても不安に感じている」では、「建物の倒壊や火災」（78.9%）が8割近くで最も高く、「家族の安否」（72.2%）では7割強で続く

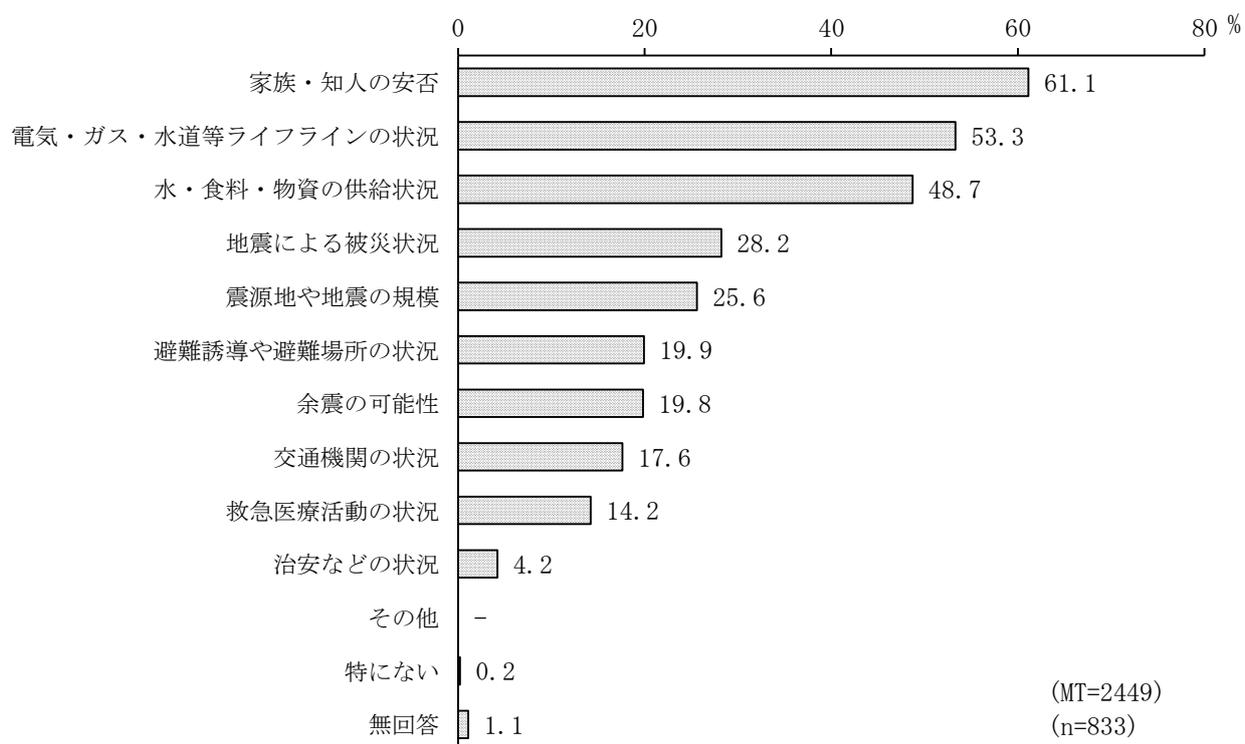
不安の程度が「やや不安に感じている」では、「家族の安否」（71.8%）が7割強で最も高く、「建物の倒壊や火災」（65.0%）が6割台半ばで続く。（図4-8-9）

(6) 地震発生時に得たい情報

◎「家族・知人の安否」が6割強

問43 大きな地震が発生した場合、どのような情報を得たいと思いますか。(複数回答可)(n=833)	
1 震源地や地震の規模	25.6%
2 余震の可能性	19.8
3 地震による被災状況	28.2
4 交通機関の状況	17.6
5 電気・ガス・水道等ライフラインの状況	53.3
6 家族・知人の安否	61.1
7 避難誘導や避難場所の状況	19.9
8 水・食料・物資の供給状況	48.7
9 救急医療活動の状況	14.2
10 治安などの状況	4.2
11 その他	0.0
12 特にない	0.2
無回答	1.1

図4-8-10 地震発生時に得たい情報



地震発生時に得たい情報について、「家族・知人の安否」(61.1%)が6割強で最も高く、「電気・ガス・水道等ライフラインの状況」(53.3%)が5割台半ば近く、「水・食料・物資の供給状況」(48.7%)5割近くで続く。(図4-8-10)

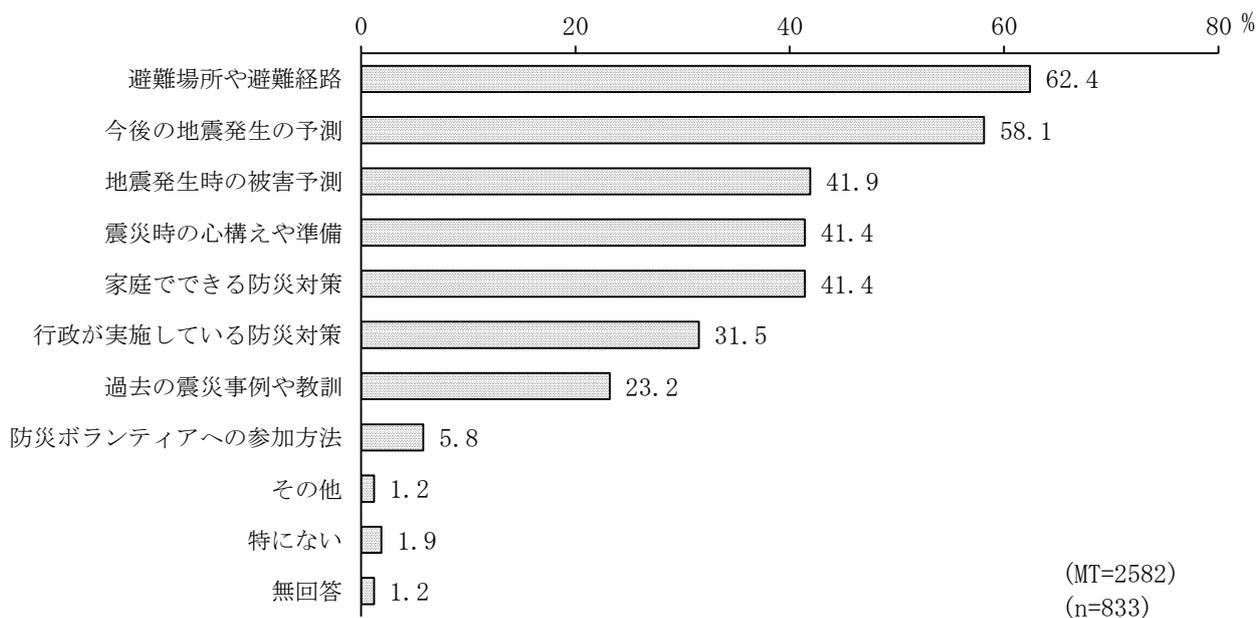
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

（7）震災について、日頃から得たい情報

◎「避難場所や避難経路」が6割強

問4-4 あなたは震災について、日頃からどのような情報を得たいと思いますか。 (複数回答可) (n=833)	
1 過去の震災事例や教訓	23.2%
2 今後の地震発生の予測	58.1
3 地震発生時の被害予測	41.9
4 震災時の心構えや準備	41.4
5 避難場所や避難経路	62.4
6 家庭でできる防災対策	41.4
7 行政が実施している防災対策	31.5
8 防災ボランティアへの参加方法	5.8
9 その他	1.2
10 特にない	1.9
無回答	1.2

図4-8-11 震災について、日頃から得たい情報



震災について、日頃から得たい情報について、「避難場所や避難経路」(62.4%)が6割強で最も高く、「今後の地震発生の予測」(58.1%)が6割近く、「地震発生時の被害予測」(41.9%)、「震災時の心構えや準備」(41.4%)、「家庭でできる防災対策」(41.4%)がそれぞれ4割強で続く。

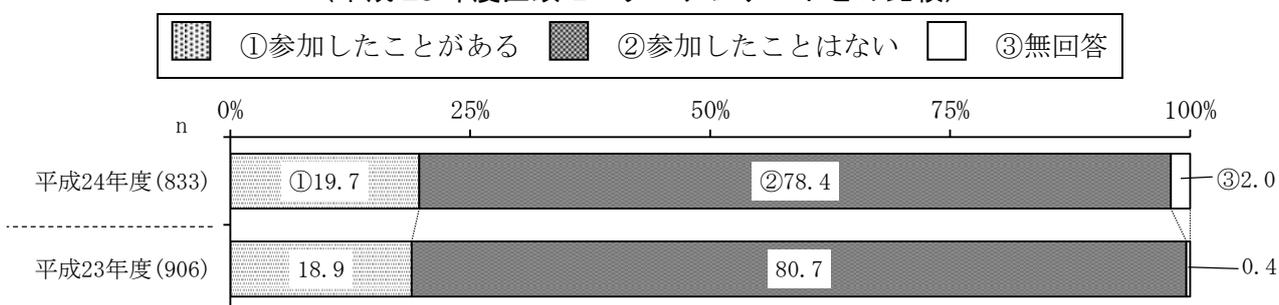
(図4-8-11)

(8) 防災訓練への参加状況

◎「参加したことがある」が2割弱、「参加したことはない」は7割台半ばを超える

問45 新宿区では、避難所防災訓練や町会等の単位で実施される自主防災訓練など、多くの防災訓練が実施されています。		
あなたはこうした防災訓練に参加したことがありますか。(n=833)		
1	参加したことがある	19.7%
2	参加したことはない	78.4
	無回答	2.0

図4-8-12 防災訓練への参加状況
(平成23年度区政モニターアンケートとの比較)

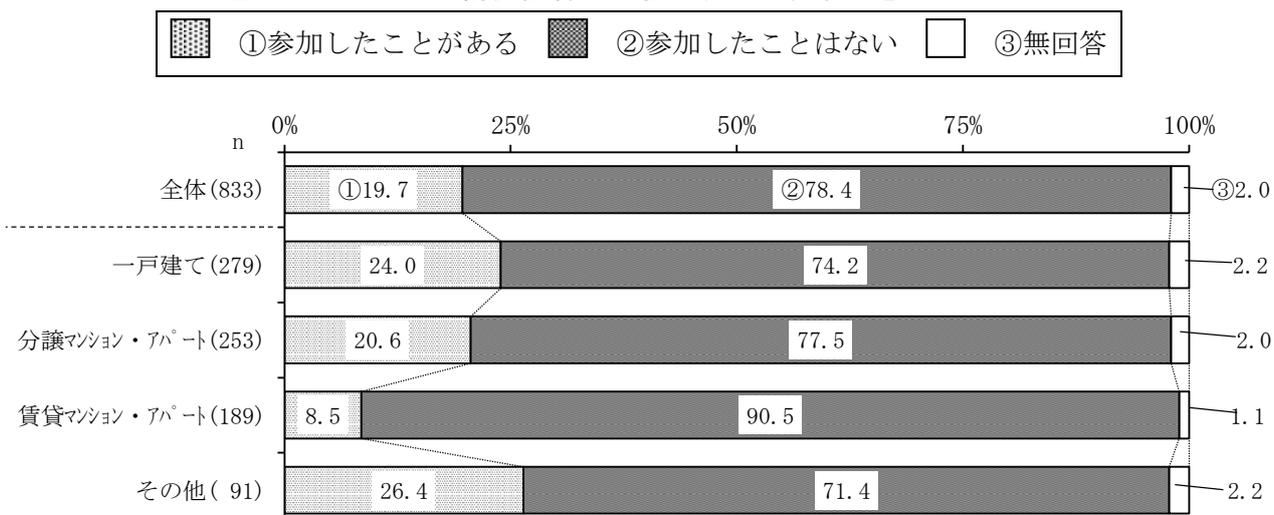


防災訓練への参加状況について、「参加したことがある」(19.7%)が2割弱、「参加したことはない」(78.4%)が8割近くとなっている。

過去の調査結果(平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、大きな差異はみられない。(図4-8-12)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

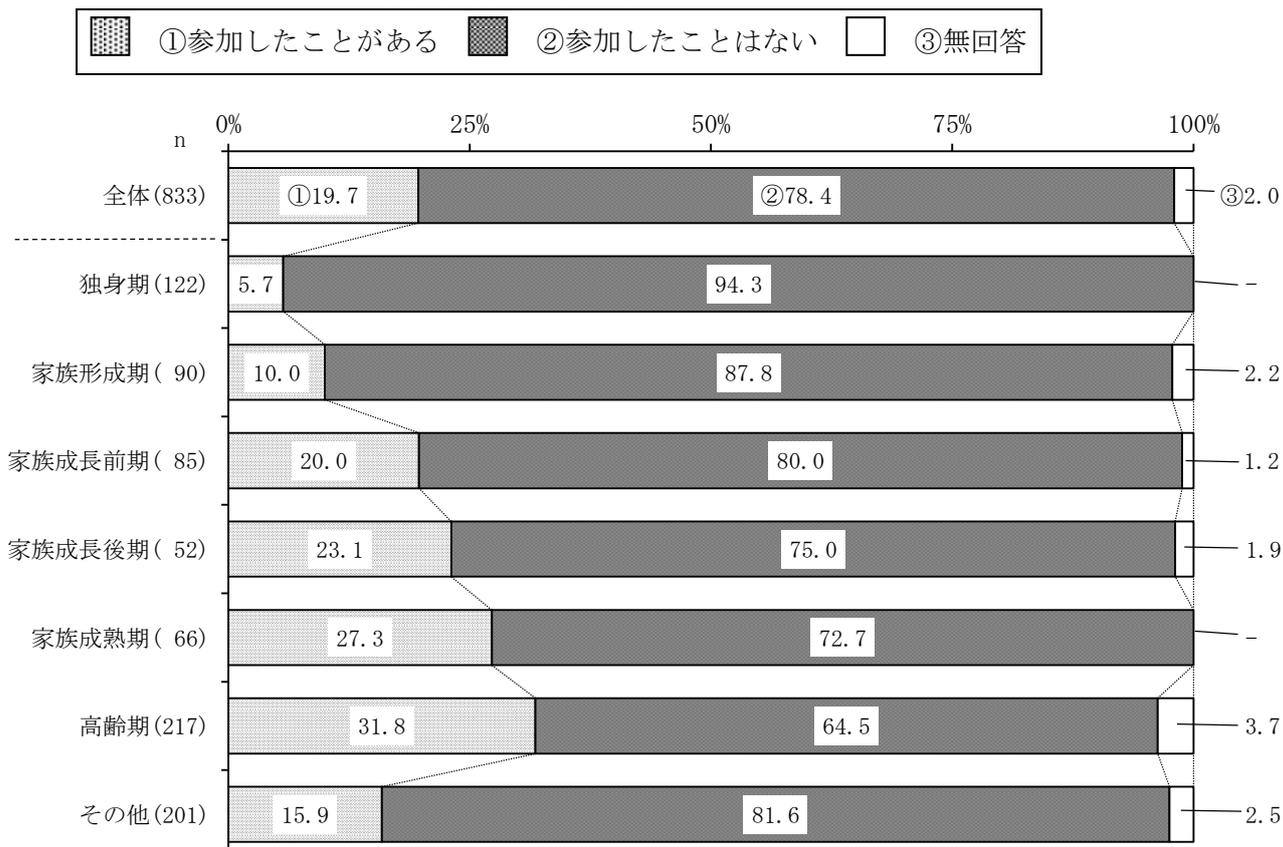
図4-8-13 防災訓練への参加状況（住居形態4区分別）



住居形態4区分別にみると、「参加したことがある」は、一戸建て（24.0%）が全体（19.7%）を4.3ポイント上回っている。

「参加したことはない」では、賃貸マンション・アパート（90.5%）が約9割と、全体（78.4%）を12.1ポイント上回っている。（図4-8-13）

図4-8-14 防災訓練への参加状況（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「参加したことがある」では、高齢期（31.8%）が3割強で最も高く、「家族成熟期」（27.3%）では2割台半ばを超える。

一方、「参加したことはない」では、独身期（94.3%）が9割台半ば近くと、全体（78.4%）を15.9ポイント上回り、「家族形成期」（87.8%）では8割台半ばを超える。（図4-8-14）

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

（9）防災訓練の改善点

問45-1 参加したことがある防災訓練について、改善した方がよいと思われる点があれば教えてください。（自由記述）

★自由記述（抜粋）★

- ・ いろんな場所で、規模を問わずやってほしい。単なるイベントになっていることが多い。
- ・ 消火訓練は実際に火を使って、体験した方が良い。
- ・ 日勤の方の参加がない。また、高齢者、一人住まいの方の参加がない。毎回同じ方の参加が多い。
- ・ 消火活動体験で消火器を使って練習できたことが役に立った。
- ・ 大学の指導で、のんびり防災訓練をするが、現実に役にたつのか。
- ・ 参加者がいつも高年齢の方ばかり。若年齢の人が多く参加することを希望する。
- ・ マンション単位での消火訓練、緊急処置講習を受けた。分かりやすく良かった。
- ・ あまりにも形式的。マンションなので全員参加、全員協力なしには無意味。勝手、協力、協調など全くしない人間が増加している。
- ・ 住民の意識の向上をどうあげるか。
- ・ 救命救急の方法としてAEDの使用を指導しているが、実際に体験できる人が1人や2人程度なので、もっと大勢の人ができれば良いのではないか。
- ・ 参加者がお互いのコミュニケーション力で話し合いをして、災害時の助け合いミニゲーム（ロールプレイ）をしてみると良いのでは。
- ・ 町会単位の訓練だったが、実際には見知らぬ方が多く、現実になった時は避難所などで連帯感が生じるものかと不安になった。
- ・ くり返し定期的を実施することが大切だと思う。
- ・ お祭り感覚にみえた。ひととおりの避難をして終わるので意味がない。
- ・ 訓練しても、実際に大災害が起こった時、役に立たないと思うので、もっと別のことを訓練した方が良いのではと感じる。
- ・ 大きな災害時には、自分のことで精一杯で、高齢者や歩けない人の手助けは、どうしても良い方法が見つからない。
- ・ 地域での訓練に参加した。区の訓練の参加方法は知らない。応急処置（AED）など知りたい。
- ・ 避難経路、物資の配布のことを、的確に説明してほしい。
- ・ マンションのフロア集合場所や、一階までの避難訓練にとどまっているので、そこから小学校や公園への避難までをシミュレーションしてほしい。
- ・ 物資の貯蔵量を増やした方が良い。
- ・ 参加者は一部の住民のみで、本当に起きた時に避難する人々の数を考えると不安になる。
- ・ 災害が起きた時の状態を体験することができたが、弱者（子供、老人、病人）にはとても厳しい環境になると思う。その辺のケアを厚くしなくてはならないので可能な限り、スペースあるいはプライバシー保護等配慮が必要。
- ・ 火災が起きたら煙で、逃げられないし、ビルが高いと大変だと実際に体験した。身体の弱い人には無理だと思う。
- ・ 町会の役員が参加者に多く、もっと一般区民が多く参加しないといけないと思った。

- ・ 町内に住んでいる人の参加（アパート、マンションを含む）、連絡の徹底、参加者の拡大が重要。
- ・ 防災訓練を行うに当たってのアナウンスをしっかりとやって参加者の増加を図るべきだと思う。
- ・ ほとんどの人がトイレなどを見学して、アルファ化米のご飯ができるのをボーっとみているだけだった。実際に参加者みんなが何か体験できると良い。
- ・ 参加者が多すぎて、やってみたい訓練ができなかった。
- ・ 町会委員等誘導をする人に高齢者が多いので、もっと若い人が訓練に参加してもらえるように日程等、工夫してもらいたいと思う。若い人が先に立って活動してもらえると良いと思う。
- ・ 毎回内容が重複している。必要な話を何度もするのは仕方ないかも知れないが、毎回参加する意味がないのではないかと思ってしまう。
- ・ 避難所防災訓練をした時、年齢の差があり歩幅が揃わないので、足許が危なかった。号令を掛ける人がほしいと思った。

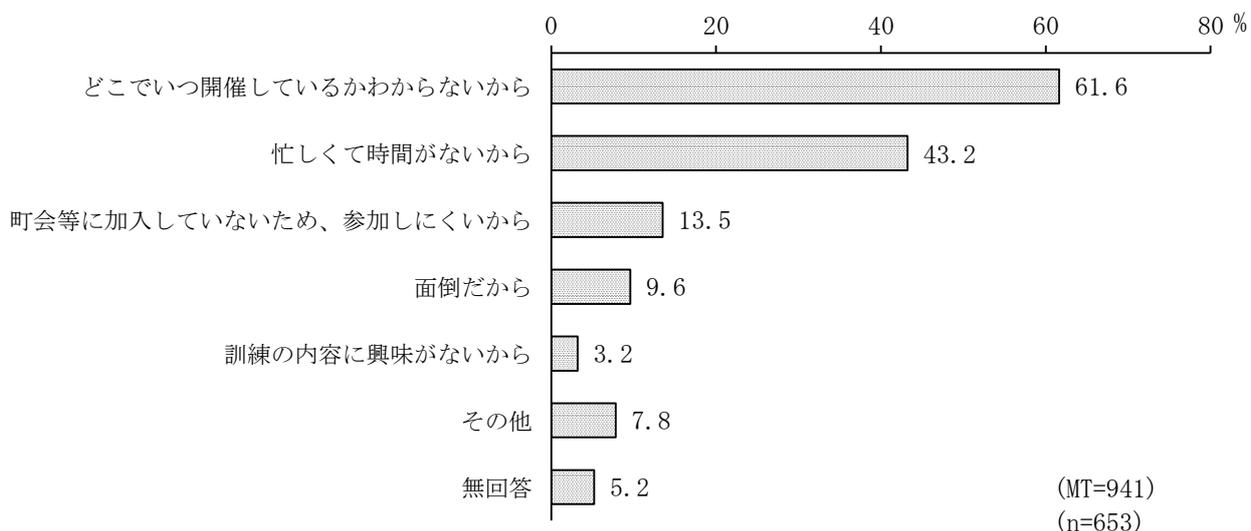
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

（10）防災訓練に参加したことがない理由

◎「どこでいつ開催しているかわからないから」は6割強

問45-2 問45で、【2 参加したことはない】の方 防災訓練に参加したことがない主な理由を教えてください。（複数回答可）（n=653）	
1 どこでいつ開催しているかわからないから	61.6%
2 忙しくて時間がないから	43.2
3 訓練の内容に興味がないから	3.2
4 町会等に参加していないため、参加しにくいから	13.5
5 面倒だから	9.6
6 その他	7.8
無回答	5.2

図4-8-15 防災訓練に参加したことがない理由



防災訓練に参加したことがない理由として、「どこでいつ開催しているかわからないから」(61.6%)が6割強で最も高く、「忙しくて時間がないから」(43.2%)が4割台半ば近くで続く。

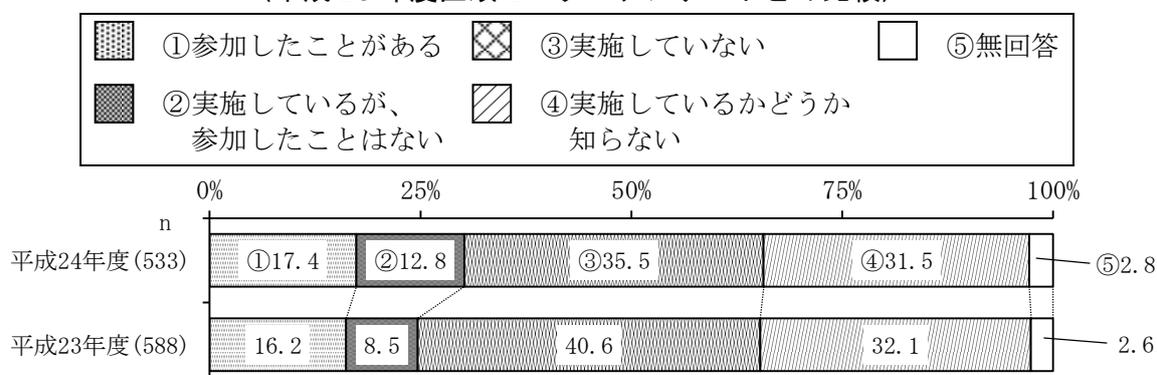
(図4-8-15)

(11) 集合住宅での防災訓練や防災に関する勉強会への参加

◎「実施していない」が3割台半ば、「実施しているかどうか知らない」が3割強

問46 【アパート・マンション等の集合住宅にお住まいの方】	
お住まいの集合住宅独自で防災訓練や防災に関する勉強会等に参加したことがありますか。 (n=533)	
1 参加したことがある	17.4%
2 実施しているが、参加したことはない	12.8
3 実施していない	35.5
4 実施しているかどうか知らない	31.5
無回答	2.8

図4-8-16 集合住宅での防災訓練や防災に関する勉強会への参加
(平成23年度区政モニターアンケートとの比較)



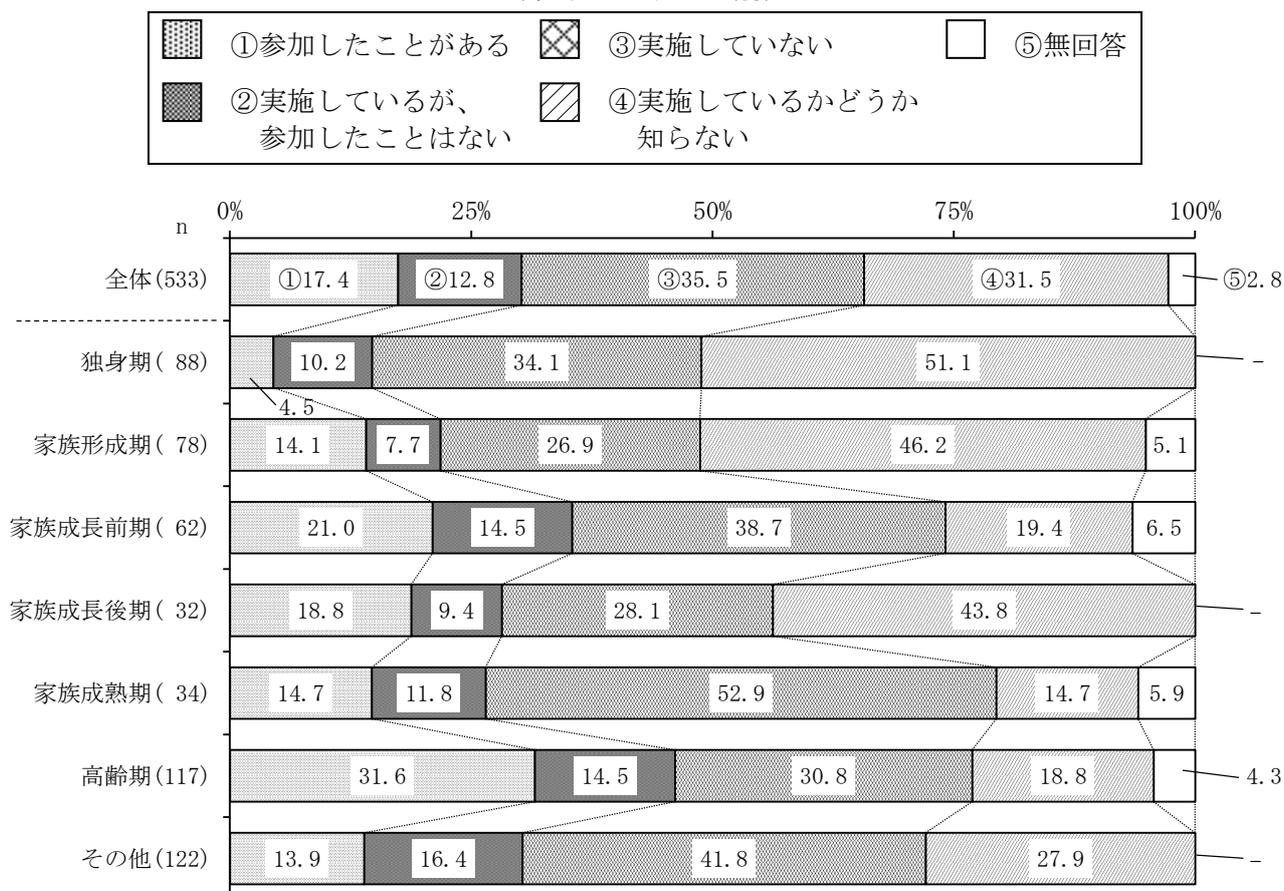
集合住宅での防災訓練や防災に関する勉強会の参加について、「実施していない」(35.5%)が3割台半ばで最も高く、「実施しているかどうか知らない」(31.5%)が3割強、「参加したことがある」(17.4%)、「実施しているが、参加したことはない」(12.8%)の順となっている。

過去の調査結果(平成23年度区政モニターアンケート)と比較すると、「参加したことがある」では、平成24年度(17.4%)が平成23年度(16.2%)を1.2ポイント上回っている。

(図4-8-16)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

図4-8-17 集合住宅での防災訓練や防災に関する勉強会への参加
（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「参加したことがある」では、高齢期（31.6%）が3割強で最も高く、全体（17.4%）を14.2ポイント上回っている。

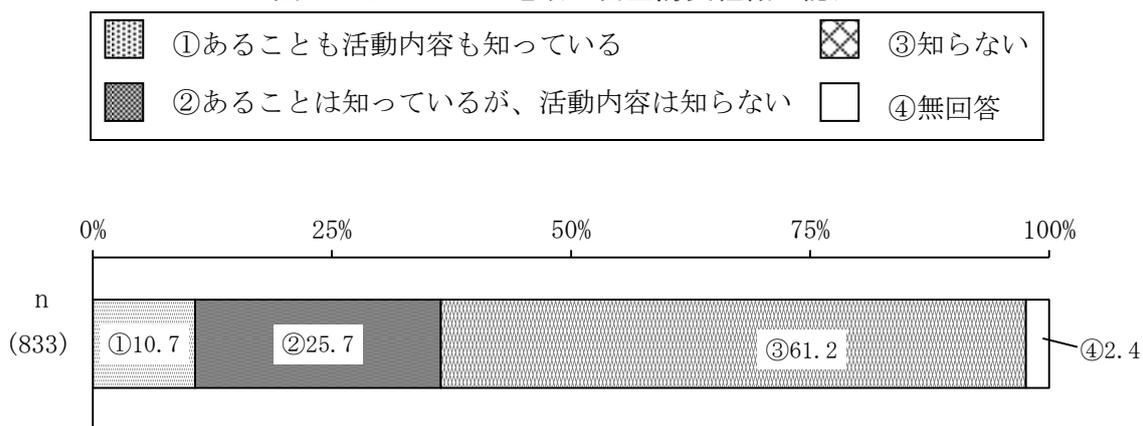
一方、「実施しているかどうか知らない」では、独身期（51.1%）が全体（31.5%）を19.6ポイント上回っている。（図4-8-17）

(12) 地域の自主防災組織の認知

◎「知らない」は6割強

問47 あなたの地域に自主防災組織があることを知っていますか。(n=833)	
1 あることも活動内容も知っている	10.7%
2 あることは知っているが、活動内容は知らない	25.7
3 知らない	61.2
無回答	2.4

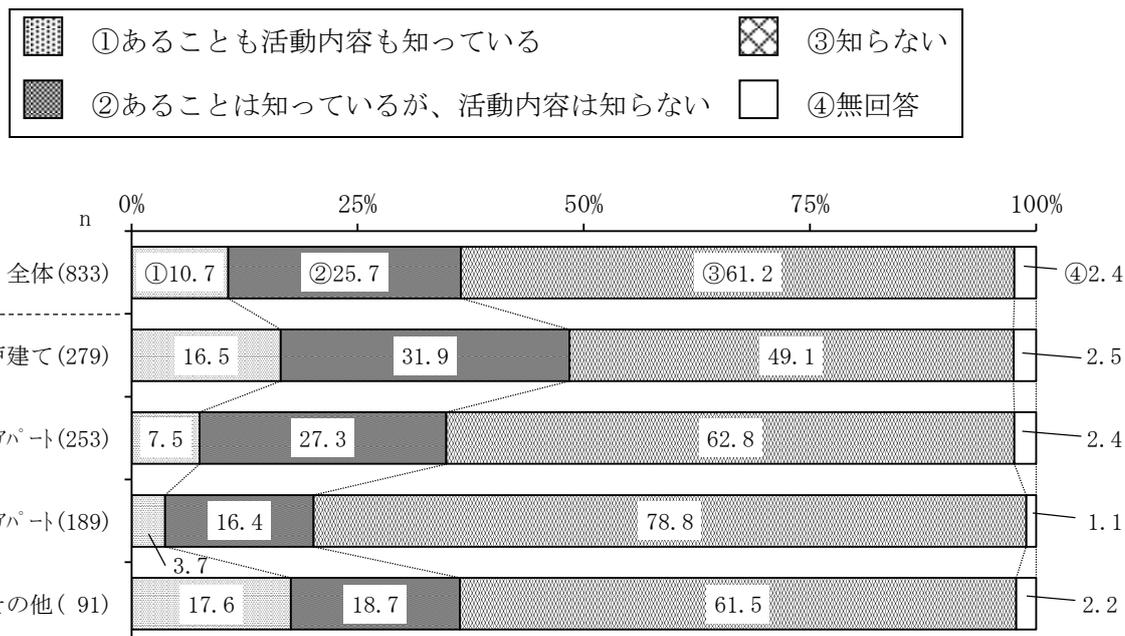
図4-8-18 地域の自主防災組織の認知



地域の自主防災組織の認知について、「知らない」(61.2%)が6割強で最も高く、「あることは知っているが、活動内容は知らない」(25.7%)が2割台半ば、「あることも活動内容も知っている」(10.7%)が約1割の順となっている。(図4-8-18)

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

図4-8-19 地域の自主防災組織の認知（住居形態4区分別）



住居形態4区分別にみると、「あることも活動内容も知っている」では、一戸建て（16.5%）が1割台半ばを超えている。

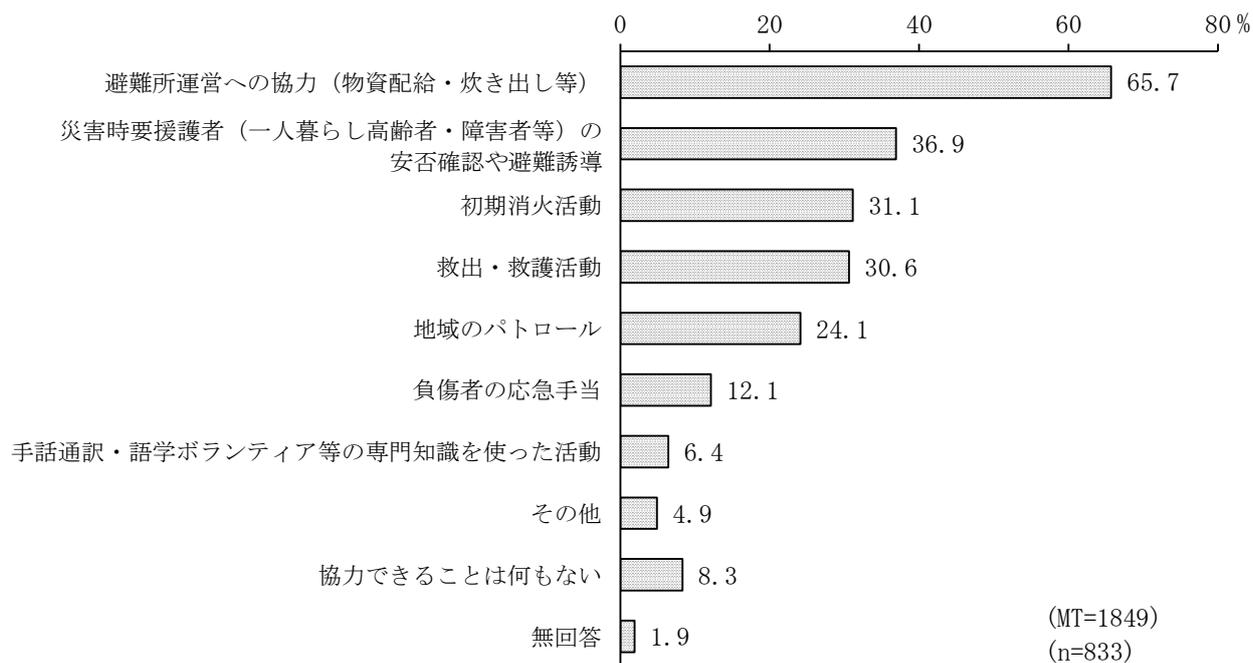
一方、「知らない」では、賃貸マンション・アパート（78.8%）が8割近くで最も高く、分譲マンション・アパート（62.8%）では6割強となっている。（図4-8-19）

(13) 災害発生時にできる地域の防災活動への協力

◎「避難所運営への協力（物資配給・炊き出し等）」が6割台半ば近く

問48 あなたは災害が発生したとき、地域の防災活動にどんな協力ができますか。 (複数回答可) (n=833)	
1 避難所運営への協力（物資配給・炊き出し等）	65.7%
2 災害時要援護者（一人暮らし高齢者・障害者等）の安否確認や避難誘導	36.9
3 救出・救護活動	30.6
4 初期消火活動	31.1
5 手話通訳・語学ボランティア等の専門知識を使った活動	6.4
6 負傷者の応急手当	12.1
7 地域のパトロール	24.1
8 その他	4.9
9 協力できることは何もない	8.3
無回答	1.9

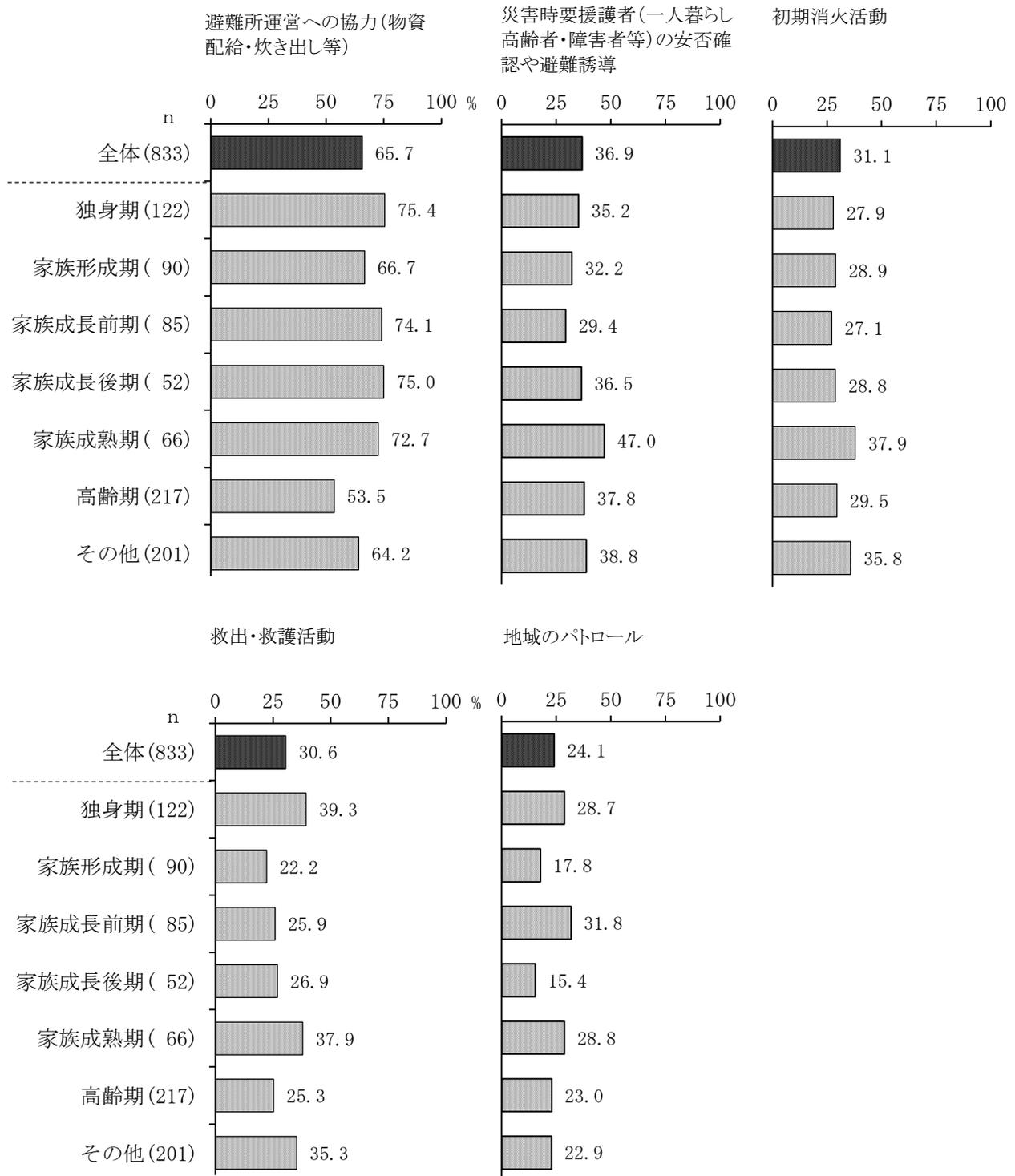
図4-8-20 災害発生時にできる地域の防災活動への協力



災害発生時にできる地域の防災活動への協力について、「避難所運営への協力（物資配給・炊き出し等）」（65.7%）が6割台半ばで最も高く、「災害時要援護者（一人暮らし高齢者・障害者等）の安否確認や避難誘導」（36.9%）が6割台半ばを超え、「初期消火活動」（31.1%）、「救出・救護活動」（30.6%）と続く。（図4-8-20）

Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

図4-8-21 災害発生時にできる地域の防災活動への協力
（ライフステージ別）上位5項目



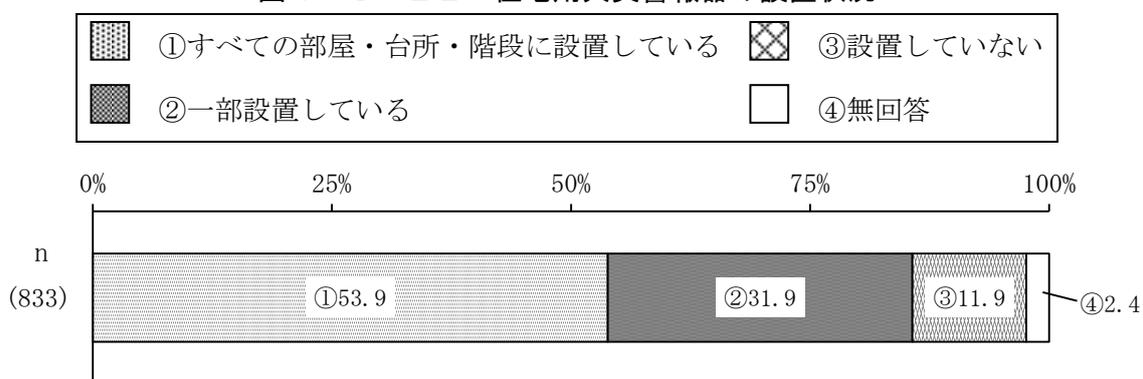
上位5項目をライフステージ別にみると、「救出・救護活動」では、独身期(39.3%)が全体(30.6%)を8.7ポイント上回っている。(図4-8-21)

(14) 住宅用火災警報器の設置状況

◎「全ての部屋・台所・階段に設置している」が5割台半ば近く

問49 火災予防条例（東京都条例）により、平成22年4月1日から、全ての住宅の部屋・台所・階段に住宅用火災警報器の設置が義務化されました。	
あなたの住宅に住宅用火災警報器を設置していますか。（n=833）	
1 全ての部屋・台所・階段に設置している	53.9%
2 一部設置している	31.9
3 設置していない	11.9
無回答	2.4

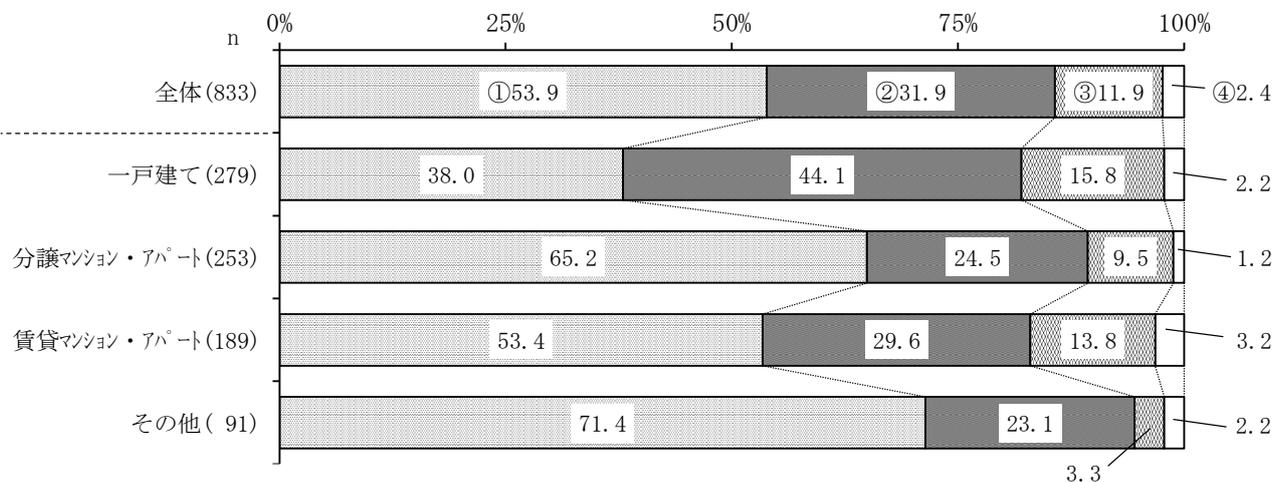
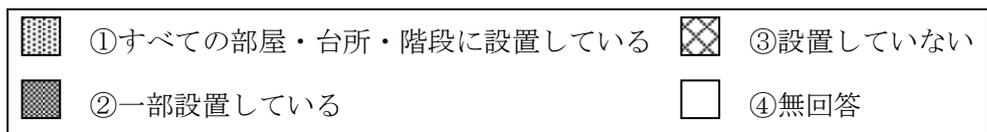
図4-8-22 住宅用火災警報器の設置状況



住宅用火災警報器の設置状況について、「すべての部屋・台所・階段に設置している」（53.9%）が5割台半ば近くで最も高く、「一部設置している」（31.9%）が3割強、「設置していない」（11.9%）が1割強の順となっている。（図4-8-22）

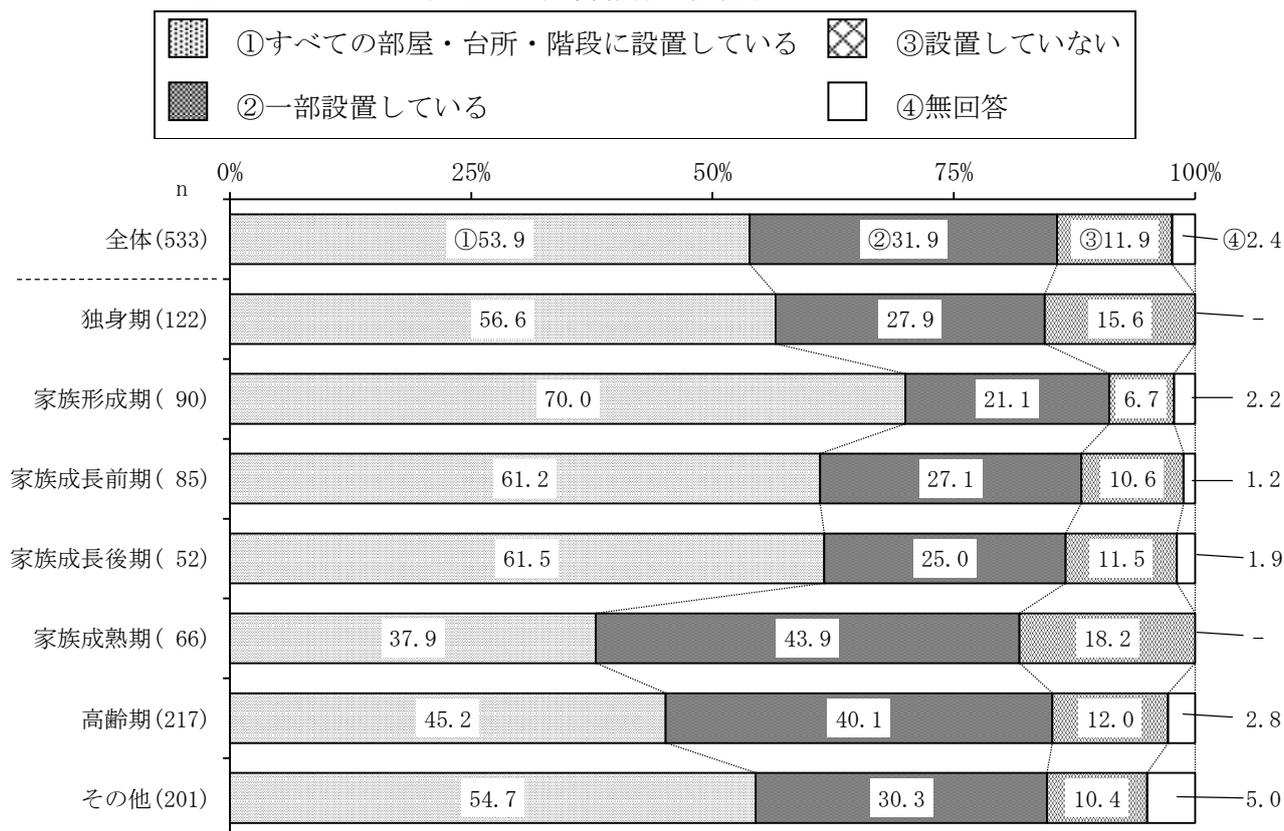
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

図4-8-23 住宅用火災警報器の設置状況（住居形態4区分別）



住居形態4区分別にみると、「すべての部屋・台所・階段に設置している」では、分譲マンション・アパート (65.2%) が全体 (53.9%) を 11.3 ポイント上回っている。一方、一戸建て (38.0%) では、全体を 15.9 ポイント下回っている。(図4-8-23)

図4-8-24 住宅用火災警報器の設置状況（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「すべての部屋・台所・階段に設置している」では、家族形成期 (70.0%) が7割で全体 (53.9%) を 16.1 ポイント上回っている。一方、家族成熟期 (37.9%) では、全体を 16 ポイント下回っている。(図4-8-24)

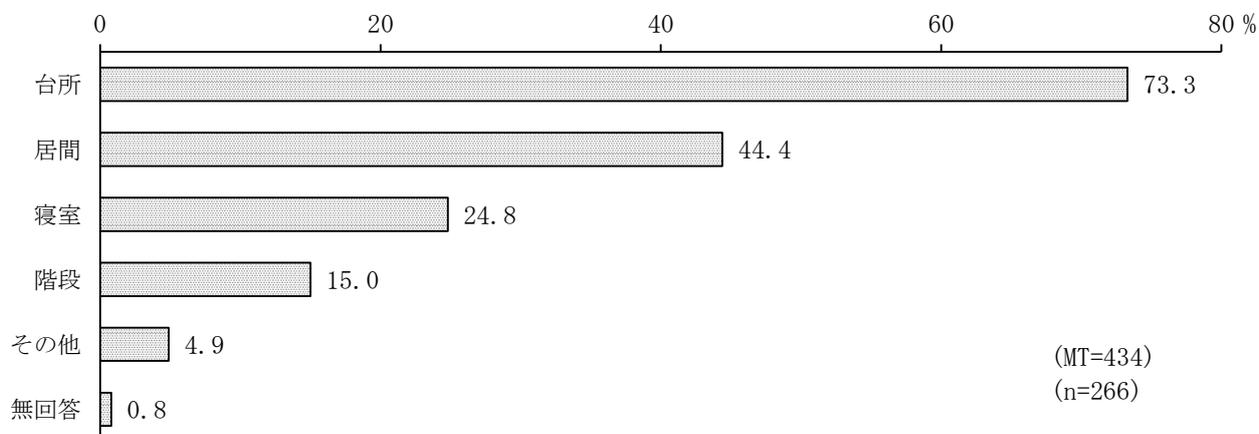
Ⅱ 調査の結果 第4回（テーマ2 震災に備えて）

（15）住宅用火災警報器を一部設置している箇所

◎「台所」が7割台半ば近く

問49-1 問49で、【2 一部設置している】の方 住宅用火災警報器を設置しているのはどこですか。（複数回答可）(n=266)		
1	居間	44.4%
2	寝室	24.8
3	台所	73.3
4	階段	15.0
5	その他	4.9
	無回答	0.8

図4-8-25 住宅用火災警報器を一部設置している箇所



住宅用火災警報器を一部設置している箇所について、「台所」(73.3%)が7割台半ば近くで最も高く、「居間」(44.4%)が4割台半ば近く、「寝室」(24.8%)、「階段」(15.0%)の順となっている。(図4-8-25)

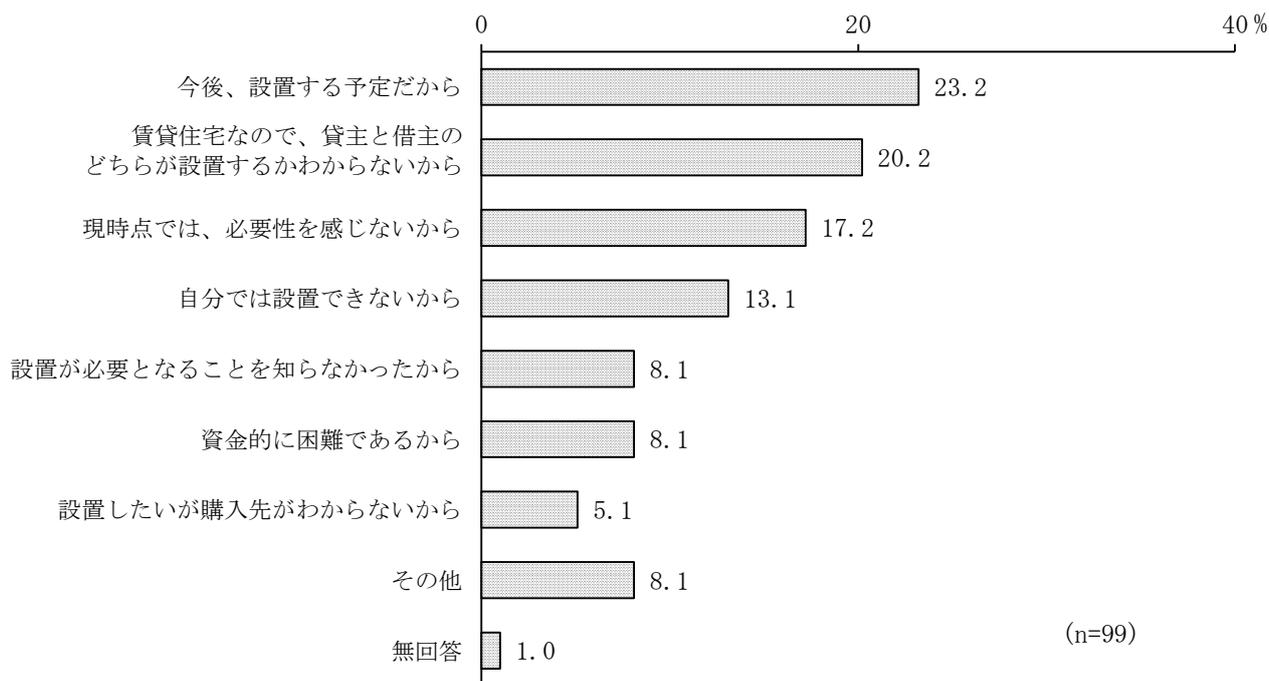
(16) 住宅用火災警報器を設置していない理由

◎「今後、設置する予定だから」が2割台半ば近く

問49-2 問49で、【3 設置していない】の方
住宅用火災警報器を設置していない理由はなんですか。(n=99)

1 今後、設置する予定だから	23.2%
2 設置が必要となることを知らなかったから	8.1
3 設置したいが購入先がわからないから	5.1
4 自分では設置できないから	13.1
5 資金的に困難であるから	8.1
6 現時点では、必要性を感じないから	17.2
7 賃貸住宅なので、貸主と借主のどちらが設置するかわからないから	20.2
8 その他	8.1
無回答	1.0

図4-8-26 住宅用火災警報器を設置していない理由



住宅用火災警報器を設置していない理由として、「今後、設置する予定だから」(23.2%)が2割台半ば近くで最も高く、「賃貸住宅なので、貸主と借主のどちらが設置するかわからないから」(20.2%)が約2割、「現時点では、必要性を感じないから」(17.2%)、「自分では設置できないから」(13.1%)と続く。(図4-8-26)

Ⅲ 資料（調査票）

第 1 回

平成24年度 新宿区区政モニターアンケート 第1回

- テーマ1 公園利用者のマナーについて
- テーマ2 新宿区立元気館について
- テーマ3 男女共同参画に関する意識について
- テーマ4 建物等の震災対策について
- テーマ5 自転車利用について

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印をつけてください。**問題によって、**1つだけの場合や、当てはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問題文の最後に（ ）で○は1つなどと記載してありますので、ご確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答などによって、次の問題が変わる場合があります。**
(例：問1で【1】を選んだ方にお伺いします、など)
問題文の前や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、()内に具体的に回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さずに、8月7日（火）までに

ご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するための管理に用います。
調査票が区役所へ戻ってきたあとに、調査票から切り離し、調査票とは別々に保管いたします。
調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

お問合せ先 新宿区区長室 広聴担当課 広聴係
電話 03-5273-4065 (直通)
FAX 03-5272-5500
E-Mail kocho@city.shinjuku.lg.jp



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

テーマ1 公園利用者のマナーについて

公園事務所には、年間千件近くの陳情が寄せられていますが、特に、利用にあたってのマナーに関する陳情がここ数年増加しています。具体的には、夜騒いだり、自転車やバイクによる違法駐輪や指定場所以外での球技、喫煙場所以外での喫煙、猫や鳩へのえさやりによる糞害、粗大ゴミの放置等、内容も多岐に渡っています。

公園事務所では、こうした行為が禁止行為である旨、制札板や禁止看板を設置し、職員の巡回による注意喚起を行っていますが、一向に減少しません。一方で、禁止行為が行われる要因として、球技施設が不足していることや喫煙スポットが少ない等の要因も考えられます。

今回のアンケートでは、公園でのマナー改善の向上を図るため、公園での禁止行為のあり方について伺いたいと思います。

問1 新宿区立の公園の入り口には、公園内での禁止行為を列挙した右図のマナーボード（制札板）が設置されていますが、禁止行為の内容はご存じですか。（○は1つ）

- 1 禁止行為の内容について知っている
- 2 マナーボードを見たことはあるが、禁止行為の内容までは知らない
- 3 マナーボードに気づいたこともなく、禁止行為についても知らない



問2 公園内では、来園者用の駐輪場を除いて、公園利用者の迷惑となることから、自転車やバイクの乗り入れを禁止しています。特に、通勤等の目的による駐輪が多く見受けられ、子供達が自転車で公園に遊びに来て、来園者用の駐輪場に停めることができません。一方で、自転車の乗り入れ禁止は、幼児が自転車運転の練習をしたくてもできないという矛盾も生じています。

園内への自転車の乗り入れについて、どうあるべきだとお考えですか。（○は1つ）

- 1 いかなる理由があっても、園内に乗り入れるべきでない
- 2 子供が公園を利用する場合や自転車運転の練習など、一定条件のもと乗り入れを認めるべきである
- 3 来園者用駐輪場をもっと拡大整備すべきである
- 4 その他 ()

Ⅲ 資料（調査票）第1回（公園利用者のマナーについて）

問3 花火や爆竹は、他の利用者に危険が及ぶだけでなく、公園近隣に対し、煙や音による迷惑がかかるため、禁止しています。一方で、夏の風物詩でもある花火は、共同住宅が多い新宿では、できる場所が限られます。

公園内での花火等の行為はどうあるべきだと思いますか。（○は1つ）

- 1 いかなる事情があっても、危険や迷惑行為として禁止すべきである
- 2 自己責任のもとで行い、禁止行為とするべきではない
- 3 場所や時間帯など、一定条件のもとに、認めるべきである
- 4 火元責任者を明確にした上で、事前に許可制にすべきである
- 5 その他（)

問4 一部の公園では、大人や学生が夜間に騒いだり、飲酒による迷惑で、近隣が大変困っています。事務所では、警察の協力を得ながら定期的に巡回を行い、学生の場合は、学校へも通報していますが、一向に変わりません。

このような公園では、今後どう対応すべきだと思いますか。（○は1つ）

- 1 地元の方の協力を得て、地元と合同で防犯パトロールを定期的実施すべきである
- 2 危険が伴うこともあるので、警備員等による巡回を定期的に行うべきである
- 3 こうした公園は、一律に夜間閉鎖すべきである
- 4 近隣の方が、110番することが原則である
- 5 その他（)

用語解説 地域ねこ

すべての公園では、動物へのえさやり（特に置きえさ）を衛生上の観点から禁止しています。公園での無責任なえさやりにより、近隣においても糞尿による被害が絶えません。一方で、動物愛護の精神から、地域ねこ対策の一環として、トイレのしつけや尿の清掃、去勢手術に至る等の管理を、責任を持って行える団体等からの申し出があった場合には、公園事務所と相談の上、決まった時間でのえさやりを認めています。この場合でも、置きえさは一切認めていません。

問5-1 地域ねこの取り組みはご存じですか。（○は1つ）

- 1 知っている
- 2 知らなかった

問5-2 公園内でえさやりについて、今後どうあるべきだとお考えですか。（○は1つ）

- 1 えさやりも置きえさも禁止すべきである
- 2 動物へのえさやりを認めるべきである
- 3 地域ねこのように、糞尿の清掃まで責任を持つ個人もしくは団体のみ、えさやりを認めるべきである
- 4 その他（)

問6 昨年4月より、区立公園では、受動喫煙による健康への被害をなくすため、分煙が可能である大きな公園を除いて、9割近くの公園が全面禁煙となりました。しかしながら、公共の場での喫煙場所の減少により、依然多くの公園で、喫煙による苦情が絶えません。このため、公園以外での喫煙スポットの整備や交通事業者やオフィス等へ分煙施設の整備を働きかけています。

今後の公園での喫煙のあり方について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|---|--|
| 1 | 公園での喫煙は禁止すべきであり、喫煙者へ注意喚起を徹底すべきである |
| 2 | 通勤ラッシュ時や子供の利用が多い時間帯や遊具付近などの喫煙を制限するなど、一定の制約のもとであれば、分煙化を図ってもよい |
| 3 | 万全な防煙設備を備えることで、公園をはじめ、周囲への受動喫煙が影響ないなどの確認がとれれば、分煙化を図ってもよい |
| 4 | その他 () |

問7 一部の球技施設のある公園を除いて、公園内で野球やサッカー等の球技は、他の利用者へボールが当たって怪我をしたり、近隣へ飛び込む等を理由に禁止しています。一方で、子供達や中高生達が球技をする場所が少ないため、注意喚起を行っても球技が絶えません。このため、公園事務所では、子供から高齢者（障害者）までが安全に行うことができる球技（ニュースポーツ：やわらかい大小ボールを使った様々な球技）を一部公園に導入しようと検討しているところです。

今後の公園での球技について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

(○は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1 | 球技等による怪我は、球技をする側が責任を持って行うもので、禁止すべきではない |
| 2 | 球技施設のない公園では、球技を禁止することはあたりまえである |
| 3 | 球技のできる時間帯やエリアを設けるなど、一定条件のもと、球技を認めるべきである |
| 4 | その他 () |

問8 問1で説明した制札板（マナーボード）の他に、園内の至る所へ禁止看板が設置されています。禁止行為の周知を利用者へ徹底することを目的としていますが、同時に公園の景観を損ねていることは否定できません。また、公園の巡回時以外の時間では、禁止行為が行われていることも確かで、禁止看板の効果は確実ではありません。本来、公園の利用者がモラルを持って、公園を利用していただければ、禁止行為を掲示もしくは禁止行為を設定する必要はないものと考えられます。

今後の公園での禁止行為のあり方について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|---|--|
| 1 | 多くの人を利用する公共の場の公園では、禁止行為を定めることは必要であり、注意喚起を徹底させるべきである |
| 2 | 公園利用者のニーズに適った球技や犬の散歩などは、一定条件のもとで禁止行為の制限を解除すべきである |
| 3 | 明らかに危険である行為を除き、禁止行為を定めず、公園利用者のモラルと自己責任のもと、禁止行為のない公園を整備すべきである |
| 4 | その他 () |

テーマ3 男女共同参画に関する意識について

男女共同参画とは、男女が社会の対等な構成員として性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、責任を分かち合いながら、ともにあらゆる分野に参画することをいいます。

区では、男女共同参画社会の実現をめざし、平成16年4月から「新宿区男女共同参画推進条例」を施行しています。今回のアンケートで皆さまから日常生活のなかでの男女共同参画に関する意識や実情をお伺いし、今後の取り組みの参考にしたいと考えています。

問11 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。

(○はそれぞれの項目で1つずつ)

	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 優遇されている
ア 家庭生活上で	1	2	3	4	5
イ 職場で	1	2	3	4	5
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
エ 政治の場で	1	2	3	4	5
オ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
キ 地域活動の場で	1	2	3	4	5
ク 社会全体として	1	2	3	4	5

Ⅲ 資料（調査票）第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

問12 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。（○は1つ）

- 1 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい
- 2 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- 3 子どもができるまでは仕事をし、その後は仕事をしない方がよい
- 4 結婚するまでは仕事をするが、結婚後は仕事をしない方がよい
- 5 女性は仕事をしない方がよい
- 6 その他（)
- 7 わからない

問12で、【2 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい】とお答えの方にお伺いします。

問12-1 その理由は次のうちどれですか。（○はいくつでも）

- 1 子どもは母親が育てた方がよいと思うから
- 2 子どもを見てくれる親族が身近にいないから
- 3 保育園が入りにくいから
- 4 夫の仕事が忙しく育児を分担できないから
- 5 その他（)

問13は、【会社等に勤めている方（自営業、経営者の方を除く）】にお伺いします。

問13 あなたの職場で、仕事の内容や待遇面で、男女差を感じるものはありますか。（○はいくつでも）

- 1 賃金
- 2 昇進、昇格
- 3 個々の能力評価
- 4 配置場所
- 5 仕事内容や質
- 6 幹部職員への登用
- 7 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気
- 8 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気
- 9 教育・研修を受ける機会
- 10 その他（)
- 11 特に男女差はない

<<ここから、再び全ての方にお伺いします。>>

問14 あなたは、男女共同参画社会を進めていくうえで重要なキーワードとなる「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉をご存じですか。（○は1つ）

- 1 知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
- 3 知らない

問15は、【働いているすべての方】にお伺いします。

問15 あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(〇は1つ)

- 1 たいへん満足している
- 2 ほぼ満足している
- 3 あまり満足していない
- 4 まったく満足していない

<<ここから、再び全ての方にお伺いします。>>

問16 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。
(〇は3つまで)

- 1 男女ともに労働時間の短縮をはかること
- 2 男女ともに労働条件の向上をはかること
- 3 男女ともに家事・育児・介護に参加すること
- 4 男女ともに職業意識をより高めること
- 5 男女ともに技術・能力を高めること
- 6 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること
- 7 職場での男女格差の習慣をなくすこと
- 8 出産後などに職場復帰できる再雇用制度が整備・充実されること
- 9 育児・介護休業制度が整備・充実されること
- 10 その他 ()
- 11 特にない

問17 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(〇は1つ)

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 わからない
- 4 どちらかといえば反対
- 5 反対

Ⅲ 資料（調査票）第1回（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

問18 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）についてお伺いします。DVだと思う行為は次のうちどれですか。（○はいくつでも）

- 1 何を言っても無視する
- 2 行動を制限する
- 3 交友関係やメールをチェックする
- 4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる
- 5 人前で侮辱する
- 6 他人に悪口を言う
- 7 大切な物をわざと壊す
- 8 殴るふりをする等して脅す
- 9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう
- 10 首をしめる・刃物を持ち出す等命に危険を感じる行為を行う
- 11 自由になるお金を制限する
- 12 意に反した性的な行為を強要する
- 13 無理やりポルノ等を見せる
- 14 避妊に協力しない
- 15 どれもあたらない

問19 DVについての相談機関の窓口をご存じですか。（○はいくつでも）

- 1 新宿区立男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）悩みごと相談室
- 2 新宿区福祉部生活福祉課（女性相談）
- 3 新宿区子ども家庭部子ども家庭課（家庭相談）
- 4 新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター
- 5 新宿区保健センター
- 6 東京都女性相談センター
- 7 東京ウィメンズプラザ
- 8 警察
- 9 法務局人権相談窓口等
- 10 裁判所
- 11 民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）
- 12 民生委員・児童委員
- 13 その他（)
- 14 知らない

問20 今後、男女共同参画を進めるために、区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 平等意識を育てる学校教育の充実
- 2 男女平等に関する講座等の開催
- 3 女性の再就職支援や起業支援の充実
- 4 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
- 5 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ
- 6 育児・保育施設の充実
- 7 あらゆる分野における女性の積極的な登用
- 8 行政の政策決定などへの女性の参画促進
- 9 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実
- 10 各種相談事業の充実
- 11 男女共同参画についての情報収集・情報提供
- 12 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ
- 13 その他 ()
- 14 特にない

テーマ4 建物等の震災対策について

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、約5,500の方が地震の直接的被害で亡くなっています。その中で、建物の倒壊によって亡くなった方は約88%、火災で焼死した方は約10%といわれています。焼死した方の多くは、倒壊した建物の下敷きになって逃げられなかったためと考えられ、犠牲者のほとんどの方が建物の倒壊が原因で亡くなっています。

また、平成23年3月11日に発生した日本観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した「東日本大震災」では津波の被害だけでなく、建物の倒壊・液状化現象・地盤沈下などの地震による直接的な被害をもたらしています。この地震では、区内でも震度5弱を記録しました。

区では、逃げないですむ災害に強いまちづくりに向けて、住宅について、平成27年度までに耐震化率を90%以上とし、さらに長期的（概ね20年後）には、「新宿区総合計画（都市マスタープラン）」に基づいて、耐震化率を95%以上とすることを目標としています。

今回のアンケートで住宅の耐震化をはじめ防災への意識をおたずねし、今後の取り組みの参考にしたいと考えています。

問21 あなたは、自分がお住まいの建物がいつ建てられたか知っていますか。（○は1つ）

- 1 知っている → 問21-1へお進みください。
- 2 知らない → 問22へお進みください。

問21で、【1. 知っている】とお答えの方にお伺いします。

問21-1 お住まいの建物はいつ建てられましたか。（○は1つ）

- 1 昭和55年（1980年）以前
- 2 昭和56年（1981年）以降

<<ここから、再び全ての方にお伺いします。>>

問22 あなたがお住まいの建物は、次のうちどちらですか。（○は1つ）

- 1 木造の建物
- 2 非木造の建物

問23 新宿区では、下記★印の「建築物等耐震化支援事業」を行っています。あなたはこの事業を知っていますか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1 知っている
2 聞いたことはあるが、よく知らない
3 知らない |
|---|

★区では、「建築物等耐震化支援事業」として次の事業を行っています。

《木造建物（住宅系）への支援事業》	《非木造建物への支援事業》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予備耐震診断技術者派遣（無料） ・ 耐震診断、補強設計への補助 ・ 耐震改修工事への補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震診断のための予備調査（無料） ・ 耐震診断、補強設計への補助 ・ 耐震改修工事への補助

問24 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---|------------------|
| 1 すでに受けた
2 受けたいが、まだ受けていない
3 受ける必要はない
4 わからない | } 問24-1 へお進みください |
|---|------------------|

問24で、【2. 受けたいが、まだ受けていない】または、【3. 受ける必要はない】とお答えの方にお伺いします。

問24-1 耐震診断を受けていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 現在受けていないが、今後受ける予定だから
2 制度について知らなかったから
3 集合住宅で自分の考えのみではできないから
4 所有者が自分でないから
5 昭和56年以降に建った新耐震基準の建物だから
6 多額の費用がかかるから
7 倒壊しないと思うから
8 信頼できる業者がないから
9 相談したいがどこにいったらよいかわからないから
10 面倒だから
11 その他 () |
|---|

テーマ5 自転車利用について

近年、通勤や通学、買い物などの移動方法として自転車を利用する方が増えています。自転車の利用は、地球温暖化防止の観点などからも注目されている一方で、放置自転車の問題や自転車運転のマナーなども社会問題となっています。

ここでは、自転車の利用状況や区立駐輪場のあり方、放置自転車対策、マナー啓発などについてお伺いし、これからの区の自転車に関する施策の参考にしたいと考えています。

問26 普段、自転車をどの程度利用しますか。(○は1つ)

- 1 週に5日以上
- 2 週に3～4日
- 3 週に1～2日
- 4 ほとんど利用しない
- 5 自転車を持っていない
- 6 その他 ()

問27 自転車を利用する主な目的は何ですか。(○は1つ)

- 1 通勤
- 2 通学
- 3 仕事 (営業・配達等)
- 4 買物
- 5 遊び・習い事
- 6 子どもの送り迎え
- 7 健康・趣味
- 8 その他 ()

問28 ご自宅では、日常的に自転車をどこに駐輪していますか。(○は1つ)

- 1 自宅敷地 (マンション・アパート等含) 内の駐輪場・空き地
- 2 自宅敷地 (マンション・アパート等含) 外の駐輪場・空き地
- 3 区立駐輪場など
- 4 自宅周辺の道路
- 5 その他 ()

Ⅲ 資料（調査票）第1回（テーマ5 自転車利用について）

問29 現在、区立駐輪場は、一律料金になっています。駐輪場が駅に近い、屋根が整備されているなど個々の利便性によって料金に差をつけることについて、どのように思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。（○は1つ）

- 1 駐輪場の利便性によって、料金に差をつけた方がよい
- 2 現状どおり一律料金でよい
- 3 その他（)

問30 現在、利用者から区に対して、買い物などに便利な時間利用駐輪場の整備について要望が寄せられています。区では、定期利用（全体の約90%）の台数配分を見直し、誰でも利用できる時間利用スペースを増やしていきます。これからの自転車駐輪場整備の在り方について、最も適当だと思うものは次のうちどれですか。あてはまるものを1つ選んでください。（○は1つ）

- 1 今のままでよい
- 2 定期利用を減らして、もっと時間利用の駐輪場を増やすべき
- 3 すべて時間利用の駐輪場にするべき
- 4 その他（)

問31 放置自転車の撤去や保管には1台あたり約5,500円の費用がかかっていますが、返還手数料は、現在3,000円となっています。返還手数料の金額についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。（○は1つ）

- 1 現状のままでよい
- 2 もう少し高くてもよい
- 3 実費相当額まで値上げするべき
- 4 その他（)

問32 歩行者の通行の障害になったり、街の美観を乱す放置自転車ですが、放置自転車が多いと思う場所はどこですか。あてはまるものを2つ選んでください。（○は2つ）

- 1 駅周辺
- 2 百貨店やスーパーなどの店舗の前
- 3 コンビニエンスストアの前
- 4 パチンコ店などの遊技場の前
- 5 銀行の前
- 6 役所など公共施設の前
- 7 大学や専門学校などの前
- 8 会社など事務所の前
- 9 マンションなど住居の前
- 10 その他（)

問33 信号無視や携帯電話を操作しながら運転するなど自転車のルールやマナーが社会問題となっています。自転車利用のルール・マナーを向上させるために、効果的だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。(○は2つ)

- 1 小中学生を中心に、自転車利用のルールやマナー教育を推進する
- 2 一般を対象に、街頭やイベントを通じて自転車利用のルールやマナーの周知啓発を行う
- 3 自転車運転免許証やナンバープレート登録など、新たな制度を検討する
- 4 警察による指導取締りを強化する
- 5 その他 ()

問34 今後の自転車に関して区が取り組むべき施策の中で重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。(○は3つまで)

- 1 自転車利用者のルール・マナーを向上させる
- 2 自転車の走行しやすい環境を整える (自転車用レーン等)
- 3 区立の自転車等駐輪場を増やす
- 4 既存駐輪場の1日利用・時間利用ができる割合を増やす
- 5 放置自転車の撤去回数を増やすなど、対策を強化する
- 6 民間の駐輪場整備を支援する
- 7 マンション、事務所などの建築の際に、事業者に駐輪場を整備させる
- 8 その他 ()

第2回

平成24年度 新宿区区政モニターアンケート 第2回

- テーマ1 区職員の接遇について
- テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて
- テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について
- テーマ4 成年後見制度について

テーマ2に関する資料を同封しています。ご回答の前に一読ください。

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印をつけてください**。問題によって、**1つだけの場合や、当てはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問題文の最後に（ ）で○は1つなどと記載してありますので、ご確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答などによって、次の問題が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をつけた方のみがお答えください、など)
問題文の前や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、()内に具体的に回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さずに、10月15日（月）までに

ご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するための管理に用います。
調査票が区役所へ戻ってきたあとに、調査票から切り離し、調査票とは別々に保管いたします。
調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区区長室 広聴担当課 広聴係
電話 03-5273-4065 (直通)
FAX 03-5272-5500
E-Mail kocho@city.shinjuku.lg.jp



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。



テーマ1 区職員の接遇について

新宿区は、区民の方に信頼される、身近で分かりやすい区政運営を目指しています。こうした区政運営を行うためには、職員は好感のもてる身だしなみや言葉遣いを心がけ、区民の方の立場に立った受け答えや説明をする必要があります。

そこで今回は、皆さまに窓口や電話での対応の印象をおたずねし、職員の接遇対応の向上に役立てていきたいと考えています。

問1 あなたは、過去1年以内に、区役所や区の施設の窓口に出かけたことがありましたか。
(○は1つ)

- | | |
|------|---------------------|
| 1 ある | → 問1-1、問1-2へお進みください |
| 2 ない | → 問2へお進みください |

問1で、「1」に○をつけた方のみがお答えください。

問1-1 どのような用件で出かけましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 証明書等の交付 | 5 会議等への出席 |
| 2 各種手続き | 6 苦情・要望 |
| 3 相談 | 7 その他 |
| 4 区の施設の利用 | () |

問1で、「1」に○をつけた方のみがお答えください。

問1-2 その時の区職員の対応はいかがでしたか。

ア～ク全ての項目について該当する番号に○をつけてください。

(○はそれぞれの項目ごとに1つずつ)

	良い	まあまあ良い	ふつう	やや悪い	悪い	わからない
ア 身だしなみ	1	2	3	4	5	6
イ 挨拶や声かけ	1	2	3	4	5	6
ウ 言葉づかい	1	2	3	4	5	6
エ 動作、表情	1	2	3	4	5	6
オ 相手の話を聴く姿勢	1	2	3	4	5	6
カ 説明のわかりやすさ	1	2	3	4	5	6
キ 職場全体の印象 (対応者以外の職員)	1	2	3	4	5	6
ク 窓口対応の総合評価	1	2	3	4	5	6

Ⅲ 資料（調査票）第2回（テーマ1 区職員の接遇について）

問2は、全ての方にお伺いします。

問2 あなたは、過去1年以内に、区役所や区の施設に電話をかけたことがありましたか。
(○は1つ)

- | | |
|------|--------------------------|
| 1 ある | → 問2-1、問2-2、問2-3へお進みください |
| 2 ない | → 問3へお進みください |

問2で、「1」に○をつけた方のみがお答えください。

問2-1 職員はすぐに電話に出ましたか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|------------|----------|
| 1 すぐに出た | 2 すぐに出なかった | 3 覚えていない |
|---------|------------|----------|

問2で、「1」に○をつけた方のみがお答えください。

問2-2 電話に出た職員は、自分の部署や名前を先に名乗りましたか。

(○は1つ)

- | | | |
|--------|-----------|----------|
| 1 名乗った | 2 名乗らなかった | 3 覚えていない |
|--------|-----------|----------|

問2で、「1」に○をつけた方のみがお答えください。

問2-3 その時の区職員の電話対応はいかがでしたか。

ア～オ全ての項目について該当する番号に○をつけてください。

(○はそれぞれの項目ごとに1つずつ)

	良い	まあまあ良い	ふつう	やや悪い	悪い	わからない
ア 声の印象	1	2	3	4	5	6
イ 言葉づかい	1	2	3	4	5	6
ウ 相手の話を聴く姿勢	1	2	3	4	5	6
エ 説明のわかりやすさ	1	2	3	4	5	6
オ 電話対応の総合評価	1	2	3	4	5	6

問3は、全ての方にお伺いします。

問3 職員の窓口対応や電話対応についてご意見がありましたらお書きください。

(自由記述)

部署名・施設名・場所等	ご意見・ご提案

テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて

超高齢社会となった日本では、85歳以上の4人に1人は認知症の症状があると言われています。また、新宿区では、介護保険の要支援・要介護認定を受けている人の2人に1人は、見守りや支援が必要な認知症の症状があるという現状で、誰もがかかる可能性がある病気です。

新宿区は、「認知症になっても安心して暮らせるまち」を区民のみなさまと共につくっていくことを目指しています。その一つとして、認知症という病気や対応方法を正しく理解するための取り組みを行い、個人の早期受診や早期対応を促進したり、認知症のご本人やご家族を見守り、支援する輪を拡げています。

そこで今回は、皆さまに、認知症に関しておたずねし、さらに、認知症についての理解や支援体制の推進に向けた取り組みを充実していきたいと考えています。

用語解説 認知症とは

認知症は、さまざまな病気がひきがねとなって、「記憶する」、「時・場所・人などを認識する」、「計算や計画をする」などの認知機能が低下していく「脳の病気」のひとつです。（※同封資料参照）

問4 あなたは、認知症には原因となる病気があることを知っていましたか。（○は1つ）

- 1 知っていた 2 知らなかった

問5 認知症は、早期診断・早期治療を受けることで、進行を遅らせたり、症状を改善して生活上の障害を軽減することができると言われてしています。

あなたは、このことを知っていましたか。（○は1つ）

- 1 知っていた 2 なんとなく知っていた 3 知らなかった

問6 認知症になっても、ご家族や周囲の方の理解と適切な対応によって、物とられ妄想や徘徊などの介護を困難にする症状を和らげることができると言われてしています。

あなたは、このことを知っていましたか。（○は1つ）

- 1 知っていた 2 なんとなく知っていた 3 知らなかった

問7 区では、認知症について正しく理解し、本人やその家族を支援する認知症サポーターを養成する講座を開催しています。（※同封資料参照）

あなたは、この講座を知っていましたか。（○は1つ）

- 1 講座を受講した → 問8へお進みください
 2 講座が開催されていることは知っていた }
 3 知らなかった 問7-1へお進みください

Ⅲ 資料（調査票）第2回（テーマ2 認知症になっても安心して暮らせるまちについて）

問7で、「2」または、「3」に○をつけた方のみがお答えください。

問7-1 あなたは、認知症サポーターを養成する講座を受講してみたいと思いますか。

（○は1つ）

- | |
|-----------------------|
| 1 受講してみたい |
| 2 受講したくない（理由： _____ ） |

問8からは、全ての方にお伺いします。

問8 もの忘れが気になったり、認知症の症状があり困っているときなど、身近で相談できる「認知症・もの忘れ相談医」がいることを知っていましたか。（※同封資料参照）

（○は1つ）

- | | | |
|---------|--------------|----------|
| 1 知っていた | 2 なんとなく知っていた | 3 知らなかった |
|---------|--------------|----------|

Ⅲ 資料（調査票）第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

問11 あなたは買い物の際、レジ袋を受け取りますか。（○は1つ）

1 毎回受け取る	}	1～4に○をつけた方は、 問11-1へお進みください
2 断ることもあるが、受け取ることの方が多い		
3 受け取ることと断ることが半々くらい		
4 受け取ることもあるが、断ることの方が多い		
5 ほとんど受け取ることはない	}	5または6に○をつけた方は、 問12へお進みください
6 ほとんど買い物はしない		

問11で、「1」～「4」に○をつけた方のみがお答えください。

問11-1 あなたがレジ袋を受け取る理由は何ですか。（○はいくつでも）

1 買い物袋（マイバッグ）を持つ習慣がないから
2 買い物袋（マイバッグ）を忘れてしまうから
3 仕事などの都合で買い物袋（マイバッグ）を持参できないから
4 ごみ袋などとして使用するから
5 店で渡されるから
6 その他（)
7 特にない

問12からは、全ての方にお伺いします。

問12 レジ袋削減を目的として、レジ袋を有料化するスーパーなどが出てきています。
あなたがよく利用するお店がレジ袋を有料化したらどうしますか。（○は1つ）

1 買い物袋（マイバッグ）を持参する
2 有料でもレジ袋を使う
3 レジ袋が無料のお店で買い物する
4 その他（)

問13 新宿区では、平成20年4月から区内全域で容器包装プラスチックは「資源」、その他のプラスチック製品やゴム・皮革は「燃やすごみ」に分別方法が変わりました。あなたは分別方法が変わったこと、ごみの分別種別を知っていましたか。(○は1つ)

1 分別方法が変わったことも、 ごみの分別種別も、両方とも知っていた	} 1に○をつけた方は 問14へお進みください
2 分別方法が変わったことは知っていたが、 ごみの分別種別は知らなかった	
3 分別方法が変わったことも、 ごみの分別種別も、両方とも知らなかった	} 2または3に○をつけた方は 問13-1へお進みください

問13で、「2」または、「3」に○をつけた方のみがお答えください。

問13-1 ごみ・資源の出し方はどのようにしていますか。

ア～キ全ての項目について該当する番号に○を付けてください。

(○はそれぞれの項目ごとに1つずつ)

	燃やすごみ として 出している	金属・陶器・ ガラスごみ として 出している	資源 として 出している
ア ゴム・皮革	1	2	3
イ 容器包装以外のプラスチック	1	2	3
ウ ペットボトル	1	2	3
エ びん・缶	1	2	3
オ 新聞・雑誌・段ボール	1	2	3
カ スプレー缶・カセットボンベ	1	2	3
キ 乾電池	1	2	3

Ⅲ 資料（調査票）第2回（テーマ3 ごみ減量、資源・ごみの分別について）

問14からは、全ての方にお伺いします。

問14 ごみと資源の正しい分け方・出し方をより理解していただくため、分別状況の悪い集積所では、警告シールを貼り収集をしないようにしていますが、あなたは、これについてどう思われますか。（○は1つ）

- | |
|---|
| 1 正しい分け方・出し方を普及させていくためには必要 |
| 2 衛生や美観の面から分別状態の悪いごみでも収集すべき |
| 3 その他（ ） |

問15 新しく資源となった容器包装プラスチックをご家庭ではどのように分別・排出していますか。（○は1つ）

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 容器包装プラスチック専用の袋や箱を用意して分別し、資源の日に出している | } 1 または 2 に○をつけた方は、
問16へお進みください |
| 2 金属・陶器・ガラスごみ用の袋や箱に入れておき、資源の日の排出のときに分別して出している | |
| 3 燃やすごみとして出している | } 3 または 4 に○をつけた方は、
問15-1へお進みください |
| 4 金属・陶器・ガラスごみとして出している | |

問15で、「3」または、「4」に○をつけた方のみがお答えください。

問15-1 燃やすごみ、または金属・陶器・ガラスごみとして出す主な理由は何ですか。（○は2つまで）

- | |
|--|
| 1 分別するのが大変だから |
| 2 食品包装・容器などの汚れを取ることが大変だから |
| 3 プラスチックを燃やすことに不安・疑問があるから |
| 4 家族の協力を得ることが難しいから |
| 5 他の区・市では認められているから |
| 6 環境への負荷が少ないと思うから |
| 7 処理コストが少なくてすむと思うから |
| 8 分別することを知らなかったから |
| 9 なんとなく捨てていたから |
| 10 その他（ ） |

テーマ4 成年後見制度について

成年後見制度は認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でない場合でも、地域で安心して生活を続けられるようにすることを目的とした制度で、「介護保険制度」と並んで高齢化社会に備える大切な制度です。

新宿区では、平成19年7月に「新宿区成年後見センター」を開設し、相談、講演会や関係機関との連絡会、広報による周知活動など、成年後見制度に関する事業を総合的に実施しています。

今後、制度のさらなる利用促進を図るために、区民の皆さまに成年後見制度に関する意識や利用意向、制度の運用体制についておたずねします。

用語解説 成年後見制度とは

認知症、知的障害、精神障害などによって、物事を判断する能力が十分でない方（「本人」）について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人・保佐人・補助人」）を選ぶことで、本人の意思を尊重し、その人らしい生活のために、法律面や生活面で支援するしくみです。

成年後見制度には、**法定後見制度**と**任意後見制度**の2種類があります。

☆法定後見制度とは

すでに本人の判断能力が十分でない場合に、配偶者または四親等内の親族などの申立により、家庭裁判所が後見人等（成年後見人・保佐人・補助人）を選任する制度です。

☆任意後見制度とは

本人に十分な判断能力があるうちに、将来、判断能力が不十分な状態になった場合に備えて、自らが選んだ代理人（任意後見人）に、自分の生活、療養看護や財産管理についてどのような支援をしてもらうのかを、あらかじめ、公証人役場で契約して決めておく制度です。

問16 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（〇は1つ）

- 1 名前も知っているし、内容も知っている
- 2 名前は聞いたことがあるが、内容は知らなかった
- 3 まったく知らなかった

問17 あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。（〇は1つ）

- | | | |
|---|----------|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 すでに利用している 2 すぐに利用したい 3 必要になったら利用したい | } | <p>1～3に〇をつけた方は、
問17-1、問17-2へお進みください</p> |
| <ol style="list-style-type: none"> 4 利用は考えていない 5 わからない | <p>→</p> | <p>問17-3へお進みください
問18へお進みください</p> |

Ⅲ 資料（調査票）第2回（テーマ4 成年後見制度について）

問17で、「1」～「3」に○をつけた方のみがお答えください。

問17-1 あなたは、成年後見制度を利用する際、どのような人に後見人になってほしい
と思いますか。すでに利用している人もお答えください。
(○はいくつでも)

- 1 家族・親族
- 2 友人・知人
- 3 弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家
- 4 民生委員など身近な地域の住人
- 5 市民後見人（社会貢献型後見人）

※市民後見人とは、弁護士や司法書士などの資格をもたない方で社会貢献への意欲や倫理観が高い一般区民の中から、成年後見に関する一定の知識等を身に付けた第三者後見人等。

- 6 公的機関（社会福祉協議会など）
- 7 その他（）
- 8 特にいない
- 9 わからない

問17で、「1」～「3」に○をつけた方のみがお答えください。

問17-2 あなたが、成年後見制度で、将来利用したいと思う（利用している）ものは何
ですか。(○はいくつでも)

- 1 財産保全・管理（通帳・印鑑・現金の保管等）
- 2 日用品の購入・支払い
- 3 電気やガス等の公共料金の支払い、税金の支払い
- 4 各種行政手続（年金、介護保険等）
- 5 介護施設・病院等への入所・入院手続
- 6 福祉サービスの利用手続（ヘルパーの手配等）
- 7 自己所有不動産の処分
- 8 自己所有不動産の管理
- 9 その他（）
- 10 わからない

問17で、「4」に○をつけた方のみが教えてください。

問17-3 利用を考えていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 自分でできるから
- 2 家族がいるから
- 3 友人などが協力してくれるから
- 4 後見人になってくれる人がいないから
- 5 知らない人に後見人になってほしくないから
- 6 後見人に守ってもらうほどの財産がないから
- 7 手続きや利用にお金がかかるから
- 8 手続きが面倒だから
- 9 手続きや利用の方法がわからないから
- 10 利用することによる利益・不利益がわからないから
- 11 判断能力が低下したことを知られたくないから
- 12 その他 ()
- 13 特に理由はない

問18からは、全ての方にお伺いします。

問18 あなたは、成年後見制度がより多くの人に利用されるために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 情報提供や普及啓発を充実させること
- 2 相談場所が身近にあること
- 3 費用の負担が少ないこと
- 4 後見人等になる人の要件が緩和されること
- 5 申し立てをする人の要件が緩和されること
- 6 プライバシー保護が徹底されていること
- 7 手続きが簡単にできるようになること
- 8 その他 ()
- 9 わからない

Ⅲ 資料（調査票）第2回（テーマ4 成年後見制度について）

— 新宿区成年後見センター —

区は、新宿区社会福祉協議会に委託し、「新宿区成年後見センター」を開設しています。新宿区成年後見センターでは、制度の普及、利用者の相談支援、後見人等の育成支援を行っています。

利用の案内や月曜～金曜の一般相談の他、週3日（月・水・金）弁護士・司法書士・社会福祉士の専門家による専門相談（予約制）を行っています。

問19 あなたは、新宿区成年後見センターを知っていましたか。（○は1つ）

- 1 名前も知っているし、どんなことをしているかも知っている
- 2 名前は聞いたことがあるが、どんなことをしているかは知らなかった
- 3 まったく知らなかった

問20 あなたは、新宿区成年後見センターの相談窓口を利用したいと思いますか。

（○は1つ）

- | | |
|----------------|-------------|
| 1 すでに利用したことがある | 4 利用は考えていない |
| 2 すぐに利用したい | 5 わからない |
| 3 必要になったら利用したい | |

問21 あなたは、新宿区成年後見センターの相談にどのようなことを望みますか。

（○はいくつでも）

- 1 地域の身近なところ（例えば区役所・出張所など）で相談できるようにしてほしい
- 2 平日の日中以外（時間外や休日）でも相談できるようにしてほしい
- 3 常時、相談に応じてくれる専門員（弁護士等）を配置してほしい
- 4 定期的に相談会や制度説明会を開催してほしい
- 5 外出して相談できない場合には、自宅まで訪問してほしい
- 6 その他（）
- 7 特にない
- 8 わからない

第 3 回

平成24年度 新宿区区政モニターアンケート 第3回

- テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について
- テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について
- テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について
- テーマ4 景観まちづくりについて

テーマ2、4に関する資料を同封しています。ご回答の前に一読ください。

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印をつけてください**。問題によって、**1つだけの場合や、あてはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問題文の最後に（ ）で○は1つなどと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次の問題が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をつけた方にお伺いします、など)
問題文の前や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、()内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、11月19日（月）までに

ご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するため、調査票から切り離し、保管いたします。
調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区区長室 広聴担当課 広聴係
電話 03-5273-4065 (直通)
FAX 03-5272-5500
E-Mail kocho@city.shinjuku.lg.jp



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。



テーマ1 区内の飲食店等（喫茶店を含む）における受動喫煙について

区は、受動喫煙による健康被害から区民を守るために、不特定多数の人が集まる区内の施設等での禁煙・分煙化の働きかけを行っています。

飲食店等の責任者に受動喫煙防止パンフレットや禁煙ステッカーの配布を行い、受動喫煙防止の重要性を伝え、禁煙・分煙化の協力を要請しています。また、受動喫煙に関する要望や苦情のあった施設に対し、受動喫煙防止対策に取り組むよう指導等を行っています。

今回、区内の飲食店等における受動喫煙について、皆様からのご意見を伺い、今後の施策に役立てていきたいと考えています。

問1 あなたは、タバコを吸っていますか。(〇は1つ)

- 1 吸っている
- 2 吸わなくなった
- 3 もともと吸わない

問2 区内の飲食店等にて、ここ1年、タバコの煙で不快な思いをしたことがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------|---------|
| 1 よくある | 3 あまりない |
| 2 たまにある | 4 ない |

問3 区内の飲食店等での、受動喫煙対策（禁煙、分煙、時間分煙等含む）について、どのように考えますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1 ほとんどの飲食店等で、対策ができていると思う | } → 問3-1へ |
| 2 一部の飲食店等で、対策ができていると思う | |
| 3 あまりできていないと思う | |
| 4 全然できていないと思う | |

問3で、「3」または、「4」に〇をつけた方にお伺いします。

問3-1 どのような受動喫煙防止対策が必要だと考えますか。(〇はいくつでも)

- 1 全面禁煙
- 2 喫煙スペースを設けた空間分煙
- 3 ランチタイムなどの時間分煙
- 4 特に対策は必要ない
- 5 その他 ()

テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について

新宿区は、地元商店街振興組合、町会、警察・消防をはじめとする関係行政機関、民間企業等と強く連携して、歌舞伎町を誰もが安心して楽しめるまちへ再生する取り組み「歌舞伎町ルネッサンス」を推進しています。

歌舞伎町ルネッサンスでは、路上清掃、パトロール、雑居ビルの立ち入り検査などを実施し、環境美化と安全・安心なまちづくりを進めるとともに、音楽、地方物産展、芸能公演など様々なイベントを開催し、賑わいづくりと文化の創造・発信にも取り組んでいます。

また、違法駐車を排除し歩きやすく道路を整備したほか、区立大久保公園をイベント公園としてリニューアルする等、快適で魅力ある都市空間づくりも進めてきました。現在は、旧新宿コマ劇場跡地開発の機会を捉え、歌舞伎町の街路や街並みの整備指針となる「歌舞伎町街並みデザインガイドライン」の策定に取り組んでいます。

今回のアンケートで伺ったご意見を活かし、今後の歌舞伎町のまちづくりに役立てていきたいと考えています。

問4 あなたは、歌舞伎町にどの程度行きますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|---------|
| 1 ほぼ毎日 | → 問4-1へ |
| 2 週に1～2回程度 | |
| 3 月に1～2回程度 | |
| 4 年に数回程度 | |
| 5 不定期なのでわからない | |
| 6 行ったことがない | |

問4で、「1」から「5」に〇をつけた方にお伺いします。

問4-1 歌舞伎町に行く主な目的はなんですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------|------------|
| 1 買い物・ショッピング | 5 仕事関係 |
| 2 映画・カラオケ等の娯楽 | 6 飲食（主に昼間） |
| 3 散策 | 7 飲食（主に夜間） |
| 4 遊技場（ゲームセンターなど） | 8 その他（ ） |

問5からは、全ての方にお伺いします。

問5 あなたは今後、歌舞伎町へ行きたいと思えますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1 行きたい | → 問5-1へ |
| 2 行きたくない | → 問5-2へ |
| 3 わからない | |

問5で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問5-1 行きたい理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 安全なまちになったと思うから
- 2 きれいなまちになったと思うから
- 3 歌舞伎町の変化を見てみたいから
- 4 楽しいイベントがあるから
- 5 新たな興味を引き出してくれそうだから
- 6 日本の代表的な繁華街だから
- 7 雑多なまちが好きだから
- 8 映画館やカラオケ店等、楽しめる施設があるから
- 9 おいしい店があるから
- 10 賑やかで楽しそうなまちだから
- 11 歌舞伎町に思い出があるから
- 12 その他 ()
- 13 わからない

問5で、「2」に○をつけた方にお伺いします。

問5-2 行きたくない理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 治安が悪いというイメージがあるから
- 2 客引きが多く、一人で歩くには怖いから
- 3 風俗店など、いかがわしい店が多いと感じるから
- 4 魅力がないから
- 5 雑然としているから
- 6 不潔感があるから
- 7 人が多く、騒々しいから
- 8 子どもを連れていく場所ではないから
- 9 若い人向けのまちというイメージがあるから
- 10 その他 ()
- 11 わからない

Ⅲ 資料（調査票）第3回（テーマ2 歌舞伎町ルネッサンスの推進について）

問6からは、全ての方にお伺いします。

問6 あなたは、歌舞伎町ルネッサンスを知っていますか。(○は1つ)

- | |
|----------------------|
| 1 知っている |
| 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない |
| 3 知らない |

問7 以前と比べて、歌舞伎町の印象は変わったと思いますか。

ア～オ全ての項目について該当する番号に○を付けてください。

(○はそれぞれの項目ごとに1つずつ)

	思 う	思 わ な い	わ か ら な い
ア イメージは向上しましたか	1	2	3
イ 安全になったと思いますか	1	2	3
ウ きれいになったと思いますか	1	2	3
エ 文化の発信が盛んになったと思いますか	1	2	3
オ 賑わいのあるまちになったと思いますか	1	2	3

- 問8 現在、歌舞伎町では、路上清掃や安全・安心対策、シネシティ広場や大久保公園を使ったイベント開催、道路や公園の整備など様々な取り組みを行っています。
今後、歌舞伎町のイメージアップをするうえで、期待するものや効果的なものがありましたらご記入ください。(自由記述)

- 問9 歌舞伎町ルネッサンスについてご意見・ご要望がありましたらご記入ください。
(自由記述)

・ 関連ホームページの紹介

※歌舞伎町ルネッサンスの紹介ページ(区長室特命プロジェクト推進課のホームページ)

http://www.city.shinjuku.lg.jp/kusei/index13_13.html

※歌舞伎町ルネッサンスオフィシャルサイト

(歌舞伎町タウン・マネジメントのホームページ)

<http://www.d-kabukicho.com/>

問10で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問10-4 ホームページをご覧になって、欲しい情報はみつかりましたか。(○は1つ)

1 すぐに見つかった 問10-5へ	2 時間がかかったが見つけられた 3 見つからなかった 問10-4-1へ
----------------------	--

問10-4で、「2」または「3」に○をつけた方にお伺いします。

問10-4-1 なぜ時間がかかった、または見つかりませんでしたか。

最もあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)

1 欲しい情報が、どのカテゴリーかわからなかった 2 サイト内検索を利用したが、表示されなかった 3 情報が古かった 4 その他 「4 その他」の内容、改善へのご意見・ご提案がございましたら、ご記入ください。 問10-5へ
--

問10-5 ホームページをご覧になって、どのように感じましたか。(ア)～(エ)全ての項目について該当する番号に○を付けてください。

(○はそれぞれの項目ごとに1つずつ)

(ア) 掲載情報の量

1 多い 2 普通 3 少ない →改善へのご意見・ご提案を 右欄にご記入ください	
--	--

問12 携帯端末版ホームページ「モバイル新宿区」を利用したことがありますか。

(○は1つ)

- | |
|----------------------------------|
| 1 利用したことがある |
| 2 閲覧できる携帯電話だが利用したことはない |
| 3 スマートフォンのため、携帯端末版ホームページは利用していない |
| 4 携帯電話を持っていない |

●区公式ツイッター

区では、公式ツイッターを平成23年4月に開設しました。

問13 区公式ツイッターを知っていましたか。

- | | |
|---------|----------|
| 1 知っていた | 2 知らなかった |
|---------|----------|

問13で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問14 区公式ツイッターを見たことがありますか。(○は1つ)

- | |
|-------------------------------|
| 1 フォロワー（読者）として見ている |
| 2 フォロワーではないが、区のホームページなどから見ている |
| 3 見たことがない |

問15からは、全ての方にお伺いします。

問15 区公式ツイッターでどのような情報のツイート（発信）が必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|------------|-----------|
| 1 災害等緊急情報 | 5 地域のニュース |
| 2 観光情報 | 6 その他 |
| 3 イベント情報 | () |
| 4 区の事業等の紹介 | 7 特にない |

Ⅲ 資料（調査票）第3回（テーマ3 インターネット等を活用した区政情報の発信について）

●ケーブルテレビの広報番組

問16 広報番組「こんにちは新宿区長です！」を放送していることを知っていましたか。

- | | |
|---------|----------|
| 1 知っていた | 2 知らなかった |
|---------|----------|

問16で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問17 広報番組「こんにちは新宿区長です！」を見たことがありますか。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 見たことがある | 2 見たことがない |
|-----------|-----------|

問17で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問18 どのような手段でご覧になりましたか。(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------------|
| 1 ケーブルテレビで見た |
| 2 区ホームページで見た |
| 3 動画配信サイト「YouTube（ユーチューブ）」で見た |
| 4 DVDで見た |
| 5 区役所本庁舎1階ロビーで見た |

《テーマに関する説明》

- ・区のホームページは、平成22年1月に抜本的な再構築をしましたが、施策や事業の多様化に伴い情報量が増えています。その中で、さらにわかりやすく、目的の情報を探しやすいホームページとするよう、26年度に再構築を予定しています。
- ・区公式ツイッターは、災害発生等緊急時に有効な情報発信手段となることを目的に、緊急情報のほか、行政・地域の情報をツイート（発信）することで、フォロワー（読者）の拡大を図っています。
- ・中山弘子区長が区政の「今」を発信する広報番組「こんにちは新宿区長です！」を、年4回区内のケーブルテレビ2局（東京ケーブルビジョン・JCNみなと新宿）で放送しています。番組は区ホームページで動画配信しているほか、区立中央図書館等でDVDを貸し出しています。

テーマ4 景観まちづくりについて

新宿区では平成3年に、「新宿区景観まちづくり条例」を制定し、先駆的な景観まちづくりを行ってきました。

平成21年4月から、景観法に基づく「新宿区景観まちづくり計画」の運用を開始しました。また、新宿区全域を72のエリアに分け、景観形成の目標などを詳細に示した「新宿区景観形成ガイドライン」を策定し、積極的な景観まちづくりを推進しています。

また、多様な地域特性に応じた屋外広告物の景観誘導を進めるため、平成24年度から、「屋外広告物の景観誘導推進」を新規事業に位置付け、取り組みを進めています。

今回のアンケートでは、新宿区の景観まちづくりについてお伺いし、今後の取り組みの参考にしたいと考えています。

※回答にあたりましては、《参考資料 景観まちづくりについて》をご参照ください。

問19 あなたが建築物や工作物において、景観上重要であると考えられるものはなんですか。

（〇は5つまで）

- | | | |
|---------------------|----------|---------------------|
| 1 建物の色 | → 問19-1へ | 8 看板等の屋外広告物 |
| 2 建物の素材 | | 9 夜間の照明 |
| 3 建物の意匠（デザイン） | | 10 周囲の建物との調和 |
| 4 建物の形態 | | 11 周囲の自然との調和 |
| 5 エアコン室外機等の設備機器の目隠し | | 12 景観形成上価値の高い建築物の保全 |
| 6 立体駐車場や駐輪場の目隠し | | 13 景観形成上価値の高い樹木の保全 |
| 7 植栽等、道路沿いのみどり | | 14 その他（ ） |

問19で、「1」に〇をつけた方にお伺いします。

問19-1 建物の色で景観上重要な基準はなんですか。（〇はいくつでも）

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 落ち着いた色を使う | 5 自然色（アースカラー）を使う |
| 2 明るい色を使う | 6 周囲から突出しない色を使う |
| 3 日本伝統色を使う | 7 地域の特徴に合わせた色を使う |
| 4 素材の色を使う | 8 その他（ ） |

問20からは、全ての方にお伺いします。

問20 あなたは、屋外広告物に対して法律や条例により規制がかけられていることを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 規制がかけられていることも内容も知っていた
- 2 規制がかけられていることは知っていたが、どのような内容かは知らなかった
- 3 知らなかった

問21 屋外広告物を掲出するには事前に申請し、許可を受けなければならないことを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 許可を受けなければならないことも内容も知っていた
- 2 許可を受けることは知っていたが、どのような内容かは知らなかった
- 3 知らなかった

問22 今後、よりよい景観形成を図るうえで、屋外広告物について、どのようなことが課題だと思いますか。お気づきの点や感じていることをお書きください。(自由記述)

問23 掲出される屋外広告物によって、よりよい景観形成を図る手法として、どのようなことが重要と考えますか。(〇は1つ)

- 1 地域の景観特性に応じたルール作成
- 2 屋外広告物のデザイン誘導
- 3 優れた広告物に対する表彰
- 4 屋外広告物に関する積極的な意識啓発
- 5 その他 ()

第4回

平成24年度 新宿区区政モニターアンケート 第4回

テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために ～新宿区総合計画～
テーマ2 震災に備えて

テーマ1に関する資料を同封しています。ご回答の前に一読ください。

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印をつけてください**。問題によって、**1つだけの場合や、あてはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問題文の最後に（ ）で○は1つなどと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次の問題が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をつけた方にお伺いします、など)
問題文の前や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、()内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、平成25年1月7日（月）までに

ご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するため、調査票から切り離し、保管いたします。
調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区区長室 広聴担当課 広聴係
電話 03-5273-4065 (直通)
FAX 03-5272-5500
E-Mail kocho@city.shinjuku.lg.jp



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。



テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために～新宿区総合計画～

現在、区は、基本構想と総合計画に基づき、区民が安心して心豊かに住み続けられる新宿区を実現していくための取り組みを行っています。(同封資料参照)

総合計画では基本構想に定める「めざすまちの姿」の実現にどのくらい近づけたかを測定するための成果指標を設けています。成果指標とは、行政活動の結果、目的に照らしてどのような成果があったかを示すものです。

今回は、新宿区のまちに対する印象や日常生活の中で感じている意識、行動などについてお伺いし、この成果指標がどの程度達成しているかを検証し、事業の改善に役立てていきます。

基本目標Ⅰ 区民が自治の主体として、考え、行動していけるまち

<地域活動>

問1 次の地域活動・ボランティア活動のうち、参加している（したことがある）ものについて○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 町会や自治会の活動（おまつりの手伝いや防災訓練、ゴミの分別回収や不用品のリサイクル活動、通学時などのパトロールなども含む） | |
| 2 | 高齢者クラブ、PTA、青少年育成委員会、消防団などの活動 | |
| 3 | 民生委員・児童委員、公園サポーター、エコライフ推進員など、行政事業に協力する活動 | |
| 4 | 学習・趣味・スポーツを主目的としたグループ活動 | |
| 5 | 清掃・資源ごみの回収・リサイクル活動、交通安全、草刈りなどの地域活動 | |
| 6 | NPO（非営利活動団体）による活動 | |
| 7 | 地区協議会の活動 | |
| 8 | その他（ | ） |
| 9 | 活動に参加したことはない（理由： | ） |

基本目標Ⅱ だれもが人として尊重され、自分らしく成長していけるまち

<人権意識>

問2 新宿のまちは、性別や障害の有無、信条や職業、国籍の違いにかかわらず、お互いを尊重し、認めあうまちだと思いますか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|------|---|--------|---|-------|
| 1 | そう思う | 2 | そう思わない | 3 | わからない |
|---|------|---|--------|---|-------|

<健康>

問3 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|---------|
| 1 | 良い | 4 | あまり良くない |
| 2 | まあ良い | 5 | 良くない |
| 3 | どちらともいえない | | |

Ⅲ 資料（調査票）第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために～新宿区総合計画～）

問4 あなたは、次のがん検診を受けていますか。受けている検診全てに○をつけてください。
(○はいくつでも)

1 胃がん検診	}	→ 「1」から「6」までの いずれかに○の方は問4-1へ
2 大腸がん検診		
3 肺がん検診		
4 前立腺がん検診		
5 子宮がん（子宮頸がん・体がん）検診		
6 乳がん検診		
7 受けていない		

問4で、「1」～「6」に○をつけた方にお伺いします。

問4-1 問4のうち、新宿区のがん検診を受診されたのは、次のうちどの検診ですか。
(○はいくつでも)

1 胃がん検診	5 子宮がん（子宮頸がん・体がん）検診
2 大腸がん検診	6 乳がん検診
3 肺がん検診	7 全て区のがん検診ではない (職場健診・人間ドック等)
4 前立腺がん検診	

問5からは、全ての方にお伺いします。

問5 あなたは、毎年、一般の健康診査を受けていますか。(○は1つ)

1 受けている	2 受けていない
---------	----------

問6 あなたは、食育について関心がありますか。(○は1つ)

1 関心がある	2 やや関心がある	3 関心がない
---------	-----------	---------

問7 あなたは、食べ物の量や組み合わせを考えて食べていますか。(○は1つ)

1 よく考える	3 あまり考えない
2 ときどき考える	4 考えない

問8 あなたは、友人・知人などと一緒に食事をすることがありますか。(○は1つ)

1 月4回以上	3 月1回以下
2 月2回以上4回未満	

＜生涯学習＞

問9 あなたは現在、スポーツ・軽度な身体活動（ハイキング・ウォーキング、体操等を含む）、文化・学習活動等を行っていますか。（○は1つ）

- | | | |
|----------|-------|------------|
| 1 行っている | ————→ | 問9-1～問9-3へ |
| 2 行っていない | ————→ | 問9-4へ |

問9で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問9-1 平均して、どのくらいの頻度で行っていますか。（○は1つ）

- | | |
|---------|----------|
| 1 週1回以上 | 3 年数回程度 |
| 2 月1回程度 | 4 その他（ ） |

問9で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問9-2 どのような活動をしていますか。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------|----------|
| 1 スポーツ・身体活動 | 3 その他（ ） |
| 2 文化・学習活動 | |

問9で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問9-3 活動の目的はなんですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 趣味・気晴らし | 4 自己実現・技術向上 |
| 2 健康づくり | 5 その他（ ） |
| 3 仲間づくり | |

問9-1から問9-3までお答えの方は、次ページの間10へお進みください。

問9で、「2」に○をつけた方にお伺いします。

問9-4 行っていない理由はなんですか。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------|----------|
| 1 やりたい活動がない | 5 仲間がいない |
| 2 時間がない | 6 興味がない |
| 3 身近に活動場所がない | 7 その他（ ） |
| 4 指導者がいない | |

Ⅲ 資料（調査票）第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために～新宿区総合計画～）

問10からは、全ての方にお伺いします。

<子育て支援活動への参加>

問10 あなたは、子育て支援に関する活動をしていますか。（○は1つ）

- | | | |
|----------------------------|---|--------|
| 1 現在、活動している | → | 問10-1へ |
| 2 かつて活動したことがあるが、現在は活動していない | → | |
| 3 活動したいと思っているが、活動していない | | |
| 4 活動したいと思わない | | |

問10で、「1」または「2」に○をつけた方にお伺いします。

問10-1 それはどんな活動ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 一時保育、ショートステイなどの保育支援 | 11 子どもと子育て家庭を対象にした体験 |
| 2 保育所の送り迎え | 学習やスポーツイベントの企画・運営 |
| 3 子育てに関する相談 | 12 家庭教育学級・家庭教育講座の企画・運営 |
| 4 子育て情報の収集・発信 | 13 安全で安心して遊べる公園づくり |
| 5 子育て家庭の仲間づくり | 14 プレイパーク（冒険遊び場）活動 |
| 6 世代間の交流 | 15 非行防止などの青少年健全育成活動 |
| 7 児童館や保育園などでのボランティア | 16 事件や犯罪防止のための安全パトロール |
| 8 学校でのPTA・ボランティア | 17 交通安全活動 |
| 9 本の読み聞かせボランティア | 18 その他 |
| 10 自主的な教育講座、講習会の開催 | () |

問11からは、全ての方にお伺いします。

<地域連携による教育>

問11 新宿のまちは、学校・家庭・地域が協力して子どもの教育に取り組んでいるまちだと思いませんか。(○は1つ)

1 そう思う	2 そう思わない	3 わからない
--------	----------	---------

問12 あなたは、地域連携による教育の一環として下記の活動等を知っていますか。ア～エ全ての項目について該当する番号に○をつけてください。(○はそれぞれの項目で1つ)

	知っている	知らない
ア 学校による授業公開や道徳授業地区公開講座の実施、学校便り等の配布による地域への情報発信	1	2
イ 登下校時のパトロールをはじめとする、子どもの安全や健全育成のための地域の方の活動	1	2
ウ 地域の事業所の方や高齢者の方による子どもの学習活動の支援のための授業への参加	1	2
エ 地域特性を活かした教育活動を展開するための教育ボランティアによる読書活動やクラブ活動の支援	1	2

基本目標Ⅲ 安全で安心な、質の高い暮らしを実感できるまち

＜地域福祉＞

問13 あなたは、高齢者や障害のある人などを見守り支えるための取り組みを、どのように推進していくのが良いと思いますか。（○は1つ）

- 1 地域の住民同士で協力して取り組むのが良いと思う
- 2 区と地域住民が協力して取り組むのが良いと思う
- 3 区の責任で取り組むのが良いと思う

問14 あなたは、高齢者のための相談機関である「高齢者総合相談センター」*を知っていますか。（○は1つ）

- 1 よく知っている
- 2 名前は聞いたことがある
- 3 知らない

*「高齢者総合相談センター」は、区役所本庁舎を含め、区内に10か所あります。

問15 あなたやあなたの家族が自宅で療養生活（在宅療養）を送ることになった場合、どこに（誰に）相談しますか。（○はいくつでも）

- 1 病院の医療連携室
- 2 主治医・かかりつけ医
- 3 在宅療養相談窓口
- 4 高齢者総合相談センター
- 5 ケアマネジャー
- 6 保健センター
- 7 その他

問16 あなたは、介護が必要になったら介護サービスをどのように利用したいと思いますか。（○は1つ）

- 1 介護保険の範囲で、サービスを利用して自宅で生活したい
- 2 介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい
- 3 主に家族の介護を受け、介護保険サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい
- 4 特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい
- 5 有料老人ホームなどを利用したい
- 6 わからない

Ⅲ 資料（調査票）第4回（テーマ1 「めざすまちの姿」の実現のために～新宿区総合計画～）

＜防災対策＞

問19 あなたは、地震などの災害が発生した際、安全を確保するために避難する場所がどこにあるか知っていますか。

ア～ウ全ての項目について該当する番号に○をつけてください。

（○はそれぞれの項目で1つ）

	知っている	知らない
ア 一時（いつとき）集合場所 ※避難所や避難場所に避難する前に、近隣の避難者が一時的に集合して様子を見る場所（自宅付近の公園など）	1	2
イ 避難所 ※倒壊や焼失などによって、自宅での生活ができなくなった人が一時的に避難生活をする場所（小・中学校など）	1	2
ウ 避難場所 ※大震災時の大火災から生命を守るために必要なスペースのある大規模公園、緑地等をいい、都が指定している。（新宿御苑、戸山公園一帯、新宿中央公園一帯など）	1	2

問20 あなたのご家庭では、日ごろ防災対策をしていますか。（○は1つ）

1 している	→	問20-1へ	2 していない
--------	---	--------	---------

問20で、「1」に○をつけた方にお伺いします。

問20-1 どのような対策をしていますか。（○はいくつでも）

1 家具類の転倒防止	7 救急医療品の用意
2 物が落ちないように棚の上を整理	8 家族との連絡方法、集合場所の確認
3 非常食や飲料水を準備	9 ブロック塀などの確認
4 貴重品など持出し品の確認	10 避難所、避難経路の確認
5 消火器など消火機器の準備	11 自主防災会の行事への参加
6 懐中電灯、携帯ラジオの準備	12 その他（ ）

問21からは、全ての方にお伺いします。

問21 あなたは、お住まいの地域で、犯罪への不安を感じることがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|--------------------------|----------|
| 1 不安を感じる | <input type="checkbox"/> | → 問21-1へ |
| 2 少し感じる | <input type="checkbox"/> | |
| 3 あまり感じない | <input type="checkbox"/> | |
| 4 不安を感じない | <input type="checkbox"/> | |
| 5 わからない | <input type="checkbox"/> | |

問21で、「1」または「2」に○をつけた方にお伺いします。

問21-1 不安を感じる理由はなんですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 事件に関する報道が多いから | <input type="checkbox"/> |
| 2 近所に暗くて人通りの少ない、犯罪が発生しそうな場所があるから | <input type="checkbox"/> |
| 3 近所や知り合いなど、身の回りに被害にあった人がいるから | <input type="checkbox"/> |
| 4 近所で不審者を見かけることがあるから | <input type="checkbox"/> |
| 5 自分や家族が被害にあったことがあるから | <input type="checkbox"/> |
| 6 犯行の現場を目撃したことがあるから | <input type="checkbox"/> |
| 7 何となく | <input type="checkbox"/> |
| 8 その他 () | <input type="checkbox"/> |

基本目標Ⅳ 持続可能な都市と環境を創造するまち

<安全で快適な道路>

問25 新宿区内の道路は、安全で快適な歩きやすい道路だと思いますか。(○は1つ)

- 1 そう思う 2 そう思わない → 問25-1へ 3 わからない

問25で、「2」に○をつけた方にお伺いします。

問25-1 そう思わない理由はなんですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 道路が傷んでいる | 5 放置自転車など不正な利用が多い |
| 2 段差や勾配がきつく使いづらい | 6 車や自転車の運転マナーが悪い |
| 3 道路、歩道の幅員が狭い | 7 その他 () |
| 4 街路樹などみどりが少ない | |

問26からは、全ての方にお伺いします。

基本目標Ⅴ まちの記憶を活かした美しい新宿を創造するまち

<美しいまちづくり>

問26 あなたは、新宿区全体のまちなみや景観は良いと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 良い | 4 あまり良くない |
| 2 まあまあ良い | 5 良くない |
| 3 どちらともいえない | |

問27 あなたは、お住まいの地域のまちなみや景観は良いと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 良い | 4 あまり良くない |
| 2 まあまあ良い | 5 良くない |
| 3 どちらともいえない | |

問28 あなたは、これからの新宿の景観づくりで、以下の中ではどれが重要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 地域のシンボルとなる建築物や樹木の保全
- 2 周辺環境と調和のとれた建築物の建築
- 3 良好な景観を先導する公共施設（道路、河川、公園など）の整備
- 4 まちなみと調和のとれた看板や広告物
- 5 行政のリーダーシップ
- 6 行政主体の取り組み
- 7 地域での良好な景観についての議論
- 8 専門家の研究や意見

問3 1からは、全ての方にお伺いします。

問3 1 あなたが地域の公園に望むことは何ですか。(○は3つまで)

- 1 清潔にしてほしい
- 2 明るくて安心できる場所にしてほしい
- 3 遊具を増やしてほしい
- 4 ベンチなどの休憩施設を増やしてほしい
- 5 災害時に利用できる施設を増やしてほしい
- 6 お祭りなど地域住民の活動に利用しやすいこと
- 7 花壇の手入れなど公園管理に住民も参加しやすいこと
- 8 利用のルールを地域住民で考えられること
- 9 その他 ()
- 10 特にない

問3 2 あなたは、地域住民や利用者が公園の管理や運営に参加することについてどう思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|--------------|----------------|
| 1 積極的に参加すべき | } → 問3 2-1 へ | 3 あまり参加する必要はない |
| 2 ある程度参加すべき | | 4 参加する必要はない |

問3 2で、「1」または「2」に○をつけた方にお伺いします。

問3 2-1 あなたは公園の管理や運営に参加したいですか。(○は1つ)

- 1 公園サポーターとして既に参加している
- 2 今は参加していないが、今後は参加してみたい
- 3 興味がない
- 4 よくわからない

問33からは、全ての方にお伺いします。

基本目標Ⅵ 多様なライフスタイルが交流し、「新宿らしさ」を創造していくまち

＜文化・芸術＞

問33 あなたは、新宿区の伝統文化や文化財への関心がありますか。（○は1つ）

- | | | |
|------------|---------|-------------|
| 1 非常に関心がある | →問33-1へ | 3 どちらともいえない |
| 2 少し関心がある | | 4 あまり関心がない |
| | | 5 まったく関心がない |

問33で、「1」または「2」に○をつけた方にお伺いします。

問33-1 あなたが、関心があるのはどのようなものですか。（○はいくつでも）

- | |
|--|
| 1 史跡（小泉八雲終焉の地・夏目漱石誕生及び終焉の地・玉川上水跡など） |
| 2 歴史的建造物（絵画館・早稲田大学の演劇博物館など） |
| 3 由来のある町名（高田馬場・笹笥町など） |
| 4 歴史的な坂や橋（神楽坂・夏目坂・面影橋など） |
| 5 絵画・彫刻など文化財（善国寺の毘沙門天・須賀神社の三十六歌仙絵など） |
| 6 祭り・年中行事（高田馬場流鏑馬・萩原社中里神楽・鉄砲組百人隊行列など） |
| 7 郷土史 |
| 8 伝説・民話（太田道灌の山吹の里など） |
| 9 伝統工芸（江戸小紋など） |
| 10 その他（ ） |

問34からは、全ての方にお伺いします。

問34 あなたは、日頃、文化芸術の鑑賞や創作、表現活動など、文化・芸術を実際に体験する機会がありますか。(○は1つ)

※「文化・芸術」については、次の問34-1の選択肢をご参照ください。

- | | | |
|----------|---------|----------|
| 1 よくある | →問34-1へ | 3 あまりない |
| 2 まあまあある | | 4 まったくない |

問34で、「1」または「2」に○をつけた方にお伺いします。

問34-1 あなたが、関心があるのはどのようなものですか。(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1 クラシック音楽 (オーケストラ・オペラ・合唱など) |
| 2 ポピュラー音楽 (ロック・ポップス・ジャズなど) |
| 3 邦楽 (長唄・義太夫など) |
| 4 歌謡曲 (演歌・民謡など) |
| 5 美術 (絵画・彫刻など) |
| 6 工芸 (陶芸・染色など) |
| 7 映画・ビデオ |
| 8 写真 |
| 9 演劇・ミュージカル |
| 10 バレエ・ダンス |
| 11 伝統芸能 (歌舞伎・能・狂言・文楽・日本舞踊など) |
| 12 芸能 (落語・漫才・講談など) |
| 13 華道・茶道・書道 |
| 14 文芸 (文学・俳句・短歌など) |
| 15 漫画・アニメーション |
| 16 その他 () |

テーマ2 震災に備えて

本年4月、東京都から「首都直下地震等による東京の新たな被害想定」が発表されました。この想定によると東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生した場合、新宿区内の約8割が震度6強の揺れに見まわれるとされています。

地震は、いつどこで発生するかわかりません。地震を防ぐことはできませんが、その被害を抑えることはできます。このためには、自宅での家具転倒防止対策や地域の防災訓練への参加をはじめ、地震に関する知識の習得、地震発生時の行動をイメージしておくなど、日頃からの備えが大切です。

今回のアンケートでは防災に対する意識をお伺いし、今後の取り組みの参考にしたいと考えています。

問39 あなたは家具転倒防止器具を取りつけないと思いますか。(○は1つ)

- 1 すでに取りつけている
- 2 取りつけないが、まだ取りつけていない → 問39-1へ
- 3 取りつける必要はない
- 4 わからない

問39で、「2」または「3」に○をつけた方にお伺いします。

問39-1 家具転倒防止器具を取りつけていない理由はなんですか。(○はいくつでも)

- 1 現在取りつけていないが、今後取りつける予定だから
- 2 どのような器具を取りつければよいかわからないから
- 3 家具や家屋に傷をつけるから
- 4 取り付け作業が難しそうだから
- 5 お金がかかるから
- 6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから
- 7 面倒だから
- 8 その他 ()

問40からは、全ての方にお伺いします。

問40 あなたは区の住宅用家具転倒防止器具の無料相談・無料設置事業を知っていますか。(○は1つ)

- 1 知っている
- 2 知らない

問4-1 現在お住まいの地域で地震が起きることについて、どの程度不安を感じていますか。
(○は1つ)

- | | |
|---|---------------|
| 1 | とても不安を感じている |
| 2 | やや不安を感じている |
| 3 | あまり不安を感じていない |
| 4 | まったく不安を感じていない |

問4-2 大きな地震が発生した場合、もっとも心配なことはなんですか。(○は3つまで)

- | | | | |
|---|--------------------|----|-----------------|
| 1 | 建物の倒壊や火災 | 7 | 適切な救護・医療を受けられるか |
| 2 | 家族の安否 | 8 | 仕事の継続 |
| 3 | ライフラインの停止 (停電・断水等) | 9 | 治安の悪化 |
| 4 | 食料、生活用品等の確保 | 10 | その他 () |
| 5 | 家や財産を失うこと | 11 | わからない |
| 6 | 避難所等での避難生活 | 12 | 特にない |

問4-3 大きな地震が発生した場合、どのような情報を得たいと思いますか。(○は3つまで)

- | | | | |
|---|--------------------|----|--------------|
| 1 | 震源地や地震の規模 | 7 | 避難誘導や避難場所の状況 |
| 2 | 余震の可能性 | 8 | 水・食料・物資の供給状況 |
| 3 | 地震による被災状況 | 9 | 救急医療活動の状況 |
| 4 | 交通機関の状況 | 10 | 治安などの状況 |
| 5 | 電気・ガス・水道等ライフラインの状況 | 11 | その他 () |
| 6 | 家族・知人の安否 | 12 | 特にない |

問4-4 あなたは震災について、日頃からどのような情報を得たいと思いますか。
(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|------------|----|----------------|
| 1 | 過去の震災事例や教訓 | 6 | 家庭でできる防災対策 |
| 2 | 今後の地震発生の予測 | 7 | 行政が実施している防災対策 |
| 3 | 地震発生時の被害予測 | 8 | 防災ボランティアへの参加方法 |
| 4 | 震災時の心構えや準備 | 9 | その他 () |
| 5 | 避難場所や避難経路 | 10 | 特にない |

問47からは、全ての方にお伺いします。

問47 あなたの地域に自主防災組織*があることを知っていますか。(○は1つ)

- 1 あることも活動内容も知っている
- 2 あることは知っているが、活動内容は知らない
- 3 知らない

※自主防災組織とは、地域で初期消火や救出救護活動、避難誘導などにあたることを目的として結成された組織のことです。新宿区では、町会・自治会を母体とする自主防災組織「防災区民組織」が204組織結成されています。

問48 あなたは災害が発生したとき、地域の防災活動にどんな協力ができますか。(○はいくつでも)

- 1 避難所運営への協力（物資配給・炊き出し等）
- 2 災害時要援護者（一人暮らし高齢者・障害者等）の安否確認や避難誘導
- 3 救出・救護活動
- 4 初期消火活動
- 5 手話通訳・語学ボランティア等の専門知識を使った活動
- 6 負傷者の応急手当
- 7 地域のパトロール
- 8 その他（)
- 9 協力できることは何もない

Ⅲ 資料（調査票）第4回（テーマ2 震災に備えて）

問49 火災予防条例（東京都条例）により、平成22年4月1日から、全ての住宅の部屋・台所・階段に住宅用火災警報器の設置が義務化されました。
あなたの住宅に住宅用火災警報器を設置していますか。（○は1つ）

- 1 全ての部屋・台所・階段に設置している
- 2 一部設置している → 問49-1へ
- 3 設置していない → 問49-2へ

問49で、「2」に○をつけた方にお伺いします。

問49-1 住宅用火災警報器を設置しているのはどこですか。（○はいくつでも）

- 1 居間
- 2 寝室
- 3 台所
- 4 階段
- 5 その他（ ）

問49で、「3」に○をつけた方にお伺いします。

問49-2 住宅用火災警報器を設置していない理由はなんですか。（○は1つ）

- 1 今後、設置する予定だから
- 2 設置が必要となることを知らなかったから
- 3 設置したいが購入先がわからないから
- 4 自分では設置できないから
- 5 資金的に困難であるから
- 6 現時点では、必要性を感じないから
- 7 賃貸住宅なので、貸主と借主のどちらが設置するかわからないから
- 8 その他（ ）

回答者の属性

F 1 あなたのお住まいの地域(所管する特別出張所の地域)をお選びください。(〇は1つ)

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 笹笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

F 2 性別をお答えください。(〇は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 3 あなたの年齢(満年齢)を、次の中からお選びください。(〇は1つ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 8 50～54歳 |
| 2 20～25歳 | 9 55～59歳 |
| 3 26～29歳 | 10 60～64歳 |
| 4 30～34歳 | 11 65～69歳 |
| 5 35～39歳 | 12 70～74歳 |
| 6 40～44歳 | 13 75～79歳 |
| 7 45～49歳 | 14 80歳以上 |

F 4 あなたのご職業を、次の中からお選びください。(〇は1つ)

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 1 会社員・団体職員 | } → F 4 - 1 へ |
| 2 会社役員・団体役員 | |
| 3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など | |
| 4 自営業、自由業(開業医、弁護士、司法書士なども含む) | |
| 5 学生 | |
| 6 専業主婦・主夫 | |
| 7 無職 | |
| 8 その他() | |

F 4で、「1」～「5」に〇をつけた方にお伺いします。

F 4 - 1 現在のあなたの職場・学校はどこにありますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------|--------|
| 1 新宿区内 | 2 新宿区外 |
|--------|--------|

平成 24 年度新宿区区政モニターアンケート

平成 25 年 3 月発行

編集・発行

新宿区区長室広聴担当課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町 1-4-1

電話 (03) 5273-4065 (直通)

印刷物作成番号

2012-12-2002

この印刷物は、業者委託により 1,050 部印刷製本しています。その経費として、1 部あたり 934 円 (税込み) がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。

新宿区は、環境への負荷を少なくし、未来の環境を創造するまちづくりを推進しています。

本誌は森林資源の保護とリサイクルの促進のため、古紙を利用した再生紙を使用しています。